

泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について  
別紙16 「PRAの説明における参考事項(平成25年9月原子力規制庁)」への泊発電所3号炉の対応状況

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

「PRAの説明における参考事項」の記載内容	大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
● 対処設備動作までの余裕時間及び使命時間	●運転員操作を必要とする設備の余裕時間について「は診断余裕時間として」評価、設定した。また、使命時間については、事故後24時間まで安定冷却が可能であれば、喪失した設備の復旧や追加の運転員操作に期待できると判断し、使命時間を「24時間」と設定した。	(3.1.2.c. 成功基準 ①(2)起因事象ごとの成功基準) ●運転員操作を必要とする設備の「時間余裕」について評価、設定した。また、事故シナリオの特性及び緩和設備の能力に基づいて、プラントを安定な状態とすることが可能な時間として使命時間を24時間と設定した。(3.1.2.c. 成功基準 ①(3)対処設備動作までの余裕時間及び使命時間)	(3.1.2.c. 成功基準 ①(2)起因事象ごとの成功基準) ●運転員操作を必要とする設備の「余裕時間について評価、設定した。また、使命時間については、事故後24時間まで安定冷却が可能であれば、喪失した設備の復旧や追加の運転員操作が期待できると判断し、使命時間を24時間と設定した。(3.1.2.c. 成功基準 ①(3)対処設備動作までの余裕時間及び使命時間)	【女川】 ■記載方針の相違 ・記載の充実 ・使命時間は学会標準の観点を踏まえて24時間を設定しており、女川と評価方針の相違はない。 (大飯と同様)
● 成功基準設定のために热水力解析等を実施した場合 は使用した解析結果、及び使用した解析コードの検証性	●成功基準設定のために热水力解析を実施していない。	●成功基準設定のために热水力解析を実施していない。 (3.1.2.c. 成功基準 ①(4)热水力解析等の解析結果、及び解析コードの検証性)	●成功基準設定のために热水力解析を実施していない。 (3.1.2.c. 成功基準 ①(4)热水力解析等の解析結果、及び解析コードの検証性)	
d. 事故シーケンス ①イベントツリー ● イベントツリー図 ● ヘディング、事故進展及び最終状態の説明 ● イベントツリー作成上の主要な仮定	①各起因事象に対して、炉心損傷を防止するために必要な安全機能及び安全機能を達成するために必要な緩和設備や緩和操作を検討し、炉心損傷に至る事故シーケンスをイベントツリーとして展開した。イベントツリー図の作成に当たって、以下を実施した。 ・安全機能及び成功基準の同定に基づきイベントツリーのヘディングを設定 ・事故進展を整理し、最終状態を明確化 ・イベントツリー作成上での仮定について明確化	①各起因事象に対して、炉心損傷を防止するために必要な緩和設備や緩和操作を検討し、炉心損傷に至る事故シーケンスをイベントツリーとして展開した。 イベントツリー図の作成に当たって、以下を実施した。 ・安全機能及び成功基準の同定に基づきイベントツリーのヘディングを設定 ・事故進展を整理し、最終状態を明確化 ・イベントツリー作成上の主要な仮定について明確化 (3.1.2.d. 事故シーケンス)	①各起因事象に対して、炉心損傷を防止するために必要な安全機能及び安全機能を達成するために必要な緩和設備や緩和操作を検討し、炉心損傷に至る事故シーケンスをイベントツリーとして展開した。 イベントツリー図の作成に当たって、以下を実施した。 ・安全機能及び成功基準の同定に基づきイベントツリーのヘディングを設定 ・事故進展を整理し、最終状態を明確化 ・イベントツリー作成上の主要な仮定について明確化 (3.1.2.d. 事故シーケンス)	【女川】 ■記載表現の相違 ・記載充実のため（大飯と同様）
e. システム信頼性 ①評価対象としたシステムとその説明 ● 評価対象システム一覧 ● システムの概要、機能、系統図、必要とするサポート系、試験、システム信頼性評価上の主要な仮定	①評価対象としたシステムについては一覧表を作成し、それぞれのシステムごとに概要、機能、系統図、必要とするサポート系、試験、システム信頼性評価上の主要な仮定を整理した。	①評価対象としたシステムについては一覧表を作成し、それぞれのシステムごとに概要、機能、系統図、必要とするサポート系、試験、システム信頼性評価上の主要な仮定を整理した。 (3.1.2.e. システム信頼性 ①評価対象としたシステムとその説明)	①評価対象としたシステムについては一覧表を作成し、それぞれのシステムごとに概要、機能、系統図、必要とするサポート系、試験、システム信頼性評価上の主要な仮定を整理した。 (3.1.2.e. システム信頼性 ①評価対象としたシステムとその説明)	
②システム信頼性評価手法	②システム信頼性解析ではイベントツリーのヘディングに対応するフロントライン系とそのサポート系について、フォールトツリーを作成し、信頼性を評価した。	②システム信頼性解析ではイベントツリーのヘディングに対応するフロントライン系とそのサポート系について、フォールトツリーを作成し、信頼性を評価した。 (3.1.2.e. システム信頼性 ②システム信頼性評価手法)	②システム信頼性解析ではイベントツリーのヘディングに対応するフロントライン系とそのサポート系について、フォールトツリーを作成し、信頼性を評価した。 (3.1.2.e. システム信頼性 ②システム信頼性評価手法)	
③システム信頼性評価の結果 ● 起因事象ごとのシステム信頼性評価結果 ● 主要なミニマルカットセット（FTを用いた場合）	③システム信頼性解析の結果について、起因事象ごとに結果が異なるものは起因事象ごとに評価し、主要なミニマルカットセットの評価も実施した。	③システム信頼性解析の結果について、起因事象ごとに結果が異なるものは起因事象ごとに評価し、主要なミニマルカットセットの評価も実施した。 (3.1.2.e. システム信頼性 ③システム信頼性評価の結果)	③システム信頼性解析の結果について、起因事象ごとに結果が異なるものは起因事象ごとに評価し、主要なミニマルカットセットの評価も実施した。 (3.1.2.e. システム信頼性 ③システム信頼性評価の結果)	
④システム信頼性評価を実施せずに設定した非信頼度とその根拠	④システム信頼性評価をせずに設定した非信頼度はない。	④システム信頼性評価をせずに設定した非信頼度はない。 (3.1.2.e. システム信頼性 ④システム信頼性評価を実施せずに設定した非信頼度とその根拠)	④システム信頼性評価をせずに設定した非信頼度はない。 (3.1.2.e. システム信頼性 ④システム信頼性評価を実施せずに設定した非信頼度とその根拠)	

泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について  
別紙16「PRAの説明における参考事項(平成25年9月原子力規制庁)」への泊発電所3号炉の対応状況

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

「PRAの説明における参考事項」の記載内容	大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
f. 信頼性パラメータ				
①非信頼度を構成する要素と評価式	①非信頼度を構成する要素としては、機器故障率データ、 <b>共通原因故障パラメータ</b> 等があり、それぞれの評価式に基づき非信頼度を評価した。	①非信頼度を構成する要素としては、機器故障率データ、 <b>共通要因故障パラメータ</b> 、試験又は <b>保守</b> 作業による待機除外確率等があり、それぞれの評価式に基づき非信頼度を評価した。 (3.1.2.f. 信頼性パラメータ ①非信頼度を構成する要素と評価式)	①非信頼度を構成する要素としては、機器故障率データ、 <b>共通要因故障パラメータ</b> 、試験又は <b>保修</b> 作業による待機除外確率等があり、それぞれの評価式に基づき非信頼度を評価した。 (3.1.2.f. 信頼性パラメータ ①非信頼度を構成する要素と評価式)	【大飯】 ■記載表現の相違 ・女川に記載統一 ・大飯は「等」の中に試験又は保修作業による待機除外確率を含んでおり、評価方針の相違はない。
②機器故障率パラメータの一覧	②機器故障率パラメータについては主にNUCIAに従って、機器の分類、機器の境界、故障モードの分類を行った。	②機器故障率パラメータについては、原子力安全推進協会が管理している原子力施設情報公開ライブラリーNUCIAに従い、機器の分類、機器の境界、故障モードの分類を行った。 (3.1.2.f. 信頼性パラメータ ②機器故障率パラメータの一覧)	②機器故障率パラメータについては、原子力安全推進協会が管理している原子力施設情報公開ライブラリーNUCIAに従い、機器の分類、機器の境界、故障モードの分類を行った。 (3.1.2.f. 信頼性パラメータ ②機器故障率パラメータの一覧)	
● 機器故障率パラメータの設定方法（機器の分類、機器の境界、故障モードの分類等）				
● 機器故障率パラメータの一覧（故障モード、故障率等）				
● 機器故障率パラメータの不確実さ幅				
③機器復帰の取扱い方法及び機器復帰失敗確率	③本評価では故障した機器の使命時間中の復旧は考慮していない。	③本評価では外部電源の復旧に期待している。 (3.1.2.f. 信頼性パラメータ ③機器復帰の取扱い方法及び機器復帰失敗確率)	③本評価では <b>故障した機器の使命時間中の復旧は考慮していない。</b> (3.1.2.f. 信頼性パラメータ ③機器復帰の取扱い方法及び機器復帰失敗確率)	【女川】 ■評価方針の相違 ・泊は機器（外部電源を含む）の復旧を考慮していない。 (大飯と同様)
④待機除外確率	④定期検査期間中には、出力運転中と異なり、検査・修復を実施するために系統や機器を待機除外とする期間がある。この期間は定期検査によって変わり得るが、本評価では保安規定で定める運転上の制限を考慮し、設備の冗長性が最も小さくなる状態を仮定して、保守的に各POSに対する待機状態を設定した。	④定期検査期間中には、出力運転中と異なり、検査・修復を実施するために系統や機器を待機除外とする期間がある。 <b>系統や機器の待機除外状態は、POSの中で直接考慮した。</b> (3.1.2.f. 信頼性パラメータ ④待機除外確率)	④定期事業者検査期間中には、出力運転中と異なり、検査・修復を実施するために系統や機器を待機除外とする期間がある。 <b>この期間は定期事業者検査によって変わり得るが、本評価では保安規定で定める運転上の制限を考慮し、設備の冗長性が最も小さくなる状態を仮定して、保守的に各POSに対する待機状態を設定した。</b> (3.1.2.f. 信頼性パラメータ ④待機除外確率)	【女川】 ■記載方針の相違 ・記載充実のため（大飯と同様）
⑤共通要因故障の評価方法と共通要因故障パラメータ	⑤共通原因故障の発生要因を分析し、考慮するものについてはMGLパラメータを使用した。	⑤共通要因故障の発生要因を分析し、考慮するものについてはMGLパラメータを使用した。 (3.1.2.f. 信頼性パラメータ ⑤共通要因故障の評価方法と共通要因故障パラメータ)	⑤共通原因故障の発生要因を分析し、考慮するものについてはMGLパラメータを使用した。 (3.1.2.f. 信頼性パラメータ ⑤共通要因故障の評価方法と共通要因故障パラメータ)	
g. 人的過誤				
①評価対象とした人的過誤及び評価結果	①人的過誤ではTHERP手法を用いて人的過誤率を評価した。人的過誤は起因事象発生前と起因事象発生後で分類し、さらに起因事象発生前は復旧忘れ、起因事象発生後は診断失敗、操作失敗、読み取り失敗と分類した。診断失敗は許容時間から人的過誤率を評価した。	①人的過誤ではTHERP手法を用いて人的過誤率を評価した。人的過誤は起因事象発生前と起因事象発生後で分類し、さらに起因事象発生前は復旧忘れ、起因事象発生後は診断失敗、操作失敗と分類した。診断失敗は許容時間から人的過誤率を評価した。 人的過誤評価結果については、事故前及び事故後で一覧表として整理した。	①人的過誤ではTHERP手法を用いて人的過誤率を評価した。人的過誤は起因事象発生前と起因事象発生後で分類し、さらに起因事象発生前は復旧忘れ、起因事象発生後は診断失敗、操作失敗、読み取り失敗と分類した。診断失敗は許容時間から人的過誤率を評価した。 人的過誤評価結果については、事故前及び事故後で一覧表として整理した。	【女川】 ■評価方針の相違 ・泊は運転手順書の「読み取り失敗」に係る人的過誤を考慮している。 (大飯と同様)
● 人的過誤の評価に用いた手法				
● 人的過誤の分類、人的操作に対する許容時間、過誤回復の取扱い				
● 人的過誤評価結果				
● 人的過誤評価に用いた主要な仮定	人的過誤評価結果については、一覧表で整理した。  発電所の運用を、人的過誤評価の主要な仮定に反映した。	なお、発電所の運用を、人的過誤評価の主要な仮定に反映した。 (3.1.2.g. 人的過誤)	なお、発電所の運用を、人的過誤評価の主要な仮定に反映した。 (3.1.2.g. 人的過誤)	【大飯】 【女川】 ■記載表現の相違

泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について  
別紙16 「PRAの説明における参考事項(平成25年9月原子力規制庁)」への泊発電所3号炉の対応状況

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

「PRAの説明における参考事項」の記載内容	大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
h. 炉心損傷頻度 ①炉心損傷頻度の算出に用いた方法	イベントツリー結合法を用いて評価を行っている。計算コード Riskman を用いてイベントツリー解析、フォールトツリー解析を行い、炉心損傷頻度の算出を行った。	①フォールトツリー結合法を用いて評価を行っている。計算コード RiskSpectrum®PSA を用いてイベントツリー解析、フォールトツリー解析を行い、炉心損傷頻度の算出を行った。 (3.1.2.h. 炉心損傷頻度 ①炉心損傷頻度の算出に用いた方法)	①フォールトツリー結合法を用いて評価を行っている。計算コード RiskSpectrum®PSA を用いてイベントツリー解析、フォールトツリー解析を行い、炉心損傷頻度の算出を行った。 (3.1.2.h. 炉心損傷頻度 ①炉心損傷頻度の算出に用いた方法)	【大飯】 ■評価方針の相違 ・使用する計算コードは異なるが、イベントツリー解析及びフォールトツリー解析によって炉心損傷頻度の算出を行う評価プロセスに相違はない。
②炉心損傷頻度 ● 全炉心損傷頻度及び主要な事故シーケンスと分析 ● 起因事象別の炉心損傷頻度及び主要な事故シーケンスと分析 ● プラント損傷状態別炉心損傷頻度及び主要な事故シーケンスの分析 ③重要度解析、不確実さ解析及び感度解析	②全炉心損傷頻度、起因事象別の炉心損傷頻度及び主要な事故シーケンスを整理し、結果の分析を行った。プラント損傷状態別炉心損傷頻度はレベル1PRAでは不要であるため、評価を省略した。 ③PRA結果の活用目的である事故シーケンスグループ等の選定に係る炉心損傷頻度の相対的な割合の確認に際しての参考として不確実さ解析を実施した。また、炉心損傷に至る支配的な要因を確認する観点で重要度解析を実施した。さらに、対象項目として評価結果に影響を及ぼす可能性のある仮定、データ等を選定し感度解析を実施した。	②全炉心損傷頻度、起因事象別の炉心損傷頻度及び主要な事故シーケンスを整理し、結果の分析を行った。プラント損傷状態別炉心損傷頻度はレベル1PRAでは不要なため、評価を省略した。 (3.1.2.h. 炉心損傷頻度 ②炉心損傷頻度)	②全炉心損傷頻度、起因事象別の炉心損傷頻度及び主要な事故シーケンスを整理し、結果の分析を行った。プラント損傷状態別炉心損傷頻度はレベル1PRAでは不要なため、評価を省略した。 (3.1.2.h. 炉心損傷頻度 ②炉心損傷頻度)	③炉心損傷に至る支配的な要因を確認する観点で重要度解析を実施した。また、PRA結果の活用目的である事故シーケンスグループ等の選定に係る炉心損傷頻度の相対的な割合の確認に際しての参考として不確実さ解析を実施した。なお、対象項目として評価結果に影響を及ぼす可能性のある仮定、データ等を選定し感度解析を実施した。 (3.1.2.h. 炉心損傷頻度 ③重要度解析、不確実さ解析及び感度解析)

泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について  
 別紙16 「PRAの説明における参考事項(平成25年9月原子力規制庁)」への泊発電所3号炉の対応状況

「PRAの説明における参考事項」の記載内容	大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>3. 2 外部事象（地震）</p> <p>a. 対象プラントと事故シナリオ</p> <p>①対象とするプラントの説明</p> <p>● 地震 PRAの中で考慮する設備の一覧及び設備の説明</p> <p>● ウォークダウン実施の有無とウォークダウンの結果</p>	<p>①プラント構成・特性に関する内部事象出力時レベル1PRAで収集した設計情報に加え、地震レベル1PRAを実施するためには、耐震性や機器配置など、地震固有の観点で必要な情報を収集・分析した。</p> <p>また、机上検討では確認が難しいプラント情報を取得するため、及び、検討したシナリオの妥当性確認のため、当該プラントにおける地震プラントウォークダウンを実施し、地震 PRA の観点で重要な機器を対象に、主に以下の観点について問題ないことを確認した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・耐震安全性の確認</li> <li>・二次的影響の確認</li> <li>・必要に応じた地震後のアクセス性の確認</li> </ul> <p>②地震により炉心損傷に至る事故シナリオと分析</p> <p>● 事故シナリオの分析・選定とスクリーニングの説明</p> <p>● 事故シナリオと起因事象の分析結果</p> <p>● 機器リストの作成結果</p>	<p>① 内部事象運転時レベル1PRAにおいて収集したプラント構成・特性等に関する情報の他、配置関連設計図書等により地震レベル1PRAに必要な情報を収集・整理した。また、机上検討では確認が難しいプラント情報を取得するため、及び検討したシナリオの妥当性を確認するために、女川原子力発電所2号炉においてプラントウォークダウンを実施し、以下の点について問題がないことを確認した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・耐震安全性の確認</li> <li>・二次的影響の確認</li> <li>・必要に応じた地震後のアクセス性の確認</li> </ul> <p>(3.2.1.a. 対象プラントと事故シナリオ ①対象とするプラントの説明)</p> <p>② 地震により炉心損傷に至る事故シナリオを抽出し、スクリーニングで除外するシナリオについてはその内容を明記した。除外されずに残った事故シナリオを分析し、以下の起因事象を選定した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・格納容器バイパス</li> <li>・大破断LOCAを上回る規模のLOCA(Excess LOCA)</li> <li>・原子炉建屋損傷</li> <li>・原子炉格納容器損傷</li> <li>・制御建屋損傷</li> <li>・原子炉補機冷却機能喪失+RCPシールLOCA</li> <li>・1次系流路閉塞による2次系除熱機能喪失</li> <li>・複数の信号系損傷</li> <li>・燃料集合体及び制御棒クラスタ損傷による原子炉停止機能喪失</li> <li>・大破断LOCA</li> <li>・中破断LOCA</li> <li>・小破断LOCA(極小LOCAを含む)</li> <li>・2次冷却系の破断</li> <li>・主給水流量喪失</li> <li>・外部電源喪失</li> <li>・原子炉補機冷却機能喪失</li> </ul> <p>・計測・制御系喪失</p> <p>・外部電源喪失</p> <p>・圧力容器損傷</p> <p>・直流電源喪失</p> <p>・交流電源・原子炉補機冷却系喪失</p>	<p>① 内部事象運転時レベル1PRAにおいて収集したプラント構成・特性等に関する情報の他、配置関連設計図書等により地震レベル1PRAに必要な情報を収集・整理した。また、机上検討では確認が難しいプラント情報を取得するため、及び検討したシナリオの妥当性を確認するために、泊発電所3号炉においてプラントウォークダウンを実施し、以下の点について問題がないことを確認した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・耐震安全性の確認</li> <li>・二次的影響の確認</li> <li>・必要に応じた地震後の操作を考慮する機器についてアクセス性を確認している。(大飯と同様)</li> </ul> <p>② 地震により炉心損傷に至る事故シナリオを抽出し、スクリーニングで除外するシナリオについてはその内容を明記した。除外されずに残った事故シナリオを分析し、以下の起因事象を選定した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・格納容器バイパス</li> <li>・大破断LOCAを上回る規模のLOCA(Excess LOCA)</li> <li>・原子炉建屋損傷</li> <li>・原子炉格納容器損傷</li> <li>・原子炉補助建屋損傷</li> <li>・電動弁損傷による原子炉補機冷却機能喪失</li> <li>・1次系流路閉塞による2次系除熱機能喪失</li> <li>・複数の信号系損傷</li> <li>・燃料集合体及び制御棒クラスタ損傷による原子炉停止機能喪失</li> <li>・大破断LOCA</li> <li>・中破断LOCA</li> <li>・小破断LOCA(極小LOCAを含む)</li> <li>・2次冷却系の破断</li> <li>・主給水流量喪失</li> <li>・外部電源喪失</li> <li>・原子炉補機冷却機能喪失</li> </ul>	<p>【大飯】</p> <p>■記載表現の相違</p> <p>・女川に記載統一</p> <p>(以下、相違理由説明を省略)</p> <p>【女川】</p> <p>■評価方針の相違</p> <p>・泊は地震後の操作を考慮する機器についてアクセス性を確認している。(大飯と同様)</p> <p>【大飯】</p> <p>■炉型の相違</p> <p>・炉型が異なり、抽出される起因事象が異なるため、大飯と比較する。(着色せず)</p> <p>【女川】</p> <p>・泊の構成に合わせて女川の起因事象の記載順序を入れ替えている</p> <p>【大飯】</p> <p>■名称の相違</p> <p>・制御建屋損傷⇒原子炉補助建屋損傷</p> <p>・原子炉補機冷却機能喪失+RCPシールLOCA⇒電動弁損傷による原子炉補機冷却機能喪失(泊は別添の記載に統一)</p> <p>(以下、相違理由説明を省略)</p>

泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について  
別紙16 「PRAの説明における参考事項(平成25年9月原子力規制庁)」への泊発電所3号炉の対応状況

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

「PRAの説明における参考事項」の記載内容	大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	また、以上の事項を活用し、地震による機器ごとの損傷モード（構造損傷・機能損傷）によるプラントへの影響を整理し、対象となる建屋・機器リストを作成した。	地震レベル1PRAの評価対象設備を以下のように分類し、建屋・機器リストを作成した。 ・起因事象を引き起こす設備 ・起因事象を緩和する設備 (3.2.1.a. 対象プラントと事故シナリオ ②地震により炉心損傷に至る事故シナリオと分析)	地震レベル1PRAの評価対象設備を以下のように分類し、建屋・機器リストを作成した。 ・起因事象を引き起こす設備 ・起因事象を緩和する設備 (3.2.1.a. 対象プラントと事故シナリオ ②地震により炉心損傷に至る事故シナリオと分析)	
b. 地震ハザード				
①地震ハザード評価の方法	①「原子力発電所の地震を起因とした確率論的安全評価実施基準：2007（日本原子力学会）」（以下、「地震 PSA 学会標準」という。）の方法に基づき評価した。	①日本原子力学会標準「原子力発電所に対する地震を起因とした確率論的リスク評価に関する実施基準：2015」の方法に基づき評価した。（3.2.1.b. 確率論的地震ハザード ①確率論的地震ハザード評価の方法）	①日本原子力学会標準「原子力発電所に対する地震を起因とした確率論的リスク評価に関する実施基準：2015」（以下、「日本原子力学会（2015）という。」）の方法に基づき評価した。（3.2.1.b. 確率論的地震ハザード ①確率論的地震ハザード評価の方法）	【大飯】 ・泊は最新の学会標準を参照して評価をしている。（女川と同様） ■記載表現の相違
● 新規基準（地震）にて策定された基準地震動の超過確率の算出に用いた地震ハザード評価に用いた手法の説明	②特定震源モデルに基づく評価のうち、主要活断層震源モデルとして、敷地に影響を及ぼすと考えられる活断層として、敷地周辺の地質調査結果等に基づいて設定された活断層をモデル化した。また、その他の活断層震源モデルとして、主要活断層震源モデル以外の活断層を対象に、基本的にサイトから100km以内にある「新編 日本の活断層」に掲載されている確実度I及びIIの活断層をモデル化した。	②特定震源モデルに基づく評価のうち、海溝型地震については、東北地方太平洋沖型地震及び宮城県沖地震を特定地震としてモデル化し、内陸地殻内地震については、敷地から100km以内にある「[新編]日本の活断層」に掲載されている確実度I及びIIの活断層と敷地周辺の地質調査結果に基づいて評価した活断層等をモデル化した。	②特定震源モデルについては、敷地から100km程度以内にある地質調査結果に基づく活断層並びに「[新編]日本の活断層」に掲載されている確実度I及びIIの活断層を対象とした。	【女川】 【大飯】 ■記載表現の相違 ・3.2.1.b 確率論的地震ハザードについては、地震・津波側の審査において提示するため、表現の相違理由について記載を省略する。
● 震源モデル、地震動伝播モデルの設定と各モデルの設定根拠及び不確実さ要因の分析結果の説明	領域震源モデルについては、萩原（1991）及び垣見・他（2003）の領域区分に基づき、各領域の最大マグニチュードは領域内の過去の地震の最大値をもとに設定した。	領域震源については、海溝型地震、内陸地殻内地震とともに、その区分、対象領域の最大マグニチュードを地震本部（2013）に基づき設定しモデル化した。	領域震源モデルについては、萩原（1991）及び垣見ほか（2003）の領域区分に基づき、最大地震規模は、各領域で発生した地震のうち活断層と関連づけることが困難な地震の最大地震規模に基づいて設定した。	【女川】 ■個別評価による相違 ・泊と女川では地震発生様式等が異なることから、地震ハザード評価が異なる。 (以降、大飯との相違も含めて、相違理由説明を省略)
● 不確実さ要因の分析結果に基づいて作成したロジックツリーの明示とロジックツリーの各分岐において設定した重みの根拠の説明	地震動伝播モデルとしてはNoda et al. (2002)による距離減衰式を用いた。また、ロジックツリーにおいて内陸補正の有無を考慮した。	地震動伝播モデルはNoda et al. (2002)による距離減衰式、断層モデル手法を用い、距離減衰式には観測記録を用いた補正及び内陸補正を考慮した。 震源モデル及び地震動伝播モデルにおいて設定した各モデル及び認識論的不確かき要因をロジックツリーに展開した。ロジックツリーの各分岐の重みについて、過去の地質等を参考に設定した。（3.2.1.b. 確率論的地震ハザード ②確率論的地震ハザード評価に当たっての主要な仮定）	地震動伝播モデルとしては、Noda et al. (2002)による距離減衰式を用いた。また、ロジックツリーにおいて内陸補正の有無及び観測記録補正の有無を考慮した。 ロジックツリーの作成では、震源モデル及び地震動伝播モデルにおいて、確率論的地震ハザード評価に大きな影響を及ぼす認識論的不確かきを選定した。ロジックツリーの各分岐の重みについて、日本原子力学会（2015）を踏まえ設定した。（3.2.1.b. 確率論的地震ハザード ②確率論的地震ハザード評価に当たっての主要な仮定）	
③地震ハザード評価結果	③上記により平均地震ハザード曲線及びフラクタイル地震ハザード曲線を作成した。また、基準地震動の応答スペクトルと年超過確率毎の一様ハザードスペクトルを比較した。	③上記により平均地震ハザード曲線及びフラクタイル地震ハザード曲線を作成した。また、基準地震動の応答スペクトルと年超過確率毎の一様ハザードスペクトルを比較した。	③上記により平均ハザード曲線及びフラクタイル地震ハザード曲線を作成した。また、基準地震動の応答スペクトルと年超過確率ごとの一様ハザードスペクトルを比較した。	
● 作成したロジックツリーを用いた地震ハザード曲線や平均ハザード曲線の説明	年超過確率 $10^{-4}$ の一様ハザードスペクトルに適合する模擬波	フランジリティ評価用地震動の目標スペクトルは、一様ハザードスペクトルを基準化し、基準地震動の地震動特性を踏まえて設定した。また、模擬地震波の経時特性を $M=8.3$ 、等価震源距離 $X_{eq}=132\text{km}$ として設定した。（3.2.1.b. 確率論的地震ハザード ③確率論的地震ハザード評価結果）	フランジリティ評価用地震動は、年超過確率 $10^{-4}$ の一様ハザードスペクトルの形状に適合する模擬波とした。模擬波の経時特性は Noda et al. (2002)に基づき地震規模 $M=8.2$ 、等価震源距離 $X_{eq}=107\text{km}$ として設定した。（3.2.1.b. 確率論的地震ハザード ③確率論的地震ハザード評価結果）	
● 地震ハザード評価結果に基づくフランジリティ評価用地震動の作成方法の説明	は、経時特性を基準地震動の策定と同様に Noda et al. (2002)に基づき 地震規模 $M=7.8$ 、等価震源距離 $X_{eq}=60\text{km}$ として設定した。			

泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について  
別紙16 「PRAの説明における参考事項(平成25年9月原子力規制庁)」への泊発電所3号炉の対応状況

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

「PRAの説明における参考事項」の記載内容	大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
c. 建屋・機器のフランジリティ				
①評価対象と損傷モードの設定 ②フランジリティの評価方法の選択 ③フランジリティ評価上の主要な仮定（不確実さの設定、応答係数等） ④フランジリティ評価における耐力情報 ● 評価部位、損傷モード及びその耐力値と確率分布 ● 評価部位の材料と温度【構造損傷の場合】 ● 機能限界値の諸元【機能損傷の場合】 ⑤フランジリティ評価における応答情報 ● 評価部位、損傷モード及びその応答値と確率分布 ● 基準地震動による地震力で発生する評価部位の応答 とその他の荷重条件による評価部位の応答の内訳【構造損傷の場合】 ● 基準地震動による地震力で発生する評価部位の応答【機能損傷の場合】 ⑥建物・機器のフランジリティ評価結果	<p>①～⑥</p> <p>以下の手順でフランジリティ評価を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・評価対象と損傷モードの設定</li> <li>・評価手法の選択</li> </ul> <p>現実的耐力の評価</p> <p>現実的応答の評価</p> <p>フランジリティの評価</p> <p>建屋フランジリティは現実的耐力と現実的応答による方法（応答解析に基づく方法）、機器フランジリティは耐力係数と応答係数による方法（安全係数法）を評価手法として採用した。</p> <p>建屋の評価は地震 PSA 学会標準に準拠した手法とし、確率論的応答解析を実施した。</p> <p>また、各機器に対する耐震計算結果・加振試験結果・文献値等をもとに、現実的耐力・応答を評価してフランジリティを算出した。なお、構造損傷モードについては、機器の損傷に対して支配的となる部位のフランジリティを当該機器のフランジリティとして出力している。</p>	<p>①～⑥</p> <p>以下の手順でフランジリティ評価を実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 評価対象と損傷モードの設定</li> <li>(2) 評価方法の選択</li> <li>(3) 評価上の不確実さ、応答係数等の設定</li> </ol> <p>(4) 現実的耐力の評価</p> <p>(5) 現実的応答の評価</p> <p>(6) フランジリティの評価</p> <p>建屋フランジリティは「現実的耐力と現実的応答による方法（応答解析に基づく方法）」、機器フランジリティは「耐力係数と応答係数による方法（安全係数法）」を評価手法として採用した。</p> <p>建屋の評価は地震 PSA 学会標準に準拠した手法とし、確率論的応答解析を実施した。</p> <p>また、各機器に対する耐震評価結果、加振試験結果、文献値等を基に、現実的耐力と現実的応答を評価してフランジリティを算出した。なお、構造強度に関する評価では、機器の損傷に支配的となる部位に着目して評価を行った。（3.2.1.c. 建屋・機器のフランジリティ）</p>	<p>①～⑥</p> <p>以下の手順でフランジリティ評価を実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 評価対象と損傷モードの設定</li> <li>(2) 評価方法の選択</li> <li>(3) 評価上の不確実さ、応答係数等の設定</li> </ol> <p>(4) 現実的耐力の評価</p> <p>(5) 現実的応答の評価</p> <p>(6) フランジリティの評価</p> <p>建屋フランジリティは「現実的耐力と現実的応答による方法（応答解析に基づく方法）」、機器フランジリティは「耐力係数と応答係数による方法（安全係数法）」を評価手法として採用した。</p> <p>建屋の評価は地震 PSA 学会標準に準拠した手法とし、確率論的応答解析を実施した。</p> <p>また、各機器に対する耐震評価結果、加振試験結果、文献値等を基に、現実的耐力と現実的応答を評価してフランジリティを算出した。なお、構造強度に関する評価では、機器の損傷に支配的となる部位に着目して評価を行った。（3.2.1.c. 建屋・機器のフランジリティ）</p>	<p>【大飯】</p> <p>■記載方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大飯も別途においてはフランジリティ評価上の主要な仮定を記載しており、同様の手順で評価していることから、評価方針の相違はない。</li> </ul> <p>【女川】</p> <p>■評価方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・女川は物理値に中央値をえた応答解析結果を元に現実的応答を算出しているが、泊は確率論的応答解析結果より各ケースの重みを考慮して算出している（大飯と同様）</li> </ul>
d. 事故シーケンス				
(1) 起因事象 ①評価対象とした起因事象のリスト、説明及び発生頻度 ● 地震により誘発される起因事象の選定方法とその結果 ● グループ化している場合にはグループ化の考え方、発生頻度の評価方法 ● 対象外とした起因事象と、対象外とした理由 ● 地震固有の事象とその取扱い	<p>(1) ①</p> <p>以下の手順で事故シーケンス評価を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・起因事象の設定</li> <li>・事故シーケンスのモデル化</li> <li>・システムのモデル化</li> <li>・事故シーケンスの定量化</li> </ul>	<p>(1)</p> <p>①3.2.1.a②「地震により炉心損傷に至る事故シナリオと分析」にて選定した起因事象を対象とした。グループ化した起因事象及び対象外とした起因事象はない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・格納容器バイパス</li> <li>・ECCS 容量を超える原子炉冷却材圧力バウンダリ喪失(E-LOCA)</li> <li>・原子炉建屋損傷</li> <li>・格納容器損傷</li> </ul>	<p>(1)</p> <p>①3.2.1.a②「地震により炉心損傷に至る事故シナリオと分析」にて選定した起因事象を対象とした。グループ化した起因事象及び対象外とした起因事象はない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・格納容器バイパス</li> <li>・大破断 LOCA を上回る規模の LOCA (Excess LOCA)</li> <li>・原子炉建屋損傷</li> <li>・原子炉格納容器損傷</li> </ul>	<p>【女川】</p> <p>■記載方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・女川実績の反映</li> </ul> <p>【女川】</p> <p>■炉型の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・炉型が異なるため、抽出される起因事象が異なる。（着色せず）</li> </ul>

泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について  
別紙16 「PRAの説明における参考事項(平成25年9月原子力規制庁)」への泊発電所3号炉の対応状況

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

「PRAの説明における参考事項」の記載内容	大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
②階層イベントツリーとその説明 ● 起因事象の階層化の考え方、イベントツリーとその説明	(1) ②  選定した起因事象に対して、先行するヘディングにある起因事象は後続のヘディングにある起因事象が重複した場合でもその影響を含めるように設定した階層ツリーにより事故シナリオを整理した。	(2) ①  ②階層イベントツリーのヘディングは、内部事象レベル1 PRAと地震PRAとの境界を明確にするために地震による外部電源喪失を先頭とし、以降、各起因事象を発生時の影響の大きい順に配列した。 (3.2.1.d. 事故シーケンス①起因事象)	②階層イベントツリーのヘディングは、各起因事象を発生時の影響の大きい順に配列し、先行するヘディングにあるすべての起因事象が発生しない場合は、主給水流量喪失が発生するものとした。 (3.2.1.d. 事故シーケンス①起因事象)	(大飯に記載はないが、泊と同様の結果となっている) 【女川】 ・泊の構成に合わせて女川の起因事象の記載順序を入れ替えている
(2) 成功基準 ①成功基準の一覧 ● 起因事象ごとの成功基準 ● 炉心損傷の定義 ● 対処設備作動までの余裕時間及び使命時間 ● 成功基準設定のために熱水力解析等を実施した場合は使用した解析結果、及び使用した解析コードの検証性	(2) ①  炉心損傷を防止するための緩和系の成功基準は、地震時においても内部事象と相違ない。したがって、成功基準は内部事象と同様のものを採用する。	(2)  ①炉心損傷の定義、炉心損傷を防止するための緩和系の成功基準並びに余裕時間は内部事象運転時レベル1 PRAと相違がない。ただし、同様の系統は完全相關を仮定しているため、事故緩和に必要な系統数は考慮していない。また、緩和手段のない起因事象については成功基準を設定していない。使命時間については内部事象運転時レベル1 PRAと同様に24時間とし、地震動で損傷した機器の復旧は期待していない。(3.2.1.d. 事故シーケンス②成功基準)	(2)  ①炉心損傷の定義、炉心損傷を防止するための緩和系の成功基準並びに余裕時間は内部事象運転時レベル1 PRAと相違がない。ただし、同様の系統は完全相關を仮定しているため、事故緩和に必要な系統数は考慮していない。また、緩和手段のない起因事象については成功基準を設定していない。使命時間については内部事象運転時レベル1 PRAと同様に24時間とし、地震動で損傷した機器の復旧は期待していない。(3.2.1.d. 事故シーケンス②成功基準)	■評価方針の相違 ・泊は外部電源喪失の発生の有無を内部事象PRAと地震PRAの境界とはしておらず、地震により外部電源が健全な場合でも地震PRAの評価範囲としている（大飯と同様） ・泊は常用系で耐震クラスの低い主給水系の機器損傷による主給水流量喪失が必ず発生するものとしている（大飯と同様）
(3) 事故シーケンス ①イベントツリー ● イベントツリー図 ● ヘディング、事故進展及び最終状態	(3) ①  地震のイベントツリーは、大イベントツリー／小フォールトツリー法を採用した。地震時及び地震後における原子炉の安全停止のための安全機能を選定した。地震により損傷する機器によ	(3)  ①ヘディングは、地震に引き続き発生する、プラントの事故に至る起因事象、緩和機能に関わるシステム及び運転員操作と事故進展に影響する重要な設備状態を選定し、以下のイベントツ	(3)  ①ヘディングは、地震に引き続き発生する、プラントの事故に至る起因事象、緩和機能に関わるシステム及び運転員操作と事故進展に影響する重要な設備状態を選定し、以下のイベントツ	【大飯】 ■評価手法の相違 ・泊は小イベントツリー法、大

泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について  
 別紙16 「PRAの説明における参考事項(平成25年9月原子力規制庁)」への泊発電所3号炉の対応状況

「PRAの説明における参考事項」の記載内容	大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
● イベントツリー作成上の主要な仮定	る安全機能への影響を評価するために、地震損傷機器イベントツリーを作成した。また、ランダム故障の影響を評価するためには、起因事象ごとに内的事象の成功基準を基に設定し、内的事象のイベントツリーを参考にサポート系イベントツリー、共用系イベントツリー、フロントラインイベントツリーを作成した。	リを作成した。また、炉心損傷防止の観点から、「原子炉停止機能」、「原子炉冷却機能」の安全機能に着目し、最終状態を事故シーケンスグループとして分類した。  ・階層イベントツリー  ・外部電源喪失時イベントツリー ・全交流動力電源喪失時イベントツリー (3.2.1.d. 事故シーケンス③事故シーケンス)	リを作成した。また、炉心損傷防止の観点から、「原子炉停止機能」、「原子炉冷却機能」の安全機能に着目し、最終状態を事故シーケンスグループとして分類した。  ・起因事象階層イベントツリー  ・過渡分類イベントツリー ・フロントラインイベントツリー (3.2.1.d. 事故シーケンス③事故シーケンス)	飯は大イベントツリー法を用いているため、地震により損傷した機器の情報を引き継ぐためのイベントツリーの構成が異なる（高浜、美浜と同様）  【女川】 ■記載表現の相違 ・起因事象階層ツリー⇒起因事象階層イベントツリー 【川】 ■評価方針の相違 ・泊は起因事象の分類のためのイベントツリーを起因事象階層イベントツリー、過渡分類イベントツリーの2段階に分けているが、外部電源の扱い（女川は外部電源喪失が必ず発生する想定としている）以外の分類の考え方は女川と同様である。（高浜、美浜と同様）
(4) システム信頼性	(4) ① 評価対象としたシステムとその説明 ● 評価対象システム一覧 ● 組成図、必要とするサポート系、試験、システム信頼性評価上の主要な仮定 ● B及びCクラス機器の取扱い	(4) ① 内部事象評価でまとめた情報の活用や、地震による機器ごとの損傷モードによるプラントへの影響を整理して作成した建屋・機器リストを使って対象範囲を明確にした。各系統の情報や依存性については内部事象と同等である。また、B及びCクラスに対しても地震の影響を考慮している。	(4) ①3.2.1.a②「地震により炉心損傷に至る事故シナリオと分析」で作成した建屋・機器リストに記載の設備をシステム信頼性の評価対象とした。起因事象を緩和する設備の詳細情報は内部事象レベル1 PRAと同じである。また、原子炉冷却材圧力バウンダリに接続する格納容器外の耐震重要度Bクラス配管、燃料移送系、軽油タンクを除き耐震重要度B及びCクラスの設備には期待していない。	(4) ①3.2.1.a②「地震により炉心損傷に至る事故シナリオと分析」で作成した建屋・機器リストに記載の設備をシステム信頼性の評価対象とした。起因事象を緩和する設備の詳細情報は内部事象レベル1 PRAと同じである。また、安全補機に関わる空調系及び空調用冷水系を除き耐震重要度B及びCクラスの設備には期待していない。  【女川】 ■評価方針の相違 ・内部事象 PRA でモデル化している設備のうち、耐震性が低く地震 PRA では期待しない設備を記載しており、炉型により該当する設備が異なる。（大飯に記載はないが、泊と同様となっている）
②機器損傷に関する機器間の相關の取扱い	(4) ② 今回の評価では冗長機器及び設備に対する地震の影響は、保守的に完全相關として評価した。	②同様の系統及び機器については、系統間又は機器間で完全相關を仮定した。それ以外の系統間及び機器間の相關は完全独立を仮定した。	②同様の系統及び機器については、系統間又は機器間で完全相關を仮定した。それ以外の系統間及び機器間の相關は完全独立を仮定した。	
③システム信頼性評価結果	(4) ③ 条件付き分岐確率イベントツリー法により解析しているため、地震による損傷を考慮したシステムごとの信頼性は算出されない。ただし、システム毎に機器の損傷確率を地震加速度との関係を考慮して評価している。	③起因事象の原因となる設備及び起因事象を緩和する設備は、内部事象運転時レベル1 PRAにおけるシステム信頼性評価の結果及び地震の影響を受ける可能性のある設備は、建屋・機器フジアリティ評価の結果も考慮して信頼性評価を実施した。ミニ	③起因事象の原因となる設備及び起因事象を緩和する設備は、内部事象運転時レベル1 PRAにおけるシステム信頼性評価の結果及び地震の影響を受ける可能性のある設備は、建屋・機器フジアリティ評価の結果も考慮して信頼性評価を実施した。ミニ	【大飯】 ■評価方針の相違 ・泊は小イベントツリー法を用いているが、大飯と同様に

泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について  
別紙16 「PRAの説明における参考事項(平成25年9月原子力規制庁)」への泊発電所3号炉の対応状況

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

「PRAの説明における参考事項」の記載内容	大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
④システム信頼性評価を実施せずに設定した非信頼度とその根拠	(4) ④ 地震PRAでは損傷した機器の復旧に期待しないため、原子炉補機冷却機能が喪失した場合は封水注水及びRCPサーマルパリアによる冷却機能が喪失することから、原子炉補機冷却機能喪失のRCPシールLOCAヘディングの失敗確率を1.0とした。	マルカットセットについては、FTに対しては算出していないが、事故シーケンスに対しては、評価結果に基づき主要なミニマルカットセットをまとめた。	マルカットセットについては、FTに対しては算出していないが、事故シーケンスに対しては、評価結果に基づき主要なミニマルカットセットをまとめた。	機器の損傷確率と地震加速度との関係を考慮し、ランダム故障を含めた評価を実施している（高浜、美浜と同様）
(5) 人的過誤 ①評価対象とした人的過誤及び評価結果 ● 人的過誤の評価に用いた手法 ● 人的過誤の分類、人的操作に対する許容時間、過誤回復の取扱い ● 人的過誤評価に用いた主要な仮定 ● 人的過誤評価結果	(5) ① 事故前の操作については内部事象と同等の扱いである。	④本評価ではシステム信頼性評価を実施せずに設定した非信頼度はない。  (3.2.1.d. 事故シーケンス④システム信頼性)	④地震PRAでは損傷した機器の復旧に期待しないため、原子炉補機冷却機能が喪失した場合は封水注水及びRCPサーマルパリアによる冷却機能が喪失することから、原子炉補機冷却機能喪失のRCPシールLOCAヘディングの失敗確率を1.0とした。  (3.2.1.d. 事故シーケンス④システム信頼性)	【女川】 ■設計の相違 ・設計の相違によりシステム信頼性評価の対象のシステムが異なる。（大飯と同様）
(6) 地震後の現場操作については、実施が困難である可能性があるため、原則、期待していない。		(5) ①起因事象発生前の人的過誤は試験・保守作業後の復旧ミスであり、事象発生の起因が地震であっても変わることがないため、内部事象運転時レベル1PRAの検討結果を用いた。起因事象発生後の人的過誤は地震発生後の対応操作に対する過誤であり、事象発生の起因が地震であっても変わることはないと想定する。ただし、地震後数時間以内の対応を要する作業においては、高ストレスを考慮した。  (3.2.1.d. 事故シーケンス⑤人的過誤)	(5) ①起因事象発生前の人的過誤は試験・保守作業後の復旧ミスであり、事象発生の起因が地震であっても変わることがないため、内部事象運転時レベル1PRAの検討結果を用いた。起因事象発生後の人的過誤は地震発生後の対応操作に対する過誤であり、事象発生の起因が地震であっても変わることはないと想定する。ただし、現場操作については、実施が困難である可能性があるため期待していない。  (3.2.1.d. 事故シーケンス⑤人的過誤)	【大飯】 ■評価方針の相違 ・泊は原則外で期待している現場操作はない（川内、玄海、伊方と同様） 【女川】 ■評価方針の相違 ・泊は地震が増大すると現場操作に失敗する可能性が高くなるため、現場操作には期待していない。 ・泊は内部事象 PRAにおいても、起因事象発生後のストレスレベルを高としている（川内、玄海、伊方と同様）
①炉心損傷頻度の算出に用いた方法	(6) ① 前述のとおりの手順により、解析コードを用い、炉心損傷頻度を定量化した。	(6) ①フォールトツリー結合法によりミニマルカットセットを作成し、加速度毎の炉心損傷頻度を算出した。また、それらを全加速度区間にわたり積分することで全炉心損傷頻度を算出した。なお、評価地震動範囲は0.0G～1.5Gとした。	(6) ①フォールトツリー結合法によってミニマルカットセットを作成し、炉心損傷頻度を算出した。なお、評価地震動範囲は0.2G～1.5Gとした。	【女川】 ■記載方針の相違 ・泊は別添の記載に合わせている 【女川】 ■評価方針の相違 ・泊は0.2～0.4Gにおいてランダム故障が支配的であり、0.2G以下の地震加速度において

泊発電所 3 号炉 有効性評価 比較表

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について  
別紙16 「PRAの説明における参考事項(平成25年9月原子力規制庁)」への泊発電所3号炉の対応状況

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

「PRAの説明における参考事項」の記載内容	大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
②炉心損傷頻度結果 ● 全炉心損傷頻度及び主要な事故シーケンスと分析 ● 起因事象別の炉心損傷頻度及び主要な事故シーケンスと分析 ● プラント損傷状態別炉心損傷頻度及び主要な事故シーケンスと分析 ● 地震加速度と炉心損傷頻度の関係とその分析  ③重要度解析、不確実さ解析及び感度解析	(6) ② 前述のとおりの手順でモデルを定量化し、起因事象別の炉心損傷頻度、地震加速度と炉心損傷頻度の関係とその分析を実施し、主要な事故シーケンスを確認した。なお、後述するようにレベル1.5PRAは今回は実施しないため、プラント損傷状態別の分析評価は行っていない。  (6) ③ 炉心損傷に至る支配的な要因を確認する観点で重要度解析を実施した。また、PRA結果の活用目的である事故シーケンスグループ等の選定に係る炉心損傷頻度の相対的な割合の確認に際しての参考として不確実さ解析を実施した。さらに、冗長設備の相関性について、炉心損傷頻度への感度を確認するために感度解析を実施した。	②上述した手順でモデルを定量化し、全炉心損傷頻度、及び起因事象別、加速度区分別、事故シーケンスグループ別の炉心損傷頻度を算出し、主要なミニマルカットセットと評価結果を分析した。  ③地震ハザード、フラジリティやランダム故障確率に含まれる不確実さが炉心損傷頻度の分布に与える影響を評価するため、不確実さ解析を行った。重要度解析では、FV重要度による評価を行った。また、感度解析は、機器間の相関性に係る評価上の仮定、及び炉心損傷頻度に有意に影響のある機器のフラジリティに関して実施した。(3.2.1.d. 事故シーケンス⑥炉心損傷頻度)	②上述した手順でモデルを定量化し、全炉心損傷頻度並びに起因事象別、加速度区分別及び事故シーケンスグループ別の炉心損傷頻度を算出し、主要なミニマルカットセットと評価結果を分析した。  ③地震ハザード、フラジリティやランダム故障確率に含まれる不確実さが炉心損傷頻度の分布に与える影響を評価するため、不確実さ解析を行った。重要度解析では、FV重要度による評価を行った。また、感度解析は、機器間の相関性に係る評価上の仮定、及び炉心損傷頻度に有意に影響のある機器のフラジリティに関して実施した。(3.2.1.d. 事故シーケンス⑥炉心損傷頻度)	ては、さらにランダム故障の影響が強くなると考えられ内部事象 PRA の評価に含まれることから、0.2G 以下は地震 PRA の評価範囲とはしていない。（大飯に記載はないが、泊と同様の方針となっている） ・基準地震動の最大加速度の 2 倍程度の 1.5G を評価範囲の上限としているが、1.5G における年超過確率は $3.0 \times 10^{-7}$ 程度であり、仮に 1.5G 以上の評価を実施しても、地震特有の事故シーケンスの炉心損傷頻度が有意となることはない。  【女川】 ■記載表現の相違

泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について  
別紙16 「PRAの説明における参考事項(平成25年9月原子力規制庁)」への泊発電所3号炉の対応状況

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

「PRAの説明における参考事項」の記載内容	大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
3. 2 外部事象（津波） a. 対象プラントと事故シナリオ ①対象とするプラントの説明 ● 津波PRAの中で考慮する設備の一覧及び設備の説明 ● ウォークダウン実施の有無とウォークダウンの結果	①プラント構成・特性に関する内部事象レベル1PRAで収集した設計情報に加え、津波PRAを実施するために、耐津波性や機器配置、浸水口や浸水ルートなど、津波固有の観点での必要な情報を収集・分析した。また、机上検討では確認が難しいプラント情報を収集するため、及び検討したシナリオの妥当性確認のため、当該プラントにおいてプラントウォークダウンを実施し、津波PRAの観点で重要な機器を対象に、以下の観点について問題がないことを確認した。 ・津波影響の確認 ・間接的被害の可能性の確認 ・津波伝播経路及び建屋開口部の確認	①内部事象運転時レベル1PRAにおいて収集したプラント構成・特性等に関する情報の他、配置関連設計図書等により津波PRAに必要な情報を収集・整理した。また、机上検討では確認が難しいプラント情報を取得するため、及び検討したシナリオの妥当性を確認するために、 <b>女川原子力発電所2号炉</b> においてプラントウォークダウンを実施し、以下の点について問題がないことを確認した。 ・津波影響 ・間接的被害の可能性 ・津波伝播経路及び建屋開口部（貫通部） (3. 2. 2. a. 対象プラントと事故シナリオ ①対象とするプラントの説明) ②津波により炉心損傷に至る事故シナリオとして想定されるものを挙げ、スクリーニングするものについてはその内容を明記した。明確になった事故シナリオにより誘発される起因事象の分析を実施し、以下の起因事象を選定した。 ・直接炉心損傷に至る事象 ・原子炉補機冷却機能喪失 ・外部電源喪失 ・主給水流量喪失 ・過渡事象	①内部事象運転時レベル1PRAにおいて収集したプラント構成・特性等に関する情報の他、配置関連設計図書等により津波PRAに必要な情報を収集・整理した。また、机上検討では確認が難しいプラント情報を取得するため、及び検討したシナリオの妥当性を確認するために、 <b>泊発電所3号炉</b> においてプラントウォークダウンを実施し、以下の点について問題がないことを確認した。 ・津波影響 ・間接的被害の可能性 ・津波伝播経路及び建屋開口部（貫通部） (3. 2. 2. a. 対象プラントと事故シナリオ ①対象とするプラントの説明) ②津波により炉心損傷に至る事故シナリオを抽出し、スクリーニングで除外するシナリオについてはその内容を明記した。除外されずに残った事故シナリオを分析し、以下の起因事象を選定した。 ・外部電源喪失 ・原子炉補機冷却海水系機能喪失 ・敷地及び建屋内浸水	【大飯】 ■記載方針の相違 ・女川に記載統一 (以下、「3. 2 外部事象（津波）」の範囲については、着色及び相違理由説明を省略)
②津波により炉心損傷に至る事故シナリオと分析 ● 事故シナリオの分析・選定とスクリーニングの説明 ● 事故シナリオと起因事象の分析結果 ● 建物・機器リストの作成結果	②津波の事故シナリオとして想定されるものを挙げ、スクリーニングするものについてはその内容を明記した。明確になった事故シナリオにより誘発される起因事象の分析を実施し、以下の起因事象を選定した。 ・直接炉心損傷に至る事象 ・原子炉補機冷却機能喪失 ・外部電源喪失 ・主給水流量喪失 ・過渡事象	②津波により炉心損傷に至る事故シナリオを抽出し、スクリーニングで除外するシナリオについてはその内容を明記した。除外されずに残った事故シナリオを分析し、以下の起因事象を選定した。 ・外部電源喪失 ・原子炉補機冷却海水系機能喪失 ・敷地及び建屋内浸水	②津波により炉心損傷に至る事故シナリオを抽出し、スクリーニングで除外するシナリオについてはその内容を明記した。除外されずに残った事故シナリオを分析し、以下の起因事象を選定した。 ・外部電源喪失 ・原子炉補機冷却海水系機能喪失 ・敷地及び建屋内浸水	【女川】 ■記載表現の相違 ・原子炉補機冷却海水系機能喪失⇒原子炉補機冷却機能喪失（大飯と同様） 【大飯】 ■評価方針の相違 ・女川実績の反映 ・泊は主給水流量喪失及び過渡事象を起因事象として選定せず、外部電源喪失を代表している。
	また、以上の事項を活用し、津波による機器ごとの損傷モード（構造損傷・機能損傷）によるプラントへの影響を整理し、対象となる建屋・機器リストを作成した。	また、津波PRAの評価対象設備を以下のように分類し、建屋・機器リストを作成した。 ・起因事象を引き起こす設備 ・津波防護施設／浸水防止設備 ・起因事象を緩和する設備 (3. 2. 2. a. 対象プラントと事故シナリオ ②津波により炉心損傷に至る事故シナリオと分析)	また、津波PRAの評価対象設備を以下のように分類し、建屋・機器リストを作成した。 ・起因事象を引き起こす設備 ・津波防護施設／浸水防止設備 ・起因事象を緩和する設備 (3. 2. 2. a. 対象プラントと事故シナリオ ②津波により炉心損傷に至る事故シナリオと分析)	追而【津波PRAの最終評価結果を反映】

泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について  
別紙16 「PRAの説明における参考事項(平成25年9月原子力規制庁)」への泊発電所3号炉の対応状況

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

「PRAの説明における参考事項」の記載内容	大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
b. 津波ハザード	①津波ハザード評価の方法 ● 新規制基準（津波）にて策定された基準津波の超過確率の算出に用いた津波ハザード評価に用いた手法の説明	①基準津波の超過確率の算出に用いた津波ハザード評価は、日本原子力学会標準「原子力発電所に対する津波を起因とした確率論的リスク評価に関する実施基準：2011」（2012年2月一般社団法人日本原子力学会）及び「確率論的津波ハザード解析の方法（土木学会2011）」に基づき評価を実施した。	①基準津波の超過確率の算出に用いた確率論的津波ハザード評価は、日本原子力学会標準「原子力発電所に対する津波を起因とした確率論的リスク評価に関する実施基準：2011」（以下、「津波PRA学会標準」という。），公益社団法人土木学会原子力土木委員会津波評価小委員会「原子力発電所の津波評価技術2016」，社団法人土木学会原子力土木委員会津波評価部会「確率論的津波ハザード解析の方法（2011）」及び2016年東北地方太平洋沖地震から得られた知見等を踏まえて実施した。 （3.2.2.b 確率論的津波ハザード ①評価方針）	①基準津波の超過確率の算出に用いた確率論的津波ハザード評価は、日本原子力学会標準「原子力発電所に対する津波を起因とした確率論的リスク評価に関する実施基準：2011」（以下、「津波PRA学会標準」という。），公益社団法人土木学会原子力土木委員会津波評価小委員会「原子力発電所の津波評価技術2016」，社団法人土木学会原子力土木委員会津波評価部会「確率論的津波ハザード解析の方法（2011）」，2011年東北地方太平洋沖地震から得られた知見等を踏まえて実施した。 【女川】 ■記載表現の相違
②津波ハザード評価に当たっての主要な仮定 ● 津波発生モデル、津波伝播モデルの設定と各モデルの設定根拠及び不確実さ要因の分析結果の説明 ● 不確実さ要因の分析結果に基づいて作成したロジックツリーの明示とロジックツリーの各分岐において設定した重みの根拠の説明	②津波発生モデルとしては、以下に記す波源を想定し、検討を実施した。 ・日本海東縁部の断層による津波 ・海域活断層による津波 ・領域震源（背景の地震）による津波  津波伝播モデルについては、基準津波の評価で用いたモデルを用いて検討を実施した。 また、上述した波源に対して、不確かさの要因の分析及びそれに基づき作成したロジックツリーを検討した。	②津波発生モデルは、2011年東北地方太平洋沖地震から得られた知見等を踏まえ、津波PRA学会標準に示される領域に加え、プレート間地震と津波地震の運動型地震を考慮した。 上述した各津波発生モデルに対して、不確実さ要因分析を行い、それに基づきロジックツリーを作成した。 分岐の重みの設定に当たっては、日本原子力学会（2012）及び土木学会（2011）の分岐を流用するものについては、土木学会（2009）によるアンケート結果を踏まえた重みや、土木学会（2011）による正規分布に対する分岐設定方法の重みを用いた。新たに追加した分岐や原子力学会標準及び土木学会（2011）の分岐から修正した分岐の重みについては、関連する情報を収集のうえ、日本原子力学会（2012）等に基づき設定した。 （3.2.2.b. 確率論的津波ハザード ①確率論的津波ハザード評価方針、②津波発生領域の設定）	②津波発生モデルは、2011年東北地方太平洋沖地震から得られた知見等を踏まえ、津波PRA学会標準に示される領域に加え、プレート間地震と津波地震の運動型地震を考慮した。 上述した各津波発生モデルに対して、不確実さ要因分析を行い、それに基づきロジックツリーを作成した。 分岐の重みの設定に当たっては、日本原子力学会（2012）及び土木学会（2011）の分岐を流用するものについては、土木学会（2009）によるアンケート結果を踏まえた重みや、土木学会（2011）による正規分布に対する分岐設定方法の重みを用いた。新たに追加した分岐や原子力学会標準及び土木学会（2011）の分岐から修正した分岐の重みについては、関連する情報を収集のうえ、日本原子力学会（2012）等に基づき設定した。 （3.2.2.b. 確率論的津波ハザード ①確率論的津波ハザード評価方針、②津波発生領域の設定）  追而 【津波PRAの最終評価結果を反映】	追而 【津波ハザード評価結果を反映】
③津波ハザード評価結果 ● 作成したロジックツリーを用いた津波ハザード曲線の算出と、各ハザード曲線群から求めた信頼度別ハザード曲線として取りまとめた。 ● 津波ハザード評価結果に基づくフラジリティ評価用津波水位変動の作成方法の説明	③ロジックツリーに基づき、モンテカルロシミュレーションを用いて津波ハザード解析を行い、フラクタル曲線、平均ハザード曲線や平均ハザード曲線の説明 3,4号機海水ポンプ室における最高水位の年超過確率はともに $10^{-4} \sim 10^{-5}$ 程度である	③ロジックツリーを基に津波ハザード解析を行い、ハザード曲線として取りまとめた。基準津波の敷地前面位置における最高水位の年超過確率は $10^{-4} \sim 10^{-5}$ 程度である。 フラジリティ評価用津波水位変動は、検討対象とする津波水位（=年超過確率）に最も寄与度が大きい津波波源の断層モデルのすべり量を調整して作成した。（3.2.2.b. 確率論的津波ハザード ③確率論的津波ハザード評価結果）	③ロジックツリーを基に津波ハザード解析を行い、ハザード曲線として取りまとめた。基準津波の敷地前面位置における最高水位の年超過確率は $10^{-4} \sim 10^{-5}$ 程度である。 フラジリティ評価用津波水位変動は、検討対象とする津波水位（=年超過確率）に最も寄与度が大きい津波波源の断層モデルのすべり量を調整して作成した。（3.2.2.b. 確率論的津波ハザード ③確率論的津波ハザード評価結果）  追而 【津波PRAの最終評価結果を反映】	
c. 建屋・機器のフラジリティ ● 評価対象と損傷モードの設定 ②フラジリティの評価方法の選択 ③フラジリティ評価上の主要な仮定（不確実さの設定、応答係数等） ④フラジリティ評価における耐力情報 ● 評価部位、損傷モード及びその耐力値と確率分布 ● 評価部位の材料と温度【構造損傷の場合】 ● 機能限界の諸元【機能損傷の場合】 ⑤フラジリティ評価における応答情報 ● 評価部位、損傷モード及びその応答値と確率分布 ● 基準津波による波力等で発生する評価部位の応答とその他の荷重条件による評価部位の応答の内訳【構造損	①～⑥ 津波PRA用建屋・機器リストの各機器について、プラントウォーターダウンの結果も参照しつつ、フラジリティ評価の要否とフラジリティ評価時に考慮する損傷モード（構造損傷・機能損傷）を検討した結果、対象となる機器及び損傷モードは、屋外設置機器及び建屋内設置機器の被水・没水による機能損傷のみである。 津波水位が各機器の設置高さに到達した時点で、当該機器が確率1.0で損傷するステップ状のフラジリティで示す方法を探用した。そのため、対象機器の設置高さ若しくは建屋の津波侵入口高さのうち、高い方を「現実的耐力」として不確実さを考慮していない。	①～⑥ 3.2.2.a ②で作成した建屋・機器リストに記載の設備に対して津波による損傷モードを検討した結果、フラジリティは以下のよう評価された。フラジリティ曲線はステップ状を仮定し、不確実さは考慮していない。 ・起動変圧器 ⇒敷地内浸水深が起動変圧器の基礎高さを超えた場合に機能喪失	①～⑥ 3.2.2.a ②で作成した建屋・機器リストに記載の設備に対して津波による損傷モードを検討した結果、フラジリティは以下のよう評価された。フラジリティ曲線はステップ状を仮定し、不確実さは考慮していない。 ・主変圧器 ⇒敷地内浸水深が主変圧器の基礎高さを超えた場合に機能喪失	【女川】 ■設計の相違 ・外部電源喪失の発生要因として考慮する設備が相違している。
			追而 【津波PRAの最終評価結果を反映】	

泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について  
別紙16 「PRAの説明における参考事項(平成25年9月原子力規制庁)」への泊発電所3号炉の対応状況

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

「PRAの説明における参考事項」の記載内容	大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
傷の場合		<ul style="list-style-type: none"> <li>RSW/HPSWポンプ</li> </ul> <p>⇒敷地内浸水深が補機ポンプエリアの浸水防止壁の高さを越えた場合に機能喪失</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>原子炉補機冷却海水ポンプ</li> </ul> <p>⇒循環水ポンプ建屋内浸水に伴う没水により機能喪失</p>	<span style="color: green;">【女川】</span> <span style="color: red;">■設備名称の相違</span> <span style="color: red;">・RSW/HPSWポンプ⇒原子炉補機冷却海水ポンプ</span>
● 基準津波による津波水位変動で被水・没水する評価 部位の状況【機能損傷の場合】 ⑥建物・機器のフランジリティ評価結果		<p>・燃料移送ポンプ</p> <p>⇒地下化し、水密構造であるため、敷地内浸水深がその止水性能を越える高さの場合に機能喪失</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>起因事象を緩和する設備（建屋内）</li> </ul> <p>⇒建屋内浸水により機能喪失</p> <p>(3.2.2.c. 建屋・機器のフランジリティ ①評価対象と損傷モードの決定、②フランジリティの検討結果について)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>起因事象を緩和する設備（建屋内）</li> </ul> <p>⇒建屋内浸水により機能喪失</p> <p>(3.2.2.c. 建屋・機器のフランジリティ ①評価対象と損傷モードの決定、②フランジリティの検討結果について)</p>	<span style="color: green;">【女川】</span> <span style="color: red;">■設計の相違</span> <span style="color: red;">・女川は原子炉補機冷却海水ポンプの浸水防止対策として、補機ポンプエリアに浸水防止壁を設置しているが、泊は原子炉補機冷却海水ポンプを循環水ポンプ建屋内に設置しており、女川と同様の浸水防止壁は設置していない。</span>
d. 事故シーケンス (1) 起因事象 ①評価対象とした起因事象のリスト、説明及び発生頻度 ● 津波により誘発される起因事象の選定方法とその結果 ● グループ化している場合にはグループ化の考え方、発生頻度の評価方法 ● 対象外とした起因事象と、対象外とした理由 ● 津波固有の事象とその取扱い	<p>(1) ①「津波により炉心損傷に至る事故シナリオと分析」にて選定した起因事象の発生頻度は、各機器の損傷高さまで浸水した時点で確率1.0で機能喪失すると評価していることから、津波発生頻度と同じである。</p> <p>「直接炉心損傷に至る事象」として津波高さ15.8m以上で発生する「複数の信号系損傷」を津波固有の事象とした。</p> <p>②階層イベントツリーとその説明 ● 起因事象の階層化の考え方、イベントツリーとそれを考慮して影響の大きい順番でヘディングを設定した階層イベントツリーにより事故シナリオを整理した。</p>	<p>(1)</p> <p>①津波による事故シナリオ及び津波フランジリティ検討結果に基づき、津波高さ毎に発生する起因事象及び津波シナリオを以下のとおり明確化した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>津波分類A（津波高さO.P.+29m～O.P.+33.9m） 津波高さO.P.+29mを超えた場合、敷地内浸水が開始する。起動変圧器、RSW/HPSWポンプ及び燃料移送ポンプは敷地内浸水の影響を受けないが、タービン建屋内への浸水によって種々の過渡事象が発生することから、広範囲な緩和系の機能喪失となる過渡事象を代表する「外部電源喪失」が発生するものとする。原子炉建屋及び制御建屋内への浸水はないため、緩和設備は健全である。</li> <li>津波分類B（津波高さO.P.+33.9m～） 敷地内浸水深が原子炉建屋又は制御建屋のカーブ高さ（敷地レベルから建屋外壁扉の下端レベルの高さ）を越えて、建屋内への大量浸水が発生することから、多数の緩和設備が機能喪失して炉心損傷に至る。</li> </ul> <p>②選定した起因事象に対して、起因事象発生時の影響の大きさを考慮して影響の大きい順番でヘディングを設定した階層イベントツリーにより事故シナリオを整理した。</p>	<p>(1)</p> <p>①津波による事故シナリオ及び津波フランジリティ検討結果に基づき、津波高さごとに発生する起因事象及び津波シナリオを以下のとおり明確化した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>津波分類A（津波高さT.P.16.5m～） 津波高さT.P.16.5mを超えた場合、敷地内浸水が開始する。敷地及び原子炉建屋又は原子炉補助建屋内への浸水によって複数の緩和設備が機能喪失して炉心損傷に至る津波特有の起因事象「敷地及び建屋内浸水」が発生するものとする。</li> <li>本評価では「敷地及び建屋内浸水」のみを起因事象と想定したため、起因事象階層化は必要ない。</li> </ul> <p>(3.2.2.d. 事故シーケンス ①起因事象、②起因事象発生度)</p>	<span style="color: green;">【女川】</span> <span style="color: red;">■記載表現の相違</span> <span style="color: green;">【女川】</span> <span style="color: red;">■評価方針の相違</span> <span style="color: red;">・炉心損傷と評価する津波高さO.P.+29m⇒T.P.16.5m</span> <span style="color: red;">・泊は防潮堤を越える津波発生頻度が極めて低いため、津波分類を細分化していない。</span> <span style="color: red;">(以下、相違理由説明を省略)</span>
				追而【津波PRAの最終評価結果を反映】

泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について  
別紙16「PRAの説明における参考事項(平成25年9月原子力規制庁)」への泊発電所3号炉の対応状況

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

「PRAの説明における参考事項」の記載内容	大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
(2) 成功基準	(2) ①炉心損傷を防止するための緩和系の成功基準は、津波時においても内部事象と相違ない。したがって、成功基準は内部事象と同様のものを採用した。なお、「直接炉心損傷に至る事象」については、緩和手段がないため成功基準を設定していない。 は使用した解析結果、及び使用した解析コードの検証性	(2) ①本評価で考慮している設備の範囲（設計基準事故対処施設（操作も含む）は考慮するが、AM 要請以前から整備しているAM策には期待しない）では、津波によって発生する「敷地及び建屋内浸水」を緩和させる有効な緩和設備がなくイベントツリーを展開できないため、緩和設備の機能及び系統数に関する成功基準は設定していない。	(2) ①本評価で考慮している設備の範囲（設計基準事故対処施設（操作も含む）は考慮するが、AM 策には期待しない）では、津波によって発生する「敷地及び建屋内浸水」を緩和させる有効な緩和設備がなくイベントツリーを展開できないため、緩和設備の機能及び系統数に関する成功基準は設定していない。  (3.2.2.d. 事故シーケンス ③成功基準)	【女川】 ■記載方針の相違 ・泊3号炉はAM要請後に設置したプラントであるが、本評価ではAM策に期待しない点で女川と同等。
(3) 事故シーケンス	(3) ①イベントツリー ● イベントツリー図 ● ヘディング、事故進展及び最終状態 ● イベントツリー作成上の主要な仮定	(3) ①津波によって起因事象が誘発された場合でも、内部事象と事故進展は同等であると考えられ、当該プラントの重要な事故シーケンス確認のための内部事象 PRA の起因事象イベントツリーを使用した。なお手法も内部事象と同様である小イベントツリー/大フォールトツリー法を探用した。	(3) ①本評価では、津波高さ <b>O.P.+33.9m</b> 以下では、起因事象を引き起こす設備、津波防護施設/浸水防止設備及び起因事象を緩和する設備に影響はないことから、原子炉建屋、制御建屋及びタービン建屋への浸水状態を考慮してイベントツリーを作成し、敷地及び原子炉建屋又は制御建屋内への浸水が発生した場合は複数の安全機能が喪失し、炉心損傷に至ると想定した。	【女川】 ■建屋名称の相違 ・制御建屋 ⇄ 原子炉補助建屋 (以下、相違理由説明を省略)  (3.2.2.d. 事故シーケンス ④事故シーケンス)
(4) システム信頼性	①評価対象としたシステムとその説明 ● 評価対象システム一覧 ● 統系図、必要とするサポート系、試験、システム信頼性評価上の主要な仮定 ● B及びCクラス機器の取り扱い ②機器損傷に関する機器間の相関の取扱い ③システム信頼性評価結果 ● 起因事象ごとのシステム信頼性評価結果 ● 主要なミニマルカットセット(FTを用いた場合) ④システム信頼性評価を実施せずに設定した非信頼度とその根拠	(4) ①内部事象評価でまとめた情報の活用や、津波による機器ごとの損傷モードによるプラントへの影響を整理して作成した建屋・機器リストを使って対象範囲を明確にした。各系統の情報や依存性については内部事象と同等である。  ②今回の評価では建屋内に浸水すると一樣に水が広がり、当該フロアの機器は全て機能喪失するとして評価した。  ③システム信頼性解析の結果について、起因事象ごとのシステム信頼性評価結果を算出した。また、主要なミニマルカットセットの評価を実施した。  ④津波により損傷した機器の復旧に期待しないため、原子炉補機冷却機能が喪失した場合は封水注入及びRCPサーマルバリアによる冷却機能が喪失することから、原子炉補機冷却機能喪失のRCPシールLOCAヘディングの失敗確率を1.0とした。	(4) ①、②、③、④ 本評価では起因事象「敷地及び建屋内浸水」の緩和は期待しないため、注水や除熱に係る緩和設備のシステム信頼性評価は実施していない。	【女川】 ■評価方針の相違 ・泊は同一高さに設置している建屋は同時に浸水するものとして保守的に評価しているため、浸水による影響が激しくなる原子炉建屋及び原子炉補助建屋に着目してイベントツリーを作成している。

追記【津波PRAの最終評価結果を反映】

泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について  
別紙16 「PRAの説明における参考事項(平成25年9月原子力規制庁)」への泊発電所3号炉の対応状況

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

「PRAの説明における参考事項」の記載内容	大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
(5) 人的過誤		(5)	(5)	
①評価対象とした人的過誤及び評価結果	(5) ①現場操作については、運転員のアクセス性を考慮して、各フロア内に海水が浸水しない津波高さの場合は期待し、各フロア内に海水が浸水する津波高さの場合は期待しない。	①津波発生後の高ストレスによる人的過誤が考えられるが、本評価では起因事象「敷地及び建屋内浸水」の緩和は期待しないため、人的過誤を考慮していない。	①津波発生後の高ストレスによる人的過誤が考えられるが、本評価では起因事象「敷地及び建屋内浸水」の緩和は期待しないため、人的過誤を考慮していない。 (3.2.2.d. 事故シーケンス ⑥人的過誤)	
● 人的過誤の評価に用いた手法				
● 人的過誤の分類、人的操作に対する許容時間、過誤回復の取扱い				
● 人的過誤評価に用いた主要な仮定				
● 人的過誤評価結果				
(6) 炉心損傷頻度	(6)	(6)	(6)	
①炉心損傷頻度の算出に用いた方法	①フォールトツリー結合法を用いて評価を行った。計算コード RiskSpectrum を用い、炉心損傷頻度を量量化した。	①イベントツリーを用いて、炉心損傷頻度を評価した。	①イベントツリーを用いて、炉心損傷頻度を評価した。	
②炉心損傷頻度結果	②前述のとおりの手順でモデルを量量化し、起因事象別の炉心損傷頻度、津波高さと炉心損傷頻度の関係とその分析を実施し、重要な事故シーケンスを確認した。なお、津波レベル1.5PRA は今回実施しないため、プラント損傷状態別の分析評価は行っていない。	②炉心損傷頻度を $7.3 \times 10^{-7}$ (／炉年) と評価した。防潮堤を越える津波による浸水が、原子炉建屋又は制御建屋のカーブ高さを越えた場合、建屋内への津波の流入により、大量浸水が発生し、複数の安全機能が喪失して炉心損傷に至る「複数の安全機能喪失」が 100%となる。	②炉心損傷頻度を $2.9 \times 10^{-7}$ (／炉年) と評価した。防潮堤を越える津波による浸水が、原子炉建屋又は原子炉補助建屋のカーブ高さを越えた場合、建屋内への津波の流入により、大量浸水が発生し、複数の安全機能が喪失して炉心損傷に至る「複数の安全機能喪失」が 100%となる。 【女川】 ■個別評価による相違	
● 全炉心損傷頻度及び主要な事故シーケンスと分析				
● 起因事象別の炉心損傷頻度及び主要な事故シーケンスと分析				
● プラント損傷状態別炉心損傷頻度及び主要な事故シーケンスと分析				
● 津波高さと炉心損傷頻度の関係とその分析				
③重要度解析、不確実さ解析及び感度解析	③PRA 結果の活用目的である事故シーケンスグループ等の選定に係る炉心損傷頻度の相対的な割合の確認に際しての参考として不確実さ解析を実施した。また、炉心損傷に至る支配的な要因を確認する観点で重要度解析を実施した。さらに、炉心損傷に至る支配的な要因に対して、炉心損傷頻度への感度を確認するために、感度解析を実施した。	③本津波 PRA では、建屋内浸水が発生する津波高さ以上 ( $0.P.+33.9m$ ～) では緩和手段が無くなり必ず炉心損傷に至るため、重要度解析を実施しても有益な結果が得られない。このため、内部事象 PRA や地震 PRA のように重要度評価は実施していない。	③本津波 PRA では、建屋内浸水が発生する津波高さ以上 ( $T.P.16.5m$ ～) では緩和手段が無くなり必ず炉心損傷に至るため、重要度解析を実施しても有益な結果が得られない。このため、内部事象 PRA や地震 PRA のように重要度評価は実施していない。	
		本評価では、津波高さ $0.P.+33.9m$ を越える津波では、敷地内浸水深が原子炉建屋又は制御建屋のカーブ高さを越えた場合に建屋内への大量浸水が発生して必ず炉心損傷に至る。したがって、全炉心損傷頻度の平均値及び不確実さ幅は $0.P.+33.9m$ における確率論的津波ハザードの平均値及び不確実さ幅と等しくなる。	本評価では、津波高さ $T.P.16.5m$ を越える津波では、敷地内浸水深が原子炉建屋又は原子炉補助建屋のカーブ高さを越えた場合に建屋内への大量浸水が発生して必ず炉心損傷に至る。したがって、全炉心損傷頻度の平均値及び不確実さ幅は $T.P.16.5m$ における確率論的津波ハザードの平均値及び不確実さ幅と等しくなる。	
		感度解析として、引き波発生後において、炉心損傷に至るシナリオを検討した。引き波では、押し波と異なり、起因事象発生後も緩和策に期待できることから、押し波に比べ炉心損傷頻度は小さい値となった。	追而 【津波ハザード確定後の感度解析結果を反映】	
			(3.2.2.d. 事故シーケンス ⑦炉心損傷頻度)	
				追而 【津波 PRA の最終評価結果を反映】

泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について  
別紙16「PRAの説明における参考事項(平成25年9月原子力規制庁)」への泊発電所3号炉の対応状況

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

「PRAの説明における参考事項」の記載内容	大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
4. レベル1.5PRA				
4. 1 内部事象				
a. プラントの構成、特性				
①対象プラントに関する説明 機器・系統配置、形状・設備容量、事故への対処操作、燃料及びデブリの移動経路などを整理した。 燃料及びデブリの移動経路など	①対象プラントの機器・系統配置、形状・設備容量、事故への対処操作、燃料及びデブリの移動経路などを整理した。	①対象プラントの機器・系統配置、形状・設備容量、事故への対処操作、燃料及びデブリの移動経路などを整理した。 (4.1.1.a. プラントの構成・特性)	①対象プラントの機器・系統配置、形状・設備容量、事故への対処操作、燃料及びデブリの移動経路などを整理した。 (4.1.1.a. プラントの構成・特性)	
b. プラント損傷状態の分類及び発生頻度				
①プラント損傷状態の一覧 ● プラント損傷状態の考え方 ● プラント損傷状態の一覧 ● レベル1の事故シーケンスに対するプラント損傷状態の分類結果 ● レベル1結果との関係（レベル1の最終状態と分類が異なる場合） ②プラント損傷状態ごとの発生頻度 プラント損傷状態ごとの発生頻度	①レベル1PRAで得られた炉心損傷状態に至るすべての事故シーケンスを事故の進展及び事故の緩和操作の類似性からプラント損傷状態に分類し、一覧表で示した。なお、レベル1.5PRAでは炉心損傷時の格納容器内事故進展を把握する必要があるため、レベル1PRAのイベントツリーの炉心損傷シーケンスを一部細分化した。 ②プラント損傷状態ごとの発生頻度を表に整理した。	①内部事象運転時レベル1PRAで得られた炉心損傷状態に至る全ての事故シーケンスを、事故の進展及び事故の緩和操作の類似性からプラント損傷状態に分類することにより、プラント損傷状態の考え方を示し、プラント損傷状態の一覧、内部事象運転時レベル1の事故シーケンスに対するプラント損傷状態の分類結果、及び内部事象運転時レベル1結果との関係を整理した。 (4.1.1.b. ①プラント損傷頻度の一覧) ②プラント損傷状態ごとの発生頻度を表に整理した。 (4.1.1.b. ②プラント損傷状態ごとの発生頻度)	①内部事象運転時レベル1PRAで得られた炉心損傷状態に至る全ての事故シーケンスを事故の進展及び事故の緩和操作の類似性からプラント損傷状態に分類し、一覧表で示した。なお、レベル1.5PRAでは炉心損傷時の格納容器内事故進展を把握する必要があるため、レベル1PRAのイベントツリーの炉心損傷シーケンスを一部細分化した。 (4.1.1.b. ①プラント損傷頻度の一覧) ②プラント損傷状態ごとの発生頻度を表に整理した。 (4.1.1.b. ②プラント損傷状態ごとの発生頻度)	【女川】 ■記載表現の相違 【女川】 ■評価方針の相違 ・女川はレベル1PRAのイベントツリー構築時に原子炉格納容器内での事故進展を把握するための分岐を設け、レベル1.5PRA用のイベントツリーを基にレベル1.5PRA用イベントツリーを構築している。泊はレベル1PRAで得られたイベントツリーを基にレベル1.5PRA用イベントツリーを構築している。（大飯と同様）
c. 格納容器破損モード				
①格納容器破損モードの一覧と各破損モードに関する説明 ● 格納容器破損モード分類の考え方 ● 格納容器破損モードの一覧 ● 各破損モードに関する説明	①格納容器破損に至る負荷、格納容器構造健全性、格納容器バイパス事象及び格納容器隔離失敗事象について分析し、格納容器破損モードを設定し、概要とともに示した。	①事故進展図により、事象進展フェーズと格納容器への負荷の種類による分類の考え方を示し、その分類に応じた格納容器破損モードの一覧において各破損モードに関する説明をまとめた。 (4.1.1.c. 格納容器破損モード)	①事故進展図により、事象進展フェーズと格納容器への負荷の種類による分類の考え方を示し、その分類に応じた格納容器破損モードの一覧において各破損モードに関する説明をまとめた。 (4.1.1.c. 格納容器破損モード)	
d. 事故シーケンス				
①格納容器イベントツリー構築の考え方及びプロセス ● 格納容器イベントツリー構築の考え方 ● 格納容器イベントツリー構築のプロセスの説明  ②格納容器イベントツリー	①②PDSごとに、原子炉停止系、炉心冷却系、崩壊熱除去系、工学的安全設備などの緩和設備の動作状態及び物理化学現象の発生状態から格納容器イベントツリーへのヘディングを選定し、ヘディング間の従属性を分析して格納容器イベントツリーを構築し、格納容器イベントツリーの最終状態として格納容器破損モードの割り付け結果と併せて示した。	①格納容器イベントツリー構築の考え方、格納容器イベントツリー構築のプロセスを説明した。 (4.1.1.d. ①格納容器イベントツリー構築の考え方及びプロセス) ②事故進展における物理化学現象及び事故の緩和手段の分析結果に基づき抽出したヘディングに対して、事象進展順等のヘディング間の相関を考慮してヘディング順序を決定することにより、格納容器イベントツリーを構築すると共に、格納容器イベントツリー終状態に、健全な場合も含めて格納容器破損モードを割り付けた。 (4.1.1.d. ②格納容器イベントツリー)	①PDSごとに、原子炉停止系、炉心冷却系、崩壊熱除去系、工学的安全設備等の緩和設備の動作状態及び物理化学現象の発生状態を分析して、格納容器イベントツリーを構築した。 (4.1.1.d. ①格納容器イベントツリー構築の考え方及びプロセス) ②事故進展における物理化学現象及び事故の緩和手段の分析結果に基づき抽出したヘディングに対して、事象進展順等のヘディング間の相関を考慮してヘディング順序を決定することにより、格納容器イベントツリーを構築すると共に、格納容器イベントツリー終状態に、健全な場合も含めて格納容器破損モードを割り付けた。 (4.1.1.d. ②格納容器イベントツリー)	【女川】 ■記載方針の相違 ・記載充実のため（大飯と同様）

泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について  
別紙16「PRAの説明における参考事項(平成25年9月原子力規制庁)」への泊発電所3号炉の対応状況

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

「PRAの説明における参考事項」の記載内容	大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
e. 事故進展解析	<p>①解析対象とした事故シーケンスと対象事故シーケンス</p> <p>②事故シーケンスの解析結果</p>	<p>①CDFが大きく、そのPDSを代表し、かつ安全設備および事故時緩和操作の時間余裕が厳しくなる事故進展の相対的に速いシーケンスを考慮して解析対象選定を行った。解析対象事故シーケンスについて解析結果とともにシーケンスの概要を示した。</p> <p>②解析対象とした事故シーケンスに対し、事故進展解析を実施した結果を整理した。</p>	<p>①操作の時間余裕の厳しさ又は緩和系が機能しない状態で格納容器が過圧又は過温破損に至るシーケンスを選定することを考え方として示し、事故進展解析の解析条件、解析対象とした事故シーケンス一覧、対象事故シーケンスの説明について整理した。（4.1.1.e. 事故進展解析）</p> <p>②事故進展解析を実施した結果得られる主要事象発生時刻や時間余裕の検討結果を整理した。 (4.1.1.e. ②事故シーケンスの解析結果)</p>	<p>①CDFが大きく、そのPDSを代表し、かつ安全設備及び事故時緩和操作の時間余裕が厳しくなる事故進展の相対的に速いシーケンスを考慮して解析対象選定を行った。事故進展解析の解析条件、解析対象とした事故シーケンス一覧、対象事故シーケンスの説明について整理した。（4.1.1.e. 事故進展解析）</p> <p>②事故進展解析を実施した結果得られる主要事象発生時刻やシビアアクシデント現象による原子炉格納容器負荷の評価結果を整理した。 (4.1.1.e. ②事故シーケンスの解析結果)</p>
f. 格納容器破損頻度	<p>①格納容器破損頻度の評価方法</p> <p>②格納容器イベントツリーへディングの分岐確率</p> <p>③格納容器破損頻度の評価結果</p>	<p>①格納容器イベントツリーの分岐に分岐確率又はフォールトツリーを入力し、プラント損傷状態ごとに格納容器破損頻度を算出した。計算コードには RiskSpectrum®PSA を用いた。 (4.1.1.f. ①格納容器破損頻度の評価方法)</p> <p>②格納容器イベントツリーの各へディングに対して、NUREG/CR-4700 の手法を参考に、シビアアクシデント現象に関する知見や事故進展解析結果および工学的判断から定量的な分岐確率を算出した。</p> <p>③評価結果を整理し、全格納容器破損頻度、起因事象別格納容器破損頻度、プラント損傷状態別格納容器破損頻度、破損モード別格納容器破損頻度を整理し、主要な事故シーケンスの分析を実施した。</p>	<p>①格納容器イベントツリーの分岐に分岐確率値を入力し、プラント損傷状態ごとに格納容器破損頻度を算出した。計算コードには CVET を用いた。 (4.1.1.f. ①格納容器破損頻度の評価方法)</p> <p>②格納容器イベントツリーの各へディングに対して、NUREG/CR-4700 の手法を参考に、シビアアクシデント現象に関する知見や事故進展解析結果及び工学的判断から定量的な分岐確率を算出した。 (4.1.1.f. ②格納容器イベントツリーへディングの分岐確率)</p> <p>③評価結果を整理し、全格納容器破損頻度、起因事象別格納容器破損頻度、プラント損傷状態別格納容器破損頻度、破損モード別格納容器破損頻度を整理し、主要な事故シーケンスの分析を実施した。 (4.1.1.f. ③格納容器破損頻度の評価結果)</p>	<p>【女川】 ■評価方針の相違</p> <p>・泊は運転員による緩和系の復旧操作をレベル1.5PRAで考慮していないため、事故進展解析から緩和操作の時間余裕の検討は実施していないが、格納容器内水素濃度や1次冷却材圧力等、格納容器内イベントツリーの分岐確率の算出に必要なパラメータを評価している。（大飯に記載はないが、同様の評価方針となっている）</p> <p>【女川】 ■評価方針の相違</p> <p>・泊は運転員による緩和系の復旧操作をレベル1.5PRAで考慮していないため、事故進展解析から緩和操作の時間余裕の検討は実施していないが、格納容器内水素濃度や1次冷却材圧力等、格納容器内イベントツリーの分岐確率の算出に必要なパラメータを評価している。（大飯に記載はないが、同様の評価方針となっている）</p> <p>【女川】 ■記載表現の相違</p> <p>・記載の適正化（大飯と同様）</p>

## 泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について  
 別紙16 「PRAの説明における参考事項(平成25年9月原子力規制庁)」への泊発電所3号炉の対応状況

「PRAの説明における参考事項」の記載内容	大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
g. 不確実さ解析及び感度解析				
①不確実さ解析結果	①②PRA結果の活用目的である事故シーケンスグループ等の選定に係る格納容器破損頻度の相対的な割合の確認に際しての参考として不確実さ解析を実施した。 また、対象項目として評価結果に影響を及ぼす可能性のある仮定、データ等を選定して感度解析を実施した。	①不確実さ解析を実施することにより、格納容器破損頻度の点推定値が、不確実さ解析による平均値と大きく相違しないことを確認した。 (4.1.1.g. ①不確実さ解析) ②外部電源復旧に関する感度解析を実施することにより、格納容器破損モード別格納容器破損割合、格納容器破損モード別格納容器破損頻度に大きな影響は無いことを確認した。 (4.1.1.g. ②感度解析)	①不確実さ解析を実施することにより、格納容器破損頻度の点推定値が、不確実さ解析による平均値と大きく相違しないことを確認した。 (4.1.1.g. ①不確実さ解析) ②溶融物分散放出の分岐確率に関する感度解析を実施することにより、格納容器破損モード別格納容器破損割合、格納容器破損モード別格納容器破損頻度に大きな影響は無いことを確認した。 (4.1.1.g. ②感度解析)	【女川】 ■評価方針の相違 ・着目するパラメータは異なるが、格納容器破損頻度に影響を与える可能性のある条件に着目した感度解析を実施しており、それぞれ影響が小さいことを確認している。 (大飯に記載はないが、泊と同様の結果となっている)

泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

第37条 付録1 事故シケンスグループ及び重要事故シケンス等の選定について  
別紙16「PRAの説明における参考事項(平成25年9月原子力規制庁)」への泊発電所3号炉の対応状況

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

「PRAの説明における参考事項」の記載内容	大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
4. 2 外部事象（地震） a. プラントの構成、特性 ①対象プラントに関する説明 ● 機器・系統配置、形状・設備容量、事故への対処操作、燃料及びデブリの移動経路など ● ウォークダウン実施の有無とウォークダウンの結果 ②地震により格納容器破損に至る事故シナリオ ● 格納容器損傷及びその波及的影響のシナリオの分析・選定とスクーリーニングの説明 ● 事故シナリオと起因事象の分析結果 ● 建物・機器リストの作成結果	<p>地震レベル1.5PRAについては、以下の理由により実施は困難な段階である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・原子力学会標準に一部手順が示されているのみであり、標準的なPRA手法が確立されていない。</li> <li>・原子炉格納容器や原子炉建屋等が地震動によって直接損傷することが考えられるが、これらの損傷評価に関して、現時点では損傷箇所、損傷モード等を詳細に評価する知見がないことから、地震レベル1.5PRAの手法確立に向けた検討を実施中である。</li> <li>・原子炉格納容器や原子炉建屋等が地震動によって直接損傷することが考えられるが、これらの損傷評価に関して、現時点では損傷箇所、損傷モード等を詳細に評価する知見がないことから、地震レベル1.5PRAの実施に向けた検討を始めたところである。</li> </ul> <p>なお、炉心損傷後の格納容器内の物理化学現象の進展は、地震及び津波等の外部事象起因であっても内部事象と同等と考えられ、格納容器破損モードは内部事象と同等と考えている。</p>	<p>地震レベル1.5PRAについては、以下の理由により実施は困難な段階である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学会標準に一部手順が示されているのみであり、標準的なPRA手法が確立されていない。</li> <li>・格納容器や原子炉建屋等が地震動によって直接損傷することが考えられるが、これらの損傷評価に関して、現時点では損傷箇所、損傷モード等を詳細に評価する知見がないことから、地震レベル1.5PRAの実施に向けた検討を始めたところである。</li> </ul> <p>なお、炉心損傷後の格納容器内の物理化学現象の進展は、地震及び津波等の外部事象起因であっても内部事象と同等と考えられ、格納容器破損モードは内部事象と同等と考えている。</p>	<p>地震レベル1.5PRAについては、以下の理由により実施は困難な段階である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学会標準に一部手順が示されているのみであり、標準的なPRA手法が確立されていない。</li> <li>・原子炉格納容器や原子炉建屋等が地震動によって直接損傷することが考えられるが、これらの損傷評価に関して、現時点では損傷箇所、損傷モード等を詳細に評価する知見がないことから、地震レベル1.5PRAの実施に向けた検討を始めたところである。</li> </ul> <p>なお、炉心損傷後の格納容器内の物理化学現象の進展は、地震及び津波等の外部事象起因であっても内部事象と同等と考えられ、格納容器破損モードは内部事象と同等と考えている。</p>	<p>【女川】 ■設備名称の相違 ・格納容器⇒原子炉格納容器 (以下、相違理由説明を省略)</p> <p>【女川】 ■記載表現の相違 (以下、相違理由説明を省略)</p>
b. 地震ハザード ①地震ハザード評価の方法 ● 新規制基準（地震）にて策定された基準地震動の超過確率の算出に用いた地震ハザード評価に用いた手法 ②地震ハザード評価に当たっての主要な仮定 ● 震源モデル、地震動伝播モデルの設定と各モデルの設定根拠及び不確実さ要因の分析結果の説明 ● 不確実さ要因の分析結果に基づいて作成したロジックツリーの明示とロジックツリーの各分岐において設定した重みの根拠の説明 ③地震ハザード評価結果 ● 作成したロジックツリーを用いた地震ハザード曲線群の算出と、地震ハザード曲線群から求めた信頼度別ハザード曲線や平均ハザード曲線の説明 ● 地震ハザード評価結果に基づくフラジリティ評価用地震動の作成方法の説明	同上	同上	同上	
c. 建屋・機器のフラジリティ ①評価対象と損傷モードの設定 ②フラジリティの評価方法の選択 ③フラジリティ評価上の主要な仮定（不確実さの設定、応答係数等） ④フラジリティ評価における耐力情報 ● 評価部位、損傷モード及びその耐力値と確率分布 ● 評価部位の材料と温度【構造損傷の場合】 ● 機能限界値の諸元【機能損傷の場合】 ⑤フラジリティ評価における応答情報 ● 評価部位、損傷モード及びその応答値と確率分布 ● 基準地震動による地震力で発生する評価部位の応答とその他の荷重条件による評価部位の応答の内訳【構造損傷の場合】 ● 基準地震動による地震力で発生する評価部位の応答【機能損傷の場合】 ⑥建物・機器のフラジリティ評価結果	同上	同上	同上	

泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について  
別紙16「PRAの説明における参考事項(平成25年9月原子力規制庁)」への泊発電所3号炉の対応状況

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

「PRAの説明における参考事項」の記載内容	大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
d. プラント損傷状態の分類及び発生頻度 ①プラント損傷状態の一覧 ● プラント損傷状態の考え方 ● プラント損傷状態の一覧 ● レベル1の事故シーケンスに対するプラント損傷状態の分類結果 ● レベル1結果との関係（レベル1の最終状態と分類が異なる場合） ②プラント損傷状態ごとの発生頻度	同上	<p>地震レベル 1.5PRA については、以下の理由により実施は困難な段階である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学会標準に一部手順が示されているのみであり、標準的なPRA手法が確立されていない。</li> <li>・格納容器や原子炉建屋等が地震動によって直接損傷することが考えられるが、これらの損傷評価に関して、現時点では損傷箇所、損傷モード等を詳細に評価する知見がないことから、地震レベル 1.5PRA の実施に向けた検討を始めたところである。</li> </ul> <p>なお、炉心損傷後の格納容器内の物理化学現象の進展は、地震なお、炉心損傷後の格納容器内の物理化学現象の進展は、地震、及び津波等の外部事象起因であっても内部事象と同等と考えられ、格納容器破損モードは内部事象と同等と考えられている。</p>	<p>地震レベル 1.5PRA については、以下の理由により実施は困難な段階である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学会標準に一部手順が示されているのみであり、標準的なPRA手法が確立されていない。</li> <li>・原子炉格納容器や原子炉建屋等が地震動によって直接損傷することが考えられるが、これらの損傷評価に関して、現時点では損傷箇所、損傷モード等を詳細に評価する知見がないことから、地震レベル 1.5PRA の実施に向けた検討を始めたところである。</li> </ul>	<p>【大飯】 ■記載方針の相違 ・女川実績の反映・泊は前ページと同様の記載を再掲しているが、大飯は「同上」と表記しております、説明内容に相違はない。 (以下、相違理由説明を省略)</p>
e. 格納容器破損モード ①格納容器破損モードの一覧と各破損モードに関する説明 ● 格納容器破損モード分類の考え方 ● 格納容器破損モードの一覧 ● 各破損モードに関する説明	同上	同上	同上	
f. 事故シーケンス ①格納容器イベントツリー構築の考え方及びプロセス ● 格納容器イベントツリー構築の考え方 ● 格納容器イベントツリー構築のプロセスの説明 ②格納容器イベントツリー ● 格納容器イベントツリーを構築するに当たって検討した、重要な物理化学現象、対処設備の作動・不作動（レベル1との整合性を含む）、運転員操作、ヘディング間の従属性 ● 格納容器イベントツリーの最終状態への健全な場合も含めた格納容器破損モードの割り付け	同上	同上	同上	
g. 事故進展解析 ①解析対象とした事故シーケンスと対象事故シーケンスの説明 ● 事故シーケンス選定の考え方 ● 選定した事故シーケンスと説明 ● 事故進展解析の解析条件 ● 有効性評価の対象シーケンスとして選定した場合はその選定理由 ②事故シーケンスの解析結果	同上	同上	同上	
h. 格納容器破損頻度 ①格納容器破損頻度の評価方法 ②格納容器イベントツリーへディングの分岐確率 ● 分岐確率の算出方法 ● 使用した分岐確率 ③格納容器破損頻度の評価結果 ● 全格納容器破損頻度及び主要事故シーケンスと分析 ● 起因事象別格納容器破損頻度及び主要事故シーケンスと分析 ● 破損モード別格納容器破損頻度及び主要事故シーケンスと分析	同上	同上	同上	

## 泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について  
 別紙16 「PRAの説明における参考事項(平成25年9月原子力規制庁)」への泊発電所3号炉の対応状況

「PRAの説明における参考事項」の記載内容	大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
i. 不確実さ解析及び感度解析 ①不確実解析結果 ②感度解析結果	同上	<p>地震レベル 1.5PRA については、以下の理由により実施は困難な段階である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学会標準に一部手順が示されているのみであり、標準的な PRA 手法が確立されていない。</li> <li>・<b>格納容器</b>や原子炉建屋等が地震動によって直接損傷することが考えられるが、これらの損傷評価に関して、現時点では損傷箇所、損傷モード等を詳細に評価する知見がないことから、地震レベル 1.5PRA の実施に向けた検討を始めたところである。</li> </ul> <p>なお、炉心損傷後の格納容器内の物理化学現象の進展は、地震ならびに津波等の外部事象起因であっても内部事象と同等と考えられ、格納容器破損モードは内部事象と同等と考えている。</p>	<p>地震レベル 1.5PRA については、以下の理由により実施は困難な段階である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学会標準に一部手順が示されているのみであり、標準的な PRA 手法が確立されていない。</li> <li>・<b>原子炉格納容器</b>や原子炉建屋等が地震動によって直接損傷することが考えられるが、これらの損傷評価に関して、現時点では損傷箇所、損傷モード等を詳細に評価する知見がないことから、地震レベル 1.5PRA の実施に向けた検討を始めたところである。</li> </ul>	

泊発電所 3号炉 有効性評価 比較表

### 第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について 別紙16 「PRAの説明における参考事項(平成25年9月原子力規制庁)」への泊発電所3号炉の対応状況

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

「PRA の説明における参照事項」の記載内容	大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
5. その他 a. 専門家判断 ①専門家判断を用いた事項と専門家判断の結果 ②専門家判断の導出のプロセス	①評価上の仮定及び計算の妥当性について判断する際に、専門家判断を実施した。 ②関連する分野に深い知識や経験を有するものを選任し、専門家判断を実施した。	①評価上の仮定及び計算が適切かどうかを判断する場合、専門家判断を実施した。 ②関連する分野に深い知識や経験を有するものを選任し、専門家判断を実施した。	①評価上の仮定及び計算が適切かどうかを判断する場合、専門家判断を実施した。 ②関連する分野に深い知識や経験を有するものを選任し、専門家判断を実施した。	
b. ピアレビュー ①ピアレビューチーム及びメンバー構成 ● 海外の専門家も含めたメンバーであること ②ピアレビューの手順 ③ピアレビューの結果 ④ピアレビュー結果のPRAへの反映状況	①レビュー者の選定に当たっては、専門性、経験、独立性及び公正性の4つの要素を考慮して選定した。 また、今回実施したピアレビュー実施方法を含め、PRA全般を俯瞰した視点から改善事項を抽出する観点でPRAの経験豊富な海外レビューを招聘し、米国でのPRA実施状況との比較に基づく助言を得ることとした。 ②オンラインレビューを効率的に実施するために、各レビューに事前にPRAの概要資料を提出し、全体の内容把握及びオンラインレビューにおいて重点的に内容を確認する項目の抽出・整理する期間を設けた。オンラインレビューに際しては、適宜PRA実施者と質疑応答を行い、具体的な内容・課題を共有しながら進めた。 ③学会標準に適合していない又は評価手法に問題があるとされる「指摘事項」は0件であり、評価手法において技術的な問題が無いことが確認された。また、システム解析及び文書化に関して「良好事例」が挙げられた。	①レビュー者の選定に当たっては、専門性、経験、独立性及び公正性の4つの要素を考慮して選定している。 ●今回実施したレビュー実施方法を含め、PRA全般を俯瞰した視点から改善事項を抽出する観点でPRAの経験豊富な海外レビューを招聘し、米国でのPRA実施状況との比較に基づく助言を得ることとした。 ②オンラインレビューを効率的・効果的に実施するために、各レビューに事前にPRAの概要資料を提出し、全体の内容把握及びオンラインレビューにおいて重点的に内容を確認する項目の抽出・整理する期間を設けた。オンラインレビューに際しては、適宜PRA実施者と質疑応答を行い、具体的な内容・課題を共有しながら進めた。 ③学会標準への不適合や評価手法に問題があるとされる「指摘事項」は0件であり、今回実施したPRAの評価結果に影響を及ぼすような技術的な問題点がないことが確認された。	①レビュー者の選定に当たっては、専門性、経験、独立性及び公正性の4つの要素を考慮して選定した。 ●今回実施したレビュー実施方法を含め、PRA全般を俯瞰した視点から改善事項を抽出する観点でPRAの経験豊富な海外レビューを招聘し、米国でのPRA実施状況との比較に基づく助言を得ることとした。 ②オンラインレビューを効率的・効果的に実施するために、各レビューに事前にPRAの概要資料を提出し、全体の内容把握及びオンラインレビューにおいて重点的に内容を確認する項目の抽出・整理する期間を設けた。オンラインレビューに際しては、適宜PRA実施者と質疑応答を行い、具体的な内容・課題を共有しながら進めた。 ③学会標準への不適合や評価手法に問題があるとされる「指摘事項」は0件であり、今回実施したPRAの評価結果に影響を及ぼすような技術的な問題点がないことが確認された。また、システム解析及び文書化に関して「良好事例」が挙げられた。	【女川】 ■記載方針の相違 ・記載充実のため（大飯と同様） 【女川】 ■記載方針の相違 ・記載充実のため（大飯と同様） 【女川】 ■個別評価による相違 ・推奨事項の件数
c. 品質保証 ①PRAを実施するに当たって行った品質保証活動 ● PRAの実施体制 ● 更新、記録管理体制	①PRAの実施に当たっては、PRAを含む関連分野に深い知識、経験を有するものを選定した。 また、解析をメーカーに委託する場合は社内標準に基づき適切に実施している。 また、文書化、記録等の管理体制及び管理方法についても社内標準に従い適切に行っている。	①品質保証活動に基づく社内基準に従ってPRAを実施した。 ●実施に当たってはPRAを含む関連分野に深い知識、経験を有する者を選定した。 また、解析をメーカー委託する場合は社内基準に基づき適切に実施している。 ●文書化、記録等の管理体制及び管理方法は社内基準に従って適切に行っている。	①品質保証活動に基づく社内基準に従ってPRAを実施した。 ●実施に当たってはPRAを含む関連分野に深い知識、経験を有する者を選定した。 また、解析をメーカー委託する場合は社内基準に基づき適切に実施している。 ●文書化、記録等の管理体制及び管理方法は社内基準に従って適切に行っている。	

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について

別添 3. レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震PRA

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<b>比較結果等をとりまとめた資料</b>			
<p><b>1. 先行審査実績を踏まえた泊3号炉まとめ資料の変更状況(2017年3月以降)</b></p> <p>1-1) 設計方針・運用・体制などを変更し、まとめ資料を修正した箇所と理由</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>a. 大飯3／4号炉まとめ資料と比較した結果、変更したもの：なし</li> <li>b. 女川2号炉まとめ資料と比較した結果、変更したもの：なし</li> <li>c. 他社審査会合の指摘事項等を確認した結果、変更したもの：なし</li> <li>d. 当社が自主的に変更したもの：なし</li> </ul> <p>1-2) 設計方針・運用・体制を変更するものではないが、まとめ資料の記載の充実を行った箇所と理由</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>b. 女川2号炉まとめ資料と比較した結果、変更したもの：下記5件           <ul style="list-style-type: none"> <li>・地震PRAの特徴の記載の充実化【比較表p2-3】</li> <li>・地震PRAの前提条件の記載の充実化【比較表p4-5】</li> <li>・参考文献の記載の充実化【比較表p10, 11, 56】</li> <li>・機器フラジリティ評価の説明の記載の充実化【比較表p18】</li> <li>・機器フラジリティ評価における係数の説明の記載の充実化【比較表p29-30】</li> </ul> </li> <li>c. 他社審査会合の指摘事項等を確認した結果、変更したもの：なし</li> <li>d. 当社が自主的に変更したもの：下記5件。           <ul style="list-style-type: none"> <li>・確率論的地震ハザードを令和5年11月時点の評価に更新（2023年11月17日 第1204回審査会合）【比較表p8-11】 本評価では、令和5年11月時点の確率論的地震ハザードに基づき評価を行っている。</li> <li>・建屋及び屋外重要土木構造物フラジリティの評価手法の変更【比較表p11-17】</li> <li>・建屋、屋外重要土木構造物及び機器フラジリティを最新のデータに更新【比較表p11-56】</li> <li>・定量化手法を大イベントツリー／小フォールトツリー法から小イベントツリー／大フォールトツリー法に変更【比較表p62-65】</li> <li>・再評価に伴い定量結果を更新【比較表p66-72】</li> </ul> </li> </ul>			

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について  
別添 3. レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震PRA

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
------------	-------------	---------	------

## 2. まとめ資料との比較結果の概要

- ・比較の結果、地震レベル1PRAの評価プロセスについては、女川2号炉及び大飯3／4号炉と同様であることを確認した。本比較表については女川2号炉を比較対象としており、女川が実施していない屋外重要土木構造物のフジリティ評価の部分については、大飯3／4号炉を比較対象として選定している。
- ・地震レベル1PRAの結果、抽出された事故シーケンスは大飯3／4号炉と同様であった。
- ・起因事象別炉心損傷頻度については、大飯3／4号炉と同様に外部電源喪失が全炉心損傷頻度に対して寄与割合が高くなる傾向となった。その他の起因事象については、個別のフジリティ評価結果の相違により、大飯3／4号炉は2次冷却系の破断の寄与割合が高く、泊3号炉はLOCA事象の寄与割合が高い傾向となっている（高浜及び美浜と同様）。
- ・女川2号炉及び大飯発電所3／4号炉との主要な相違点について、以下に取り纏めた。

項目	詳細項目	大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
3.2.1.a ①(5)	評価地震動範囲	地震PRAの評価地震動範囲を <u>0.2G～1.5G</u> としている。	地震PRAの評価地震動範囲を <u>0.0G～3.0G</u> としている。	地震PRAの評価地震動範囲を <u>0.2G～1.5G</u> としている。	<p><b>【女川】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・泊は0.2～0.4Gにおいてランダム故障が支配的であり、0.2G以下の地震加速度においてはさらにランダムの影響が強くなると考えられ内部事象PRAの評価に包含されるため、泊は評価地震動の下限を0.2Gとしている。</li> <li>・泊は評価地震動の上限を基準地震動の最大加速の2倍程度の1.5Gとしており、1.5Gの年超過確率が<u><math>3.7 \times 10^{-7}</math></u>程度であり仮に1.5G以上の評価を実施しても、地震特有の事故シーケンスの炉心損傷頻度が有意となることはない。</li> <li>・大飯についても地震PRAの評価範囲は泊と同様</li> </ul>
3.2.1.c-2	屋外重要土木構造物のフジリティ評価	土木構造物の <u>フジリティ評価</u> を実施している。	土木構造物の耐力がRSW系の機器と比較して強いため、 <u>フジリティ評価</u> を実施していない。	土木構造物の <u>フジリティ評価</u> を実施している。	<p><b>【女川】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地震による土木構造物の損傷の影響を確認するために、泊は土木構造物のフジリティ評価を実施している。（大飯と同様）</li> </ul>
3.2.1.a ②	外部電源喪失の扱い	外部電源設備が損傷していない場合も、 <u>地震PRAの対象範囲</u> としている。（学会標準における <u>PWR</u> の起因事象分類の例と同様）	プラント内の設備の中でも地震耐力が比較的弱く、機能喪失時に広範囲の安全設備に影響を及ぼす外部電源設備の損傷を前提としており、 <u>外部電源設備が損傷していない場合は、地震PRAの対象範囲外としている</u> 。（学会標準における <u>BWR</u> の起因事象分類の例と同様）	外部電源設備が損傷していない場合も、 <u>地震PRAの対象範囲</u> としている。（学会標準における <u>PWR</u> の起因事象分類の例と同様）	<p><b>【女川】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・泊においても外部電源設備の地震耐力は比較的弱く、低加速度の範囲においても地震により外部電源喪失の起因事が発生している確率は高いものの、外部電源の有無により原子炉トリップの非信頼度が異なるため、外部電源設備が健全なシナリオも取り扱っている。（大飯と同様）</li> </ul>

## 泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について

別添 3. レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震 PRA

		大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
項目	詳細項目	大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
3.2.1.d ①	地震特有の起因事象	<ul style="list-style-type: none"> <li>・格納容器バイパス</li> <li>・<u>大破断 LOCA を上回る規模の LOCA (Excess LOCA)</u></li> <li>・原子炉建屋損傷</li> <li>・原子炉格納容器損傷</li> <li>・制御建屋損傷</li> <li>・電動弁損傷による原子炉補機冷却機能喪失</li> <li>・1次系流路閉塞による2次系除熱機能喪失</li> <li>・複数の信号系損傷</li> <li>・燃料集合体及び制御棒クラスタ損傷による原子炉停止機能喪失</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>原子炉建屋損傷</u></li> <li>・<u>格納容器損傷</u></li> <li>・<u>圧力容器損傷</u></li> <li>・ECCS 容量を超える原子炉冷却材圧力バウンダリ喪失 (E-LOCA)</li> <li>・<u>格納容器バイパス</u></li> <li>・<u>制御建屋損傷</u></li> <li>・<u>計測・制御系喪失</u></li> <li>・<u>直流電源喪失</u></li> <li>・<u>交流電源・原子炉補機冷却系喪失</u></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>格納容器バイパス</u></li> <li>・<u>大破断 LOCA を上回る規模の LOCA (Excess LOCA)</u></li> <li>・<u>原子炉建屋損傷</u></li> <li>・<u>原子炉格納容器損傷</u></li> <li>・<u>原子炉補助建屋損傷</u></li> <li>・<u>電動弁損傷による原子炉補機冷却機能喪失</u></li> <li>・<u>1次系流路閉塞による2次系除熱機能喪失</u></li> <li>・<u>複数の信号系損傷</u></li> <li>・<u>燃料集合体及び制御棒クラスタ損傷による原子炉停止機能喪失</u></li> </ul>	<p><b>【女川】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・炉型の相違により抽出される起因事象が異なる。ただし、女川、泊ともに地震時特有の要因による分析を踏まえて起因事象を抽出している。なお、泊は先行のPWRと同様の起因事象となっている。（大飯と同様）</li> </ul>
3.2.1.d ③	定量化手法	<u>大イベントツリー／小フォールトツリー法</u> により定量化している	<u>小イベントツリー／大フォールトツリー法</u> により定量化している	<u>小イベントツリー／大フォールトツリー法</u> により定量化している	<p><b>【大飯】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国内の主流の定量化方法である<u>小イベントツリー／大フォールトツリー法</u>により炉心損傷頻度を算出する RiskSpectrum を用いている（高浜、美浜と同様）（女川と同様）</li> </ul>

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について

別添3. レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震PRA

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
1.2 外部事象PRA 1.2.1 地震PRA	3.2 外部事象 3.2.1 地震PRA	3.2 外部事象PRA 3.2.1 地震PRA	<p>【大飯】  <b>■付番の相違</b>        ・女川実績の反映による項目番号の相違        (以下、相違理由説明を省略)</p> <p>【女川】  <b>■記載表現の相違</b>        ・泊は「3.1 内部事象PRA」に合わせて「3.2 外部事象PRA」としている</p>
地震PRAは、一般社団法人日本原子力学会が発行した「原子力発電所の地震を起因とした確率論的安全評価に関する実施基準：2007（以下「地震PSA学会標準」という。）」を参考に評価を実施し、各実施項目については「PRAの説明における参考事項」（原子力規制庁平成25年9月）の記載事項への適合性を確認した。評価フローを第1.2.1-1図に示す。また、本評価では平成25年7月8日の原子炉設置変更許可申請時点のデータに基づく確率論的地震ハザード及びフラジリティを使用している。なお、今回の地震PRAでは、地震単独の影響のみを評価しており、地震随伴に伴う津波（重畠事象）等は対象としていない。	外部事象地震レベル1PRA（以下、「地震PRA」という。）は、一般社団法人日本原子力学会発行の「原子力発電所の地震を起因とした確率論的安全評価実施基準：2007」（以下、「地震PSA学会標準」という。）を参考に評価を実施し、各実施項目については「PRAの説明における参考事項」（原子力規制庁平成25年9月）の記載事項への適合性を確認した。評価フローを第3.2.1-1図に示す。なお、今回の地震PRAでは、地震単独の影響のみを評価しており、地震に伴う津波（重畠事象）等は対象としていない。（補足3.2.1-1）	外部事象地震レベル1PRA（以下、「地震PRA」という。）は、一般社団法人日本原子力学会発行の「原子力発電所の地震を起因とした確率論的安全評価実施基準：2007」（以下、「地震PSA学会標準」という。）を参考に評価を実施し、各実施項目については「PRAの説明における参考事項」（原子力規制庁平成25年9月）の記載事項への適合性を確認した。評価フローを第3.2.1-1図に示す。なお、今回の地震PRAでは、地震単独の影響のみを評価しており、地震に伴う津波（重畠事象）等は対象としていない。（補足3.2.1-1）	<p>【大飯】  <b>■記載表現の相違</b>        ・女川に記載統一        (以下、相違理由説明を省略)</p> <p>【大飯】  <b>■付番の相違</b>        ・女川実績の反映による図番の相違        (以下、相違理由説明を省略)</p> <p>【大飯】  <b>■記載方針の相違</b>        ・女川実績の反映        ・地震PRAに用いる確率論的地震ハザードについては「3.2.1.b 確率論的地震ハザード」に、フラジリティについては「3.2.1.c 建屋・機器フラジリティ」に説明を記載</p> <p>【女川】【大飯】  <b>■記載内容の相違</b>        ・泊は新旧の学会標準の相違に関する補足説明資料を作成している</p>
1.2.1.a. 対象プラントと事故シナリオ ①対象とするプラントの説明 (1) サイト・プラント情報の収集・分析	3.2.1.a 対象プラントと事故シナリオ ① 対象とするプラントの説明 (1) サイト・プラント関連情報の収集・分析	3.2.1.a 対象プラントと事故シナリオ ①対象とするプラントの説明 (1) サイト・プラント関連情報の収集・分析	

## 泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について

別添 3. レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震PRA

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>内部事象出力時レベル1PRAで収集した設計、運転・保守管理の情報に加え、地震PRAを実施するために、プラントの耐震設計やプラント配置の特徴等の地震固有に考慮すべき関連情報を追加で収集・分析した。収集した情報及び主な情報源を第1.2.1.a-1表に示す。</p> <p>(2) 機器・系統の配置及び形状・設備容量 主要な機器・系統の配置及び形状・設備容量は「1.1 内部事象PRA」での記載と同様である。</p> <p>(3) 地震に対する特徴 地震PRAでは耐震性の低い以下の設備には期待しない評価を行った。</p>	<p>内部事象出力時レベル1PRA（以下、「内部事象PRA」という。）で収集した設計、運転・保守管理の情報に加え、地震PRAを実施するために、プラントの耐震設計やプラント配置の特徴等の地震固有に考慮すべき関連情報を収集・分析した。収集した情報を第3.2.1.a-1表に示す。</p> <p>(2) 地震PRAにおいて考慮する緩和機能(系統)の概要 地震PRAにおいて考慮する緩和機能(系統)は「3.1.1 出力運転時PRA」での記載と同様である。</p> <p>(3) 地震に対する特徴 内部事象PRAに対する地震PRAの特徴は以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・給復水系等の耐震重要度B又はCクラスの設備は基本的には期待しない。ただし、以下に示す安全設備の使命時間内の機能維持に必要となる設備は評価対象とする。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・燃料移送系</li> <li>・軽油タンク</li> </ul> </li> <li>・格納容器バイパスを評価するため、原子炉冷却材圧力バウンダリに接続する原子炉格納容器外の配管（耐震重要度Bクラス）を評価対象とする。</li> </ul>	<p>内部事象出力時レベル1PRA（以下、「内部事象PRA」という。）で収集した設計、運転・保守管理の情報に加え、地震PRAを実施するために、プラントの耐震設計やプラント配置の特徴等の地震固有に考慮すべき関連情報を収集・分析した。収集した情報を第3.2.1.a-1表に示す。</p> <p>(2) 地震PRAにおいて考慮する緩和機能(系統)の概要 地震PRAにおいて考慮する緩和機能(系統)は「3.1.1 出力運転時PRA」での記載と同様である。</p> <p>(3) 地震に対する特徴 内部事象PRAに対する地震PRAの特徴は以下の通りである。 (補足3.2.1.a-7)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・タービンバイパス系等の耐震重要度B又はCクラスの設備は基本的には期待しない。ただし、以下に示す安全設備の使命時間内の機能維持に必要となる設備は評価対象とする。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安全補機に関わる空調系</li> <li>・空調用冷水系</li> </ul>	<p>【女川】【大飯】 ■記載内容の相違 ・泊は地震PRAにおける総合デジタルの計測制御設備の扱いに関する補足説明資料を作成している</p> <p>【女川】 ■設備の相違 ・内部事象PRAでモデル化している設備のうち、耐震性が低く地震PRAでは期待しない設備及び例外の設備を記載しており、炉型により該当する設備が異なる（大飯に記載はないが、泊と同様の評価となっている）</p> <p>【女川】 ■設備の相違 ・泊は格納容器バイパスとなるような原子炉冷却材圧力バウンダリに接続する原子炉格納容器外の耐震重要度Bクラス配管はない（大飯に記載はないが、泊と同様の評価となっている）</p> <p>【女川】 ■評価方針の相違</p>

## 泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について

別添3. レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震PRA

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<ul style="list-style-type: none"> <li>・常用電源（ただし、外部電源には期待する。）</li> <li>・主給水系</li> <li>・タービンバイパス系</li> <li>・常用系の2次冷却系の水源</li> <li>・所内空気系</li> </ul> <p>また、地震PRAでは地震加速度が増加するにつれ、安全機能や緩和機能を有する機器が複数同時に損傷することが考えられるため、地震損傷機器イベントツリーにおいて複数機器が同時に損傷する場合を考慮して評価を行った。また、階層イベントツリーでは複数の起因事象の重畠による影響を含めるように階層化処理を行った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地震時には、機器及び電源の復旧は不可能とする。</li> <li>・複数基同時被災の影響を考慮し、隣接号機からの電源融通（高圧電源融通）に期待しない。</li> <li>・事故シーケンス評価における起因事象に関しては、複数の建屋・構築物、安全機能や緩和機能を有する機器が複数同時損傷することによる様々な起因事象を合理的に処理するために、成功基準の観点からグループ化を行った上で、プラントへの影響が最も厳しい起因事象順に代表させる形で階層イベントツリーを作成している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地震時には、機器及び電源の復旧は不可能とする。</li> <li>・複数基同時被災の影響を考慮し、隣接号機からの電源融通（高圧電源融通）に期待しない。</li> <li>・事故シーケンス評価における起因事象に関しては、複数の建屋・構築物、安全機能や緩和機能を有する機器が複数同時損傷することによる様々な起因事象を合理的に処理するために、成功基準の観点からグループ化を行った上で、プラントへの影響が最も厳しい起因事象順に代表させる形で階層イベントツリーを作成している。</li> </ul>	<p>【大飯】</p> <p>■記載方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地震PRAで期待しない設備は大飯と同様であるが、泊は女川の記載に合わせて内部事象PRAで期待している設備のうち、地震PRAでは期待しない設備を記載しているため、内部事象PRAでも期待していない主給水系、常用系の2次冷却系の水源及び所内空気系は記載していない</li> </ul> <p>【女川】</p> <p>■記載方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・女川の実績反映</li> </ul>
<p>(4) プラントウォークダウン</p> <p>机上検討では確認が難しいプラント情報を取得するため、及び、検討したシナリオの妥当性確認のため、地震PRAの観点から重要な機器を対象にプラントウォークダウンを実施し、主に以下の観点について問題ないことを確認した。評価対象機器選定フローを第1.2.1.a-1図に、評価結果の例を第1.2.1.a-2図に示す。</p>	<p>(4) プラントウォークダウン</p> <p>机上検討では確認が難しいプラント情報を取得すること及び検討したシナリオの妥当性を確認することを目的として、地震PRAの観点から重要な機器を対象にプラントウォークダウンを実施し、主に以下の観点について確認した。評価対象機器選定フローを第3.2.1.a-1図に、評価結果の例を第3.2.1.a-2図に示す。（別紙3.2.1.a-1、別紙3.2.1.a-2）</p>	<p>(4) プラントウォークダウン</p> <p>机上検討では確認が難しいプラント情報を取得すること及び検討したシナリオの妥当性を確認することを目的として、地震PRAの観点から重要な機器を対象にプラントウォークダウンを実施し、主に以下の観点について確認した。評価対象機器選定フローを第3.2.1.a-1図に、評価結果の例を第3.2.1.a-2図に示す。（補足3.2.1.a-1、補足3.2.1.a-2、補足3.2.1.a-3）</p>	<p>【女川】</p> <p>■資料名称の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・別紙⇨補足</li> </ul> <p>（以下、相違理由説明を省略）</p>

## 泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について

別添 3. レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震PRA

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<ul style="list-style-type: none"> <li>・耐震安全性の確認</li> <li>・二次的影響の確認</li> <li>・必要に応じた地震後のアクセス性の確認</li> </ul> <p>プラントウォークダウンの結果、調査対象に対する耐震安全性や二次的影響等に関する問題ではなく、フラジリティ評価及びシステム評価において新たに考慮する事項はないことを確認した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・耐震安全性の確認</li> <li>・二次的影響の確認</li> </ul> <p>※点検項目については、地震PSA学会標準を参考に更に細分化して設定している。</p> <p>プラントウォークダウンの結果、調査対象に対する耐震安全性や二次的影響等に関する問題ではなく、フラジリティ評価及びシステム評価において新たに考慮する事項はないことを確認した。</p> <p>(5) 今回実施した地震PRAの前提条件等について</p> <p>今回実施した地震PRAについて、主な留意点を以下に示す。</p> <p>a. 評価の前提条件について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・評価地震動範囲は<b>0.0G～3.0G</b>（解放基盤表面上の加速度）とする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・耐震安全性の確認</li> <li>・二次的影響の確認</li> <li>・必要に応じた地震後のアクセス性の確認</li> </ul> <p>※点検項目については、地震PSA学会標準を参考に更に細分化して設定している。</p> <p>プラントウォークダウンの結果、調査対象に対する耐震安全性や二次的影響等に関する問題ではなく、フラジリティ評価及びシステム評価において新たに考慮する事項はないことを確認した。</p> <p>(5) 今回実施した地震PRAの前提条件等について</p> <p>今回実施した地震PRAについて、主な留意点を以下に示す。</p> <p>a. 評価の前提条件について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・評価地震動範囲は<b>0.2G～1.5G</b>（解放基盤表面上の加速度）とする。</li> </ul>	<p>【女川】</p> <p>■記載方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大飯はプラントウォークダウンの実施内容を補足としてまとめており、記載の充実のため、泊も同様の資料を作成している</li> </ul> <p>【女川】</p> <p>■評価方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・泊は地震後の操作を考慮する機器についてアクセス性を確認している（大飯と同様）</li> </ul> <p>【大飯】</p> <p>■記載方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・女川の実績反映</li> </ul> <p>【大飯】</p> <p>■記載方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・女川の実績反映</li> </ul> <p>【女川】</p> <p>■評価方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・泊は0.2～0.4Gにおいてランダム故障が支配的であり、0.2G以下の地震加速度においては、さらにランダム故障の影響が強くなると考えられ内部事象PRAの評価に包含されることから、0.2G以下は地震PRAの評</li> </ul>

## 泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について

別添 3. レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震PRA

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>津波及び地震随伴の火災、溢水が建屋、機器及び緩和機能に及ぼす影響は考慮せず、地震の影響のみ評価する。</p> <p>b. 地震の影響について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・冗長機器及び設備は、地震の影響により同時に損傷する（完全相関）と仮定する。</li> <li>・余震による炉心損傷への影響は考慮しない。</li> <li>・経年劣化による炉心損傷への影響は考慮しない。</li> </ul> <p>②地震により炉心損傷に至る事故シナリオと分析</p> <p>収集したプラント関連情報及びプラントウォークダウンによって得られた情報を用いて、事故シナリオを広範に分析し、事故シナリオを設定した。事故シナリオの選定に当たっては、地震起因による安全機能を有する建屋・構築物、システム及び機器（以下、「SSC」という。）の損傷が直接炉心損傷事故に繋がる事故シナリオだけでなく、安全機能への間接的影響、余震による地震動の安全機能への影響、経年変化を考慮した場合の影響を考慮した。なお、地震PRAの対象範囲は、常用系で耐震クラスの低い主給水系の機器損傷による「主給水流量喪失事象の発生以上の規模」（地震加速度0.2G以上）とし、これ以上の地震では少なくとも「主給水流量喪失」が発生するとした。</p>	<p>津波及び地震随伴の火災、溢水が建屋、機器及び緩和機能に及ぼす影響は考慮せず、地震の影響のみ評価する。</p> <p>b. 地震の影響について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・冗長機器及び設備は、地震の影響により同時に損傷する（完全相関）と仮定する。</li> <li>・余震による炉心損傷への影響は考慮しない。</li> <li>・経年劣化による炉心損傷への影響は考慮しない。</li> </ul> <p>②地震により炉心損傷に至る事故シナリオと分析</p> <p>収集したプラント関連情報及びプラントウォークダウンによって得られた情報を用いて、事故シナリオを広範に分析し、事故シナリオを設定した。事故シナリオの選定に当たっては、地震起因による安全機能を有する建屋・構築物、システム、機器（以下、「SSC」という。）の損傷が直接炉心損傷事故につながる事故シナリオだけでなく、安全機能への間接的影響、余震による地震の安全機能への影響、経年劣化を考慮した場合の影響を考慮した。</p> <p>なお、地震PRAの対象範囲は、プラント内の設備の中でも地震耐力が比較的弱く、機能喪失時に広範囲の安全設備に影響を及ぼす外部電源設備の損傷による「外部電源喪失事象の発生以上の規模」（地震加速度0.02G以上）とした。</p>	<p>価範囲とはしていない（大飯についても泊と同様）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基準地震動の最大加速度の2倍程度の1.5Gを評価範囲の上限としているが、1.5Gにおける年超過確率は <math>3.7 \times 10^{-7}</math> 程度であり、仮に1.5G以上の評価を実施しても、地震特有の事故シーケンスの炉心損傷頻度が有意となることはない（大飯についても泊と同様）</li> </ul> <p>【女川】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■記載表現の相違</li> <li>・あたっては⇒当たっては</li> </ul> <p>【女川】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■記載表現の相違</li> <li>・繋がる⇒つながる</li> <li>（以下、相違理由説明を省略）</li> </ul> <p>【女川】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■評価方針の相違</li> <li>・泊においても外部電源設備の地震耐力は比較的弱く、低加速度の範囲においても地震により外部電源喪失の起因事象が発生している確率は高いものの、外部電源の有無により原子</li> </ul>

## 泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について

別添 3. レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震 PRA

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>選定した事故シナリオのうち、安全機能への間接的影響、余震による地震動の安全機能への影響、経年変化を考慮した場合の影響を考慮した事故シナリオについてはスクリーニングを行い、安全機能を有するSSCの損傷が直接炉心損傷事故に繋がる事故シナリオとあわせて事故シナリオの明確化を行った。安全機能への間接的影響、余震による地震動の安全機能への影響、経年変化を考慮した場合の影響を考慮した事故シナリオに対するスクリーニング結果を第1.2.1.a-2表に示す。また、明確になった事故シナリオにより誘発される起因事象の分析を実施し、以下の起因事象を選定した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・格納容器バイパス</li> <li>・大破断LOCAを上回る規模のLOCA (Excess LOCA)</li> <li>・原子炉建屋損傷</li> <li>・原子炉格納容器損傷</li>   <li>・制御建屋損傷</li> </ul>	<p>抽出した事故シナリオについて、炉心損傷に繋がる可能性を定性的又は定量的に判断してスクリーニングを行い、事故シナリオの明確化を行った。事故シナリオに対するスクリーニング結果を第3.2.1.a-2表に示す。事故シナリオのスクリーニングについては、これまでに決定論的に評価されている情報又は運用面での対策・対応に関する情報に基づき判断している。また、明確になった事故シナリオにより誘発される起因事象の分析を第3.2.1.a-3図に示すフローを用いて実施し、以下の起因事象を選定した。  <b>(別紙3.2.1.a-3, 別紙3.2.1.a-4, 別紙3.2.1.a-5)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・格納容器バイパス</li> <li>・ECCS容量を超える原子炉冷却材圧力バウンダリ喪失 (E-LOCA)</li> <li>・原子炉建屋損傷</li> <li>・格納容器損傷</li>   <li>・制御建屋損傷</li> </ul>	<p>抽出した事故シナリオについて、炉心損傷につながる可能性を定性的又は定量的に判断してスクリーニングを行い、事故シナリオの明確化を行った。事故シナリオに対するスクリーニング結果を第3.2.1.a-2表に示す。事故シナリオのスクリーニングについては、これまでに決定論的に評価されている情報又は運用面での対策・対応に関する情報に基づき判断している。また、明確になった事故シナリオにより誘発される起因事象の分析を第3.2.1.a-3図に示すフローを用いて実施し、以下の起因事象を選定した。  <b>(補足3.2.1.a-4, 補足3.2.1.a-5, 補足3.2.1.a-6)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・格納容器バイパス</li> <li>・大破断LOCAを上回る規模のLOCA (Excess LOCA)</li> <li>・原子炉建屋損傷</li> <li>・原子炉格納容器損傷</li>   <li>・原子炉補助建屋損傷</li> </ul>	<p>炉トリップの非信頼度が異なるため、外部電源が健全なシナリオも取り扱っている（大飯に記載はないが、泊と同様となっている）      ・泊は0.2～0.4Gにおいてランダム故障が支配的であり、0.2G以下の地震加速度においては、さらにランダム故障の影響が強くなると考えられ内部事象PRAの評価に包含されることから、0.2G以下は地震PRAの評価範囲とはしていない。（大飯についても地震PRAの対象範囲は、泊と同様となっている）</p> <p><b>【女川】</b>  <b>■付番の相違</b>      ・資料番号の相違      (以下、相違理由説明を省略)</p> <p><b>【女川】</b>  <b>■炉型の相違</b>      ・炉型が異なり、抽出される起因事象が異なるため、大飯と比較する。（着色せず）</p> <p><b>【女川】</b>      ・泊の構成に合わせて女川の起因事象の記載順序を入れ替えている</p> <p><b>【大飯】</b></p>

## 泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について

別添 3. レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震PRA

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<ul style="list-style-type: none"> <li>・電動弁損傷による原子炉補機冷却機能喪失</li> <li>・1次系流路閉塞による2次系除熱機能喪失</li> <li>・複数の信号系損傷</li> <li>・燃料集合体及び制御棒クラスタ損傷による原子炉停止機能喪失</li> <li>・大破断LOCA</li> <li>・中破断LOCA</li> <li>・小破断LOCA</li> <li>・2次冷却系の破断</li> <li>・主給水流量喪失</li> <li>・外部電源喪失 <b>(緩和系で考慮)</b></li> <li>・原子炉補機冷却機能喪失 <b>(緩和系で考慮)</b></li> </ul> <p>これらの分析結果に基づき、起因事象の要因となる機器及び起因事象が発生した場合の緩和設備に係るSSCを抽出し、地震PRAで対象となる建屋・機器リストを作成した。なお、建屋・機器の選定に際しては、内部事象出力時レベル1PRAで作成した機器リストをベースに、地震特有の事故シナリオから選定される建屋・機器を追加した。第3.2.1.a-3表に評価対象とした建屋・機器の選定方法、第3.2.1.a-4表に建屋・機器リストを示す（後</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計測・制御系喪失</li> <li>・外部電源喪失</li> <li>・圧力容器損傷</li> <li>・直流電源喪失</li> <li>・交流電源・原子炉補機冷却系喪失</li> </ul> <p>これらの起因事象と内部事象PRAでグループ化した起因事象の関係を整理し、地震特有の起因事象を分類した。分類した結果を第3.2.1.a-3表に示す。</p> <p>これらの結果に基づき、起因事象の要因となる機器及び起因事象が発生した場合の緩和設備に係るSSCを抽出し、地震PRAで対象となる建屋・機器リストを作成した。第3.2.1.a-4表にリストを示す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電動弁損傷による原子炉補機冷却機能喪失</li> <li>・1次系流路閉塞による2次系除熱機能喪失</li> <li>・複数の信号系損傷</li> <li>・燃料集合体及び制御棒クラスタ損傷による原子炉停止機能喪失</li> <li>・大破断LOCA</li> <li>・中破断LOCA</li> <li>・小破断LOCA</li> <li>・2次冷却系の破断</li> <li>・主給水流量喪失</li> <li>・外部電源喪失</li> <li>・原子炉補機冷却機能喪失</li> </ul> <p>これらの起因事象と内部事象PRAでグループ化した起因事象の関係を整理し、地震特有の起因事象を分類した。分類した結果を第3.2.1.a-3表に示す。</p> <p>これらの結果に基づき、起因事象の要因となる機器及び起因事象が発生した場合の緩和設備に係るSSCを抽出し、地震PRAで対象となる建屋・機器リストを作成した。第3.2.1.a-4表に評価対象とした建屋・機器の選定方法、第3.2.1.a-5表にリストを示す。</p>	<p>■名称の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・制御建屋損傷⇒原子炉補助建屋損傷</li> </ul> <p>（以下、相違理由説明を省略）</p> <p><b>【大飯】</b></p> <p>■評価手法の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大飯はイベントツリー法を用いており、外部電源喪失及び原子炉補機冷却機能喪失は緩和系として考慮されているため、これらを起因事象としたイベントツリーはない（泊は高浜、美浜と同様）</li> </ul> <p><b>【女川】</b></p> <p>■記載方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・記載の充実のため、評価対象とした建屋・機器の選定方法を記載している（大飯と同様）</li> </ul>

## 泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について

別添3. レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震PRA

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
述のフランジリティデータをあわせて記載)。			
1.2.1.b. 確率論的地震ハザード	3.2.1.b 確率論的地震ハザード	3.2.1.b 確率論的地震ハザード	<p>【女川】【大飯】          ■記載表現の相違          ・「3.2.1.b 確率論的地震ハザード」については、地震・津波側の審査で用いた表現としているため、表現の相違理由については記載を省略する</p>
平成25年7月 申請時点での確率論的地震ハザードは、以下のとおり評価している。		令和5年11月時点での確率論的地震ハザードは、以下のとおり評価している。 (補足3.2.1.b-1)	<p>【女川】          ■記載方針の相違          ・記載の充実のため、評価に用いた確率論的地震ハザードを明記している（大飯と同様）</p> <p>【大飯】          ■個別評価による相違          ・泊は申請以降に実施した確率論的地震ハザードの評価結果を記載している。</p>
①確率論的地震ハザード評価の方法 地震PSA学会標準の方法に基づき評価を行う。	① 確率論的地震ハザード評価の方法 原子力発電所に対する地震を起因とした確率論的风险評価に関する実施基準（2015） <sup>*1</sup> の方法に基づき評価を行う。	①確率論的地震ハザード評価の方法 原子力発電所に対する地震を起因とした確率論的风险評価に関する実施基準（2015） <sup>*1</sup> （以下、「日本原子力学会（2015）」という。）の方法に基づき評価を行う。	<p>【大飯】          ■記載方針の相違          【女川】          ■記載箇所の相違</p> <p>【大飯】          ■評価方針の相違          ・泊は最新の学会標準を参照して評価をしている。（女川と同様）</p>
②確率論的地震ハザード評価に当たっての主要な仮定 (1) 震源モデルの設定 震源モデルは、以下に示す特定震源モデルと領域震源モデルを設定した。 a. 特定震源モデル	② 確率論的地震ハザード評価に当たっての主要な仮定 (1) 震源モデルの設定 震源モデルとしては、以下に示す特定震源モデルと領域震源モデルを設定した。 a. 特定震源モデル i. 海溝型地震 地震調査研究推進本部（2013） <sup>*2</sup> では、東北地方太平洋沖型地震と宮城県沖地震を特定地震として扱っており、本評価で	② 確率論的地震ハザード評価に当たっての主要な仮定 (1) 震源モデルの設定 震源モデルとしては、以下に示す特定震源モデルと領域震源モデルを設定した。 a. 特定震源モデル	<p>【女川】          ■個別評価による相違          ・泊と女川では地震発生様式等</p>

## 泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について  
別添3 レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震 PRA

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>基本的にサイトから100km以内にある「[新編]日本の活断層」に掲載されている確実度I及びIIの活断層をモデル化し、敷地に影響を及ぼすと考えられる活断層については、敷地周辺の地質調査結果等に基づいてモデル化した。</p> <p>第1.2.1.b-1図に敷地周辺の活断層の図を、第1.2.1.b-1表に主要な活断層の震源モデルの諸元を示す。</p> <p>b. 領域震源モデル</p> <p>領域震源モデルについては、萩原(1991)及び垣見ほか(2003)の領域区分に基づき、サイトから半径100km以内の領域を対象とし、各領域の最大マグニチュードは領域内の過去の地震の最大値を基に設定した。第1.2.1.b-2図に萩原(1991)及び垣見ほか(2003)による領域区分の図を示す。</p> <p>(2) 地震動評価モデルの設定</p> <p>地震動評価モデルとしてはNoda et al. (2002)による距離減衰式を用いた。また、ロジックツリーにおいて内陸補正の有無を考慮した。</p> <p>(3) ロジックツリーの作成</p> <p>ロジックツリーの作成では、震源モデル及び地震動評価モデルの設定において、選定した認識論的不確かさ要因から確率論的地震ハザード評価に大きな影響を及ぼす要因を選定した。特に敷地に影響を及ぼすと考えられる活断層(FO-A～FO-B断層)については、詳細なロジックツリーに展開し評価した。作成したロジックツリーを第1.2.1.b-3図及び第1.2.1.b-4図に示す。</p>	<p>もこれらの地震を特定地震として評価した。東北地方太平洋沖型地震の震源モデルの諸元は、神田ほか(2012)<sup>*3</sup>、Asano and Iwata(2012)<sup>*4</sup>及び諸井ほか(2013)<sup>*5</sup>に基づき設定した。また、宮城県沖地震の震源モデルの諸元は地震調査研究推進本部(2005)<sup>*6</sup>に基づき設定した。東北地方太平洋沖型地震については、地震調査研究推進本部(2013)と同様に更新過程を適用した。設定した震源モデルの諸元を第3.2.1.b-1表に示す。</p> <p>ii. 内陸地殻内地震</p> <p>敷地から100km程度以内にある「[新編]日本の活断層」<sup>*7</sup>に掲載されている確実度I及びIIの活断層及び敷地周辺の地質調査結果に基づいて評価した活断層等を特定震源としてモデル化した。なお、これらの断層群の連動も考慮した。敷地周辺の主な活断層分布及び震源モデルの諸元を第3.2.1.b-1図及び第3.2.1.b-2表に示す。</p> <p>b. 領域震源モデル</p> <p>敷地から100km以内の領域において、地震調査研究推進本部(2013)におけるモデル1、モデル2を参照し、その領域区分、対象領域の最大マグニチュードをモデル化した。設定した領域区分と最大マグニチュードを第3.2.1.b-2図に示す。</p> <p>(2) 地震動伝播モデルの設定</p> <p>東北地方太平洋沖型地震については、Noda et al. (2002)<sup>*8</sup>による距離減衰式及び断層モデル手法による評価を実施した。その他の震源については、Noda et al. (2002)による距離減衰式を用い、観測記録に基づいた補正又は内陸補正を考慮した。</p> <p>(3) ロジックツリーの作成</p> <p>ロジックツリーの作成では、震源モデル及び地震動伝播モデルにおいて設定した各モデル及び認識論的不確かさ要因をロジックツリーに展開した。</p> <p>なお、ロジックツリーには、地震調査研究推進本部(2013)のモデル1とモデル2の両方を、重み付けを考慮し取り入れた。作成したロジックツリーを第3.2.1.b-3図に、ロジックツリーの分岐及び重み付けの考え方を第3.2.1.b-3表に示す。</p>	<p>敷地から100km程度以内にある地質調査結果に基づく活断層並びに「[新編]日本の活断層」<sup>*2</sup>に掲載されている確実度I及びIIの活断層を対象とした。</p> <p>敷地周辺の活断層分布及び主要活断層の震源モデルの諸元を第3.2.1.b-1図及び第3.2.1.b-2表に示す。</p> <p>b. 領域震源モデル</p> <p>萩原(1991)<sup>*9</sup>及び垣見ほか(2003)<sup>*10</sup>の領域区分に基づき、敷地から200km程度以内の領域を対象とし、最大地震規模は、各領域で発生した地震のうち活断層と関連づけることが困難な地震の最大地震規模に基づいて設定した。第3.2.1.b-2図に萩原(1991)及び垣見ほか(2003)による領域区分の図を示す。</p> <p>(2) 地震動伝播モデルの設定</p> <p>地震動伝播モデルとしては、Noda et al. (2002)<sup>*10</sup>による距離減衰式を用いた。また、ロジックツリーにおいて内陸補正の有無及び観測記録補正の有無を考慮した。</p> <p>(3) ロジックツリーの作成</p> <p>ロジックツリーの作成では、震源モデル及び地震動伝播モデルにおいて、確率論的地震ハザード評価に大きな影響を及ぼす認識論的不確かさを選定した。なお、重み付けは、日本原子力学会(2015)を踏まえ設定した。作成したロジックツリーを第3.2.1.b-3図に示す。</p>	<p>が異なることから、地震ハザード評価が異なる(以降、大飯との相違も含めて、相違理由説明を省略)</p>

## 泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について  
別添3 レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震PRA

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>③確率論的地震ハザード評価結果</p> <p>(1) 地震ハザード曲線</p> <p>上記により評価した平均地震ハザード曲線を第1.2.1.b-5図に、主要活断層ごとのハザード曲線を第1.2.1.b-6図に示す。また、フラクタル地震ハザード曲線を第1.2.1.b-7図に示す。</p> <p>(2) 一様ハザードスペクトル</p> <p>基準地震動S<sub>s</sub>の応答スペクトルと年超過確率ごとの一様ハザードスペクトルとの比較を第1.2.1.b-8図に示す。基準地震動S<sub>s</sub>の年超過確率は、水平方向で<math>10^{-4} \sim 10^{-5}</math>程度、鉛直方向で0.2秒より短周期側で<math>10^{-4} \sim 10^{-5}</math>程度、長周期側で<math>10^{-5} \sim 10^{-6}</math>程度となっている。また、一様ハザードスペクトルの算出のもととなる周期ごとのハザード曲線を第1.2.1.b-9図に示す。</p> <p>(3) フラジリティ評価用地震動</p> <p>フラジリティ評価用地震動は年超過確率<math>10^{-4}</math>の一様ハザードスペクトルに適合する模擬地震動とし、経時特性を基準地震動S<sub>s</sub>の策定と同様にNoda et al. (2002)に基づき地震規模M=7.8、等価震源距離X<sub>eq</sub>=60kmとして設定した。模擬地震動を第1.2.1.b-10図に示す。</p>	<p>③ 確率論的地震ハザード評価結果</p> <p>(1) 地震ハザード曲線</p> <p>上記により評価した平均地震ハザード曲線を第3.2.1.b-4図に、特定震源モデル及び領域震源モデル毎の地震ハザード曲線を第3.2.1.b-5図に示す。また、フラクタル地震ハザード曲線を第3.2.1.b-6図に示す。</p> <p>(2) 一様ハザードスペクトル</p> <p>基準地震動S<sub>s</sub>の設計用応答スペクトルと年超過確率毎の一様ハザードスペクトルとの比較を第3.2.1.b-7図に示す。基準地震動S<sub>s</sub>の年超過確率は、水平・鉛直方向とともに、<math>10^{-3} \sim 10^{-6}</math>程度となっている。また、一様ハザードスペクトルの算出のもととなる周期毎の平均ハザード曲線を第3.2.1.b-8図に示す。</p> <p>(3) フラジリティ評価用地震動</p> <p>応答解析に基づく方法に用いるフラジリティ評価用地震動は第3.2.1.b-9図に示す一様ハザードスペクトルの形状に適合する模擬波とした。模擬波の経時特性はNoda et al. (2002)に基づき、M8.3、等価震源距離X<sub>eq</sub>=132kmとして設定した。</p> <p>(参考資料)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>*1 日本原子力学会 (2015) : 日本原子力学会標準、原子力発電所に対する地震を起因とした確率論的リスク評価に関する実施基準</li> <li>*2 地震調査研究推進本部 (2013) : 今後の地震動ハザード評価に関する検討～2013年における検討結果～</li> <li>*3 神田克久、武村雅之、広谷淨、石川和也 (2012) : 震度分布に基づく2011年東北地方太平洋沖地震の短周期地震波発生域、地震 第2輯、第65巻</li> <li>*4 Asano, K. and T. Iwata (2012), Source model for strong ground motion generation in the frequency range 0.1–10 Hz during the 2011 Tohoku earthquake,</li> </ul>	<p>③確率論的地震ハザード評価結果</p> <p>(1) 地震ハザード曲線</p> <p>上記により評価した平均ハザード曲線を第3.2.1.b-4図に、震源ごとのハザード曲線を第3.2.1.b-5図に示す。また、フラクタル地震ハザード曲線を第3.2.1.b-6図に示す。</p> <p>(2) 一様ハザードスペクトル</p> <p>基準地震動の応答スペクトルと年超過確率ごとの一様ハザードスペクトルとの比較を第3.2.1.b-7図に示す。基準地震動S<sub>s1</sub>の年超過確率は、水平・鉛直方向ともに、<math>10^{-4} \sim 10^{-5}</math>程度となっている。基準地震動S<sub>s2-1</sub>～S<sub>s2-13</sub>の年超過確率は、<math>10^{-3} \sim 10^{-6}</math>程度であり、基準地震動S<sub>s1</sub>を上回る周期で<math>10^{-4} \sim 10^{-6}</math>程度となっている。基準地震動S<sub>s3-1</sub>～S<sub>s3-5</sub>の年超過確率は、<math>10^{-4} \sim 10^{-6}</math>程度となっている。また、一様ハザードスペクトルの算出のもととなる周期ごとの平均ハザード曲線を第3.2.1.b-8図に示す。</p> <p>(3) フラジリティ評価用地震動</p> <p>応答解析に基づく方法に用いるフラジリティ評価用地震動は第3.2.1.b-9図に示す一様ハザードスペクトルの形状に適合する模擬波とした。模擬波の経時特性はNoda et al. (2002)に基づき、地震規模M=8.2、等価震源距離X<sub>eq</sub>=107kmとして設定した。</p> <p>(参考資料)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>*1 日本原子力学会 (2015) : 日本原子力学会標準、原子力発電所に対する地震を起因とした確率論的リスク評価に関する実施基準 : 2015、一般社団法人 日本原子力学会</li> <li>*2 活断層研究会編 (1991) : [新編]日本の活断層分布図と資料、東京大学出版会</li> <li>*3 松田時彦 (1975) : 活断層から発生する地震の規模と周期について、地震 第2輯、第28巻、269-283</li> <li>*4 武村雅之 (1998) : 日本列島における地殻内地震のスケーリング則～地震断層の影響および地震被害との関連～、地震 第2輯、第51巻、211-228</li> <li>*5 入倉孝次郎・三宅弘恵 (2001) : シナリオ地震の強震動予</li> </ul>	<p>【大飯】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■記載方針の相違</li> <li>・女川の実績反映</li> </ul>

## 泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について  
 別添 3. レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震 PRA

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
1.2.1.c-1. 建屋のフランジリティ ①評価対象と損傷モードの設定  (1) 評価対象物 建屋のフランジリティ評価の対象は、第1.2.1.a-4表の建屋・機器リストに記載されたものとし、原子炉建屋、制御建屋とした。原子炉建屋の概略平面図及び概略断面図をそれぞれ第1.2.1.c-1-1図及び第1.2.1.c-1-2, 3図に示す。制御建屋の概略平面図及び概略断面図をそれぞれ第1.2.1.c-1-4図及び第	3.2.1.c 建屋・機器フランジリティ 3.2.1.c-1 建屋フランジリティ ① 評価対象と損傷モードの設定 (1) 評価対象物 建屋のフランジリティ評価の対象は、第3.2.1.a-4表の建屋・機器リストに記載されたものとし、原子炉建屋及び制御建屋とした。各建屋の概要をそれぞれ第3.2.1.c-1-1図及び第3.2.1.c-1-2図に示す。	3.2.1.c 建屋・機器フランジリティ 3.2.1.c-1 建屋フランジリティ ① 評価対象と損傷モードの設定 (1) 評価対象物 建屋のフランジリティ評価の対象は、第3.2.1.a-5表の建屋・機器リストに記載されたものとし、原子炉建屋、原子炉補助建屋、ディーゼル発電機建屋、A1, A2 - 燃料油貯油槽タンク室及びB1, B2 - 燃料油貯油槽タンク室とした。各建屋の概要をそれぞれ第3.2.1.c-1-1図～第3.2.1.c-1-5図に示す。	<p>【女川】【大飯】          ■評価対象の相違          ・評価対象建屋の相違          (以下、相違理由説明を省略)</p>

## 泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について

別添3 レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震PRA

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
1. 2. 1. c-1-5, 6図に示す。			
(2) 損傷モード及び部位の設定  建屋の要求機能喪失に繋がる支配的な構造的損傷モード及び部位として、建屋の崩壊シーケンスを踏まえ、層崩壊を伴う耐震壁のせん断破壊を選定した。	(2) 損傷モード及び部位の設定  建屋の要求機能喪失に繋がる支配的な構造的損傷モード及び部位として、建屋の崩壊シーケンスを踏まえ、層崩壊を伴う耐震壁のせん断破壊を選定した。	(2) 損傷モード及び部位の設定  建屋の要求機能喪失につながる支配的な構造的損傷モード及び部位として、建屋の崩壊シーケンスを踏まえ、層崩壊を伴う耐震壁のせん断破壊を選定した。	
②フランジリティの評価方法の選択  フランジリティ評価方法として「現実的耐力と現実的応答による方法（応答解析に基づく方法）」を選択した。評価手法は地震PSA学会標準に準拠した手法とする。	② フランジリティの評価方法の選択  フランジリティ評価方法は、「現実的耐力と現実的応答による方法（応答解析に基づく方法）」を用いた。評価手法は地震PSA学会標準に準拠した手法とする。  3. 2. 1. c-3)	② フランジリティの評価方法の選択  フランジリティ評価方法として「現実的耐力と現実的応答による方法（応答解析に基づく方法）」を用いた。評価手法は地震PSA学会標準に準拠した手法とする。（補足3. 2. 1. c-1, 補足3. 2. 1. c-3）	【大飯】 ■記載方針の相違 ・泊は関連する補足説明資料の番号を記載している  【女川】 ■記載方針の相違 ・大飯はフランジリティ評価手法選定の考え方を補足としてまとめており、記載の充実のため、泊も同様の資料を作成している  【女川】【大飯】 ■記載内容の相違 ・泊は地震PRAにおける評価手法変更に関する補足説明資料を作成している
③フランジリティ評価上の主要な仮定  (1) 考慮する不確実さ要因  現実的耐力及び現実的応答の偶然的不確実さ $\beta_{\text{g}}$ と認識論的不確実さ $\beta_{\text{u}}$ については、地震PSA学会標準に基づき評価した。考慮する不確実さ要因の例を第1. 2. 1. c-1-1表に示す。	③ フランジリティ評価上の主要な仮定（不確実さの設定、応答係数等）  (1) 考慮する不確実さ要因  現実的耐力及び現実的応答の偶発的不確実さ（以下、「 $\beta_{\text{r}}$ 」という。）と認識論的不確実さ（以下、「 $\beta_{\text{u}}$ 」という。）については、地震PSA学会標準等に基づき評価した。考慮する不確実さ要因の例を第3. 2. 1. c-1-1表に示す。	③ フランジリティ評価上の主要な仮定（不確実さの設定、応答係数等）  (1) 考慮する不確実さ要因  現実的耐力及び現実的応答の偶然的不確実さ（以下、「 $\beta_{\text{r}}$ 」という。）と認識論的不確実さ（以下、「 $\beta_{\text{u}}$ 」という。）については、地震PSA学会標準に基づき評価した。考慮する不確実さ要因の例を第3. 2. 1. c-1-1表に示す。	【女川】 ■記載表現の相違 ・泊は学会標準の表記をしている
(2) 損傷評価の指標  損傷評価の指標については、耐震壁のせん断破壊の程度を表すことができる指標として、せん断ひずみを選定した。	(2) 損傷評価の指標  損傷評価の指標については、耐震壁のせん断破壊の程度を表すことができる指標として、せん断ひずみを選定した。	(2) 損傷評価の指標  損傷評価の指標については、耐震壁のせん断破壊の程度を表すことができる指標として、せん断ひずみを選定した。	

## 泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について  
別添3 レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震PRA

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>④ フラジリティ評価における耐力情報</p> <p>現実的耐力である損傷限界時のせん断ひずみの平均値と変動係数は地震PSA学会標準に示された実験結果に基づく値を用いることとし、対数正規分布を仮定した。<b>実験結果に基づく値</b>を第3.2.1.c-1-2表に示す。</p> <p>⑤ フラジリティ評価における応答情報</p> <p>現実的応答については、現実的な物性値に基づく地震応答解析を入力レベルごとに実施することにより評価を行った。現実的な物性値は地震PSA学会標準に基づき算出し、対数正規分布を仮定した。損傷評価の指標である耐震壁のせん断破壊に対しては水平動が支配的であることから、水平動による評価を行うこととした。</p> <p>(1) 入力地震動</p> <p>入力地震動は<b>1.2.1.b.③項に示す模擬波</b>を入力レベルごとに係数倍したものとした（最大3,000Gal）。</p> <p>(2) 現実的な物性値と応答解析モデル</p> <p>大飯サイトの地盤物性値を第3.2.1.c-1-3表に示す。原子炉建屋及び制御建屋の物性値をそれぞれ第3.2.1.c-1-4表及び第3.2.1.c-1-5表に示す。応答解析に用いる現実的な物性値は、地震PSA学会標準に示された評価方法に基づき算出した。評価</p>	<p>(3) 地震動強さの指標</p> <p>地震ハザード評価及び事故シーケンス評価と共に、建屋の損傷評価の指標との相関がある指標として、一般的に用いられる解放基盤表面の最大加速度（周期0.02秒時の加速度応答スペクトル値）を選定した。</p> <p>④ フラジリティ評価における耐力情報</p> <p>現実的耐力である損傷限界時のせん断ひずみの平均値と変動係数は地震PSA学会標準に示された実験結果に基づく値を用いることとし、対数正規分布を仮定した。損傷限界点の現実的な値を第3.2.1.c-1-2表に示す。</p> <p>⑤ フラジリティ評価における応答情報</p> <p>現実的応答については、現実的な物性値に基づく非線形地震応答解析を入力レベルごとに実施することにより評価を行った。現実的な物性値は地震PSA学会標準に基づき算出し、対数正規分布を仮定した。損傷評価の指標である耐震壁のせん断破壊に対しては水平動が支配的であることから、水平動による評価を行うこととした。</p> <p>(1) 入力地震動</p> <p>入力地震動は、フラジリティ評価用地震動を入力レベルごとに係数倍した地震動を解放基盤表面に<b>定義し</b>、建屋周辺地盤の状況を適切に考慮したモデルにより評価した。建屋・地盤連成モデルへの入力概要を第3.2.1.c-1-3図に示す。</p> <p>(2) 現実的な物性値と応答解析モデル</p> <p>女川原子力発電所2号炉のコンクリートの材料物性値を第3.2.1.c-1-3表、原子炉建屋周辺の地盤物性値を第3.2.1.c-1-4表に示す。地震応答解析に用いる現実的な物性値は、地震PSA学会標準に示された評価方法に基づき算出した。評価方法を第</p>	<p>(3) 地震動強さの指標</p> <p>地震ハザード評価及び事故シーケンス評価と共に、建屋の損傷評価の指標との相関がある指標として、一般的に用いられる解放基盤表面の最大加速度（周期0.02秒時の加速度応答スペクトル値）を選定した。</p> <p>④ フラジリティ評価における耐力情報</p> <p>現実的耐力である損傷限界時のせん断ひずみの平均値と変動係数は地震PSA学会標準に示された実験結果に基づく値を用いることとし、対数正規分布を仮定した。損傷限界点の現実的な値を第3.2.1.c-1-2表に示す。</p> <p>⑤ フラジリティ評価における応答情報</p> <p>現実的応答については、現実的な物性値に基づく非線形地震応答解析を入力レベルごとに実施することにより評価を行った。現実的な物性値は地震PSA学会標準に基づき算出し、対数正規分布を仮定した。損傷評価の指標である耐震壁のせん断破壊に対しては水平動が支配的であることから、水平動による評価を行うこととした。</p> <p>(1) 入力地震動</p> <p>入力地震動は、フラジリティ評価用地震動を入力レベルごとに係数倍した地震動を解放基盤表面で<b>定義した（最大3,000Gal）</b>。</p> <p>(2) 現実的な物性値と応答解析モデル</p> <p>泊発電所3号炉の各建屋の材料物性値をそれぞれ第3.2.1.c-1-3表～第3.2.1.c-1-7表に、原子炉建屋周辺の地盤物性値を第3.2.1.c-1-8表に示す。地震応答解析に用いる現実的な物性値は、地震PSA学会標準に示された評価方法に基づき算出した。評価方法は、地震PSA学会標準に示された評価方法に基づき算出した。評価</p>	<p>【大飯】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■記載方針の相違</li> <li>・女川の実績反映</li> </ul> <p>【女川】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■評価方針の相違</li> <li>・女川は建屋周辺地盤の影響を考慮したモデルにより建屋入力位置における入力地震動を評価しているが、建屋設置状況の違いから、泊は解放基盤表面で定義した地震動をそのままモデルに入力している（大飯と同様）</li> </ul> <p>【女川】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■記載方針の相違</li> <li>・泊はコンクリート以外も含めた建屋の材料物性値を示して</li> </ul>

## 泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について  
 別添3 レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震PRA

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
方法を第1.2.1.c-1-6表に示す。	3.2.1.c-1-5表に示す。	価方法を第3.2.1.c-1-9表に示す。	いる（大飯と同様）
フジリティ評価用の応答解析モデルは、大飯発電所3号機工事計画認可申請書（平成25年8月5日申請）に記載の建屋モデルをベースとして設定した。原子炉建屋の解析モデル及び解析モデル諸元を第1.2.1.c-1-7, 8図及び第1.2.1.c-1-7～10表に、制御建屋の解析モデル及び解析モデル諸元を第1.2.1.c-1-9, 10図及び第1.2.1.c-1-11表に示す。	地震応答解析モデルは、主要な耐震壁を曲げ・せん断部材に置換し、重量を各階床位置に集中させた質点系モデルを用いた。各建屋の地震応答解析モデルを第3.2.1.c-1-4図及び第3.2.1.c-1-5図に示す。	地震応答解析モデルは、主要な耐震壁を曲げ・せん断部材に置換し、重量を各階床位置に集中させた質点系モデルを用いた。各建屋の地震応答解析モデルを第3.2.1.c-1-6図～第3.2.1.c-1-10図に、各建屋の地震応答解析モデル諸元を第3.2.1.c-1-10表～第3.2.1.c-1-19表に示す。	【女川】 ■記載方針の相違 ・女川では解析モデル諸元を解析モデル図中に示しているが、泊では表で別途整理している（大飯と同様）
(3) 解析ケース  応答のばらつきを求めるための確率論的応答解析では、第1.2.1.c-1-6表に示すFc、Vs及びhの3つの主変動パラメータに対して2点推定法で得られた2つのサンプル点をすべて組み合わせ、2 <sup>3</sup> =8ケースの解析を実施した。モデルの諸元と物性値の関係及び解析ケースを第1.2.1.c-1-12表及び第1.2.1.c-1-13表に示す。		(3) 解析ケース  応答のばらつきを求めるための確率論的応答解析では、第3.2.1.c-1-9表に示すFc、Vs及びhの3つの主変動パラメータに対して2点推定法で得られた2つのサンプル点をすべて組み合わせ、2 <sup>3</sup> =8ケースの解析を実施した。モデルの諸元と物性値の関係及び解析ケースをそれぞれ第3.2.1.c-1-20表及び第3.2.1.c-1-21表に示す。	【女川】 ■評価方針の相違 ・女川は物性値に中央値を与えた応答解析結果を元に現実的応答を算出しているが、泊は確率論的応答解析結果より各ケースの重みを考慮して算出している（大飯と同様）
(4) 現実的応答  現実的応答は地震PSA学会標準に準拠し対数正規分布を仮定し、確率論的応答解析結果より各ケースの重みを考慮して算出した。	(3) 現実的応答  原子炉建屋及び制御建屋の現実的応答は地震PSA学会標準に準拠し対数正規分布を仮定し、その物性値には中央値を与えた応答解析結果により算出した。また、対数標準偏差は、地震PSA学会標準に基づき最大応答せん断ひずみとして0.2を与えた。	(4) 現実的応答  各建屋の現実的応答は地震PSA学会標準に準拠し対数正規分布を仮定し、確率論的応答解析結果より各ケースの重みを考慮して算出した。	【女川】 ■評価方針の相違 ・女川は物性値に中央値を与えた応答解析結果を元に現実的応答を算出しているが、泊は確率論的応答解析結果より各ケースの重みを考慮して算出している（大飯と同様）
⑥建物のフジリティ評価結果  現実的耐力と現実的応答よりフジリティ曲線とHCLPFを算出した。  フジリティ曲線は、各建屋を構成する全要素のうち、入力レベル3,000Galの際に損傷確率が最大となる要素を対象として算出することとした。ここに損傷確率は現実的応答が現実的耐力を上回る確率である。選定した要素の各入力レベルでの損傷確率は対数正規累積分布関数により近似し、信頼度ごとの連続的なフジリティ曲線を算出した。高信頼度低損傷確率（以下、「HCLPF」という。）は、95%信頼度フジリティ曲線における5%損傷確率の加速度として定義する。  建屋のフジリティ曲線は、各建屋を構成する要素のうち、HCLPFが最小となる要素を対象として算出することとした。	⑥建屋のフジリティ評価結果  現実的耐力と現実的応答を用いて、各耐震要素の各入力レベルでの損傷確率を対数正規累積分布関数（最小2乗法）により近似し、信頼度ごとの連続的なフジリティ曲線を算出した。高信頼度低損傷確率（以下、「HCLPF」という。）は、95%信頼度フジリティ曲線における5%損傷確率の加速度として定義する。  建屋のフジリティ曲線は、各建屋を構成する要素のうち、HCLPFが最小となる要素を対象として算出することとした。	⑥建屋のフジリティ評価結果  現実的耐力と現実的応答を用いて、各耐震要素の各入力レベルでの損傷確率を対数正規累積分布関数（最小2乗法）により近似し、信頼度ごとの連続的なフジリティ曲線を算出した。高信頼度低損傷確率（以下、「HCLPF」という。）は、95%信頼度フジリティ曲線における5%損傷確率の加速度として定義する。  建屋のフジリティ曲線は、各建屋を構成する要素のうち、入力レベル3,000Galの際に損傷確率が最大となる要素を対象として	【女川】 ■評価方針の相違

## 泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について

別添3 レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震PRA

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>リティ曲線を算出した。 HCLPFは信頼度95%フラジリティ曲線を基に算出した。</p> <p>原子炉建屋及び制御建屋のフラジリティ曲線を第1.2.1.c-1-11図及び第1.2.1.c-1-12図に示す。また、信頼度50%での50%損傷確率及びHCLPFについて1.2.1.a.②項の建屋・機器リストに示す。</p>	<p>各建屋のフラジリティ曲線を第3.2.1.c-1-6図及び第3.2.1.c-1-7図に示す。また、信頼度50%での50%損傷確率（加速度中央値）及びHCLPFについて第3.2.1.a-4表に示す。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>柏崎・刈羽原子力発電所 6号及び7号炉 付録1（平成29年12月1日提出版）より引用】</p> <p>なお、廃棄物処理建屋については、入力レベル2000galにおいても損傷確率が極めて小さかったことからフラジリティ曲線を算出していない。</p> </div>	<p>算出することとした。</p> <p>各建屋のフラジリティ曲線を第3.2.1.c-1-11図～第3.2.1.c-1-13図に示す。また、信頼度50%での50%損傷確率（加速度中央値）及びHCLPFについて第3.2.1.a-5表に示す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フラジリティ曲線を算出する要素選定の相違であり、泊では各要素の損傷確率により代表性を判断している（大飯と同様）</li> </ul>
<p>1.2.1.c-2. 屋外重要土木構造物のフラジリティ</p> <p>①評価対象と損傷モードの設定          (1) 評価対象          屋外重要土木構造物のフラジリティ評価の対象は、頂版に作用する上載荷重（海水ポンプ重量）による慣性力が大きくなると考えられる海水ポンプ室とする。</p> <p>海水ポンプ室の平面図を第1.2.1.c-2-1図、断面図を第1.2.1.c-2-2図に示す。</p> <p>(2) 損傷モード及び部位の設定</p>		<p>3.2.1.c-2 屋外重要土木構造物のフラジリティ</p> <p>①評価対象と損傷モードの設定          (1) 評価対象          屋外重要土木構造物のフラジリティ評価の対象は、第3.2.1.a-5表の建屋・機器リストに示す取水ピットポンプ室、原子炉補機冷却海水ポンプ出口ストレーナ室及び原子炉補機冷却海水管ダクトのうち、耐震評価がより厳しい原子炉補機冷却海水管ダクトとする。</p> <p>原子炉補機冷却海水管ダクトの平面図を第3.2.1.c-2-1図、断面図を第3.2.1.c-2-2図に示す。</p> <p>(2) 損傷モード及び部位の設定</p>	<p>【女川】【大飯】          ■個別評価による相違          ・泊はフラジリティの評価対象とした燃料油貯油槽タンク室の損傷確率が極めて小さい結果となったため、フラジリティを算出していない（柏崎の廃棄物処理建屋と同様）</p> <p>【柏崎】          ■個別評価による相違  <p>【女川】          ■評価方針の相違          ・女川は屋外重要土木構造物のフラジリティ評価を実施していないため、大飯と比較する</p> <p>【大飯】          ■評価方針の相違          ・泊は耐震評価が厳しい構造物を評価対象構造物として選定している（玄海と同様）          (以下、相違理由説明を省略)</p> </p>

## 泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について  
別添3. レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震PRA

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>屋外重要土木構造物の損傷モードとしては、構造部材の曲げ及びせん断破壊のうち、耐震裕度がより厳しいせん断破壊を選定し、すべての部材を評価対象とする。</p> <p>②フランジリティの評価方法の選択 フランジリティ評価方法として「現実的耐力と現実的応答による方法（応答解析に基づく方法）」を選択した。評価手法は地震PSA学会標準に準拠した手法とする。</p> <p>ただし、部材のせん断耐力は、部材に作用する断面力に依存することから、現実的耐力と現実的応答を独立として見なすことが困難であるため、耐震裕度（許容限界値／応答値）として評価する。</p> <p>③フランジリティの評価 (1) 考慮する不確実さ要因 現実的耐力及び現実的応答の偶発的不確実さ <math>\beta_R</math>と認識論的不確実さ <math>\beta_U</math>については、地震PSA学会標準等に基づき評価する。</p>		<p>屋外重要土木構造物の損傷モードとしては、構造部材の曲げ及びせん断破壊のうち、耐震裕度がより厳しいせん断破壊を選定し、すべての部材を評価対象とした。</p> <p>②フランジリティの評価方法の選択 フランジリティ評価方法として「現実的耐力と現実的応答による方法（応答解析に基づく方法）」を選択した。評価手法は地震PSA学会標準に準拠した手法とする。（<a href="#">補足3.2.1.c-1</a>, <a href="#">補足3.2.1.c-3</a>）</p> <p>ただし、部材のせん断耐力は、部材に作用する断面力に依存することから、現実的耐力と現実的応答を独立として見なすことが困難であるため、耐震裕度（許容限界値／応答値）として評価する。</p> <p>③フランジリティ評価上の主要な仮定 (1) 考慮する不確実さ要因 <math>\beta_R</math>と <math>\beta_U</math>については、地震PSA学会標準等に基づき評価する。</p>	<p>【大飯】 ■記載表現の相違 ・泊は「3.2.1c-1. 建屋のフランジリティ」に合わせた表現をしている</p> <p>【大飯】 ■記載方針の相違 ・泊は関連する補足説明資料の番号を記載している</p> <p>【女川】【大飯】 ■記載内容の相違 ・泊は地震PRAにおける評価手法変更に関する補足説明資料を作成している</p> <p>【大飯】 ■記載表現の相違 ・泊は偶然的不確実さ及び認識論的不確実さについて「3.2.1c-1. 建屋のフランジリティ」で読み替えをしている</p>

## 泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について  
別添3. レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震PRA

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
(2) 損傷評価の指標  損傷評価の指標については、「原子力発電所屋外重要土木構造物の耐震性能照査指針・マニュアル（土木学会、2005）」に基づくこととする。	島根原子力発電所2号炉 付録1（令和3年9月6日提出版）より引用】  現実的耐力は、「原子力発電所屋外重要土木構造物の耐震性能照査指針・マニュアル（土木学会、2005）」のせん断破壊に対する照査（材料非線形解析を用いる方法）による評価値を適用した。現実的耐力評価に含まれる不確実さ要因は、地震PSA学会標準を参考に、コンクリートの圧縮強度と鉄筋の降伏強度を考慮した。 現実的耐力の評価に当たっての材料物性値（中央値）について、コンクリートの実強度の平均値は、設計基準強度の1.4倍とした（地震PSA学会標準による）。また、鉄筋の実降伏点の平均値は、規格降伏点の1.1倍とした（「鋼材等及び溶接部の許容応力度並びに材料強度の基準強度を定める件、平成12年（2000年）12月26日、建設省告示第2464号」による）。	(2) 損傷評価の指標  損傷評価の指標については、「原子力発電所屋外重要土木構造物の耐震性能照査指針・マニュアル（土木学会、2005）」のせん断破壊に対する照査（せん断耐力評価式による方法）による評価値を適用した。損傷評価に含まれる不確実さ要因は、地震PSA学会標準を参考に、コンクリートの圧縮強度と鉄筋の降伏強度を考慮した。  損傷評価に当たっての材料物性値（中央値）について、コンクリートの実強度の平均値は、設計基準強度の1.4倍とした（地震PSA学会標準による）。また、鉄筋の実降伏点の平均値は、規格降伏点の1.1倍とした（「鋼材等及び溶接部の許容応力度並びに材料強度の基準強度を定める件、平成12年（2000年）12月26日、建設省告示第2464号」による）。	【大飯】 ■記載方針の相違 ・記載充実のため、最新プラントである島根の記載を反映している 【島根】 ■個別評価による相違 【島根】 ■記載表現の相違
④フランジリティ評価における応答解析  (1) 入力地震動  入力地震動は、大飯サイトの10 <sup>-4</sup> 一様ハザードスペクトルに適合するように作成した模擬波を係数倍して用いる。		④フランジリティ評価における応答解析  (1) 入力地震動  入力地震動は、フランジリティ評価用地震動を入力レベルごとに係数倍したものとした（最大3,900gal）。	【大飯】 ■記載表現の相違 ・泊は「3.2.1c-1、建屋のフランジリティ」に合わせた表現をしている
(2) 地震応答解析手法  地盤と構造物の非線形性を考慮した地盤－構造物連成系の二次元有限要素による時刻歴非線形解析を用いる。		(2) 地震応答解析手法  地盤と構造物の非線形性を考慮した地盤－構造物連成系の二次元有限要素による時刻歴非線形解析を用いる。	
(3) 変動因子  フランジリティ評価においては、屋外重要土木構造物の耐震評価に支配的と考えられる、地盤の初期せん断剛性G <sub>0</sub> 、コンクリートの圧縮強度F <sub>c</sub> の2つの変動因子を考慮する。第1.2.1.c-2-1表に考慮した変動因子の考え方を示す。		(3) 変動因子  フランジリティ評価においては、屋外重要土木構造物の耐震評価に支配的と考えられる、地盤の初期せん断剛性G <sub>0</sub> 、コンクリートの圧縮強度F <sub>c</sub> の2つの変動因子を考慮する。第3.2.1.c-2-1表に考慮した変動因子の考え方を示す。	
(4) 損傷確率  損傷確率は1次近似2次モーメント法を用いて算定する。		(4) 損傷確率  損傷確率は一次近似二次モーメント法を用いて算定する。	【大飯】 ■記載表現の相違

## 泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について  
 別添3 レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震PRA

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
⑤屋外重要土木構造物のフラジリティ評価結果  各 <b>地震動</b> レベルによる損傷確率よりフラジリティ曲線とHCLPを算出する。屋外重要土木構造物のフラジリティ曲線を第1.2.1.c-2-3図に示す。		⑤屋外重要土木構造物のフラジリティ評価結果  各 <b>入力</b> レベルによる損傷確率よりフラジリティ曲線とHCLPFを算出する。屋外重要土木構造物のフラジリティ曲線を第3.2.1.c-2-3図に示す。また、信頼度50%での50%損傷確率及びHCLPFについて第3.2.1.a-5表に示す。	【大飯】 ■記載表現の相違 ・泊は表現を統一している
1.2.1.c-3. 機器のフラジリティ  ①評価対象と損傷モードの設定  機器のフラジリティ評価の対象は第1.2.1.a-4表の建屋・機器リストに記載されたものとする。   タンク・熱交換器のような静的機器については、構造損傷（延性破壊、脆性破壊等）の観点から評価し、電気盤類及びポンプ・弁のような動的機器については、システム評価上の要求に対応して構造損傷・機能損傷（動的機能限界、電気的機能限界等）双方の観点からフラジリティ評価を実施し、当該機器のフラジリティとして用いることとする。	3.2.1.c-2 機器のフラジリティ  ①評価対象と損傷モードの設定  機器のフラジリティ評価の対象は、3.2.1.a.②項で作成した建屋・機器リストに記載されたものとする。損傷モードは、構造損傷と機能損傷に分類し、評価対象機器の要求機能を踏まえて適切に設定する。  タンク・熱交換器のような静的機器は、要求機能の喪失につながる延性破壊や脆性破壊等の構造損傷の観点から支配的な部位に着目してフラジリティを評価する。また、電気盤類及びポンプ・弁のような動的機器は、システム評価上の要求機能に対応して、構造損傷に加え、動的機能限界や電気的機能限界等の機能損傷の双方の観点から支配的な部位に着目してフラジリティを評価する。ここで、フラジリティ評価はJEAG4601に基づき実施した既工認等の耐震評価結果を基に算出する。	3.2.1.c-3 機器のフラジリティ  ①評価対象と損傷モードの設定  機器のフラジリティ評価の対象は、3.2.1.a.②項で作成した建屋・機器リストに記載されたものとする。損傷モードは、構造損傷と機能損傷に分類し、評価対象機器の要求機能を踏まえて適切に設定する。  タンク・熱交換器のような静的機器は、要求機能の喪失につながる延性破壊や脆性破壊等の構造損傷の観点から支配的な部位に着目してフラジリティを評価する。また、電気盤類及びポンプ・弁のような動的機器は、システム評価上の要求機能に対応して、構造損傷に加え、動的機能限界や電気的機能限界等の機能損傷の双方の観点から支配的な部位に着目してフラジリティを評価する。ここで、フラジリティ評価はJEAG4601に基づき実施した既工認等の耐震評価結果を基に算出する。	【女川】 ■付番の相違
なお、構造強度に関する評価では、機器の本体・支持脚・基礎ボルト等の主要部位について <b>耐震性評価</b> が実施されるが、部位間で裕度（例えば、設計許容値／発生応力）が異なり、また、同一部位でも評価応力の種類（引張応力、曲げ応力、組合せ応力等）によって裕度が異なる。構造損傷に関するフラジリティ評価では、これらの各部位・各評価応力の中から、基本的には最も裕度が低かった部位・評価応力に着目して強度に関する係数等の評価を行う。  ②フラジリティの評価方法の選択  フラジリティ評価方法として「耐力係数と応答係数による方法（安全係数法）」を選択した。	なお、構造強度に関する評価では、機器の本体・支持脚・基礎ボルト等の主要部位について耐震評価が実施されるが、部位間で裕度（例えば、設計許容値／発生応力）が異なり、また、同一部位でも評価応力の種類（引張応力・曲げ応力・組合せ応力等）によって裕度が異なる。構造損傷に関するフラジリティ評価では、これらの各部位・各評価応力の中から、基本的には耐震性評価上最も裕度が低かった部位・評価応力に着目して強度に関する係数等の評価を行う。  ②フラジリティの評価方法の選択  フラジリティの評価方法は、「現実的耐力と現実的応答による方法（以下、「応答解析に基づく方法」という。）」、「現実的耐力と応答係数による方法（以下、「原研法」という。）」、	なお、構造強度に関する評価では、機器の本体・支持脚・基礎ボルト等の主要部位について耐震評価が実施されるが、部位間で裕度（例えば、設計許容値／発生応力）が異なり、また、同一部位でも評価応力の種類（引張応力、曲げ応力、組合せ応力等）によって裕度が異なる。構造損傷に関するフラジリティ評価では、これらの各部位・各評価応力の中から、基本的には耐震性評価上最も裕度が低かった部位・評価応力に着目して強度に関する係数等の評価を行う。  ②フラジリティの評価方法の選択  フラジリティの評価方法は、「現実的耐力と現実的応答による方法（以下、「応答解析に基づく方法」という。）」、「現実的耐力と応答係数による方法（以下、「原研法」という。）」、	【大飯】 ■記載方針の相違 ・記載充実のため、評価に用いたデータを記載している  【大飯】 ■記載表現の相違

## 泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について  
別添3. レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震PRA

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>評価手法は地震P.S.A.学会標準に準拠した手法とする。</p> <p>③ フラジリティ評価上の主要な仮定（不確実さの設定、応答係数等）</p> <p>機器フラジリティ評価とは、地震動の入力が増大し、評価対象機器が損傷に至る時点における最大地動加速度を評価尺度として表示するものである。このとき、最大地動加速度Aをフラジリティ加速度と称し、機器フラジリティ解析ではこれを確率量として扱い、以下の式で表す。</p> $A = A_m \cdot \varepsilon_r \cdot \varepsilon_u$ <p>ここで、</p> <p><math>A_m</math>：機器が損傷に達するときの地震動強さ（フラジリティ加速度）Aの中央値</p> <p><math>\varepsilon_r</math>：物理現象固有の偶然的不確実さに起因するばらつきを表す確率密度分布であり、中央値は1.0、対数標準偏差は<math>\beta_r</math>で表わされる。</p> <p><math>\varepsilon_u</math>：認識論的不確実さに起因するばらつきを表す確率密度分布であり、中央値は1.0、対数標準偏差は<math>\beta_u</math>で表わされる。</p>	<p>「耐力係数と応答係数による方法（以下、「安全係数法」という。）」の中から「安全係数法」を選択した。</p> <p>「安全係数法」は後述のとおり、既工認等の地震応答解析結果、耐力係数及び応答係数により評価する。</p> <p>「安全係数法」は十分精度のある設計応答を基に、不確実さの要因を既往知見に基づく係数として積み上げて現実的応答を求める方法であり、不確実さ要因を考慮した応答解析により現実的応答を直接求める手法と同等の結果が得られると考えられる。</p> <p>なお、「安全係数法」は米国において、評価手法として提案され<sup>*13</sup>、約40プラントでの評価実績がある<sup>*14-16</sup>。</p> <p>③ フラジリティ評価上の主要な仮定（不確実さの設定、応答係数等）</p> <p>機器フラジリティ評価とは、地震動の入力が増大し、評価対象機器が損傷に至る時点における最大加速度を評価尺度として表示するものである。このとき、最大加速度Aをフラジリティ加速度と称し、機器フラジリティ解析ではこれを確率量として扱い、以下の式で表す。</p> $A = A_m \cdot \varepsilon_r \cdot \varepsilon_u$ <p>ここで、</p> <p><math>A_m</math>：機器が損傷に達する時の地震動強さ（フラジリティ加速度）Aの中央値</p> <p><math>\varepsilon_r</math>：中央値に対する偶発的不確実さを示すランダム変数。中央値を1として対数標準偏差<math>\beta_r</math>である対数正規分布を仮定する。</p> <p><math>\varepsilon_u</math>：中央値に対する認識論的不確実さによるランダム変数。中央値を1として対数標準偏差<math>\beta_u</math>である対数正規分布を仮定する。</p>	<p>「耐力係数と応答係数による方法（以下、「安全係数法」という。）」の中から「安全係数法」を選択した。（補足3.2.1.c-1）</p> <p>「安全係数法」は後述のとおり、既工認等の地震応答解析結果、耐力係数及び応答係数により評価する。</p> <p>「安全係数法」は十分精度のある設計応答を基に、不確実さの要因を既往知見に基づく係数として積み上げて現実的応答を求める方法であり、不確実さ要因を考慮した応答解析により現実的応答を直接求める手法と同等の結果が得られると考えられる。</p> <p>なお、「安全係数法」は米国において、評価手法として提案され<sup>*13</sup>、約40プラントでの評価実績がある<sup>*14-16</sup>。（補足3.2.1.c-2）</p> <p>③ フラジリティ評価上の主要な仮定（不確実さの設定、応答係数等）</p> <p>機器フラジリティ評価とは、地震動の入力が増大し、評価対象機器が損傷に至る時点における最大加速度を評価尺度として表示するものである。このとき、最大加速度Aをフラジリティ加速度と称し、機器フラジリティ解析ではこれを確率量として扱い、以下の式で表す。</p> $A = A_m \cdot \varepsilon_r \cdot \varepsilon_u$ <p>ここで、</p> <p><math>A_m</math>：機器が損傷に達する時の地震動強さ（フラジリティ加速度）Aの中央値</p> <p><math>\varepsilon_r</math>：中央値に対する偶然的不確実さを示すランダム変数。中央値を1として対数標準偏差<math>\beta_r</math>である対数正規分布を仮定する。</p> <p><math>\varepsilon_u</math>：中央値に対する認識論的不確実さによるランダム変数。中央値を1として対数標準偏差<math>\beta_u</math>である対数正規分布を仮定する。</p>	<p>【女川】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 記載方針の相違             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 泊はフラジリティ評価手法選定の考え方を補足説明資料を作成している（大飯に記載はないが、泊と同様となっている）</li> </ul> </li> </ul> <p>【女川】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 記載方針の相違             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 泊は機器フラジリティの評価方法を補足説明資料を作成している（大飯に記載はないが、泊と同様となっている）</li> </ul> </li> </ul> <p>【女川】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 記載表現の相違             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 泊は学会標準の表記としている</li> </ul> </li> </ul>

## 泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について  
 別添3 レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震PRA

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>フラジリティ加速度Aを累積分布関数で示したものが機器フラジリティ曲線である。</p> <p>なお、フラジリティ評価では、直接Am、<math>\epsilon_R</math>、<math>\epsilon_U</math>からフラジリティ加速度を算定せず、一般に安全係数の概念を用いて下式のように算定する。</p> $Am = F \times Ad \quad (\text{式}1.2.1.c-3-1)$ <p>ここで、</p> <p><b>Am</b>：フラジリティ加速度中央値</p> <p>F：安全係数（裕度）</p> <p>Ad：基準地震動の最大地動加速度</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>記載内容比較のため、別添3-3.2-3.2.1-21ページ（実線部分）に再掲</p> <p>(式1.2.1.c-3-1) の安全係数（裕度）は、(式1.2.1.c-3-2) のように基準とする地震動による現実的な応答に対する機器の現実的な耐力の割合で定義されるが、(式1.2.1.c-3-3) のように評価対象機器の設計応答値に対する現実的な応答の割合（応答に関する安全係数）と現実的な耐力に対する設計応答値の割合（耐力に関する安全係数）に分離して評価する。</p> <p>ただし、入力地震動に対する機器の応答には、機器自身の応答に加えて建屋の応答が影響することから、(式1.2.1.c-3-4) のように応答に関する係数は機器応答係数と建屋応答係数に分割して評価する。</p> </div> <p><math display="block">F = \frac{\text{現実的な耐力}}{\text{現実的な応答}} \quad (\text{式}1.2.1.c-3-2)</math></p> <p><math display="block">= \frac{\text{設計応答値}}{\text{現実的な応答}} \times \frac{\text{現実的な耐力}}{\text{設計応答値}} \quad (\text{式}1.2.1.c-3-3)</math></p> <p>応答に関する係数 耐力に関する係数</p> <p><math display="block">\therefore F = F_{ER} \times F_{SR} \times F_{EC} \quad (\text{式}1.2.1.c-3-4)</math></p> <p>ここで、</p>	<p>フラジリティ加速度Aを累積分布関数で示したものが機器フラジリティ曲線である。</p> <p>なお、フラジリティ評価では、直接Am、<math>\epsilon_r</math>及び<math>\epsilon_u</math>からフラジリティ加速度を算定せず、一般に安全係数の概念を用いて下式の様に算定する。</p> $Am = F \cdot Ad \quad (\text{式}3.2.1-1)$ <p>ここで、</p> <p>F : 安全係数（裕度）</p> <p>Ad : 基準地震動の最大加速度</p> <p><math display="block">F = \frac{\text{現実的な耐力}}{\text{現実的な応答}} \quad (\text{式}3.2.1-2)</math></p> <p><math display="block">= \frac{\text{設計応答値}}{\text{現実的な応答}} \times \frac{\text{現実的な耐力}}{\text{設計応答値}}</math></p> <p>応答に関する安全係数 耐力に関する安全係数</p> <p><math display="block">\therefore F = F_C \times F_{RE} \times F_{RS} \quad (\text{式}3.2.1-3)</math></p> <p>ここで、</p>	<p>フラジリティ加速度Aを累積分布関数で示したものが機器フラジリティ曲線である。</p> <p>なお、フラジリティ評価では、直接A<sub>m</sub>、<math>\epsilon_r</math>及び<math>\epsilon_u</math>からフラジリティ加速度を算定せず、一般に安全係数の概念を用いて下式の様に算定する。</p> $A_m = F \cdot A_d \quad (\text{式}3.2.1-1)$ <p>ここで、</p> <p>F : 安全係数（裕度）</p> <p>A<sub>d</sub> : 基準地震動の最大地動加速度</p> <p><math display="block">F = \frac{\text{現実的な耐力}}{\text{現実的な応答}} \quad (\text{式}3.2.1-2)</math></p> <p><math display="block">= \frac{\text{設計応答値}}{\text{現実的な応答}} \times \frac{\text{現実的な耐力}}{\text{設計応答値}}</math></p> <p>応答に関する安全係数 耐力に関する安全係数</p> <p><math display="block">\therefore F = F_{EC} \times F_{ER} \times F_{SR} \quad (\text{式}3.2.1-3)</math></p> <p>ここで、</p>	<p>【大飯】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■記載方針の相違</li> <li>・Amの説明については記載済みであるため記載していない</li> </ul> <p>【大飯】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■記載箇所の相違</li> <li>・泊はF（安全係数（裕度））の式の後に説明を記載している</li> </ul> <p>【女川】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■記載表現の差異</li> </ul>

## 泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について  
別添3 レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震PRA

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>F<sub>ER</sub>：機器応答に関する係数 F<sub>SR</sub>：建屋応答に関する係数 F<sub>EC</sub>：耐力に関する係数</p> <p>記載内容比較のため、別添3-3.2-3.2.1-20ページ（点線部分）を再掲</p> <p>（式1.2.1.c-3-1）の安全係数（裕度）は、（式1.2.1.c-3-2）のように基準とする地震動による現実的な応答に対する機器の現実的な耐力の割合で定義されるが、（式1.2.1.c-3-3）のように評価対象機器の設計応答値に対する現実的な応答の割合（応答に関する安全係数）と現実的な耐力に対する設計応答値の割合（耐力に関する安全係数）に分離して評価する。</p> <p>ただし、入力地震動に対する機器の応答には、機器自身の応答に加えて建屋の応答が影響することから、（式1.2.1.c-3-4）のように応答に関する係数は機器応答係数と建屋応答係数に分割して評価する。</p> <p>機器応答係数F<sub>ER</sub>、建屋応答係数F<sub>SR</sub>及び耐力係数F<sub>EC</sub>は、それぞれ（式1.2.1.c-3-5）、（式1.2.1.c-3-6）、（式1.2.1.c-3-7）に示す係数に分離して評価する。これらの係数は、フラジリティ評価上に存在する各種の不確実さ要因を評価したものであり、すべて対数正規分布する確率量と仮定する。不確実さ要因の整理結果を第1.2.1.c-3-1表に示す。</p> <p><math>F_{ER} = F_{ESS} \cdot F_D \cdot F_EM \cdot F_EMC</math> (式1.2.1.c-3-5)  <math>F_{SR} = F_{SS} \cdot F_\delta \cdot F_M \cdot F_NL</math> (式1.2.1.c-3-6)  <math>F_{EC} = F_S \cdot F_\mu</math> (式1.2.1.c-3-7)</p> <p>ここで、  F<sub>ESS</sub>：機器応答評価用入力地震動に関する係数  F<sub>D</sub>：機器の設計用減衰定数に関する係数  F<sub>EM</sub>：機器の解析モデル化に関する係数  F<sub>EBC</sub>：機器のモード合成に関する係数  F<sub>SS</sub>：入力地震動のスペクトル形状に関する係数  F<sub>\delta</sub>：建屋の減衰に関する係数  F<sub>M</sub>：建屋のモデル化に関する係数  F<sub>NL</sub>：建屋の非線形応答に関する係数</p>	<p>F<sub>c</sub>：機器の耐力係数 F<sub>RE</sub>：機器の応答係数 F<sub>RS</sub>：建屋の応答係数</p> <p>（式3.2.1-1）の安全係数（裕度）は、（式3.2.1-2）のように基準とする地震動による現実的な応答に対する機器の現実的な耐力の割合で定義されるが、（式3.2.1-3）のように評価対象機器の設計応答値に対する現実的な応答の割合（応答に関する安全係数）と現実的な耐力に対する設計応答値の割合（耐力に関する安全係数）に分離して評価する。</p> <p>ただし、入力地震動に対する機器の応答には、機器自身の応答に加えて建屋の応答が影響することから、応答に関する係数は機器の応答係数F<sub>RE</sub>と建屋の応答係数F<sub>RS</sub>に分割して評価する。</p> <p>耐力係数F<sub>c</sub>、機器応答係数F<sub>RE</sub>及び建屋応答係数F<sub>RS</sub>は、それぞれ以下に示す係数に分離して評価する。これらの係数は、さらにいくつかの係数から構成されている。また、これらの係数は、フラジリティ評価上に存在する各種の不確実さ要因を評価したものであり、全て対数正規分布する確率量と仮定する。不確実さ要因の整理結果を第3.2.1.c-2-1表に示す。</p> <p>機器の耐力係数：F<sub>c</sub>  <math>F_c = F_s \cdot F_\mu</math></p> <p>ここで、  F<sub>s</sub>：強度係数  F<sub>\mu</sub>：塑性エネルギー吸収係数</p> <p>機器の応答係数：F<sub>RE</sub>  <math>F_{RE} = F_{SA} \cdot F_D \cdot F_M \cdot F_EMC</math></p> <p>ここで、  F<sub>SA</sub>：スペクトル形状係数</p>	<p>F<sub>EC</sub>：機器の耐力係数 F<sub>ER</sub>：機器の応答係数 F<sub>SR</sub>：建屋の応答係数</p> <p>（式3.2.1-1）の安全係数（裕度）は、（式3.2.1-2）のように基準とする地震動による現実的な応答に対する機器の現実的な耐力の割合で定義されるが、（式3.2.1-3）のように評価対象機器の設計応答値に対する現実的な応答の割合（応答に関する安全係数）と現実的な耐力に対する設計応答値の割合（耐力に関する安全係数）に分離して評価する。</p> <p>ただし、入力地震動に対する機器の応答には、機器自身の応答に加えて建屋の応答が影響することから、応答に関する係数は機器の応答係数F<sub>ER</sub>と建屋の応答係数F<sub>SR</sub>に分割して評価する。</p> <p>耐力係数F<sub>EC</sub>、機器応答係数F<sub>ER</sub>及び建屋応答係数F<sub>SR</sub>は、それぞれ以下に示す係数に分離して評価する。これらの係数は、さらにいくつかの係数から構成されている。また、これらの係数は、フラジリティ評価上に存在する各種の不確実さ要因を評価したものであり、すべて対数正規分布する確率量と仮定する。不確実さ要因の整理結果を第3.2.1.c-3-1表に示す。</p> <p>機器の耐力係数：F<sub>EC</sub>  <math>F_{EC} = F_S \cdot F_\mu</math></p> <p>ここで、  F<sub>S</sub>：強度係数  F<sub>\mu</sub>：塑性エネルギー吸収係数</p> <p>機器の応答係数：F<sub>ER</sub>  <math>F_{ER} = F_{ESS} \cdot F_D \cdot F_EM \cdot F_EMC</math></p> <p>ここで、  F<sub>ESS</sub>：スペクトル形状係数</p>	<p>泊はPWRで共通的に使用されている文字を係数として記載しているが、係数の内容は同じであり、フラジリティ評価への影響はない (以下、相違理由説明を省略)</p> <p>【大飯】 ■記載箇所の相違</p> <p>【女川】 ■記載表現の相違 ・全て⇒すべて (以下、相違理由説明を省略)</p>

## 泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について  
 別添3 レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震PRA

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
F <sub>s</sub> ：機器の限界強度に関する係数  F <sub>μ</sub> ：機器の塑性化によるエネルギー吸収効果に関する係数	F <sub>D</sub> ：減衰係数  F <sub>M</sub> ：モデル化係数  F <sub>MC</sub> ：モード合成係数   建屋の応答係数：F <sub>RS</sub>  $F_{RS} = F_1 \cdot F_2 \cdot F_3$ ここで、 F <sub>1</sub> ：解放基盤表面の地震動に関する係数   F <sub>2</sub> ：建屋への入力地震動に関する係数   F <sub>3</sub> ：建屋の地震応答に関する係数   ここで、建屋の応答係数について、第3.2.1.c-2-2表の値を使用する。	F <sub>D</sub> ：減衰係数  F <sub>EM</sub> ：モデル化係数  F <sub>MC</sub> ：モード合成係数   建屋の応答係数：F <sub>SR</sub>  $F_{SR} = F_{SS} \cdot F_{\delta} \cdot F_M \cdot F_{NL}$ ここで、 F <sub>SS</sub> ：入力地震動のスペクトル形状に関する係数   F <sub>δ</sub> ：建屋の減衰に関する係数  F <sub>M</sub> ：建屋のモデル化に関する係数  F <sub>NL</sub> ：建屋の非線形応答に関する係数   ここで、建屋の応答係数について、第3.2.1.c-3-2表の値を使用する。	(相違理由については以下の各係数の箇所に記載)  【女川】 ■記載方針の相違 ・F <sub>SS</sub> はF <sub>1</sub> を細分化したサブ応答係数であるが、表現の相違であり、評価内容に相違はない（大飯と同様）  【女川】 ■施設構造の相違 ・本係数は、地盤モデルに関する設計上の裕度を評価するものであり、泊は直接入力していることから、考慮不要な係数である（大飯についても泊と同様）  【女川】 ■記載方針の相違 ・泊はF <sub>3</sub> をF <sub>δ</sub> 、F <sub>M</sub> 、F <sub>NL</sub> に細分化したサブ応答係数あるが、表現の相違であり、評価内容に相違はない（大飯と同様） (以下、相違理由説明を省略)
④ フラジリティ評価における耐力情報  評価部位、損傷モード（応力種類）についてはその機器において最も耐震性の低いものを選び、設定した。耐力値はその評価部位に使われる部材のJSMEに記載されている許容値を適用した。確率分布については、中央値に関する不確実さの要素について、加振試験結果や文献値、工学的判断等によって評価し、 $\beta_R$ ・	④ フラジリティ評価における耐力情報  評価部位及び損傷モード（応力種類）は、その機器において耐震評価上最も裕度の低いものを選定した。耐力値は、その評価部位に使われる部材の、「JSME発電用原子力設備規格 設計・建設規格」（以下、「設計・建設規格」という。）に記載されている許容値に基づく現実的値を適用した。確率分布は、中央値に関する不確実さの要素について、加振試験結果や文献値、工学的判断等によって評価し、 $\beta_R$ ・	④ フラジリティ評価における耐力情報  評価部位及び損傷モード（応力種類）は、その機器において最も耐震性の低いものを選定した。耐力値は、その評価部位に使われる部材の、「JSME発電用原子力設備規格 設計・建設規格」（以下、「設計・建設規格」という。）に記載されている許容値に基づく現実的値を適用した。確率分布は、中央値に関する不確実さの要素について、加振試験結果や文献値、工学的判断等によって評価し、 $\beta_R$ ・	【女川】 ■評価方針の相違 ・女川は裕度のみに着目しているが、泊はフラジリティが最弱のものを選定している（大飯と同様）

## 泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について  
別添3 レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震PRA

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
$\beta_{\text{E}}$ として量化して考慮した。  なお、評価部位及び損傷モードの指標については耐震評価で考慮されている。  ⑤フラジリティ評価における応答情報 評価部位、損傷モード（応力種類）についてはその機器において最も耐震性の低いものを選び、設定した。応答値はその部位にかかる発生応力を設定した。確率分布については、中央値に関する不確実さの要素について、加振試験結果や文献値、工学的判断等によって評価し、 $\beta_{\text{R}}$ ・ $\beta_{\text{E}}$ として量化して考慮した。 なお、機器応答の伝達特性については耐震評価で考慮されている。  ⑥機器のフラジリティ評価結果 機器フラジリティ評価結果を第1.2.1.a-4表に示す。 機器フラジリティ評価は、その評価上の特徴を踏まえ、「主機」、「補機」、「電気盤・計装」、「動的機器」及び「配管」の5グループに分類した。  5グループの考え方については以下のとおり。  主機：1次冷却材バウンダリ設備で、多質点系時刻歴解析評価が主となる機器の構造損傷 補機：上記主機以外で、スペクトルモーダル解析評価が主となる機器の構造損傷 動的機器：ポンプ、内燃機関、電動弁等の動的機器の機能損傷 電気盤・計装：電気盤、計装品等の電気的機器の機能損傷 配管：配管・弁等の構造損傷 また、グループごとにFV重要度を参照して代表機器を抽出し、その評価の具体例を(1)～(5)に示す。	る不確実さの要素について、加振試験結果、文献値、工学的判断等によって評価し、 $\beta_{\text{R}}$ 、 $\beta_{\text{E}}$ として量化して考慮した。 なお、評価部位及び損傷モードの指標については、既工認等における耐震解析で考慮されている。  ⑤フラジリティ評価における応答情報 評価部位及び損傷モード（応力種類）は、その機器において耐震評価上最も裕度の低いものを選定した。応答値はその部位にかかる発生応力を設定した。確率分布については、中央値に関する不確実さの要素について、加振試験結果、文献値、工学的判断等によって評価し、 $\beta_{\text{R}}$ 、 $\beta_{\text{E}}$ として量化して考慮した。 なお、機器応答の伝達特性については、既工認等における耐震解析で考慮されている。  ⑥機器のフラジリティ評価結果 機器フラジリティ評価結果を第3.2.1.a-4表に示す。 機器フラジリティ評価は、その評価上の特徴を踏まえ、「大型機器」、「静的機器」、「動的機器」、「電気盤・計装」及び「配管」の5グループに分類した。  また、グループ毎に代表機器をFV重要度より抽出し、その評価の具体例を以下に示す。	実さの要素について、加振試験結果、文献値、工学的判断等によって評価し、 $\beta_{\text{R}}$ 、 $\beta_{\text{E}}$ として量化して考慮した。 なお、評価部位及び損傷モードの指標については、既工認等における耐震解析で考慮されている。  ⑤フラジリティ評価における応答情報 評価部位及び損傷モード（応力種類）は、その機器において最も耐震性の低いものを選定した。応答値はその部位にかかる発生応力を設定した。確率分布については、中央値に関する不確実さの要素について、加振試験結果、文献値、工学的判断等によって評価し、 $\beta_{\text{R}}$ 、 $\beta_{\text{E}}$ として量化して考慮した。 なお、機器応答の伝達特性については、既工認等における耐震解析で考慮されている。  ⑥機器のフラジリティ評価結果 機器フラジリティ評価結果を第3.2.1.a-5表に示す。 機器フラジリティ評価は、その評価上の特徴を踏まえ、「大型機器」、「静的機器」、「動的機器」、「電気盤・計装」及び「配管」の5グループに分類した。  5グループの分類の考え方については以下のとおり。  大型機器：1次冷却材バウンダリ設備で、多質点系時刻歴解析評価が主となる機器の構造損傷 静的機器：上記大型機器以外で、スペクトルモーダル解析評価が主となる機器の構造損傷 動的機器：ポンプ、内燃機関、電動弁等の動的機器の機能損傷 電気盤・計装：電気盤、計装品等の電気的機器の機能損傷 配管：配管・弁等の構造損傷 また、グループごとに代表機器をFV重要度より抽出し、その評価の具体例を以下に示す。	<p>同様)</p> <p>【女川】 ■評価方針の相違 ・女川は裕度のみに着目しているが、泊はフラジリティが最弱のものを選定している（大飯と同様）</p> <p>【大飯】 ■記載表現の相違 ・主機⇒大型機器 ・補記⇒静的機器 (以下、相違理由説明を省略)</p> <p>【女川】 ■記載方針の相違 ・記載の充実のため、泊は5グループの分類の考え方を記載しており、女川に記載がないため大飯と比較する</p> <p>【大飯】 ・泊の構成に合わせて大飯の「動的機器」と「電気盤」の記載順序を入れ替えている</p> <p>【女川】 ■記載表現の相違</p>

## 泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について  
 別添3 レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震PRA

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>(1) 主機（蒸気発生器伝熱管）                      評価対象機器の諸元を以下に示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・設置位置：原子炉建屋 内部コンクリートE.L. 39.5m</li> <li>・耐震クラス：S</li> <li>・固有振動数：5.7Hz</li> </ul> <p>・評価対象部位及び評価応力：                      下表の耐震評価結果に示す。これを基にフラジリティを算出した。</p>	<p>(1) 大型機器（原子炉圧力容器）                      評価対象機器の諸元及び耐震評価結果を以下に示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・評価対象機器：制御棒駆動機構ハウジング貫通孔</li> <li>・設置位置：原子炉圧力容器下部</li> <li>・耐震クラス：S</li> <li>・固有振動数：柔構造</li> <li>・評価地震動：最大加速度 1000ガル (S s - 2)</li> <li>・評価項目：構造損傷（バウンダリ機能）</li> <li>・評価対象部位：スタブチューブ</li> <li>・評価応力：軸圧縮応力</li> </ul> <p>第3.2.1.c-2-3表に、制御棒駆動機構ハウジング貫通孔の耐震評価結果を示す。                      第3.2.1.c-2-3表をもとにフラジリティを算出した。</p>	<p>(1) 大型機器（1次冷却材ポンプ）                      評価対象機器の諸元及び耐震評価結果を以下に示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・評価対象機器：1次冷却材ポンプ</li> <li>・設置位置：原子炉格納容器 T.P. 17.8m</li> <li>・耐震クラス：S</li> <li>・固有振動数：柔構造</li> <li>・評価地震動：最大加速度 550Gal (S<sub>s1</sub>)</li> <li>・評価項目：構造損傷（バウンダリ機能）</li> <li>・評価対象部位：上部支持構造物</li> <li>・評価応力：組合せ応力</li> </ul> <p>第3.2.1.c-3-3表に、1次冷却材ポンプ上部支持構造物の耐震評価結果を示す。                      第3.2.1.c-3-3表を基にフラジリティを算出した。</p>	<p>・毎々ごと</p> <p>【女川】【大飯】                      ■個別評価による相違                      • FV重要度が異なるため、代表機器も異なる                      【女川】                      ■記載表現の相違                      • ガル↔Gal                      (以下、相違理由説明を省略)</p> <p>【女川】                      ■記載表現の相違                      • もとに⇨基に                      (以下、相違理由説明を省略)</p> <p>【大飯】                      ■記載箇所の相違                      • 女川実績の反映                      • 泊は第3.2.1.c-3-3表で整理している</p>
<p>a. 機器耐力係数F<sub>EC</sub>の評価                      (a) 強度に関する係数F<sub>s</sub>の評価                      本係数は、次式により評価する。</p> $F_s = \frac{\sigma_c - \sigma_N}{\sigma_T - \sigma_N}$ <p>ここで、σ<sub>c</sub>：限界応力の中央値                      σ<sub>T</sub>：地震時発生応力                      σ<sub>N</sub>：通常運転時応力                      評価対象部位である伝熱管の材質はTT690合金であることから、限界応力としてJ.SME発電用原子力設備規格設計・建設規格（2005年度版）第I編付録図表Part5の引張応力S<sub>u</sub>=539N/mm<sup>2</sup></p>	<p>a. 機器の耐力係数F<sub>EC</sub>の評価                      (a) 強度係数F<sub>s</sub>の評価                      本係数は、設計応力に対する限界応力の持つ裕度を評価するものであり、次式により評価する。</p> $F_s = \frac{\sigma_c - \sigma_N}{\sigma_T - \sigma_N}$ <p>ここで、σ<sub>c</sub>：限界応力の中央値                      σ<sub>T</sub>：地震時発生応力                      σ<sub>N</sub>：通常運転時応力                      評価対象部位であるスタブチューブの材質(NCF600)から、限界応力として「設計・建設規格」の第I編付録材料図表Part7によりB=84N/mm<sup>2</sup>（評価温度：289°C）を採用する。B値とは板厚や</p>	<p>a. 機器の耐力係数F<sub>EC</sub>の評価                      (a) 強度係数F<sub>s</sub>の評価                      本係数は、設計応力に対する限界応力の持つ裕度を評価するものであり、次式により評価する。</p> $F_s = \frac{\sigma_c - \sigma_N}{\sigma_T - \sigma_N}$ <p>ここで、σ<sub>c</sub>：限界応力の中央値                      σ<sub>T</sub>：地震時発生応力                      σ<sub>N</sub>：通常運転時応力                      本機器における組合せ応力の評価は許容応力と地震応力の比を示す評価式となっているため、耐震評価による裕度をF<sub>s</sub>として設定し、不確実さは考慮しない。</p>	<p>【女川】【大飯】                      ■個別評価による相違                      • 評価対象の応力種類が異なる</p>

## 泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について  
 別添3 レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震 PRA

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>(評価温度336°C) を通常では採用するが、本伝熱管はストレステスト時に限界値として全断面降伏による崩壊応力値を採用している。</p> <p>したがって、耐震評価の許容値をそのまま適用し、以下とする。</p> $\sigma_c = 722 \text{ N/mm}^2$ <p>なお、通常運転時応力は耐震評価の時点で考慮されていないため、0とする。</p> $\sigma_N = 0 \text{ N/mm}^2$ <p>以上より、強度に関する係数 <math>F_s</math> は、以下のとおりとなる。</p> $F_s = \frac{\sigma_c}{\sigma_T} = \frac{722}{318} = 2.27$ <p>なお、本評価では <math>1.1 \times S_u</math> は適用されないが、マージンを撤廃した耐力を耐震評価時に適用しているため、不確実さ <math>\beta_u</math> として、限界応力の中央値 <math>1.1 \times S_u</math> に対する下記式（告示値 <math>S_u</math> が95%信頼下限に相当すると考える）を適用する。</p> $\beta_u = \frac{1}{1.65} \ln \left( \frac{1.1 \times S_u}{S_u} \right) = 0.06 \quad (\beta_R = 0)$ <p>(b) 塑性エネルギー吸収効果に関する係数 <math>F_\mu</math></p>	<p>ヤング率等で設定される数値で円筒形設備の圧縮荷重に対して適用される許容基準である。</p> <p>なお、国内文献<sup>17</sup>より上記規格値に含まれる安全率2.0倍を考慮して限界応力の中央値とする。</p> <p>従って、</p> $\sigma_c = 2.0 \times B = 2.0 \times 84 = 168 \text{ N/mm}^2$ <p>以上より、強度係数 <math>F_s</math> は、以下の通りとなる。</p> $F_s = \frac{\sigma_c - \sigma_N}{\sigma_T - \sigma_N} = \frac{168 - 7}{54 - 7} = 3.43$ <p>不確実さは、座屈応力評価式や安全率に含まれる不確実さが支配的と考えられるが、残留応力や局所的なひずみの影響によるランダム性の不確実さも考えられるため <math>\beta_r : \beta_u = 1 : 2</math> として算定する。この場合、設計許容値 <math>B</math> 値が99%下限値に相当するものとして不確実さを算定する。</p> $\beta_c = \frac{1}{2.33} \ln \left( \frac{2 \times B}{B} \right) = 0.30$ $\beta_r = \frac{1}{\sqrt{5}} \beta_c = 0.13$ $\beta_u = \frac{2}{\sqrt{5}} \beta_c = 0.27$ <p>以上より、本係数及び不確実さは以下の値とする。</p> $F_s = 3.43 \quad \beta_r = 0.13, \quad \beta_u = 0.27$ <p>(b) 塑性エネルギー吸収係数 <math>F_\mu</math> の評価</p>	<p>以上より、本係数及び不確実さは以下の値とする。</p> $F_s = 1.40, \quad \beta_r = 0.00, \quad \beta_u = 0.00$ <p>(b) 塑性エネルギー吸収係数 <math>F_\mu</math> の評価</p>	<p>ため、計算方法が異なる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大飯では、一次膜+曲げ応力に対する評価であり、女川では、軸圧縮応力に対する評価をしているが、泊では、組合せ応力に対する評価となることから、それぞれの応力に対する評価の内容が異なる</li> <li>・泊の本機器は、評価応力が組合せ応力であり、保守的な設定として、設計許容値を限界応力の中央値とみなして、<math>F_s</math> を評価している</li> <li>・また、<math>F_s</math> を保守的に設定していることから不確実さは考慮していない</li> <li>・なお、これらの組合せ応力に対する <math>F_s</math> の評価の方法は、大飯を含め他のPWRプラントでも同様である</li> </ul> <p>【女川】【大飯】      ■評価結果の相違      (以下、相違理由説明を省略)</p>

## 泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について  
 別添3 レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震PRA

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>伝熱管のような鋼構造機器では評価対象部位の降伏後の塑性変形による機器全体系としてのエネルギー吸収効果が期待できる。</p> <p>したがって、<math>F_\mu</math>は塑性率<math>\mu = 3.0</math>を適用して、Newmarkのエネルギー等価式より下記のように算出される。</p> $F_\mu = \sqrt{2\mu - 1} = 2.24$ <p>ここで、<math>\mu</math>：塑性率=3.0（鋼構造）      また、不確実さは次式により算定する。</p> $\beta_c = \frac{1}{3} \ln(F_\mu)$ $\beta_R = \beta_U = \frac{1}{\sqrt{2}} \beta_c = 0.19$ <p>以上より、本係数及び不確実さは以下の値とする。  <math>F_\mu = 1.00 \quad \beta_r = 0.00, \quad \beta_u = 0.00</math></p> <p>b. 機器応答係数<math>F_{ER}</math></p> <p>(a) 床応答スペクトルの拡幅に関する係数<math>F_{ESS}</math></p> <p>本係数は、設計で用いられる床応答スペクトルの拡幅に含まれる裕度を評価するものであり、次式により評価する。</p> $F_{ESS} = \frac{S_a \text{ (拡幅あり)}}{S_a \text{ (拡幅なし)}}$ <p><math>S_a</math>：機器の固有振動数における応答加速度</p> <p>ただし、本伝熱管は拡幅無の床応答スペクトルを適用して耐震評価を実施しているため、本係数は考慮しない。</p>	<p>本係数は、塑性変形によるエネルギー吸収による裕度を評価するものである。</p> <p>座屈評価においては、弾性範囲内で座屈が生じると考えられるため塑性変形によるエネルギー吸収効果が期待できないことから考慮しない。</p> <p>以上より、本係数及び不確実さは以下の値とする。  <math>F_\mu = 1.00 \quad \beta_r = 0.00, \quad \beta_u = 0.00</math></p> <p>b. 機器の応答係数<math>F_{RE}</math>の評価</p> <p>(a) スペクトル形状係数<math>F_{SA}</math>の評価</p> <p>本係数は、設計で用いられる床応答スペクトルの拡幅に含まれる裕度を評価するものであり、次式により評価する。なお、スペクトル形状係数の概念図を第3.2.1.c-2-1図に示す。</p> $F_{SA} = \frac{\text{拡幅後の床応答スペクトルによる応答加速度}}{\text{拡幅前の床応答スペクトルによる応答加速度}}$ <p>本機器については時刻歴解析を適用しており、床応答スペクトルを使用していないため考慮しない。</p>	<p>本係数は、塑性変形によるエネルギー吸収による裕度を評価するものである。</p> <p>支持構造物のような鋼構造機器では評価対象部位の降伏後の塑性変形による機器全体系としてのエネルギー吸収効果が期待できる。</p> <p>したがって、<math>F_\mu</math>は塑性率<math>\mu = 3.0</math>を適用して、Newmarkのエネルギー等価式より下記のように算出される。</p> $F_\mu = \sqrt{2\mu - 1} = 2.24$ <p>ここで、<math>\mu</math>：塑性率=3.0（鋼構造）      また、不確実さは次式により算定する。</p> $\beta_c = \frac{1}{3} \ln(F_\mu)$ $\beta_r = \beta_u = \frac{1}{\sqrt{2}} \beta_c = 0.19$ <p>以上より、本係数及び不確実さは以下の値とする。  <math>F_\mu = 2.24, \quad \beta_r = 0.19, \quad \beta_u = 0.19</math></p> <p>b. 機器の応答係数<math>F_{ER}</math>の評価</p> <p>(a) スペクトル形状係数<math>F_{ESS}</math>の評価</p> <p>本係数は、設計で用いられる床応答スペクトルの拡幅に含まれる裕度を評価するものであり、次式により評価する。なお、スペクトル形状係数の概念図を第3.2.1.c-3-1図に示す。</p> $F_{ESS} = \frac{\text{拡幅後の床応答スペクトルによる応答加速度}}{\text{拡幅前の床応答スペクトルによる応答加速度}}$ <p>本機器は建屋ループ連成解析による荷重を考慮した耐震評価を実施しているため、荷重にかけられている設計マージン1.30を係数として考慮する。</p>	<p>【女川】      ■個別評価による相違      ・評価対象部位の構造が異なるため、泊では本係数を考慮する      ・大飯と泊では、鋼構造機器の塑性変形によるエネルギー吸収を期待した評価をしているが、女川では、座屈評価の場合には保守的な評価として塑性変形によるエネルギー吸収を期待していない      ・泊での係数設定の考え方は、機器の部材が塑性変形することによる機器全体系としてのエネルギー吸収効果を期待するものであり、塑性率<math>\mu</math>はNewmarkの文献に記載されている鋼構造機器に対する値を採用している      ・塑性変形による機器全体系としてのエネルギー吸収効果が期待できる機器に対しては、大飯を含め他のPWRプラントでも同様である</p> <p>【女川】【大飯】      ■個別評価による相違      ・評価対象機器の設計での応答</p>

## 泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について  
 別添3. レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震PRA

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>以上より、  <math>F_{ESS}=1.0, \beta_R=\beta_U=0</math></p> <p>(b) 設計用減衰定数に関する係数 <math>F_D</math>          本係数は、機器の損傷時の減衰定数の中央値に対する設計用減衰定数が持つ裕度を評価するものであり、次式により評価する。</p> $F_D = \frac{S_a \text{ (設計用減衰定数)}}{S_a \text{ (損傷時の減衰定数中央値)}}$ <p>ただし、本伝熱管に適用されている減衰定数は中央値と考えられるため、本係数は考慮しない。          以上より、  <math>F_D=1.0, \beta_R=\beta_U=0</math></p>	<p>以上より、本係数及び不確実さは以下の値とする。  <math>F_{SA}=1.00, \beta_r=0.00, \beta_u=0.00</math></p> <p>(b) 減衰係数 <math>F_D</math> の評価          本係数は、現実的減衰定数の中央値に対する設計用減衰定数が持つ裕度を評価するものであり、次式により評価する。なお、減衰係数の概念図を第3.2.1.c-2図に示す。</p> $F_D = \frac{\text{設計用減衰定数での応答値}}{\text{減衰定数の中央値での応答値}}$ <p>以上より、本係数及び不確実さは以下の値とする。  <math>F_D=1.00, \beta_r=0.00, \beta_u=0.00</math></p>	<p>以上より、本係数及び不確実さは以下の値とする。  <math>F_{ESS}=1.30, \beta_r=0.00, \beta_u=0.00</math></p> <p>(b) 減衰係数 <math>F_D</math> の評価          本係数は、現実的減衰定数の中央値に対する設計用減衰定数が持つ裕度を評価するものであり、次式により評価する。なお、減衰係数の概念図を第3.2.1.c-2図に示す。</p> $F_D = \frac{\text{設計用減衰定数での応答値}}{\text{減衰定数の中央値での応答値}}$ <p>以上より、本係数及び不確実さは以下の値とする。  <math>F_D=1.00, \beta_r=0.00, \beta_u=0.00</math></p>	<p>解析の方法が異なるため、本係数で考慮する内容が異なる          ・泊の本機器では、建屋ループ連成解析により耐震評価が行われており、設計マージンが荷重にかけられているため、これを応答の保守性として本係数で考慮する扱いとしている          ・このマージンには不確実さは存在しないため <math>\beta_r</math> 及び <math>\beta_u</math> は考慮していない          ・なお、泊の本機器のように建屋ループ連成解析による荷重を考慮した耐震評価を実施している機器については、大飯を含め他のPWRプラントでも同様である          ・なお、大飯では、拡幅による設計マージンがない床応答曲線で耐震評価が行われていることから、本係数は考慮していない          ・女川では、時刻歴解析で耐震評価されていて床応答曲線を用いていないため、本係数は考慮していない</p> <p>【大飯】      ■個別評価による相違      ・女川と泊では、保守的な評価として、設計用減衰定数を中央</p>

## 泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について  
 別添3 レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震PRA

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>(c) 機器の解析モデル化に関する係数 <math>F_{EM}</math></p> <p>機器の解析モデル化は妥当であり、中央値に相当すると考える。</p> <p>また、伝熱管の耐震評価は、多質点系モデルを用いて行われており、モデル化に関する不確実さ <math>\beta_u</math> は以下の値とする。</p> <p><math>F_{EM}=1.0, \beta_g=0, \beta_u=0.15</math></p>	<p>(c) モデル化係数 <math>F_M</math> の評価</p> <p>本係数は、機器のモデル化におけるモデル形状・諸元等の実機との差などに起因する保守性及び不確実さを評価するものである。</p> <p>本機器の解析モデル化は妥当であり、中央値に相当すると考える。</p> <p>また、本機器の耐震評価は多質点系モデルを用いて行われているため、不確実さは海外文献<sup>*13</sup>より0.15とする。</p> <p>以上より、本係数及び不確実さは以下の値とする。</p> <p><math>F_M=1.00, \beta_r=0.00, \beta_u=0.15</math></p>	<p>(c) モデル化係数 <math>F_{EM}</math> の評価</p> <p>本係数は、機器のモデル化におけるモデル形状・諸元等の実機との差等に起因する保守性及び不確実さを評価するものである。</p> <p>本機器の解析モデル化は妥当であり、中央値に相当すると考える。</p> <p>また、本機器の耐震評価は建屋連成解析モデルを用いて行われており、モデル化に関する不確実さは、建屋応答係数に含まれるため、本係数では考慮しない。</p> <p>以上より、本係数及び不確実さは以下の値とする。</p> <p><math>F_{EM}=1.00, \beta_r=0.00, \beta_u=0.00</math></p>	<p>値と見なして評価している</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>なお、大飯における本機器では、設計の耐震評価で減衰定数の中央値を使用しているため、本係数は考慮していない</li> </ul> <p>【女川】</p> <p>■記載表現の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>など⇒等</li> <li>(以下、相違理由説明を省略)</li> </ul> <p>【女川】【大飯】</p> <p>■個別評価による相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大飯と女川では、多質点系モデルを用いた耐震評価を実施していることから、海外文献値の <math>\beta_u</math> を採用している</li> <li>泊では、建屋連成解析モデルを使用した耐震評価であることから、本機器のモデルは建屋のモデルに含まれているため、モデル化の不確実さは、建屋応答係数 <math>F_M</math> に含まれる</li> <li>したがって、本係数は考慮していない</li> <li>なお、建屋連成解析モデルで耐震評価されている機器については、大飯を含め他のPWRプラントでも同様である</li> </ul>
<p>(d) モード合成法に関する係数 <math>F_{EMC}</math></p> <p>伝熱管は多質点系でモデル化されるため、モード合成を考慮する必要があるため、本係数及び不確実さは以下の値とする。</p> <p><math>F_{EMC}=1.0, \beta_g=0.15, \beta_u=0</math></p>	<p>(d) モード合成係数 <math>F_{MC}</math> の評価</p> <p>本係数は、機器の地震応答がスペクトルモーダル解析で評価されている場合に、モード合成に起因する保守性及び不確実さを評価するものである。</p> <p>本機器については時刻歴解析を適用しており、スペクトルモーダル解析を実施していないため考慮しない。</p> <p>以上より、本係数及び不確実さは以下の値とする。</p> <p><math>F_{MC}=1.00, \beta_r=0.00, \beta_u=0.00</math></p>	<p>(d) モード合成係数 <math>F_{EMC}</math> の評価</p> <p>本係数は、機器の地震応答がスペクトルモーダル解析で評価されている場合に、モード合成に起因する保守性及び不確実さを評価するものである。</p> <p>本機器については時刻歴解析を適用しており、スペクトルモーダル解析を実施していないため考慮しない。</p> <p>以上より、本係数及び不確実さは以下の値とする。</p> <p><math>F_{EMC}=1.00, \beta_r=0.00, \beta_u=0.00</math></p>	<p>【大飯】</p> <p>■個別評価による相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>耐震解析の方法が異なるため、係数の内容が異なる</li> </ul>

## 泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について

別添 3. レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震PRA

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>c. 建屋応答係数 <math>F_{SR}</math> (建屋非線形応答に関する係数 <math>F_{NL}</math>)</p> <p>建屋応答に関する各係数のうち建屋非線形応答に関する係数 <math>F_{NL}</math>以外の係数については、第1.2.1.c-3-2表に示す建屋応答係数を用いる。以下では <math>F_{NL}</math>についてのみ示す。</p>	<p>c. 建屋の応答係数 <math>F_{RS}</math> の評価</p> <p>建屋応答に関する各係数は、第3.2.1.c-2-2表に示す原子炉建屋の応答係数を用いる。</p> <p>(a) 解放基盤表面の地震動に関する係数 <math>F_1</math> の評価</p> <p>本係数は、基準地震動のスペクトルの持つ裕度を評価するものであり、第3.2.1.c-2-3図にスペクトル形状係数の概念図を示す。</p> <p>中央値は、基準地震動のスペクトルと一様ハザードスペクトルの建屋又は機器の固有周期における比として、次式により評価する。</p> $\text{スペクトル形状係数} = \frac{\text{基準地震動の応答加速度}}{\text{一様ハザードスペクトルの応答加速度}}$ <p>また、不確実さは、地震ハザードにおける距離減衰式等のばらつきに考慮されるため、本係数では考慮しない。</p>	<p>c. 建屋の応答係数 <math>F_{SR}</math> の評価</p> <p>建屋応答に関する各係数は、第3.2.1.c-3-2表に示す原子炉建屋の応答係数を用いる。</p> <p>(a) 入力地震動のスペクトル形状に関する係数 <math>F_{SS}</math> の評価</p> <p>本係数は、基準地震動のスペクトルの持つ裕度を評価するものであり、第3.2.1.c-3-3図にスペクトル形状係数の概念図を示す。</p> <p>中央値は、基準地震動のスペクトルと一様ハザードスペクトルの建屋の固有周期における比として、次式により評価する。</p> $\text{スペクトル形状係数} = \frac{\text{基準地震動の応答加速度}}{\text{一様ハザードスペクトルの応答加速度}}$ <p>また、不確実さは、地震ハザードにおける距離減衰式等のばらつきに考慮されるため、本係数では考慮しない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大飯では、多質点系でスペクトルモーダル解析を実施していることから、モード合成に関する不確実さとして <math>\beta</math> を考慮している</li> <li>・女川と泊では、時刻歴解析を実施しておりモード合成が発生しないため、本係数は考慮していない</li> <li>・なお、時刻歴解析で耐震評価されている機器については、大飯を含め他のPWRプラントでも同様である</li> </ul> <p>【大飯】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■記載方針の相違</li> <li>・女川実績の反映</li> <li>・泊は <math>F_{NL}</math> 以外の係数についても説明を記載している</li> </ul> <p>【女川】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■記載方針の相違</li> <li>・ <math>F_{SS}</math> は <math>F_1</math> を細分化したサブ応答係数であり、評価内容に相違はない</li> </ul> <p>【泊】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■評価方針の相違</li> <li>・泊は機器の固有周期による影響は建屋の非線形応答に関する係数 <math>F_{SR}</math> で考慮している</li> </ul>

## 泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について  
 別添3 レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震PRA

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>本機器については1次固有周期での比を適用する。      以上より、本係数及び不確実さは以下の値とする。  <math>F_1 = 1.22, \beta_r = 0.00, \beta_u = 0.00</math></p> <p>(b) 建屋への入力地震動に関する係数 <math>F_2</math> の評価      本係数は、地盤モデルに関する設計上の裕度及び基礎による入力損失に関する設計上の裕度を評価するものである。      本評価では、設計地盤モデルは中央値を与えるとみなし、また基礎が地盤を拘束することによる入力損失は考慮しないことから、中央値を1.00とする。      不確実さは、建屋の地震応答に関する係数 <math>F_3</math> の不確実さと合わせて評価する。  <math>\beta_r</math> は、「地震PSA学会標準」で示される代表プラントにおける床応答スペクトルの不確実さが、おおむね0.2程度であることから0.20とする。  <math>\beta_u</math> は、解析モデル化誤差等によるものであり、国内文献<sup>*18</sup>に基づき0.15とする。      以上より、本係数及び不確実さは以下の値とする。  <math>F_2 = 1.00, \beta_r = 0.20, \beta_u = 0.15</math> (<math>\beta_r</math> 及び <math>\beta_u</math> は <math>F_3</math> と共に)</p> <p>(c) 建屋の地震応答に関する係数 <math>F_3</math> の評価      本係数は、建屋振動モデルに関する設計上の裕度、地盤ー建屋連成系モデルに関する設計上の裕度及び建屋の非線形応答が機器入力に与える裕度を評価するものである。      本評価では、建屋振動モデルは過去の地震観測記録との整合を考慮した諸元を使用していること、また一般的に建屋の非線形挙動により線形時よりも応答加速度が低減される傾向にあることから、中央値を1.00とする。      不確実さは、建屋への入力地震動に関する係数 <math>F_2</math> の不確実さと合わせて評価する。      以上より、本係数及び不確実さは以下の値とする。  <math>F_3 = 1.00, \beta_r = 0.20, \beta_u = 0.15</math> (<math>\beta_r</math> 及び <math>\beta_u</math> は <math>F_2</math> と共に)</p>	<p>本機器については1次固有周期での比を適用する。      以上より、本係数及び不確実さは以下の値とする。  <math>F_{ss} = 1.01, \beta_r = 0.00, \beta_u = 0.00</math></p> <p>(b) 建屋の地震応答に関する係数の評価      本係数は、建屋振動モデルに関する設計上の裕度、地盤ー建屋連成系モデルに関する設計上の裕度及び建屋の非線形応答が機器入力に与える裕度を評価するものである。</p> <p>・建屋の減衰に関する係数 <math>F_\delta</math> の評価      本係数は、建屋の減衰評価にかかる設計上の保守性及び不確実さを評価するものであり、次式により評価する。</p> $F_\delta = \frac{\text{設計用減衰定数による応答}}{\text{現実的減衰定数の中央値による応答}}$	<p>【女川】      ■施設構造の相違      ・本係数は、地盤モデルに関する設計上の裕度を評価するものであり、泊は直接入力としていることから、考慮不要な係数である（大飯に記載はないが、泊と同様の評価となっている）</p> <p>【女川】      ■記載方針の相違      ・女川は泊に記載の3つの係数を1つにまとめた記載となつており、評価内容に相違はない</p>

## 泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について  
 別添3. レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震PRA

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>建屋の非線形応答により建屋の入力レベルに応じて床応答スペクトルの長周期側ではスペクトル形状が変動すると考えられ、本係数ではこのスペクトル形状の変動の影響を不確実さとして考慮するため、本係数は以下のとおりとする。</p> <p><math>F_{NL}=1.0, \beta_r=0.17, \beta_u=0.10</math></p> <p>d. 評価結果のまとめ</p> <p>各係数の評価結果を下表に示す。これらの結果より、伝熱管のフリギリティ加速度の中央値<math>A_m</math>、その不確実さ<math>\beta_r</math>・<math>\beta_u</math>及びHCLPFは、以下のとおりとなる。</p> <p>また、フリギリティ曲線を第3.2.1.c-3-1図に示す。</p> <p><math>A_n=3.83</math> (G)  <math>\beta_r=0.31, \beta_u=0.31</math>  <math>HCLPF=A_m \times \exp[-1.65 \times (\beta_r + \beta_u)] = 3.83 \times \exp[-1.65 \times (0.31 + 0.31)]</math></p>		<p><math>\beta_r</math>は、現実的な減衰定数に対する基準応答スペクトル値のばらつきから評価する。  <math>\beta_u</math>は、地震PSA学会標準に基づき0.00とする。      以上より、本係数及び不確実さは以下の値とする。  <math>F_d=0.99, \beta_r=0.08, \beta_u=0.00</math></p> <p>・建屋のモデル化に関する係数<math>F_M</math>の評価</p> <p>本係数は、建屋のモデル化に関する保守性及び不確実さを評価するものであり、次式により評価する。</p> $F_d = \frac{\text{設計用基準モデル 1次周期の加速度}}{\text{現実的な建屋の 1次周期の加速度}}$ <p><math>\beta_r</math>は、現実的な建屋の1次周期に対する基準応答スペクトル値のばらつきから評価する。  <math>\beta_u</math>は、国内文献<sup>*17</sup>に基づき0.15とする。      以上より、本係数及び不確実さは以下の値とする。  <math>F_M=0.99, \beta_r=0.01, \beta_u=0.15</math></p> <p>・建屋の非線形応答に関する係数<math>F_{NL}</math>の評価</p> <p>本係数は、建屋の非線形応答が機器入力に与える保守性及び不確実さを評価するものである。</p> <p>建屋の非線形応答により建屋の入力レベルに応じて床応答スペクトルの長周期側ではスペクトル形状が変動すると考えられ、本係数ではこのスペクトル形状の変動の影響を不確実さとして考慮する。</p> <p>以上より、本係数及び不確実さは以下の値とする。  <math>F_{NL}=1.00, \beta_r=0.17, \beta_u=0.10</math></p> <p>d. 評価結果のまとめ</p> <p>各係数の評価結果を第3.2.1.c-3-4表に示す。これらの結果より、1次冷却材ポンプのフリギリティ加速度の中央値<math>A_n</math>、その不確実さ<math>\beta_r</math>・<math>\beta_u</math>及びHCLPFは、以下の通りとなる。</p> <p>また、フリギリティ曲線を第3.2.1.c-3-4図に示す。</p> <p><math>A_n=2.25</math> (G)  <math>\beta_r=0.27, \beta_u=0.27</math>  <math>HCLPF=A_n \times \exp[-1.65 \times (\beta_r + \beta_u)] = 2.25 \times \exp[-1.65 \times (0.27 + 0.27)]</math></p>	

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について  
 別添3 レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震PRA

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																				
=1.38(G)	=1.64 (G)	=0.94 (G)	【大飯】 ■記載箇所の相違 ・女川実績の反映 ・泊は第3.2.1.c-3-4表で整理している																																																				
表 熱気発生器伝熱管 安全係数評価結果の一覧			【女川】 ■個別評価による相違 ・FV重要度が異なるため、代表機器も異なる																																																				
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="2">F<sub>EC</sub></th> <th colspan="3">F<sub>ER</sub></th> <th colspan="3">F<sub>NN</sub></th> <th rowspan="2">合計</th> </tr> <tr> <th>F<sub>s</sub></th> <th>F<sub>p</sub></th> <th>F<sub>max</sub></th> <th>F<sub>in</sub></th> <th>F<sub>out</sub></th> <th>F<sub>min</sub></th> <th>F<sub>in</sub></th> <th>F<sub>out</sub></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>中央値</td> <td>2.27</td> <td>2.24</td> <td>1.00</td> <td>1.00</td> <td>1.00</td> <td>1.07</td> <td>0.99</td> <td>1.00</td> <td>1.00</td> <td>3.83</td> </tr> <tr> <td>不確実さ</td> <td><math>\pm \nu</math></td> <td>0.00</td> <td>0.19</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> <td>0.15</td> <td>0.00</td> <td>0.09</td> <td>0.00</td> <td>0.17</td> <td>0.31</td> </tr> <tr> <td></td> <td><math>\pm \nu</math></td> <td>0.06</td> <td>0.19</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> <td>0.15</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> <td>0.15</td> <td>0.10</td> <td>0.31</td> </tr> </tbody> </table>		F <sub>EC</sub>		F <sub>ER</sub>			F <sub>NN</sub>			合計	F <sub>s</sub>	F <sub>p</sub>	F <sub>max</sub>	F <sub>in</sub>	F <sub>out</sub>	F <sub>min</sub>	F <sub>in</sub>	F <sub>out</sub>	中央値	2.27	2.24	1.00	1.00	1.00	1.07	0.99	1.00	1.00	3.83	不確実さ	$\pm \nu$	0.00	0.19	0.00	0.00	0.15	0.00	0.09	0.00	0.17	0.31		$\pm \nu$	0.06	0.19	0.00	0.00	0.15	0.00	0.00	0.15	0.10	0.31		
		F <sub>EC</sub>		F <sub>ER</sub>			F <sub>NN</sub>				合計																																												
	F <sub>s</sub>	F <sub>p</sub>	F <sub>max</sub>	F <sub>in</sub>	F <sub>out</sub>	F <sub>min</sub>	F <sub>in</sub>	F <sub>out</sub>																																															
中央値	2.27	2.24	1.00	1.00	1.00	1.07	0.99	1.00	1.00	3.83																																													
不確実さ	$\pm \nu$	0.00	0.19	0.00	0.00	0.15	0.00	0.09	0.00	0.17	0.31																																												
	$\pm \nu$	0.06	0.19	0.00	0.00	0.15	0.00	0.00	0.15	0.10	0.31																																												
(2) 据機（原子炉補機冷却水冷却器） 評価対象機器の諸元を以下に示す。	(2) 静的機器（水圧制御ユニット） 評価対象機器の諸元及び耐震評価結果を以下に示す。 ・評価対象機器：水圧制御ユニット ・設置位置：原子炉周辺建屋 E.L. 5.5m ・耐震クラス：S ・固有振動数：剛  ・評価対象部位及び評価応力：  下表の耐震評価結果に示す。 各部位・各評価応力のうち、許容値に対する発生応力の裕度が最小である胴板が、原子炉補機冷却水冷却器の地震時の損傷に支配的であると考えられる。したがって、各安全係数は、原子炉補機冷却水冷却器の胴板に着目して評価する。	(2) 静的機器（余熱除去冷却器） 評価対象機器の諸元及び耐震評価結果を以下に示す。 ・評価対象機器：余熱除去冷却器 ・設置位置：原子炉補助建屋 T.P. 4.1m ・耐震クラス：S ・固有振動数：剛構造 ・評価地震動：最大加速度 1000ガル (S <sub>s</sub> -2) ・評価項目：構造損傷（支持機能） ・評価対象部位：取付ボルト ・評価応力：引張応力、せん断応力  第3.2.1.c-2-5表に、水圧制御ユニットの耐震評価結果を示す。第3.2.1.c-2-5表をもとにフラジリティを算出した。	【女川】 ■個別評価による相違 ・FV重要度が異なるため、代表機器も異なる																																																				
表 原子炉補機冷却水冷却器の耐震性評価結果			【大飯】 ■記載箇所の相違 ・女川実績の反映 ・泊は第3.2.1.c-3-5表で整理している																																																				
<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価部位</th> <th>材 料</th> <th>評価応力</th> <th>許容値(S<sub>u</sub>) (N/mm<sup>2</sup>)</th> <th>発生応力 (N/mm<sup>2</sup>)</th> <th>裕 度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>胴板</td> <td>SGV410</td> <td>1次応力</td> <td>385</td> <td>161</td> <td>2.39</td> </tr> <tr> <td>支持脚</td> <td>SS400</td> <td>組合せ1 次</td> <td>386</td> <td>37</td> <td>10.43</td> </tr> <tr> <td>基礎ボルト</td> <td>SS400</td> <td>引張応力</td> <td>400</td> <td>102</td> <td>3.92</td> </tr> </tbody> </table>	評価部位	材 料	評価応力	許容値(S <sub>u</sub> ) (N/mm <sup>2</sup> )	発生応力 (N/mm <sup>2</sup> )	裕 度	胴板	SGV410	1次応力	385	161	2.39	支持脚	SS400	組合せ1 次	386	37	10.43	基礎ボルト	SS400	引張応力	400	102	3.92	a. 機器の耐力係数F <sub>EC</sub> の評価 (a) 強度に関する係数F <sub>s</sub> の評価 本係数は、次式により評価する。	a. 機器の耐力係数F <sub>EC</sub> の評価 (a) 強度係数F <sub>s</sub> の評価 ボルトの強度係数については、引張応力及びせん断応力に対して次式により評価する。	【女川】 ■個別評価による相違 ・女川では、ボルトの引張及びせん断の組合せに着目して本係数を評価している																												
評価部位	材 料	評価応力	許容値(S <sub>u</sub> ) (N/mm <sup>2</sup> )	発生応力 (N/mm <sup>2</sup> )	裕 度																																																		
胴板	SGV410	1次応力	385	161	2.39																																																		
支持脚	SS400	組合せ1 次	386	37	10.43																																																		
基礎ボルト	SS400	引張応力	400	102	3.92																																																		
	$F_s = \frac{\sigma_c - \sigma_N}{\sigma_T - \sigma_N}$	$\left(\frac{\sigma}{\sigma_c}\right)^2 + \left(\frac{\tau}{\tau_c}\right)^2 = \left(\frac{1}{F_s}\right)^2 + \left(\frac{1}{F_t}\right)^2 = \left(\frac{1}{F_d}\right)^2$																																																					

## 泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について

別添 3. レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震 PRA

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>ここで、</p> <p><math>\sigma_c</math>：限界応力の中央値</p> <p><math>\sigma_T</math>：地震時発生応力</p> <p><math>\sigma_N</math>：通常運転時応力</p> <p>評価対象部位である胴板の材質はSGV410であることから、限界応力としてJSME 発電用原子力設備規格設計・建設規格（2005年度版）第I編付録図表Part5の引張応力<math>S_u = 385\text{N/mm}^2</math>（評価温度65°C）が適用可能であるが、当該設備についてはミルシートにより実機に使用された鋼材の材料試験データ（<math>\sigma_u = \boxed{\quad}\text{N/mm}^2</math>）があるため、それを限界応力の中央値とする。</p> <p>枠囲みの範囲は機密に係る事項ですので公開することはできません。</p> <p>なお、通常運転時応力は耐震評価の時点で考慮されていないため、0とする。  <math>\sigma_N = 0 \text{ N/mm}^2</math></p>	<p>ここで、</p> <p><math>\sigma</math>：引張応力</p> <p><math>\tau</math>：せん断応力</p> <p><math>\sigma_c</math>：限界引張応力の中央値</p> <p><math>\tau_c</math>：限界せん断応力の中央値</p> <p><math>F_s</math>：引張に対する余裕度</p> <p><math>F_t</math>：せん断に対する余裕度</p> <p>以上より、強度係数<math>F_s</math>は次式により評価する。</p> $F_s = \frac{1}{\sqrt{\left(\frac{1}{F_\sigma}\right)^2 + \left(\frac{1}{F_\tau}\right)^2}}$ <p>評価対象部位である取付ボルトの材質(SCM435)から、限界応力として「設計・建設規格」の第I編付録材料図表Part5の引張応力<math>S_u = 906\text{N/mm}^2</math>（評価温度：50°C）を採用する。</p> <p>なお、上記規格値に含まれる余裕（<math>S_u</math>値の1.17倍）考慮するとともに、限界引張応力は谷径断面積と呼び径断面積の比(0.75)を乗じ、限界せん断応力はせん断の許容値に適用する√3で除した値とする。</p> <p>従って、</p> $\sigma_c = S_u \times 1.17 \times 0.75 = 906 \times 1.17 \times 0.75 = 795\text{N/mm}^2$ $\tau_c = (S_u \times 1.17) / \sqrt{3} = (906 \times 1.17) / \sqrt{3} = 612\text{N/mm}^2$ $F_s = \sigma_c / \sigma = 795 / 286 = 2.78$ $F_t = \tau_c / \tau = 612 / 81 = 7.56$ $F_s = \frac{1}{\sqrt{\left(\frac{1}{F_\sigma}\right)^2 + \left(\frac{1}{F_\tau}\right)^2}} = \frac{1}{\sqrt{\left(\frac{1}{2.78}\right)^2 + \left(\frac{1}{7.56}\right)^2}} = 2.61$	<p>ここで、</p> <p><math>\sigma_c</math>：限界応力の中央値</p> <p><math>\sigma_T</math>：地震時発生応力</p> <p><math>\sigma_N</math>：通常運転時応力</p> <p>評価対象部位である胴板の材質（SGV410）から、限界応力として「設計・建設規格」の第I編付録材料図表Part5の引張応力<math>S_u = 373\text{N/mm}^2</math>（最高使用温度95°C）を採用する。</p> <p>なお、上記規格値に含まれる余裕（<math>S_u</math>値の1.1倍）を考慮して限界応力の中央値とする。</p> <p><math>\sigma_c = 1.1 \times S_u = 1.1 \times 373 = 410.3\text{N/mm}^2</math></p> <p>なお、通常運転時応力は耐震評価の時点で分離して評価されていないため、0とする。  <math>\sigma_N = 0 \text{ N/mm}^2</math></p> $F_s = \frac{\sigma_c}{\sigma_T} = \frac{1.1 \times S_u}{\sigma_T} = \frac{410.3}{78} = 5.26$	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大飯と泊では、胴板の一次応力に着目して本係数を評価している</li> <li>・なお、胴板の一次応力に対する評価については、大飯を含め他のPWRプラントでも同様である</li> </ul> <p>【女川】【大飯】</p> <p>■個別評価による相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大飯では、限界応力として、ミルシート値をそのまま使用しており、不確実さも考慮していない</li> <li>・女川と泊では、限界応力として規格基準値に含まれる余裕を考慮した値とその余裕に関する不確実さを考慮している</li> <li>・泊での余裕の値と不確実さについては、PWR電共研の知見によるものであり、大飯を含め他のPWRプラントでも同様である</li> </ul>

## 泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について  
別添3 レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震PRA

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>不確実さ <math>\beta_u</math>として、限界応力における引張応力の中央値 <math>1.17 \times S_u</math>に対して、規格値 <math>S_u</math>が99%信頼下限に相当すると考える。</p> $\beta_u = \frac{1}{2.33} \ln \left( \frac{1.17 \times S_u}{S_u} \right) = 0.07$ <p>以上より、強度に関する係数 <math>F_s</math>は、以下のとおりとなる。  <math>F_s = \sigma_c / \sigma_t = \sigma_u / \sigma_t = \boxed{\phantom{0}} / 161 = \boxed{\phantom{0}}</math></p> <p>また、ミルシートにより実機耐力を適用しているため、不確実さは考慮しない。  <math>\beta_R = \beta_U = 0</math></p> <p>枠囲みの範囲は機密に係る事項ですので公開することはできません。</p> <p>(b) 塑性エネルギー吸収効果に関する係数 <math>F_\mu</math>      脊板の塑性変形によるエネルギー吸収効果は考慮しない。</p> <p>すなわち、以下のとおりとする  <math>F_\mu = 1.0, \beta_R = \beta_U = 0</math></p> <p>b. 機器応答係数 <math>F_{ER}</math></p> <p>(a) 床応答スペクトルの拡幅に関する係数 <math>F_{ESS}</math>      本係数は、設計で用いられる床応答スペクトルの拡幅に含まれる裕度を評価するものであり、次式により評価する。</p> $F_{ESS} = \frac{S_a \text{ (拡幅あり)}}{S_a \text{ (拡幅なし)}}$	<p>不確実さ <math>\beta_u</math>として、限界応力の中央値 <math>1.1 \times S_u</math>に対して、JSME値 <math>S_u</math>が95%信頼下限に相当すると考える。</p> $\beta_u = \frac{1}{1.65} \ln \left( \frac{1.1 \times S_u}{S_u} \right) = 0.06 \quad (\beta_r = 0)$ <p>以上より、本係数及び不確実さは以下の値とする。  <math>F_s = 5.26, \beta_r = 0.00, \beta_u = 0.06</math></p> <p>(b) 塑性エネルギー吸収係数 <math>F_\mu</math>の評価      脊板の塑性変形によるエネルギー吸収効果は考慮しない。</p> <p>以上より、本係数及び不確実さは以下の値とする。  <math>F_\mu = 1.00, \beta_r = 0.00, \beta_u = 0.00</math></p> <p>b. 機器の応答係数 <math>F_{ER}</math>の評価</p> <p>(a) スペクトル形状係数 <math>F_{SA}</math>の評価</p>	<p>【大飯】      ■個別評価による相違      ・大飯では、限界応力として、ミルシート値をそのまま使用しており、不確実さも考慮していない</p> <p>【女川】      ■個別評価による相違      ・女川では、ボルトに対する評価であり、塑性エネルギー吸収が期待できないため、本係数は考慮していない      ・大飯と泊では、脊板について保守的な評価として塑性変形によるエネルギー吸収を期待していない      ・この扱いは、大飯を含め他のPWRプラントでも同様である</p> <p>【大飯】      ■記載方針の相違      ・泊は床応答スペクトルの拡幅に係る説明は「(1)大型機器」で記載済みであるため記載しない</p>
	<p>以上より、本係数及び不確実さは以下の値とする。  <math>F_s = 2.61, \beta_r = 0.00, \beta_u = 0.07</math></p> <p>(b) 塑性エネルギー吸収係数 <math>F_\mu</math>の評価      ボルトの塑性変形は局所的であり、塑性エネルギーの吸収はほとんど期待できないため、塑性変形によるエネルギー吸収効果は考慮しない。</p> <p>以上より、本係数及び不確実さは以下の値とする。  <math>F_\mu = 1.00, \beta_r = 0.00, \beta_u = 0.00</math></p> <p>b. 機器の応答係数 <math>F_{ER}</math>の評価</p> <p>(a) スペクトル形状係数 <math>F_{SA}</math>の評価</p>	<p>以上より、本係数及び不確実さは以下の値とする。  <math>F_s = 5.26, \beta_r = 0.00, \beta_u = 0.06</math></p> <p>(b) 塑性エネルギー吸収係数 <math>F_\mu</math>の評価      脊板の塑性変形によるエネルギー吸収効果は考慮しない。</p> <p>以上より、本係数及び不確実さは以下の値とする。  <math>F_\mu = 1.00, \beta_r = 0.00, \beta_u = 0.00</math></p> <p>b. 機器の応答係数 <math>F_{ER}</math>の評価</p> <p>(a) スペクトル形状係数 <math>F_{ESS}</math>の評価</p>	<p>【大飯】      ■個別評価による相違      ・大飯では、限界応力として、ミルシート値をそのまま使用しており、不確実さも考慮していない</p> <p>【女川】      ■個別評価による相違      ・女川では、ボルトに対する評価であり、塑性エネルギー吸収が期待できないため、本係数は考慮していない      ・大飯と泊では、脊板について保守的な評価として塑性変形によるエネルギー吸収を期待していない      ・この扱いは、大飯を含め他のPWRプラントでも同様である</p> <p>【大飯】      ■記載方針の相違      ・泊は床応答スペクトルの拡幅に係る説明は「(1)大型機器」で記載済みであるため記載しない</p>

## 泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について

別添3. レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震PRA

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>ただし、本機器は剛であるため、本係数は考慮しない。</p> <p>以上より、  <math>F_{ESS}=1.0, \beta_r=\beta_u=0</math></p>	<p>本機器は剛構造であるため、本係数及び不確実さは以下の値とする。</p> <p><math>F_{SA}=1.00, \beta_r=0.00, \beta_u=0.00</math></p>	<p>本機器は剛であり、最大床応答加速度（ZPA）に設計マージン1.20をかけられているため、これを係数として考慮する。</p> <p>以上より、本係数及び不確実さは以下の値とする。</p> <p><math>F_{ESS}=1.20, \beta_r=0.00, \beta_u=0.00</math></p>	<p>【大飯】  <b>■個別評価による相違</b>          ・泊の本機器では、耐震評価において最大床応答加速度（ZPA）に設計マージン1.20がかけられているため、これを応答の保守性として本係数で考慮している          ・このマージンには不確実さは存在しないため<math>\beta_r</math>及び<math>\beta_u</math>は考慮していない          ・なお、泊の本機器のように耐震評価において最大床応答加速度（ZPA）に設計マージン1.20がかけられている機器については、大飯を含め他のPWRプラントでも同様である          ・大飯と女川では、耐震評価で設計マージンが用いられない機器のため、本係数は考慮していない</p>
<p>(b) 設計用減衰定数に関する係数<math>F_D</math>          本係数は、機器の損傷時の減衰定数の中央値に対する設計用減衰定数が持つ裕度を評価するものであり、次式により評価する。</p> $F_D = \frac{S_a \text{ (設計用減衰定数)}}{S_a \text{ (損傷時の減衰定数中央値)}}$ <p>ただし、本機器は剛であるため、本係数は考慮しない。</p> <p><math>F_D=1.0, \beta_r=\beta_u=0</math></p>	<p>(b) 減衰係数<math>F_D</math>の評価</p>	<p>(b) 減衰係数<math>F_D</math>の評価</p>	<p>【大飯】  <b>■記載方針の相違</b>          ・泊は設計用減衰定数の裕度に係る説明は「(1)大型機器」で記載済みであるため記載しない</p>
<p>(c) 機器の解析モデル化に関する係数<math>F_M</math>          機器の解析モデル化は妥当であり、中央値に相当すると考える。</p>	<p>本機器は剛構造であるため、本係数及び不確実さは以下の値とする。</p> <p><math>F_D=1.00, \beta_r=0.00, \beta_u=0.00</math></p>	<p>本機器は剛構造であるため、本係数及び不確実さは以下の値とする。</p> <p><math>F_D=1.00, \beta_r=0.00, \beta_u=0.00</math></p>	<p>【大飯】  <b>■記載表現の相違</b>          【女川】【大飯】  <b>■評価方針の相違</b>          ・女川では、剛構造であること的理由としてモデル化係数<math>F_M</math></p>

## 泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について  
 別添3. レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震PRA

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>また、原子炉補機冷却水冷却器の耐震評価は、多質点系モデルを用いて行われており、モデル化に関する不確実さ <math>\beta_u</math> は以下の値とする。</p> <p><math>F_{EM}=1.0, \beta_r=0, \beta_u=0.15</math></p> <p>(d) モード合成法に関する係数 <math>F_{EMC}</math> 本機器は剛であるため、本係数及び不確実さは以下の値とする。</p> <p><math>F_{EMC}=1.0, \beta_r=\beta_u=0</math></p> <p>c. 建屋応答係数 <math>F_{SR}</math>（建屋非線形応答に関する係数 <math>F_{NL}</math>） 建屋応答に関する各係数のうち建屋非線形応答に関する係数 <math>F_{NL}</math>以外の係数については、第1.2.1.c-3-2表に示す建屋応答係数を用いる。以下では <math>F_{NL}</math>についてのみ示す。</p>	<p><math>F_M=1.00, \beta_r=0.00, \beta_u=0.00</math></p> <p>(d) モード合成係数 <math>F_{MC}</math>の評価 本機器は剛構造であるため、本係数及び不確実さは以下の値とする。</p> <p><math>F_{MC}=1.00, \beta_r=0.00, \beta_u=0.00</math></p> <p>c. 建屋の応答係数 <math>F_{RS}</math>の評価 建屋応答に関する各係数は、第3.2.1.c-2-2表に示す原子炉建屋の応答係数を用いる。</p> <p>(a) 解放基盤表面の地震動に関する係数 <math>F_1</math>の評価</p>	<p>また、本機器の耐震評価は、1質点系モデルを用いて行われており、不確実さは考慮しない。</p> <p><math>F_{EM}=1.00, \beta_r=0.00, \beta_u=0.00</math></p> <p>(d) モード合成係数 <math>F_{EMC}</math>の評価 本機器は1質点系モデルであるため、本係数及び不確実さは考慮しない。</p> <p><math>F_{EMC}=1.00, \beta_r=0.00, \beta_u=0.00</math></p> <p>c. 建屋の応答係数 <math>F_{SR}</math>の評価 建屋応答に関する各係数は、第3.2.1.c-3-2表に示す原子炉補助建屋の応答係数を用いる。</p> <p>(a) 入力地震動のスペクトル形状に関する係数 <math>F_{SS}</math>の評価</p>	<p>を考慮していない          ・大飯と泊では、剛構造の機器であっても解析モデルに応じて本係数を評価している          ・大飯では、多質点系モデルによる耐震評価であるため、不確実さについては海外文献値の <math>\beta_u</math> を採用している          ・泊では、1質点系モデルによる耐震評価であり、1質点系モデルは、非常に単純で保守的な解析モデルであることから、不確実さを考慮していない          ・なお、1質点系モデルで耐震評価されている機器については、大飯を含め他のPWRプラントでも同様である</p> <p>【女川】【大飯】      ■評価方針の相違      ・剛構造や1質点系モデルの場合には、スペクトルモーダル解析におけるモード合成が発生しないためモード合成係数 <math>F_{EMC}</math>を考慮していない      ・この扱いは、剛構造や1質点系モデルで耐震評価されている機器については、大飯を含め他のPWRプラントでも同様である</p> <p>【大飯】      ■記載方針の相違      ・泊は <math>F_{NL}</math>以外の係数についても説明を記載している      【女川】      ■記載方針の相違      ・<math>F_{SS}</math>は <math>F_1</math>を細分化したサブ応</p>

## 泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について

別添 3. レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震PRA

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>建屋の非線形応答により建屋の入力レベルに応じて床応答スペクトルの長周期側ではスペクトル形状が変動すると考えられ、本係数ではこのスペクトル形状の変動の影響を不確実さとして考慮する。ただし、剛領域ではこの変動は小さいため、本係数は考慮せず以下のとおりとする。</p> <p><math>F_{NL}=1.0, \beta_R=\beta_U=0</math></p>	<p>本機器は剛構造であるため、本係数及び不確実さは、<b>原子炉建屋</b>の1次固有周期における応答スペクトルの比を適用し、以下の値とする。</p> <p><math>F_1=0.86, \beta_r=0.00, \beta_u=0.00</math></p> <p>(b) 建屋への入力地震動に関する係数<math>F_2</math>の評価 本係数及び不確実さは以下の値とする。 <math>F_2=1.00, \beta_r=0.20, \beta_u=0.15</math></p> <p>(c) 建屋の地震応答に関する係数<math>F_3</math>の評価 本係数及び不確実さは以下の値とする。 <math>F_3=1.00, \beta_r=0.20, \beta_u=0.15</math></p>	<p>本係数及び不確実さは、<b>原子炉補助建屋</b>の1次固有周期における応答スペクトルの比を適用し、以下の値とする。</p> <p><math>F_{SS}=1.01, \beta_r=0.00, \beta_u=0.00</math></p> <p>(b) 建屋の地震応答に関する係数の評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・建屋の減衰に関する係数<math>F_\delta</math>の評価 本係数及び不確実さは以下の値とする。 <math>F_\delta=0.99, \beta_r=0.08, \beta_u=0.00</math></li> <li>・建屋のモデル化に関する係数<math>F_M</math>の評価 本係数及び不確実さは以下の値とする。 <math>F_M=0.99, \beta_r=0.01, \beta_u=0.15</math></li> <li>・建屋の非線形応答に関する係数<math>F_{NL}</math>の評価 建屋の非線形応答により建屋の入力レベルに応じて床応答スペクトルの長周期側ではスペクトル形状が変動すると考えられ、本係数ではこのスペクトル形状の変動の影響を不確実さとして考慮する。ただし、剛領域ではこの変動は小さいため、本係数は考慮しない。 以上より、本係数及び不確実さは以下の値とする。 <math>F_{NL}=1.00, \beta_r=0.00, \beta_u=0.00</math></li> </ul>	<p>答係数であり、評価内容に相違はない 【女川】 ■評価方針の相違 ・泊は機器の固有周期による影響は建屋の非線形応答に関する係数<math>F_{NL}</math>で考慮している</p> <p>【女川】 ■施設構造の相違 ・本係数は、地盤モデルに関する設計上の裕度を評価するものであり、泊は直接入力としていることから、考慮不要な係数である（大飯に記載はないが、泊と同様の評価となっている）</p> <p>【女川】 ■記載方針の相違 ・女川は泊に記載の3つの係数を1つにまとめた記載となつており、評価内容に相違はない</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について  
 別添3. レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震PRA

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																															
d. 評価結果のまとめ  各係数の評価結果を下表に示す。これらの結果より、原子炉補機冷却水冷却器のフロジリティ加速度の中央値A <sub>m</sub> 、その不確実さβ <sub>r</sub> ・β <sub>u</sub> 及びHCLPFは、以下のとおりとなる。 また、フロジリティ曲線を第1.2.1.c-3-2図に示す。  A <sub>m</sub> =2.07(G) β <sub>r</sub> =0.08、β <sub>u</sub> =0.22 HCLPF=A <sub>m</sub> ×exp[-1.65×(β <sub>r</sub> +β <sub>u</sub> )]=2.07×exp[-1.65×(0.08+0.22)]=1.27(G)	d. 評価結果のまとめ  各係数の評価結果を第3.2.1.c-2-6表に示す。これらの結果より、水圧制御ユニットのフロジリティ加速度の中央値A <sub>m</sub> 、その不確実さβ <sub>r</sub> ・β <sub>u</sub> 及びHCLPFは、以下の通りとなる。 また、フロジリティ曲線を第3.2.1.c-2-5図に示す。  A <sub>m</sub> =2.28(G) β <sub>r</sub> =0.20、β <sub>u</sub> =0.17 HCLPF=A <sub>m</sub> ×exp[-1.65×(β <sub>r</sub> +β <sub>u</sub> )]=2.28×exp[-1.65×(0.20+0.17)]=1.24(G)	d. 評価結果のまとめ  各係数の評価結果を第3.2.1.c-3-6表に示す。これらの結果より、余熱除去冷却器のフロジリティ加速度の中央値A <sub>m</sub> 、その不確実さβ <sub>r</sub> ・β <sub>u</sub> 及びHCLPFは、以下の通りとなる。 また、フロジリティ曲線を第3.2.1.c-3-5図に示す。  A <sub>m</sub> =2.31(G) β <sub>r</sub> =0.09、β <sub>u</sub> =0.17 HCLPF=A <sub>m</sub> ×exp[-1.65×(β <sub>r</sub> +β <sub>u</sub> )]=2.31×exp[-1.65×(0.09+0.17)]=1.55(G)	【大飯】 ■記載箇所の相違 ・女川実績の反映 ・泊は第3.2.1.c-3-6表で整理している																																															
表 原子炉補機冷却水冷却器 安全係数評価結果の一覧	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="2">F<sub>EC</sub></th> <th colspan="2">F<sub>EE</sub></th> <th colspan="2">F<sub>EB</sub></th> <th rowspan="2">合計</th> </tr> <tr> <th>F<sub>r</sub></th> <th>F<sub>u</sub></th> <th>F<sub>rd</sub></th> <th>F<sub>eu</sub></th> <th>F<sub>eb</sub></th> <th>F<sub>ur</sub></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>中央値</td> <td>■</td> <td>1.00</td> <td>1.00</td> <td>1.00</td> <td>1.00</td> <td>1.07</td> <td>0.99</td> <td>1.00</td> <td>1.00</td> <td>2.07</td> </tr> <tr> <td>不確実さ</td> <td>β<sub>u</sub></td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> <td>0.08</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> <td>0.08</td> </tr> <tr> <td></td> <td>β<sub>r</sub></td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> <td>0.15</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> <td>0.05</td> <td>0.22</td> </tr> </tbody> </table>		F <sub>EC</sub>		F <sub>EE</sub>		F <sub>EB</sub>		合計	F <sub>r</sub>	F <sub>u</sub>	F <sub>rd</sub>	F <sub>eu</sub>	F <sub>eb</sub>	F <sub>ur</sub>	中央値	■	1.00	1.00	1.00	1.00	1.07	0.99	1.00	1.00	2.07	不確実さ	β <sub>u</sub>	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.08	0.00	0.00	0.08		β <sub>r</sub>	0.00	0.00	0.00	0.00	0.15	0.00	0.00	0.05	0.22		
	F <sub>EC</sub>		F <sub>EE</sub>		F <sub>EB</sub>		合計																																											
	F <sub>r</sub>	F <sub>u</sub>	F <sub>rd</sub>	F <sub>eu</sub>	F <sub>eb</sub>	F <sub>ur</sub>																																												
中央値	■	1.00	1.00	1.00	1.00	1.07	0.99	1.00	1.00	2.07																																								
不確実さ	β <sub>u</sub>	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.08	0.00	0.00	0.08																																								
	β <sub>r</sub>	0.00	0.00	0.00	0.00	0.15	0.00	0.00	0.05	0.22																																								
枠囲みの範囲は機密に係る事項ですので公開することはできません。																																																		
(4) 動的機器（内燃機関（ディーゼル発電機））	(3) 動的機器（ディーゼル機関）	(3) 動的機器（内燃機関（ディーゼル発電機））	【大飯】 ・泊の構成に合わせて大飯の「(3)電気盤」と「(4)動的機器」の記載順序を入れ替えている 【女川】 ■記載表現の相違 ・ディーゼル機関⇒内燃機関（ディーゼル発電機） 【大飯】 ■付番の相違 ・女川実績の反映による項目番号の相違																																															
評価対象機器の諸元を以下に示す。  ・設置位置：原子炉周辺建屋 E.L. 10.0m ・耐震クラス：S	評価対象機器の諸元及び耐震評価結果を以下に示す。  ・評価対象機器：非常用ディーゼル発電設備ディーゼル機関 ・設置位置：原子炉建屋 O.P. 15.0m ・耐震クラス：S	評価対象機器の諸元及び耐震評価結果を以下に示す。  ・評価対象機器：内燃機関（ディーゼル発電機） ・設置位置：ディーゼル発電機建屋 T.P. 10.3m ・耐震クラス：S	【女川】【大飯】 ■設計の相違																																															

## 泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について  
別添3. レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震 PRA

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<ul style="list-style-type: none"> <li>固有振動数：水平、上下とも30Hz以上</li> <li>基準地震動Ssに対する設置床面のZPA： 水平方向0.77G、上下方向0.51G→SRSS=0.924G</li> </ul> <p>ポンプ及びディーゼル類については、水平方向と上下方向の同時入力が、機能維持に対して与える影響が否定できないため、水平方向と上下方向の入力加速度を二乗和平方根(SRSS)により合成するものとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>機能維持確認済加速度： 水平方向1.7G、上下方向1.0G→SRSS=1.97G</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>固有振動数：剛構造</li> <li>評価地震動：最大加速度 1000ガル (S s-2)</li> <li>評価項目：機能損傷（動的機能） 第3.2.1.c-2-7表に、非常用ディーゼル発電設備ディーゼル機関の耐震評価結果を示す。第3.2.1.c-2-7表をもとにフラジリティを算出した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>固有振動数：剛構造</li> <li>評価地震動：最大加速度 620Gal (Ss3-4)</li> <li>評価項目：機能損傷（動的機能） 第3.2.1.c-3-7表に、ディーゼル発電設備内燃機関の耐震評価結果を示す。第3.2.1.c-3-7表を基にフラジリティを算出した。</li> </ul> <p>ポンプ及びディーゼル類については、水平方向と上下方向の同時入力が、機能維持に対して与える影響が否定できないため、水平方向と上下方向の入力加速度を二乗和平方根(SRSS)により合成するものとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>機能維持確認済加速度： 水平方向10.7m/s<sup>2</sup>、上下方向9.80m/s<sup>2</sup>→SRSS=14.51m/s<sup>2</sup></li> </ul>	<p>【大飯】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■記載箇所の相違</li> <li>・女川実績の反映</li> <li>・泊は第3.2.1.c-3-7表で整理している</li> </ul> <p>【女川】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■評価方針の相違</li> <li>・女川では1方向のみに着目した評価としているが、PWRでは回転機器に対しては水平・上下が合成された入力による影響を考慮している大飯と比較する</li> </ul> <p>【大飯】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■個別評価による相違</li> </ul>
<p>a. 機器耐力係数F<sub>EC</sub>の評価</p> <p>(a) 強度に関する係数F<sub>s</sub>の評価</p> <p>ポンプ及びディーゼル類のように、構造強度のみでなく動的機能維持が必要な機器については、試験加速度（機能確認済加速度等）に基づきフラジリティ評価を行う。</p> <p>この場合、電気盤類と同様にフラジリティ評価のベースとする試験加速度レベルでは誤動作・損傷が見られないことから、β設定法に基づき損傷加速度の中央値の推定を行うことができる。</p>	<p>a. 機器の耐力係数F<sub>c</sub>の評価</p> <p>(a) 強度係数F<sub>s</sub>の評価 本係数は下記の式で算出する。</p> $F_s = \frac{\text{損傷加速度中央値}}{\text{応答加速度}}$ <p>・損傷加速度中央値について ディーゼル機関のように、構造強度に加え動的機能維持が必要な機器は、試験加速度（機能維持確認済加速度等）に基づきフラジリティ評価を行う。 フラジリティ評価のベースとする試験加速度レベルでは誤動作・損傷が見られないことから、損傷加速度のHCLPF=試験加速度とする。また、誤動作・損傷に対する損傷加速度中央値A<sub>m</sub>をHCLPFから下記のように推定する。</p>	<p>a. 機器の耐力係数F<sub>EC</sub>の評価</p> <p>(a) 強度係数F<sub>s</sub>の評価 本係数は下記の式で算出する。</p> $F_s = \frac{\text{損傷加速度中央値}}{\text{応答加速度}}$ <p>・損傷加速度中央値について ディーゼル機関のように、構造強度に加え動的機能維持が必要な機器は、試験加速度（機能維持確認済加速度等）に基づきフラジリティ評価を行う。 フラジリティ評価のベースとする試験加速度レベルでは誤動作・損傷が見られないことから、以下に示す方法（ここでは、「β設定法」という。）により誤動作・損傷に対する損傷加速度の中央値の推定する。</p>	<p>【女川】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■評価方針の相違</li> <li>・女川では、機能維持確認加速度から、工学的判断で損傷限界値を定めて,F<sub>s</sub>と不確実さを評価している</li> <li>・大飯と泊では、機能維持確認</li> </ul>

泊発電所 3号炉 有効性評価 比較表

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について  
別添3. レベル1 PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震 PRA

**赤字**：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
**青字**：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
**緑字**：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>〔β設定法の概要〕を比較するため、別添3-3.2-3.2.1-45ページ（点線部分）を再掲している</p> <p>〔β設定法の概要〕</p> <p>フラジリティ評価において、HCLPFは次式により評価される。</p> $HCLPF = A_m \times \exp(-1.65 \times (\beta_r + \beta_u))$ <p>ここで、<math>A_m</math>：フラジリティ加速度の中央値</p> <p>上式より、</p> $A_m = HCLPF \times \exp(1.65 \times (\beta_r + \beta_u))$ <p>これと同様に、加振試験における損傷加速度の中央値とHCLPFの関係は次式により表される。</p> <p>損傷加速度中央値 = 損傷加速度のHCLPF × <math>\exp(1.65 \times (\beta_r + \beta_u))</math></p> <p>したがって、損傷加速度のHCLPFを試験加速度とし、不確実さ<math>\beta_r</math>、<math>\beta_u</math>を与えることにより、損傷加速度の中央値を推定できる。</p> <p>なお、ポンプ及びディーゼル等の動的機器に関する誤動作等の不確実さデータの知見は現状得られていないため、電気盤類の評価で用いた電気品の誤動作に関する不確実さよりも小さいと仮定し、<math>\beta_r = \beta_u = 0.10</math>とする。</p> <p>ここで、このβ設定法は、従来一般的に試験加速度として用いられてきた機能確認済加速度が、実際に誤動作等が生じる加速度レベルに対して十分に安全側との考えから適用されているものである。</p> <p>以上から、内燃機関の損傷加速度の中央値は、β設定法に基づき以下のとおりとなる。</p> $\text{損傷加速度の中央値} = \text{試験加速度} \times \exp(1.65 \times (\beta_r + \beta_u))$ $= 1.97 \times \exp(1.65 \times (0.10 + 0.10)) =$ $2.74G$	<p>〔β設定法の概要〕を比較するため、別添3-3.2-3.2.1-45ページ（点線部分）を再掲している</p> <p>〔β設定法の概要〕</p> <p>フラジリティ評価において、HCLPFは次式により評価される。</p> $HCLPF = A_m \times \exp(-1.65 \times (\beta_r + \beta_u))$ <p>上式より、</p> $A_m = HCLPF \times \exp(1.65 \times (\beta_r + \beta_u))$ <p>これと同様に、加振試験における損傷加速度中央値と損傷加速度のHCLPFの関係は次式により表される。</p> <p>損傷加速度中央値 = 損傷加速度のHCLPF × <math>\exp(1.65 \times (\beta_r + \beta_u))</math></p> <p>従って、“損傷加速度のHCLPF = 試験加速度”とし、不確実さ<math>\beta_r</math>及び<math>\beta_u</math>を与えることにより、損傷加速度中央値を推定できる。</p>	<p>〔β設定法の概要〕</p> <p>フラジリティ評価において、HCLPFは次式により評価される。</p> $HCLPF = A_m \times \exp(-1.65 \times (\beta_r + \beta_u))$ <p>上式より、</p> $A_m = HCLPF \times \exp(1.65 \times (\beta_r + \beta_u))$ <p>これと同様に、加振試験における損傷加速度中央値と損傷加速度のHCLPFの関係は次式により表される。</p> <p>損傷加速度中央値 = 損傷加速度のHCLPF × <math>\exp(1.65 \times (\beta_r + \beta_u))</math></p> <p>したがって、“損傷加速度のHCLPF = 試験加速度”とし、不確実さ<math>\beta_r</math>及び<math>\beta_u</math>を与えることにより、損傷加速度中央値を推定できる。</p>	<p>済加速度から、工学的判断で損傷限界に関する不確実さを定めて、損傷限界と<math>F_s</math>を評価している</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なお、動的機器については、大飯を含め他のPWRプラントでも同様である</li> </ul> <p>【女川】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■記載表現の相違</li> <li>・従つて⇒したがって</li> </ul> <p>(以下、相違理由説明を省略)</p> <p>【大飯】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■記載表現の相違</li> </ul>
<p>なお、ポンプ及びディーゼル等の動的機器に関する誤動作等の不確実さデータの知見は現状得られていないため、電気盤類の評価で用いた電気品の誤動作に関する不確実さよりも小さいと仮定し、<math>\beta_r = \beta_u = 0.10</math>とする。</p> <p>ここで、このβ設定法は、従来一般的に試験加速度として用いられてきた機能確認済加速度が、実際に誤動作等が生じる加速度レベルに対して十分に安全側との考えから適用されているものである。</p> <p>以上から、内燃機関の損傷加速度の中央値は、β設定法に基づき以下のとおりとなる。</p> $\text{損傷加速度の中央値} = \text{試験加速度} \times \exp[1.65 \times (\beta_r + \beta_u)]$ $= 14.51 \times \exp[1.65 \times (0.10 + 0.10)] =$ $20.18m/s^2$	<p>なお、ポンプ、ディーゼル等の動的機器に関する誤動作等の不確実さデータの知見は現状得られていないため、電気盤類の評価で用いた電気品の誤動作に関する不確実さよりも小さいと仮定し、<math>\beta_r = \beta_u = 0.10</math>とする。</p> <p>ここで、このβ設定法は、従来一般的に試験加速度として用いられてきた機能確認済加速度が、実際に誤動作等が生じる加速度レベルに対して十分に安全側との考えから適用されているものである。</p> <p>以上から、内燃機関の損傷加速度の中央値は、β設定法に基づき以下のとおりとなる。</p> $\text{損傷加速度の中央値} = \text{試験加速度} \times \exp[1.65 \times (\beta_r + \beta_u)]$ $= 14.51 \times \exp[1.65 \times (0.10 + 0.10)] =$ $20.18m/s^2$	<p>以上より、本係数及び不確実さは以下の値とする。</p>	<p>以上より、本係数及び不確実さは以下の値とする。</p>

## 泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について  
 別添3 レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震PRA

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>したがって、強度に関する係数<math>F_s</math>及びその不確実さは、以下のとおりとなる。</p> <p><math>F_s = \frac{\text{損傷加速度の中央値}}{\text{床応答加速度}} = \frac{2.74}{0.924} = 2.97</math></p> <p><math>\beta_r = 0.10, \beta_u = 0.10</math></p> <p>(b) 塑性エネルギー吸収効果に関する係数</p> <p>ポンプ及びディーゼルのような動的機器については、弹性範囲内で誤動作が生じることが否定できないため、本係数は考慮しない。</p> <p><math>F_\mu = 1.0, \beta_r = \beta_u = 0</math></p> <p>b. 機器応答係数<math>F_{ER}</math></p> <p>実機の加振試験に基づき<math>F_{ER}</math>を評価していることから、機器応答に関する裕度及び不確実さはすべて加振試験において考慮されていることになる。また、耐震評価におけるポンプ及びディーゼル類の機能維持評価では、ZPAを1.2倍することも行われていない。</p>	<p><math>F_s = \frac{\text{損傷加速度中央値}}{\text{応答加速度}} = \frac{3.67}{1.61} = 2.28</math></p> <p><math>\beta_r = 0.03, \beta_u = 0.03</math></p> <p>(b) 塑性エネルギー吸収係数<math>F_\mu</math>の評価</p> <p>本機器のような動的機器については、弹性範囲内で誤動作が生じることが否定できないため、本係数及び不確実さは以下の値とする。</p> <p><math>F_\mu = 1.00, \beta_r = 0.00, \beta_u = 0.00</math></p> <p>b. 機器の応答係数<math>F_{RE}</math>の評価</p> <p>(a) スペクトル形状係数<math>F_{SA}</math>の評価</p> <p>本機器は剛構造であるため、本係数及び不確実さは以下の値とする。</p> <p><math>F_{SA} = 1.00, \beta_r = 0.00, \beta_u = 0.00</math></p> <p>(b) 減衰係数<math>F_D</math>の評価</p> <p>本機器は剛構造であるため、本係数及び不確実さは以下の値とする。</p> <p><math>F_D = 1.00, \beta_r = 0.00, \beta_u = 0.00</math></p> <p>(c) モデル化係数<math>F_M</math>の評価</p> <p>本機器は剛構造であるため、本係数及び不確実さは以下の値とする。</p> <p><math>F_M = 1.00, \beta_r = 0.00, \beta_u = 0.00</math></p>	<p><math>F_s = \frac{\text{損傷加速度中央値}}{\text{応答加速度}} = \frac{20.18}{7.409} = 2.72</math></p> <p><math>\beta_r = 0.10, \beta_u = 0.10</math></p> <p>(b) 塑性エネルギー吸収係数<math>F_\mu</math>の評価</p> <p>本機器のような動的機器については、弹性範囲内で誤動作が生じることが否定できないため、本係数及び不確実さは以下の値とする。</p> <p><math>F_\mu = 1.00, \beta_r = 0.00, \beta_u = 0.00</math></p> <p>b. 機器の応答係数<math>F_{ER}</math>の評価</p> <p>(a) スペクトル形状係数<math>F_{SS}</math>の評価</p> <p>本機器は剛構造であるため、本係数及び不確実さは以下の値とする。</p> <p><math>F_{SS} = 1.00, \beta_r = 0.00, \beta_u = 0.00</math></p> <p>(b) 減衰係数<math>F_D</math>の評価</p> <p>本機器は剛構造であるため、本係数及び不確実さは以下の値とする。</p> <p><math>F_D = 1.00, \beta_r = 0.00, \beta_u = 0.00</math></p> <p>(c) モデル化係数<math>F_M</math>の評価</p> <p>機器の解析モデル化は妥当であり、中央値に相当すると考えられる。</p> <p>また、本機器の耐震評価は、1質点系モデルを用いて行われており、不確実さは考慮しない。</p> <p><math>F_M = 1.00, \beta_r = 0.00, \beta_u = 0.00</math></p>	<p>【大飯】</p> <p>■記載方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大飯は泊に記載の4つの係数を1つにまとめた記載となっているが、係数の設定の考え方は同じであり、評価内容に相違はない</li> </ul> <p>【女川】</p> <p>■評価方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・女川では、剛構造であることを理由としてモデル化係数<math>F_M</math>を考慮していない</li> <li>・大飯と泊では、剛構造の機器であっても解析モデルに応じて本係数を評価している</li> <li>・泊では、1質点系モデルによる耐震評価であり、1質点系モデルは、非常に単純で保守的な解析モデルであることから、不確実さを考慮していない</li> </ul>

## 泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について

別添 3. レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震PRA

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
	<p>(d) モード合成係数 <math>F_{MC}</math> の評価          本機器は剛構造であるため、本係数及び不確実さは以下の値とする。  <math>F_{MC} = 1.00, \beta_r = 0.00, \beta_u = 0.00</math></p> <p>したがって、機器応答係数 <math>F_{Rk}</math> は以下のとおりとする。  <math>F_{Rk} = 1.0, \beta_r = \beta_u = 0</math></p> <p>c. 建屋応答係数 <math>F_{SR}</math> (建屋非線形応答に関する係数 <math>F_{Rk}</math>)          建屋応答に関する各係数のうち建屋非線形応答に関する係数 <math>F_{Rk}</math> 以外の係数については、第1.2.1.c-3-2表に示す建屋応答係数を用いる。以下では <math>F_{Rk}</math> についてのみ示す。</p>	<p>(d) モード合成係数 <math>F_{MC}</math> の評価          本機器は1質点系モデルであるため、本係数及び不確実さは以下の値とする。  <math>F_{MC} = 1.00, \beta_r = 0.00, \beta_u = 0.00</math></p> <p>c. 建屋の応答係数 <math>F_{RS}</math> の評価          建屋応答に関する各係数は、第3.2.1.c-2表に示す原子炉建屋の建屋応答係数を用いる。</p> <p>(a) 解放基盤表面の地震動に関する係数 <math>F_1</math> の評価          本機器は剛構造であるため、本係数及び不確実さは、原子炉建屋の1次固有周期における応答スペクトルの比を適用し、以下の値とする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>なお、1質点系モデルで耐震評価されている機器については、大飯を含め他のPWRプラントでも同様である</li> </ul> <p>【女川】</p> <p>■評価方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>剛構造や1質点系モデルの場合には、スペクトルモーダル解析におけるモード合成が発生しないためモード合成係数 <math>F_{MC}</math> を考慮していない</li> <li>なお、剛構造や1質点系モデルで耐震評価されている機器については、大飯を含め他のPWRプラントでも同様である</li> </ul> <p>【大飯】</p> <p>■記載方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大飯は泊に記載の4つの係数を1つにまとめた記載となっているが、係数の設定の考え方は同じであり、評価内容に相違はない</li> </ul> <p>【大飯】</p> <p>■記載方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>泊は <math>F_{Rk}</math> 以外の係数についても説明を記載している</li> </ul> <p>【女川】</p> <p>■記載方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><math>F_{SS}</math> は <math>F_1</math> を細分化したサブ応答係数であり、評価内容に相違はない</li> </ul> <p>【女川】</p> <p>■評価方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>泊は機器の固有周期による影響は建屋の非線形応答に関する係数 <math>F_{SR}</math> で考慮している</li> </ul>
		<p>c. 建屋の応答係数 <math>F_{SR}</math> の評価          建屋応答に関する各係数は、第3.2.1.c-3-2表に示すディーゼル発電機建屋の応答係数を用いる。</p> <p>(a) 入力地震動のスペクトル形状に関する係数 <math>F_{SS}</math> の評価          本係数及び不確実さは、ディーゼル発電機建屋の1次固有周期における応答スペクトルの比を適用し、以下の値とする。</p>	<p>【女川】</p> <p>■記載方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><math>F_{SS}</math> は <math>F_1</math> を細分化したサブ応答係数であり、評価内容に相違はない</li> </ul> <p>【女川】</p> <p>■評価方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>泊は機器の固有周期による影響は建屋の非線形応答に関する係数 <math>F_{SR}</math> で考慮している</li> </ul>

## 泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について

別添 3. レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震PRA

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
建屋の非線形応答により建屋の入力レベルに応じて床応答スペクトルの長周期側ではスペクトル形状が変動すると考えられ、本係数ではこのスペクトル形状の変動の影響を不確実さとして考慮する。	<p><b>F<sub>t</sub>=0.86, β<sub>r</sub>=0.00, β<sub>u</sub>=0.00</b></p> <p>(b) 建屋への入力地震動に関する係数F<sub>2</sub>の評価 本係数及び不確実さは以下の値とする。 <b>F<sub>2</sub>=1.00, β<sub>r</sub>=0.20, β<sub>u</sub>=0.15</b></p> <p>(c) 建屋の地震応答に関する係数F<sub>3</sub>の評価 本係数及び不確実さは以下の値とする。 <b>F<sub>3</sub>=1.00, β<sub>r</sub>=0.20, β<sub>u</sub>=0.15</b></p> <p>d. 評価結果のまとめ</p>	<p><b>F<sub>ss</sub>=0.92, β<sub>r</sub>=0.00, β<sub>u</sub>=0.00</b></p> <p>(b) 建屋の地震応答に関する係数の評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 建屋の減衰に関する係数F<sub>δ</sub>の評価 本係数及び不確実さは以下の値とする。 <b>F<sub>δ</sub>=0.99, β<sub>r</sub>=0.07, β<sub>u</sub>=0.00</b></li> <li>• 建屋のモデル化に関する係数F<sub>g</sub>の評価 本係数及び不確実さは以下の値とする。 <b>F<sub>g</sub>=1.03, β<sub>r</sub>=0.01, β<sub>u</sub>=0.15</b></li> <li>• 建屋の非線形応答に関する係数F<sub>NL</sub>の評価 建屋の非線形応答により建屋の入力レベルに応じて床応答スペクトルの長周期側ではスペクトル形状が変動すると考えられ、本係数ではこのスペクトル形状の変動の影響を不確実さとして考慮する。ただし、剛領域ではこの変動は小さいため、本係数は考慮しない。</li> </ul> <p>以上より、本係数及び不確実さは以下の値とする。 <b>F<sub>NL</sub>=1.00, β<sub>r</sub>=0.00, β<sub>u</sub>=0.00</b></p> <p>d. 評価結果のまとめ</p>	<p>【女川】</p> <p>■施設構造の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本係数は、地盤モデルに関する設計上の裕度を評価するものであり、泊は直接入力としていることから、考慮不要な係数である（大飯に記載はないが、泊と同様の評価となっている）</li> </ul> <p>【女川】</p> <p>■記載方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・女川は泊に記載の3つの係数を1つにまとめた記載となつており、評価内容に相違はない</li> </ul> <p>【大飯】</p> <p>■記載方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大飯と同様であるが、泊は他の箇所との記載の整合のため記載しない</li> </ul>
ここで、試験加速度は最大加速度(ZPA)ベースであるが、ZPAについては建屋の非線形応答による加速度レベルに応じた変動は小さく、むしろ線形応答に比較した場合は、加速度レベルが上がるにしたがい低減する傾向にあると考えられる。 ただし、このような低減については現状有効なデータはないため、安全側に本係数は考慮せず、以下のとおりとする。 <b>F<sub>NL</sub>=1.0, β<sub>r</sub>=β<sub>u</sub>=0</b>	d. 評価結果のまとめ		

## 泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について  
 別添3. レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震PRA

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																	
<p>各係数の評価結果を下表に示す。これらの結果より、内燃機関のフラジリティ加速度の中央値A<sub>m</sub>、その不確実さβ<sub>r</sub>・β<sub>u</sub>及びHCLPFは、以下のとおりとなる。また、フラジリティ曲線を第1.2.1.c-3-4図に示す。</p> $A_m = 2.24 \text{ (G)}$ $\beta_r = 0.14, \beta_u = 0.19$ $\text{HCLPF} = A_m \times \exp[-1.65 \times (\beta_r + \beta_u)]$ $= 2.24 \times \exp[-1.65 \times (0.14 + 0.19)]$ $= 1.29 \text{ (G)}$	<p>各係数の評価結果を第3.2.1.c-2-8表に示す。これらの結果より、ディーゼル機関のフラジリティ加速度の中央値A<sub>m</sub>、その不確実さβ<sub>r</sub>・β<sub>u</sub>及びHCLPFは、以下の通りとなる。</p> <p>また、フラジリティ曲線を第3.2.1.c-2-6図に示す。</p> $A_m = 2.00 \text{ (G)}$ $\beta_r = 0.20, \beta_u = 0.15$ $\text{HCLPF} = A_m \times \exp[-1.65 \times (\beta_r + \beta_u)]$ $= 2.00 \times \exp[-1.65 \times (0.20 + 0.15)]$ $= 1.12 \text{ (G)}$	<p>各係数の評価結果を第3.2.1.c-3-8表に示す。これらの結果より、内燃機関のフラジリティ加速度の中央値A<sub>m</sub>、その不確実さβ<sub>r</sub>・β<sub>u</sub>及びHCLPFは、以下の通りとなる。</p> <p>また、フラジリティ曲線を第3.2.1.c-3-6図に示す。</p> $A_m = 1.61 \text{ (G)}$ $\beta_r = 0.13, \beta_u = 0.19$ $\text{HCLPF} = A_m \times \exp[-1.65 \times (\beta_r + \beta_u)]$ $= 1.61 \times \exp[-1.65 \times (0.13 + 0.19)]$ $= 0.97 \text{ (G)}$																																																		
<p>表 内燃機関 安全係数評価結果一覧</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="2">F<sub>EC</sub></th> <th colspan="2">F<sub>ER</sub></th> <th colspan="2">F<sub>SA</sub></th> <th rowspan="2">合計</th> </tr> <tr> <th>F<sub>s</sub></th> <th>F<sub>u</sub></th> <th>F<sub>s</sub></th> <th>F<sub>u</sub></th> <th>F<sub>s</sub></th> <th>F<sub>u</sub></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>中央値</td> <td>2.97</td> <td>1.00</td> <td>1.00</td> <td>1.00</td> <td>1.00</td> <td>1.07</td> <td>0.99</td> <td>1.00</td> <td>1.00</td> <td>2.24</td> </tr> <tr> <td>不確実さ</td> <td>β<sub>s</sub></td> <td>0.10</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> <td>0.09</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> <td>0.14</td> </tr> <tr> <td></td> <td>β<sub>u</sub></td> <td>0.10</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> <td>0.15</td> <td>0.00</td> <td>0.10</td> </tr> </tbody> </table>					F <sub>EC</sub>		F <sub>ER</sub>		F <sub>SA</sub>		合計	F <sub>s</sub>	F <sub>u</sub>	F <sub>s</sub>	F <sub>u</sub>	F <sub>s</sub>	F <sub>u</sub>	中央値	2.97	1.00	1.00	1.00	1.00	1.07	0.99	1.00	1.00	2.24	不確実さ	β <sub>s</sub>	0.10	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.09	0.00	0.00	0.14		β <sub>u</sub>	0.10	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.15	0.00	0.10
	F <sub>EC</sub>		F <sub>ER</sub>		F <sub>SA</sub>		合計																																													
	F <sub>s</sub>	F <sub>u</sub>	F <sub>s</sub>	F <sub>u</sub>	F <sub>s</sub>	F <sub>u</sub>																																														
中央値	2.97	1.00	1.00	1.00	1.00	1.07	0.99	1.00	1.00	2.24																																										
不確実さ	β <sub>s</sub>	0.10	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.09	0.00	0.00	0.14																																									
	β <sub>u</sub>	0.10	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.15	0.00	0.10																																									
(3) 電気盤・計装（メタルクラッドスイッチギア）	(4) 電気盤・計装（電気盤）	(4) 電気盤・計装（パワーコントロールセンタ）	<p>【大飯】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■記載箇所の相違                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・女川実績の反映</li> <li>・泊は第3.2.1.c-3-8表で整理している</li> </ul> </li> </ul>																																																	
評価対象機器の諸元を以下に示す。	評価対象機器の諸元及び耐震評価結果を以下に示す。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・評価対象機器：125V直流受電パワーセンタ2A</li> <li>・設置位置：制御建屋 O.P. 8.0m</li> <li>・耐震クラス：S</li> <li>・固有振動数：遮断器について水平、上下とも30Hz以上</li> <li>・基準地震動S<sub>s</sub>に対する盤の設計応答加速度：</li> </ul>	評価対象機器の諸元及び耐震評価結果を以下に示す。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・評価対象機器：パワーコントロールセンタ</li> <li>・設置位置：原子炉補助建屋 T.P. 10.3m</li> <li>・耐震クラス：S</li> <li>・固有振動数：柔構造</li> <li>・評価地震動：最大加速度1000ガル (S<sub>s</sub>-2)</li> <li>・評価項目：機能損傷（電気的機能）</li> </ul>	<p>【大飯】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・泊の構成に合わせて大飯の「(3)電気盤」と「(4)動的機器」の記載順序を入れ替えている</li> </ul> <p>【大飯】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■付番の相違                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・女川実績の反映による項目番号の相違</li> </ul> </li> </ul> <p>【女川】【大飯】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■個別評価による相違                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・FV重要度が異なるため、代表機器も異なる</li> </ul> </li> </ul>																																																	

## 泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について  
 別添3 レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震PRA

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p><b>水平方向1.20G、上下方向0.61G→SRSS=1.35G</b></p> <p>・機能維持確認済加速度：水平：□G、上下：□G； メタルクラッドスイッチギアは、水平方向と上下方向の同時入力が、機能維持に対して与える影響が否定できないため、水平方向と上下方向の入力加速度を二乗和平方根(SRSS)により合成するものとする。</p> <p>枠囲みの範囲は機密に係る事項ですので公開することはできません</p>	<p>震評価結果を示す。第3.2.1.c-2-9表をもとにフライアリティを算出した。</p>	<p>果を示す。第3.2.1.c-3-9表を基にフライアリティを算出した。</p>	<p>■記載箇所の相違 ・女川実績の反映 ・泊は第3.2.1.c-3-9表で整理している</p>
<p>a. 機器耐力係数 <math>F_{Ec}</math> の評価</p> <p>(a) 強度に関する係数 <math>F_s</math> の評価</p> <p><math>F_s</math> は下記の式で算出する。</p> $F_s = \frac{\text{損傷加速度中央値}}{\text{盤応答加速度}}$ <p>・損傷加速度中央値について 電気盤類のように、構造強度のみでなく電気的機能維持が必要な機器については、試験加速度（機能維持確認済加速度等）に基づきフライアリティ評価を行う。 フライアリティ評価のベースとする試験加速度レベルでは誤動作・損傷が見られないことから、以下に示す <math>\beta</math> 設定法により誤動作・損傷に対する加速度の中央値を推定する。</p> <p>〔<math>\beta</math> 設定法の概要〕を比較するため、別添3-3.2-3.2.1-40ページ（実線部分）に再掲している</p> <p>フライアリティ評価において、HCLPFは次式により評価される。</p> $HCLPF = A_m \times \exp(-1.65 \times (\beta_g + \beta_u))$ <p>ここで、<math>A_m</math>：フライアリティ加速度の中央値 上式より、 <math>A_m = HCLPF \times \exp(1.65 \times (\beta_g + \beta_u))</math> これと同様に、加振試験における損傷加速度の中央値とHCLPFの関係は次式により表される。</p> $\text{損傷加速度中央値} = \text{損傷加速度のHCLPF} \times \exp(1.65 \times (\beta_g + \beta_u))$ <p>したがって、損傷加速度のHCLPFを試験加速度と</p>	<p>a. 機器の耐力係数 <math>F_{Ec}</math> の評価</p> <p>(a) 強度に関する係数 <math>F_s</math> の評価</p> <p>本係数は下記の式で算出する。</p> $F_s = \frac{\text{損傷加速度中央値}}{\text{応答加速度}}$ <p>・損傷加速度中央値について 電気盤・計装のように、構造強度に加え電気的機能維持が必要な機器については、試験加速度（機能維持確認済加速度等）に基づきフライアリティ評価を行う。 フライアリティ評価のベースとする試験加速度レベルでは誤動作・損傷が見られないことから、以下に示す方法（ここでは、「<math>\beta</math> 設定法」という。）により誤動作・損傷に対する損傷加速度中央値を推定する。</p> <p>〔<math>\beta</math> 設定法の概要〕を比較するため、別添3-3.2-3.2.1-40ページ（実線部分）に再掲している</p> <p>フライアリティ評価において、HCLPFは次式により評価される。</p> $HCLPF = A_m \times \exp(-1.65 \times (\beta_g + \beta_u))$ <p>上式より、 <math>A_m = HCLPF \times \exp(1.65 \times (\beta_g + \beta_u))</math> これと同様に、加振試験における損傷加速度中央値と損傷加速度のHCLPFの関係は次式により表される。</p> $\text{損傷加速度中央値} = \text{損傷加速度のHCLPF} \times \exp(1.65 \times (\beta_g + \beta_u))$ <p>従って、 “損傷加速度のHCLPF=試験加速度” とし、不</p>	<p>a. 機器の耐力係数 <math>F_{Ec}</math> の評価</p> <p>(a) 強度に関する係数 <math>F_s</math> の評価</p> <p><math>F_s</math> は下記の式で算出する。</p> $F_s = \frac{\text{損傷加速度中央値}}{\text{応答加速度}}$ <p>・損傷加速度中央値について 電気盤・計装のように、構造強度に加え電気的機能維持が必要な機器については、試験加速度（機能維持確認済加速度等）に基づきフライアリティ評価を行う。 フライアリティ評価のベースとする試験加速度レベルでは誤動作・損傷が見られないことから、<math>\beta</math> 設定法により誤動作・損傷に対する加速度の中央値を推定する。</p> <p>【女川】 ■記載方針の相違 ・泊は <math>\beta</math> 設定法について「(3)動的機器」で記載済みである</p>	

## 泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について  
別添3 レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震PRA

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>し、不確実さ <math>\beta_R</math>、<math>\beta_U</math>を与えることにより、損傷加速度の中央値を推定できる。</p> <p>なお、既往の電気品の試験結果より、電気品の誤動作に関する不確実さは最低でも <math>\beta_R = 0.11</math>、<math>\beta_U = 0.17</math>程度と考えられる。</p> <p>ここで、<math>\beta</math>設定法では、<math>\beta</math>を大きく設定すると中央値も大きくなるため、過大な<math>\beta</math>は非安全側な中央値を与える可能性があるため、試験結果から得られる不確実さの最小値を採用した。また、電気盤全体のシステムとしての誤動作に関する不確実さは、電気品レベルでの不確実さよりも大きいと考えられるため、上記の電気品の不確実さデータに基づき中央値を推定するものとした。</p> <p>したがって、メタルクラッドスイッチギアの損傷加速度の中央値は、<math>\beta</math>設定法に基づき以下のとおりとなる。</p> $\text{損傷加速度の中央値} = \text{試験加速度} \times \exp(1.65 \times (\beta_R + \beta_U)) \\ = \sqrt{\boxed{\quad}^2 + \boxed{\quad}^2} \times \exp(1.65 \times (0.11 + 0.17)) = \boxed{\quad}$ <p>したがって、強度に関する係数 <math>F_S</math> 及びその不確実さは、以下のとおりとなる。</p> $F_S = \frac{\text{損傷加速度の中央値}}{\text{床応答加速度}} \\ = \boxed{\quad} / \sqrt{(1.20^2 + 0.61^2)} = \boxed{\quad}$ $\beta_R = 0.11, \beta_U = 0.17$ <p>枠囲みの範囲は機密に係る事項ですので公開することはできません。</p> <p>(b) 塑性エネルギー吸収効果に関する係数</p> <p>電気盤類については、弾性範囲内で誤動作が生じることが否定できないため、本係数は考慮しない。</p> $F_\mu = 1.0, \beta_R = \beta_U = 0$ <p>b. 機器応答係数 <math>F_{ER}</math></p> <p>実機の加振試験に基づき <math>F_{ER}</math> を評価していることから、機器応答に関する裕度及び不確実さはすべて加振試験において考慮されていることになる。</p> <p>ただし、一般に耐震評価における盤の応答値算定の際に、床応答曲線の拡幅及び減衰定数に関する裕度が含まれるため、これを評価する。</p> <p>(a) 床応答スペクトルの拡幅に関する係数 <math>F_{ESS}</math></p>	<p>確実さ <math>\beta_T</math> 及び <math>\beta_U</math>を与えることにより、損傷加速度中央値を推定できる。</p> <p>なお、既往の電気品の試験結果より、電気品の誤動作に関する不確実さは <math>\beta_T = 0.10</math>、<math>\beta_U = 0.20</math>程度と考えられる。</p> <p>従って、パワーセンタの損傷加速度中央値は、<math>\beta</math>設定法に基づき以下の通りとなる。</p> $\text{損傷加速度中央値} = \text{試験加速度} \times \exp(1.65 \times (\beta_T + \beta_U)) \\ = 2.31 \times \exp(1.65 \times (0.10 + 0.20)) \\ = 3.79 \text{ (G)}$ <p>以上より、本係数及び不確実さは以下の値とする。</p> $F_S = \frac{\text{損傷加速度中央値}}{\text{応答加速度}} = \frac{3.79}{1.42} = 2.67$ $\beta_T = 0.10, \beta_U = 0.20$ <p>(b) 塑性エネルギー吸収係数 <math>F_\mu</math> の評価</p> <p>電気盤・計装については、弾性範囲内で誤動作が生じることが否定できないため、本係数及び不確実さは以下の値とする。</p> $F_\mu = 1.00, \beta_T = 0.00, \beta_U = 0.00$ <p>b. 機器の応答係数 <math>F_{RE}</math> の評価</p> <p>(a) スペクトル形状係数 <math>F_{SA}</math> の評価</p>	<p>なお、既往の電気品の試験結果より、電気品の誤動作に関する不確実さは最低でも <math>\beta_T = 0.11</math>、<math>\beta_U = 0.17</math>程度と考えられる。</p> <p>したがって、パワーコントロールセンタの損傷加速度中央値は、<math>\beta</math>設定法に基づき以下の通りとなる。</p> $\text{損傷加速度中央値} = \text{試験加速度} \times \exp(1.65 \times (\beta_T + \beta_U)) \\ = 49.0 \times \exp(1.65 \times (0.11 + 0.17)) \\ = 77.8 \text{ (m/s}^2\text{)}$ <p>以上より、本係数及び不確実さは以下の値とする。</p> $F_S = \frac{\text{損傷加速度中央値}}{\text{応答加速度}} = \frac{77.8}{25.9} = 3.00$ $\beta_T = 0.11, \beta_U = 0.17$ <p>(b) 塑性エネルギー吸収係数 <math>F_\mu</math> の評価</p> <p>電気盤・計装については、弾性範囲内で誤動作が生じることが否定できないため、本係数及び不確実さは以下の値とする。</p> $F_\mu = 1.00, \beta_T = 0.00, \beta_U = 0.00$ <p>b. 機器の応答係数 <math>F_{ER}</math> の評価</p> <p>(a) スペクトル形状係数 <math>F_{ESS}</math> の評価</p>	<p>【女川】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■個別評価による相違</li> <li>・大飯と泊では、PWR 電共研の知見による不確かさを採用している。</li> <li>・なお、大飯を含め他の PWR プラントでも同様である</li> </ul> <p>【大飯】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■記載方針の相違</li> <li>・機器の応答係数 <math>F_{ER}</math> の設定の考え方方は「(1) 大型機器」「(2) 静的機器」と同様であるため記載しない</li> </ul>

## 泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について  
 別添3. レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震PRA

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>本係数は、設計で用いられる床応答スペクトルの拡幅に含まれる裕度を評価するものである。</p> <p>ただし、遮断器については剛であるためここでは考慮しない。    したがって、<math>F_{\text{ess}}=1.0</math>、<math>\beta_r=\beta_u=0</math>とする。</p> <p>(b) 設計用減衰定数に関する係数<math>F_D</math>    本係数は、機器の損傷時の減衰定数の中央値に対する設計用減衰定数が持つ裕度を評価するものであり、次式により評価する。</p> $F_D = \frac{S_a(\text{設計用減衰定数})}{S_a(\text{損傷時の減衰定数中央値})}$ <p>遮断器は剛構造のため、ここでは考慮しない。</p>	<p>本機器は剛構造であるため、本係数及び不確実さは以下の値とする。</p> $F_{SA}=1.00, \beta_r=0.00, \beta_u=0.00$ <p>(b) 減衰係数<math>F_D</math>の評価    本機器は剛構造であるため、本係数及び不確実さは以下の値とする。</p>	<p>本評価では床応答の拡幅による余裕は、保守的に考慮していないため、本係数及び不確実さは以下の値とする。</p> $F_{\text{ess}}=1.00, \beta_r=0.00, \beta_u=0.00$ <p>(b) 減衰係数<math>F_D</math>の評価    本機器の設計用減衰定数と減衰定数の中央値での応答値の比は、下記のNewmark応答倍率式<sup>*18</sup>を用いる。</p> $\text{応答値} = 3.21 - 0.68 \times \ln(h)$ <p>ここで、<math>h</math>：減衰定数（%）</p> <p>減衰定数の中央値及び不確実さは、振動試験データや基準類等を参考にして設定する。</p> <p>また、不確実さとして、減衰定数の中央値に対して、設計用減衰定数が99%信頼下限（応答加速度では99%信頼上限）と考え、認識論的不確実さ<math>\beta_u</math>として次式により評価する。なお、本評価で算出された不確実さの値は安全側となるよう丸めて使用する。</p> <p>本機器においては、設計用減衰定数4.0%，減衰定数の中央値7.3%を用いる。</p> $F_D = \frac{3.21 - 0.68 \times \ln(4)}{3.21 - 0.68 \times \ln(7.3)} = 1.22$ $\beta_u = \frac{1}{2.33} \ln \left( \frac{3.21 - 0.68 \times \ln(4)}{3.21 - 0.68 \times \ln(7.3)} \right) \approx 0.10$ <p>以上より、本係数及び不確実さは以下の値とする。</p>	<p>【大飯】    ■記載方針の相違    ・泊は床応答スペクトルの拡幅に係る説明は「(1)大型機器」で記載済みであるため記載しない    【女川】【大飯】    ■個別評価による相違    ・大飯と女川では、剛構造であるため、本係数は考慮していない    ・泊では、拡幅された床応答曲線を用いた評価ではあるものの、本機器では保守的に本係数を考慮しない扱いをしている    ・なお、柔構造の電気盤については、大飯を含め他のPWRプラントでも同様である</p> <p>【女川】【大飯】    ■個別評価による相違    ・大飯と女川では、剛構造であるため、本係数は考慮していない    ・泊では、本機器は柔構造であるため、女川の(5)配管(原子炉補機冷却水系弁)と同様のNewmark応答倍率式を用いて本係数を評価している    ・なお、柔構造の電気盤では、大飯を含め他のPWRプラントでも同様である</p>

## 泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について  
 別添3 レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震PRA

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
したがって、 $F_D = 1.0$ 、 $\beta_R = \beta_U = 0$ とする。	$F_D = 1.00$ 、 $\beta_T = 0.00$ 、 $\beta_U = 0.00$	$F_D = 1.22$ 、 $\beta_T = 0.00$ 、 $\beta_U = 0.10$	
(c) 機器の解析モデル化に関する係数 $F_{EM}$  機器の解析モデル化は妥当であり、中央値に相当すると考える。  また、遮断器の耐震評価は、1質点系モデルを用いて行われており、不確実さは考慮しない。  $F_{EM} = 1.0$ 、 $\beta_R = \beta_U = 0$	(c) モデル化係数 $F_M$  本機器は剛構造であるため、本係数及び不確実さは以下の値とする。  $F_M = 1.00$ 、 $\beta_T = 0.00$ 、 $\beta_U = 0.00$	(c) モデル化係数 $F_{EM}$ の評価  機器の解析モデル化は妥当であり、中央値に相当すると考える。  また、本機器の耐震評価は、1質点系モデルを用いて行われており、不確実さは考慮しない。  $F_{EM} = 1.00$ 、 $\beta_T = 0.00$ 、 $\beta_U = 0.00$	【女川】 ■評価方針の相違 ・女川では、剛構造であること を理由としてモデル化係数 $F_{EM}$ を考慮していない ・大飯と泊では、剛構造の機器であっても解析モデルに応じて本係数を評価している ・大飯では、多質点系モデルによる耐震評価であるため、不確実さについては海外文献値の $\beta_U$ を採用している ・泊では、1質点系モデルによる耐震評価であり、1質点系モデルは、非常に単純で保守的な 解析モデルであることから、不確実さを考慮していない ・なお、1質点系モデルで耐震評価されている機器については、大飯を含め他のPWR プラントでも同様である
(d) モード合成法に関する係数 $F_{EMC}$  遮断器は剛であるため、本係数及び不確実さは以下の値とする。  $F_{EMC} = 1.0$ 、 $\beta_R = \beta_U = 0$	(d) モード合成係数 $F_{MC}$ の評価  本機器は剛構造であるため、本係数及び不確実さは以下の値とする。  $F_{MC} = 1.00$ 、 $\beta_T = 0.00$ 、 $\beta_U = 0.00$	(d) モード合成係数 $F_{EMC}$ の評価  本機器は1質点系モデルであるため、本係数及び不確実さは以下の値とする。  $F_{EMC} = 1.00$ 、 $\beta_T = 0.00$ 、 $\beta_U = 0.00$	【女川】【大飯】 ■評価方針の相違 ・剛構造や1質点系モデルの場合には、スペクトルモーダル解析におけるモード合成が発生しないためモード合成係数 $F_{EMC}$ を考慮していない ・なお、剛構造や1質点系モデルで耐震評価されている機器については、大飯を含め他のPWR プラントでも同様である 【大飯】
c. 建屋応答係数 $F_{SR}$ (建屋非線形応答に関する係数 $F_{NL}$ )	c. 建屋の応答係数 $F_{RS}$ の評価	c. 建屋の応答係数 $F_{SR}$ の評価	

## 泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について  
 別添3 レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震 PRA

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>建屋応答に関する各係数のうち建屋非線形応答に関する係数 <math>F_{RL}</math>以外の係数については、第1.2.1.c-3-2表に示す建屋応答係数を用いる。以下では <math>F_{RL}</math>についてのみ示す。</p> <p>(a) 解放基盤表面の地震動に関する係数 <math>F_1</math> の評価</p> <p>本機器は剛構造であるため、本係数及び不確実さは、制御建屋の1次固有周期における応答スペクトルの比を適用し、以下の値とする。</p> <p><math>F_1 = 0.88, \beta_r = 0.00, \beta_u = 0.00</math></p> <p>(b) 建屋への入力地震動に関する係数 <math>F_2</math> の評価</p> <p>本係数及び不確実さは以下の値とする。</p> <p><math>F_2 = 1.00, \beta_r = 0.20, \beta_u = 0.15</math></p> <p>(c) 建屋の地震応答に関する係数 <math>F_3</math> の評価</p> <p>本係数及び不確実さは以下の値とする。</p> <p><math>F_3 = 1.00, \beta_r = 0.20, \beta_u = 0.15</math></p> <p>建屋の非線形応答により建屋の入力レベルに応じて床応答ス</p>	<p>建屋応答に関する各係数は、第3.2.1.c-2-2表に示す制御建屋の応答係数を用いる。</p> <p>(a) 入力地震動のスペクトル形状に関する係数 <math>F_{SS}</math> の評価</p> <p>本係数及び不確実さは、原子炉建屋の1次固有周期における応答スペクトルの比を適用し、以下の値とする。</p> <p><math>F_{SS} = 1.01, \beta_r = 0.00, \beta_u = 0.00</math></p> <p>(b) 建屋の地震応答に関する係数の評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・建屋の減衰に関する係数 <math>F_b</math> の評価</li> <li>本係数及び不確実さは以下の値とする。</li> <li><math>F_b = 0.99, \beta_r = 0.08, \beta_u = 0.00</math></li> <li>・建屋のモデル化に関する係数 <math>F_M</math> の評価</li> <li>本係数及び不確実さは以下の値とする。</li> <li><math>F_M = 0.99, \beta_r = 0.01, \beta_u = 0.15</math></li> <li>・建屋の非線形応答に関する係数 <math>F_{RL}</math> の評価</li> <li>建屋の非線形応答により建屋の入力レベルに応じて床応答ス</li> </ul>	<p>建屋応答に関する各係数は、第3.2.1.c-3-2表に示す原子炉建屋の応答係数を用いる。</p> <p>(a) 入力地震動のスペクトル形状に関する係数 <math>F_{SS}</math> の評価</p> <p>本係数及び不確実さは、原子炉建屋の1次固有周期における応答スペクトルの比を適用し、以下の値とする。</p> <p><math>F_{SS} = 1.01, \beta_r = 0.00, \beta_u = 0.00</math></p> <p>(b) 建屋の地震応答に関する係数の評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・建屋の減衰に関する係数 <math>F_b</math> の評価</li> <li>本係数及び不確実さは以下の値とする。</li> <li><math>F_b = 0.99, \beta_r = 0.08, \beta_u = 0.00</math></li> <li>・建屋のモデル化に関する係数 <math>F_M</math> の評価</li> <li>本係数及び不確実さは以下の値とする。</li> <li><math>F_M = 0.99, \beta_r = 0.01, \beta_u = 0.15</math></li> <li>・建屋の非線形応答に関する係数 <math>F_{RL}</math> の評価</li> <li>建屋の非線形応答により建屋の入力レベルに応じて床応答ス</li> </ul>	<p>■記載方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・泊は <math>F_{RL}</math>以外の係数についても説明を記載している</li> </ul> <p>【女川】</p> <p>■記載方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <math>F_{SS}</math>は <math>F_1</math>を細分化したサブ応答係数であり、評価内容に相違はない</li> </ul> <p>【女川】</p> <p>■評価方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・泊は機器の固有周期による影響は建屋の非線形応答に関する係数 <math>F_{RL}</math>で考慮している</li> </ul> <p>【女川】</p> <p>■施設構造の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本係数は、地盤モデルに関する設計上の裕度を評価するものであり、泊は直接入力としていることから、考慮不要な係数である（大飯に記載はないが、泊と同様の評価となっている）</li> </ul> <p>【女川】</p> <p>■記載方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・女川は泊に記載の3つの係数を1つにまとめた記載となつており、評価内容に相違はない</li> </ul>

## 泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について  
別添3 レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震PRA

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																															
<p>ペクトルの長周期側ではスペクトル形状が変動すると考えられ、本係数ではこのスペクトル形状の変動の影響を不確実さとして考慮する。</p> <p>ここで、試験加速度は最大加速度(ZPA)ベースであるが、ZPAについては建屋の非線形応答による加速度レベルに応じた変動は小さく、むしろ線形応答に比較した場合は、加速度レベルが上がるにしたがい低減する傾向にあると考えられる。</p> <p>ただし、このような低減については現状有効なデータはないため、安全側に本係数は考慮せず、以下のとおりとする。</p> <p><math>F_{NL}=1.0</math>、<math>\beta_R=\beta_U=0</math></p>		<p>ペクトルの長周期側ではスペクトル形状が変動すると考えられ、本係数ではこのスペクトル形状の変動の影響を不確実さとして考慮する。</p> <p>本係数及び不確実さは以下の値とする。</p> <p><math>F_{NL}=1.00</math>、<math>\beta_r=0.17</math>、<math>\beta_u=0.10</math></p>	<p>【大飯】</p> <p>■個別評価による相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>泊の機器は柔であり、大飯と機器の固有周期が異なるため、考慮する不確実さの値が異なる</li> </ul>																																															
<p>d. 評価結果のまとめ</p> <p>各係数の評価結果を下表に示す。これらの結果より、メタルクラッドスイッチギアのフラジリティ加速度の中央値<math>A_m</math>、その不確実さ<math>\beta_r</math>・<math>\beta_u</math>及びHCLPFは、以下のとおりとなる。</p> <p>また、フラジリティ曲線を第1.2.1.c-3-3図に示す。</p> <p><math>A_m=2.05</math>(G)</p> <p><math>\beta_r=0.14</math>、<math>\beta_u=0.23</math></p> <p><math>HCLPF=A_m \times \exp[-1.65 \times (\beta_r + \beta_u)]</math>  <math>=2.05 \times \exp[-1.65 \times (0.14+0.23)]</math>  <math>=1.11</math>(G)</p>	<p>d. 評価結果のまとめ</p> <p>各係数の評価結果を第3.2.1.c-2-10表に示す。これらの結果より、パワーセンタのフラジリティ加速度の中央値<math>A_m</math>、その不確実さ<math>\beta_r</math>・<math>\beta_u</math>及びHCLPFは、以下の通りとなる。</p> <p>また、フラジリティ曲線を第3.2.1.c-2-7図に示す。</p> <p><math>A_m=2.40</math>(G)</p> <p><math>\beta_r=0.22</math>、<math>\beta_u=0.25</math></p> <p><math>HCLPF=A_m \times \exp[-1.65 \times (\beta_r + \beta_u)]</math>  <math>=2.40 \times \exp[-1.65 \times (0.22+0.25)]</math>  <math>=1.11</math>(G)</p>	<p>d. 評価結果のまとめ</p> <p>各係数の評価結果を第3.2.1.c-3-10表に示す。これらの結果より、パワーコントロールセンタのフラジリティ加速度の中央値<math>A_m</math>、その不確実さ<math>\beta_r</math>・<math>\beta_u</math>及びHCLPFは、以下の通りとなる。</p> <p>また、フラジリティ曲線を第3.2.1.c-3-7図に示す。</p> <p><math>A_m=2.03</math>(G)</p> <p><math>\beta_r=0.22</math>、<math>\beta_u=0.27</math></p> <p><math>HCLPF=A_m \times \exp[-1.65 \times (\beta_r + \beta_u)]</math>  <math>=2.03 \times \exp[-1.65 \times (0.22+0.27)]</math>  <math>=0.91</math>(G)</p>	<p>【大飯】</p> <p>■記載箇所の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>女川実績の反映</li> <li>泊は第3.2.1.c-3-10表で整理している</li> </ul>																																															
<p>表 メタルクラッドスイッチギア 安全係数評価結果の一覧</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="2"><math>F_{EC}</math></th> <th colspan="2"><math>F_{EE}</math></th> <th colspan="2"><math>F_{SR}</math></th> <th rowspan="2">合計</th> </tr> <tr> <th><math>F_s</math></th> <th><math>F_g</math></th> <th><math>F_{EM}</math></th> <th><math>F_p</math></th> <th><math>F_{EH}</math></th> <th><math>F</math></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>中央値</td> <td>■</td> <td>1.00</td> <td>1.00</td> <td>1.00</td> <td>1.00</td> <td>1.07</td> <td>0.99</td> <td>1.00</td> <td>1.00</td> <td>2.05</td> </tr> <tr> <td><math>\beta_R</math></td> <td>0.11</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> <td>0.08</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> <td>0.14</td> </tr> <tr> <td><math>\beta_U</math></td> <td>0.17</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> <td>0.15</td> <td>0.00</td> <td>0.23</td> </tr> </tbody> </table> <p>枠囲みの範囲は機密に係る事項ですので公開することはできません。</p>		$F_{EC}$		$F_{EE}$		$F_{SR}$		合計	$F_s$	$F_g$	$F_{EM}$	$F_p$	$F_{EH}$	$F$	中央値	■	1.00	1.00	1.00	1.00	1.07	0.99	1.00	1.00	2.05	$\beta_R$	0.11	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.08	0.00	0.00	0.14	$\beta_U$	0.17	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.15	0.00	0.23			
		$F_{EC}$		$F_{EE}$		$F_{SR}$			合計																																									
	$F_s$	$F_g$	$F_{EM}$	$F_p$	$F_{EH}$	$F$																																												
中央値	■	1.00	1.00	1.00	1.00	1.07	0.99	1.00	1.00	2.05																																								
$\beta_R$	0.11	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.08	0.00	0.00	0.14																																								
$\beta_U$	0.17	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.15	0.00	0.23																																								
<p>(5) 配管（一般電動弁）</p> <p>評価対象機器の諸元を以下に示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>評価対象機器：一般電動弁（加圧器逃がし弁元弁）</li> </ul>	<p>(5) 配管（原子炉補機冷却水系弁）</p> <p>評価対象機器の諸元及び耐震評価結果を以下に示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>評価対象機器：原子炉補機冷却水系弁</li> </ul>	<p>(5) 配管（一般代表弁）</p> <p>評価対象機器の諸元及び耐震評価結果を以下に示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>評価対象機器：一般代表弁（高圧注入ポンプ燃料取替用水ピッタ側入口弁）</li> </ul>	<p>【女川】【大飯】</p> <p>■個別評価による相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>FV重要度が異なるため、代表機器も異なる</li> </ul>																																															

## 泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について  
 別添3 レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震 PRA

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																		
<ul style="list-style-type: none"> <li>設置位置：<b>原子炉建屋 内部コンクリート E.L. 22.9m～48.0m</b></li> <li>耐震クラス：S</li> <li>固有振動数：剛</li> <li>評価対象部位及び評価応力： 下表の耐震評価結果に示す。</li> </ul> <p>本一般電動弁においては、弁駆動部応答加速度が機能維持確認加速度を上回っているため、J E A G 4 6 0 1の機能維持評価手法にしたがった詳細評価による構造強度評価を実施している。そのため、機能損傷ではあるが構造損傷の評価手法にて、下表より、裕度の低い面外の結果を基に評価を実施した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>設置位置：<b>原子炉建屋O.P. -8.1m</b></li> <li>耐震クラス：S</li> <li>固有振動数：柔構造（当該弁を含む配管）</li> <li>評価地震動：最大加速度 <b>1000ガル (S<sub>s</sub>-2)</b></li> <li>評価項目：機能損傷（動的機能） 第3.2.1.c-2-11表に、<b>原子炉補機冷却水系弁</b>の耐震評価結果を示す。第3.2.1.c-2-11表をもとにフランジリティを算出した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>設置位置：<b>原子炉補助建屋T.P. 11.1m</b></li> <li>耐震クラス：S</li> <li>固有振動数：柔構造（当該弁を含む配管）</li> <li>評価地震動：最大加速度 <b>550Gal (S<sub>s</sub>1)</b></li> <li>評価項目：機能損傷（動的機能） 第3.2.1.c-3-11表に、<b>一般代表弁</b>の耐震評価結果を示す。第3.2.1.c-3-11表を基にフランジリティを算出した。 弁類については、水平方向と上下方向の同時入力が、機能維持に対して与える影響が否定できないため、水平方向と上下方向の入力加速度を二乗和平方根(SRSS)により合成するものとする。</li> </ul>	<p>【大飯】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■評価方針の相違</li> <li>・大飯の評価対象弁は応答加速度が過大のため弁の構造強度に着目した機能維持評価であるが、泊では応答加速度での機能維持評価で裕度があるため構造強度に着目する必要がない</li> <li>・この扱いは、大飯を含め他のPWRプラントでも同様である</li> </ul> <p>【女川】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■評価方針の相違</li> <li>・女川では1方向のみに着目した評価としているが、泊では回転機器に対しては水平・上下が合成された入力による影響を考慮している</li> <li>・この扱いは、大飯を含め他のPWRプラントでも同様である</li> </ul> <p>【泊】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■記載箇所の相違</li> <li>・女川実績の反映</li> <li>・泊は第3.2.1.c-3-11表で整理している</li> </ul>																		
表 加圧器逃がし弁元弁の耐震評価結果																					
<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価部位</th><th>材 料</th><th>評価応力</th><th>許容値 (N/mm<sup>2</sup>)</th><th>発生応力 (N/mm<sup>2</sup>)</th><th>裕 度</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ヨーク面内</td><td>SCPH2</td><td>1次応力</td><td>329</td><td>13</td><td>25.3</td></tr> <tr> <td>ヨーク面外</td><td>SCPH2</td><td>1次応力</td><td>329</td><td>148</td><td>2.22</td></tr> </tbody> </table>	評価部位	材 料	評価応力	許容値 (N/mm <sup>2</sup> )	発生応力 (N/mm <sup>2</sup> )	裕 度	ヨーク面内	SCPH2	1次応力	329	13	25.3	ヨーク面外	SCPH2	1次応力	329	148	2.22			
評価部位	材 料	評価応力	許容値 (N/mm <sup>2</sup> )	発生応力 (N/mm <sup>2</sup> )	裕 度																
ヨーク面内	SCPH2	1次応力	329	13	25.3																
ヨーク面外	SCPH2	1次応力	329	148	2.22																
a. 機器耐力係数 $F_{Ec}$ の評価 (a) 強度に関する係数 $F_s$ の評価 本係数は、次式により評価する。	a. 機器の耐力係数 $F_c$ の評価 (a) 強度係数 $F_s$ の評価 本係数は下記の式で算出する。	a. 機器の耐力係数 $F_{Ec}$ の評価 (a) 強度係数 $F_s$ の評価 本係数は下記の式で算出する。																			

## 泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について  
 別添3. レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震PRA

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
$F_s = \frac{\sigma_c - \sigma_N}{\sigma_T - \sigma_N}$ <p>ここで、<math>\sigma_c</math>：限界応力の中央値  <math>\sigma_T</math>：地震時発生応力  <math>\sigma_N</math>：通常運転時応力</p> <p>評価対象部位であるヨーク部の材質はSCPH2であることから、限界応力としてJ-SME発電用原子力設備規格設計・建設規格(2005年度版)第I編付録図表Part5の引張応力<math>S_u=438N/mm^2</math>(評価温度154°C)を採用する。この<math>S_u</math>値の1.1倍を限界応力の中央値とする。</p> <p>したがって、  <math>\sigma_c = 1.1 \times S_u = 1.1 \times 438 = 481.8 N/mm^2</math></p> <p>なお、通常運転時応力は耐震評価の時点で考慮されていないため、0とする。</p> <p><math>\sigma_N = 0 N/mm^2</math></p> <p>以上より、強度に関する係数<math>F_s</math>は、以下のとおりとなる。</p> $F_s = \frac{\sigma_c}{\sigma_T} = \frac{1.1 \times S_u}{\sigma_T} = \frac{481.8}{148} = 3.26$ <p>不確実さ<math>\beta_u</math>として、限界応力の中央値<math>1.1 \times S_u</math>に対して、告示値<math>S_u</math>が95%信頼下限に相当すると考える。</p> $\beta_u = \frac{1}{1.65} \ln \left( \frac{1.1 \times S_u}{S_u} \right) = 0.06 \quad (\beta_R = 0)$ <p>(b) 塑性エネルギー吸収効果に関する係数<math>F_\mu</math>      電動弁構造部材の塑性変形によるエネルギー吸収効果はある程度期待できると考えられるが、今回の評価では安全側に本係数は考慮しないものとする。すなわち、以下のとおりとする</p>	$F_s = \frac{\text{損傷加速度中央値}}{\text{応答加速度}}$ <p>・損傷加速度中央値について      弁のように、動的機能維持が必要な機器については、試験加速度（機能維持確認済加速度等）に基づきフランジリティ評価を行う。      フランジリティ評価のベースとする試験加速度レベルでは誤動作・損傷が見られないことから、損傷加速度のHCLPF=試験加速度とする。また、誤動作・損傷に対する損傷加速度中央値<math>A_m</math>をHCLPFから下記のように推定する。</p> $A_m = HCLPF / 0.9$ $= 9.5 / 0.9$ $= 10.56 \text{ (G)}$ <p>不確実さは、<math>A_m</math>とHCLPFより求める。<math>A_m</math>とHCLPFの関係は以下のとおりである。</p> $A_m = HCLPF \times \exp(1.65 \times (\beta_r + \beta_u))$ <p><math>\beta_r</math>と<math>\beta_u</math>は同程度と考え、<math>\beta_r = \beta_u</math>とする。</p> <p>以上より、本係数及び不確実さは以下の値とする。</p> $F_s = \frac{\text{損傷加速度中央値}}{\text{応答加速度}} = \frac{10.56}{5.15} = 2.05$ $\beta_r = 0.03, \beta_u = 0.03$ <p>(b) 塑性エネルギー吸収係数<math>F_\mu</math>の評価      弁のような動的機器については、弹性範囲内で誤動作が生じることが否定できないため、本係数及び不確実さは以下の値とする。</p>	$F_s = \frac{\text{損傷加速度中央値}}{\text{応答加速度}}$ <p>・損傷加速度中央値について      弁のように、動的機能維持が必要な機器については、試験加速度（機能維持確認済加速度等）に基づきフランジリティ評価を行う。      フランジリティ評価のベースとする試験加速度レベルでは誤動作・損傷が見られないことから、<math>\beta</math>設定法により誤動作・損傷に対する加速度の中央値を推定する。</p> <p>なお、弁等の動的機器に関する誤動作等の不確実さデータの知見は現状得られていないため、電気盤類の評価で用いた電気品の誤動作に関する不確実さよりも小さいと仮定し、<math>\beta_r = \beta_u = 0.10</math>とする。</p> <p>ここで、この<math>\beta</math>設定法は、従来一般的に試験加速度として用いられてきた機能確認済加速度が、実際に誤動作等が生じる加速度レベルに対して十分に安全側との考え方から適用されているものである。</p> <p>以上から、弁の損傷加速度の中央値は、<math>\beta</math>設定法に基づき以下のとおりとなる。</p> $\text{損傷加速度の中央値} = \text{試験加速度} \times \exp[1.65 \times (\beta_r + \beta_u)]$ $= 83.16 \times \exp[1.65 \times (0.10 + 0.10)] = 115.67 \text{ m/s}^2$ <p>以上より、本係数及び不確実さは以下の値とする。</p> $F_s = \frac{\text{損傷加速度中央値}}{\text{応答加速度}} = \frac{115.67}{20.225} = 5.71$ $\beta_r = 0.10, \beta_u = 0.10$ <p>(b) 塑性エネルギー吸収係数<math>F_\mu</math>の評価      弁のような動的機器については、弹性範囲内で誤動作が生じることが否定できないため、本係数及び不確実さは以下の値とする。</p>	<p>【大飯】      ■評価方針の相違      ・大飯では、弁の構造強度に着目した機能維持評価として、静的機器と同様の方法で<math>F_s</math>を評価している      ・女川では、機能維持確認加速度から、工学的判断で損傷限界値を定めて、<math>F_s</math>と不確実さを評価している      ・泊では、機能維持確認済加速度から、工学的判断で損傷限界値に関する不確実さを定めて、損傷限界値と<math>F_s</math>を評価している      ・なお、動的機器については、大飯を含め他のPWRプラントでも同様である</p> <p>【大飯】      ■評価方針の相違      ・大飯では、弁の構造部材につ</p>

泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について  
 別添3. レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震PRA

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
$F_\mu = 1.0, \beta_g = \beta_u = 0$  <b>b. 機器応答係数 <math>F_{ER}</math></b>  (a) 床応答スペクトルの拡幅に関する係数 $F_{ESS}$ 本係数は、設計で用いられる床応答スペクトルの拡幅に含まれる裕度を評価するものであり、次式により評価する。 $F_{ESS} = \frac{S_a \text{ (拡幅あり)}}{S_a \text{ (拡幅なし)}}$ ただし、本一般電動弁は時刻歴解析を実施しているため、本係数は考慮しない。	$F_\mu = 1.00, \beta_r = 0.00, \beta_u = 0.00$  <b>b. 機器の応答係数 <math>F_{RE}</math> の評価</b> 当該弁の地震による応答加速度は、当該弁を含む配管のスペクトルモーダル解析により得られることから、機器の応答係数は配管に対して評価する。	$F_\mu = 1.00, \beta_r = 0.00, \beta_u = 0.00$  <b>b. 機器の応答係数 <math>F_{ER}</math> の評価</b> 当該弁の地震による応答加速度は、当該弁を含む配管のスペクトルモーダル解析により得られることから、機器の応答係数は配管に対して評価する。	いて保守的な評価として塑性変形によるエネルギー吸収を期待していない  <b>【大飯】</b> ■記載方針の相違 ・女川実績の反映による記載の充実
以上より、 $F_{ESS} = 1.0, \beta_g = \beta_u = 0$  <b>(b) 設計用減衰定数に関する係数 <math>F_D</math></b> 本係数は、機器の損傷時の減衰定数の中央値に対する設計用減衰定数を持つ裕度を評価するものであり、次式により評価する。 $F_D = \frac{S_a \text{ (設計用減衰定数)}}{S_a \text{ (損傷時の減衰定数中央値)}}$	以上より、本係数及び不確実さは以下の値とする。 $F_{SA} = 1.24, \beta_r = 0.00, \beta_u = 0.07$  <b>(b) 減衰係数 <math>F_D</math> の評価</b> 本機器の設計用減衰定数と減衰定数の中央値での応答値の比は、下記のNewmark応答倍率式 <sup>20</sup> を用いる。 $\text{応答値} = 3.21 - 0.68 \times \ln(h)$ ここで、 $h$ ：減衰定数（%） 減衰定数の中央値及び不確実さは、振動試験データや基準類	以上より、本係数及び不確実さは以下の値とする。 $F_{ESS} = 1.00, \beta_r = 0.00, \beta_u = 0.00$  <b>(b) 減衰係数 <math>F_D</math> の評価</b> 本機器は配管のスペクトルモーダル解析による応答解析に基づく応答加速度により評価しているが、配管の場合は支配的な振動モードが1次とは限らず、また、支配的な固有値を一意に特定できないため、保守的に考慮しない。	<b>【大飯】</b> ■評価方針の相違 ・大飯では、弁の構造部材について保守的な評価として塑性変形によるエネルギー吸収を期待していない ・女川と泊では、機能維持評価であることから、塑性エネルギー吸収を期待できないため、本係数は考慮していない ・この扱いは、大飯を含め他のPWRプラントでも同様である

## 泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について  
 別添3 レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震PRA

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
ただし、本一般電動弁は時刻歴解析を実施しているため、本係数は考慮しない。	<p>等を参考にして設定する。          なお、不確実さ <math>\beta_c</math> は、振動試験による減衰データの下限値を設計用減衰として用いているため、設計用減衰定数による応答が減衰定数の中央値による応答の99%上限値と仮定して算出する。 <math>\beta_r</math> と <math>\beta_u</math> は1:1で配分する。</p> <p>本機器においては、設計用減衰定数2.0%，減衰定数の中央値5.3%を用いる。</p> $F_p = \frac{3.21 - 0.68 \times \ln(2)}{3.21 - 0.68 \times \ln(5.3)} = 1.32$ $\beta_r = \beta_u = \frac{1}{2.33 \times \sqrt{2}} \ln \left( \frac{3.21 - 0.68 \times \ln(2)}{3.21 - 0.68 \times \ln(5.3)} \right) = 0.08$ <p>以上より、本係数及び不確実さは以下の値とする。</p> $F_D = 1.32, \beta_r = 0.08, \beta_u = 0.08$		<p>慮していない</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・女川では、本係数を評価するための応答加速度の設定が困難なことから、本係数では代表プラントで評価した値を使用している</li> <li>・泊では、本係数を評価するための応答加速度の設定が困難なことから、保守的な評価として本係数を考慮しない扱いをしている</li> </ul>
<p>以上より、</p> $F_D = 1.0, \beta_r = \beta_u = 0$		<p>以上より、本係数及び不確実さは以下の値とする。</p> $F_D = 1.00, \beta_r = 0.00, \beta_u = 0.10$	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スペクトルモーダル解析を実施している配管については、大飯を含め他のPWRプラントでも同様である</li> </ul>
<p>(c) 機器の解析モデル化に関する係数 <math>F_{EM}</math></p> <p>機器の解析モデル化は妥当であり、中央値に相当すると考える。</p> <p>また、一般電動弁の耐震評価は、多質点系モデルを用いて行われており、モデル化に関する不確実さ <math>\beta_D</math> は以下の値とする。</p> $F_{EM} = 1.0, \beta_r = 0, \beta_u = 0.15$	<p>(c) モデル化係数 <math>F_M</math> の評価</p> <p>機器の解析モデル化は妥当であり、中央値に相当すると考える。</p> <p>また、本機器の耐震評価は多質点系モデルを用いて行われているため、不確実さは海外文献<sup>13</sup>より0.15とする。</p> <p>以上より、本係数及び不確実さは以下の値とする。</p> $F_M = 1.00, \beta_r = 0.00, \beta_u = 0.15$	<p>(c) モデル化係数 <math>F_{EM}</math> の評価</p> <p>機器の解析モデル化は妥当であり、中央値に相当すると考える。</p> <p>また、本機器の耐震評価は多質点系モデルを用いて行われているため、不確実さは海外文献<sup>13</sup>より0.15とする。</p> <p>以上より、本係数及び不確実さは以下の値とする。</p> $F_{EM} = 1.00, \beta_r = 0.00, \beta_u = 0.15$	<p>【女川】【大飯】</p> <p>■個別評価の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大飯では、時刻歴解析を実施していることから、本係数は考慮していない</li> <li>・女川と泊では、多質点系でスペクトルモーダル解析を実施していることから、モード合成に関する不確実さについては文献値の <math>\beta_r</math> を採用している</li> <li>・なお、多質点系のスペクトルモーダル解析で耐震評価されている機器については、大飯を含め他のPWRプラントでも同</li> </ul>
<p>(d) モード合成法に関する係数 <math>F_{EMC}</math></p> <p>本一般電動弁は時刻歴解析を実施しているため、本係数は考慮しない。</p> $F_{EMC} = 1.0, \beta_r = 0, \beta_u = 0$	<p>(d) モード合成係数 <math>F_{MC}</math> の評価</p> <p>本機器はスペクトルモーダル解析を行っているため、モード合成法に含まれる余裕としては、「地震PSA学会標準」に基づき、本係数及び不確実さは以下の値とする。</p> $F_{MC} = 1.03, \beta_r = 0.13, \beta_u = 0.00$	<p>(d) モード合成係数 <math>F_{EMC}</math> の評価</p> <p>本機器はスペクトルモーダル解析を行っているため、モード合成法に関する本係数及び不確実さは海外文献<sup>13</sup>に基づき以下の値とする。</p> $F_{EMC} = 1.00, \beta_r = 0.15, \beta_u = 0.00$	

## 泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について

別添3. レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震PRA

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>c. 建屋応答係数 <math>F_{SR}</math> (建屋非線形応答に関する係数 <math>F_{NL}</math>)</p> <p>建屋応答に関する各係数のうち建屋非線形応答に関する係数 <math>F_{NL}</math>以外の係数については、第1.2.1.c-3-2表に示す建屋応答係数を用いる。以下では <math>F_{NL}</math>についてのみ示す。</p>	<p>c. 建屋の応答係数 <math>F_{RS}</math> の評価</p> <p>建屋応答に関する各係数は、第3.2.1.c-2-2表に示す原子炉建屋の応答係数を用いる。</p> <p>(a) 解放基盤表面の地震動に関する係数 <math>F_1</math> の評価</p> <p>本機器については、原子炉補機冷却水系配管の1次固有周期より短周期側の比の最小値を適用する。</p> <p>以上より、本係数及び不確実さは以下の値とする。</p> $F_1 = 0.86, \beta_r = 0.00, \beta_u = 0.00$ <p>(b) 建屋への入力地震動に関する係数 <math>F_2</math> の評価</p> <p>本係数及び不確実さは以下の値とする。</p> $F_2 = 1.00, \beta_r = 0.20, \beta_u = 0.15$ <p>(c) 建屋の地震応答に関する係数 <math>F_3</math> の評価</p> <p>本係数及び不確実さは以下の値とする。</p> $F_3 = 1.00, \beta_r = 0.20, \beta_u = 0.15$	<p>c. 建屋の応答係数 <math>F_{SR}</math> の評価</p> <p>建屋応答に関する各係数は、第3.2.1.c-3-2表に示す原子炉補助建屋の応答係数を用いる。</p> <p>(a) 入力地震動のスペクトル形状に関する係数 <math>F_{SS}</math> の評価</p> <p>本係数及び不確実さは、原子炉補助建屋の1次固有周期における応答スペクトルの比を適用し、以下の値とする。</p> $F_{SS} = 1.01, \beta_r = 0.00, \beta_u = 0.00$ <p>(b) 建屋の地震応答に関する係数の評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 建屋の減衰に関する係数 <math>F_d</math> の評価</li> </ul> <p>本係数及び不確実さは以下の値とする。</p> $F_d = 0.99, \beta_r = 0.08, \beta_u = 0.00$ <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 建屋のモデル化に関する係数 <math>F_M</math> の評価</li> </ul> <p>本係数及び不確実さは以下の値とする。</p> $F_M = 0.99, \beta_r = 0.01, \beta_u = 0.15$	<p>様である</p> <p>【大飯】</p> <p>■記載方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・泊は <math>F_{NL}</math>以外の係数についても説明を記載している</li> </ul> <p>【女川】</p> <p>■記載方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <math>F_{SS}</math>は <math>F_1</math>を細分化したサブ応答係数であり、評価内容に相違はない</li> </ul> <p>【女川】</p> <p>■評価方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 泊は機器の固有周期による影響は建屋の非線形応答に関する係数 <math>F_{NL}</math>で考慮している</li> </ul> <p>【女川】</p> <p>■施設構造の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本係数は、地盤モデルに関する設計上の裕度を評価するものであり、泊は直接入力としていることから、考慮不要な係数である（大飯に記載はないが、泊と同様の評価となっている）</li> </ul> <p>【女川】</p> <p>■記載方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 女川は泊に記載の3つの係数を1つにまとめた記載となつており、評価内容に相違はない</li> </ul>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について  
 別添3. レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震PRA

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																					
<p>建屋の非線形応答により建屋の入力レベルに応じて床応答スペクトルの長周期側ではスペクトル形状が変動すると考えられ、本係数ではこのスペクトル形状の変動の影響を不確実さとして考慮するため、本係数は以下のとおりとする。</p> <p><math>F_{NL} = 1.0, \beta_r = 0.17, \beta_u = 0.10</math></p> <p>d. 評価結果のまとめ</p> <p>各係数の評価結果を下表に示す。これらの結果より、一般電動弁のフラジリティ加速度の中央値<math>A_m</math>、その不確実さ<math>\beta_r \cdot \beta_u</math>及びHCLPFは、以下のとおりとなる。</p> <p>また、フラジリティ曲線を第1.2.1.c-3-5図に示す。</p> <p><math>A_m = 2.46</math> (G)</p> <p><math>\beta_r = 0.20, \beta_u = 0.27</math></p> <p><math>HCLPF = A_m \times \exp[-1.65 \times (\beta_r + \beta_u)]</math>  <math>= 2.46 \times \exp[-1.65 \times (0.20 + 0.27)]</math>  <math>= 1.16</math> (G)</p>	<p>d. 評価結果のまとめ</p> <p>各係数の評価結果を第3.2.1-c-2-12表に示す。これらの結果より、原子炉補機冷却水系弁のフラジリティ加速度の中央値<math>A_m</math>、その不確実さ<math>\beta_r \cdot \beta_u</math>及びHCLPFは、以下の通りとなる。</p> <p>また、フラジリティ曲線を第3.2.1.c-2-8図に示す。</p> <p><math>A_m = 3.03</math> (G)</p> <p><math>\beta_r = 0.25, \beta_u = 0.24</math></p> <p><math>HCLPF = A_m \times \exp[-1.65 \times (\beta_r + \beta_u)]</math>  <math>= 3.03 \times \exp[-1.65 \times (0.25 + 0.24)]</math>  <math>= 1.35</math> (G)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 建屋の非線形応答に関する係数<math>F_{NL}</math>の評価</li> </ul> <p>建屋の非線形応答により建屋の入力レベルに応じて床応答スペクトルの長周期側ではスペクトル形状が変動すると考えられ、本係数ではこのスペクトル形状の変動の影響を不確実さとして考慮する。</p> <p>本係数及び不確実さは以下の値とする。</p> <p><math>F_{NL} = 1.00, \beta_r = 0.17, \beta_u = 0.10</math></p> <p>d. 評価結果のまとめ</p> <p>各係数の評価結果を第3.2.1-c-3-12表に示す。これらの結果より、一般代表弁のフラジリティ加速度の中央値<math>A_m</math>、その不確実さ<math>\beta_r \cdot \beta_u</math>及びHCLPFは、以下の通りとなる。</p> <p>また、フラジリティ曲線を第3.2.1.c-3-8図に示す。</p> <p><math>A_m = 3.16</math> (G)</p> <p><math>\beta_r = 0.27, \beta_u = 0.26</math></p> <p><math>HCLPF = A_m \times \exp[-1.65 \times (\beta_r + \beta_u)]</math>  <math>= 3.16 \times \exp[-1.65 \times (0.27 + 0.26)]</math>  <math>= 1.35</math> (G)</p>	<p>【大飯】</p> <p>■記載箇所の相違</p> <p>・女川実績の反映</p> <p>・泊は第3.2.1.c-3-12表で整理している</p> <p>【大飯】</p> <p>■記載の充実</p> <p>・女川の実績反映</p>																																																					
<p>表 一般電動弁 安全係数評価結果の一覧</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="2"><math>F_{EC}</math></th> <th colspan="3"><math>F_{ER}</math></th> <th colspan="3"><math>F_{SR}</math></th> <th rowspan="2">合計</th> </tr> <tr> <th><math>F_s</math></th> <th><math>F_b</math></th> <th><math>F_{ES}</math></th> <th><math>F_h</math></th> <th><math>F_{SH}</math></th> <th><math>F_{SM}</math></th> <th><math>F_{SE}</math></th> <th><math>F_{SU}</math></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>中央値</td> <td>3.26</td> <td>1.00</td> <td>1.00</td> <td>1.00</td> <td>1.00</td> <td>1.07</td> <td>0.99</td> <td>1.00</td> <td>1.00</td> <td>2.46</td> </tr> <tr> <td>不確実さ</td> <td><math>\beta_u</math></td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> <td>0.15</td> <td>0.00</td> <td>0.09</td> <td>0.00</td> <td>0.17</td> <td>0.20</td> </tr> <tr> <td></td> <td><math>\beta_v</math></td> <td>0.12</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> <td>0.15</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> <td>0.15</td> <td>0.10</td> <td>0.27</td> </tr> </tbody> </table> <p>(参考資料)</p> <p>*13 : R. P. Kennedy and M. K. Ravindra, "Seismic Fragilities for Nuclear Power Plant Risk Studies", Nuclear Engineering and Design 79(1984)</p> <p>*14 : R. Kassawara. EPRI Report 1003121. "Methodology for Probabilistic Risk Assessment Applications of Seismic</p> <p>(参考資料)</p> <p>*13 : R. P. Kennedy and M. K. Ravindra, "Seismic Fragilities for Nuclear Power Plant Risk Studies", Nuclear Engineering and Design 79(1984)</p> <p>*14 : R. Kassawara. EPRI Report 1003121. "Methodology for Probabilistic Risk Assessment Applications of Seismic</p>					$F_{EC}$		$F_{ER}$			$F_{SR}$			合計	$F_s$	$F_b$	$F_{ES}$	$F_h$	$F_{SH}$	$F_{SM}$	$F_{SE}$	$F_{SU}$	中央値	3.26	1.00	1.00	1.00	1.00	1.07	0.99	1.00	1.00	2.46	不確実さ	$\beta_u$	0.00	0.00	0.00	0.00	0.15	0.00	0.09	0.00	0.17	0.20		$\beta_v$	0.12	0.00	0.00	0.00	0.15	0.00	0.00	0.15	0.10	0.27
	$F_{EC}$		$F_{ER}$			$F_{SR}$			合計																																															
	$F_s$	$F_b$	$F_{ES}$	$F_h$	$F_{SH}$	$F_{SM}$	$F_{SE}$	$F_{SU}$																																																
中央値	3.26	1.00	1.00	1.00	1.00	1.07	0.99	1.00	1.00	2.46																																														
不確実さ	$\beta_u$	0.00	0.00	0.00	0.00	0.15	0.00	0.09	0.00	0.17	0.20																																													
	$\beta_v$	0.12	0.00	0.00	0.00	0.15	0.00	0.00	0.15	0.10	0.27																																													

## 泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について  
 別添3. レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震PRA

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
1.2.1. d. 事故シーケンス ①起因事象 (1) 評価対象とした起因事象のリスト、説明及び発生頻度 1.2.1.a. ②の地震時特有の要因による分類を踏まえた地震PRAにおける起因事象の扱いは以下のとおりである。また、起因事象の条件付発生確率を第1.2.1.d-1表に示す。  a. 格納容器バイパス	Margin Evaluations", Electric Power Research Institute. December 2001  *15 : Westinghouse Electric Company. "AP-1000 Design Control Document" , December 2011 (年・月は、AP1000標準設計認証修正版のNRC認可時期を示す)  *16 : General Electric (GE) Nuclear Energy, "ABWR Design Document" , March 1997 (年・月は、ABWR標準設計認証のNRC認可時期を示す)  *17 : 原子炉構造設計 数値解析から耐震設計まで、矢川元基・一宮正和、倍風館   *18 : 原子力発電所建屋のフラジリティ評価における認識的不確実さに関する研究(その3)まとめ、日本建築学会大会学術講演梗概集(九州)、2007年8月  *19 : 安全研究年報(平成24年度)、平成25年8月、独立行政法人 原子力安全基盤機構   *20 : N.M. Newmark and W.J. Hall, "Development of Criteria for Seismic Review of Selected Nuclear Power Plants" , NUREG/CR-0098   3.2.1.d 事故シーケンス ①起因事象 (1) 評価対象とした起因事象のリスト、説明及び発生頻度 3.2.1.a. ②にて同定した地震時特有の要因による分析を踏まえた地震PRAにおける起因事象及びその説明を以下に示す。また、起因事象の発生頻度を第3.2.1.d-1表に示す。  f. 格納容器バイパス	Margin Evaluations", Electric Power Research Institute. December 2001  *15 : Westinghouse Electric Company. "AP-1000 Design Control Document" , December 2011 (年・月は、AP1000標準設計認証修正版のNRC認可時期を示す)  *16 : General Electric (GE) Nuclear Energy, "ABWR Design Document" , March 1997 (年・月は、ABWR標準設計認証のNRC認可時期を示す)   *17 : 原子力発電所建屋のフラジリティ評価における認識的不確実さに関する研究(その3)まとめ、日本建築学会大会学術講演梗概集(九州)、2007年8月   *18 : N.M. Newmark and W.J. Hall, "Development of Criteria for Seismic Review of Selected Nuclear Power Plants" , NUREG/CR-0098   3.2.1.d 事故シーケンス ①起因事象 (1) 評価対象とした起因事象のリスト、説明及び発生頻度 3.2.1.a. ②にて同定した地震時特有の要因による分類を踏まえた地震PRAにおける起因事象及びその説明を以下に示す。また、起因事象の発生頻度を第3.2.1.d-1表に示す。  a. 格納容器バイパス	【女川】 ■個別評価の相違 ・参照している文献が異なる
1.2.1. d. 事故シーケンス ①起因事象 (1) 評価対象とした起因事象のリスト、説明及び発生頻度 1.2.1.a. ②の地震時特有の要因による分類を踏まえた地震PRAにおける起因事象の扱いは以下のとおりである。また、起因事象の条件付発生確率を第1.2.1.d-1表に示す。  a. 格納容器バイパス	【女川】 ■個別評価の相違 ・参照している文献が異なる	【女川】 ■個別評価の相違 ・参照している文献が異なる	【女川】 ■炉型の相違 ・炉型が異なるため、抽出される起因事象が異なるため、大飯と比較する(女川の a～j は着色せず)
1.2.1. d. 事故シーケンス ①起因事象 (1) 評価対象とした起因事象のリスト、説明及び発生頻度 1.2.1.a. ②の地震時特有の要因による分類を踏まえた地震PRAにおける起因事象の扱いは以下のとおりである。また、起因事象の条件付発生確率を第1.2.1.d-1表に示す。  a. 格納容器バイパス	【女川】 ■個別評価の相違 ・参照している文献が異なる	【女川】 ■個別評価の相違 ・参照している文献が異なる	【女川】 ■炉型の相違 ・炉型が異なるため、抽出される起因事象が異なるため、大飯と比較する(女川の a～j は着色せず)

## 泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について  
 別添 3. レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震PRA

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>蒸気発生器の内部構造品である伝熱管等の損傷により、格納容器バイパスを発生させ得る事象として想定する。</p> <p>b. 大破断LOCAを上回る規模のLOCA (Excess LOCA)          原子炉容器等の損傷によりECCS注水機能を上回るLOCAGが発生する事象として想定する。本事象は直接炉心損傷に至る事象として取扱う。</p> <p>c. 原子炉建屋損傷          原子炉建屋が損傷することで、建屋内のすべての機器、配管が損傷して大規模なLOCAが発生する事象として想定する。本事象は直接炉心損傷に至る事象として取扱う。</p> <p>d. 原子炉格納容器損傷          原子炉格納容器が損傷することで、建屋内のすべての機器、配管が損傷して大規模なLOCAが発生し、あわせて格納容器先行破損が発生する事象として想定する。本事象は直接炉心損傷に至る事象として取扱う。</p> <p>e. 制御建屋損傷          制御建屋が損傷することで、制御建屋内の電気盤（メタルクラッドスイッチギア、直流き電盤等）が損傷し、代替電源の接続・供給ができない状態で「外部電源喪失+非常用所内交流電</p>	<p>主蒸気隔離弁、原子炉冷却材浄化系隔離弁又は給水系隔離弁の損傷による原子炉冷却材圧力バウンダリの隔離失敗及び原子炉格納容器外の耐震重要度低クラス配管の損傷により、格納容器バイパスが発生する事象である。発生した場合の損傷程度が不明であり、どの程度緩和設備に期待できるか不明であるため、保守的に緩和手段のない事象として選定した。</p> <p>e. ECCS容量を超える原子炉冷却材圧力バウンダリ喪失 (E-LOCA)          原子炉格納容器内配管の破断又はノズルの損傷により原子炉格納容器内に原子炉冷却材が流出する事象である。発生した場合の損傷程度及び漏えい量の特定が難しいため、保守的にECCS容量を超えるLOCAを想定し小破断・中破断・大破断LOCAを包絡する起因事象として選定した。 (別紙3.2.1.d-1)</p> <p>b. 原子炉建屋損傷          原子炉建屋の損傷により、原子炉格納容器、原子炉圧力容器、非常用交流電源や注水設備等の広範囲にわたる建屋内の構築物及び緩和設備が損傷する事象である。発生した場合にどの程度緩和設備に期待できるか不明であるため、保守的に緩和手段のない起因事象として選定した。</p> <p>c. 格納容器損傷          原子炉格納容器等の損傷により、原子炉圧力容器、原子炉格納容器内配管、主蒸気逃がし安全弁等の原子炉格納容器内及び周辺設備が損傷する事象である。発生した場合の損傷程度の特定が難しく、どの程度緩和設備に期待できるか不明であるため、保守的に緩和手段のない起因事象として選定した。</p> <p>g. 制御建屋損傷          制御建屋の損傷により、建屋内の中央制御盤及び直流電源等が損傷する事象である。事象発生時、ほぼ全ての安全機能の制御機能が喪失すると考えられるが、実際の影響範囲を特定する</p>	<p>蒸気発生器の内部構造品である伝熱管等の損傷により、格納容器バイパスが発生する事象である。発生した場合の損傷程度が不明であり、どの程度緩和設備に期待できるか不明であるため、保守的に緩和手段のない事象として選定した。</p> <p>b. 大破断LOCAを上回る規模のLOCA (Excess LOCA)          原子炉容器等の損傷により原子炉格納容器内に原子炉冷却材が流出する事象である。ECCS容量を超えるLOCAであるため緩和手段のない起因事象として選定した。</p> <p>c. 原子炉建屋損傷          原子炉建屋の損傷により、原子炉格納容器、原子炉容器、非常用交流電源や注水設備等の広範囲にわたる建屋内の構築物及び緩和設備が損傷する事象である。発生した場合にどの程度緩和設備に期待できるか不明であるため、保守的に緩和手段のない起因事象として選定した。</p> <p>d. 原子炉格納容器損傷          原子炉格納容器等の損傷により、原子炉容器、原子炉格納容器内配管、加圧器逃がし弁、加圧器安全弁等の原子炉格納容器内及び周辺設備が損傷する事象である。発生した場合の損傷程度の特定が難しく、どの程度緩和設備に期待できるか不明であるため、保守的に緩和手段のない起因事象として選定した。</p> <p>e. 原子炉補助建屋損傷          原子炉補助建屋の損傷により、建屋内の運転コンソール、直流電源等が損傷する事象である。事象発生時、ほぼすべての安全機能の制御機能が喪失すると考えられるが、実際の影響範囲</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・泊の構成に合わせて女川の起因事象の記載順序を入れ替えている</li> </ul> <p>【大飯】      ■記載方針の相違      ・女川実績の反映      (大飯のa～qは、相違理由説明を省略)</p> <p>【女川】      ■評価方針の相違      ・女川は大中小LOCAをE-LOCAに含めており、その評価方法についての資料を作成している</p>

## 泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について  
別添3 レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震PRA

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>源喪失」が発生するとともに、主盤（原子炉盤等）が損傷することで各種制御が不能となる事象を想定する。本事象は直接炉心損傷に至る事象として取扱う。</p> <p>f. 電動弁損傷による原子炉補機冷却機能喪失 原子炉補機冷却水系のCヘッダ分離に失敗し原子炉補機冷却機能が喪失することでRCPシールLOCAが発生する事象を想定する。本事象は直接炉心損傷に至る事象として取扱う。</p> <p>g. 1次系流路閉塞による2次系除熱機能喪失 地震に起因する炉内構造物の変形、損傷により原子炉冷却系の流路が阻害されることで、原子炉トリップ後の蒸気発生器による自然循環を用いた炉心冷却に失敗する事象を想定する。本事象は直接炉心損傷に至る事象として取扱う。</p> <p>h. 複数の信号系損傷 主盤（原子炉盤等）が損傷することで各種制御機能が不能となり、補助給水流量調整失敗や主蒸気逃がし弁を含む工学的安全施設の動作不能が発生し、2次冷却系からの除熱機能喪失となる事象を想定する。本事象は直接炉心損傷に至る事象として取扱う。</p> <p>i. 燃料集合体及び制御棒クラスタ損傷による原子炉停止機能喪失 燃料棒や制御棒クラスタの損傷により、制御棒が挿入不能となる事象を想定する。本事象は直接炉心損傷に至る事象として取扱う。</p> <p>j. 大破断LOCA、中破断LOCA、小破断LOCA 原子炉冷却材圧力バウンダリを構成する設備の損傷、損傷部位に応じて異なる起因事象が発生するとした。なお、小破断LOCAを下回る極小LOCAは、小破断LOCAで代表して評価する。</p> <p>k. 2次冷却系の破断 主蒸気ライン配管の破損又はライン上の付帯機器（主蒸気逃がし弁、主蒸気安全弁）の損傷による2次冷却系からの除熱機能喪失を想定する。耐震クラスCの配管、機器については地震時には損傷しているとして扱っている。</p> <p>l. 原子炉補機冷却機能喪失</p>	<p>ことが難しいため、保守的に緩和手段のない事象として選定した。</p> <p>h. 計測・制御系喪失 計測機器及び制御盤の損傷により、緩和設備が機能喪失する事象である。事象発生時、ほぼ全ての安全機能の制御機能が喪失すると考えられるが、実際の影響範囲を特定することが難しいため、保守的に緩和手段のない事象として選定した。</p>	<p>を特定することが難しいため、保守的に緩和手段のない事象として選定した。</p> <p>f. 電動弁損傷による原子炉補機冷却機能喪失 原子炉補機冷却水系のCヘッダに設置されている隔離弁（電動弁）の損傷により、耐震クラスの低い原子炉補機冷却水系のCヘッダの隔離に失敗し、原子炉補機冷却機能が喪失することでRCPシールLOCAが発生する事象である。</p> <p>g. 1次系流路閉塞による2次系除熱機能喪失 炉内構造物等の損傷により、原子炉冷却系の流路が阻害される事象である。事象発生時、原子炉トリップ後の蒸気発生器による自然循環を用いた炉心冷却に失敗すると考えられるが、実際の影響範囲を特定することが難しいため、保守的に緩和手段のない起因事象として選定した。</p> <p>h. 複数の信号系損傷 運転コンソール等の損傷により、各種制御が不能となる事象である。事象発生時、ほぼすべての安全機能の制御機能が喪失すると考えられるが、実際の影響範囲を特定することが難しいため、保守的に緩和手段のない事象として選定した。</p> <p>i. 燃料集合体及び制御棒クラスタ損傷による原子炉停止機能喪失 燃料集合体や制御棒クラスタの損傷により、制御棒の挿入性に影響がある事象である。事象発生時、制御棒が挿入不能となると考えられるが、実際の影響範囲を特定することが難しいため、保守的に緩和手段のない起因事象として選定した。</p> <p>j. 大破断LOCA、中破断LOCA、小破断LOCA 原子炉冷却材圧力バウンダリを構成する設備の損傷により、原子炉格納容器内に原子炉冷却材が流出する事象である。なお、小破断LOCAを下回る極小LOCAは、小破断LOCAで代表して評価する。</p> <p>k. 2次冷却系の破断 主蒸気ライン配管又はライン上の付帯機器（主蒸気逃がし弁、主蒸気安全弁）の損傷により、2次冷却系が喪失する事象である。なお、耐震クラスCの配管、機器については地震時には損傷しているとして扱っている。</p> <p>l. 原子炉補機冷却機能喪失</p>	<p>【大飯】</p> <p>■記載表現の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・燃料棒⇨燃料集合体</li> </ul>

## 泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について  
別添3 レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震PRA

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>原子炉補機冷却水系の機能喪失を想定する。なお、本事象はサポート系として扱っている。</p> <p>m. 外部電源喪失 特高開閉門内の中電気設備の碍子部を含めて、外部電源系の喪失を想定する。なお、本事象はサポート系として扱っている。</p> <p>n. 初期にPCS（主給水、主蒸気、復水系）が使用不可能な過渡事象／初期にPCSが使用可能な過渡事象 地震時には過渡事象が想定されるが、過渡事象は、主給水流量喪失で代表して評価する。</p> <p>o. インターフェイスシステムLOCA（IS-LOCA） IS-LOCAは、余熱除去系隔離弁の誤開若しくは弁の内部破損により1次冷却材が低圧設計の2次側に流出する事象として想定される。ただし、地震により多重の余熱除去系隔離弁（電動弁）が同時に誤開するような状況は稀有である。また、地震により弁体内部破損のような構造損傷が発生するよりも弁と接続する配管の構造損傷の方が先行して発生すると考えられ、配管破損であれば隔離弁は健全な可能性が高く隔離機能に期待できる。したがって、IS-LOCAが発生する頻度は稀有として評価対象外とする。</p> <p>p. 手動停止 地震では原子炉トリップを想定するため、手動停止は評価対象外とする。</p> <p>q. ATWS 原子炉トリップ失敗事象としてATWSを想定する。地震による原子炉トリップは、加速度計の地震加速度高信号で考慮した。ただし、外部電源が喪失している場合には制御棒の自動落下を考慮して、原子炉トリップ信号は不要とした。ATWSは保守的に炉心損傷に至るものとして炉心損傷頻度評価を行った。</p>	<p>a. 外部電源喪失 地震耐力の小さい外部電源設備の損傷により引き起こされる過渡事象である。他の過渡事象と比較すると広範囲な緩和系の機能喪失となるため、他の過渡事象（非隔離事象等）を代表する起因事象として選定した。</p> <p>d. 圧力容器損傷 原子炉圧力容器の損傷により大規模なLOCAの発生及び緩和設備が機能喪失する事象を想定する。発生した場合の損傷程度の特定が難しく、どの程度緩和設備に期待できるか不明であるため、保守的に緩和手段のない起因事象として選定した。</p>	<p>原子炉補機冷却水系や原子炉補機冷却海水系の損傷により、原子炉補機冷却機能が喪失する事象である。</p> <p>m. 外部電源喪失 地震耐力の小さい外部電源設備の損傷により引き起こされる過渡事象である。</p> <p>n. 主給水流量喪失 主給水系の損傷により、主給水流量が喪失する事象である。なお、初期にPCS（主給水、主蒸気、復水系）が使用不可能な過渡事象や初期にPCSが使用可能な過渡事象については主給水流量喪失で代表して評価する。</p> <p>o. ATWS 原子炉トリップが必要な起因事象発生時に原子炉トリップに失敗する事象である。保守的に緩和手段のない起因事象として選定した。地震による原子炉トリップは、地震加速度トリップ信号の加速度大信号で考慮した。ただし、外部電源が喪失している場合には制御棒の自動落下を考慮して、原子炉トリップ信号は不要とした。</p>	<p>【大飯】 ■記載方針の相違 ・泊は評価に用いている起因事象名としている</p> <p>【大飯】 ■記載方針の相違 ・ここでは3.2.1.a.②にて同定した地震PRAにおける起因事象を記載するため、泊は内部事象PRAで考慮していた起因事象のうち地震PRAでは除外する起因事象の説明は記載しない ・第3.2.1.a-3表のとおり、泊で除外する起因事象と除外理由は大飯と同様である</p>

## 泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について  
 別添3. レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震PRA

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>(2) 階層イベントツリーとその説明</p> <p>事故シーケンスの定量化では、第1.2.1.d-1図の起因事象階層ツリーで、地震により発生する起因事象の発生確率の和が1.0を越えないように取扱い、先行するヘディングにあるすべての起因事象が発生しない場合は、主給水流量喪失が発生するものとして評価する。また、先行するヘディングにある起因事象は後続のヘディングにある起因事象が重畠した場合でもその影響を包含できるように配列する。</p> <p>階層化した各起因事象の発生確率は、それぞれ対象とするSSCを設定し、そのフラジリティを評価することで算出する。また、後続のヘディングで考慮する起因事象の発生確率は、先行のヘディングで設定した起因事象が発生しない条件付きの確率として評価する。</p>	<p>i. 直流電源喪失</p> <p>直流電源設備の損傷により、非常用ディーゼル発電機の起動失敗、直流電源で機能する緩和設備が機能喪失する事象である。発生した場合にはほぼ全ての安全機能の制御機能が喪失すると考えられるが、実際の影響範囲を特定することが難しいため、保守的緩和手段のない事象として選定した。</p> <p>j. 交流電源・原子炉補機冷却系喪失</p> <p>非常用交流母線、非常用ディーゼル発電機及び原子炉補機冷却系機器の損傷により、非常用交流電源が喪失する事象である。また、事象発生の有無により、その後のプラントの挙動が大きく異なるため、起因事象として選定した。</p> <p>(2) 階層イベントツリーとその説明</p> <p>選定した起因事象の発生頻度を合理的に評価するため、階層イベントツリーにより起因事象の階層化を行った。階層イベントツリーのヘディングは、内部事象PRAと地震PRAとの境界を明確にするために地震による外部電源喪失を先頭とし、以降、各起因事象を発生時の影響の大きい順に配列した。第3.2.1.d-1図に地震PRAの階層イベントツリーを示す。</p> <p>起因事象の発生頻度は、それぞれ関連する事象をイベントツリーのヘディングに設定し、それぞれ対象となるSSCのフラジリティ及びランダム故障確率を評価することで算出する。なお、後続のヘディングの分岐確率は、内部事象PRAとの境界となる外部電源喪失を除き、先行のヘディングで考慮している事象が発生しないという条件において評価する。（別紙3.2.1.d-2）</p>	<p>(2) 階層イベントツリーとその説明</p> <p>選定した起因事象の発生頻度を合理的に評価するため、階層イベントツリーにより起因事象の階層化を行った。階層イベントツリーのヘディングは、各起因事象を発生時の影響の大きい順に配列し、先行するヘディングにあるすべての起因事象が発生しない場合は、主給水流量喪失が発生するものとした。第3.2.1.d-1図に地震PRAの階層イベントツリーを示す。</p> <p>起因事象の発生頻度は、それぞれ関連する事象をイベントツリーのヘディングに設定し、それぞれ対象となるSSCのフラジリティを評価することで算出する。なお、後続のヘディングの分岐確率は、先行のヘディングで考慮している起因事象が発生しない場合には、主給水流量喪失として扱う。（補足3.2.1.d-1）</p>	<p>【女川】</p> <p>■評価方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>泊は外部電源喪失の発生の有無を内部事象PRAと地震PRAの境界とはしておらず、地震により外部電源が健全な場合でも地震PRAの評価範囲としている（大飯と同様）</li> <li>泊は常用系で耐震クラスの低い主給水系の機器損傷による主給水流量喪失が必ず発生するものとしている（大飯と同様）</li> </ul> <p>【女川】</p> <p>■評価方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>泊は起因事象発生頻度にランダム故障を含めていない</li> <li>泊は外部電源喪失の発生の有無を内部事象PRAと地震PRAの境界とはしておらず、地震によ</li> </ul>

## 泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について

別添3. レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震PRA

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>②成功基準          (1) 成功基準の一覧          炉心損傷を防止するための緩和系の成功基準及び余裕時間は、地震時においても内部事象出力時レベル1 PRAと相違ない。したがって、地震PRAにおける成功基準は、内部事象出力時レベル1 PRAと同様のものを採用する。</p> <p>使命時間については、内部事象出力時レベル1 PRAと同様に24時間を考慮し、地震動で損傷した機器の修理は期待していない。          また、空調系の機能喪失から7日後に部屋の温度が許容温度を超える場合には、室内にある設備が機能喪失するとした。</p> <p>③事故シーケンス          (1) イベントツリー          イベントツリーのヘディングは、地震に引き続き発生する、プラントの事故に至る起因事象、緩和機能及び緩和機能に関わるシステム等を選定した。</p>	<p>② 成功基準          (1) 成功基準の一覧          炉心損傷を防止するための緩和系の成功基準及び余裕時間は、地震時においても内部事象PRAと相違ない。ただし、同様の系統は完全相關を仮定しているため、事故緩和に必要な系統数は考慮していない。また、緩和手段がない事象については成功基準を設定していない。</p> <p>使命時間については、内部事象PRAと同様に24時間とする。また、地震動で損傷した機器の復旧は期待しない。（別紙3.2.1.d-3）</p> <p>③ 事故シーケンス          (1) イベントツリー          イベントツリーは小イベントツリー／大フォールトツリー法に基づいて作成し、ヘディングは、地震に引き続き発生する、プラントの事故に至る起因事象、緩和機能に関わるシステム及び事象の進展に影響する重要な設備状態及び運転員操作を選定した。また、炉心損傷防止の観点から、「原子炉停止機能」、「原子炉冷</p>	<p>②成功基準          (1) 成功基準の一覧          炉心損傷を防止するための緩和系の成功基準及び余裕時間は、地震時においても内部事象PRAと相違ない。ただし、同様の系統は完全相關を仮定しているため、事故緩和に必要な系統数は考慮していない。また、緩和手段がない事象については成功基準を設定していない。（補足3.2.1.d-2）</p> <p>使命時間については、内部事象PRAと同様に24時間とする。また、地震動で損傷した機器の復旧は期待していない。（補足3.2.1.d-3）          また、空調系の機能喪失から7日後に部屋の温度が許容温度を超える場合には、室内にある設備が機能喪失するとした。</p> <p>③事故シーケンス          (1) イベントツリー          イベントツリーは小イベントツリー／大フォールトツリー法に基づいて作成し、ヘディングは、地震に引き続き発生する、プラントの事故に至る起因事象、緩和機能に関わるシステム及び事象の進展に影響する重要な設備状態及び運転員操作を選定した（補足3.2.1.c-3）。また、炉心損傷防止の観点から、「原子炉停止</p>	<p>り外部電源が健全な場合でも地震 PRA の評価範囲としている          ・泊は常用系で耐震クラスの低い主給水系の機器損傷による主給水流量喪失が必ず発生するものとしている</p> <p>【女川】          ■記載の充実          ・泊は地震 PRA の成功基準について補足説明資料を作成している（大飯に記載はないが、泊と同様となっている）</p> <p>【女川】          ■評価方針の相違          ・泊は事象発生 7 日後の室温評価をもとに、緩和設備のサポートシステムとして換気空調系を必要とする場合には、換気空調系をモデル化している（大飯と同様）</p> <p>【女川】          ■記載内容の相違</p>

## 泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について  
 別添3. レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震PRA

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>イベントツリーの展開では、第1.2.1.d-1図に示した起因事象の階層イベントツリーと緩和機能の状態を表す事象進展イベントツリーに展開する。</p> <p>事象進展イベントツリーは、内部事象出力時レベル1PRAで作成された影響緩和系を頂上事象としたフロントライン系イベントツリーを基に設定する。緩和系システムのサポート系及び緩和系システム間の共用系をフロントライン系から分離し、それぞれをイベントツリーに展開し、各々のイベントツリーを結合する。本評価では、以下に示す5つのイベントツリーを作成し、各々を結合した。地震評価用のイベントツリーの展開構成を第1.2.1.d-2図に示す。結合した各イベントツリーの情報は下流のイベントツリーに引き継がれる。</p> <p>a. 地震損傷機器イベントツリー          地震により機器が損傷した場合に影響を受けるシステムを、地震損傷機器イベントツリーのヘディングに設定する。地震損傷機器イベントツリーでは、地震による建物・構築物・機器の地震損傷をモデル化する。地震損傷機器イベントツリーを第1.2.1.d-3図に示す。</p> <p>b. サポート系イベントツリー          フロントラインのサポートイングシステムである電源系、計測・制御系、冷却水系等のシステムをサポート系イベントツリーのヘディングに設定する。サポート系イベントツリーでは、内部事象出力時レベル1PRAで考慮したランダム故障及び人的過誤をモデル化する。サポート系イベントツリーを第1.2.1.d-4図に示す。</p> <p>c. 起因事象階層ツリー</p>	<p>却機能」の安全機能に着目し、炉心損傷に至る事故シーケンスグループの分類を行った。分類した結果を第3.2.1.d-2表に示す。</p> <p>本評価では、以下に示す3つのイベントツリーを作成し、各々を結合した。</p> <p>a. 階層イベントツリー</p>	<p>機能」、「原子炉冷却機能」の安全機能に着目し、炉心損傷に至る事故シーケンスグループの分類を行った。分類した結果を第3.2.1.d-2表に示す。</p> <p>本評価では、以下に示す3つのイベントツリーを作成し、各々を結合した。（補足3.2.1.d-4）</p> <p>a. 起因事象階層イベントツリー</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>泊は地震PRAにおける評価手法変更に関する補足説明資料を作成している</li> </ul> <p>【女川】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■記載の充実</li> <li>泊は小イベントツリー法と大イベントツリー法における評価結果の取り扱いの差異について補足説明資料を作成している（大飯に記載はないが、泊と同様となっている）</li> </ul> <p>【大飯】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■評価手法の相違</li> <li>泊は小イベントツリー法、大飯は大イベントツリー法を用いているため、地震により損傷した機器の情報を引き継ぐためのイベントツリーの構成が異なる（高浜、美浜と同様）</li> </ul> <p>【大飯】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■記載表現の相違</li> <li>起因事象階層ツリー⇒起因事象</li> </ul>

## 泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について  
 別添 3. レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震 PRA

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>地震に引き続き発生する、プラントの事故に至る起因事象は、起因事象階層ツリーで考慮する。起因事象階層ツリーは第1.2.1.d-1図で記載のとおりである。</p> <p>d. 共用系イベントツリー</p> <p>フロントラインシステムで共用される設備や運転員操作等を共用系イベントツリーのヘディングに設定する。共用系イベントツリーでは、内部事象出力時レベル1PRAで考慮したランダム故障及び人的過誤をモデル化する。共用系イベントツリーを第1.2.1.d-5図に示す。</p>	<p>地震発生による外部電源喪失と組み合わせて、プラントの事故に至る起因事象は、階層イベントツリーで考慮する。階層イベントツリーは第3.2.1.d-1図の通りである。</p> <p>b. 外部電源喪失時イベントツリー</p> <p>階層イベントツリーの外部電源ヘディング失敗後のヘディングに全て成功した場合、本ツリーに至る。外部電源喪失時イベントツリーでは非常用交流電源は既に確保されているとする。外部電源喪失時イベントツリーを第3.2.1.d-2図に示す。</p> <p>c. 全交流動力電源喪失時イベントツリー</p> <p>非常用交流電源の確保に失敗し、スクラムに成功した場合に、本ツリーに至る。全交流動力電源喪失時イベントツリーを第3.2.1.d-3図に示す。</p>	<p>地震による機器損傷により発生するプラントの事故に至る起因事象は、階層イベントツリーで考慮する。起因事象階層イベントツリーは第3.2.1.d-1図の通りである。</p> <p>b. 過渡分類イベントツリー</p> <p>階層イベントツリーのヘディングにすべて成功した場合、本ツリーに至る。過渡分類イベントツリーでは全交流動力電源喪失、原子炉補機冷却機能喪失及び外部電源喪失が発生している事象を識別する。外部電源喪失が発生していない場合、主給水流量喪失に至る。過渡分類イベントツリーを第</p>	<p>象階層イベントツリー          (以下、相違理由説明を省略)</p> <p>【女川】</p> <p>■記載表現の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・階層イベントツリー ⇄ 起因事象階層イベントツリー          (以下、相違理由説明を省略)</li> </ul> <p>【女川】</p> <p>■評価方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・泊は外部電源喪失が必ず発生する想定とはしていない(大飯と同様)</li> </ul> <p>【大飯】</p> <p>■評価手法の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大飯は大イベントツリー法を用いているため、地震により損傷した共用設備や運転員操作の成否の情報を引き継ぐためのイベントツリーが必要となる(泊は高浜、美浜と同様)</li> </ul> <p>【女川】</p> <p>■評価方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・女川は外部電源喪失時の緩和設備の使用可否により炉心損傷状態を分類している</li> </ul> <p>【女川】</p> <p>■評価方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・女川は全交流動力電源喪失時の緩和設備の使用可否により炉心損傷状態を分類している</li> </ul> <p>【女川】</p> <p>■評価方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・泊は起因事象の分類のためのイベントツリーを a. 起因事象階層イベントツリー, b. 過渡分類イベントツリーの2段階に</li> </ul>

## 泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について  
別添3. レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震PRA

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>e. フロントライン系イベントツリー</p> <p>フロントライン系イベントツリーでは、内部事象出力時レベル1 P R Aで構築したイベントツリーを用いる。フロントライン系イベントツリーでは、内的事象出力時レベル1 P R Aで考慮したランダム故障及び人的過誤をモデル化する。フロントライン系イベントツリーとして、大破断L O C Aイベントツリー、中破断L O C Aイベントツリー、小破断L O C Aイベントツリー、2次冷却系の破断イベントツリー及び主給水流量喪失イベントツリーを第1.2.1. d-6～10図に示す。</p> <p>なお、起因事象のうち外部電源喪失及び原子炉補機冷却機能喪失については、当該機能を構成する機器が地震により損傷する確率を地震損傷機器イベントツリーのヘディングとして考慮しており、イベントツリーリンキングで結合した情報が下流のイベントツリーに引き継がれるため、イベントツリー全体の評価結果を分析することで外部電源喪失及び原子炉補機冷却機能喪失の起因事象に対する炉心損傷頻度を整理している。</p> <p>④システム信頼性</p> <p>(1) 評価対象としたシステムとその説明</p> <p>内部事象出力時レベル1 P R A評価でまとめた情報の活用や、地震による建屋・機器ごとの損傷モードによるプラントへの影響を整理して作成した建屋・機器リストを使って対象範囲を明確にした。各系統の情報や依存性については内部事象出力時レベル1 P R Aと同等である。</p> <p>また、B 及びCクラス機器に対しても地震の影響を考慮している。</p>	<p>④ システム信頼性</p> <p>(1) 評価対象としたシステムとその説明</p> <p>内部事象PRAでまとめた情報の活用や、地震による建屋・機器ごとの損傷モードによるプラントへの影響を整理して作成した建屋・機器リストを使って対象範囲を明確にした。各系統の情報や依存性については内部事象PRAと同等である。</p> <p>なお、給復水系等の耐震重要度B又はCクラスの設備は基本的に期待しない。ただし、以下に示す安全設備の使命時間内の機能</p>	<p>3.2.1. d-2図に示す。</p> <p>c. フロントライン系イベントツリー</p> <p>緩和手段に期待できる場合に、本ツリーに至る。フロントライン系イベントツリーを第3.2.1. d-3図に示す。</p> <p>④システム信頼性</p> <p>(1) 評価対象としたシステムとその説明</p> <p>内部事象PRAでまとめた情報の活用や地震による建屋・機器ごとの損傷モードによるプラントへの影響を整理して作成した建屋・機器リストを使って対象範囲を明確にした。各系統の情報や依存性については内部事象PRAと同等である。</p> <p>なお、タービンバイパス系等の耐震重要度B又はCクラスの設備は基本的に期待しない。ただし、以下に示す安全設備の使命</p>	<p>分けているが、外部電源の扱い以外の分類の考え方は女川と同様である（高浜、美浜と同様）</p> <p>【大飯】</p> <p>■記載表現の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>泊はa. 起因事象階層イベントツリー、b. 過渡分類イベントツリーの記載に合わせているが、外部電源喪失及び原子炉補機冷却機能喪失を起因事象としたイベントツリーも構築していること以外は大飯と同様である</li> </ul> <p>【大飯】</p> <p>■評価方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>泊は外部電源喪失及び原子炉補機冷却機能喪失を起因事象としたイベントツリーも構築しているが、大飯は大イベントツリー法を用いているため、サポート系である外部電源及び原子炉冷却系の喪失の情報は地震損傷機器イベントツリーで扱っており、外部電源喪失及び原子炉補機冷却機能喪失を起因事象としたイベントツリーは構築していない（高浜、美浜と同様）</li> </ul> <p>【女川】</p> <p>■記載表現の相違</p> <p>■評価方針の相違</p>

## 泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について  
 別添3. レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震PRA

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
(2) 機器損傷に関する機器間の相関の取扱い  高圧注入系等の冗長設備は基本的に同一の耐震設計がなされた上で同一フロアに設置されているため、機器が損傷する場合は冗長性のあるすべての機器は損傷するとして完全相関を想定した。それ以外の機器間の相関は完全独立を想定した。	維持に必要となる設備は評価対象とする。評価対象システムの一覧を第3.2.1.d-3表に示す。  ・燃料移送系 ・軽油タンク ・耐震重要度Bクラス配管	時間内の機能維持に必要となる設備は評価対象とする。評価対象システムの一覧を第3.2.1.d-3表に示す。  ・安全補機に関わる空調系 ・空調用冷水系	・内部事象PRAでモデル化している設備のうち、耐震性が低く地震PRAでは期待しない設備を記載しており、炉型により該当する設備が異なる（大飯に記載はないが、泊と同様となっている）
(3) システム信頼性評価結果  条件付き分岐確率イベントツリー法により解析しているため、地震による損傷を考慮したシステムごとの信頼性は、システムごとに機器の損傷確率と地震加速度との関係を考慮して、さらにランダム故障を含めて評価している。	(2) 機器損傷に関する機器間の相関の取り扱い  冗長設備は基本的に同一の耐震設計がなされた上で同一フロアに設置されるため、同様の系統及び機器に対する機能喪失は、系統間及び機器間で完全に従属するものとした。それ以外の系統間及び機器間の相関は完全独立を想定した。  (3) システム信頼性評価結果  起因事象の原因となる設備及び起因事象を緩和する設備は、内部事象PRAにおけるシステム信頼性評価の結果及び、地震の影響を受ける可能性がある設備については建屋・機器フラジリティ評価の結果も考慮して信頼性評価を実施した。	(2) 機器損傷に関する機器間の相関の取り扱い  冗長設備は基本的に同一の耐震設計がなされた上で同一フロアに設置されるため、同様の系統及び機器に対する機能喪失は、系統間及び機器間で完全に従属するものとした。それ以外の系統間及び機器間の相関は完全独立を想定した。  (3) システム信頼性評価結果  起因事象の原因となる設備及び起因事象を緩和する設備は、内部事象PRAにおけるシステム信頼性評価の結果及び、地震の影響を受ける可能性がある設備については建屋・機器フラジリティ評価の結果も考慮して信頼性評価を実施した。	【大飯】 ■評価方針の相違 ・泊は小イベントツリー法を用いているが、大飯と同様に機器の損傷確率と地震加速度との関係を考慮し、ランダム故障を含めた評価を実施している（高浜、美浜と同様）
(4) システム信頼性評価を実施せずに設定した非信頼度とその根拠  地震PRAでは損傷した機器の復旧に期待しないため、原子炉補機冷却機能が喪失した場合は封水注入及びRCPサーマルバリアによる冷却機能が喪失することから、原子炉補機冷却機能喪失のRCPシールLOCAヘディングの失敗確率を1.0とした。	(4) システム信頼性評価を実施せずに設定した非信頼度とその根拠  本評価では、システム信頼性評価を実施せずに設定した非信頼度はない。	(4) システム信頼性評価を実施せずに設定した非信頼度とその根拠  地震PRAでは損傷した機器の復旧に期待しないため、原子炉補機冷却機能が喪失した場合は封水注入及びRCPサーマルバリアによる冷却機能が喪失することから、原子炉補機冷却機能喪失のRCPシールLOCAヘディングの失敗確率を1.0とした。	【女川】 ■設計の相違 ・設計の相違によりシステム信頼性評価の対象のシステムが異なる（大飯と同様）
⑤人的過誤  (1) 評価対象とした人的過誤及び評価結果  内部事象PRAでは、事故前と事故後の人的過誤についてTHERP手法を用いて評価している。これを基に地震PRAでは人の過誤の扱いを以下のとおりとしている。  a. 事故前の人的過誤  事故前の人的過誤は、試験や点検等による手動弁やダンパーの戻し忘れを想定しており、内部事象出力時レベル1PRA	⑤ 人的過誤  (1) 評価対象とした人的過誤及び評価結果  a. 起因事象発生前人的過誤  試験、保守作業後の復旧ミスであり、事象発生の起因が地震であっても変わることはないため、内部事象PRAでの検討結	⑤ 人的過誤  (1) 評価対象とした人的過誤及び評価結果  a. 起因事象発生前人的過誤  試験、保守作業後の復旧ミスであり、事象発生の起因が地震であっても変わることはないため、内部事象PRAでの検討結	

## 泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について

別添3. レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震PRA

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>と同等の評価をしている。</p> <p>b. 事故後の人的過誤 内部事象出力時レベル1PRAで想定している中央制御室での操作は考慮した。地震後の現場操作については、実施が困難である可能性があるため、原則、期待していない。</p>	<p>果を用いた。起因事象発生前の人的過誤確率を第3.2.1.d-4表に示す。</p> <p>b. 起因事象発生後人的過誤 事象発生後の対応操作に対する過誤であり、事象発生の起因が地震であっても内的事象PRAにおける人的過誤と同様である。ただし、地震後数時間以内の対応を要する作業においては、高ストレスを考慮した。起因事象発生後の人的過誤確率を第3.2.1.d-5表に示す。</p>	<p>果を用いた。起因事象発生前の人的過誤確率を第3.2.1.d-4表に示す。</p> <p>b. 起因事象発生後人的過誤 事象発生後の対応操作に対する過誤であり、事象発生の起因が地震であっても内的事象PRAにおける人的過誤と同様である。ただし、現場操作については、実施が困難である可能性があるため期待していない。起因事象発生後の人的過誤確率を第3.2.1.d-5表に示す。</p>	<p>【大飯】 ■評価方針の相違 ・泊は原則外で期待している現場操作はない（川内、玄海、伊方と同様）</p> <p>【女川】 ■評価方針の相違（川内、玄海、伊方と同様） ・泊は地震が増大すると現場操作に失敗する可能性が高くなるため、現場操作には期待していない ・泊は内部事象PRAにおいても、起因事象発生後のストレスレベルを高としている</p>
<p>⑥炉心損傷頻度 (1) 炉心損傷頻度の算出に用いた方法 炉心損傷頻度評価（点推定）は、炉心損傷に至る各事故シーケンスの発生頻度を合計して算出した。各事故シーケンスの発生頻度は、確率論的地震ハザードから求めた発生頻度に事故シーケンスの条件付発生確率を乗じて算出した。また、フラジリティデータを含む炉心損傷頻度の評価に当たっては、3号炉で代表して評価を実施している。なお、解析コードはRISKMANを用い、評価地震動範囲は0.2G～1.5Gとした。</p>	<p>⑥炉心損傷頻度 (1) 炉心損傷頻度の算出に用いた方法 本評価では、信頼性解析支援システムを使用し、フォールトツリー結合法によってミニマルカットセットを作成し、炉心損傷頻度を算出した。（別紙3.2.1.d-4）</p> <p>なお、評価地震動範囲は0.0G～3.0Gとした。</p>	<p>⑥炉心損傷頻度 (1) 炉心損傷頻度の算出に用いた方法 本評価では、RiskSpectrum®PSAを使用し、フォールトツリー結合法によってミニマルカットセットを作成し、炉心損傷頻度を算出した。（補足3.1.1.h-1）</p> <p>なお、評価地震動範囲は0.2G～1.5Gとした。</p>	<p>【大飯】 ■評価方針の相違 ・泊は小イベントツリー法を用いている（高浜、美浜と同様） ■個別評価による相違 ・大飯はツインプラントであるため、代表プラントを記載している</p> <p>【女川】 ■個別評価による相違 ・定量化に使用しているソフトウェアが異なる</p> <p>【女川】 ■評価方針の相違 ・泊は0.2～0.4Gにおいてラン</p>

## 泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について

別添 3. レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震 PRA

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>安全機能が喪失する事象が重畳する場合は、地動最大加速度の増加に伴う複数機器の同時損傷により複数の起因事象が発生する可能性があるため、地震PSA学会標準にしたがい、重畳による影響を包含できるように階層化処理を行っている。具体的には、先行するヘディングにある起因事象が発生した時は後続のヘディングにある起因事象が重畳している可能性があるものとして考え、先行する起因事象で想定している緩和系により「後続の起因事象の事象進展の抑制が可能」又は「後続の起因事象に係る緩和操作に期待する必要がない」ことを考慮した上で起因事象階層イベントツリーを作成している。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>美浜発電所 3号炉 付録1（平成27年11月19日提出版）より引用】</p> <p>また、サポート系（電源系、原子炉補機冷却水系及び原子炉補機冷却海水系等）については当該機能が喪失すると複数の安全機能に影響を与えることから、従属性を有する緩和系機能喪失の原因として考慮するとともに、例えば原子炉補機冷却水系が喪失することでRCPシールLOCAが発生するよう従属性に発生する事象についても考慮した。</p> </div>		<p>安全機能が喪失する事象が重畳する場合は、地動最大加速度の増加に伴う複数機器の同時損傷により複数の起因事象が発生する可能性があるため、地震PSA学会標準に従い、重畳による影響を包含できるように階層化処理を行っている。具体的には、先行するヘディングにある起因事象が発生した時は後続のヘディングにある起因事象が重畳している可能性があるものとして考え、先行する起因事象で想定している緩和系により「後続の起因事象の事象進展の抑制が可能」又は「後続の起因事象に係る緩和操作に期待する必要がない」ことを考慮した上で起因事象階層イベントツリーを作成している。</p> <p>また、サポート系（電源系、原子炉補機冷却水系及び原子炉補機冷却海水系等）については当該機能が喪失すると複数の安全機能に影響を与えることから、従属性を有する緩和系機能喪失の原因として考慮するとともに、例えば原子炉補機冷却水系が喪失することでRCPシールLOCAが発生するよう従属性に発生する事象についても考慮した。</p>	<p>ダム故障が支配的であり、0.2G以下の地震加速度においては、さらにランダム故障の影響が強くなると考えられ内部事象PRAの評価に包含されることから、0.2G以下は地震PRAの評価範囲とはしていない</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基準地震動の最大加速度の2倍程度の1.5Gを評価範囲の上限としているが、1.5Gにおける年超過確率は <math>3.7 \times 10^{-7}</math> 程度であり、仮に1.5G以上の評価を実施しても、地震特有の事故シーケンスの炉心損傷頻度が有意となることはない</li> </ul> <p>【女川】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■記載方針の相違             <ul style="list-style-type: none"> <li>・記載の充実のため、泊は階層化処理の説明を記載しており、女川に記載がないため大飯と比較する</li> </ul> </li> </ul> <p>【大飯】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■記載表現の相違             <ul style="list-style-type: none"> <li>・したがいゆ従い</li> </ul> </li> </ul> <p>【大飯】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■評価方針の相違             <ul style="list-style-type: none"> <li>・大飯は大イベントツリーであるためサポート系イベントツリーでサポート系を扱っているが、泊は小イベントツリーであるためフォールトツリーでサポート系を扱っており、サポート系の機能喪失の影響を補足している（高浜、美浜と同様）</li> </ul> </li> </ul>

## 泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について  
別添3 レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震 PRA

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>一方、さらに異なる組み合わせや複数の安全機能が喪失する事象が重複する場合も想定されるが、すべての重複の組み合わせを事故シーケンスとして区別すると複雑になりすぎるため、事象発生後に要求される安全機能の時系列に着目し炉心損傷の直接要因となる安全機能が喪失する事故シーケンスに整理した。</p> <p>(2) 炉心損傷頻度結果 上記のとおりの手順でモデルを定量化した結果、全炉心損傷頻度は<math>2.8 \times 10^{-6}</math>（／炉年）となった。起因事象別の炉心損傷頻度を第1.2.1. d-2表に示す。</p> <p>起因事象別の結果では、2次冷却系の破断と外部電源喪失を起因とする炉心損傷頻度が大部分を占めている。</p>	<p>(2) 炉心損傷頻度結果 事故シーケンスの定量化を行った結果、全炉心損傷頻度は<math>3.3 \times 10^{-6}</math>（／炉年）と算出された。</p> <p>起因事象別の炉心損傷頻度の内訳を第3.2.1.d-6表に、事故シーケンスグループ別の炉心損傷頻度の内訳を第3.2.1.d-7表に、地震加速度区分別の炉心損傷頻度を第3.2.1.d-8表に示す。</p> <p>起因事象別の炉心損傷頻度への寄与割合を第3.2.1.d-4図、事故シーケンスグループ別炉心損傷頻度寄与割合を第3.2.1.d-5図、また、地震加速度に対する炉心損傷頻度及び条件付炉心損傷確率を第3.2.1.d-6図に示す。</p> <p>(3) 評価結果の分析 起因事象別の結果では、交流電源・原子炉補機冷却系喪失を起因とする炉心損傷頻度が最も大きく（46.0%）、次いで外部電源喪失を起因としたもの（44.0%）となった。</p> <p>事故シーケンスグループ別の結果では、長期TB（41.7%）とTW（36.3%）が大部分を占める結果となった。</p> <p>長期TBでは、ランダム故障による交流電源・原子炉補機冷却系の機能喪失の寄与が支配的となった。地震による外部電源が喪失し、交流電源・原子炉補機冷却系が喪失した場合には、全交流動力電源喪失が発生することとなる。本評価においては、外部電源の復旧には期待していないことから、原子炉隔離時冷却系が健全</p>	<p>一方、さらに異なる組合せや複数の安全機能が喪失する事象が重複する場合も想定されるが、すべての重複の組合せを事故シーケンスとして区別すると複雑になるため、事象発生後に要求される安全機能の時系列に着目し炉心損傷の直接要因となる安全機能が喪失する事故シーケンスに整理した。</p> <p>(2) 炉心損傷頻度結果 事故シーケンスの定量化を行った結果、全炉心損傷頻度は<math>3.3 \times 10^{-6}</math>（／炉年）と算出された。</p> <p>起因事象別の炉心損傷頻度の内訳を第3.2.1.d-6表に示す。事故シーケンスグループ別の炉心損傷頻度の内訳を第3.2.1.d-7表に、地震加速度区分別の炉心損傷頻度を第3.2.1.d-8表に示す。</p> <p>起因事象別の炉心損傷頻度への寄与割合を第3.2.1.d-4図、事故シーケンスグループ別炉心損傷頻度寄与割合を第3.2.1.d-5図、また、地震加速度に対する炉心損傷頻度及び条件付炉心損傷確率を第3.2.1.d-6図に示す。</p> <p>(3) 評価結果の分析 起因事象別の結果では、外部電源喪失を起因とする炉心損傷頻度が最も大きく（39.2%）、次いで大破断LOCAを上回る規模のLOCA（Excess LOCA）を起因としたもの（14.7%）となった。</p> <p>事故シーケンスグループ別の結果では、全交流動力電源喪失（38.1%）とECCS注水機能喪失（37.3%）が大部分を占める結果となった。</p> <p>全交流動力電源喪失では、地震によるディーゼル発電機の機能損傷の寄与が支配的となった。地震により外部電源が喪失した場合に、ディーゼル発電機が機能喪失することで、炉心損傷に至る。ECCS注水機能喪失では、地震による原子炉容器の構造損傷の寄与が支配的となった。地震により原子炉容器が構造損傷するこ</p>	<p>【女川】 ■設備の相違 【女川】 ■記載方針の相違 ・記載の充実のため、複数の安全機能喪失が喪失した場合の事故シーケンスの整理の考え方を記載しており女川に記載がないため大飯と比較する</p> <p>【大飯】 ■記載方針の相違 ・女川実績の反映による記載の充実 【女川】【大飯】 ■個別評価による相違 (以下、相違理由説明を省略)</p>

## 泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について  
 別添3 レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震PRA

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>また、地震PRAでは大型静的機器、建屋及び操作盤等の損傷による事故シナリオを考慮しており、蒸気発生器伝熱管破損（複数本破損）、大破断LOCAを上回る規模のLOCA（Excelsior LOCA）、原子炉格納容器損傷、原子炉建屋損傷、制御建屋損傷、複数の信号系損傷、1次系流路閉塞による2次冷却系からの除熱機能喪失等を新たな事故シーケンスとして整理している。</p> <p>さらに、加速度区別の炉心損傷頻度を第1.2.1.d-3表に示す。加速度区別では、1.1～1.5Gが支配的となっており、次いで0.2～0.5G、0.8～1.1Gが支配的となっている。</p> <p>起因事象別の炉心損傷頻度寄与割合を示すパイチャートを第1.2.1.d-11図、加速度区別の炉心損傷頻度寄与割合を第1.2.1.d-12図及び加速度区別の条件付炉心損傷頻度を第1.2.1.d-13図に示す。</p> <p>(3) 重要度解析、不確実さ解析及び感度解析</p> <p>a. 重要度解析</p> <p>地震PRAで評価したSSCが、炉心損傷に与える影響を把握するために、Fussell-Vesely (FV) 重要度評価を実施した（重要度は地震PRAで評価対象とした0.2Gから1.5Gの全加速度範囲の炉心損傷頻度の積分値に対して算出）。</p> <p>なお、定義式は以下に示すとおりである。</p> $\text{Fussell-Vesely 指標} = \frac{P_i(\text{top})}{P(\text{top})} / \frac{P(\text{top}/A=0)}{P(\text{top})}$ <p>ここで、</p>	<p>な場合においても直流電源が枯渇し炉心損傷に至る。</p> <p>TWでは、地震による機器の故障ではなく、残留熱除去系のランダム故障による機能喪失の寄与が支配的となった。原子炉隔離時冷却系による注水に成功するも、ランダム要因により残留熱除去系による格納容器除熱に失敗し、炉心損傷に至る。</p> <p>地震加速度区別では、0.2G～0.4Gが最も支配的な加速度区間となった。これは、この加速度領域（低加速度領域）においては、機器の地震故障に対してランダム故障の寄与が支配的になるためである。</p> <p>なお、原子炉建屋損傷、計測・制御系喪失などの炉心損傷直結事象については、事象進展の特定、詳細な事故シーケンスの定量化が困難であるため、保守的に炉心損傷直結事象として整理しており、地震に対するプラントの現実的な耐性がPRAの結果に現れているものではない。</p> <p>(4) 重要度解析、不確実さ解析及び感度解析</p> <p>a. 重要度解析</p>	<p>上でECCS容量を超えるLOCAが発生し、炉心損傷に至る。</p> <p>地震加速度区別では、1.0G～1.2Gが最も支配的な加速度区間となった。これは、この加速度領域（高加速度領域）においては、機器の地震故障の寄与が支配的になるためである。</p> <p>なお、原子炉建屋損傷、複数の信号系損傷等の炉心損傷直結事象については、事象進展の特定、詳細な事故シーケンスの定量化が困難であるため、保守的に炉心損傷直結事象として整理しており、地震に対するプラントの現実的な耐性がPRAの結果に現れているものではない。（補足3.2.1.d-4）</p> <p>(4) 重要度解析、不確実さ解析及び感度解析</p> <p>a. 重要度解析</p> <p>地震PRAで評価したSSCが、炉心損傷に与える影響を把握するために、Fussell-Vesely (FV) 重要度評価を実施した（重要度は地震PRAで評価対象とした0.2Gから1.5Gの全加速度範囲の炉心損傷頻度の積分値に対して算出）。</p> <p>なお、定義式は以下に示すとおりである。</p> $\text{Fussell-Vesely 指標} = \frac{P_i(\text{top})}{P(\text{top})} / \frac{P(\text{top}/A=0)}{P(\text{top})}$ <p>ここで、</p>	<p>【女川】</p> <p>■記載方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>泊はランダム故障の影響について補足説明資料を作成する（最終評価時）</li> </ul> <p>【女川】</p> <p>■記載方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>記載の充実のため、重要度の説明を記載しており、女川に記載がないため大飯と比較する</li> </ul>

## 泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について  
別添3. レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震PRA

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>P<sub>i</sub>(top) : 機器iの機能喪失が寄与して発生する頂上事象の発生確率</p> <p>P (top) : 頂上事象の発生確率</p> <p>地震で損傷するSSCの全炉心損傷頻度に対するFV重要度評価結果及び炉心損傷頻度への寄与割合が高い事故シーケンスに対する重要度評価結果を第1.2.1.d-4表及び第1.2.1.d-5表に示す。FV重要度は、炉心損傷頻度に寄与する相対的な割合を表すものである。</p> <p>フラジリティ評価の結果、耐震Cクラスである外部電源系以外では、損傷の影響緩和が困難であるとしている建屋、機器である原子炉建屋（主蒸気管室）、電動弁や広範な炉心損傷シーケンスに関連するサポート系であるメタルクラッドスイッチギア、原子炉補機冷却水冷却器、パワーセンタが相対的に低い結果となっており、これらの機器のFV重要度が高い結果となっている。</p> <p>原子炉建屋（主蒸気管室）が損傷した場合の事故シナリオとしては、主蒸気管室の構造損傷により2次冷却系破断の発生及び主蒸気隔離に失敗し、2次冷却系からの除熱機能喪失に至るとした。</p> <p>b. 不確実さ解析</p> <p>確率論的地震ハザード、機器フラジリティ、ランダム故障の不確かさに着目した全炉心損傷頻度の不確実さ解析として、全炉心損傷頻度の5%下限値、中央値、平均値及び95%上限値を評価した。不確実さ解析の結果を第1.2.1.d-6表に示す。</p> <p>平均値は点推定値とほぼ同値の<math>2.8 \times 10^{-6}</math>となった。また、エラーファクターは3.8と評価され、95%上限値と5%下限値の間に約14倍の不確実さ幅があるという結果になった。</p> <p>一方、第1.2.1.d-7表に示す確率論的地震ハザード曲線の超過発生頻度（/年）より、信頼度区分が「90%～最大値」と「最小値～10%」の差は、加速度区分1から加速度区分3で約4～26倍程度、加速度区分4では約74倍であった。このことから、炉心損傷頻度の不確実さは確率論的地震ハザードの不確実さの影響が支配的であること、加速度区分4では約74倍</p>	<p>全炉心損傷頻度への寄与が大きい因子を分析するためFV重要度を評価した。評価結果を第3.2.1.d-9表に示す。</p> <p>ランダム故障による格納容器除熱機能喪失が最も炉心損傷への寄与割合が大きく、約4割を占めた。次いで、交流電源・原子炉補機冷却系ランダム故障のFV重要度が高い結果となっているが、これは、長期TBに係るランダム故障である。続いて、原子炉隔離時冷却系ランダム故障が続き、FV重要度の上位3位をランダム故障が占める結果となった。</p> <p>b. 不確実さ解析</p> <p>全炉心損傷頻度の下限値(5%)、中央値(50%)、平均値及び上限値(95%)の評価結果を第3.2.1.d-10表及び第3.2.1.d-7図に示す。</p> <p>全炉心損傷頻度の平均値は<math>3.2 \times 10^{-6}</math>（/炉年）となった。不確実さ幅を示すエラーファクタは4.0となり、95%上限値と5%下限値の間に約16倍程度の不確実さの幅があるという結果となった。</p> <p>玄海原子力発電所3／4号炉 付録1（平成29年1月10日提出版）より引用】</p> <p>炉心損傷頻度への寄与が高い0.6G～1.2Gの確率論的地震ハザード曲線の超過発生頻度（年）は、第1.2.1.d-7表より、信頼度区分90%～最大値と、最小値～10%の間に約300～900倍の差があることから、炉心損傷頻度の不確実さは、確率論的地震ハザードの不確実さの影響が支配的であると考えられる。</p>	<p>P<sub>i</sub>(top) : 機器iの機能喪失が寄与して発生する頂上事象の発生確率</p> <p>P (top) : 頂上事象の発生確率</p> <p>全炉心損傷頻度への寄与が大きい因子を分析するためFV重要度を評価した。評価結果を第3.2.1.d-9表に示す。</p> <p>地震によるパワーコントロールセンタの機能損傷が最も炉心損傷への寄与割合が大きく、約3%を占めた。次いで、地震による安全補機開閉器室空調系の空調系ダクトの構造損傷のFV重要度が高い結果となっている。続いて、地震による内燃機関（ディーゼル機関）の機能損傷、地震によるディーゼル発電機始動用電磁弁の機能損傷及び地震によるディーゼル発電機の機能損傷が続き、FV重要度の上位3位を地震による機器故障が占める結果となった。</p> <p>b. 不確実さ解析</p> <p>全炉心損傷頻度の下限値（5%）、中央値（50%）、平均値及び上限値（95%）の評価結果を第3.2.1.d-10表及び第3.2.1.d-7図に示す。</p> <p>全炉心損傷頻度の平均値は<math>3.3 \times 10^{-6}</math>（/炉年）となった。不確実さ幅を示すエラーファクタは8.4となり、95%上限値と5%下限値の間に約71倍程度の不確実さの幅があるという結果となった。</p> <p>【女川】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■記載方針の相違</li> <li>・記載の充実のため、不確実さ解析の説明を記載しており、女川に記載がないため大飯と比較する</li> </ul>	

## 泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について  
別添3. レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震 PRA

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>の差となったものの加速度区分別炉心損傷頻度への寄与割合は加速度区分1～3が全体の約6割を占めることから、この各加速度区分の全炉心損傷頻度への寄与割合ともあいまって結果的に、全炉心損傷頻度のエラーファクターが小さくなかったと考えられる。</p> <p>また、事故シーケンスごとの不確実さ解析として、地震特有の事故シーケンスに着目して不確実さ解析を実施した。評価結果を第1.2.1.d-8表及び第1.2.1.d-14図に示す。5%下限値、中央値、平均値及び95%上限値のそれぞれについて、全炉心損傷頻度と地震特有の事故シーケンスの炉心損傷頻度の比を比較したところ0.001未満～0.037であり、点推定値評価と同様に地震特有の事故シーケンスの炉心損傷頻度は小さい結果となった。</p> <p>以上のことから、不確実さを考慮しても、地震特有の事故シーケンスは全炉心損傷頻度に対して寄与が小さく、地震を考慮しても選定した重要事故シーケンスで代表されることを確認した。</p> <p>c. 感度解析</p> <p>冗長設備については完全相関として評価を実施しているが、この冗長設備の相關性について感度解析を実施した。具体的には、第1.2.1.d-4表に示す全炉心損傷頻度に対するFIV重要度の高い機器のうち冗長設備について完全独立として</p>	<p>c. 感度解析</p> <p>感度解析は、相関仮定に係るケースについて実施した。</p> <p>(a) 感度解析ケース</p> <p>本評価では、同様の系統及び機器に対しては、地震に対する耐力及び応答は完全相関を仮定している。この仮定の</p>	<p>また、地震特有の事故シーケンスについて、5%下限値、中央値、平均値及び95%上限値のそれぞれについて、全炉心損傷頻度と地震特有の事故シーケンスの炉心損傷頻度の比を比較したところ0.001未満～0.107であり、点推定値評価と同様に地震特有の事故シーケンスの炉心損傷頻度は小さい結果となった。</p> <p>以上のことから、不確実さを考慮しても、地震特有の事故シーケンスは全炉心損傷頻度に対して寄与が小さく、地震を考慮しても選定した重要事故シーケンスで代表されることを確認した。</p> <p>c. 感度解析</p> <p>感度解析は、相関仮定に係るケースについて実施した。</p> <p>(a) 感度解析ケース</p> <p>本評価では、同様の系統及び機器に対しては、地震に対する耐力及び応答は完全相関を仮定している。この仮定の</p>	<p>【大飯】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■記載表現の相違 (以下、相違理由説明を省略)</li> </ul> <p>【大飯】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■個別評価による相違           <ul style="list-style-type: none"> <li>・大飯は低加速度区分において炉心損傷頻度への寄与割合が大きいため、確率論的地震ハザードの不確実さがより大きい高加速度区分の不確実さの影響を受けにくく、エラーファクターが小さくなっているが、泊は確率論的地震ハザードの不確実さがより大きい高加速度区分において炉心損傷頻度への寄与割合が大きいため、エラーファクターは比較的大きくなっている（玄海と同様）</li> </ul> </li> </ul> <p>【大飯】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■記載方針の相違           <ul style="list-style-type: none"> <li>・泊は女川の実績を反映して、前述のとおり第3.2.1.d-10表及び第3.2.1.d-7図において地震時特有の事故シーケンス以外の事故シーケンスも含めて不確実さ解析の結果を示している</li> </ul> </li> </ul> <p>【大飯】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■記載方針の相違           <ul style="list-style-type: none"> <li>・女川の実績反映</li> </ul> </li> </ul>

## 泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について  
別添3 レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震PRA

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>評価した。相関性を考慮した感度解析結果を第1.2.1. d-9表に示す。完全独立として評価することで、冗長設備の条件付損傷確率が低下することが確認できる。</p> <p>また、炉心損傷頻度について、基本ケースでは冗長機器でない原子炉建屋（主蒸気管室）がFV重要度の上位であったことから、感度解析結果では約1割程度の低減にとどまる結果となった。加速度区分ごとに結果を分析すると、比較的低い加速度（0.2～0.5G）ではランダム故障の寄与が高く地震による冗長機器の寄与が小さいため、相関性の感度が小さくなつた。中程度の加速度（0.5～1.1G）では、地震損傷が有意になる加速度ではあるが、原子炉建屋（主蒸気管室）がドミナントであり、冗長機器の寄与が小さいため、相関性の感度が小さくなつた。また、高加速度（1.1～1.5G）では冗長性のある機器の寄与が高くなるため、炉心損傷頻度が低減した。</p> <p>以上のことから、基本ケースと感度解析の差は約1割程度であり、完全相関とした基本ケース評価でも過度に保守的な評価にならないことを確認した。</p>	<p>炉心損傷頻度への影響について評価するため、FV重要度の上位を占める非常用MCC、燃料移送系設備（燃料移送系配管、軽油タンク）、直流主母線盤及び非常用ディーゼル機関に対して完全独立を仮定した場合の感度解析を実施した。なお、評価対象の事故シーケンスグループは上記設備の影響が大きい全交流動力電源喪失グループとした。</p> <p>(b) 評価結果</p> <p>感度解析の結果を第3.2.1. d-11表に示す。完全独立を想定した場合、長期TBで約3割、TBUで約2割、TBPで約2割、TBDで約9割炉心損傷頻度が低減した。</p> <p>炉心損傷頻度に対する改善寄与割合が大きいTBDシーケンスに対する地震加速度毎の炉心損傷頻度を第3.2.1. d-8図に示す。設備損傷による炉心損傷が支配的となる約0.5G以上で完全独立（多重化）の効果が表れており、この改善効果が当該シーケンスグループの炉心損傷頻度の低減に寄与したと考えられる。</p> <p>また、確率論的地震ハザード変更についての感度解析を実施し、影響が無いことを確認した。（別紙3.2.1. d-5）</p>	<p>炉心損傷頻度への影響について評価するため、FV重要度の上位を占めるパワーコントロールセンタき電盤、ディーゼル発電機、ディーゼル発電機室換気系ダクト等に対して完全独立を仮定した場合の感度解析を実施した。</p> <p>(b) 評価結果</p> <p>感度解析の結果を第3.2.1. d-12表に示す。完全独立を想定した場合、小破断LOCA+補助給水失敗で約5割、外部電源喪失+非常用所内交流電源喪失で約5割、大破断LOCA+低圧注入失敗で約6割、中破断LOCA+高圧注入失敗で約6割、小破断LOCA+高圧注入失敗で約5割炉心損傷頻度が低減した。</p> <p>炉心損傷頻度に対する改善寄与割合が大きい中破断LOCA+高圧注入失敗に対する地震加速度ごとの炉心損傷頻度を第3.2.1. d-8図に示す。設備損傷による炉心損傷が有意となる地震加速度区間0.6G～0.8G以上で完全独立（多重化）の効果が表れており、この改善効果が当該事故シーケンスの炉心損傷頻度の低減に寄与したと考えられる。</p>	<p>【女川】【大飯】 ■個別評価による相違 (以下、相違理由説明を省略)</p> <p>【女川】 ■評価方針の相違 ・泊はすべての事故シーケンスグループを対象として感度解析を実施している (以下、相違理由説明を省略)</p> <p>【女川】 ■評価方針の相違 ・泊は変更後の確率論的地震ハザードを用いて評価している (補足3.2.1.b-1参照)</p>

泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について

別添3. レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震PRA

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3／4号炉		女川原子力発電所2号炉		泊発電所3号炉		相違理由
1 プラントの設計・運転の把握 PRA評価作業	PRA実施に当たり必要となる情報 内部事象出力時レベル1PRAを使用した情報及び主な情報源	1 プラントの設計・運転の把握 PRA評価作業	PRA実施に当たり必要となる情報 内部事象出力時レベル1PRAを使用した設計方針の相違	1 プラントの設計・運転の把握 PRA評価作業	PRA実施に当たり必要となる情報 内部事象出力時レベル1PRAを使用した設計方針の相違	【女川】【大飯】
2 磁気誘導地盤ハザード評価	対象サイト周辺地域での地震発生模式を考慮し、機器モデルの設定に係る震源特性や、地震動伝播モデルの設定に係わる地震動伝播特性に関する情報	2 地震ハザード評価	対象サイト周辺地域での地震発生模式を考慮し、機器モデルの設定に係る震源特性や、地震動伝播モデルの設定に係わる地震動伝播特性に関する情報	2 地震ハザード評価	対象サイト周辺地域での地震発生模式を考慮し、機器モデルの設定に係る震源特性や、地震動伝播モデルの設定に係わる地震動伝播特性に関する情報	■記載表現の相違
3 建屋・機器フランジリティ評価	プラント固有の建屋・機器の耐力評価並びに応答評価	3 建屋・機器フランジリティ評価	大規模地震時に想定されるプラント状態並びに応答評価	3 建屋・機器フランジリティ評価	大規模地震時に想定されるプラント状態並びに応答評価	・情報名の相違
4 事故シーケンス評価	a)事故シナリオの分析と起因事象の分類 b)事故シーケンスの分析 ・成功基準の設定 ・イベントツリーの作成 c)システムのモデル化 d)事故シーケンスの定量化	4 事故シーケンス評価	a)事故シナリオの分析と起因事象の分類 b)事故シーケンスの分析 ・安全系等のシステム使用条件 ・システムの現実的な性能 ・運転員による緩和操作 c)システムのモデル化 ・対象プラントに即した機器故障モード、運転形態 d)事故シーケンスの定量化	4 事故シーケンス評価	a)事故シナリオの分析と起因事象の分類 b)事故シーケンスの分析 ・安全系等のシステム使用条件 ・システムの現実的な性能 ・運転員による緩和操作 c)システムのモデル化 ・対象プラントに即した機器故障モード、運転形態 d)事故シーケンスの定量化	・記載表現の相違
第3.2.1-a-1表 地震レベル1PRAを実施するため収集した情報及びその主な情報源 (1/2)						
1 プラントの設計・運転の把握 PRA評価作業	PRA実施にあたり必要となる設計、運転管理に関する情報	1 プラントの設計・運転の把握 PRA評価作業	PRA実施にあたり必要となる設計、運転管理に関する情報	1 プラントの設計・運転の把握 PRA評価作業	PRA実施にあたり必要となる設計、運転管理に関する情報	主な情報源
2 地震ハザード評価	敷地周辺地域における地震発生様式を考慮し、震源モデルの設定に係る震源特性や、地震動伝播モデルの設定に係わる地震動伝播特性に関する情報	2 地震ハザード評価	敷地周辺地域における地震発生様式を考慮し、震源モデルの設定に係る震源特性や、地震動伝播モデルの設定に係わる地震動伝播特性に関する情報	2 地震ハザード評価	敷地周辺地域における地震発生様式を考慮し、震源モデルの設定に係る震源特性や、地震動伝播モデルの設定に係わる地震動伝播特性に関する情報	主な情報源
3 建屋・機器フランジリティ評価	プラント固有の建屋・機器の耐力評価及び応答評価	3 建屋・機器フランジリティ評価	プラント固有の建屋・機器の耐力評価及び応答評価	3 建屋・機器フランジリティ評価	プラント固有の建屋・機器の耐力評価及び応答評価	主な情報源
4 事故シーケンス評価	a)事故シナリオの分析と起因事象の分類 b)事故シーケンスの分析 ・成功基準の設定 ・イベントツリーの作成 c)システムのモデル化 ・対象プラントに即した機器故障モード、運転形態 d)事故シーケンスの定量化	4 事故シーケンス評価	a)事故シナリオの分析と起因事象の分類 b)事故シーケンスの分析 ・安全系などのシステム使用条件 ・システムの現実的な性能 ・運転員による緩和操作 c)システムのモデル化 ・対象プラントに即した機器故障モード、運転形態 d)事故シーケンスの定量化	4 事故シーケンス評価	a)事故シナリオの分析と起因事象の分類 b)事故シーケンスの分析 ・安全系等のシステム使用条件 ・システムの現実的な性能 ・運転員による緩和操作 c)システムのモデル化 ・対象プラントに即した機器故障モード、運転形態 d)事故シーケンスの定量化	主な情報源
第3.2.1-a-2表 地震レベル1PRAを実施するため収集した情報及びその主な情報源 (1/2)						
1 フラントの設計・運転の把握 PRA評価作業	PRA実施に当たり必要となる設計、運転管理に関する情報	1 フラントの設計・運転の把握 PRA評価作業	PRA実施に当たり必要となる設計、運転管理に関する情報	1 フラントの設計・運転の把握 PRA評価作業	PRA実施に当たり必要となる設計、運転管理に関する情報	主な情報源
2 地震ハザード評価	敷地周辺地域における地震発生模式を考慮し、震源モデルの設定に係る震源特性や地震動伝播モデルの設定に係わる地震動伝播特性に関する情報	2 地震ハザード評価	敷地周辺地域における地震発生模式を考慮し、震源モデルの設定に係る震源特性や地震動伝播モデルの設定に係わる地震動伝播特性に関する情報	2 地震ハザード評価	敷地周辺地域における地震発生模式を考慮し、震源モデルの設定に係る震源特性や地震動伝播モデルの設定に係わる地震動伝播特性に関する情報	主な情報源
3 建屋・機器フランジリティ評価	プラント固有の建屋・機器の耐力評価並びに応答評価	3 建屋・機器フランジリティ評価	プラント固有の建屋・機器の耐力評価並びに応答評価	3 建屋・機器フランジリティ評価	プラント固有の建屋・機器の耐力評価並びに応答評価	主な情報源
4 事故シーケンス評価	a)事故シナリオの分析と起因事象の分類 b)事故シーケンスの分析 ・成功基準の設定 ・イベントツリーの作成 c)システムのモデル化 ・対象プラントに即した機器故障モード、運転形態 d)事故シーケンスの定量化	4 事故シーケンス評価	a)事故シナリオの分析と起因事象の分類 b)事故シーケンスの分析 ・安全系等のシステム使用条件 ・システムの現実的な性能 ・運転員による緩和操作 c)システムのモデル化 ・対象プラントに即した機器故障モード、運転形態 d)事故シーケンスの定量化	4 事故シーケンス評価	a)事故シナリオの分析と起因事象の分類 b)事故シーケンスの分析 ・安全系等のシステム使用条件 ・システムの現実的な性能 ・運転員による緩和操作 c)システムのモデル化 ・対象プラントに即した機器故障モード、運転形態 d)事故シーケンスの定量化	主な情報源

泊発電所 3号炉 有効性評価 比較表

### 第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について 別添 3. レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震 PRA

**赤字**: 設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
**青字**: 記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
**緑字**: 記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について  
別添3. レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震PRA

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由															
	<table border="1"> <caption>第3.2.1-a-2表 地震による事故シナリオのスクリーニング(1/5)</caption> <tbody> <tr> <td>①本震による炉心損傷事故に直接的に繋がりうる事故シナリオ</td><td>分析</td><td>スクリーニング結果</td><td></td></tr> <tr> <td>事故シナリオ</td><td>耐震重要度Sクラス機器の損傷</td><td>地震PRAでは設計基準地震動を超えるような顕著な地震を考慮するため、そのような地盤が発生した場合には耐震重要度Sクラスの機器が損傷し、重大な事象に至る可能性がある。</td><td>地震PRAで考慮</td></tr> <tr> <td>安全設備の使用寿命時間内の機能維持に必要な設備の損傷</td><td>耐震重要度Sの非常用発電機用の蓄電池の過放電に伴う立ち上がり不能</td><td>事象緩和に必要な設備を使用寿命時間の間作動させるのに必要な設備(燃料移送系設備等)が損傷した場合、重大な事象に至る可能性がある。 蓄電池は定期的な点検(サンブル確認及び全数確認)により保守管理されており、地盤以外の過放電であればランダム故障として考慮している。 また、加振試験により蓄電池の機能維持が確認されており、地震時の過放電の可能性は極めて低い。</td><td>地震PRAで考慮</td></tr> <tr> <td>耐震重要度Sの非常用発電機用の蓄電池の過放電に伴う立ち上がり不能</td><td></td><td></td><td>除外</td></tr> </tbody> </table>	①本震による炉心損傷事故に直接的に繋がりうる事故シナリオ	分析	スクリーニング結果		事故シナリオ	耐震重要度Sクラス機器の損傷	地震PRAでは設計基準地震動を超えるような顕著な地震を考慮するため、そのような地盤が発生した場合には耐震重要度Sクラスの機器が損傷し、重大な事象に至る可能性がある。	地震PRAで考慮	安全設備の使用寿命時間内の機能維持に必要な設備の損傷	耐震重要度Sの非常用発電機用の蓄電池の過放電に伴う立ち上がり不能	事象緩和に必要な設備を使用寿命時間の間作動させるのに必要な設備(燃料移送系設備等)が損傷した場合、重大な事象に至る可能性がある。 蓄電池は定期的な点検(サンブル確認及び全数確認)により保守管理されており、地盤以外の過放電であればランダム故障として考慮している。 また、加振試験により蓄電池の機能維持が確認されており、地震時の過放電の可能性は極めて低い。	地震PRAで考慮	耐震重要度Sの非常用発電機用の蓄電池の過放電に伴う立ち上がり不能			除外	<p><b>【大飯】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■記載方針の相違           <ul style="list-style-type: none"> <li>・女川の実績反映</li> <li>・本震により直接的に炉心損傷に至る事故シナリオのスクリーニングについて記載している</li> </ul> </li> </ul> <p><b>【女川】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■記載表現の相違           <ul style="list-style-type: none"> <li>・設備名称の相違はあるものの、スクリーニングの考え方には相違はない</li> </ul> </li> </ul>
①本震による炉心損傷事故に直接的に繋がりうる事故シナリオ	分析	スクリーニング結果																
事故シナリオ	耐震重要度Sクラス機器の損傷	地震PRAでは設計基準地震動を超えるような顕著な地震を考慮するため、そのような地盤が発生した場合には耐震重要度Sクラスの機器が損傷し、重大な事象に至る可能性がある。	地震PRAで考慮															
安全設備の使用寿命時間内の機能維持に必要な設備の損傷	耐震重要度Sの非常用発電機用の蓄電池の過放電に伴う立ち上がり不能	事象緩和に必要な設備を使用寿命時間の間作動させるのに必要な設備(燃料移送系設備等)が損傷した場合、重大な事象に至る可能性がある。 蓄電池は定期的な点検(サンブル確認及び全数確認)により保守管理されており、地盤以外の過放電であればランダム故障として考慮している。 また、加振試験により蓄電池の機能維持が確認されており、地震時の過放電の可能性は極めて低い。	地震PRAで考慮															
耐震重要度Sの非常用発電機用の蓄電池の過放電に伴う立ち上がり不能			除外															

泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について  
別添3. レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震PRA

事故シナリオ	第1.2.1.a-2表 地震による事故シナリオのスクリーニング(1/4)	スクリーニング結果	相違理由
地震による安全機能への間接的影響			
1. 安全機能S.S.C以外の屋内設備の損傷による原 子炉容器、原子炉格納容器への影響	<p>天井クレーンの転倒・落下による原 子炉容器、原子炉格納容器への影響</p> <p>天井クレーンは、Ss 地震動に対する地盤動に対しても、リングガータの内径はクレーン内径よりも小さなため物理的にもクレーンが落下することはない。</p> <p>仮に落下を想定しても、架台等の構造物があることから直接原子炉容器に衝突することはない。</p> <p>耐震B、Cクラスの機器の損傷に伴う Sクラス機器の損傷</p> <p>当該ファントの耐震設計において、Sクラスの機器は、B、Cクラスの機器の破損によって被災の程度が生じないよう配置等の考慮を行っている。</p> <p>タービンミサイルによる隣接原子炉建屋内関連設備への影響</p> <p>タービンミサイルの影響は設置許可申請において詳細・審査されており、万一、タービンの設計最大速度でミサイルとなつた場合も原子炉格納容器を貫通しないことを確認している。</p>	工学的判断により除外	【大飯】 ■記載表現の相違 ・女川に記載統一
②本質によるがん心臓傷事故に間接的に繋がりうる事故シナリオ			
- 安全機能を有する建屋・構築物、機器以外の屋内・屋外設備の損傷 (その1)			【女川】 ■記載表現の相違 ・設備名称の相違はあるものの、スクリーニングの考え方には相違はない
②本質によるがん心臓傷事故に間接的に繋がりうる事故シナリオ			
事故シナリオ	第3.2.1.a-2表 地震による事故シナリオのスクリーニング(2/5)	スクリーニング結果	
天井クレーンの転倒・落下による原子炉 圧力容器、格納容器への影響	<p>天井クレーンは、Ss 地震動に対して落下防止対策を有している。 また、通常時は原子炉圧力容器、原子炉格納容器上になく、運送中に地震動により落下して、原子炉圧力容器、原子炉格納容器が損傷されることはない。</p> <p>東北地方太平洋沖地震においても、天井クレーン走行部については、軸受が損傷していたものの、落下防止機能は満足しており、安全上重要な設備に及ぼす影響を与えていないことを確認している。</p>	除外	
耐震重要度B、Cクラスの機器の損傷 耐震重要度Sクラス機器の損傷	<p>当該ファントの耐震設計において、耐震重要度Sクラス機器が被災の影響を受けないことを確認している。</p> <p>・プラントウォークダウンにより耐震重要度Sクラス機器が被災の影響を受けないことを確認している。</p>	除外	
主タービンの軸受などの損傷に伴うタ ービンミサイルによる隣接原子炉建屋 内関連設備への影響	<p>主タービンミサイルは十分な耐震防止策が施されている。 また、タービンミサイルの発生率及び防護施設への到達確率により、タービンミサイルによる回路管の損傷確率は極めて小さい。</p>	除外	
排気筒の軸側による原子炉建屋又は周 辺構造物への影響	<p>度を有しております。推進が被災しないよう安全系の系統分離がされている。</p> <p>2号炉非燃焼炉は安全機能を有する建屋・構築物から離れており、排気筒の軸側による原子炉建屋又は周辺構造物への影響はない。</p>	除外	
②本質によるがん心臓傷事故に間接的につながりうる事故シナリオ			
事故シナリオ	第3.2.1.a-2表 地震による事故シナリオのスクリーニング(2/5)	スクリーニング結果	
天井クレーンの転倒・落下による原 子炉容器、原子炉格納容器への影響	<p>天井クレーンは、Ss 地震動に対して落下防止装置を有している。 ・万一落下降止装置が破損しても、リングガータの内径はクレーン内径よりも小さなため物理的にもクレーンが落下することはない。</p> <p>仮に落下を想定しても、架台等の構造物があることから直接原子炉容器に衝突することはない。</p>	除外	
耐震B、Cクラスの機器の損傷 う Sクラス機器の損傷	<p>当該ファントの耐震設計において、耐震重要度Sクラスの機器は、耐震重要度B、Cクラスの機器の破損によつて被災の破損が生じないよう配慮等の考慮を行つている。</p> <p>・プラントウォークダウンにより耐震重要度Sクラス機器が被災の影響を受けないことを確認している。</p>	除外	
タービンミサイルによる隣接原子 炉建屋内関連設備への影響	<p>タービンミサイルの影響は設置許可申請において詳細・審査されており、しないことを確認している。</p> <p>・地震でタービン軸受けが損傷するような地盤動には「タービン軸受け大」によりタービントリップされ減速されるため、タービン翼が破損しても設計最大速度でミサイルとなることはない、</p>	除外	
排気筒の軸側による原子炉建屋又 は周辺構造物への影響	<p>PWR の排気筒は格納容器に沿つた、ステンレス製の隔壁のダクト形狀であり、万一根傷して落しても建屋等を損傷させることはない。</p>	除外	

泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について  
別添3. レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震PRA

事故シナリオ	分 析	スクリーニング結果	相違理由
2. 安全機能SSC以外の屋外設備の損傷による間接的影響 排気筒等の転倒による原子炉建屋 又は周辺構造物への影響	PWRの非気筒は原子炉格納容器に沿った、ステンレス製の軽量のダクト形状であり、万一損傷して落下しても建屋等を損傷させることはない。 斜面崩壊による原子炉建屋又は周辺構造物への影響	原子炉施設周辺面の損傷確率を評価し、影響を与える可能性のある工学的判断により除外	【大飯】 ■記載表現の相違 ・女川に記載統一
送電網の跌落等の損傷への影響	建屋・機器等の損傷率と比べ、小さいことを確認している。	原子炉施設周辺面の損傷確率と比べ、小さなことを確認している。	【女川】 ■記載表現の相違 ・設備名称の相違はあるものの、スクリーニングの考え方には相違はない
安全上重要な設備の冷却に使用可能な給水原の停止による冷却水枯渇の影響	安全上重要な設備の冷却用水源（海水取水設備、原子炉補機冷却水セージタンク、燃料取替用ヒット等）のフランジティについて地震PRAで考慮済みである。	安全上重要な設備の冷却用水源（海水取水設備、原子炉補機冷却水セージタンク、燃料取替用ヒット等）のフランジティについて地震PRAで考慮済みである。	【女川】 ■個別評価による相違 ・泊では、基準地震動による地震力に対して、地盤・斜面の安全性を評価している。 （伊方、島根と同様）
事故シナリオ	斜面崩壊による原子炉建屋又は周辺構造物への影響	安全機能を有する建屋・構築物の周辺に斜面はない。	【女川】 ■評価方針の相違 ・女川は屋外重要土木構造物のフランジティ評価を実施していない
2. 本震による炉心損傷事故に間接的に繋がりうる事故シナリオ －安全機能を有する建屋・構築物、機器以外の屋内・屋外設備の損傷（その2）	送電網の跌落などの損傷に伴う外部電源損失への影響	本評価では、外部電源設備の中でも比較的地震耐力の小さい碍子部を、実力よりもフランジティを保守的に設定することにより、他の外部電源設備の損傷を代表させて評価している。そのため、異常などの相場に伴う外部電源損失への影響は、碍子部の損傷に包絡して評価している。	【大飯】 ■記載表現の相違 ・女川に記載統一
事故シナリオ	安全上重要な設備の冷却に使用可能な工業用水などの原水供給停止による冷却水枯済の影響	安全上重要な設備の冷却は、海水を最終ヒートシンクとする耐震設計された冷却設備で構成されており、原水供給には期待していない。	【女川】 ■記載表現の相違 ・設備名称の相違はあるものの、スクリーニングの考え方には相違はない
斜面崩壊による原子炉建屋又は周辺構造物への影響	海水ポンプ室、配管トレーンチダクトなどによるヒートシンク喪失への影響	海水ポンプ室、配管トレーンチダクトの地震耐力は、RSW配管、RSWポンプ等の最終ヒートシンク間に最も強く、直接の最終ヒートシンク喪失要因にならない。	【女川】 ■個別評価による相違 ・泊では、基準地震動による地震力に対して、地盤・斜面の安全性を評価している。 （伊方、島根と同様）
事故シナリオ	斜面崩壊による原子炉建屋又は周辺構造物への影響	十分な安全性を有していることが確認された。	【女川】 ■評価方針の相違 ・女川は屋外重要土木構造物のフランジティ評価を実施していない
2. 本震による炉心損傷事故に間接的につながりうる事故シナリオ －安全機能を有する建屋・構築物、機器以外の屋内・屋外設備の損傷（その2）	送電網の跌落等の損傷への影響	・原子炉建屋周辺の斜面を評価した結果、基準地震動による地震力に対する耐震設計され、安全上重要な設備の冷却は、海水を最終ヒートシンクとする耐震設計された冷却設備（海水吸水設備、原子炉補機冷却水セージタンク、燃料取替用ヒット等）で構成されており地震PRAで考慮済みであるが、原水供給には期待していない。	【大飯】 ■記載表現の相違 ・女川に記載統一
事故シナリオ	安全上重要な設備の冷却に使用可能な工業用水等の原水供給停止による冷却水枯済の影響	・原子炉建屋周辺の斜面を評価した結果、基準地震動による地震力に対する耐震設計され、安全上重要な設備の冷却は、海水を最終ヒートシンクとする耐震設計された冷却設備（海水吸水設備、原子炉補機冷却水セージタンク、燃料取替用ヒット等）で構成されており地震PRAで考慮済みであるが、原水供給には期待していない。	【女川】 ■記載表現の相違 ・設備名称の相違はあるものの、スクリーニングの考え方には相違はない
斜面崩壊による原子炉建屋又は周辺構造物への影響	取水ヒットポンプ室、原子炉補機冷却水ポンプストレーナ室及び原水ポンプ室等の損傷による最終ヒートシンク喪失への影響	・取水ヒットポンプ室、原子炉補機冷却水ポンプ室のうち、耐震評価がより厳しい原子炉補機冷却水ポンプ室等の損傷による最終ヒートシンク喪失への影響	【女川】 ■個別評価による相違 ・泊では、基準地震動による地震力に対して、地盤・斜面の安全性を評価している。 （伊方、島根と同様）
事故シナリオ	海水ポンプ室、配管トレーンチダクトの地震耐力は、RSW配管、RSWポンプ等の最終ヒートシンク間に最も強く、直接の最終ヒートシンク喪失要因にならない。	海水ポンプ室、配管トレーンチダクトの地震耐力は、RSW配管、RSWポンプ等の最終ヒートシンク間に最も強く、直接の最終ヒートシンク喪失要因にならない。	【女川】 ■評価方針の相違 ・女川は屋外重要土木構造物のフランジティ評価を実施していない

## 泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について  
 別添3. レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震PRA

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由									
	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p style="text-align: center;"><b>【島根原子力発電所 2号炉 付録1（令和3年9月6日提出 出版）より引用】</b></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">事故シナリオ</th> <th style="text-align: center;">分 新</th> <th style="text-align: center;">スクリーニング結果</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="3"><b>地震による安全機能への影響的影響</b></td> </tr> <tr> <td colspan="3"> <p>② 安全機能を有する建物・構造物・機器以外の屋外設備の損傷</p> <p>排気筒の転倒による原子炉建物及び周辺構造物への影響は、以下のとおり極めて小さいと考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>排気筒は、条件付応心振動減衰率が1となる地震動レベルを超える120deg/1相当の地震動に対して、全部材が引張に耐えている。</li> <li>・他プラントにおいて地震により排気筒と排気ダクトを接続しているペローズに亀裂が確認されているが、排気筒は健全であったことが確認されている。</li> </ul> <p>斜面崩壊による原子炉建物又は周辺構造物への影響</p> <p>斜面崩壊の斜面を評価した結果、基準地震動による地震力に対し十分な安全性を有していることが確認された。</p> <p>送電網の跳躍などの損傷への影響</p> <p>外部電線系のフラジリティは、耐力の小さいセラミックライシッシュレーダーで代表させており、送電網周りの影響を包括していると判断。</p> <p>安全上重要な設備の冷却水ポンプへの影響</p> <p>原子炉注水から除熱を含めた長期冷却のための水槽については、サブレクション・チャンネルに接続していることと貯水槽にて冷却に成功するモデルとしており、外部水槽に期待している。</p> </td> </tr> </tbody> </table> </div>	事故シナリオ	分 新	スクリーニング結果	<b>地震による安全機能への影響的影響</b>			<p>② 安全機能を有する建物・構造物・機器以外の屋外設備の損傷</p> <p>排気筒の転倒による原子炉建物及び周辺構造物への影響は、以下のとおり極めて小さいと考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>排気筒は、条件付応心振動減衰率が1となる地震動レベルを超える120deg/1相当の地震動に対して、全部材が引張に耐えている。</li> <li>・他プラントにおいて地震により排気筒と排気ダクトを接続しているペローズに亀裂が確認されているが、排気筒は健全であったことが確認されている。</li> </ul> <p>斜面崩壊による原子炉建物又は周辺構造物への影響</p> <p>斜面崩壊の斜面を評価した結果、基準地震動による地震力に対し十分な安全性を有していることが確認された。</p> <p>送電網の跳躍などの損傷への影響</p> <p>外部電線系のフラジリティは、耐力の小さいセラミックライシッシュレーダーで代表させており、送電網周りの影響を包括していると判断。</p> <p>安全上重要な設備の冷却水ポンプへの影響</p> <p>原子炉注水から除熱を含めた長期冷却のための水槽については、サブレクション・チャンネルに接続していることと貯水槽にて冷却に成功するモデルとしており、外部水槽に期待している。</p>				
事故シナリオ	分 新	スクリーニング結果										
<b>地震による安全機能への影響的影響</b>												
<p>② 安全機能を有する建物・構造物・機器以外の屋外設備の損傷</p> <p>排気筒の転倒による原子炉建物及び周辺構造物への影響は、以下のとおり極めて小さいと考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>排気筒は、条件付応心振動減衰率が1となる地震動レベルを超える120deg/1相当の地震動に対して、全部材が引張に耐えている。</li> <li>・他プラントにおいて地震により排気筒と排気ダクトを接続しているペローズに亀裂が確認されているが、排気筒は健全であったことが確認されている。</li> </ul> <p>斜面崩壊による原子炉建物又は周辺構造物への影響</p> <p>斜面崩壊の斜面を評価した結果、基準地震動による地震力に対し十分な安全性を有していることが確認された。</p> <p>送電網の跳躍などの損傷への影響</p> <p>外部電線系のフラジリティは、耐力の小さいセラミックライシッシュレーダーで代表させており、送電網周りの影響を包括していると判断。</p> <p>安全上重要な設備の冷却水ポンプへの影響</p> <p>原子炉注水から除熱を含めた長期冷却のための水槽については、サブレクション・チャンネルに接続していることと貯水槽にて冷却に成功するモデルとしており、外部水槽に期待している。</p>												

泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について

別添3. レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震PRA

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
<p>事故シナリオ 分析 スクリーニング結果</p> <p>3. 運転員操作の障害による震害の影響</p> <p>地震前 (設計、製作、組立、検査等) ・設計、製作、組立、検査等のミスは、設計、開討段階における品質工学的判断により除外される。</p> <p>のミス</p> <p>・万が一、これらのミスがあつたとしても、多重性を備えた設備のすべてで同様のミスを犯す可能性は小さく、また、地震PRAでは保守的に多種設備の相違の完全相違を選定している。</p> <p>地震時、地震後の人的過誤</p> <p>・地震による原子炉はトリップされ、プラントは長期停心冷却モードに移行する。この安全停止のための運転員操作は地震収束車後であり運転員の操作は可能である。</p> <p>・地震により軽い損傷に至るような事象が発生したとしても、地震PR Aで期待する運転員による緩和操作は中央制御室近傍で操作可能である。</p> <p>変圧器等の断子類の損傷によるサ イト電源の停電に伴うバックアップ操作の支援</p> <p>・非常用母線及び常用母線からの給電ができない場合のバックアップ操作 (ディーゼル発電機の起動等) は、事故時操作手順にしたがい、中央制御室近傍で操作可能である。</p> <p>構内通行支障、要員への影響</p> <p>・地震後のプラントの安全停止のための運転員操作は、中央制御室近傍で操作可能であり、構内通行支障による影響はない。</p> <p>・プラントウォータクダウントを塞いでしまう設備がないことを確認している。</p>	<p>事故シナリオ 分析 スクリーニング結果</p> <p>②本震による重心損傷事故に間接的に繋がりうる事故シナリオ</p> <p>－地震特有の現象による運転操作の障害及び地震時の安全機能への人的過誤の影響</p> <p>地震発生前の現象による運転操作の障害及び地震時の安全機能への人的過誤の影響</p> <p>分析</p> <p>スクリーニング結果</p> <p>地震発生前 (施設の計画、設計、材料、原子炉施設の安全性、信頃性及び点検保守上の要求を満足するため、設計・施工段階における品質保証活動で適正に管理されている。</p> <p>・また、万が一、これらのミスがあつたとしても、多重性を備えた設備の全てに同様のミスが発生する可能性は小さいと考えられる。</p> <p>地震中、地震後の操作員、構内勤務者、周辺関係者 (送電関係など) のミスオペレーション</p> <p>・地震後の混亂に伴う高ストレッス状態は、操作員の操作の阻害要因となるため、人的過誤を考慮している。</p> <p>変圧器などの断子類の損傷によるサイト電源の停電に伴うバックアップ操作の支援</p> <p>・ただし、操作員以外の人員による操作は必要ないため停電の影響はない。</p> <p>地震液状化、ようこそ損傷による構内通行支障</p> <p>・安全上重要な設備は中央制御室より操作できるため、小さいと考えられる。</p> <p>二次部材損傷による操作員等従業員への影響</p> <p>・施設内の機械物や地盤動による飛来物が操作員等を傷付け、操作を妨げる可能性があるが、中央制御室付近において、運転員操作を著しく妨げるような物体は基本的にはない。</p>	<p>事故シナリオ 分析 スクリーニング結果</p> <p>②本震による重心損傷事故に間接的に繋がりうる事故シナリオ</p> <p>－地震特有の現象による運転操作の障害及び地震時の安全機能への人的過誤の影響</p> <p>地震発生前の現象による運転操作の障害及び地震時の安全機能への人的過誤の影響</p> <p>分析</p> <p>スクリーニング結果</p> <p>地震発生前 (施設の計画、設計、材料、原子炉施設における品質保証活動で適正に管理されている。</p> <p>・万が一、これらのミスがあつたとしても、多重性を備えた設備のすべてに同様のミスが発生する可能性は小さいと考えられる。</p> <p>地震中、地震後の操作員、構内勤務者、周辺関係者 (送電関係など) のミスオペレーション</p> <p>・地震による原子弹炉はトリップされ、プラントは長期間心冷却モードに移行する。この安全停止のための運転員操作は地震収束車後であり、運転員の操作は可能である。</p> <p>変圧器等の断子類の損傷によるサイト電源の停電に伴うバックアップ操作の支援</p> <p>・地震により軽い損傷に至るような事象が発生したとしても、地震PRAで期待する運転員による緩和操作は中央制御室近傍で操作可能である。</p> <p>・ただし、運転員以外の人員による操作は必要ないため考慮しない。</p> <p>地震液状化による操作員等従業員への影響</p> <p>・現場での復旧操作には期待していないため停電の影響はない。</p> <p>・中央制御室への影響も、非常用照明が備えられているため、小さなとされる。</p> <p>・非常用母線及び常用母線からの給電ができない場合のバックアップ操作 (ディーゼル発電機の起動等) は、運転員操作 (緊急遮断線) に従い、中央制御室近傍で操作可能である。</p>	<p>【大飯】</p> <p>■記載表現の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・女川に記載統一</li> </ul> <p>【女川】</p> <p>■記載表現の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・設備名称の相違はあるものの、スクリーニングの考え方には相違はない</li> </ul> <p>【泊】</p> <p>■評価方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・泊はプラントウォータクダウントにより地震時の操作性に影響がないことを確認した上で、中央制御室からのディーゼル発電機の起動のバックアップ操作要否を考慮している</li> </ul>

泊発電所 3号炉 有効性評価 比較表

### 第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について 別添 3. レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震 PRA

**赤字**：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
**青字**：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
**緑字**：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3／4号炉		女川原子力発電所2号炉		泊発電所3号炉		相違理由		
事故シナリオ	分析	スクリーニング結果	事故シナリオ	分析	スクリーニング結果	事故シナリオ	分析	スクリーニング結果
その他の事故シナリオ			その他の事故シナリオ			その他の事故シナリオ		
4. 余震による地震動の安全機能への影響	本震直後の余震による炉心損傷へ ・確率論的地震ハザード評価では余震を除外し、本震で発生頻度が評価されている。また、本震を上回るような余震の可能性は低い。 ・本震後は原子炉はトリップされ、事故操作手順にしたがい、安全停止に移行するため、余震が発生したとしても影響はない。 ・地質P.S.A学会標準では余震の評価手法が開示されているが、系統的な評価手法は確立されておらず、今後の課題とする。	金震による影響は今後の課題であるが、影響が大きいのは本震である。	5. 経年変化を考慮した場合の影響	経年変化を考慮した場合の炉心損傷への影響	・予防保全やP.L.M評価で設計想定以上の劣化が予測された場合は補修や交換がなされる。	経年変化を考慮した場合の炉心損傷への影響	経年変化を考慮した場合の炉心損傷への影響	工学的判断により除外
第1.2.1.a-2表 地震による事故シナリオのスクリーニング(4/4)		第3.2.1.a-2表 地震による事故シナリオのスクリーニング(5/5)		第3.2.1.a-2表 地震による事故シナリオのスクリーニング(5/5)		第3.2.1.a-2表 地震による事故シナリオのスクリーニング(5/5)		
③余震に係る事故シナリオ	分析	スクリーニング結果	③余震に係る事故シナリオ	分析	スクリーニング結果	③余震に係る事故シナリオ	分析	スクリーニング結果
余震による炉心損傷への影響	本震と比較して、余震のハザード又は建屋・構造物及び機器・配管系の損傷に対する影響が無視できない場合、本震と余震の地震動を連続して受けた場合の事故シナリオを分析して炉心損傷度を評価する必要がある。	除外(今後の課題)	余震による炉心損傷への影響	本震と比較して、余震のハザード又は建屋・構造物及び機器・配管系の損傷に対する影響が無視できない場合、本震と余震の地震動を連続して受けた場合の事故シナリオを分析して炉心損傷度を評価する必要がある。	除外(今後の課題)	余震による炉心損傷への影響	本震と比較して、余震のハザード又は建屋・構造物及び機器・配管系の損傷に対する影響が無視できない場合、本震と余震の地震動を連続して受けた場合の事故シナリオを分析して炉心損傷度を評価する必要がある。	除外(今後の課題)
経年変化事象を考慮した場合の炉心損傷への影響	予防保全等で設計想定以上の劣化が予測された場合は補修や交換がなされる。(別紙3.2.1.a-3)	除外	経年変化事象を考慮した場合の炉心損傷への影響	予防保全等で設計想定以上の劣化が予測された場合は補修や交換がなされる。(別紙3.2.1.a-3)	除外	経年変化に係る事故シナリオ	分析	スクリーニング結果
④経年変化に係る事故シナリオ			④経年変化に係る事故シナリオ			④経年変化に係る事故シナリオ		
事故シナリオ			事故シナリオ			事故シナリオ		

泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について

別添3. レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震PRA

大飯発電所3／4号炉		女川原子力発電所2号炉		泊発電所3号炉		相違理由
区分	起因事象グループ	地震により発生する起因事象の検討結果 (1/3)		地震により発生する起因事象の検討結果 (1/2)		
内部事象 PRA でグループ化した起因事象	非隔離事象	地震により本事象の発生は考えられるが、同時に発生し、より広範囲に影響する 外部電源喪失に包絡される。	(○)	評価対象 ○：対象 ×：対象外	評価対象 ○：対象 ×：対象外	【大飯】 ■記載方針の相違 ・女川の実績反映
	隔離事象	同上	(○)	同上	(○)	・内部事象 PRA で選定した起因事象の地震 PRA における扱い及び地震 PRA 特有の起因事象の説明を記載している
	全給水喪失	同上	(○)	同上	(○)	【女川】 ■炉型の相違 ・炉型が異なるため、抽出される起因事象が異なる。ただし、女川、泊ともに地震時特有の要因による分析を踏まえて起因事象を抽出している。なお、泊は先行の PWR と同様の起因事象となっている。
	水位低下事象	同上	(○)	同上	(○)	
	RPS誤動作等	同上	(○)	同上	(○)	
	外部電源喪失	地震による外部電源設備の損傷により外部電源喪失が発生する。	(○)	同上	(○)	
	S/R弁誤開放	地震による外部電源喪失発生後の S/R 弁再開損失の事故シナリオに包絡される。	(○)	同上	(○)	
	小破断LOCA	地震により本事象の発生は考えられるが、同時に発生し、より事象進展の厳しい ECCS 容量を超える LOCA (E-LOCA) に包絡される。	(○)	同上	(○)	
	中破断LOCA	同上	(○)	同上	(○)	
	大破断LOCA	同上	(○)	同上	(○)	
※(○)は評価対象とした起因事象に包絡されることを示す。						

## 泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について

別添3. レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震PRA

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																				
	<table border="1"> <caption>第3.2.1-a-3表 地震により発生する起因事象の検討結果 (2/3)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th><th>起因事象グループ</th><th>地震 PRAにおける検討結果</th><th>評価対象</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">内部事象 PRA でグループ化した起因事象</td><td>交流電源故障・原子炉補機冷却系故障</td><td>内部事象 PRA で評価する。片系統機能喪失時の手動停止を起因とする事象は考慮していない。</td><td>○：対象 ×：対象外</td></tr> <tr> <td>直流電源故障</td><td>同上</td><td>×</td></tr> <tr> <td>タービン・サポート系故障</td><td>地震により本事象の発生は考えられるが、同時に発生するより広範囲に影響する外部電源喪失に包絡される。</td><td>×</td></tr> <tr> <td>通常停止</td><td>地震発生時に本事象が発生する可能性はない。</td><td>(○)</td></tr> <tr> <td colspan="2">地震 PRA 特有の起因事象</td><td>原子炉建屋損傷 格納容器損傷 圧力容器損傷</td><td>地震による原子炉建屋、原子炉圧力容器又は原子炉格納容器の損傷に伴い、大規模な LOCA 及び広範囲の建屋設備の機能喪失が発生する。</td></tr> </tbody> </table> <p>※(○)は評価対象とした起因事象に包絡されることを示す。</p>	区分	起因事象グループ	地震 PRAにおける検討結果	評価対象	内部事象 PRA でグループ化した起因事象	交流電源故障・原子炉補機冷却系故障	内部事象 PRA で評価する。片系統機能喪失時の手動停止を起因とする事象は考慮していない。	○：対象 ×：対象外	直流電源故障	同上	×	タービン・サポート系故障	地震により本事象の発生は考えられるが、同時に発生するより広範囲に影響する外部電源喪失に包絡される。	×	通常停止	地震発生時に本事象が発生する可能性はない。	(○)	地震 PRA 特有の起因事象		原子炉建屋損傷 格納容器損傷 圧力容器損傷	地震による原子炉建屋、原子炉圧力容器又は原子炉格納容器の損傷に伴い、大規模な LOCA 及び広範囲の建屋設備の機能喪失が発生する。	<p>【大飯】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■記載方針の相違             <ul style="list-style-type: none"> <li>・女川の実績反映</li> <li>・内部事象 PRA で選定した起因事象の地震 PRA における扱い及び地震 PRA 特有の起因事象の説明を記載している</li> </ul> </li> </ul> <p>【女川】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■炉型の相違             <ul style="list-style-type: none"> <li>・炉型が異なるため、抽出される起因事象が異なる。ただし、女川、泊ともに地震時特有の要因による分析を踏まえて起因事象を抽出している。なお、泊は先行の PWR と同様の起因事象となっている。</li> </ul> </li> </ul>
区分	起因事象グループ	地震 PRAにおける検討結果	評価対象																				
内部事象 PRA でグループ化した起因事象	交流電源故障・原子炉補機冷却系故障	内部事象 PRA で評価する。片系統機能喪失時の手動停止を起因とする事象は考慮していない。	○：対象 ×：対象外																				
	直流電源故障	同上	×																				
	タービン・サポート系故障	地震により本事象の発生は考えられるが、同時に発生するより広範囲に影響する外部電源喪失に包絡される。	×																				
	通常停止	地震発生時に本事象が発生する可能性はない。	(○)																				
地震 PRA 特有の起因事象		原子炉建屋損傷 格納容器損傷 圧力容器損傷	地震による原子炉建屋、原子炉圧力容器又は原子炉格納容器の損傷に伴い、大規模な LOCA 及び広範囲の建屋設備の機能喪失が発生する。																				

## 泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について  
 別添3. レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震PRA

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
第3.2.1-a-3表 地震により発生する起因事象の検討結果 (3/3)			
区分	起因事象グループ	地震PRAにおける検討結果	評価対象
E-LOCA	地震による格納容器内配管の複数本破断が発生し、ECCS 容量を超える冷却材喪失が発生する。	地震PRAにおける検討結果 ○：対象 ×：対象外	○ ●：対象外
制御盤屋損傷	地震による制御盤屋の損傷に伴い、堆積内の直流水源及び中央制御盤が喪失する。	○	○
計測・制御系喪失	地震による計測機器及び中央制御盤が損傷し、計測・制御系が喪失する。	○	○
格納容器バイパス	地震により原子炉冷却剂圧力バウンダリの隔離弁及び格納容器外配管が損傷し、格納容器バイパスが発生する。	○	○
交流電源・原子炉冷却機冷却系喪失	地震起因又はランダム要因により交流電源又は原子炉冷却機冷却系が喪失する。ただし、同一系統内の冗長設備は完全相間を仮定した。	○	○
直流電源喪失	地震起因又はランダム要因により直流電源設備が機能喪失し、直流電源が喪失する。ただし、同一系統内の冗長設備は完全相間を仮定した。	○	○

## 泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について

別添3 レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震PRA

第1.2.1-a-3表 建屋・機器選定のステップ(1/2)

ステップ	内容 (内部事象出力時レベル1 PRA)		
	機器	建屋	屋外重要土木構築物
1-1	・ランダム事象をきっかけとして炉心損傷に至る起因事象を選定。	—	—
1-2	・各起因事象について、事象の影響緩和に必要な機能を抽出し、イベンツリーを作成して、収束シナリオを特定。	—	—
1-3	・系統図等を基に炉心損傷頻度を評価する上で有意な影響が考えられない機器を除外。 【考え方】：炉心損傷頻度を評価する上で有意な影響がないこと 【対象】：小口径技管の配管、弁等	—	—
1-4	・フォールトツリーを作成して関連する設備を抽出し、機器リストを作成	—	—

大飯発電所3／4号炉

女川原子力発電所2号炉

泊発電所3号炉

相違理由

【女川】

- 記載方針の相違
  - ・記載充実のため、泊はフライギリティの評価対象の選定ステップを記載しており、女川に記載がないため大飯と比較する

第3.2.1-a-4表 建屋・機器選定のステップ(1/2)

ステップ	内容 (内部事象出力時レベル1 PRA)		
	機器	建屋	屋外重要土木構築物
1-1	・ランダム故障をきっかけとして炉心損傷に至る起因事象を選定。 ・各起因事象について、事象の影響緩和に必要な機能を抽出し、イベンツリーを作成して、収束シナリオを特定。	—	—
1-2	・系統図等を基に炉心損傷頻度を評価する上で有意な影響が考えられない機器を除外。	—	—
1-3	【考え方】：炉心損傷頻度を評価する上で有意な影響がないこと 【対象】：小口径技管の配管、弁等	—	—
1-4	・フォールトツリーを作成して関連する設備を抽出し、機器リストを作成。	—	—

泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について

別添3. レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震PRA

ステップ	機器	内部事象出力時レベル1 PRAの結果に以下の追加を検討 ・地震で損傷した際に起因事象を発生させる機器／建屋／土木構造物	建屋	屋外重要土木構造物	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由
2-1		【考え方】：①地盤動による安全上重要な建物、構造物、配管等の大形静的機器の損傷に伴い、緩和設備によって事象の進展を抑制できず、がん棒駆動装置を含む機器／建屋／土木構造物を追加 ②地盤動による安全機能への直面的な影響を及ぼす計画・制御系、非常用系を追加 【対象】：①海水取水ライン構造物を追加 ②追加なし					■大飯 ■記載表現の相違 ・設備名称の相違はあるものの、選定の考え方には相違はない
2-2		【考え方】：原子炉容器、炉内構造物、燃料／対象：①原子炉建屋、制御建屋等を追加 ②電気盤（メタルクラフトスイッチギア、②追加なし 内筒事象出力時レベル1 PRAの結果から以下の削除を検討 ・起因事象発生後に事象を緩和させる機器／建屋／土木構造物 【対象】：タービンハイパス弁等を削除 【対象】：削除なし					■女川 ■記載方針の相違 ・記載充実のため、泊はフジリティの評価対象の選定ステップを記載しており、女川に記載がないため大飯と比較する
2-3		【考え方】：地盤PSA学会標準及び過去に実施した当社のプラントウォークダウン実験を基に、重要事故シーケンス選定に当たって確認が必要な機器を抽出し、以下の観点から影響機器の有無を確認 ・倒壊により遮断を受けない方 ・周辺機器の損傷時、周辺機器の保有水による影響はない方、等 【対象】：追加なし 【対象】：追加なし					

  

ステップ	機器	内部事象出力時レベル1 PRAの結果に以下の追加を検討 ・地震で損傷した際に起因事象を発生させる機器／建屋／屋外重要土木構造物	建屋	屋外重要土木構造物	泊発電所3号炉	相違理由
2-1		【考え方】：①地盤動による安全上重要な建物、構造物、配管等の大形静的機器の損傷に伴い、緩和設備によって事象の進展を抑制できず、がん棒駆動装置を含む機器／建屋／屋外重要土木構造物を追加 ②地盤動による安全機能への直面的な影響を及ぼす計画・制御系、非常用系を追加 【対象】：①原子炉建屋、原了炉輔助建屋 ②電気盤（メタグラ、遮断コマンド）等を追加 内筒事象出力時レベル1 PRAの結果から以下の削除を検討 【対象】：タービンハイパス弁等を削除 【対象】：削除なし				■大飯 ■記載表現の相違 ・設備名称の相違はあるものの、選定の考え方には相違はない
2-2		【考え方】：地盤PSA学会標準及び過去に実施した当社のプラントウォークダウン実験を基に、重要事故シーケンス選定に当たって確認が必要な機器を抽出し、以下の観点から影響機器の有無を確認 ・倒壊により遮断を受けない方 ・周辺機器の損傷時、周辺機器の保有水による影響はない方、等 【対象】：追加なし 【対象】：追加なし				■女川 ■記載方針の相違 ・記載充実のため、泊はフジリティの評価対象の選定ステップを記載しており、女川に記載がないため大飯と比較する

泊発電所 3号炉 有効性評価 比較表

第37条 付録1 事故シケンスグループ及び重要事故シケンス等の選定について  
別添3. レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震PRA

**赤字**: 設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
**青字**: 記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
**緑字**: 記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第1.2.1-a<sup>4</sup>表 建屋・機器リストとフライリティデータ (1/20)

第3章 PBA評価対象性と・機器リスト(1/10)

第3.2.1.0-5 表 地震 PVA 許用対象延屋・機器リスト [1/32]

第3.2.1-a-5表 地震門A平面対象部品・機器リスト [1/32]					
起因事象/ 影響範囲/箇所	機器名簿	括弧文字	技術面積	中央研 (G)	BLI/PF (U)
CV-A/バス	蒸気发生器内油槽造物	構造組合	6.熱炉 (6m <sup>2</sup> )	2.37	0.90
原子炉冷却水循環系	原子炉建屋	構造機器	-	2.54	1.05
Excess+LOCA	原子炉容器	構造機器	ササードシユ(1室)	0.35	0.06
Excess+LOCA	一次冷却材管	構造組合	ボトルレグ	1.79	0.39
Excess+LOCA	1次冷却母管	構造組合	アラケット(1室) (R/C-2)	2.25	0.94
Excess+LOCA	射出成型引出管	構造機器	コントロリチューブ	0.27	0.37
Excess+LOCA	射出成型吸込管	構造機器	射出成型物射出側止塞	2.10	0.31
原子炉冷却水循環系	原子炉冷却水系器	構造組合	リシングデータド端部 (L.R.)	0.25	0.91
Excess+LOCA	無公害生器本体	構造組合	冷却材入口管台	0.39	1.44
原子炉冷却水循環系	原子炉冷却水循環系	構造機器	-	3.11	1.00

泊発電所3号炉

### 相違理由

【女川】【大飯】

- 個別評価による相違
  - ・プラントにより地盤 PR 考慮する建屋、屋外重要構造物及び機器が異なり、評価対象部位や参照する評価結果も異なるため、ジリティの評価結果も異なる

泊発電所 3号炉 有効性評価 比較表

### 第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について

### 別添 3. レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震 PRA

**赤字**: 設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
**青字**: 記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
**緑字**: 記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

泊発電所 3号炉 有効性評価 比較表

第37条 付録1 事故シケンスグループ及び重要事故シケンス等の選定について  
別添3. レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震PRA

**赤字**: 設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
**青字**: 記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
**緑字**: 記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第 1.2.1-a-4 表 建屋・機器リストとフライリティデータ (3/20)

第3,2,1-a-1表 地震PRA評価対象建屋・機器リスト(3/10)

卷3-2 | 1-5表 地震PRA評価と危機管理：機器リスト | (3/32)

第3.2.1.a-5表 地震 PRA 評価対象建屋・機器リスト (3/32)

記号対象/ 影響核と関連	機器名稱	相場モード	評価部位	沿 1 号筋		
				中央値 (G)	$\beta_r$	HCPF (G)
				$\beta_s$	$\beta_r$	$\beta_s$
被爆の信号系相場	原子炉安全保護盤	機能相場	-	0.22	0.27	1.78
				0.27	0.27	20.41
被爆の信号系相場	構造相場	基準点ルート	0.19	0.19	10.69	0.21
				1.10	1.10	1.10
1 次系統相場による 2 次系 隔熱機能喪失	事内構造物	構造相場	制御伴クラスター案内部	0.25	0.27	7.39
				0.27	1.60	0.65
1 次系統相場による 2 次系 隔熱機能喪失	引心支柱構造物	構造相場	ドロップ心支柱板 【隔熱のため】	0.25	0.31	2.44
				0.25	0.19	1.08
被爆の信号系相場	ケーブルトレイ	構造相場	-	0.31	2.01	1.67
				0.31	0.14	0.25
被爆の信号系相場	ソレノイド分電盤	構造相場	取付点ルート	12.24	12.24	28.33
				0.09	0.17	0.17
被爆の信号系相場	構造相場	機能相場	-	8.51	8.51	4.97
				0.11	0.23	0.23
被爆の信号系相場	機能相場	機能相場	操作点ルート	8.80	8.80	5.90
				0.09	0.09	0.09

泊発電所 3号炉

## 川原子力発電所 2号炉

大飯発電所3／4号炉

### 相違理由

【女川】【大飯】

- 個別評価による相違
  - ・プラントにより地震PP考慮する建屋、屋外重要構造物及び機器が異なり評価対象部位や参照する評価結果も異なるため、ジリティの評価結果もある

泊発電所 3号炉 有効性評価 比較表

### 第37条 付録1 事故シケンスグループ及び重要事故シケンス等の選定について 別添3. レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震PRA

**赤字**: 設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
**青字**: 記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
**緑字**: 記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第1.2.1.a'4 表 建屋・機器リストとフライリティデータ (4/20)

本件のみの範囲は機密に係る事項で十分で公開することはできません。

第3, 2, 1, a-1 表 地震 PRA 評価対象建屋・機器リスト (4/10)

第三章 地理學的發展 · 1/33

第3.2.1.6-2 矢量地図用PLA評価対象並列・複数リスト(4/32)

記号対象/ 評価基準	機器名稱	機能モード	評価指標	判定結果(C) $\beta_r$	BULLP (G) $\beta_s$
複数の印字系組合	ATPS (対流設備(気道遮断装置)付複数印字) (目標高防護層)(CVR)	複数印字	-	0.14 0.51	4.67
複数の印字系組合	ATPS (対流設備(気道遮断装置)付複数印字) (目標高防護層)(CVR)	複数印字	操作表示ト	0.25 0.50	5.90
複数の印字系組合	ATPS (対流設備(気道遮断装置)付複数印字) (目標高防護層)(CVR)	複数印字	操作表示ト	0.09 0.17	1.17
複数の印字系組合	安全系マルチフレクサ	複数印字	-	0.22 0.39	1.38
複数の印字系組合	安全系マルチフレクサ	複数印字	操作表示ト	0.27 0.41	10.49
複数の印字系組合	安全系マルチフレクサ	複数印字	-	0.19 0.21	0.69
複数の印字系組合	安全系マルチフレクサ	複数印字	操作表示ト	0.22 0.39	1.38
複数の印字系組合	ATPS (複数印字装置付複数印字) (目標高防護層)(CVR)	複数印字	-	0.27 0.41	10.49
複数の印字系組合	ATPS (複数印字装置付複数印字) (目標高防護層)(CVR)	複数印字	操作表示ト	0.19 0.21	0.69
複数の印字系組合	ATPS (複数印字装置付複数印字) (目標高防護層)(CVR)	複数印字	-	0.26 0.26	5.63
複数の印字系組合	ATPS (複数印字装置付複数印字) (目標高防護層)(CVR)	複数印字	操作表示ト	0.21 0.21	12.21
複数の印字系組合	ATPS (複数印字装置付複数印字) (目標高防護層)(CVR)	複数印字	操作表示ト	0.39 0.47	28.33
複数の印字系組合	ATPS (複数印字装置付複数印字) (目標高防護層)(CVR)	複数印字	-	0.20 0.20	2.31
複数の印字系組合	ATPS (複数印字装置付複数印字) (目標高防護層)(CVR)	複数印字	操作表示ト	0.23 0.24	12.24

泊発電所3号炉

### 相違理由

【女川】【大飯】

- 個別評価による相違
  - ・プラントにより地震に対する建屋、屋外重要構造物及び機器が異なるため評価対象部位や参照する評価結果も異なるためジリティの評価結果もある

泊発電所 3号炉 有効性評価 比較表

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について  
別添3. レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震PRA

**赤字**: 設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
**青字**: 記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
**緑字**: 記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第1章 第1.2.1.a-4 表 建屋・機器リストとフランジリティデータ (5/20)

第3-2-1-a-1表 地震 PBA 評価 対象部屋・機器リスト | [5/19]

第3.2.1-a-4 表 地震 PRA 評価 対象建屋・機器リスト [5/10]

起因事象／ 影響対象機器	機器名稱 名：(内)代用計測器全名)	圖值等一覧	評級別	全(1)2号炉	
				中壇機(G)	HTR(G)
交流電源消失	原子炉遮離治羽ホース熱交換器	構造損傷	構造	—	—
交流電源消失	原子炉遮離治羽ホースシガラム	構造損傷	構造	—	—
交流電源消失	原子炉遮離治羽ホースシグネル	構造損傷	構造	—	—
交流電源消失	原子炉遮離治羽ホース平行	構造損傷	構造	—	—
交流電源消失	原子炉遮離治羽ホース直角	構造損傷	サボル・本体	—	—
交流電源消失	DCS ボード(実用機器) DCS ボード(冗余機器)	構造損傷	輸受部	—	—
交流電源消失	原子炉遮離治羽ホースシグネル	構造損傷	サボル・本体	—	—
交流電源消失	原子炉遮離治羽ホースシグネル	構造損傷	構造	—	—
交流電源消失	原子炉遮離治羽ホース直角	構造損傷	構造	—	—
交流電源消失	原子炉遮離治羽ホースシグネル	構造損傷	サボル・本体	—	—
交流電源消失	供給熱源治羽ホース熱交換器	構造損傷	サボル・本体	—	—
交流電源消失	原子炉遮離治羽ホース直角	構造損傷	構造	—	—

3.2.1.3-5 地震 PHA 対象建築・機器リスト (5/32)

第3.2.1.a-2 電算 PIA 対応実績・機器リスト (5/32)					
記述事象／経験範囲	機器名稱	機能モード	評価部位	専任者 (G)	ICU/P (E)
被災の発行系機器	電上台	電源切換	—	$\beta_s$ 2.83	1.18
被災の信号系機器	電上台	警報回路	—	0.27 0.26	—
地震 AT+切替回路不燃	燃料集合体	製造回路	燃料保管室 安全制御	1.93 0.19	0.94
地震 AT+切替回路不燃	制御用クラスター	製造回路	開閉操作装置 (全引抜き可能)	2.03 0.19	1.24
人頭部 LUCA	一次冷却材管	製造回路	1次冷却材管加圧器サーボ管	0.23 0.21	—
大破損 LUCA	加工器	製造回路	上部冷却液物貯込金物 基底用ホルト管	0.25 0.32	0.87
大破損 LUCA	IRIR 高温回路遮ふれ管	製造回路	配管本体	0.31 0.25	1.63
人頭部 LUCA	IRIR 管サーボ管	製造回路	配管本体	0.82 0.31	—
大破損 LUCA	修正タンク注入配管 (C/L 開)	製造回路	配管本体	0.35 0.31	1.63
大破損 LUCA	AT+切替 LUCA	—	配管本体	0.25 0.21	1.63

泊発電所3号炉

女川原子力発電所 2号炉

大飯発電所3／4号炉

相違理由

【女川】【大鰐】

### ■個別評価による相違

- ・プラントにより地震 PRA で考慮する建屋、屋外重要土木構造物及び機器が異なり、評価対象部位や参照する耐震評価結果も異なるため、フレジリティの評価結果も異なる

泊発電所 3号炉 有効性評価 比較表

### 第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について

### 別添 3. レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震 PRA

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第1.2.1.a-4表 建屋・機器リストとラジリティデータ (6/20)

第3.2.1.a-4表 地震PRA評価対象建屋・機器リスト(6/10)

女川原子力発電所 2号炉

第3.2.1-a-5表 地図WKA測定装置・機器リスト(6/32)

使用場所/ 参考機器	機器名稱	機器コード	測定部位	前3号管		
				中央管(G)		BL,LP (G)
				$\beta_{\perp}$	$\beta_{\parallel}$	
小値新WKA	一次冷却材管	構造部材	6番 安全注入配管	0.36	0.25	0.67
中値新WKA	余熱除去ポンプア高圧注入配管	構造部材	配管本体	0.32	0.32	1.63
中値新WKA	SUS410L注入ポンプ高圧注入配管	構造部材	配管本体	0.31	0.35	1.63
中値新WKA	高圧注入系配管(UC1,UC1)	構造部材	配管本体	0.32	0.32	1.63
中値新WKA	失てんろうライン配管(UC1,UC1)	構造部材	配管本体	0.31	0.35	1.63
中値新WKA	加圧器フレイライナ配管	構造部材	配管本体	0.32	0.32	1.63
中値新WKA	CWS 抽出配管	構造部材	配管本体	0.32	0.32	1.63
小値新WKA	原子炉管器	構造部材	空気吹管	0.25	0.25	0.77
小値新WKA	一次冷却材管	構造部材	20# 余熱除去配管	0.35	0.35	1.66
小値新WKA	加压器	構造部材	スプレーライン用管	0.25	0.25	0.97

泊発電所 3号炉

### 相違理由

【女川】【大飯】

- 個別評価による相違  
・プラントにより地震に対する考慮する建屋、屋外重要な構造物及び機器が異なる  
・評価対象部位や参照する基準も異なるため、評価結果も異なるため、  
・ジリティの評価結果も異なる

泊発電所 3号炉 有効性評価 比較表

### 第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について 別添 3. レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震 PRA

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第1.2.1-a-4表 建屋・機器リストとフライリティデータ(7/20)

第3章 地震 PRA 計画対象建屋・機器リスト (7/10)

第3.2.1.a-4 表 地震 PHA 評価対象建屋・機器リスト (7/10)					
基準事象／影響物種別	構造名	構造番号	構造部材	評価指標	
				評価指標	評価指標
RCF/C	男子が床面から持てたる所持管	構造指標	底盤本体		
RCF/C	男子が床面から持てたる所持管	構造指標	中芯→トボ体		
RCF/C	保木畠水道本体	構造指標	中芯→トボ体		
HPS	高圧ポンプアダプタ(シングル) (電動)	構造指標	輸受部	3.39	2.02
HPS	高圧ポンプアダプタ(電動)	構造指標	底盤本体	0.13	1.72
HPS	高圧ポンプアダプタ(底盤管)	構造指標	中芯→トボ体	0.13	1.58
HPS	高圧ポンプアダプタ(各室)	構造指標	軸部	0.13	1.20
HPS	HPSサシングル空気潤滑	構造指標	輸受部	0.13	2.70
HPS	HPSサシングル空気潤滑ダクト	構造指標	中芯→トボ体	0.13	1.53
HPS	HPS系アダプタ(各室)	構造指標	回転重心位置	0.13	1.19
HPS	HPS系アダプタ(免震塊)	構造指標	輸受部	0.13	1.25
HPS	燃科移設出力ブレ	構造指標	輸受部	0.13	2.24

女川原子力発電所 2号炉

泊発電所3号炉

相違理由

【女川】【大飯】

- ・個別評価による相違
- ・プラントにより地震 PRA 考慮する建屋、屋外重要土構造物及び機器が異なり、評価対象部位や参照する耐震評価結果も異なるため、フジタリティの評価結果も異なる

第3章 地震動・地盤・構造物の応答(2) 7/32

第3.2.1.a-5表 地震 PBA評価対象建屋・機器リスト(7/32)

起用箇所／ 診療室と施設	機器名稱	機器モード	評価指標	直3号4F	
				中央強度 $\beta_x$	BCAP(E)
小倉所(DCA)	HCS 検査器スレーブヘッダライン配管	構造耐候	配管本体	0.34 0.35	1.75 1.75
小倉所(DCA)	扇形自動スライド窓	構造耐候	配管本体	0.31 0.35	1.75 1.75
小倉所(DCA)	扇形ガラス取付材ドレン管	構造耐候	配管本体	0.31 0.35	1.75 1.75
小倉所(DCA)	SS タンクアル冷却塔吸入配管	構造耐候	配管本体	0.31 0.35	1.75 1.75
小倉所(DCA)	余剰雨山冷却塔上ライン配管	構造耐候	配管本体	0.31 0.35	1.75 1.75
小倉所(DCA)	PE 頭部ヘッドライン配管	構造耐候	配管本体	0.31 0.34	1.75 1.75
小倉所(DCA)	加圧器安全弁配管	構造耐候	配管本体	0.31 0.35	1.75 1.75
小倉所(DCA)	加圧器漏れガッシュ配管	構造耐候	配管本体	0.31 0.35	1.75 1.75
小倉所(DCA)	扇形安全弁(安全弁38~40℃- 635, 695, 657)	構造耐候	-	-	-
小倉所(DCA)	加圧器漏れ弁(安全弁38~40℃- 635, 695, 657)	構造耐候	-	-	-
小倉所(DCA)	扇形安全弁	構造耐候	-	-	-

37 条 付録 1-別添 3-3.2-3.2.1-93

泊発電所 3号炉 有効性評価 比較表

### 第37条 付録1 事故シケンスグループ及び重要事故シケンス等の選定について 別添3. レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震PRA

**赤字**: 設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
**青字**: 記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
**緑字**: 記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第 1.2.1.a-4 表 建屋・機器リストとフュリティデータ (8/20)

第3.2.1.a-4 表 地震 PRA 評価対象建屋・機器リスト (8/10)

第3.2.1.a-5表 地震PRA評価対象建屋・機器リスト (8/32)

第6.2.1.a-5 長 地盤 PIA 評価対象建屋・機器リスト (S/32)		消3号が HCLW(G)	
起因事象／ 影響度と関係	機器名称	評価部位	
		中央筋(6) $\bar{g}$	外筋(4) $\bar{g}_1$
2次系鏡断	蒸気発生器	構造軸係 給水入口管台	2.06 0.19
2次系鏡断	主蒸気ライン配管	構造軸係 配管本体	3.37 0.27
2次系鏡断	3 A, B, C - 主蒸気遮蔽弁室 気体動作弁 3610, 3620, 3630	構造軸係 -	0.27 -
2次系鏡断	主蒸気弁室(安全弁 33-MS- 521A, B) [~225, R, C]	構造軸係 -	-
2次系鏡断	3-タービン動輪駆動大ボンブ駆動 蒸気入口ケル, B1(電動油 31-16- 382A, B)	構造軸係 -	-
2次系鏡断	3 A, B, C - 主蒸気遮蔽弁 3V- 528A, B, C	構造軸係 -	-
外部電源系	外部電源系	工学的判断 -	0.30 0.25 0.30
123V AC 電源	直流コントロールセンタ	機械軸係 -	2.18 0.22 0.27
123V AC 電源	給排水装置	機械軸係 -	3.37 0.19

泊発電所3号炉

女川原子力発電所 2号炉

大飯発電所3／4号炉

### 相違理由

【女川】【大飯】

- 個別評価による相違
  - ・プラントにより地震PRAを考慮する建屋、屋外重要土構造物及び機器が異なり、評価対象部位や参照する耐震評価結果も異なるため、フジタリティの評価結果も異なる

泊発電所 3号炉 有効性評価 比較表

**赤字**：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
**青字**：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
**緑字**：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

### 第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について

### 別添 3. レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震PRA

大飯発電所3／4号炉

女川原子力発電所2号炉

泊発電所3号炉

第3.2.1.4-5段 地震 PMA計測対象種別・機器)又下(9/32)

起止事象/指掌源和機能	機器名称	基点ID-レコード	測定部位	中央値(G)		測定時間(G)
				$\beta_1$	$\beta_2$	
125V AC 電源	補助電源取扱説明書	-	-	0.14	1.67	
125V AC 送風	排送風機	吸引ホースト	-	0.23	25.31	
125V DC 電源	排送風機	吸引ホースト	0.60	0.17	16.99	
125V DC 過濾器(バッテリ)	構造部品	基礎地盤面	2.59	0.17	1.38	
6.6kV 非常用電源	蓄電池	-	-	0.23	4.22	
6.6kV 非常用電源	6.6kV メータクラ	構造部品	-	0.22	0.27	
6.6kV 非常用電源	6.6kV メータクラ	構造部品	0.25	0.25	3.79	
6.6kV 非常用電源	6.6kV 非常用電源	構造部品	0.21	0.21	1.61	
6.6kV 非常用電源	ディーゼル発電機	機油箱	-	0.33	0.33	
6.6kV 非常用電源	ディーゼル発電機	構造部品	0.17	0.17	2.32	
6.6kV 非常用電源	6.6kV 非常用電源	機油箱	-	0.13	0.97	
6.6kV 非常用電源	内燃機関(ディーゼル発電機)	機油箱	-	0.39	6.89	
6.6kV 非常用電源	内燃機関(ディーゼル発電機)	燃焼部品	-	0.08	0.17	
6.6kV 非常用電源	DC 電源配電盤	機油箱	-	0.31	5.18	
6.6kV 非常用電源	DC 電源配電盤	配管本体	-	0.31	1.85	

### 相違理由

- 個別評価による相違
  - ・プラントにより地震 PRA で考慮する建屋、屋外重要土木構造物及び機器が異なり、評価対象部位や参照する耐震評価結果も異なるため、フランジティの評価結果も異なる

泊発電所 3号炉 有効性評価 比較表

### 第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について 別添 3. レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震 PRA

**赤字**: 設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
**青字**: 記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
**緑字**: 記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第1.2.1.a-4 表 建屋・機器リストとフライリティデータ (10/20)

第3.2.1-a-4表 地盤PRA評価対象建屋・機器リスト(10/10)

第3.2.1-a-1表 地盤PVA 評価対象地図・機器リスト(10/10)						
起因事象／影響範囲地図	機器名	※( )内代表評価機器名を示す	損傷セイ一	評価指標	各月分合計	
					中央値(C)	HLL(G)
漏王	主燃費過少し安生自動風圧機用アキュミレータ		陳述指標	ラグ	0.10 0.20	2.30
漏王	主燃費過少し安生新		陳述指標	短動量	0.08 0.10	0.81
IPVS	長江川心スリット系ボンブ(電動機)		陳述指標	純度差	0.20 0.30	2.02
IPVS	長江川心スリット系瓦斯管		陳述指標	半径一[本体]	0.06 0.10	0.04
IPVS	長江川心スリット系瓦斯管		陳述指標	短動量	0.10 0.20	0.92
IPVS	IPVSボンブ電空制御		陳述指標	純度差	0.10 0.15	2.70
IPVS	IPVSボンブ電空制御ダクト[本体]		陳述指標	半径一[本体]	0.04 0.10	1.63
IPCT, BUR	電空制御ホース系シップ(電動機)		陳述指標	純度差	0.30 0.30	2.02
IPCT, BUR	電空制御ホース系シップ(電動機)		陳述指標	無害性	0.12 0.20	1.89
IPCT, BUR	電空制御ホース系シップ(電動機)		陳述指標	純度差	0.10 0.15	1.60
IPCT, BUR	BBBボンブ電空制御(電動機)		陳述指標	純度差	0.14 0.15	2.95

女川原子力発電所 2号炉

泊発電所3号炉

相違理由

第321-4-5卷 地震 PIA 航行想像詩：機器リズム (10/32)

【女川】【大鰐】

- 個別評価による相違
  - ・プラントにより地盤 PRA を考慮する建屋、屋外重要土木構造物及び機器が異なり、評価対象部位や参照する耐震評価結果も異なるため、フレジリティの評価結果も異なる

泊発電所 3号炉 有効性評価 比較表

### 第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について

### 別添 3. レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震PRA

**赤字**: 設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
**青字**: 記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
**緑字**: 記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

泊発電所 3号炉 有効性評価 比較表

### 第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について

### 別添 3. レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震PRA

**赤字**: 設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
**青字**: 記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
**緑字**: 記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

泊発電所 3号炉 有効性評価 比較表

### 第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について 別添3. レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震 PRA

**赤字**: 設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
**青字**: 記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
**緑字**: 記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

泊発電所 3号炉 有効性評価 比較表

**第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について**  
**別添3 レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震 PRA**

**赤字**: 設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
**青字**: 記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
**緑字**: 記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

泊発電所 3号炉 有効性評価 比較表

**第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について**  
**別添3 レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震 PRA**

**赤字**: 設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
**青字**: 記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
**緑字**: 記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

泊発電所 3号炉 有効性評価 比較表

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について  
別添3. レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震 PRA

**赤字**: 設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
**青字**: 記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
**緑字**: 記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

泊発電所 3号炉 有効性評価 比較表

### 第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について

### 別添 3. レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震PRA

**赤字**：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
**青字**：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
**緑字**：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

## 泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について

別添3. レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震PRA

| 大飯発電所3／4号炉   
  |      | 女川原子力発電所2号炉 | 泊発電所3号炉   
   
  | 相違理由 |    |          |    |   |  
   
   |
|---
--|------|-------------
--
--|------|----|----------|----|---
--
--|
| <table border="1"> <caption>第1.2.1.3-4表 建屋・機器リストとアラリティデータ (8/20)</caption> <thead> <tr> <th>記述番号</th> <th>建屋名</th> <th>機器番号</th> <th>評価結果</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1.1 建屋外観</td> <td>外観</td> <td>-</td>
<td>F<sub>1</sub><br/>F<sub>2</sub><br/>F<sub>3</sub><br/>F<sub>4</sub><br/>F<sub>5</sub><br/>F<sub>6</sub><br/>F<sub>7</sub><br/>F<sub>8</sub><br/>F<sub>9</sub><br/>F<sub>10</sub><br/>F<sub>11</sub><br/>F<sub>12</sub><br/>F<sub>13</sub><br/>F<sub>14</sub><br/>F<sub>15</sub><br/>F<sub>16</sub><br/>F<sub>17</sub><br/>F<sub>18</sub><br/>F<sub>19</sub><br/>F<sub>20</sub><br/>F<sub>21</sub><br/>F<sub>22</sub><br/>F<sub>23</sub><br/>F<sub>24</sub><br/>F<sub>25</sub><br/>F<sub>26</sub><br/>F<sub>27</sub><br/>F<sub>28</sub><br/>F<sub>29</sub><br/>F<sub>30</sub><br/>F<sub>31</sub><br/>F<sub>32</sub><br/>F<sub>33</sub><br/>F<sub>34</sub><br/>F<sub>35</sub><br/>F<sub>36</sub><br/>F<sub>37</sub><br/>F<sub>38</sub><br/>F<sub>39</sub><br/>F<sub>40</sub><br/>F<sub>41</sub><br/>F<sub>42</sub><br/>F<sub>43</sub><br/>F<sub>44</sub><br/>F<sub>45</sub><br/>F<sub>46</sub><br/>F<sub>47</sub><br/>F<sub>48</sub><br/>F<sub>49</sub><br/>F<sub>50</sub><br/>F<sub>51</sub><br/>F<sub>52</sub><br/>F<sub>53</sub><br/>F<sub>54</sub><br/>F<sub>55</sub><br/>F<sub>56</sub><br/>F<sub>57</sub><br/>F<sub>58</sub><br/>F<sub>59</sub><br/>F<sub>60</sub><br/>F<sub>61</sub><br/>F<sub>62</sub><br/>F<sub>63</sub><br/>F<sub>64</sub><br/>F<sub>65</sub><br/>F<sub>66</sub><br/>F<sub>67</sub><br/>F<sub>68</sub><br/>F<sub>69</sub><br/>F<sub>70</sub><br/>F<sub>71</sub><br/>F<sub>72</sub><br/>F<sub>73</sub><br/>F<sub>74</sub><br/>F<sub>75</sub><br/>F<sub>76</sub><br/>F<sub>77</sub><br/>F<sub>78</sub><br/>F<sub>79</sub><br/>F<sub>80</sub><br/>F<sub>81</sub><br/>F<sub>82</sub><br/>F<sub>83</sub><br/>F<sub>84</sub><br/>F<sub>85</sub><br/>F<sub>86</sub><br/>F<sub>87</sub><br/>F<sub>88</sub><br/>F<sub>89</sub><br/>F<sub>90</sub><br/>F<sub>91</sub><br/>F<sub>92</sub><br/>F<sub>93</sub><br/>F<sub>94</sub><br/>F<sub>95</sub><br/>F<sub>96</sub><br/>F<sub>97</sub><br/>F<sub>98</sub><br/>F<sub>99</sub><br/>F<sub>100</sub><br/>F<sub>101</sub><br/>F<sub>102</sub><br/>F<sub>103</sub><br/>F<sub>104</sub><br/>F<sub>105</sub><br/>F<sub>106</sub><br/>F<sub>107</sub><br/>F<sub>108</sub><br/>F<sub>109</sub><br/>F<sub>110</sub><br/>F<sub>111</sub><br/>F<sub>112</sub><br/>F<sub>113</sub><br/>F<sub>114</sub><br/>F<sub>115</sub><br/>F<sub>116</sub><br/>F<sub>117</sub><br/>F<sub>118</sub><br/>F<sub>119</sub><br/>F<sub>120</sub><br/>F<sub>121</sub><br/>F<sub>122</sub><br/>F<sub>123</sub><br/>F<sub>124</sub><br/>F<sub>125</sub><br/>F<sub>126</sub><br/>F<sub>127</sub><br/>F<sub>128</sub><br/>F<sub>129</sub><br/>F<sub>130</sub><br/>F<sub>131</sub><br/>F<sub>132</sub><br/>F<sub>133</sub><br/>F<sub>134</sub><br/>F<sub>135</sub><br/>F<sub>136</sub><br/>F<sub>137</sub><br/>F<sub>138</sub><br/>F<sub>139</sub><br/>F<sub>140</sub><br/>F<sub>141</sub><br/>F<sub>142</sub><br/>F<sub>143</sub><br/>F<sub>144</sub><br/>F<sub>145</sub><br/>F<sub>146</sub><br/>F<sub>147</sub><br/>F<sub>148</sub><br/>F<sub>149</sub><br/>F<sub>150</sub><br/>F<sub>151</sub><br/>F<sub>152</sub><br/>F<sub>153</sub><br/>F<sub>154</sub><br/>F<sub>155</sub><br/>F<sub>156</sub><br/>F<sub>157</sub><br/>F<sub>158</sub><br/>F<sub>159</sub><br/>F<sub>160</sub><br/>F<sub>161</sub><br/>F<sub>162</sub><br/>F<sub>163</sub><br/>F<sub>164</sub><br/>F<sub>165</sub><br/>F<sub>166</sub><br/>F<sub>167</sub><br/>F<sub>168</sub><br/>F<sub>169</sub><br/>F<sub>170</sub><br/>F<sub>171</sub><br/>F<sub>172</sub><br/>F<sub>173</sub><br/>F<sub>174</sub><br/>F<sub>175</sub><br/>F<sub>176</sub><br/>F<sub>177</sub><br/>F<sub>178</sub><br/>F<sub>179</sub><br/>F<sub>180</sub><br/>F<sub>181</sub><br/>F<sub>182</sub><br/>F<sub>183</sub><br/>F<sub>184</sub><br/>F<sub>185</sub><br/>F<sub>186</sub><br/>F<sub>187</sub><br/>F<sub>188</sub><br/>F<sub>189</sub><br/>F<sub>190</sub><br/>F<sub>191</sub><br/>F<sub>192</sub><br/>F<sub>193</sub><br/>F<sub>194</sub><br/>F<sub>195</sub><br/>F<sub>196</sub><br/>F<sub>197</sub><br/>F<sub>198</sub><br/>F<sub>199</sub><br/>F<sub>200</sub><br/>F<sub>201</sub><br/>F<sub>202</sub><br/>F<sub>203</sub><br/>F<sub>204</sub><br/>F<sub>205</sub><br/>F<sub>206</sub><br/>F<sub>207</sub><br/>F<sub>208</sub><br/>F<sub>209</sub><br/>F<sub>210</sub><br/>F<sub>211</sub><br/>F<sub>212</sub><br/>F<sub>213</sub><br/>F<sub>214</sub><br/>F<sub>215</sub><br/>F<sub>216</sub><br/>F<sub>217</sub><br/>F<sub>218</sub><br/>F<sub>219</sub><br/>F<sub>220</sub><br/>F<sub>221</sub><br/>F<sub>222</sub><br/>F<sub>223</sub><br/>F<sub>224</sub><br/>F<sub>225</sub><br/>F<sub>226</sub><br/>F<sub>227</sub><br/>F<sub>228</sub><br/>F<sub>229</sub><br/>F<sub>230</sub><br/>F<sub>231</sub><br/>F<sub>232</sub><br/>F<sub>233</sub><br/>F<sub>234</sub><br/>F<sub>235</sub><br/>F<sub>236</sub><br/>F<sub>237</sub><br/>F<sub>238</sub><br/>F<sub>239</sub><br/>F<sub>240</sub><br/>F<sub>241</sub><br/>F<sub>242</sub><br/>F<sub>243</sub><br/>F<sub>244</sub><br/>F<sub>245</sub><br/>F<sub>246</sub><br/>F<sub>247</sub><br/>F<sub>248</sub><br/>F<sub>249</sub><br/>F<sub>250</sub><br/>F<sub>251</sub><br/>F<sub>252</sub><br/>F<sub>253</sub><br/>F<sub>254</sub><br/>F<sub>255</sub><br/>F<sub>256</sub><br/>F<sub>257</sub><br/>F<sub>258</sub><br/>F<sub>259</sub><br/>F<sub>260</sub><br/>F<sub>261</sub><br/>F<sub>262</sub><br/>F<sub>263</sub><br/>F<sub>264</sub><br/>F<sub>265</sub><br/>F<sub>266</sub><br/>F<sub>267</sub><br/>F<sub>268</sub><br/>F<sub>269</sub><br/>F<sub>270</sub><br/>F<sub>271</sub><br/>F<sub>272</sub><br/>F<sub>273</sub><br/>F<sub>274</sub><br/>F<sub>275</sub><br/>F<sub>276</sub><br/>F<sub>277</sub><br/>F<sub>278</sub><br/>F<sub>279</sub><br/>F<sub>280</sub><br/>F<sub>281</sub><br/>F<sub>282</sub><br/>F<sub>283</sub><br/>F<sub>284</sub><br/>F<sub>285</sub><br/>F<sub>286</sub><br/>F<sub>287</sub><br/>F<sub>288</sub><br/>F<sub>289</sub><br/>F<sub>290</sub><br/>F<sub>291</sub><br/>F<sub>292</sub><br/>F<sub>293</sub><br/>F<sub>294</sub><br/>F<sub>295</sub><br/>F<sub>296</sub><br/>F<sub>297</sub><br/>F<sub>298</sub><br/>F<sub>299</sub><br/>F<sub>300</sub><br/>F<sub>301</sub><br/>F<sub>302</sub><br/>F<sub>303</sub><br/>F<sub>304</sub><br/>F<sub>305</sub><br/>F<sub>306</sub><br/>F<sub>307</sub><br/>F<sub>308</sub><br/>F<sub>309</sub><br/>F<sub>310</sub><br/>F<sub>311</sub><br/>F<sub>312</sub><br/>F<sub>313</sub><br/>F<sub>314</sub><br/>F<sub>315</sub><br/>F<sub>316</sub><br/>F<sub>317</sub><br/>F<sub>318</sub><br/>F<sub>319</sub><br/>F<sub>320</sub><br/>F<sub>321</sub><br/>F<sub>322</sub><br/>F<sub>323</sub><br/>F<sub>324</sub><br/>F<sub>325</sub><br/>F<sub>326</sub><br/>F<sub>327</sub><br/>F<sub>328</sub><br/>F<sub>329</sub><br/>F<sub>330</sub><br/>F<sub>331</sub><br/>F<sub>332</sub><br/>F<sub>333</sub><br/>F<sub>334</sub><br/>F<sub>335</sub><br/>F<sub>336</sub><br/>F<sub>337</sub><br/>F<sub>338</sub><br/>F<sub>339</sub><br/>F<sub>340</sub><br/>F<sub>341</sub><br/>F<sub>342</sub><br/>F<sub>343</sub><br/>F<sub>344</sub><br/>F<sub>345</sub><br/>F<sub>346</sub><br/>F<sub>347</sub><br/>F<sub>348</sub><br/>F<sub>349</sub><br/>F<sub>350</sub><br/>F<sub>351</sub><br/>F<sub>352</sub><br/>F<sub>353</sub><br/>F<sub>354</sub><br/>F<sub>355</sub><br/>F<sub>356</sub><br/>F<sub>357</sub><br/>F<sub>358</sub><br/>F<sub>359</sub><br/>F<sub>360</sub><br/>F<sub>361</sub><br/>F<sub>362</sub><br/>F<sub>363</sub><br/>F<sub>364</sub><br/>F<sub>365</sub><br/>F<sub>366</sub><br/>F<sub>367</sub><br/>F<sub>368</sub><br/>F<sub>369</sub><br/>F<sub>370</sub><br/>F<sub>371</sub><br/>F<sub>372</sub><br/>F<sub>373</sub><br/>F<sub>374</sub><br/>F<sub>375</sub><br/>F<sub>376</sub><br/>F<sub>377</sub><br/>F<sub>378</sub><br/>F<sub>379</sub><br/>F<sub>380</sub><br/>F<sub>381</sub><br/>F<sub>382</sub><br/>F<sub>383</sub><br/>F<sub>384</sub><br/>F<sub>385</sub><br/>F<sub>386</sub><br/>F<sub>387</sub><br/>F<sub>388</sub><br/>F<sub>389</sub><br/>F<sub>390</sub><br/>F<sub>391</sub><br/>F<sub>392</sub><br/>F<sub>393</sub><br/>F<sub>394</sub><br/>F<sub>395</sub><br/>F<sub>396</sub><br/>F<sub>397</sub><br/>F<sub>398</sub><br/>F<sub>399</sub><br/>F<sub>400</sub><br/>F<sub>401</sub><br/>F<sub>402</sub><br/>F<sub>403</sub><br/>F<sub>404</sub><br/>F<sub>405</sub><br/>F<sub>406</sub><br/>F<sub>407</sub><br/>F<sub>408</sub><br/>F<sub>409</sub><br/>F<sub>410</sub><br/>F<sub>411</sub><br/>F<sub>412</sub><br/>F<sub>413</sub><br/>F<sub>414</sub><br/>F<sub>415</sub><br/>F<sub>416</sub><br/>F<sub>417</sub><br/>F<sub>418</sub><br/>F<sub>419</sub><br/>F<sub>420</sub><br/>F<sub>421</sub><br/>F<sub>422</sub><br/>F<sub>423</sub><br/>F<sub>424</sub><br/>F<sub>425</sub><br/>F<sub>426</sub><br/>F<sub>427</sub><br/>F<sub>428</sub><br/>F<sub>429</sub><br/>F<sub>430</sub><br/>F<sub>431</sub><br/>F<sub>432</sub><br/>F<sub>433</sub><br/>F<sub>434</sub><br/>F<sub>435</sub><br/>F<sub>436</sub><br/>F<sub>437</sub><br/>F<sub>438</sub><br/>F<sub>439</sub><br/>F<sub>440</sub><br/>F<sub>441</sub><br/>F<sub>442</sub><br/>F<sub>443</sub><br/>F<sub>444</sub><br/>F<sub>445</sub><br/>F<sub>446</sub><br/>F<sub>447</sub><br/>F<sub>448</sub><br/>F<sub>449</sub><br/>F<sub>450</sub><br/>F<sub>451</sub><br/>F<sub>452</sub><br/>F<sub>453</sub><br/>F<sub>454</sub><br/>F<sub>455</sub><br/>F<sub>456</sub><br/>F<sub>457</sub><br/>F<sub>458</sub><br/>F<sub>459</sub><br/>F<sub>460</sub><br/>F<sub>461</sub><br/>F<sub>462</sub><br/>F<sub>463</sub><br/>F<sub>464</sub><br/>F<sub>465</sub><br/>F<sub>466</sub><br/>F<sub>467</sub><br/>F<sub>468</sub><br/>F<sub>469</sub><br/>F<sub>470</sub><br/>F<sub>471</sub><br/>F<sub>472</sub><br/>F<sub>473</sub><br/>F<sub>474</sub><br/>F<sub>475</sub><br/>F<sub>476</sub><br/>F<sub>477</sub><br/>F<sub>478</sub><br/>F<sub>479</sub><br/>F<sub>480</sub><br/>F<sub>481</sub><br/>F<sub>482</sub><br/>F<sub>483</sub><br/>F<sub>484</sub><br/>F<sub>485</sub><br/>F<sub>486</sub><br/>F<sub>487</sub><br/>F<sub>488</sub><br/>F<sub>489</sub><br/>F<sub>490</sub><br/>F<sub>491</sub><br/>F<sub>492</sub><br/>F<sub>493</sub><br/>F<sub>494</sub><br/>F<sub>495</sub><br/>F<sub>496</sub><br/>F<sub>497</sub><br/>F<sub>498</sub><br/>F<sub>499</sub><br/>F<sub>500</sub><br/>F<sub>501</sub><br/>F<sub>502</sub><br/>F<sub>503</sub><br/>F<sub>504</sub><br/>F<sub>505</sub><br/>F
<sub>506</sub><br/>F<sub>507</sub><br/>F<sub>508</sub><br/>F<sub>509</sub><br/>F<sub>510</sub><br/>F<sub>511</sub><br/>F<sub>512</sub><br/>F<sub>513</sub><br/>F<sub>514</sub><br/>F<sub>515</sub><br/>F<sub>516</sub><br/>F<sub>517</sub><br/>F<sub>518</sub><br/>F<sub>519</sub><br/>F<sub>520</sub><br/>F<sub>521</sub><br/>F<sub>522</sub><br/>F<sub>523</sub><br/>F<sub>524</sub><br/>F<sub>525</sub><br/>F<sub>526</sub><br/>F<sub>527</sub><br/>F<sub>528</sub><br/>F<sub>529</sub><br/>F<sub>530</sub><br/>F<sub>531</sub><br/>F<sub>532</sub><br/>F<sub>533</sub><br/>F<sub>534</sub><br/>F<sub>535</sub><br/>F<sub>536</sub><br/>F<sub>537</sub><br/>F<sub>538</sub><br/>F<sub>539</sub><br/>F<sub>540</sub><br/>F<sub>541</sub><br/>F<sub>542</sub><br/>F<sub>543</sub><br/>F<sub>544</sub><br/>F<sub>545</sub><br/>F<sub>546</sub><br/>F<sub>547</sub><br/>F<sub>548</sub><br/>F<sub>549</sub><br/>F<sub>550</sub><br/>F<sub>551</sub><br/>F<sub>552</sub><br/>F<sub>553</sub><br/>F<sub>554</sub><br/>F<sub>555</sub><br/>F<sub>556</sub><br/>F<sub>557</sub><br/>F<sub>558</sub><br/>F<sub>559</sub><br/>F<sub>560</sub><br/>F<sub>561</sub><br/>F<sub>562</sub><br/>F<sub>563</sub><br/>F<sub>564</sub><br/>F<sub>565</sub><br/>F<sub>566</sub><br/>F<sub>567</sub><br/>F<sub>568</sub><br/>F<sub>569</sub><br/>F<sub>570</sub><br/>F<sub>571</sub><br/>F<sub>572</sub><br/>F<sub>573</sub><br/>F<sub>574</sub><br/>F<sub>575</sub><br/>F<sub>576</sub><br/>F<sub>577</sub><br/>F<sub>578</sub><br/>F<sub>579</sub><br/>F<sub>580</sub><br/>F<sub>581</sub><br/>F<sub>582</sub><br/>F<sub>583</sub><br/>F<sub>584</sub><br/>F<sub>585</sub><br/>F<sub>586</sub><br/>F<sub>587</sub><br/>F<sub>588</sub><br/>F<sub>589</sub><br/>F<sub>590</sub><br/>F<sub>591</sub><br/>F<sub>592</sub><br/>F<sub>593</sub><br/>F<sub>594</sub><br/>F<sub>595</sub><br/>F<sub>596</sub><br/>F<sub>597</sub><br/>F<sub>598</sub><br/>F<sub>599</sub><br/>F<sub>600</sub><br/>F<sub>601</sub><br/>F<sub>602</sub><br/>F<sub>603</sub><br/>F<sub>604</sub><br/>F<sub>605</sub><br/>F<sub>606</sub><br/>F<sub>607</sub><br/>F<sub>608</sub><br/>F<sub>609</sub><br/>F<sub>610</sub><br/>F<sub>611</sub><br/>F<sub>612</sub><br/>F<sub>613</sub><br/>F<sub>614</sub><br/>F<sub>615</sub><br/>F<sub>616</sub><br/>F<sub>617</sub><br/>F<sub>618</sub><br/>F<sub>619</sub><br/>F<sub>620</sub><br/>F<sub>621</sub><br/>F<sub>622</sub><br/>F<sub>623</sub><br/>F<sub>624</sub><br/>F<sub>625</sub><br/>F<sub>626</sub><br/>F<sub>627</sub><br/>F<sub>628</sub><br/>F<sub>629</sub><br/>F<sub>630</sub><br/>F<sub>631</sub><br/>F<sub>632</sub><br/>F<sub>633</sub><br/>F<sub>634</sub><br/>F<sub>635</sub><br/>F<sub>636</sub><br/>F<sub>637</sub><br/>F<sub>638</sub><br/>F<sub>639</sub><br/>F<sub>640</sub><br/>F<sub>641</sub><br/>F<sub>642</sub><br/>F<sub>643</sub><br/>F<sub>644</sub><br/>F<sub>645</sub><br/>F<sub>646</sub><br/>F<sub>647</sub><br/>F<sub>648</sub><br/>F<sub>649</sub><br/>F<sub>650</sub><br/>F<sub>651</sub><br/>F<sub>652</sub><br/>F<sub>653</sub><br/>F<sub>654</sub><br/>F<sub>655</sub><br/>F<sub>656</sub><br/>F<sub>657</sub><br/>F<sub>658</sub><br/>F<sub>659</sub><br/>F<sub>660</sub><br/>F<sub>661</sub><br/>F<sub>662</sub><br/>F<sub>663</sub><br/>F<sub>664</sub><br/>F<sub>665</sub><br/>F<sub>666</sub><br/>F<sub>667</sub><br/>F<sub>668</sub><br/>F<sub>669</sub><br/>F<sub>670</sub><br/>F<sub>671</sub><br/>F<sub>672</sub><br/>F<sub>673</sub><br/>F<sub>674</sub><br/>F<sub>675</sub><br/>F<sub>676</sub><br/>F<sub>677</sub><br/>F<sub>678</sub><br/>F<sub>679</sub><br/>F<sub>680</sub><br/>F<sub>681</sub><br/>F<sub>682</sub><br/>F<sub>683</sub><br/>F<sub>684</sub><br/>F<sub>685</sub><br/>F<sub>686</sub><br/>F<sub>687</sub><br/>F<sub>688</sub><br/>F<sub>689</sub><br/>F<sub>690</sub><br/>F<sub>691</sub><br/>F<sub>692</sub><br/>F<sub>693</sub><br/>F<sub>694</sub><br/>F<sub>695</sub><br/>F<sub>696</sub><br/>F<sub>697</sub><br/>F<sub>698</sub><br/>F<sub>699</sub><br/>F<sub>700</sub><br/>F<sub>701</sub><br/>F<sub>702</sub><br/>F<sub>703</sub><br/>F<sub>704</sub><br/>F<sub>705</sub><br/>F<sub>706</sub><br/>F<sub>707</sub><br/>F<sub>708</sub><br/>F<sub>709</sub><br/>F<sub>710</sub><br/>F<sub>711</sub><br/>F<sub>712</sub><br/>F<sub>713</sub><br/>F<sub>714</sub><br/>F<sub>715</sub><br/>F<sub>716</sub><br/>F<sub>717</sub><br/>F<sub>718</sub><br/>F<sub>719</sub><br/>F<sub>720</sub><br/>F<sub>721</sub><br/>F<sub>722</sub><br/>F<sub>723</sub><br/>F<sub>724</sub><br/>F<sub>725</sub><br/>F<sub>726</sub><br/>F<sub>727</sub><br/>F<sub>728</sub><br/>F<sub>729</sub><br/>F<sub>730</sub><br/>F<sub>731</sub><br/>F<sub>732</sub><br/>F<sub>733</sub><br/>F<sub>734</sub><br/>F<sub>735</sub><br/>F<sub>736</sub><br/>F<sub>737</sub><br/>F<sub>738</sub><br/>F<sub>739</sub><br/>F<sub>740</sub><br/>F<sub>741</sub><br/>F<sub>742</sub><br/>F<sub>743</sub><br/>F<sub>744</sub><br/>F<sub>745</sub><br/>F<sub>746</sub><br/>F<sub>747</sub><br/>F<sub>748</sub><br/>F<sub>749</sub><br/>F<sub>750</sub><br/>F<sub>751</sub><br/>F<sub>752</sub><br/>F<sub>753</sub><br/>F<sub>754</sub><br/>F<sub>755</sub><br/>F<sub>756</sub><br/>F<sub>757</sub><br/>F<sub>758</sub><br/>F<sub>759</sub><br/>F<sub>760</sub><br/>F<sub>761</sub><br/>F<sub>762</sub><br/>F<sub>763</sub><br/>F<sub>764</sub><br/>F<sub>765</sub><br/>F<sub>766</sub><br/>F<sub>767</sub><br/>F<sub>768</sub><br/>F<sub>769</sub><br/>F<sub>770</sub><br/>F<sub>771</sub><br/>F<sub>772</sub><br/>F<sub>773</sub><br/>F<sub>774</sub><br/>F<sub>775</sub><br/>F<sub>776</sub><br/>F<sub>777</sub><br/>F<sub>778</sub><br/>F<sub>779</sub><br/>F<sub>780</sub><br/>F<sub>781</sub><br/>F<sub>782</sub><br/>F<sub>783</sub><br/>F<sub>784</sub><br/>F<sub>785</sub><br/>F<sub>786</sub><br/>F<sub>787</sub><br/>F<sub>788</sub><br/>F<sub>789</sub><br/>F<sub>790</sub><br/>F<sub>791</sub><br/>F<sub>792</sub><br/>F<sub>793</sub><br/>F<sub>794</sub><br/>F<sub>795</sub><br/>F<sub>796</sub><br/>F<sub>797</sub><br/>F<sub>798</sub><br/>F<sub>799</sub><br/>F<sub>800</sub><br/>F<sub>801</sub><br/>F<sub>802</sub><br/>F<sub>803</sub><br/>F<sub>804</sub><br/>F<sub>805</sub><br/>F<sub>806</sub><br/>F<sub>807</sub><br/>F<sub>808</sub><br/>F<sub>809</sub><br/>F<sub>810</sub><br/>F<sub>811</sub><br/>F<sub>812</sub><br/>F<sub>813</sub><br/>F<sub>814</sub><br/>F<sub>815</sub><br/>F<sub>816</sub><br/>F<sub>817</sub><br/>F<sub>818</sub><br/>F<sub>819</sub><br/>F<sub>820</sub><br/>F<sub>821</sub><br/>F<sub>822</sub><br/>F<sub>823</sub><br/>F<sub>824</sub><br/>F<sub>825</sub><br/>F<sub>826</sub><br/>F<sub>827</sub><br/>F<sub>828</sub><br/>F<sub>829</sub><br/>F<sub>830</sub><br/>F<sub>831</sub><br/>F<sub>832</sub><br/>F<sub>833</sub><br/>F<sub>834</sub><br/>F<sub>835</sub><br/>F<sub>836</sub><br/>F<sub>837</sub><br/>F<sub>838</sub><br/>F<sub>839</sub><br/>F<sub>840</sub><br/>F<sub>841</sub><br/>F<sub>842</sub><br/>F<sub>843</sub><br/>F<sub>844</sub><br/>F<sub>845</sub><br/>F<sub>846</sub><br/>F<sub>847</sub><br/>F<sub>848</sub><br/>F<sub>849</sub><br/>F<sub>850</sub><br/>F<sub>851</sub><br/>F<sub>852</sub><br/>F<sub>853</sub><br/>F<sub>854</sub><br/>F<sub>855</sub><br/>F<sub>856</sub><br/>F<sub>857</sub><br/>F<sub>858</sub><br/>F<sub>859</sub><br/>F<sub>860</sub><br/>F<sub>861</sub><br/>F<sub>862</sub><br/>F<sub>863</sub><br/>F<sub>864</sub><br/>F<sub>865</sub><br/>F<sub>866</sub><br/>F<sub>867</sub><br/>F<sub>868</sub><br/>F<sub>869</sub><br/>F<sub>870</sub><br/>F<sub>871</sub><br/>F<sub>872</sub><br/>F<sub>873</sub><br/>F<sub>874</sub><br/>F<sub>875</sub><br/>F<sub>876</sub><br/>F<sub>877</sub><br/>F<sub>878</sub><br/>F<sub>879</sub><br/>F<sub>880</sub><br/>F<sub>881</sub><br/>F<sub>882</sub><br/>F<sub>883</sub><br/>F<sub>884</sub><br/>F<sub>885</sub><br/>F<sub>886</sub>&lt;</td></tr></tbody></table> | 記述番号 | 建屋名         | 機器番号   
   
   | 評価結果 | 備考 | 1.1 建屋外観 | 外観 | - | F <sub>1</sub><br>F <sub>2</sub><br>F <sub>3</sub><br>F <sub>4</sub><br>F <sub>5</sub><br>F <sub>6</sub><br>F <sub>7</sub><br>F <sub>8</sub><br>F <sub>9</sub><br>F <sub>10</sub><br>F <sub>11</sub><br>F <sub>12</sub><br>F <sub>13</sub><br>F <sub>14</sub><br>F <sub>15</sub><br>F <sub>16</sub><br>F <sub>17</sub><br>F <sub>18</sub><br>F <sub>19</sub><br>F <sub>20</sub><br>F <sub>21</sub><br>F <sub>22</sub><br>F <sub>23</sub><br>F <sub>24</sub><br>F <sub>25</sub><br>F <sub>26</sub><br>F <sub>27</sub><br>F <sub>28</sub><br>F <sub>29</sub><br>F <sub>30</sub><br>F <sub>31</sub><br>F <sub>32</sub><br>F <sub>33</sub><br>F <sub>34</sub><br>F <sub>35</sub><br>F <sub>36</sub><br>F <sub>37</sub><br>F <sub>38</sub><br>F <sub>39</sub><br>F <sub>40</sub><br>F <sub>41</sub><br>F <sub>42</sub><br>F <sub>43</sub><br>F <sub>44</sub><br>F <sub>45</sub><br>F <sub>46</sub><br>F <sub>47</sub><br>F <sub>48</sub><br>F <sub>49</sub><br>F <sub>50</sub><br>F <sub>51</sub><br>F <sub>52</sub><br>F <sub>53</sub><br>F <sub>54</sub><br>F <sub>55</sub><br>F <sub>56</sub><br>F <sub>57</sub><br>F <sub>58</sub><br>F <sub>59</sub><br>F <sub>60</sub><br>F <sub>61</sub><br>F <sub>62</sub><br>F <sub>63</sub><br>F <sub>64</sub><br>F <sub>65</sub><br>F <sub>66</sub><br>F <sub>67</sub><br>F <sub>68</sub><br>F <sub>69</sub><br>F <sub>70</sub><br>F <sub>71</sub><br>F <sub>72</sub><br>F <sub>73</sub><br>F <sub>74</sub><br>F <sub>75</sub><br>F <sub>76</sub><br>F <sub>77</sub><br>F <sub>78</sub><br>F <sub>79</sub><br>F <sub>80</sub><br>F <sub>81</sub><br>F <sub>82</sub><br>F <sub>83</sub><br>F <sub>84</sub><br>F <sub>85</sub><br>F <sub>86</sub><br>F <sub>87</sub><br>F <sub>88</sub><br>F <sub>89</sub><br>F <sub>90</sub><br>F <sub>91</sub><br>F <sub>92</sub><br>F <sub>93</sub><br>F <sub>94</sub><br>F <sub>95</sub><br>F <sub>96</sub><br>F <sub>97</sub><br>F <sub>98</sub><br>F <sub>99</sub><br>F <sub>100</sub><br>F <sub>101</sub><br>F <sub>102</sub><br>F <sub>103</sub><br>F <sub>104</sub><br>F <sub>105</sub><br>F <sub>106</sub><br>F <sub>107</sub><br>F <sub>108</sub><br>F <sub>109</sub><br>F <sub>110</sub><br>F <sub>111</sub><br>F <sub>112</sub><br>F <sub>113</sub><br>F <sub>114</sub><br>F <sub>115</sub><br>F <sub>116</sub><br>F <sub>117</sub><br>F <sub>118</sub><br>F <sub>119</sub><br>F <sub>120</sub><br>F <sub>121</sub><br>F <sub>122</sub><br>F <sub>123</sub><br>F <sub>124</sub><br>F <sub>125</sub><br>F <sub>126</sub><br>F <sub>127</sub><br>F <sub>128</sub><br>F <sub>129</sub><br>F <sub>130</sub><br>F <sub>131</sub><br>F <sub>132</sub><br>F <sub>133</sub><br>F <sub>134</sub><br>F <sub>135</sub><br>F <sub>136</sub><br>F <sub>137</sub><br>F <sub>138</sub><br>F <sub>139</sub><br>F <sub>140</sub><br>F <sub>141</sub><br>F <sub>142</sub><br>F <sub>143</sub><br>F <sub>144</sub><br>F <sub>145</sub><br>F <sub>146</sub><br>F <sub>147</sub><br>F <sub>148</sub><br>F <sub>149</sub><br>F <sub>150</sub><br>F <sub>151</sub><br>F <sub>152</sub><br>F <sub>153</sub><br>F <sub>154</sub><br>F <sub>155</sub><br>F <sub>156</sub><br>F <sub>157</sub><br>F <sub>158</sub><br>F <sub>159</sub><br>F <sub>160</sub><br>F <sub>161</sub><br>F <sub>162</sub><br>F <sub>163</sub><br>F <sub>164</sub><br>F <sub>165</sub><br>F <sub>166</sub><br>F <sub>167</sub><br>F <sub>168</sub><br>F <sub>169</sub><br>F <sub>170</sub><br>F <sub>171</sub><br>F <sub>172</sub><br>F <sub>173</sub><br>F <sub>174</sub><br>F <sub>175</sub><br>F <sub>176</sub><br>F <sub>177</sub><br>F <sub>178</sub><br>F <sub>179</sub><br>F <sub>180</sub><br>F <sub>181</sub><br>F <sub>182</sub><br>F <sub>183</sub><br>F <sub>184</sub><br>F <sub>185</sub><br>F <sub>186</sub><br>F <sub>187</sub><br>F <sub>188</sub><br>F <sub>189</sub><br>F <sub>190</sub><br>F <sub>191</sub><br>F <sub>192</sub><br>F <sub>193</sub><br>F <sub>194</sub><br>F <sub>195</sub><br>F <sub>196</sub><br>F <sub>197</sub><br>F <sub>198</sub><br>F <sub>199</sub><br>F <sub>200</sub><br>F <sub>201</sub><br>F <sub>202</sub><br>F <sub>203</sub><br>F <sub>204</sub><br>F <sub>205</sub><br>F <sub>206</sub><br>F <sub>207</sub><br>F <sub>208</sub><br>F <sub>209</sub><br>F <sub>210</sub><br>F <sub>211</sub><br>F <sub>212</sub><br>F <sub>213</sub><br>F <sub>214</sub><br>F <sub>215</sub><br>F <sub>216</sub><br>F <sub>217</sub><br>F <sub>218</sub><br>F <sub>219</sub><br>F <sub>220</sub><br>F <sub>221</sub><br>F <sub>222</sub><br>F <sub>223</sub><br>F <sub>224</sub><br>F <sub>225</sub><br>F <sub>226</sub><br>F <sub>227</sub><br>F <sub>228</sub><br>F <sub>229</sub><br>F <sub>230</sub><br>F <sub>231</sub><br>F <sub>232</sub><br>F <sub>233</sub><br>F <sub>234</sub><br>F <sub>235</sub><br>F <sub>236</sub><br>F <sub>237</sub><br>F <sub>238</sub><br>F <sub>239</sub><br>F
<sub>240</sub><br>F <sub>241</sub><br>F <sub>242</sub><br>F <sub>243</sub><br>F <sub>244</sub><br>F <sub>245</sub><br>F <sub>246</sub><br>F <sub>247</sub><br>F <sub>248</sub><br>F <sub>249</sub><br>F <sub>250</sub><br>F <sub>251</sub><br>F <sub>252</sub><br>F <sub>253</sub><br>F <sub>254</sub><br>F <sub>255</sub><br>F <sub>256</sub><br>F <sub>257</sub><br>F <sub>258</sub><br>F <sub>259</sub><br>F <sub>260</sub><br>F <sub>261</sub><br>F <sub>262</sub><br>F <sub>263</sub><br>F <sub>264</sub><br>F <sub>265</sub><br>F <sub>266</sub><br>F <sub>267</sub><br>F <sub>268</sub><br>F <sub>269</sub><br>F <sub>270</sub><br>F <sub>271</sub><br>F <sub>272</sub><br>F <sub>273</sub><br>F <sub>274</sub><br>F <sub>275</sub><br>F <sub>276</sub><br>F <sub>277</sub><br>F <sub>278</sub><br>F <sub>279</sub><br>F <sub>280</sub><br>F <sub>281</sub><br>F <sub>282</sub><br>F <sub>283</sub><br>F <sub>284</sub><br>F <sub>285</sub><br>F <sub>286</sub><br>F <sub>287</sub><br>F <sub>288</sub><br>F <sub>289</sub><br>F <sub>290</sub><br>F <sub>291</sub><br>F <sub>292</sub><br>F <sub>293</sub><br>F <sub>294</sub><br>F <sub>295</sub><br>F <sub>296</sub><br>F <sub>297</sub><br>F <sub>298</sub><br>F <sub>299</sub><br>F <sub>300</sub><br>F <sub>301</sub><br>F <sub>302</sub><br>F <sub>303</sub><br>F <sub>304</sub><br>F <sub>305</sub><br>F <sub>306</sub><br>F <sub>307</sub><br>F <sub>308</sub><br>F <sub>309</sub><br>F <sub>310</sub><br>F <sub>311</sub><br>F <sub>312</sub><br>F <sub>313</sub><br>F <sub>314</sub><br>F <sub>315</sub><br>F <sub>316</sub><br>F <sub>317</sub><br>F <sub>318</sub><br>F <sub>319</sub><br>F <sub>320</sub><br>F <sub>321</sub><br>F <sub>322</sub><br>F <sub>323</sub><br>F <sub>324</sub><br>F <sub>325</sub><br>F <sub>326</sub><br>F <sub>327</sub><br>F <sub>328</sub><br>F <sub>329</sub><br>F <sub>330</sub><br>F <sub>331</sub><br>F <sub>332</sub><br>F <sub>333</sub><br>F <sub>334</sub><br>F <sub>335</sub><br>F <sub>336</sub><br>F <sub>337</sub><br>F <sub>338</sub><br>F <sub>339</sub><br>F <sub>340</sub><br>F <sub>341</sub><br>F <sub>342</sub><br>F <sub>343</sub><br>F <sub>344</sub><br>F <sub>345</sub><br>F <sub>346</sub><br>F <sub>347</sub><br>F <sub>348</sub><br>F <sub>349</sub><br>F <sub>350</sub><br>F <sub>351</sub><br>F <sub>352</sub><br>F <sub>353</sub><br>F <sub>354</sub><br>F <sub>355</sub><br>F <sub>356</sub><br>F <sub>357</sub><br>F <sub>358</sub><br>F <sub>359</sub><br>F <sub>360</sub><br>F <sub>361</sub><br>F <sub>362</sub><br>F <sub>363</sub><br>F <sub>364</sub><br>F <sub>365</sub><br>F <sub>366</sub><br>F <sub>367</sub><br>F <sub>368</sub><br>F <sub>369</sub><br>F <sub>370</sub><br>F <sub>371</sub><br>F <sub>372</sub><br>F <sub>373</sub><br>F <sub>374</sub><br>F <sub>375</sub><br>F <sub>376</sub><br>F <sub>377</sub><br>F <sub>378</sub><br>F <sub>379</sub><br>F <sub>380</sub><br>F <sub>381</sub><br>F <sub>382</sub><br>F <sub>383</sub><br>F <sub>384</sub><br>F <sub>385</sub><br>F <sub>386</sub><br>F <sub>387</sub><br>F <sub>388</sub><br>F <sub>389</sub><br>F <sub>390</sub><br>F <sub>391</sub><br>F <sub>392</sub><br>F <sub>393</sub><br>F <sub>394</sub><br>F <sub>395</sub><br>F <sub>396</sub><br>F <sub>397</sub><br>F <sub>398</sub><br>F <sub>399</sub><br>F <sub>400</sub><br>F <sub>401</sub><br>F <sub>402</sub><br>F <sub>403</sub><br>F <sub>404</sub><br>F <sub>405</sub><br>F <sub>406</sub><br>F <sub>407</sub><br>F <sub>408</sub><br>F <sub>409</sub><br>F <sub>410</sub><br>F <sub>411</sub><br>F <sub>412</sub><br>F <sub>413</sub><br>F <sub>414</sub><br>F <sub>415</sub><br>F <sub>416</sub><br>F <sub>417</sub><br>F <sub>418</sub><br>F <sub>419</sub><br>F <sub>420</sub><br>F <sub>421</sub><br>F <sub>422</sub><br>F <sub>423</sub><br>F <sub>424</sub><br>F <sub>425</sub><br>F <sub>426</sub><br>F <sub>427</sub><br>F <sub>428</sub><br>F <sub>429</sub><br>F <sub>430</sub><br>F <sub>431</sub><br>F <sub>432</sub><br>F <sub>433</sub><br>F <sub>434</sub><br>F <sub>435</sub><br>F <sub>436</sub><br>F <sub>437</sub><br>F <sub>438</sub><br>F <sub>439</sub><br>F <sub>440</sub><br>F <sub>441</sub><br>F <sub>442</sub><br>F <sub>443</sub><br>F <sub>444</sub><br>F <sub>445</sub><br>F <sub>446</sub><br>F <sub>447</sub><br>F <sub>448</sub><br>F <sub>449</sub><br>F <sub>450</sub><br>F <sub>451</sub><br>F <sub>452</sub><br>F <sub>453</sub><br>F <sub>454</sub><br>F <sub>455</sub><br>F <sub>456</sub><br>F <sub>457</sub><br>F <sub>458</sub><br>F <sub>459</sub><br>F <sub>460</sub><br>F <sub>461</sub><br>F <sub>462</sub><br>F <sub>463</sub><br>F <sub>464</sub><br>F <sub>465</sub><br>F <sub>466</sub><br>F <sub>467</sub><br>F <sub>468</sub><br>F <sub>469</sub><br>F <sub>470</sub><br>F <sub>471</sub><br>F <sub>472</sub><br>F <sub>473</sub><br>F <sub>474</sub><br>F <sub>475</sub><br>F <sub>476</sub><br>F <sub>477</sub><br>F <sub>478</sub><br>F <sub>479</sub><br>F <sub>480</sub><br>F <sub>481</sub><br>F <sub>482</sub><br>F <sub>483</sub><br>F <sub>484</sub><br>F <sub>485</sub><br>F <sub>486</sub><br>F <sub>487</sub><br>F <sub>488</sub><br>F <sub>489</sub><br>F <sub>490</sub><br>F <sub>491</sub><br>F <sub>492</sub><br>F <sub>493</sub><br>F <sub>494</sub><br>F <sub>495</sub><br>F <sub>496</sub><br>F <sub>497</sub><br>F <sub>498</sub><br>F <sub>499</sub><br>F <sub>500</sub><br>F <sub>501</sub><br>F <sub>502</sub><br>F <sub>503</sub><br>F <sub>504</sub><br>F <sub>505</sub><br>F <sub>506</sub><br>F <sub>507</sub><br>F <sub>508</sub><br>F <sub>509</sub><br>F <sub>510</sub><br>F <sub>511</sub><br>F <sub>512</sub><br>F <sub>513</sub><br>F <sub>514</sub><br>F <sub>515</sub><br>F <sub>516</sub><br>F <sub>517</sub><br>F <sub>518</sub><br>F <sub>519</sub><br>F <sub>520</sub><br>F <sub>521</sub><br>F <sub>522</sub><br>F <sub>523</sub><br>F <sub>524</sub><br>F <sub>525</sub><br>F <sub>526</sub><br>F <sub>527</sub><br>F <sub>528</sub><br>F <sub>529</sub><br>F <sub>530</sub><br>F <sub>531</sub><br>F <sub>532</sub><br>F <sub>533</sub><br>F <sub>534</sub><br>F <sub>535</sub><br>F <sub>536</sub><br>F <sub>537</sub><br>F <sub>538</sub><br>F <sub>539</sub><br>F <sub>540</sub><br>F <sub>541</sub><br>F <sub>542</sub><br>F <sub>543</sub><br>F <sub>544</sub><br>F <sub>545</sub><br>F <sub>546</sub><br>F <sub>547</sub><br>F <sub>548</sub><br>F <sub>549</sub><br>F <sub>550</sub><br>F <sub>551</sub><br>F <sub>552</sub><br>F <sub>553</sub><br>F <sub>554</sub><br>F <sub>555</sub><br>F <sub>556</sub><br>F <sub>557</sub><br>F <sub>558</sub><br>F <sub>559</sub><br>F <sub>560</sub><br>F <sub>561</sub><br>F <sub>562</sub><br>F <sub>563</sub><br>F <sub>564</sub><br>F <sub>565</sub><br>F <sub>566</sub><br>F <sub>567</sub><br>F <sub>568</sub><br>F <sub>569</sub><br>F <sub>570</sub><br>F <sub>571</sub><br>F <sub>572</sub><br>F <sub>573</sub><br>F <sub>574</sub><br>F <sub>575</sub><br>F <sub>576</sub><br>F <sub>577</sub><br>F <sub>578</sub><br>F <sub>579</sub><br>F <sub>580</sub><br>F <sub>581</sub><br>F <sub>582</sub><br>F <sub>583</sub><br>F <sub>584</sub><br>F <sub>585</sub><br>F <sub>586</sub><br>F <sub>587</sub><br>F <sub>588</sub><br>F <sub>589</sub><br>F <sub>590</sub><br>F <sub>591</sub><br>F <sub>592</sub><br>F <sub>593</sub><br>F <sub>594</sub><br>F <sub>595</sub><br>F <sub>596</sub><br>F <sub>597</sub><br>F <sub>598</sub><br>F <sub>599</sub><br>F <sub>600</sub><br>F <sub>601</sub><br>F <sub>602</sub><br>F <sub>603</sub><br>F <sub>604</sub><br>F <sub>605</sub><br>F <sub>606</sub><br>F <sub>607</sub><br>F <sub>608</sub><br>F <sub>609</sub><br>F <sub>610</sub><br>F <sub>611</sub><br>F <sub>612</sub><br>F <sub>613</sub><br>F <sub>614</sub><br>F <sub>615</sub><br>F <sub>616</sub><br>F <sub>617</sub><br>F <sub>618</sub><br>F <sub>619</sub><br>F <sub>620</sub><br>F <sub>621</sub><br>F <sub>622</sub><br>F <sub>623</sub><br>F <sub>624</sub><br>F <sub>625</sub><br>F <sub>626</sub><br>F <sub>627</sub><br>F <sub>628</sub><br>F <sub>629</sub><br>F <sub>630</sub><br>F <sub>631</sub><br>F <sub>632</sub><br>F <sub>633</sub><br>F <sub>634</sub><br>F <sub>635</sub><br>F <sub>636</sub><br>F <sub>637</sub><br>F <sub>638</sub><br>F <sub>639</sub><br>F <sub>640</sub><br>F <sub>641</sub><br>F <sub>642</sub><br>F <sub>643</sub><br>F <sub>644</sub><br>F <sub>645</sub><br>F <sub>646</sub><br>F <sub>647</sub><br>F <sub>648</sub><br>F <sub>649</sub><br>F <sub>650</sub><br>F <sub>651</sub><br>F <sub>652</sub><br>F <sub>653</sub><br>F <sub>654</sub><br>F <sub>655</sub><br>F <sub>656</sub><br>F <sub>657</sub><br>F <sub>658</sub><br>F <sub>659</sub><br>F <sub>660</sub><br>F <sub>661</sub><br>F <sub>662</sub><br>F <sub>663</sub><br>F <sub>664</sub><br>F <sub>665</sub><br>F <sub>666</sub><br>F <sub>667</sub><br>F <sub>668</sub><br>F <sub>669</sub><br>F <sub>670</sub><br>F <sub>671</sub><br>F <sub>672</sub><br>F <sub>673</sub><br>F <sub>674</sub><br>F <sub>675</sub><br>F <sub>676</sub><br>F <sub>677</sub><br>F <sub>678</sub><br>F <sub>679</sub><br>F <sub>680</sub><br>F <sub>681</sub><br>F <sub>682</sub><br>F <sub>683</sub><br>F <sub>684</sub><br>F <sub>685</sub><br>F <sub>686</sub><br>F <sub>687</sub><br>F <sub>688</sub><br>F <sub>689</sub><br>F <sub>690</sub><br>F <sub>691</sub><br>F <sub>692</sub><br>F <sub>693</sub><br>F <sub>694</sub><br>F <sub>695</sub><br>F <sub>696</sub><br>F <sub>697</sub><br>F <sub>698</sub><br>F <sub>699</sub><br>F <sub>700</sub><br>F <sub>701</sub><br>F <sub>702</sub><br>F <sub>703</sub><br>F <sub>704</sub><br>F <sub>705</sub><br>F <sub>706</sub><br>F <sub>707</sub><br>F <sub>708</sub><br>F <sub>709</sub><br>F <sub>710</sub><br>F <sub>711</sub><br>F <sub>712</sub><br>F <sub>713</sub><br>F <sub>714</sub><br>F <sub>715</sub><br>F <sub>716</sub><br>F <sub>717</sub><br>F <sub>718</sub><br>F <sub>719</sub><br>F <sub>720</sub><br>F <sub>721</sub><br>F <sub>722</sub><br>F <sub>723</sub><br>F <sub>724</sub><br>F <sub>725</sub><br>F <sub>726</sub><br>F <sub>727</sub><br>F <sub>728</sub><br>F <sub>729</sub><br>F <sub>730</sub><br>F <sub>731</sub><br>F <sub>732</sub><br>F <sub>733</sub><br>F <sub>734</sub><br>F <sub>735</sub><br>F <sub>736</sub><br>F <sub>737</sub><br>F <sub>738</sub><br>F <sub>739</sub><br>F
<sub>740</sub><br>F <sub>741</sub><br>F <sub>742</sub><br>F <sub>743</sub><br>F <sub>744</sub><br>F <sub>745</sub><br>F <sub>746</sub><br>F <sub>747</sub><br>F <sub>748</sub><br>F <sub>749</sub><br>F <sub>750</sub><br>F <sub>751</sub><br>F <sub>752</sub><br>F <sub>753</sub><br>F <sub>754</sub><br>F <sub>755</sub><br>F <sub>756</sub><br>F <sub>757</sub><br>F <sub>758</sub><br>F <sub>759</sub><br>F <sub>760</sub><br>F <sub>761</sub><br>F <sub>762</sub><br>F <sub>763</sub><br>F <sub>764</sub><br>F <sub>765</sub><br>F <sub>766</sub><br>F <sub>767</sub><br>F <sub>768</sub><br>F <sub>769</sub><br>F <sub>770</sub><br>F <sub>771</sub><br>F <sub>772</sub><br>F <sub>773</sub><br>F <sub>774</sub><br>F <sub>775</sub><br>F <sub>776</sub><br>F <sub>777</sub><br>F <sub>778</sub><br>F <sub>779</sub><br>F <sub>780</sub><br>F <sub>781</sub><br>F <sub>782</sub><br>F <sub>783</sub><br>F <sub>784</sub><br>F <sub>785</sub><br>F <sub>786</sub><br>F <sub>787</sub><br>F <sub>788</sub><br>F <sub>789</sub><br>F <sub>790</sub><br>F <sub>791</sub><br>F <sub>792</sub><br>F <sub>793</sub><br>F <sub>794</sub><br>F <sub>795</sub><br>F <sub>796</sub><br>F <sub>797</sub><br>F <sub>798</sub><br>F <sub>799</sub><br>F <sub>800</sub><br>F <sub>801</sub><br>F <sub>802</sub><br>F <sub>803</sub><br>F <sub>804</sub><br>F <sub>805</sub><br>F <sub>806</sub><br>F <sub>807</sub><br>F <sub>808</sub><br>F <sub>809</sub><br>F <sub>810</sub><br>F <sub>811</sub><br>F <sub>812</sub><br>F <sub>813</sub><br>F <sub>814</sub><br>F <sub>815</sub><br>F <sub>816</sub><br>F <sub>817</sub><br>F <sub>818</sub><br>F <sub>819</sub><br>F <sub>820</sub><br>F <sub>821</sub><br>F <sub>822</sub><br>F <sub>823</sub><br>F <sub>824</sub><br>F <sub>825</sub><br>F <sub>826</sub><br>F <sub>827</sub><br>F <sub>828</sub><br>F <sub>829</sub><br>F <sub>830</sub><br>F <sub>831</sub><br>F <sub>832</sub><br>F <sub>833</sub><br>F <sub>834</sub><br>F <sub>835</sub><br>F <sub>836</sub><br>F <sub>837</sub><br>F <sub>838</sub><br>F <sub>839</sub><br>F <sub>840</sub><br>F <sub>841</sub><br>F <sub>842</sub><br>F <sub>843</sub><br>F <sub>844</sub><br>F <sub>845</sub><br>F <sub>846</sub><br>F <sub>847</sub><br>F <sub>848</sub><br>F <sub>849</sub><br>F <sub>850</sub><br>F <sub>851</sub><br>F <sub>852</sub><br>F <sub>853</sub><br>F <sub>854</sub><br>F <sub>855</sub><br>F <sub>856</sub><br>F <sub>857</sub><br>F <sub>858</sub><br>F <sub>859</sub><br>F <sub>860</sub><br>F <sub>861</sub><br>F <sub>862</sub><br>F <sub>863</sub><br>F <sub>864</sub><br>F <sub>865</sub><br>F <sub>866</sub><br>F <sub>867</sub><br>F <sub>868</sub><br>F <sub>869</sub><br>F <sub>870</sub><br>F <sub>871</sub><br>F <sub>872</sub><br>F <sub>873</sub><br>F <sub>874</sub><br>F <sub>875</sub><br>F <sub>876</sub><br>F <sub>877</sub><br>F <sub>878</sub><br>F <sub>879</sub><br>F <sub>880</sub><br>F <sub>881</sub><br>F <sub>882</sub><br>F <sub>883</sub><br>F <sub>884</sub><br>F <sub>885</sub><br>F <sub>886</sub> < |
| 記述番号   
  | 建屋名  | 機器番号        | 評価結果  
   
  | 備考   |    |          |    |   |  
   
   |
| 1.1 建屋外観   
  | 外観   | -           | F <sub>1</sub><br>F <sub>2</sub><br>F <sub>3</sub><br>F <sub>4</sub><br>F <sub>5</sub><br>F <sub>6</sub><br>F <sub>7</sub><br>F <sub>8</sub><br>F <sub>9</sub><br>F <sub>10</sub><br>F <sub>11</sub><br>F <sub>12</sub><br>F <sub>13</sub><br>F <sub>14</sub><br>F <sub>15</sub><br>F <sub>16</sub><br>F <sub>17</sub><br>F <sub>18</sub><br>F <sub>19</sub><br>F <sub>20</sub><br>F <sub>21</sub><br>F <sub>22</sub><br>F <sub>23</sub><br>F <sub>24</sub><br>F <sub>25</sub><br>F <sub>26</sub><br>F <sub>27</sub><br>F <sub>28</sub><br>F <sub>29</sub><br>F <sub>30</sub><br>F <sub>31</sub><br>F <sub>32</sub><br>F <sub>33</sub><br>F <sub>34</sub><br>F <sub>35</sub><br>F <sub>36</sub><br>F <sub>37</sub><br>F <sub>38</sub><br>F <sub>39</sub><br>F <sub>40</sub><br>F <sub>41</sub><br>F <sub>42</sub><br>F <sub>43</sub><br>F <sub>44</sub><br>F <sub>45</sub><br>F <sub>46</sub><br>F <sub>47</sub><br>F <sub>48</sub><br>F <sub>49</sub><br>F <sub>50</sub><br>F <sub>51</sub><br>F <sub>52</sub><br>F <sub>53</sub><br>F <sub>54</sub><br>F <sub>55</sub><br>F <sub>56</sub><br>F <sub>57</sub><br>F <sub>58</sub><br>F <sub>59</sub><br>F <sub>60</sub><br>F <sub>61</sub><br>F <sub>62</sub><br>F <sub>63</sub><br>F <sub>64</sub><br>F <sub>65</sub><br>F <sub>66</sub><br>F <sub>67</sub><br>F <sub>68</sub><br>F <sub>69</sub><br>F <sub>70</sub><br>F <sub>71</sub><br>F <sub>72</sub><br>F <sub>73</sub><br>F <sub>74</sub><br>F <sub>75</sub><br>F <sub>76</sub><br>F <sub>77</sub><br>F <sub>78</sub><br>F <sub>79</sub><br>F <sub>80</sub><br>F <sub>81</sub><br>F <sub>82</sub><br>F <sub>83</sub><br>F <sub>84</sub><br>F <sub>85</sub><br>F <sub>86</sub><br>F <sub>87</sub><br>F <sub>88</sub><br>F <sub>89</sub><br>F <sub>90</sub><br>F <sub>91</sub><br>F <sub>92</sub><br>F <sub>93</sub><br>F <sub>94</sub><br>F <sub>95</sub><br>F <sub>96</sub><br>F <sub>97</sub><br>F <sub>98</sub><br>F <sub>99</sub><br>F <sub>100</sub><br>F <sub>101</sub><br>F <sub>102</sub><br>F <sub>103</sub><br>F <sub>104</sub><br>F <sub>105</sub><br>F <sub>106</sub><br>F <sub>107</sub><br>F <sub>108</sub><br>F <sub>109</sub><br>F <sub>110</sub><br>F
<sub>111</sub><br>F <sub>112</sub><br>F <sub>113</sub><br>F <sub>114</sub><br>F <sub>115</sub><br>F <sub>116</sub><br>F <sub>117</sub><br>F <sub>118</sub><br>F <sub>119</sub><br>F <sub>120</sub><br>F <sub>121</sub><br>F <sub>122</sub><br>F <sub>123</sub><br>F <sub>124</sub><br>F <sub>125</sub><br>F <sub>126</sub><br>F <sub>127</sub><br>F <sub>128</sub><br>F <sub>129</sub><br>F <sub>130</sub><br>F <sub>131</sub><br>F <sub>132</sub><br>F <sub>133</sub><br>F <sub>134</sub><br>F <sub>135</sub><br>F <sub>136</sub><br>F <sub>137</sub><br>F <sub>138</sub><br>F <sub>139</sub><br>F <sub>140</sub><br>F <sub>141</sub><br>F <sub>142</sub><br>F <sub>143</sub><br>F <sub>144</sub><br>F <sub>145</sub><br>F <sub>146</sub><br>F <sub>147</sub><br>F <sub>148</sub><br>F <sub>149</sub><br>F <sub>150</sub><br>F <sub>151</sub><br>F <sub>152</sub><br>F <sub>153</sub><br>F <sub>154</sub><br>F <sub>155</sub><br>F <sub>156</sub><br>F <sub>157</sub><br>F <sub>158</sub><br>F <sub>159</sub><br>F <sub>160</sub><br>F <sub>161</sub><br>F <sub>162</sub><br>F <sub>163</sub><br>F <sub>164</sub><br>F <sub>165</sub><br>F <sub>166</sub><br>F <sub>167</sub><br>F <sub>168</sub><br>F <sub>169</sub><br>F <sub>170</sub><br>F <sub>171</sub><br>F <sub>172</sub><br>F <sub>173</sub><br>F <sub>174</sub><br>F <sub>175</sub><br>F <sub>176</sub><br>F <sub>177</sub><br>F <sub>178</sub><br>F <sub>179</sub><br>F <sub>180</sub><br>F <sub>181</sub><br>F <sub>182</sub><br>F <sub>183</sub><br>F <sub>184</sub><br>F <sub>185</sub><br>F <sub>186</sub><br>F <sub>187</sub><br>F <sub>188</sub><br>F <sub>189</sub><br>F <sub>190</sub><br>F <sub>191</sub><br>F <sub>192</sub><br>F <sub>193</sub><br>F <sub>194</sub><br>F <sub>195</sub><br>F <sub>196</sub><br>F <sub>197</sub><br>F <sub>198</sub><br>F <sub>199</sub><br>F <sub>200</sub><br>F <sub>201</sub><br>F <sub>202</sub><br>F <sub>203</sub><br>F <sub>204</sub><br>F <sub>205</sub><br>F <sub>206</sub><br>F <sub>207</sub><br>F <sub>208</sub><br>F <sub>209</sub><br>F <sub>210</sub><br>F <sub>211</sub><br>F <sub>212</sub><br>F <sub>213</sub><br>F <sub>214</sub><br>F <sub>215</sub><br>F <sub>216</sub><br>F <sub>217</sub><br>F <sub>218</sub><br>F <sub>219</sub><br>F <sub>220</sub><br>F <sub>221</sub><br>F <sub>222</sub><br>F <sub>223</sub><br>F <sub>224</sub><br>F <sub>225</sub><br>F <sub>226</sub><br>F <sub>227</sub><br>F <sub>228</sub><br>F <sub>229</sub><br>F <sub>230</sub><br>F <sub>231</sub><br>F <sub>232</sub><br>F <sub>233</sub><br>F <sub>234</sub><br>F <sub>235</sub><br>F <sub>236</sub><br>F <sub>237</sub><br>F <sub>238</sub><br>F <sub>239</sub><br>F <sub>240</sub><br>F <sub>241</sub><br>F <sub>242</sub><br>F <sub>243</sub><br>F <sub>244</sub><br>F <sub>245</sub><br>F <sub>246</sub><br>F <sub>247</sub><br>F <sub>248</sub><br>F <sub>249</sub><br>F <sub>250</sub><br>F <sub>251</sub><br>F <sub>252</sub><br>F <sub>253</sub><br>F <sub>254</sub><br>F <sub>255</sub><br>F <sub>256</sub><br>F <sub>257</sub><br>F <sub>258</sub><br>F <sub>259</sub><br>F <sub>260</sub><br>F <sub>261</sub><br>F <sub>262</sub><br>F <sub>263</sub><br>F <sub>264</sub><br>F <sub>265</sub><br>F <sub>266</sub><br>F <sub>267</sub><br>F <sub>268</sub><br>F <sub>269</sub><br>F <sub>270</sub><br>F <sub>271</sub><br>F <sub>272</sub><br>F <sub>273</sub><br>F <sub>274</sub><br>F <sub>275</sub><br>F <sub>276</sub><br>F <sub>277</sub><br>F <sub>278</sub><br>F <sub>279</sub><br>F <sub>280</sub><br>F <sub>281</sub><br>F <sub>282</sub><br>F <sub>283</sub><br>F <sub>284</sub><br>F <sub>285</sub><br>F <sub>286</sub><br>F <sub>287</sub><br>F <sub>288</sub><br>F <sub>289</sub><br>F <sub>290</sub><br>F <sub>291</sub><br>F <sub>292</sub><br>F <sub>293</sub><br>F <sub>294</sub><br>F <sub>295</sub><br>F <sub>296</sub><br>F <sub>297</sub><br>F <sub>298</sub><br>F <sub>299</sub><br>F <sub>300</sub><br>F <sub>301</sub><br>F <sub>302</sub><br>F <sub>303</sub><br>F <sub>304</sub><br>F <sub>305</sub><br>F <sub>306</sub><br>F <sub>307</sub><br>F <sub>308</sub><br>F <sub>309</sub><br>F <sub>310</sub><br>F <sub>311</sub><br>F <sub>312</sub><br>F <sub>313</sub><br>F <sub>314</sub><br>F <sub>315</sub><br>F <sub>316</sub><br>F <sub>317</sub><br>F <sub>318</sub><br>F <sub>319</sub><br>F <sub>320</sub><br>F <sub>321</sub><br>F <sub>322</sub><br>F <sub>323</sub><br>F <sub>324</sub><br>F <sub>325</sub><br>F <sub>326</sub><br>F <sub>327</sub><br>F <sub>328</sub><br>F <sub>329</sub><br>F <sub>330</sub><br>F <sub>331</sub><br>F <sub>332</sub><br>F <sub>333</sub><br>F <sub>334</sub><br>F <sub>335</sub><br>F <sub>336</sub><br>F <sub>337</sub><br>F <sub>338</sub><br>F <sub>339</sub><br>F <sub>340</sub><br>F <sub>341</sub><br>F <sub>342</sub><br>F <sub>343</sub><br>F <sub>344</sub><br>F <sub>345</sub><br>F <sub>346</sub><br>F <sub>347</sub><br>F <sub>348</sub><br>F <sub>349</sub><br>F <sub>350</sub><br>F <sub>351</sub><br>F <sub>352</sub><br>F <sub>353</sub><br>F <sub>354</sub><br>F <sub>355</sub><br>F <sub>356</sub><br>F <sub>357</sub><br>F <sub>358</sub><br>F <sub>359</sub><br>F <sub>360</sub><br>F <sub>361</sub><br>F <sub>362</sub><br>F <sub>363</sub><br>F <sub>364</sub><br>F <sub>365</sub><br>F <sub>366</sub><br>F <sub>367</sub><br>F <sub>368</sub><br>F <sub>369</sub><br>F <sub>370</sub><br>F <sub>371</sub><br>F <sub>372</sub><br>F <sub>373</sub><br>F <sub>374</sub><br>F <sub>375</sub><br>F <sub>376</sub><br>F <sub>377</sub><br>F <sub>378</sub><br>F <sub>379</sub><br>F <sub>380</sub><br>F <sub>381</sub><br>F <sub>382</sub><br>F <sub>383</sub><br>F <sub>384</sub><br>F <sub>385</sub><br>F <sub>386</sub><br>F <sub>387</sub><br>F <sub>388</sub><br>F <sub>389</sub><br>F <sub>390</sub><br>F <sub>391</sub><br>F <sub>392</sub><br>F <sub>393</sub><br>F <sub>394</sub><br>F <sub>395</sub><br>F <sub>396</sub><br>F <sub>397</sub><br>F <sub>398</sub><br>F <sub>399</sub><br>F <sub>400</sub><br>F <sub>401</sub><br>F <sub>402</sub><br>F <sub>403</sub><br>F <sub>404</sub><br>F <sub>405</sub><br>F <sub>406</sub><br>F <sub>407</sub><br>F <sub>408</sub><br>F <sub>409</sub><br>F <sub>410</sub><br>F <sub>411</sub><br>F <sub>412</sub><br>F <sub>413</sub><br>F <sub>414</sub><br>F <sub>415</sub><br>F <sub>416</sub><br>F <sub>417</sub><br>F <sub>418</sub><br>F <sub>419</sub><br>F <sub>420</sub><br>F <sub>421</sub><br>F <sub>422</sub><br>F <sub>423</sub><br>F <sub>424</sub><br>F <sub>425</sub><br>F <sub>426</sub><br>F <sub>427</sub><br>F <sub>428</sub><br>F <sub>429</sub><br>F <sub>430</sub><br>F <sub>431</sub><br>F <sub>432</sub><br>F <sub>433</sub><br>F <sub>434</sub><br>F <sub>435</sub><br>F <sub>436</sub><br>F <sub>437</sub><br>F <sub>438</sub><br>F <sub>439</sub><br>F <sub>440</sub><br>F <sub>441</sub><br>F <sub>442</sub><br>F <sub>443</sub><br>F <sub>444</sub><br>F <sub>445</sub><br>F <sub>446</sub><br>F <sub>447</sub><br>F <sub>448</sub><br>F <sub>449</sub><br>F <sub>450</sub><br>F <sub>451</sub><br>F <sub>452</sub><br>F <sub>453</sub><br>F <sub>454</sub><br>F <sub>455</sub><br>F <sub>456</sub><br>F <sub>457</sub><br>F <sub>458</sub><br>F <sub>459</sub><br>F <sub>460</sub><br>F <sub>461</sub><br>F <sub>462</sub><br>F <sub>463</sub><br>F <sub>464</sub><br>F <sub>465</sub><br>F <sub>466</sub><br>F <sub>467</sub><br>F <sub>468</sub><br>F <sub>469</sub><br>F <sub>470</sub><br>F <sub>471</sub><br>F <sub>472</sub><br>F <sub>473</sub><br>F <sub>474</sub><br>F <sub>475</sub><br>F <sub>476</sub><br>F <sub>477</sub><br>F <sub>478</sub><br>F <sub>479</sub><br>F <sub>480</sub><br>F <sub>481</sub><br>F <sub>482</sub><br>F <sub>483</sub><br>F <sub>484</sub><br>F <sub>485</sub><br>F <sub>486</sub><br>F <sub>487</sub><br>F <sub>488</sub><br>F <sub>489</sub><br>F <sub>490</sub><br>F <sub>491</sub><br>F <sub>492</sub><br>F <sub>493</sub><br>F <sub>494</sub><br>F <sub>495</sub><br>F <sub>496</sub><br>F <sub>497</sub><br>F <sub>498</sub><br>F <sub>499</sub><br>F <sub>500</sub><br>F <sub>501</sub><br>F <sub>502</sub><br>F <sub>503</sub><br>F <sub>504</sub><br>F <sub>505</sub><br>F <sub>506</sub><br>F <sub>507</sub><br>F <sub>508</sub><br>F <sub>509</sub><br>F <sub>510</sub><br>F <sub>511</sub><br>F <sub>512</sub><br>F <sub>513</sub><br>F <sub>514</sub><br>F <sub>515</sub><br>F <sub>516</sub><br>F <sub>517</sub><br>F <sub>518</sub><br>F <sub>519</sub><br>F <sub>520</sub><br>F <sub>521</sub><br>F <sub>522</sub><br>F <sub>523</sub><br>F <sub>524</sub><br>F <sub>525</sub><br>F <sub>526</sub><br>F <sub>527</sub><br>F <sub>528</sub><br>F <sub>529</sub><br>F <sub>530</sub><br>F <sub>531</sub><br>F <sub>532</sub><br>F <sub>533</sub><br>F <sub>534</sub><br>F <sub>535</sub><br>F <sub>536</sub><br>F <sub>537</sub><br>F <sub>538</sub><br>F <sub>539</sub><br>F <sub>540</sub><br>F <sub>541</sub><br>F <sub>542</sub><br>F <sub>543</sub><br>F <sub>544</sub><br>F <sub>545</sub><br>F <sub>546</sub><br>F <sub>547</sub><br>F <sub>548</sub><br>F <sub>549</sub><br>F <sub>550</sub><br>F <sub>551</sub><br>F <sub>552</sub><br>F <sub>553</sub><br>F <sub>554</sub><br>F <sub>555</sub><br>F <sub>556</sub><br>F <sub>557</sub><br>F <sub>558</sub><br>F <sub>559</sub><br>F <sub>560</sub><br>F <sub>561</sub><br>F <sub>562</sub><br>F <sub>563</sub><br>F <sub>564</sub><br>F <sub>565</sub><br>F <sub>566</sub><br>F <sub>567</sub><br>F <sub>568</sub><br>F <sub>569</sub><br>F <sub>570</sub><br>F <sub>571</sub><br>F <sub>572</sub><br>F <sub>573</sub><br>F <sub>574</sub><br>F <sub>575</sub><br>F <sub>576</sub><br>F <sub>577</sub><br>F <sub>578</sub><br>F <sub>579</sub><br>F <sub>580</sub><br>F <sub>581</sub><br>F <sub>582</sub><br>F <sub>583</sub><br>F <sub>584</sub><br>F <sub>585</sub><br>F <sub>586</sub><br>F <sub>587</sub><br>F <sub>588</sub><br>F <sub>589</sub><br>F <sub>590</sub><br>F <sub>591</sub><br>F <sub>592</sub><br>F <sub>593</sub><br>F <sub>594</sub><br>F <sub>595</sub><br>F <sub>596</sub><br>F <sub>597</sub><br>F <sub>598</sub><br>F <sub>599</sub><br>F <sub>600</sub><br>F <sub>601</sub><br>F <sub>602</sub><br>F <sub>603</sub><br>F <sub>604</sub><br>F <sub>605</sub><br>F <sub>606</sub><br>F <sub>607</sub><br>F <sub>608</sub><br>F <sub>609</sub><br>F <sub>610</sub><br>F
<sub>611</sub><br>F <sub>612</sub><br>F <sub>613</sub><br>F <sub>614</sub><br>F <sub>615</sub><br>F <sub>616</sub><br>F <sub>617</sub><br>F <sub>618</sub><br>F <sub>619</sub><br>F <sub>620</sub><br>F <sub>621</sub><br>F <sub>622</sub><br>F <sub>623</sub><br>F <sub>624</sub><br>F <sub>625</sub><br>F <sub>626</sub><br>F <sub>627</sub><br>F <sub>628</sub><br>F <sub>629</sub><br>F <sub>630</sub><br>F <sub>631</sub><br>F <sub>632</sub><br>F <sub>633</sub><br>F <sub>634</sub><br>F <sub>635</sub><br>F <sub>636</sub><br>F <sub>637</sub><br>F <sub>638</sub><br>F <sub>639</sub><br>F <sub>640</sub><br>F <sub>641</sub><br>F <sub>642</sub><br>F <sub>643</sub><br>F <sub>644</sub><br>F <sub>645</sub><br>F <sub>646</sub><br>F <sub>647</sub><br>F <sub>648</sub><br>F <sub>649</sub><br>F <sub>650</sub><br>F <sub>651</sub><br>F <sub>652</sub><br>F <sub>653</sub><br>F <sub>654</sub><br>F <sub>655</sub><br>F <sub>656</sub><br>F <sub>657</sub><br>F <sub>658</sub><br>F <sub>659</sub><br>F <sub>660</sub><br>F <sub>661</sub><br>F <sub>662</sub><br>F <sub>663</sub><br>F <sub>664</sub><br>F <sub>665</sub><br>F <sub>666</sub><br>F <sub>667</sub><br>F <sub>668</sub><br>F <sub>669</sub><br>F <sub>670</sub><br>F <sub>671</sub><br>F <sub>672</sub><br>F <sub>673</sub><br>F <sub>674</sub><br>F <sub>675</sub><br>F <sub>676</sub><br>F <sub>677</sub><br>F <sub>678</sub><br>F <sub>679</sub><br>F <sub>680</sub><br>F <sub>681</sub><br>F <sub>682</sub><br>F <sub>683</sub><br>F <sub>684</sub><br>F <sub>685</sub><br>F <sub>686</sub><br>F <sub>687</sub><br>F <sub>688</sub><br>F <sub>689</sub><br>F <sub>690</sub><br>F <sub>691</sub><br>F <sub>692</sub><br>F <sub>693</sub><br>F <sub>694</sub><br>F <sub>695</sub><br>F <sub>696</sub><br>F <sub>697</sub><br>F <sub>698</sub><br>F <sub>699</sub><br>F <sub>700</sub><br>F <sub>701</sub><br>F <sub>702</sub><br>F <sub>703</sub><br>F <sub>704</sub><br>F <sub>705</sub><br>F <sub>706</sub><br>F <sub>707</sub><br>F <sub>708</sub><br>F <sub>709</sub><br>F <sub>710</sub><br>F <sub>711</sub><br>F <sub>712</sub><br>F <sub>713</sub><br>F <sub>714</sub><br>F <sub>715</sub><br>F <sub>716</sub><br>F <sub>717</sub><br>F <sub>718</sub><br>F <sub>719</sub><br>F <sub>720</sub><br>F <sub>721</sub><br>F <sub>722</sub><br>F <sub>723</sub><br>F <sub>724</sub><br>F <sub>725</sub><br>F <sub>726</sub><br>F <sub>727</sub><br>F <sub>728</sub><br>F <sub>729</sub><br>F <sub>730</sub><br>F <sub>731</sub><br>F <sub>732</sub><br>F <sub>733</sub><br>F <sub>734</sub><br>F <sub>735</sub><br>F <sub>736</sub><br>F <sub>737</sub><br>F <sub>738</sub><br>F <sub>739</sub><br>F <sub>740</sub><br>F <sub>741</sub><br>F <sub>742</sub><br>F <sub>743</sub><br>F <sub>744</sub><br>F <sub>745</sub><br>F <sub>746</sub><br>F <sub>747</sub><br>F <sub>748</sub><br>F <sub>749</sub><br>F <sub>750</sub><br>F <sub>751</sub><br>F <sub>752</sub><br>F <sub>753</sub><br>F <sub>754</sub><br>F <sub>755</sub><br>F <sub>756</sub><br>F <sub>757</sub><br>F <sub>758</sub><br>F <sub>759</sub><br>F <sub>760</sub><br>F <sub>761</sub><br>F <sub>762</sub><br>F <sub>763</sub><br>F <sub>764</sub><br>F <sub>765</sub><br>F <sub>766</sub><br>F <sub>767</sub><br>F <sub>768</sub><br>F <sub>769</sub><br>F <sub>770</sub><br>F <sub>771</sub><br>F <sub>772</sub><br>F <sub>773</sub><br>F <sub>774</sub><br>F <sub>775</sub><br>F <sub>776</sub><br>F <sub>777</sub><br>F <sub>778</sub><br>F <sub>779</sub><br>F <sub>780</sub><br>F <sub>781</sub><br>F <sub>782</sub><br>F <sub>783</sub><br>F <sub>784</sub><br>F <sub>785</sub><br>F <sub>786</sub><br>F <sub>787</sub><br>F <sub>788</sub><br>F <sub>789</sub><br>F <sub>790</sub><br>F <sub>791</sub><br>F <sub>792</sub><br>F <sub>793</sub><br>F <sub>794</sub><br>F <sub>795</sub><br>F <sub>796</sub><br>F <sub>797</sub><br>F <sub>798</sub><br>F <sub>799</sub><br>F <sub>800</sub><br>F <sub>801</sub><br>F <sub>802</sub><br>F <sub>803</sub><br>F <sub>804</sub><br>F <sub>805</sub><br>F <sub>806</sub><br>F <sub>807</sub><br>F <sub>808</sub><br>F <sub>809</sub><br>F <sub>810</sub><br>F <sub>811</sub><br>F <sub>812</sub><br>F <sub>813</sub><br>F <sub>814</sub><br>F <sub>815</sub><br>F <sub>816</sub><br>F <sub>817</sub><br>F <sub>818</sub><br>F <sub>819</sub><br>F <sub>820</sub><br>F <sub>821</sub><br>F <sub>822</sub><br>F <sub>823</sub><br>F <sub>824</sub><br>F <sub>825</sub><br>F <sub>826</sub><br>F <sub>827</sub><br>F <sub>828</sub><br>F <sub>829</sub><br>F <sub>830</sub><br>F <sub>831</sub><br>F <sub>832</sub><br>F <sub>833</sub><br>F <sub>834</sub><br>F <sub>835</sub><br>F <sub>836</sub><br>F <sub>837</sub><br>F <sub>838</sub><br>F <sub>839</sub><br>F <sub>840</sub><br>F <sub>841</sub><br>F <sub>842</sub><br>F <sub>843</sub><br>F <sub>844</sub><br>F <sub>845</sub><br>F <sub>846</sub><br>F <sub>847</sub><br>F <sub>848</sub><br>F <sub>849</sub><br>F <sub>850</sub><br>F <sub>851</sub><br>F <sub>852</sub><br>F <sub>853</sub><br>F <sub>854</sub><br>F <sub>855</sub><br>F <sub>856</sub><br>F <sub>857</sub><br>F <sub>858</sub><br>F <sub>859</sub><br>F <sub>860</sub><br>F <sub>861</sub><br>F <sub>862</sub><br>F <sub>863</sub><br>F <sub>864</sub><br>F <sub>865</sub><br>F <sub>866</sub><br>F <sub>867</sub><br>F <sub>868</sub><br>F <sub>869</sub><br>F <sub>870</sub><br>F <sub>871</sub><br>F <sub>872</sub><br>F <sub>873</sub><br>F <sub>874</sub><br>F <sub>875</sub><br>F <sub>876</sub><br>F <sub>877</sub><br>F <sub>878</sub><br>F <sub>879</sub><br>F <sub>880</sub><br>F <sub>881</sub><br>F <sub>882</sub><br>F <sub>883</sub><br>F <sub>884</sub><br>F <sub>885</sub><br>F <sub>886</sub> < |      |    |          |    |   |   
   
  |

泊発電所 3号炉 有効性評価 比較表

**第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について**  
**別添3 レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震 PRA**

**赤字**: 設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
**青字**: 記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
**緑字**: 記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第 1.2.1.a.4 表 建屋・機器リストとフライリティデータ (20/20)

泊発電所 3号炉 有効性評価 比較表

### 第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について

### 別添 3. レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震 PRA

**赤字**: 設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
**青字**: 記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
**緑字**: 記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

## 泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について

別添3. レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震PRA

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																							
		<table border="1"> <caption>表3.2.1-a-5 表 地震PRA評価対象建屋・機器リスト(21/32)</caption> <thead> <tr> <th rowspan="2">機器番号／機器名等</th> <th rowspan="2">機器名等</th> <th rowspan="2">構造モード</th> <th colspan="2">泊3号炉</th> </tr> <tr> <th>引火性(G)</th> <th>燃焼性(F)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>再循環ポンプ 冷却塔用ポンプ</td> <td>冷却塔用ポンプサンプスクリーン</td> <td>循環拘束</td> <td>3.3</td> <td>3.3</td> </tr> <tr> <td>再循環ポンプ</td> <td>格納容器再循環サンプスクリーン</td> <td>モジュール テンションロックド</td> <td>1.97</td> <td>1.26</td> </tr> <tr> <td>再循環ポンプ</td> <td>安全遮断弁却フランジ</td> <td>機械拘束</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>再循環ポンプ</td> <td>35kVPTDA</td> <td>循環拘束</td> <td>0.13</td> <td>1.35</td> </tr> <tr> <td>再循環ポンプ</td> <td>安全遮断弁冷却タクト手動ダンバ ハウジング</td> <td>循環拘束</td> <td>0.19</td> <td>0.19</td> </tr> <tr> <td>再循環ポンプ</td> <td>安全遮断弁冷却タクト手動ダンバ ハウジング</td> <td>ダクト本体</td> <td>0.62</td> <td>0.31</td> </tr> <tr> <td>再循環ポンプ</td> <td>安全遮断弁冷却タクト手動ダンバ ハウジング</td> <td>ケーニング</td> <td>0.09</td> <td>0.17</td> </tr> <tr> <td>再循環ポンプ</td> <td>安全遮断弁冷却タクト手動ダンバ ハウジング</td> <td>循環拘束</td> <td>2.65</td> <td>0.31</td> </tr> <tr> <td>再循環ポンプ</td> <td>安全遮断弁冷却タクト手動ダンバ ハウジング</td> <td>循環拘束</td> <td>0.35</td> <td>0.35</td> </tr> <tr> <td>再循環ポンプ</td> <td>安全遮断弁冷却タクト手動ダンバ ハウジング</td> <td>循環拘束</td> <td>0.19</td> <td>1.31</td> </tr> <tr> <td>再循環ポンプ</td> <td>安全遮断弁冷却タクト手動ダンバ ハウジング</td> <td>循環拘束</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>再循環ポンプ</td> <td>安全遮断弁冷却タクト手動ダンバ ハウジング</td> <td>循環拘束</td> <td>0.19</td> <td>0.91</td> </tr> <tr> <td>再循環ポンプ</td> <td>安全遮断弁冷却タクト手動ダンバ ハウジング</td> <td>循環拘束</td> <td>0.20</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>再循環ポンプ</td> <td>安全遮断弁冷却タクト手動ダンバ ハウジング</td> <td>循環拘束</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>再循環ポンプ</td> <td>安全遮断弁冷却タクト手動ダンバ ハウジング</td> <td>循環拘束</td> <td>0.19</td> <td>0.35</td> </tr> <tr> <td>再循環ポンプ</td> <td>安全遮断弁冷却タクト手動ダンバ ハウジング</td> <td>循環拘束</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table> <p>【女川】【大飯】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■個別評価による相違             <ul style="list-style-type: none"> <li>・プラントにより地震PRAで考慮する建屋、屋外重要土木構造物及び機器が異なり、評価対象部位や参照する耐震評価結果も異なるため、フランジティの評価結果も異なる</li> </ul> </li> </ul>	機器番号／機器名等	機器名等	構造モード	泊3号炉		引火性(G)	燃焼性(F)	再循環ポンプ 冷却塔用ポンプ	冷却塔用ポンプサンプスクリーン	循環拘束	3.3	3.3	再循環ポンプ	格納容器再循環サンプスクリーン	モジュール テンションロックド	1.97	1.26	再循環ポンプ	安全遮断弁却フランジ	機械拘束	-	-	再循環ポンプ	35kVPTDA	循環拘束	0.13	1.35	再循環ポンプ	安全遮断弁冷却タクト手動ダンバ ハウジング	循環拘束	0.19	0.19	再循環ポンプ	安全遮断弁冷却タクト手動ダンバ ハウジング	ダクト本体	0.62	0.31	再循環ポンプ	安全遮断弁冷却タクト手動ダンバ ハウジング	ケーニング	0.09	0.17	再循環ポンプ	安全遮断弁冷却タクト手動ダンバ ハウジング	循環拘束	2.65	0.31	再循環ポンプ	安全遮断弁冷却タクト手動ダンバ ハウジング	循環拘束	0.35	0.35	再循環ポンプ	安全遮断弁冷却タクト手動ダンバ ハウジング	循環拘束	0.19	1.31	再循環ポンプ	安全遮断弁冷却タクト手動ダンバ ハウジング	循環拘束	-	-	再循環ポンプ	安全遮断弁冷却タクト手動ダンバ ハウジング	循環拘束	0.19	0.91	再循環ポンプ	安全遮断弁冷却タクト手動ダンバ ハウジング	循環拘束	0.20	-	再循環ポンプ	安全遮断弁冷却タクト手動ダンバ ハウジング	循環拘束	-	-	再循環ポンプ	安全遮断弁冷却タクト手動ダンバ ハウジング	循環拘束	0.19	0.35	再循環ポンプ	安全遮断弁冷却タクト手動ダンバ ハウジング	循環拘束	-	-	
機器番号／機器名等	機器名等	構造モード				泊3号炉																																																																																				
			引火性(G)	燃焼性(F)																																																																																						
再循環ポンプ 冷却塔用ポンプ	冷却塔用ポンプサンプスクリーン	循環拘束	3.3	3.3																																																																																						
再循環ポンプ	格納容器再循環サンプスクリーン	モジュール テンションロックド	1.97	1.26																																																																																						
再循環ポンプ	安全遮断弁却フランジ	機械拘束	-	-																																																																																						
再循環ポンプ	35kVPTDA	循環拘束	0.13	1.35																																																																																						
再循環ポンプ	安全遮断弁冷却タクト手動ダンバ ハウジング	循環拘束	0.19	0.19																																																																																						
再循環ポンプ	安全遮断弁冷却タクト手動ダンバ ハウジング	ダクト本体	0.62	0.31																																																																																						
再循環ポンプ	安全遮断弁冷却タクト手動ダンバ ハウジング	ケーニング	0.09	0.17																																																																																						
再循環ポンプ	安全遮断弁冷却タクト手動ダンバ ハウジング	循環拘束	2.65	0.31																																																																																						
再循環ポンプ	安全遮断弁冷却タクト手動ダンバ ハウジング	循環拘束	0.35	0.35																																																																																						
再循環ポンプ	安全遮断弁冷却タクト手動ダンバ ハウジング	循環拘束	0.19	1.31																																																																																						
再循環ポンプ	安全遮断弁冷却タクト手動ダンバ ハウジング	循環拘束	-	-																																																																																						
再循環ポンプ	安全遮断弁冷却タクト手動ダンバ ハウジング	循環拘束	0.19	0.91																																																																																						
再循環ポンプ	安全遮断弁冷却タクト手動ダンバ ハウジング	循環拘束	0.20	-																																																																																						
再循環ポンプ	安全遮断弁冷却タクト手動ダンバ ハウジング	循環拘束	-	-																																																																																						
再循環ポンプ	安全遮断弁冷却タクト手動ダンバ ハウジング	循環拘束	0.19	0.35																																																																																						
再循環ポンプ	安全遮断弁冷却タクト手動ダンバ ハウジング	循環拘束	-	-																																																																																						

泊発電所 3号炉 有効性評価 比較表

### 第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について 別添3. レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震 PRA

**赤字**：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
**青字**：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
**緑字**：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																							
		<p style="text-align: center;">第3.2.1-5表 地震PRA評価対象建屋・機器リスト (22/32)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">起因事象／影響範囲</th> <th rowspan="2">機器名稱</th> <th rowspan="2">新規モード</th> <th colspan="3">評価指標</th> </tr> <tr> <th>中央船 (6)</th> <th>左舷船 (5)</th> <th>右舷船 (5)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>内格窓切替</td> <td>安全機能室火災警報 通事手 3T-7S-921A</td> <td>橢花封緘</td> <td>-</td> <td>2.83</td> <td>1.18</td> </tr> <tr> <td>内格窓切替</td> <td>構造組合</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>0.27</td> <td>0.26</td> </tr> <tr> <td>内格窓切替</td> <td>構造組合</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>内格窓切替</td> <td>全船艤装冷却器空気冷却装置計 3T-2611-2602</td> <td>橢花封緘</td> <td>-</td> <td>4.30</td> <td>0.14</td> </tr> <tr> <td>内格窓切替</td> <td>構造組合</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>0.23</td> <td>0.23</td> </tr> <tr> <td>内格窓切替</td> <td>格納機器スライドイング装置制御 装置計 3T5-2933</td> <td>橢花封緘</td> <td>-</td> <td>3.47</td> <td>2.97</td> </tr> <tr> <td>内格窓切替</td> <td>構造組合</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>0.23</td> <td>0.23</td> </tr> <tr> <td>漏れ注入系</td> <td>漏れ注入ポンプ</td> <td>橢花封緘</td> <td>-</td> <td>1.74</td> <td>0.13</td> </tr> <tr> <td>漏れ注入系</td> <td>漏れ注入ポンプ</td> <td>橢花封緘</td> <td>-</td> <td>0.13</td> <td>0.04</td> </tr> <tr> <td>漏れ注入系</td> <td>ほう瓶注入タック管(ラジン)出口第 1止め所(空気供給部) 3T-51-1451, 第2止め所(空気供給部) 3T-51-1461</td> <td>橢花封緘</td> <td>-</td> <td>2.83</td> <td>1.18</td> </tr> <tr> <td>漏れ注入系</td> <td>構造組合</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>0.26</td> <td>0.26</td> </tr> <tr> <td>漏れ注入系</td> <td>ほう瓶注入タンク</td> <td>構造組合</td> <td>基礎ボルト</td> <td>2.32</td> <td>0.19</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0.21</td> <td>1.21</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	起因事象／影響範囲	機器名稱	新規モード	評価指標			中央船 (6)	左舷船 (5)	右舷船 (5)	内格窓切替	安全機能室火災警報 通事手 3T-7S-921A	橢花封緘	-	2.83	1.18	内格窓切替	構造組合	-	-	0.27	0.26	内格窓切替	構造組合	-	-	-	-	内格窓切替	全船艤装冷却器空気冷却装置計 3T-2611-2602	橢花封緘	-	4.30	0.14	内格窓切替	構造組合	-	-	0.23	0.23	内格窓切替	格納機器スライドイング装置制御 装置計 3T5-2933	橢花封緘	-	3.47	2.97	内格窓切替	構造組合	-	-	0.23	0.23	漏れ注入系	漏れ注入ポンプ	橢花封緘	-	1.74	0.13	漏れ注入系	漏れ注入ポンプ	橢花封緘	-	0.13	0.04	漏れ注入系	ほう瓶注入タック管(ラジン)出口第 1止め所(空気供給部) 3T-51-1451, 第2止め所(空気供給部) 3T-51-1461	橢花封緘	-	2.83	1.18	漏れ注入系	構造組合	-	-	0.26	0.26	漏れ注入系	ほう瓶注入タンク	構造組合	基礎ボルト	2.32	0.19				0.21	1.21		<p>【女川】【大飯】</p> <p>■個別評価による相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プラントにより地震PRAで考慮する建屋、屋外重要土木構造物及び機器が異なり、評価対象部位や参照する耐震評価結果も異なるため、フランジリティの評価結果も異なる。</li> </ul>
起因事象／影響範囲	機器名稱	新規モード				評価指標																																																																																				
			中央船 (6)	左舷船 (5)	右舷船 (5)																																																																																					
内格窓切替	安全機能室火災警報 通事手 3T-7S-921A	橢花封緘	-	2.83	1.18																																																																																					
内格窓切替	構造組合	-	-	0.27	0.26																																																																																					
内格窓切替	構造組合	-	-	-	-																																																																																					
内格窓切替	全船艤装冷却器空気冷却装置計 3T-2611-2602	橢花封緘	-	4.30	0.14																																																																																					
内格窓切替	構造組合	-	-	0.23	0.23																																																																																					
内格窓切替	格納機器スライドイング装置制御 装置計 3T5-2933	橢花封緘	-	3.47	2.97																																																																																					
内格窓切替	構造組合	-	-	0.23	0.23																																																																																					
漏れ注入系	漏れ注入ポンプ	橢花封緘	-	1.74	0.13																																																																																					
漏れ注入系	漏れ注入ポンプ	橢花封緘	-	0.13	0.04																																																																																					
漏れ注入系	ほう瓶注入タック管(ラジン)出口第 1止め所(空気供給部) 3T-51-1451, 第2止め所(空気供給部) 3T-51-1461	橢花封緘	-	2.83	1.18																																																																																					
漏れ注入系	構造組合	-	-	0.26	0.26																																																																																					
漏れ注入系	ほう瓶注入タンク	構造組合	基礎ボルト	2.32	0.19																																																																																					
			0.21	1.21																																																																																						

## 泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について

別添3. レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震PRA

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																											
		<table border="1"> <caption>第3.2.1.②.2. 地震PRA評価対象建屋・機器リスト (23/32)</caption> <thead> <tr> <th>起因事象／影響範囲概要</th><th>機器名稱</th><th>部位モード</th><th>評価部位</th><th>相違箇所 (6)</th><th>相違方針 (6)</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>泊川空気系</td><td>泊川空気送風装置</td><td>構造</td><td>構造</td><td>β<sub>s</sub> 8.17 0.09</td><td>β<sub>s</sub> 8.17 0.17</td></tr> <tr> <td>泊川空気系</td><td>制御用空気送風機</td><td>構造</td><td>構造</td><td>3.06 0.14 0.23</td><td>2.01 6.37 0.09</td></tr> <tr> <td>泊川空気系</td><td>制御用空気止端機</td><td>構造</td><td>取付ボルト</td><td>4.46 0.17</td><td>4.46 2.42</td></tr> <tr> <td>泊川空気系</td><td>制御用空気止端機各部品</td><td>構造</td><td>取付ボルト</td><td>42.2 0.99 0.17</td><td>28.33 3.35 5.35</td></tr> <tr> <td>泊川空気系</td><td>制御用空気系統</td><td>構造</td><td>配管本体</td><td>0.31 0.35</td><td>1.85</td></tr> <tr> <td>泊川空気系</td><td>制御用空気止端機</td><td>構造</td><td>構造</td><td>0.09 0.17</td><td>2.11</td></tr> <tr> <td>泊川空気系</td><td>制御用空気止端機</td><td>構造</td><td>-</td><td>0.11 2.27 0.14</td><td>1.45</td></tr> <tr> <td>泊川空気系</td><td>制御用空気止端機</td><td>構造</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td></tr> <tr> <td>泊川空気系</td><td>制御用空気止端機</td><td>構造</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td></tr> </tbody> </table> <p>【女川】【大飯】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■個別評価による相違             <ul style="list-style-type: none"> <li>・プラントにより地震PRAで考慮する建屋、屋外重要土木構造物及び機器が異なり、評価対象部位や参照する耐震評価結果も異なるため、フランジリティの評価結果も異なる</li> </ul> </li> </ul>	起因事象／影響範囲概要	機器名稱	部位モード	評価部位	相違箇所 (6)	相違方針 (6)	泊川空気系	泊川空気送風装置	構造	構造	β <sub>s</sub> 8.17 0.09	β <sub>s</sub> 8.17 0.17	泊川空気系	制御用空気送風機	構造	構造	3.06 0.14 0.23	2.01 6.37 0.09	泊川空気系	制御用空気止端機	構造	取付ボルト	4.46 0.17	4.46 2.42	泊川空気系	制御用空気止端機各部品	構造	取付ボルト	42.2 0.99 0.17	28.33 3.35 5.35	泊川空気系	制御用空気系統	構造	配管本体	0.31 0.35	1.85	泊川空気系	制御用空気止端機	構造	構造	0.09 0.17	2.11	泊川空気系	制御用空気止端機	構造	-	0.11 2.27 0.14	1.45	泊川空気系	制御用空気止端機	構造	-	-	-	泊川空気系	制御用空気止端機	構造	-	-	-
起因事象／影響範囲概要	機器名稱	部位モード	評価部位	相違箇所 (6)	相違方針 (6)																																																									
泊川空気系	泊川空気送風装置	構造	構造	β <sub>s</sub> 8.17 0.09	β <sub>s</sub> 8.17 0.17																																																									
泊川空気系	制御用空気送風機	構造	構造	3.06 0.14 0.23	2.01 6.37 0.09																																																									
泊川空気系	制御用空気止端機	構造	取付ボルト	4.46 0.17	4.46 2.42																																																									
泊川空気系	制御用空気止端機各部品	構造	取付ボルト	42.2 0.99 0.17	28.33 3.35 5.35																																																									
泊川空気系	制御用空気系統	構造	配管本体	0.31 0.35	1.85																																																									
泊川空気系	制御用空気止端機	構造	構造	0.09 0.17	2.11																																																									
泊川空気系	制御用空気止端機	構造	-	0.11 2.27 0.14	1.45																																																									
泊川空気系	制御用空気止端機	構造	-	-	-																																																									
泊川空気系	制御用空気止端機	構造	-	-	-																																																									

## 泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について

別添3. レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震PRA

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																								
		<table border="1"> <caption>第3.2.1-a-5表 地震PRA評価対象部位・機器リスト (24/32)</caption> <thead> <tr> <th rowspan="2">起因事象／影響範囲と箇所</th> <th rowspan="2">機器名稱</th> <th rowspan="2">損傷モード</th> <th colspan="3">評価部位</th> <th rowspan="2">Y3号炉</th> </tr> <tr> <th>中央直立柱</th> <th><math>\beta_{\text{m}}</math></th> <th>HCLPF (G)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>制御用空気系</td> <td>制御用空気止端装置合流ファン 3NS12A</td> <td>機器損傷</td> <td>-</td> <td>2.06</td> <td>1.21</td> </tr> <tr> <td>制御用空気系</td> <td>制御用空気止端装置合流ファン 3NS12A</td> <td>構造損傷</td> <td>0.13</td> <td>0.13</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>制御用空気系</td> <td>制御用空気止端装置合流ファン 3NS12A</td> <td>機器取付けボルト</td> <td>0.19</td> <td>27.09</td> <td>17.63</td> </tr> <tr> <td>制御用空気系</td> <td>制御用空気止端装置合流ファン 3NS12A</td> <td>機器損傷</td> <td>0.06</td> <td>0.06</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>制御用空気系</td> <td>制御用空気止端装置合流ファン 3NS12A</td> <td>構造損傷</td> <td>0.17</td> <td>2.50</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>制御用空気系</td> <td>制御用空気止端装置合流ファン 3NS12A</td> <td>ケーリング</td> <td>0.19</td> <td>1.31</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>制御用空気系</td> <td>制御用空気止端装置合流ファン 3NS12A</td> <td>構造損傷</td> <td>0.20</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>制御用空気系</td> <td>制御用空気止端装置合流ファン 3NS12A</td> <td>ダクト本体</td> <td>0.35</td> <td>2.65</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>制御用空気系</td> <td>制御用空気止端装置合流ファン 3NS12A</td> <td>機器損傷</td> <td>0.31</td> <td>0.91</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>制御用空気系</td> <td>制御用空気止端装置合流ファン 3NS12A</td> <td>ペーン</td> <td>1.79</td> <td>0.91</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>制御用空気系</td> <td>制御用空気止端装置合流ファン 3NS12A</td> <td>構造損傷</td> <td>0.19</td> <td>0.20</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>制御用空気系</td> <td>制御用空気止端装置合流ファン 3NS12A</td> <td>集塵部</td> <td>4.49</td> <td>2.35</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>制御用空気系</td> <td>制御用空気止端装置合流ファン 3NS12A</td> <td>構造損傷</td> <td>0.19</td> <td>0.20</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table> <p>【女川】【大飯】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■個別評価による相違             <ul style="list-style-type: none"> <li>・プラントにより地震PRAで考慮する建屋、屋外重要土木構造物及び機器が異なり、評価対象部位や参照する耐震評価結果も異なるため、フランジリティの評価結果も異なる</li> </ul> </li> </ul>	起因事象／影響範囲と箇所	機器名稱	損傷モード	評価部位			Y3号炉	中央直立柱	$\beta_{\text{m}}$	HCLPF (G)	制御用空気系	制御用空気止端装置合流ファン 3NS12A	機器損傷	-	2.06	1.21	制御用空気系	制御用空気止端装置合流ファン 3NS12A	構造損傷	0.13	0.13	-	制御用空気系	制御用空気止端装置合流ファン 3NS12A	機器取付けボルト	0.19	27.09	17.63	制御用空気系	制御用空気止端装置合流ファン 3NS12A	機器損傷	0.06	0.06	-	制御用空気系	制御用空気止端装置合流ファン 3NS12A	構造損傷	0.17	2.50	-	制御用空気系	制御用空気止端装置合流ファン 3NS12A	ケーリング	0.19	1.31	-	制御用空気系	制御用空気止端装置合流ファン 3NS12A	構造損傷	0.20	-	-	制御用空気系	制御用空気止端装置合流ファン 3NS12A	ダクト本体	0.35	2.65	-	制御用空気系	制御用空気止端装置合流ファン 3NS12A	機器損傷	0.31	0.91	-	制御用空気系	制御用空気止端装置合流ファン 3NS12A	ペーン	1.79	0.91	-	制御用空気系	制御用空気止端装置合流ファン 3NS12A	構造損傷	0.19	0.20	-	制御用空気系	制御用空気止端装置合流ファン 3NS12A	集塵部	4.49	2.35	-	制御用空気系	制御用空気止端装置合流ファン 3NS12A	構造損傷	0.19	0.20	-	
起因事象／影響範囲と箇所	機器名稱	損傷モード				評価部位				Y3号炉																																																																																	
			中央直立柱	$\beta_{\text{m}}$	HCLPF (G)																																																																																						
制御用空気系	制御用空気止端装置合流ファン 3NS12A	機器損傷	-	2.06	1.21																																																																																						
制御用空気系	制御用空気止端装置合流ファン 3NS12A	構造損傷	0.13	0.13	-																																																																																						
制御用空気系	制御用空気止端装置合流ファン 3NS12A	機器取付けボルト	0.19	27.09	17.63																																																																																						
制御用空気系	制御用空気止端装置合流ファン 3NS12A	機器損傷	0.06	0.06	-																																																																																						
制御用空気系	制御用空気止端装置合流ファン 3NS12A	構造損傷	0.17	2.50	-																																																																																						
制御用空気系	制御用空気止端装置合流ファン 3NS12A	ケーリング	0.19	1.31	-																																																																																						
制御用空気系	制御用空気止端装置合流ファン 3NS12A	構造損傷	0.20	-	-																																																																																						
制御用空気系	制御用空気止端装置合流ファン 3NS12A	ダクト本体	0.35	2.65	-																																																																																						
制御用空気系	制御用空気止端装置合流ファン 3NS12A	機器損傷	0.31	0.91	-																																																																																						
制御用空気系	制御用空気止端装置合流ファン 3NS12A	ペーン	1.79	0.91	-																																																																																						
制御用空気系	制御用空気止端装置合流ファン 3NS12A	構造損傷	0.19	0.20	-																																																																																						
制御用空気系	制御用空気止端装置合流ファン 3NS12A	集塵部	4.49	2.35	-																																																																																						
制御用空気系	制御用空気止端装置合流ファン 3NS12A	構造損傷	0.19	0.20	-																																																																																						

## 泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について

別添 3. レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震PRA

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																			
		<table border="1"> <caption>第3.2.1-5表 地震PRA 評価対象建屋・機器リスト (25/32)</caption> <thead> <tr> <th rowspan="2">機器分類／ 設備名</th> <th rowspan="2">機器名称</th> <th rowspan="2">損傷モード</th> <th colspan="2">泊3号炉</th> </tr> <tr> <th>評価部位</th> <th>中央値(G)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>制御用空気系</td> <td>制御用空気圧縮機(内空気圧度計 37S-2702, 2703)</td> <td>機能損傷</td> <td>3.1 3.1</td> <td>HCLPP (G)</td> </tr> <tr> <td>制御用空気系</td> <td>制御用空気圧縮機(外空気圧度計 節ダンバ)ハンドル設定器 3HC-2701</td> <td>機能損傷</td> <td>4.10 0.14</td> <td>2.22</td> </tr> <tr> <td>制御用空気系</td> <td>加圧器(正)制御系 0.5, 0.6, 0.7</td> <td>機能損傷</td> <td>0.23 -</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>加圧器(正)制御系 0.52A, B)</td> <td>加圧器遮断弁(空気圧開閉弁) 3PCV- 3 A, B, C - ト蒸気遮断弁 3PCV-3610, 3620, 3630</td> <td>機能損傷</td> <td>7.53 0.14</td> <td>4.08</td> </tr> <tr> <td>主蒸気正圧制御系</td> <td>電動制動水ポンプ</td> <td>機能損傷</td> <td>3.73 0.24</td> <td>1.59</td> </tr> <tr> <td>電動制動水ポンプ</td> <td>電動制動水ポンプ出入口制御弁 盤</td> <td>機能損傷</td> <td>2.83 0.27</td> <td>1.18</td> </tr> <tr> <td>電動制動水ポンプ</td> <td>電動制動水ポンプ</td> <td>機能損傷</td> <td>0.25 0.19</td> <td>0.02</td> </tr> <tr> <td>電動制動水ポンプ</td> <td>電動制動水ポンプ出入口制御弁 盤</td> <td>機能損傷</td> <td>0.14 0.23</td> <td>2.21</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>其他ボルト</td> <td>0.19 11.61</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>【女川】【大飯】      ■個別評価による相違      •プラントにより地震PRAで考慮する建屋、屋外重要土木構造物及び機器が異なり、評価対象部位や参照する耐震評価結果も異なるため、フランジティの評価結果も異なる</p>	機器分類／ 設備名	機器名称	損傷モード	泊3号炉		評価部位	中央値(G)	制御用空気系	制御用空気圧縮機(内空気圧度計 37S-2702, 2703)	機能損傷	3.1 3.1	HCLPP (G)	制御用空気系	制御用空気圧縮機(外空気圧度計 節ダンバ)ハンドル設定器 3HC-2701	機能損傷	4.10 0.14	2.22	制御用空気系	加圧器(正)制御系 0.5, 0.6, 0.7	機能損傷	0.23 -	-	加圧器(正)制御系 0.52A, B)	加圧器遮断弁(空気圧開閉弁) 3PCV- 3 A, B, C - ト蒸気遮断弁 3PCV-3610, 3620, 3630	機能損傷	7.53 0.14	4.08	主蒸気正圧制御系	電動制動水ポンプ	機能損傷	3.73 0.24	1.59	電動制動水ポンプ	電動制動水ポンプ出入口制御弁 盤	機能損傷	2.83 0.27	1.18	電動制動水ポンプ	電動制動水ポンプ	機能損傷	0.25 0.19	0.02	電動制動水ポンプ	電動制動水ポンプ出入口制御弁 盤	機能損傷	0.14 0.23	2.21			其他ボルト	0.19 11.61	
機器分類／ 設備名	機器名称	損傷モード				泊3号炉																																																
			評価部位	中央値(G)																																																		
制御用空気系	制御用空気圧縮機(内空気圧度計 37S-2702, 2703)	機能損傷	3.1 3.1	HCLPP (G)																																																		
制御用空気系	制御用空気圧縮機(外空気圧度計 節ダンバ)ハンドル設定器 3HC-2701	機能損傷	4.10 0.14	2.22																																																		
制御用空気系	加圧器(正)制御系 0.5, 0.6, 0.7	機能損傷	0.23 -	-																																																		
加圧器(正)制御系 0.52A, B)	加圧器遮断弁(空気圧開閉弁) 3PCV- 3 A, B, C - ト蒸気遮断弁 3PCV-3610, 3620, 3630	機能損傷	7.53 0.14	4.08																																																		
主蒸気正圧制御系	電動制動水ポンプ	機能損傷	3.73 0.24	1.59																																																		
電動制動水ポンプ	電動制動水ポンプ出入口制御弁 盤	機能損傷	2.83 0.27	1.18																																																		
電動制動水ポンプ	電動制動水ポンプ	機能損傷	0.25 0.19	0.02																																																		
電動制動水ポンプ	電動制動水ポンプ出入口制御弁 盤	機能損傷	0.14 0.23	2.21																																																		
		其他ボルト	0.19 11.61																																																			

## 泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について

別添3. レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震PRA

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由					
		<table border="1"> <caption>第3.2.1-a-5表 地震PRA 評価対象選定・機器リスト (26/32)</caption> <thead> <tr> <th rowspan="2">機器番号／ 影響範囲機器</th> <th rowspan="2">機器名称</th> <th rowspan="2">損傷モード</th> <th colspan="2">評価部位</th> <th rowspan="2">中央値(6) β<sub>1</sub>, β<sub>2</sub>, β<sub>3</sub>, β<sub>4</sub>, β<sub>5</sub>, β<sub>6</sub>, β<sub>7</sub>, β<sub>8</sub>, β<sub>9</sub>, β<sub>10</sub>, β<sub>11</sub>, β<sub>12</sub>, β<sub>13</sub>, β<sub>14</sub>, β<sub>15</sub>, β<sub>16</sub>, β<sub>17</sub>, β<sub>18</sub>, β<sub>19</sub>, β<sub>20</sub>, β<sub>21</sub>, β<sub>22</sub>, β<sub>23</sub>, β<sub>24</sub>, β<sub>25</sub>, β<sub>26</sub>, β<sub>27</sub>, β<sub>28</sub>, β<sub>29</sub>, β<sub>30</sub>, β<sub>31</sub>, β<sub>32</sub>, β<sub>33</sub>, β<sub>34</sub>, β<sub>35</sub>, β<sub>36</sub>, β<sub>37</sub>, β<sub>38</sub>, β<sub>39</sub>, β<sub>40</sub>, β<sub>41</sub>, β<sub>42</sub>, β<sub>43</sub>, β<sub>44</sub>, β<sub>45</sub>, β<sub>46</sub>, β<sub>47</sub>, β<sub>48</sub>, β<sub>49</sub>, β<sub>50</sub>, β<sub>51</sub>, β<sub>52</sub>, β<sub>53</sub>, β<sub>54</sub>, β<sub>55</sub>, β<sub>56</sub>, β<sub>57</sub>, β<sub>58</sub>, β<sub>59</sub>, β<sub>60</sub>, β<sub>61</sub>, β<sub>62</sub>, β<sub>63</sub>, β<sub>64</sub>, β<sub>65</sub>, β<sub>66</sub>, β<sub>67</sub>, β<sub>68</sub>, β<sub>69</sub>, β<sub>70</sub>, β<sub>71</sub>, β<sub>72</sub>, β<sub>73</sub>, β<sub>74</sub>, β<sub>75</sub>, β<sub>76</sub>, β<sub>77</sub>, β<sub>78</sub>, β<sub>79</sub>, β<sub>80</sub>, β<sub>81</sub>, β<sub>82</sub>, β<sub>83</sub>, β<sub>84</sub>, β<sub>85</sub>, β<sub>86</sub>, β<sub>87</sub>, β<sub>88</sub>, β<sub>89</sub>, β<sub>90</sub>, β<sub>91</sub>, β<sub>92</sub>, β<sub>93</sub>, β<sub>94</sub>, β<sub>95</sub>, β<sub>96</sub>, β<sub>97</sub>, β<sub>98</sub>, β<sub>99</sub>, β<sub>100</sub>, β<sub>101</sub>, β<sub>102</sub>, β<sub>103</sub>, β<sub>104</sub>, β<sub>105</sub>, β<sub>106</sub>, β<sub>107</sub>, β<sub>108</sub>, β<sub>109</sub>, β<sub>110</sub>, β<sub>111</sub>, β<sub>112</sub>, β<sub>113</sub>, β<sub>114</sub>, β<sub>115</sub>, β<sub>116</sub>, β<sub>117</sub>, β<sub>118</sub>, β<sub>119</sub>, β<sub>120</sub>, β<sub>121</sub>, β<sub>122</sub>, β<sub>123</sub>, β<sub>124</sub>, β<sub>125</sub>, β<sub>126</sub>, β<sub>127</sub>, β<sub>128</sub>, β<sub>129</sub>, β<sub>130</sub>, β<sub>131</sub>, β<sub>132</sub>, β<sub>133</sub>, β<sub>134</sub>, β<sub>135</sub>, β<sub>136</sub>, β<sub>137</sub>, β<sub>138</sub>, β<sub>139</sub>, β<sub>140</sub>, β<sub>141</sub>, β<sub>142</sub>, β<sub>143</sub>, β<sub>144</sub>, β<sub>145</sub>, β<sub>146</sub>, β<sub>147</sub>, β<sub>148</sub>, β<sub>149</sub>, β<sub>150</sub>, β<sub>151</sub>, β<sub>152</sub>, β<sub>153</sub>, β<sub>154</sub>, β<sub>155</sub>, β<sub>156</sub>, β<sub>157</sub>, β<sub>158</sub>, β<sub>159</sub>, β<sub>160</sub>, β<sub>161</sub>, β<sub>162</sub>, β<sub>163</sub>, β<sub>164</sub>, β<sub>165</sub>, β<sub>166</sub>, β<sub>167</sub>, β<sub>168</sub>, β<sub>169</sub>, β<sub>170</sub>, β<sub>171</sub>, β<sub>172</sub>, β<sub>173</sub>, β<sub>174</sub>, β<sub>175</sub>, β<sub>176</sub>, β<sub>177</sub>, β<sub>178</sub>, β<sub>179</sub>, β<sub>180</sub>, β<sub>181</sub>, β<sub>182</sub>, β<sub>183</sub>, β<sub>184</sub>, β<sub>185</sub>, β<sub>186</sub>, β<sub>187</sub>, β<sub>188</sub>, β<sub>189</sub>, β<sub>190</sub>, β<sub>191</sub>, β<sub>192</sub>, β<sub>193</sub>, β<sub>194</sub>, β<sub>195</sub>, β<sub>196</sub>, β<sub>197</sub>, β<sub>198</sub>, β<sub>199</sub>, β<sub>200</sub>, β<sub>201</sub>, β<sub>202</sub>, β<sub>203</sub>, β<sub>204</sub>, β<sub>205</sub>, β<sub>206</sub>, β<sub>207</sub>, β<sub>208</sub>, β<sub>209</sub>, β<sub>210</sub>, β<sub>211</sub>, β<sub>212</sub>, β<sub>213</sub>, β<sub>214</sub>, β<sub>215</sub>, β<sub>216</sub>, β<sub>217</sub>, β<sub>218</sub>, β<sub>219</sub>, β<sub>220</sub>, β<sub>221</sub>, β<sub>222</sub>, β<sub>223</sub>, β<sub>224</sub>, β<sub>225</sub>, β<sub>226</sub>, β<sub>227</sub>, β<sub>228</sub>, β<sub>229</sub>, β<sub>230</sub>, β<sub>231</sub>, β<sub>232</sub>, β<sub>233</sub>, β<sub>234</sub>, β<sub>235</sub>, β<sub>236</sub>, β<sub>237</sub>, β<sub>238</sub>, β<sub>239</sub>, β<sub>240</sub>, β<sub>241</sub>, β<sub>242</sub>, β<sub>243</sub>, β<sub>244</sub>, β<sub>245</sub>, β<sub>246</sub>, β<sub>247</sub>, β<sub>248</sub>, β<sub>249</sub>, β<sub>250</sub>, β<sub>251</sub>, β<sub>252</sub>, β<sub>253</sub>, β<sub>254</sub>, β<sub>255</sub>, β<sub>256</sub>, β<sub>257</sub>, β<sub>258</sub>, β<sub>259</sub>, β<sub>260</sub>, β<sub>261</sub>, β<sub>262</sub>, β<sub>263</sub>, β<sub>264</sub>, β<sub>265</sub>, β<sub>266</sub>, β<sub>267</sub>, β<sub>268</sub>, β<sub>269</sub>, β<sub>270</sub>, β<sub>271</sub>, β<sub>272</sub>, β<sub>273</sub>, β<sub>274</sub>, β<sub>275</sub>, β<sub>276</sub>, β<sub>277</sub>, β<sub>278</sub>, β<sub>279</sub>, β<sub>280</sub>, β<sub>281</sub>, β<sub>282</sub>, β<sub>283</sub>, β<sub>284</sub>, β<sub>285</sub>, β<sub>286</sub>, β<sub>287</sub>, β<sub>288</sub>, β<sub>289</sub>, β<sub>290</sub>, β<sub>291</sub>, β<sub>292</sub>, β<sub>293</sub>, β<sub>294</sub>, β<sub>295</sub>, β<sub>296</sub>, β<sub>297</sub>, β<sub>298</sub>, β<sub>299</sub>, β<sub>300</sub>, β<sub>301</sub>, β<sub>302</sub>, β<sub>303</sub>, β<sub>304</sub>, β<sub>305</sub>, β<sub>306</sub>, β<sub>307</sub>, β<sub>308</sub>, β<sub>309</sub>, β<sub>310</sub>, β<sub>311</sub>, β<sub>312</sub>, β<sub>313</sub>, β<sub>314</sub>, β<sub>315</sub>, β<sub>316</sub>, β<sub>317</sub>, β<sub>318</sub>, β<sub>319</sub>, β<sub>320</sub>, β<sub>321</sub>, β<sub>322</sub>, β<sub>323</sub>, β<sub>324</sub>, β<sub>325</sub>, β<sub>326</sub>, β<sub>327</sub>, β<sub>328</sub>, β<sub>329</sub>, β<sub>330</sub>, β<sub>331</sub>, β<sub>332</sub>, β<sub>333</sub>, β<sub>334</sub>, β<sub>335</sub>, β<sub>336</sub>, β<sub>337</sub>, β<sub>338</sub>, β<sub>339</sub>, β<sub>340</sub>, β<sub>341</sub>, β<sub>342</sub>, β<sub>343</sub>, β<sub>344</sub>, β<sub>345</sub>, β<sub>346</sub>, β<sub>347</sub>, β<sub>348</sub>, β<sub>349</sub>, β<sub>350</sub>, β<sub>351</sub>, β<sub>352</sub>, β<sub>353</sub>, β<sub>354</sub>, β<sub>355</sub>, β<sub>356</sub>, β<sub>357</sub>, β<sub>358</sub>, β<sub>359</sub>, β<sub>360</sub>, β<sub>361</sub>, β<sub>362</sub>, β<sub>363</sub>, β<sub>364</sub>, β<sub>365</sub>, β<sub>366</sub>, β<sub>367</sub>, β<sub>368</sub>, β<sub>369</sub>, β<sub>370</sub>, β<sub>371</sub>, β<sub>372</sub>, β<sub>373</sub>, β<sub>374</sub>, β<sub>375</sub>, β<sub>376</sub>, β<sub>377</sub>, β<sub>378</sub>, β<sub>379</sub>, β<sub>380</sub>, β<sub>381</sub>, β<sub>382</sub>, β<sub>383</sub>, β<sub>384</sub>, β<sub>385</sub>, β<sub>386</sub>, β<sub>387</sub>, β<sub>388</sub>, β<sub>389</sub>, β<sub>390</sub>, β<sub>391</sub>, β<sub>392</sub>, β<sub>393</sub>, β<sub>394</sub>, β<sub>395</sub>, β<sub>396</sub>, β<sub>397</sub>, β<sub>398</sub>, β<sub>399</sub>, β<sub>400</sub>, β<sub>401</sub>, β<sub>402</sub>, β<sub>403</sub>, β<sub>404</sub>, β<sub>405</sub>, β<sub>406</sub>, β<sub>407</sub>, β<sub>408</sub>, β<sub>409</sub>, β<sub>410</sub>, β<sub>411</sub>, β<sub>412</sub>, β<sub>413</sub>, β<sub>414</sub>, β<sub>415</sub>, β<sub>416</sub>, β<sub>417</sub>, β<sub>418</sub>, β<sub>419</sub>, β<sub>420</sub>, β<sub>421</sub>, β<sub>422</sub>, β<sub>423</sub>, β<sub>424</sub>, β<sub>425</sub>, β<sub>426</sub>, β<sub>427</sub>, β<sub>428</sub>, β<sub>429</sub>, β<sub>430</sub>, β<sub>431</sub>, β<sub>432</sub>, β<sub>433</sub>, β<sub>434</sub>, β<sub>435</sub>, β<sub>436</sub>, β<sub>437</sub>, β<sub>438</sub>, β<sub>439</sub>, β<sub>440</sub>, β<sub>441</sub>, β<sub>442</sub>, β<sub>443</sub>, β<sub>444</sub>, β<sub>445</sub>, β<sub>446</sub>, β<sub>447</sub>, β<sub>448</sub>, β<sub>449</sub>, β<sub>450</sub>, β<sub>451</sub>, β<sub>452</sub>, β<sub>453</sub>, β<sub>454</sub>, β<sub>455</sub>, β<sub>456</sub>, β<sub>457</sub>, β<sub>458</sub>, β<sub>459</sub>, β<sub>460</sub>, β<sub>461</sub>, β<sub>462</sub>, β<sub>463</sub>, β<sub>464</sub>, β<sub>465</sub>, β<sub>466</sub>, β<sub>467</sub>, β<sub>468</sub>, β<sub>469</sub>, β<sub>470</sub>, β<sub>471</sub>, β<sub>472</sub>, β<sub>473</sub>, β<sub>474</sub>, β<sub>475</sub>, β<sub>476</sub>, β<sub>477</sub>, β<sub>478</sub>, β<sub>479</sub>, β<sub>480</sub>, β<sub>481</sub>, β<sub>482</sub>, β<sub>483</sub>, β<sub>484</sub>, β<sub>485</sub>, β<sub>486</sub>, β<sub>487</sub>, β<sub>488</sub>, β<sub>489</sub>, β<sub>490</sub>, β<sub>491</sub>, β<sub>492</sub>, β<sub>493</sub>, β<sub>494</sub>, β<sub>495</sub>, β<sub>496</sub>, β<sub>497</sub>, β<sub>498</sub>, β<sub>499</sub>, β<sub>500</sub>, β<sub>501</sub>, β<sub>502</sub>, β<sub>503</sub>, β<sub>504</sub>, β<sub>505</sub>, β<sub>506</sub>, β<sub>507</sub>, β<sub>508</sub>, β<sub>509</sub>, β<sub>510</sub>, β<sub>511</sub>, β<sub>512</sub>, β<sub>513</sub>, β<sub>514</sub>, β<sub>515</sub>, β<sub>516</sub>, β<sub>517</sub>, β<sub>518</sub>, β<sub>519</sub>, β<sub>520</sub>, β<sub>521</sub>, β<sub>522</sub>, β<sub>523</sub>, β<sub>524</sub>, β<sub>525</sub>, β<sub>526</sub>, β<sub>527</sub>, β<sub>528</sub>, β<sub>529</sub>, β<sub>530</sub>, β<sub>531</sub>, β<sub>532</sub>, β<sub>533</sub>, β<sub>534</sub>, β<sub>535</sub>, β<sub>536</sub>, β<sub>537</sub>, β<sub>538</sub>, β<sub>539</sub>, β<sub>540</sub>, β<sub>541</sub>, β<sub>542</sub>, β<sub>543</sub>, β<sub>544</sub>, β<sub>545</sub>, β<sub>546</sub>, β<sub>547</sub>, β<sub>548</sub>, β<sub>549</sub>, β<sub>550</sub>, β<sub>551</sub>, β<sub>552</sub>, β<sub>553</sub>, β<sub>554</sub>, β<sub>555</sub>, β<sub>556</sub>, β<sub>557</sub>, β<sub>558</sub>, β<sub>559</sub>, β<sub>560</sub>, β<sub>561</sub>, β<sub>562</sub>, β<sub>563</sub>, β<sub>564</sub>, β<sub>565</sub>, β<sub>566</sub>, β<sub>567</sub>, β<sub>568</sub>, β<sub>569</sub>, β<sub>570</sub>, β<sub>571</sub>, β<sub>572</sub>, β<sub>573</sub>, β<sub>574</sub>, β<sub>575</sub>, β<sub>576</sub>, β<sub>577</sub>, β<sub>578</sub>, β<sub>579</sub>, β<sub>580</sub>, β<sub>581</sub>, β<sub>582</sub>, β<sub>583</sub>, β<sub>584</sub>, β<sub>585</sub>, β<sub>586</sub>, β<sub>587</sub>, β<sub>588</sub>, β<sub>589</sub>, β<sub>590</sub>, β<sub>591</sub>, β<sub>592</sub>, β<sub>593</sub>, β<sub>594</sub>, β<sub>595</sub>, β<sub>596</sub>, β<sub>597</sub>, β<sub>598</sub>, β<sub>599</sub>, β<sub>600</sub>, β<sub>601</sub>, β<sub>602</sub>, β<sub>603</sub>, β<sub>604</sub>, β<sub>605</sub>, β<sub>606</sub>, β<sub>607</sub>, β<sub>608</sub>, β<sub>609</sub>, β<sub>610</sub>, β<sub>611</sub>, β<sub>612</sub>, β<sub>613</sub>, β<sub>614</sub>, β<sub>615</sub>, β<sub>616</sub>, β<sub>617</sub>, β<sub>618</sub>, β<sub>619</sub>, β<sub>620</sub>, β<sub>621</sub>, β<sub>622</sub>, β<sub>623</sub>, β<sub>624</sub>, β<sub>625</sub>, β<sub>626</sub>, β<sub>627</sub>, β<sub>628</sub>, β<sub>629</sub>, β<sub>630</sub>, β<sub>631</sub>, β<sub>632</sub>, β<sub>633</sub>, β<sub>634</sub>, β<sub>635</sub>, β<sub>636</sub>, β<sub>637</sub>, β<sub>638</sub>, β<sub>639</sub>, β<sub>640</sub>, β<sub>641</sub>, β<sub>642</sub>, β<sub>643</sub>, β<sub>644</sub>, β<sub>645</sub>, β<sub>646</sub>, β<sub>647</sub>, β<sub>648</sub>, β<sub>649</sub>, β<sub>650</sub>, β<sub>651</sub>, β<sub>652</sub>, β<sub>653</sub>, β<sub>654</sub>, β<sub>655</sub>, β<sub>656</sub>, β<sub>657</sub>, β<sub>658</sub>, β<sub>659</sub>, β<sub>660</sub>, β<sub>661</sub>, β<sub>662</sub>, β<sub>663</sub>, β<sub>664</sub>, β<sub>665</sub>, β<sub>666</sub>, β<sub>667</sub>, β<sub>668</sub>, β<sub>669</sub>, β<sub>670</sub>, β<sub>671</sub>, β<sub>672</sub>, β<sub>673</sub>, β<sub>674</sub>, β<sub>675</sub>, β<sub>676</sub>, β<sub>677</sub>, β<sub>678</sub>, β<sub>679</sub>, β<sub>680</sub>, β<sub>681</sub>, β<sub>682</sub>, β<sub>683</sub>, β<sub>684</sub>, β<sub>685</sub>, β<sub>686</sub>, β<sub>687</sub>, β<sub>688</sub>, β<sub>689</sub>, β<sub>690</sub>, β<sub>691</sub>, β<sub>692</sub>, β<sub>693</sub>, β<sub>694</sub>, β<sub>695</sub>, β<sub>696</sub>, β<sub>697</sub>, β<sub>698</sub>, β<sub>699</sub>, β<sub>700</sub>, β<sub>701</sub>, β<sub>702</sub>, β<sub>703</sub>, β<sub>704</sub>, β<sub>705</sub>, β<sub>706</sub>, β<sub>707</sub>, β<sub>708</sub>, β<sub>709</sub>, β<sub>710</sub>, β<sub>711</sub>, β<sub>712</sub>, β<sub>713</sub>, β<sub>714</sub>, β<sub>715</sub>, β<sub>716</sub>, β<sub>717</sub>, β<sub>718</sub>, β<sub>719</sub>, β<sub>720</sub>, β<sub>721</sub>, β<sub>722</sub>, β<sub>723</sub>, β<sub>724</sub>, β<sub>725</sub>, β<sub>726</sub>, β<sub>727</sub>, β<sub>728</sub>, β<sub>729</sub>, β<sub>730</sub>, β<sub>731</sub>, β<sub>732</sub>, β<sub>733</sub>, β<sub>734</sub>, β<sub>735</sub>, β<sub>736</sub>, β<sub>737</sub>, β<sub>738</sub>, β<sub>739</sub>, β<sub>740</sub>, β<sub>741</sub>, β<sub>742</sub>, β<sub>743</sub>, β<sub>744</sub>, β<sub>745</sub>, β<sub>746</sub>, β<sub>747</sub>, β<sub>748</sub>, β<sub>749</sub>, β<sub>750</sub>, β<sub>751</sub>, β<sub>752</sub>, β<sub>753</sub>, β<sub>754</sub>, β<sub>755</sub>, β<sub>756</sub>, β<sub>757</sub>, β<sub>758</sub>, β<sub>759</sub>, β<sub>760</sub>, β<sub>761</sub>, β<sub>762</sub>, β<sub>763</sub>, β<sub>764</sub>, β<sub>765</sub>, β<sub>766</sub>, β<sub>767</sub>, β<sub>768</sub>, β<sub>769</sub>, β<sub>770</sub>, β<sub>771</sub>, β<sub>772</sub>, β<sub>773</sub>, β<sub>774</sub>, β<sub>775</sub>, β<sub>776</sub>, β<sub>777</sub>, β<sub>778</sub>, β<sub>779</sub>, β<sub>780</sub>, β<sub>781</sub>, β<sub>782</sub>, β<sub>783</sub>, β<sub>784</sub>, β<sub>785</sub>, β<sub>786</sub>, β<sub>787</sub>, β<sub>788</sub>, β<sub>789</sub>, β<sub>790</sub>, β<sub>791</sub>, β<sub>792</sub>, β<sub>793</sub>, β<sub>794</sub>, β<sub>795</sub>, β<sub>796</sub>, β<sub>797</sub>, β<sub>798</sub>, β<sub>799</sub>, β<sub>800</sub>, β<sub>801</sub>, β<sub>802</sub>, β<sub>803</sub>, β<sub>804</sub>, β<sub>805</sub>, β<sub>806</sub>, β<sub>807</sub>, β<sub>808</sub>, β<sub>809</sub>, β<sub>810</sub>, β<sub>811</sub>, β<sub>812</sub>, β<sub>813</sub>, β<sub>814</sub>, β<sub>815</sub>, β<sub>816</sub>, β<sub>817</sub>, β<sub>818</sub>, β<sub>81</sub></th></tr></thead></table>	機器番号／ 影響範囲機器	機器名称	損傷モード	評価部位		中央値(6) β <sub>1</sub> , β <sub>2</sub> , β <sub>3</sub> , β <sub>4</sub> , β <sub>5</sub> , β <sub>6</sub> , β <sub>7</sub> , β <sub>8</sub> , β <sub>9</sub> , β <sub>10</sub> , β <sub>11</sub> , β <sub>12</sub> , β <sub>13</sub> , β <sub>14</sub> , β <sub>15</sub> , β <sub>16</sub> , β <sub>17</sub> , β <sub>18</sub> , β <sub>19</sub> , β <sub>20</sub> , β <sub>21</sub> , β <sub>22</sub> , β <sub>23</sub> , β <sub>24</sub> , β <sub>25</sub> , β <sub>26</sub> , β <sub>27</sub> , β <sub>28</sub> , β <sub>29</sub> , β <sub>30</sub> , β <sub>31</sub> , β <sub>32</sub> , β <sub>33</sub> , β <sub>34</sub> , β <sub>35</sub> , β <sub>36</sub> , β <sub>37</sub> , β <sub>38</sub> , β <sub>39</sub> , β <sub>40</sub> , β <sub>41</sub> , β <sub>42</sub> , β <sub>43</sub> , β <sub>44</sub> , β <sub>45</sub> , β <sub>46</sub> , β <sub>47</sub> , β <sub>48</sub> , β <sub>49</sub> , β <sub>50</sub> , β <sub>51</sub> , β <sub>52</sub> , β <sub>53</sub> , β <sub>54</sub> , β <sub>55</sub> , β <sub>56</sub> , β <sub>57</sub> , β <sub>58</sub> , β <sub>59</sub> , β <sub>60</sub> , β <sub>61</sub> , β <sub>62</sub> , β <sub>63</sub> , β <sub>64</sub> , β <sub>65</sub> , β <sub>66</sub> , β <sub>67</sub> , β <sub>68</sub> , β <sub>69</sub> , β <sub>70</sub> , β <sub>71</sub> , β <sub>72</sub> , β <sub>73</sub> , β <sub>74</sub> , β <sub>75</sub> , β <sub>76</sub> , β <sub>77</sub> , β <sub>78</sub> , β <sub>79</sub> , β <sub>80</sub> , β <sub>81</sub> , β <sub>82</sub> , β <sub>83</sub> , β <sub>84</sub> , β <sub>85</sub> , β <sub>86</sub> , β <sub>87</sub> , β <sub>88</sub> , β <sub>89</sub> , β <sub>90</sub> , β <sub>91</sub> , β <sub>92</sub> , β <sub>93</sub> , β <sub>94</sub> , β <sub>95</sub> , β <sub>96</sub> , β <sub>97</sub> , β <sub>98</sub> , β <sub>99</sub> , β <sub>100</sub> , β <sub>101</sub> , β <sub>102</sub> , β <sub>103</sub> , β <sub>104</sub> , β <sub>105</sub> , β <sub>106</sub> , β <sub>107</sub> , β <sub>108</sub> , β <sub>109</sub> , β <sub>110</sub> , β <sub>111</sub> , β <sub>112</sub> , β <sub>113</sub> , β <sub>114</sub> , β <sub>115</sub> , β <sub>116</sub> , β <sub>117</sub> , β <sub>118</sub> , β <sub>119</sub> , β <sub>120</sub> , β <sub>121</sub> , β <sub>122</sub> , β <sub>123</sub> , β <sub>124</sub> , β <sub>125</sub> , β <sub>126</sub> , β <sub>127</sub> , β <sub>128</sub> , β <sub>129</sub> , β <sub>130</sub> , β <sub>131</sub> , β <sub>132</sub> , β <sub>133</sub> , β <sub>134</sub> , β <sub>135</sub> , β <sub>136</sub> , β <sub>137</sub> , β <sub>138</sub> , β <sub>139</sub> , β <sub>140</sub> , β <sub>141</sub> , β <sub>142</sub> , β <sub>143</sub> , β <sub>144</sub> , β <sub>145</sub> , β <sub>146</sub> , β <sub>147</sub> , β <sub>148</sub> , β <sub>149</sub> , β <sub>150</sub> , β <sub>151</sub> , β <sub>152</sub> , β <sub>153</sub> , β <sub>154</sub> , β <sub>155</sub> , β <sub>156</sub> , β <sub>157</sub> , β <sub>158</sub> , β <sub>159</sub> , β <sub>160</sub> , β <sub>161</sub> , β <sub>162</sub> , β <sub>163</sub> , β <sub>164</sub> , β <sub>165</sub> , β <sub>166</sub> , β <sub>167</sub> , β <sub>168</sub> , β <sub>169</sub> , β <sub>170</sub> , β <sub>171</sub> , β <sub>172</sub> , β <sub>173</sub> , β <sub>174</sub> , β <sub>175</sub> , β <sub>176</sub> , β <sub>177</sub> , β <sub>178</sub> , β <sub>179</sub> , β <sub>180</sub> , β <sub>181</sub> , β <sub>182</sub> , β <sub>183</sub> , β <sub>184</sub> , β <sub>185</sub> , β <sub>186</sub> , β <sub>187</sub> , β <sub>188</sub> , β <sub>189</sub> , β <sub>190</sub> , β <sub>191</sub> , β <sub>192</sub> , β <sub>193</sub> , β <sub>194</sub> , β <sub>195</sub> , β <sub>196</sub> , β <sub>197</sub> , β <sub>198</sub> , β <sub>199</sub> , β <sub>200</sub> , β <sub>201</sub> , β <sub>202</sub> , β <sub>203</sub> , β <sub>204</sub> , β <sub>205</sub> , β <sub>206</sub> , β <sub>207</sub> , β <sub>208</sub> , β <sub>209</sub> , β <sub>210</sub> , β <sub>211</sub> , β <sub>212</sub> , β <sub>213</sub> , β <sub>214</sub> , β <sub>215</sub> , β <sub>216</sub> , β <sub>217</sub> , β <sub>218</sub> , β <sub>219</sub> , β <sub>220</sub> , β <sub>221</sub> , β <sub>222</sub> , β <sub>223</sub> , β <sub>224</sub> , β <sub>225</sub> , β <sub>226</sub> , β <sub>227</sub> , β <sub>228</sub> , β <sub>229</sub> , β <sub>230</sub> , β <sub>231</sub> , β <sub>232</sub> , β <sub>233</sub> , β <sub>234</sub> , β <sub>235</sub> , β <sub>236</sub> , β <sub>237</sub> , β <sub>238</sub> , β <sub>239</sub> , β <sub>240</sub> , β <sub>241</sub> , β <sub>242</sub> , β <sub>243</sub> , β <sub>244</sub> , β <sub>245</sub> , β <sub>246</sub> , β <sub>247</sub> , β <sub>248</sub> , β <sub>249</sub> , β <sub>250</sub> , β <sub>251</sub> , β <sub>252</sub> , β <sub>253</sub> , β <sub>254</sub> , β <sub>255</sub> , β <sub>256</sub> , β <sub>257</sub> , β <sub>258</sub> , β <sub>259</sub> , β <sub>260</sub> , β <sub>261</sub> , β <sub>262</sub> , β <sub>263</sub> , β <sub>264</sub> , β <sub>265</sub> , β <sub>266</sub> , β <sub>267</sub> , β <sub>268</sub> , β <sub>269</sub> , β <sub>270</sub> , β <sub>271</sub> , β <sub>272</sub> , β <sub>273</sub> , β <sub>274</sub> , β <sub>275</sub> , β <sub>276</sub> , β <sub>277</sub> , β <sub>278</sub> , β <sub>279</sub> , β <sub>280</sub> , β <sub>281</sub> , β <sub>282</sub> , β <sub>283</sub> , β <sub>284</sub> , β <sub>285</sub> , β <sub>286</sub> , β <sub>287</sub> , β <sub>288</sub> , β <sub>289</sub> , β <sub>290</sub> , β <sub>291</sub> , β <sub>292</sub> , β <sub>293</sub> , β <sub>294</sub> , β <sub>295</sub> , β <sub>296</sub> , β <sub>297</sub> , β <sub>298</sub> , β <sub>299</sub> , β <sub>300</sub> , β <sub>301</sub> , β <sub>302</sub> , β <sub>303</sub> , β <sub>304</sub> , β <sub>305</sub> , β <sub>306</sub> , β <sub>307</sub> , β <sub>308</sub> , β <sub>309</sub> , β <sub>310</sub> , β <sub>311</sub> , β <sub>312</sub> , β <sub>313</sub> , β <sub>314</sub> , β <sub>315</sub> , β <sub>316</sub> , β <sub>317</sub> , β <sub>318</sub> , β <sub>319</sub> , β <sub>320</sub> , β <sub>321</sub> , β <sub>322</sub> , β <sub>323</sub> , β <sub>324</sub> , β <sub>325</sub> , β <sub>326</sub> , β <sub>327</sub> , β <sub>328</sub> , β <sub>329</sub> , β <sub>330</sub> , β <sub>331</sub> , β <sub>332</sub> , β <sub>333</sub> , β <sub>334</sub> , β <sub>335</sub> , β <sub>336</sub> , β <sub>337</sub> , β <sub>338</sub> , β <sub>339</sub> , β <sub>340</sub> , β <sub>341</sub> , β <sub>342</sub> , β <sub>343</sub> , β <sub>344</sub> , β <sub>345</sub> , β <sub>346</sub> , β <sub>347</sub> , β <sub>348</sub> , β <sub>349</sub> , β <sub>350</sub> , β <sub>351</sub> , β <sub>352</sub> , β <sub>353</sub> , β <sub>354</sub> , β <sub>355</sub> , β <sub>356</sub> , β <sub>357</sub> , β <sub>358</sub> , β <sub>359</sub> , β <sub>360</sub> , β <sub>361</sub> , β <sub>362</sub> , β <sub>363</sub> , β <sub>364</sub> , β <sub>365</sub> , β <sub>366</sub> , β <sub>367</sub> , β <sub>368</sub> , β <sub>369</sub> , β <sub>370</sub> , β <sub>371</sub> , β <sub>372</sub> , β <sub>373</sub> , β <sub>374</sub> , β <sub>375</sub> , β <sub>376</sub> , β <sub>377</sub> , β <sub>378</sub> , β <sub>379</sub> , β <sub>380</sub> , β <sub>381</sub> , β <sub>382</sub> , β <sub>383</sub> , β <sub>384</sub> , β <sub>385</sub> , β <sub>386</sub> , β <sub>387</sub> , β <sub>388</sub> , β <sub>389</sub> , β <sub>390</sub> , β <sub>391</sub> , β <sub>392</sub> , β <sub>393</sub> , β <sub>394</sub> , β <sub>395</sub> , β <sub>396</sub> , β <sub>397</sub> , β <sub>398</sub> , β <sub>399</sub> , β <sub>400</sub> , β <sub>401</sub> , β <sub>402</sub> , β <sub>403</sub> , β <sub>404</sub> , β <sub>405</sub> , β <sub>406</sub> , β <sub>407</sub> , β <sub>408</sub> , β <sub>409</sub> , β <sub>410</sub> , β <sub>411</sub> , β <sub>412</sub> , β <sub>413</sub> , β <sub>414</sub> , β <sub>415</sub> , β <sub>416</sub> , β <sub>417</sub> , β <sub>418</sub> , β <sub>419</sub> , β <sub>420</sub> , β <sub>421</sub> , β <sub>422</sub> , β <sub>423</sub> , β <sub>424</sub> , β <sub>425</sub> , β <sub>426</sub> , β <sub>427</sub> , β <sub>428</sub> , β <sub>429</sub> , β <sub>430</sub> , β <sub>431</sub> , β <sub>432</sub> , β <sub>433</sub> , β <sub>434</sub> , β <sub>435</sub> , β <sub>436</sub> , β <sub>437</sub> , β <sub>438</sub> , β <sub>439</sub> , β <sub>440</sub> , β <sub>441</sub> , β <sub>442</sub> , β <sub>443</sub> , β <sub>444</sub> , β <sub>445</sub> , β <sub>446</sub> , β <sub>447</sub> , β <sub>448</sub> , β <sub>449</sub> , β <sub>450</sub> , β <sub>451</sub> , β <sub>452</sub> , β <sub>453</sub> , β <sub>454</sub> , β <sub>455</sub> , β <sub>456</sub> , β <sub>457</sub> , β <sub>458</sub> , β <sub>459</sub> , β <sub>460</sub> , β <sub>461</sub> , β <sub>462</sub> , β <sub>463</sub> , β <sub>464</sub> , β <sub>465</sub> , β <sub>466</sub> , β <sub>467</sub> , β <sub>468</sub> , β <sub>469</sub> , β <sub>470</sub> , β <sub>471</sub> , β <sub>472</sub> , β <sub>473</sub> , β <sub>474</sub> , β <sub>475</sub> , β <sub>476</sub> , β <sub>477</sub> , β <sub>478</sub> , β <sub>479</sub> , β <sub>480</sub> , β <sub>481</sub> , β <sub>482</sub> , β <sub>483</sub> , β <sub>484</sub> , β <sub>485</sub> , β <sub>486</sub> , β <sub>487</sub> , β <sub>488</sub> , β <sub>489</sub> , β <sub>490</sub> , β <sub>491</sub> , β <sub>492</sub> , β <sub>493</sub> , β <sub>494</sub> , β <sub>495</sub> , β <sub>496</sub> , β <sub>497</sub> , β <sub>498</sub> , β <sub>499</sub> , β <sub>500</sub> , β <sub>501</sub> , β <sub>502</sub> , β <sub>503</sub> , β <sub>504</sub> , β <sub>505</sub> , β <sub>506</sub> , β <sub>507</sub> , β <sub>508</sub> , β <sub>509</sub> , β <sub>510</sub> , β <sub>511</sub> , β <sub>512</sub> , β <sub>513</sub> , β <sub>514</sub> , β <sub>515</sub> , β <sub>516</sub> , β <sub>517</sub> , β <sub>518</sub> , β <sub>519</sub> , β <sub>520</sub> , β <sub>521</sub> , β <sub>522</sub> , β <sub>523</sub> , β <sub>524</sub> , β <sub>525</sub> , β <sub>526</sub> , β <sub>527</sub> , β <sub>528</sub> , β <sub>529</sub> , β <sub>530</sub> , β <sub>531</sub> , β <sub>532</sub> , β <sub>533</sub> , β <sub>534</sub> , β <sub>535</sub> , β <sub>536</sub> , β <sub>537</sub> , β <sub>538</sub> , β <sub>539</sub> , β <sub>540</sub> , β <sub>541</sub> , β <sub>542</sub> , β <sub>543</sub> , β <sub>544</sub> , β <sub>545</sub> , β <sub>546</sub> , β <sub>547</sub> , β <sub>548</sub> , β <sub>549</sub> , β <sub>550</sub> , β <sub>551</sub> , β <sub>552</sub> , β <sub>553</sub> , β <sub>554</sub> , β <sub>555</sub> , β <sub>556</sub> , β <sub>557</sub> , β <sub>558</sub> , β <sub>559</sub> , β <sub>560</sub> , β <sub>561</sub> , β <sub>562</sub> , β <sub>563</sub> , β <sub>564</sub> , β <sub>565</sub> , β <sub>566</sub> , β <sub>567</sub> , β <sub>568</sub> , β <sub>569</sub> , β <sub>570</sub> , β <sub>571</sub> , β <sub>572</sub> , β <sub>573</sub> , β <sub>574</sub> , β <sub>575</sub> , β <sub>576</sub> , β <sub>577</sub> , β <sub>578</sub> , β <sub>579</sub> , β <sub>580</sub> , β <sub>581</sub> , β <sub>582</sub> , β <sub>583</sub> , β <sub>584</sub> , β <sub>585</sub> , β <sub>586</sub> , β <sub>587</sub> , β <sub>588</sub> , β <sub>589</sub> , β <sub>590</sub> , β <sub>591</sub> , β <sub>592</sub> , β <sub>593</sub> , β <sub>594</sub> , β <sub>595</sub> , β <sub>596</sub> , β <sub>597</sub> , β <sub>598</sub> , β <sub>599</sub> , β <sub>600</sub> , β <sub>601</sub> , β <sub>602</sub> , β <sub>603</sub> , β <sub>604</sub> , β <sub>605</sub> , β <sub>606</sub> , β <sub>607</sub> , β <sub>608</sub> , β <sub>609</sub> , β <sub>610</sub> , β <sub>611</sub> , β <sub>612</sub> , β <sub>613</sub> , β <sub>614</sub> , β <sub>615</sub> , β <sub>616</sub> , β <sub>617</sub> , β <sub>618</sub> , β <sub>619</sub> , β <sub>620</sub> , β <sub>621</sub> , β <sub>622</sub> , β <sub>623</sub> , β <sub>624</sub> , β <sub>625</sub> , β <sub>626</sub> , β <sub>627</sub> , β <sub>628</sub> , β <sub>629</sub> , β <sub>630</sub> , β <sub>631</sub> , β <sub>632</sub> , β <sub>633</sub> , β <sub>634</sub> , β <sub>635</sub> , β <sub>636</sub> , β <sub>637</sub> , β <sub>638</sub> , β <sub>639</sub> , β <sub>640</sub> , β <sub>641</sub> , β <sub>642</sub> , β <sub>643</sub> , β <sub>644</sub> , β <sub>645</sub> , β <sub>646</sub> , β <sub>647</sub> , β <sub>648</sub> , β <sub>649</sub> , β <sub>650</sub> , β <sub>651</sub> , β <sub>652</sub> , β <sub>653</sub> , β <sub>654</sub> , β <sub>655</sub> , β <sub>656</sub> , β <sub>657</sub> , β <sub>658</sub> , β <sub>659</sub> , β <sub>660</sub> , β <sub>661</sub> , β <sub>662</sub> , β <sub>663</sub> , β <sub>664</sub> , β <sub>665</sub> , β <sub>666</sub> , β <sub>667</sub> , β <sub>668</sub> , β <sub>669</sub> , β <sub>670</sub> , β <sub>671</sub> , β <sub>672</sub> , β <sub>673</sub> , β <sub>674</sub> , β <sub>675</sub> , β <sub>676</sub> , β <sub>677</sub> , β <sub>678</sub> , β <sub>679</sub> , β <sub>680</sub> , β <sub>681</sub> , β <sub>682</sub> , β <sub>683</sub> , β <sub>684</sub> , β <sub>685</sub> , β <sub>686</sub> , β <sub>687</sub> , β <sub>688</sub> , β <sub>689</sub> , β <sub>690</sub> , β <sub>691</sub> , β <sub>692</sub> , β <sub>693</sub> , β <sub>694</sub> , β <sub>695</sub> , β <sub>696</sub> , β <sub>697</sub> , β <sub>698</sub> , β <sub>699</sub> , β <sub>700</sub> , β <sub>701</sub> , β <sub>702</sub> , β <sub>703</sub> , β <sub>704</sub> , β <sub>705</sub> , β <sub>706</sub> , β <sub>707</sub> , β <sub>708</sub> , β <sub>709</sub> , β <sub>710</sub> , β <sub>711</sub> , β <sub>712</sub> , β <sub>713</sub> , β <sub>714</sub> , β <sub>715</sub> , β <sub>716</sub> , β <sub>717</sub> , β <sub>718</sub> , β <sub>719</sub> , β <sub>720</sub> , β <sub>721</sub> , β <sub>722</sub> , β <sub>723</sub> , β <sub>724</sub> , β <sub>725</sub> , β <sub>726</sub> , β <sub>727</sub> , β <sub>728</sub> , β <sub>729</sub> , β <sub>730</sub> , β <sub>731</sub> , β <sub>732</sub> , β <sub>733</sub> , β <sub>734</sub> , β <sub>735</sub> , β <sub>736</sub> , β <sub>737</sub> , β <sub>738</sub> , β <sub>739</sub> , β <sub>740</sub> , β <sub>741</sub> , β <sub>742</sub> , β <sub>743</sub> , β <sub>744</sub> , β <sub>745</sub> , β <sub>746</sub> , β <sub>747</sub> , β <sub>748</sub> , β <sub>749</sub> , β <sub>750</sub> , β <sub>751</sub> , β <sub>752</sub> , β <sub>753</sub> , β <sub>754</sub> , β <sub>755</sub> , β <sub>756</sub> , β <sub>757</sub> , β <sub>758</sub> , β <sub>759</sub> , β <sub>760</sub> , β <sub>761</sub> , β <sub>762</sub> , β <sub>763</sub> , β <sub>764</sub> , β <sub>765</sub> , β <sub>766</sub> , β <sub>767</sub> , β <sub>768</sub> , β <sub>769</sub> , β <sub>770</sub> , β <sub>771</sub> , β <sub>772</sub> , β <sub>773</sub> , β <sub>774</sub> , β <sub>775</sub> , β <sub>776</sub> , β <sub>777</sub> , β <sub>778</sub> , β <sub>779</sub> , β <sub>780</sub> , β <sub>781</sub> , β <sub>782</sub> , β <sub>783</sub> , β <sub>784</sub> , β <sub>785</sub> , β <sub>786</sub> , β <sub>787</sub> , β <sub>788</sub> , β <sub>789</sub> , β <sub>790</sub> , β <sub>791</sub> , β <sub>792</sub> , β <sub>793</sub> , β <sub>794</sub> , β <sub>795</sub> , β <sub>796</sub> , β <sub>797</sub> , β <sub>798</sub> , β <sub>799</sub> , β <sub>800</sub> , β <sub>801</sub> , β <sub>802</sub> , β <sub>803</sub> , β <sub>804</sub> , β <sub>805</sub> , β <sub>806</sub> , β <sub>807</sub> , β <sub>808</sub> , β <sub>809</sub> , β <sub>810</sub> , β <sub>811</sub> , β <sub>812</sub> , β <sub>813</sub> , β <sub>814</sub> , β <sub>815</sub> , β <sub>816</sub> , β <sub>817</sub> , β <sub>818</sub> , β <sub>81</sub>
機器番号／ 影響範囲機器	機器名称	損傷モード				評価部位		

## 泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について

別添3. レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震PRA

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																		
		<table border="1"> <caption>第3.2.1.4-5段 地震PRA 対象機器リスト (27/32)</caption> <thead> <tr> <th>起因事象／影響機器・機能</th><th>機器名</th><th>基準炉</th><th>津波炉</th><th>中央炉 (G) ICRP (E)</th><th>中央炉 (G) ICRP (E)</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>電動油圧給水ポンプ</td><td>電動油圧給水ポンプ</td><td>機能炉側</td><td>-</td><td>1.16 0.14 0.23</td><td>2.22 - -</td></tr> <tr> <td>電動油圧給水ポンプ 計 27S-2671-2672</td><td>電動油圧給水ポンプ</td><td>機能炉側</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td></tr> <tr> <td>電動油圧給水ポンプ</td><td>電動油圧給水ポンプ</td><td>機能炉側</td><td>-</td><td>7.33 0.14 0.23</td><td>1.08 - -</td></tr> <tr> <td>電動油圧給水ポンプ 計面タイノ吸出栓付 3B-2670</td><td>電動油圧給水ポンプ</td><td>機能炉側</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td></tr> <tr> <td>電動油圧給水ポンプ</td><td>電動油圧給水ポンプ</td><td>機能炉側</td><td>-</td><td>1.72 0.13 0.19</td><td>1.03 - -</td></tr> <tr> <td>タービン油圧給水ポンプ</td><td>タービン油圧給水ポンプ</td><td>機能炉側</td><td>-</td><td>1.92 0.14 0.23</td><td>2.21 - -</td></tr> <tr> <td>タービン油圧給水ポンプ</td><td>タービン油圧給水ポンプ</td><td>機能炉側</td><td>給油方式評価</td><td>31.36 0.89 0.17</td><td>20.02 0.66 0.14</td></tr> <tr> <td>タービン油圧給水ポンプ</td><td>タービン油圧給水ポンプ</td><td>機能炉側</td><td>給油方式評価</td><td>31.36 0.89 0.17</td><td>20.02 0.66 0.14</td></tr> <tr> <td>タービン油圧給水ポンプ</td><td>タービン油圧給水ポンプ</td><td>機能炉側</td><td>給油方式評価</td><td>31.36 0.89 0.17</td><td>20.02 0.66 0.14</td></tr> <tr> <td>3-タービン油圧給水ポンプ 蒸気入口A, B 退出が35-35- 38A, B</td><td>3-タービン油圧給水ポンプ 蒸気入口A, B 退出が35-35- 38A, B</td><td>機能炉側</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td></tr> </tbody> </table> <p>【女川】【大飯】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■個別評価による相違</li> <li>・プラントにより地震PRAで考慮する建屋、屋外重要土木構造物及び機器が異なり、評価対象部位や参照する耐震評価結果も異なるため、フランジリティの評価結果も異なる</li> </ul>	起因事象／影響機器・機能	機器名	基準炉	津波炉	中央炉 (G) ICRP (E)	中央炉 (G) ICRP (E)	電動油圧給水ポンプ	電動油圧給水ポンプ	機能炉側	-	1.16 0.14 0.23	2.22 - -	電動油圧給水ポンプ 計 27S-2671-2672	電動油圧給水ポンプ	機能炉側	-	-	-	電動油圧給水ポンプ	電動油圧給水ポンプ	機能炉側	-	7.33 0.14 0.23	1.08 - -	電動油圧給水ポンプ 計面タイノ吸出栓付 3B-2670	電動油圧給水ポンプ	機能炉側	-	-	-	電動油圧給水ポンプ	電動油圧給水ポンプ	機能炉側	-	1.72 0.13 0.19	1.03 - -	タービン油圧給水ポンプ	タービン油圧給水ポンプ	機能炉側	-	1.92 0.14 0.23	2.21 - -	タービン油圧給水ポンプ	タービン油圧給水ポンプ	機能炉側	給油方式評価	31.36 0.89 0.17	20.02 0.66 0.14	タービン油圧給水ポンプ	タービン油圧給水ポンプ	機能炉側	給油方式評価	31.36 0.89 0.17	20.02 0.66 0.14	タービン油圧給水ポンプ	タービン油圧給水ポンプ	機能炉側	給油方式評価	31.36 0.89 0.17	20.02 0.66 0.14	3-タービン油圧給水ポンプ 蒸気入口A, B 退出が35-35- 38A, B	3-タービン油圧給水ポンプ 蒸気入口A, B 退出が35-35- 38A, B	機能炉側	-	-	-	
起因事象／影響機器・機能	機器名	基準炉	津波炉	中央炉 (G) ICRP (E)	中央炉 (G) ICRP (E)																																																																
電動油圧給水ポンプ	電動油圧給水ポンプ	機能炉側	-	1.16 0.14 0.23	2.22 - -																																																																
電動油圧給水ポンプ 計 27S-2671-2672	電動油圧給水ポンプ	機能炉側	-	-	-																																																																
電動油圧給水ポンプ	電動油圧給水ポンプ	機能炉側	-	7.33 0.14 0.23	1.08 - -																																																																
電動油圧給水ポンプ 計面タイノ吸出栓付 3B-2670	電動油圧給水ポンプ	機能炉側	-	-	-																																																																
電動油圧給水ポンプ	電動油圧給水ポンプ	機能炉側	-	1.72 0.13 0.19	1.03 - -																																																																
タービン油圧給水ポンプ	タービン油圧給水ポンプ	機能炉側	-	1.92 0.14 0.23	2.21 - -																																																																
タービン油圧給水ポンプ	タービン油圧給水ポンプ	機能炉側	給油方式評価	31.36 0.89 0.17	20.02 0.66 0.14																																																																
タービン油圧給水ポンプ	タービン油圧給水ポンプ	機能炉側	給油方式評価	31.36 0.89 0.17	20.02 0.66 0.14																																																																
タービン油圧給水ポンプ	タービン油圧給水ポンプ	機能炉側	給油方式評価	31.36 0.89 0.17	20.02 0.66 0.14																																																																
3-タービン油圧給水ポンプ 蒸気入口A, B 退出が35-35- 38A, B	3-タービン油圧給水ポンプ 蒸気入口A, B 退出が35-35- 38A, B	機能炉側	-	-	-																																																																

## 泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について

別添3. レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震PRA

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																						
		<table border="1"> <caption>第3.2.1.4-5表 地震PRA評価対象建屋・機器リスト (2S/3Z)</caption> <thead> <tr> <th rowspan="2">起因歩容／影響範囲機能</th> <th rowspan="2">機器名</th> <th rowspan="2">機器モード</th> <th colspan="2">泊3号炉</th> </tr> <tr> <th>中央値 (6)</th> <th>RULPF (G)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>タービン動輪助給水ポンプ</td> <td>機造損傷</td> <td>3 2.83</td> <td>1.18</td> </tr> <tr> <td>タービン動輪助給水ポンプ 遮止弁(遮止弁3B-576A, B)</td> <td>機造損傷</td> <td>-</td> <td>0.27</td> </tr> <tr> <td>タービン動輪助給水ポンプ</td> <td>機造損傷</td> <td>-</td> <td>0.26</td> </tr> <tr> <td>タービン動輪助給水ポンプ 遮止弁(遮止弁3B-576A, B)</td> <td>機造損傷</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>3 A, B, C-主蒸気漏洩弁 密封装置 弁を含む) 空気供給弁3V-48- 528A, B, C</td> <td>機造損傷</td> <td>-</td> <td>1.59</td> </tr> <tr> <td>主蒸気漏洩</td> <td>機造損傷</td> <td>-</td> <td>0.13</td> </tr> <tr> <td>主蒸気ライン圧力計</td> <td>機造損傷</td> <td>-</td> <td>0.19</td> </tr> <tr> <td>主蒸気漏洩</td> <td>機造損傷</td> <td>-</td> <td>2.83</td> </tr> <tr> <td>蓄圧注入系</td> <td>蓄圧タンク</td> <td>機造損傷</td> <td>0.27</td> </tr> <tr> <td>蓄圧注入系</td> <td>蓄圧タンク注入配管</td> <td>機造損傷</td> <td>1.67</td> </tr> <tr> <td>空調用冷卻水設備</td> <td>空調用冷卻水設備</td> <td>機造損傷</td> <td>0.13</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0.19</td> </tr> </tbody> </table> <p>【女川】【大飯】</p> <p>■個別評価による相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プラントにより地震PRAで考慮する建屋、屋外重要土木構造物及び機器が異なり、評価対象部位や参照する耐震評価結果も異なるため、フランジリティの評価結果も異なる</li> </ul>	起因歩容／影響範囲機能	機器名	機器モード	泊3号炉		中央値 (6)	RULPF (G)	タービン動輪助給水ポンプ	機造損傷	3 2.83	1.18	タービン動輪助給水ポンプ 遮止弁(遮止弁3B-576A, B)	機造損傷	-	0.27	タービン動輪助給水ポンプ	機造損傷	-	0.26	タービン動輪助給水ポンプ 遮止弁(遮止弁3B-576A, B)	機造損傷	-	-	3 A, B, C-主蒸気漏洩弁 密封装置 弁を含む) 空気供給弁3V-48- 528A, B, C	機造損傷	-	1.59	主蒸気漏洩	機造損傷	-	0.13	主蒸気ライン圧力計	機造損傷	-	0.19	主蒸気漏洩	機造損傷	-	2.83	蓄圧注入系	蓄圧タンク	機造損傷	0.27	蓄圧注入系	蓄圧タンク注入配管	機造損傷	1.67	空調用冷卻水設備	空調用冷卻水設備	機造損傷	0.13				0.19
起因歩容／影響範囲機能	機器名	機器モード				泊3号炉																																																			
			中央値 (6)	RULPF (G)																																																					
タービン動輪助給水ポンプ	機造損傷	3 2.83	1.18																																																						
タービン動輪助給水ポンプ 遮止弁(遮止弁3B-576A, B)	機造損傷	-	0.27																																																						
タービン動輪助給水ポンプ	機造損傷	-	0.26																																																						
タービン動輪助給水ポンプ 遮止弁(遮止弁3B-576A, B)	機造損傷	-	-																																																						
3 A, B, C-主蒸気漏洩弁 密封装置 弁を含む) 空気供給弁3V-48- 528A, B, C	機造損傷	-	1.59																																																						
主蒸気漏洩	機造損傷	-	0.13																																																						
主蒸気ライン圧力計	機造損傷	-	0.19																																																						
主蒸気漏洩	機造損傷	-	2.83																																																						
蓄圧注入系	蓄圧タンク	機造損傷	0.27																																																						
蓄圧注入系	蓄圧タンク注入配管	機造損傷	1.67																																																						
空調用冷卻水設備	空調用冷卻水設備	機造損傷	0.13																																																						
			0.19																																																						

## 泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について

別添3. レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震PRA

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																																					
		<table border="1"> <caption>第3.2.1.a-5表 地震PRA評価対象選定・候補リスト(29/32)</caption> <thead> <tr> <th>起因事象／機器名稱</th> <th>機器名稱</th> <th>相違モード</th> <th>評価指標</th> <th>中立値(6)</th> <th>ICRP(6)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>空調用冷水装置</td> <td>空調用冷水装置</td> <td>機能異常</td> <td>経由方向評価</td> <td>2.23</td> <td>1.38</td> </tr> <tr> <td>空調用冷水装置</td> <td>空調用冷水装置</td> <td>機能損傷</td> <td>既存ボルト</td> <td>0.14</td> <td>0.23</td> </tr> <tr> <td>空調用冷水装置</td> <td>空調用冷水装置</td> <td>機能異常</td> <td>-</td> <td>11.77</td> <td>7.66</td> </tr> <tr> <td>空調用冷水装置</td> <td>空調用冷水装置</td> <td>機能損傷</td> <td>既存ボルト</td> <td>0.17</td> <td>0.22</td> </tr> <tr> <td>空調用冷水装置</td> <td>空調用冷水装置</td> <td>機能異常</td> <td>-</td> <td>0.13</td> <td>1.03</td> </tr> <tr> <td>空調用冷水ポンプ</td> <td>空調用冷水ポンプA・B</td> <td>機能損傷</td> <td>既存ボルト</td> <td>38.34</td> <td>21.35</td> </tr> <tr> <td>空調用冷水装置</td> <td>空調用冷水装置</td> <td>機能損傷</td> <td>既存ボルト</td> <td>0.09</td> <td>0.17</td> </tr> <tr> <td>空調用冷水装置</td> <td>空調用冷水装置</td> <td>機能損傷</td> <td>既存ボルト</td> <td>2.32</td> <td>1.69</td> </tr> <tr> <td>中央制御室給排水ユニット(合計2台) （ルセイモ）39344.1.1</td> <td>中央制御室給排水ユニット(合計2台) （ルセイモ）39344.1.1</td> <td>機能損傷</td> <td>既存ボルト</td> <td>0.17</td> <td>0.39</td> </tr> <tr> <td>空調用冷水装置</td> <td>空調用冷水装置</td> <td>機能損傷</td> <td>-</td> <td>0.17</td> <td>0.83</td> </tr> <tr> <td>空調用冷水装置</td> <td>空調用冷水装置</td> <td>機能損傷</td> <td>-</td> <td>0.27</td> <td>1.18</td> </tr> <tr> <td>空調用冷水装置</td> <td>空調用冷水装置</td> <td>機能損傷</td> <td>-</td> <td>0.26</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>空調用冷水装置</td> <td>空調用冷水装置</td> <td>機能損傷</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>空調用冷水装置</td> <td>空調用冷水装置</td> <td>機能損傷</td> <td>-</td> <td>2.83</td> <td>1.18</td> </tr> <tr> <td>空調用冷水装置</td> <td>空調用冷水装置</td> <td>機能損傷</td> <td>-</td> <td>0.27</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>空調用冷水装置</td> <td>空調用冷水装置</td> <td>機能損傷</td> <td>-</td> <td>0.26</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table> <p>【女川】【大飯】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■個別評価による相違             <ul style="list-style-type: none"> <li>・プラントにより地震PRAで考慮する建屋、屋外重要土木構造物及び機器が異なり、評価対象部位や参照する耐震評価結果も異なるため、フランジティの評価結果も異なる</li> </ul> </li> </ul>	起因事象／機器名稱	機器名稱	相違モード	評価指標	中立値(6)	ICRP(6)	空調用冷水装置	空調用冷水装置	機能異常	経由方向評価	2.23	1.38	空調用冷水装置	空調用冷水装置	機能損傷	既存ボルト	0.14	0.23	空調用冷水装置	空調用冷水装置	機能異常	-	11.77	7.66	空調用冷水装置	空調用冷水装置	機能損傷	既存ボルト	0.17	0.22	空調用冷水装置	空調用冷水装置	機能異常	-	0.13	1.03	空調用冷水ポンプ	空調用冷水ポンプA・B	機能損傷	既存ボルト	38.34	21.35	空調用冷水装置	空調用冷水装置	機能損傷	既存ボルト	0.09	0.17	空調用冷水装置	空調用冷水装置	機能損傷	既存ボルト	2.32	1.69	中央制御室給排水ユニット(合計2台) （ルセイモ）39344.1.1	中央制御室給排水ユニット(合計2台) （ルセイモ）39344.1.1	機能損傷	既存ボルト	0.17	0.39	空調用冷水装置	空調用冷水装置	機能損傷	-	0.17	0.83	空調用冷水装置	空調用冷水装置	機能損傷	-	0.27	1.18	空調用冷水装置	空調用冷水装置	機能損傷	-	0.26	-	空調用冷水装置	空調用冷水装置	機能損傷	-	-	-	空調用冷水装置	空調用冷水装置	機能損傷	-	2.83	1.18	空調用冷水装置	空調用冷水装置	機能損傷	-	0.27	-	空調用冷水装置	空調用冷水装置	機能損傷	-	0.26	-
起因事象／機器名稱	機器名稱	相違モード	評価指標	中立値(6)	ICRP(6)																																																																																																			
空調用冷水装置	空調用冷水装置	機能異常	経由方向評価	2.23	1.38																																																																																																			
空調用冷水装置	空調用冷水装置	機能損傷	既存ボルト	0.14	0.23																																																																																																			
空調用冷水装置	空調用冷水装置	機能異常	-	11.77	7.66																																																																																																			
空調用冷水装置	空調用冷水装置	機能損傷	既存ボルト	0.17	0.22																																																																																																			
空調用冷水装置	空調用冷水装置	機能異常	-	0.13	1.03																																																																																																			
空調用冷水ポンプ	空調用冷水ポンプA・B	機能損傷	既存ボルト	38.34	21.35																																																																																																			
空調用冷水装置	空調用冷水装置	機能損傷	既存ボルト	0.09	0.17																																																																																																			
空調用冷水装置	空調用冷水装置	機能損傷	既存ボルト	2.32	1.69																																																																																																			
中央制御室給排水ユニット(合計2台) （ルセイモ）39344.1.1	中央制御室給排水ユニット(合計2台) （ルセイモ）39344.1.1	機能損傷	既存ボルト	0.17	0.39																																																																																																			
空調用冷水装置	空調用冷水装置	機能損傷	-	0.17	0.83																																																																																																			
空調用冷水装置	空調用冷水装置	機能損傷	-	0.27	1.18																																																																																																			
空調用冷水装置	空調用冷水装置	機能損傷	-	0.26	-																																																																																																			
空調用冷水装置	空調用冷水装置	機能損傷	-	-	-																																																																																																			
空調用冷水装置	空調用冷水装置	機能損傷	-	2.83	1.18																																																																																																			
空調用冷水装置	空調用冷水装置	機能損傷	-	0.27	-																																																																																																			
空調用冷水装置	空調用冷水装置	機能損傷	-	0.26	-																																																																																																			

## 泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について

別添3. レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震PRA

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																																																											
		<table border="1"> <caption>第3.2.1-a-5表 地震PRA 対応対象部位・優先リスト(30/22)</caption> <thead> <tr> <th rowspan="2">原因「○」 防護装置</th> <th rowspan="2">機器名稱</th> <th rowspan="2">相應モード</th> <th colspan="2">評価指標</th> <th rowspan="2">直後(6)</th> <th rowspan="2">BLW(6)</th> </tr> <tr> <th>中火候(6)</th> <th>大火候(6)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>空調用冷水設備</td> <td>機能損傷</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>2.88</td> <td>1.18</td> </tr> <tr> <td>空調用冷水設備</td> <td>空調用冷水設備 定止弁</td> <td>機能損傷</td> <td>-</td> <td>0.27</td> <td>0.26</td> </tr> <tr> <td>空調用冷水設備</td> <td>空調用冷水設備 手動弁(合)手動弁(合)</td> <td>機能損傷</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>空調用冷水設備</td> <td>空調用冷水設備 安全操作装置(合)安全操作装置(合)を含む)</td> <td>機能損傷</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>空調用冷水設備</td> <td>安全操作装置(合)安全操作装置(合)を含む) 3S3A18A,B</td> <td>機能損傷</td> <td>機能損傷</td> <td>5.79</td> <td>1.94</td> </tr> <tr> <td>空調用冷水設備</td> <td>安全操作装置(合)安全操作装置(合)を含む) 3S3A6A (合)コイルを含む)</td> <td>機能損傷</td> <td>機能損傷</td> <td>0.31</td> <td>0.35</td> </tr> <tr> <td>安全機能用器具各9%基準</td> <td>安全機能用器具各9%基準 3S3F27A</td> <td>機能損傷</td> <td>アーンショク</td> <td>13.72</td> <td>9.20</td> </tr> <tr> <td>安全機能用器具各9%基準</td> <td>安全機能用器具各9%基準 3S3M0A,B</td> <td>機能損傷</td> <td>基礎(被(付)ボルト)</td> <td>0.09</td> <td>0.17</td> </tr> <tr> <td>安全機能用器具各9%基準</td> <td>安全機能用器具各9%基準 3S3M17</td> <td>機能損傷</td> <td>基礎(被(付)ボルト)</td> <td>2.38</td> <td>1.73</td> </tr> <tr> <td>安全機能用器具各9%基準</td> <td>安全機能用器具各9%基準 3S3N0A,B</td> <td>機能損傷</td> <td>基礎(被(付)ボルト)</td> <td>0.09</td> <td>0.17</td> </tr> <tr> <td>安全機能用器具各9%基準</td> <td>安全機能用器具各9%基準 3S3N17</td> <td>機能損傷</td> <td>アーンショク</td> <td>0.80</td> <td>1.14</td> </tr> <tr> <td>安全機能用器具各9%基準</td> <td>安全機能用器具各9%基準 3S3S0A,B</td> <td>機能損傷</td> <td>基礎(被(付)ボルト)</td> <td>0.29</td> <td>1.25</td> </tr> <tr> <td>安全機能用器具各9%基準</td> <td>安全機能用器具各9%基準 3S3S17</td> <td>機能損傷</td> <td>アーンショク</td> <td>0.19</td> <td>0.25</td> </tr> <tr> <td>安全機能用器具各9%基準</td> <td>安全機能用器具各9%基準 3S3T0A,B</td> <td>機能損傷</td> <td>蒸気コイル</td> <td>7.24</td> <td>1.85</td> </tr> <tr> <td>安全機能用器具各9%基準</td> <td>安全機能用器具各9%基準 3S3T17</td> <td>機能損傷</td> <td>蒸気コイル</td> <td>0.09</td> <td>0.17</td> </tr> <tr> <td>安全機能用器具各9%基準</td> <td>安全機能用器具各9%基準 3S3V0A,B</td> <td>機能損傷</td> <td>蒸気コイル</td> <td>8.61</td> <td>5.79</td> </tr> <tr> <td>安全機能用器具各9%基準</td> <td>安全機能用器具各9%基準 3S3V17</td> <td>機能損傷</td> <td>蒸気コイル</td> <td>0.09</td> <td>0.17</td> </tr> <tr> <td></td> <td>計量管(付)器具 3S392</td> <td>機能損傷</td> <td>ケーンショク</td> <td>0.30</td> <td>2.29</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0.19</td> <td>0.20</td> </tr> </tbody> </table>	原因「○」 防護装置	機器名稱	相應モード	評価指標		直後(6)	BLW(6)	中火候(6)	大火候(6)	空調用冷水設備	機能損傷	-	-	2.88	1.18	空調用冷水設備	空調用冷水設備 定止弁	機能損傷	-	0.27	0.26	空調用冷水設備	空調用冷水設備 手動弁(合)手動弁(合)	機能損傷	-	-	-	空調用冷水設備	空調用冷水設備 安全操作装置(合)安全操作装置(合)を含む)	機能損傷	-	-	-	空調用冷水設備	安全操作装置(合)安全操作装置(合)を含む) 3S3A18A,B	機能損傷	機能損傷	5.79	1.94	空調用冷水設備	安全操作装置(合)安全操作装置(合)を含む) 3S3A6A (合)コイルを含む)	機能損傷	機能損傷	0.31	0.35	安全機能用器具各9%基準	安全機能用器具各9%基準 3S3F27A	機能損傷	アーンショク	13.72	9.20	安全機能用器具各9%基準	安全機能用器具各9%基準 3S3M0A,B	機能損傷	基礎(被(付)ボルト)	0.09	0.17	安全機能用器具各9%基準	安全機能用器具各9%基準 3S3M17	機能損傷	基礎(被(付)ボルト)	2.38	1.73	安全機能用器具各9%基準	安全機能用器具各9%基準 3S3N0A,B	機能損傷	基礎(被(付)ボルト)	0.09	0.17	安全機能用器具各9%基準	安全機能用器具各9%基準 3S3N17	機能損傷	アーンショク	0.80	1.14	安全機能用器具各9%基準	安全機能用器具各9%基準 3S3S0A,B	機能損傷	基礎(被(付)ボルト)	0.29	1.25	安全機能用器具各9%基準	安全機能用器具各9%基準 3S3S17	機能損傷	アーンショク	0.19	0.25	安全機能用器具各9%基準	安全機能用器具各9%基準 3S3T0A,B	機能損傷	蒸気コイル	7.24	1.85	安全機能用器具各9%基準	安全機能用器具各9%基準 3S3T17	機能損傷	蒸気コイル	0.09	0.17	安全機能用器具各9%基準	安全機能用器具各9%基準 3S3V0A,B	機能損傷	蒸気コイル	8.61	5.79	安全機能用器具各9%基準	安全機能用器具各9%基準 3S3V17	機能損傷	蒸気コイル	0.09	0.17		計量管(付)器具 3S392	機能損傷	ケーンショク	0.30	2.29					0.19	0.20	<p>【女川】【大飯】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■個別評価による相違</li> <li>・プラントにより地震PRAで考慮する建屋、屋外重要土木構造物及び機器が異なり、評価対象部位や参照する耐震評価結果も異なるため、フランジティの評価結果も異なる</li> </ul>
原因「○」 防護装置	機器名稱	相應モード				評価指標				直後(6)	BLW(6)																																																																																																																			
			中火候(6)	大火候(6)																																																																																																																										
空調用冷水設備	機能損傷	-	-	2.88	1.18																																																																																																																									
空調用冷水設備	空調用冷水設備 定止弁	機能損傷	-	0.27	0.26																																																																																																																									
空調用冷水設備	空調用冷水設備 手動弁(合)手動弁(合)	機能損傷	-	-	-																																																																																																																									
空調用冷水設備	空調用冷水設備 安全操作装置(合)安全操作装置(合)を含む)	機能損傷	-	-	-																																																																																																																									
空調用冷水設備	安全操作装置(合)安全操作装置(合)を含む) 3S3A18A,B	機能損傷	機能損傷	5.79	1.94																																																																																																																									
空調用冷水設備	安全操作装置(合)安全操作装置(合)を含む) 3S3A6A (合)コイルを含む)	機能損傷	機能損傷	0.31	0.35																																																																																																																									
安全機能用器具各9%基準	安全機能用器具各9%基準 3S3F27A	機能損傷	アーンショク	13.72	9.20																																																																																																																									
安全機能用器具各9%基準	安全機能用器具各9%基準 3S3M0A,B	機能損傷	基礎(被(付)ボルト)	0.09	0.17																																																																																																																									
安全機能用器具各9%基準	安全機能用器具各9%基準 3S3M17	機能損傷	基礎(被(付)ボルト)	2.38	1.73																																																																																																																									
安全機能用器具各9%基準	安全機能用器具各9%基準 3S3N0A,B	機能損傷	基礎(被(付)ボルト)	0.09	0.17																																																																																																																									
安全機能用器具各9%基準	安全機能用器具各9%基準 3S3N17	機能損傷	アーンショク	0.80	1.14																																																																																																																									
安全機能用器具各9%基準	安全機能用器具各9%基準 3S3S0A,B	機能損傷	基礎(被(付)ボルト)	0.29	1.25																																																																																																																									
安全機能用器具各9%基準	安全機能用器具各9%基準 3S3S17	機能損傷	アーンショク	0.19	0.25																																																																																																																									
安全機能用器具各9%基準	安全機能用器具各9%基準 3S3T0A,B	機能損傷	蒸気コイル	7.24	1.85																																																																																																																									
安全機能用器具各9%基準	安全機能用器具各9%基準 3S3T17	機能損傷	蒸気コイル	0.09	0.17																																																																																																																									
安全機能用器具各9%基準	安全機能用器具各9%基準 3S3V0A,B	機能損傷	蒸気コイル	8.61	5.79																																																																																																																									
安全機能用器具各9%基準	安全機能用器具各9%基準 3S3V17	機能損傷	蒸気コイル	0.09	0.17																																																																																																																									
	計量管(付)器具 3S392	機能損傷	ケーンショク	0.30	2.29																																																																																																																									
				0.19	0.20																																																																																																																									

## 泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について

別添3. レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震PRA

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																																																																																																									
		<table border="1"> <caption>PP3.2.1.a-5長 地震PRA評価対象建屋・施設リスト(31/32)</caption> <thead> <tr> <th>記述事象／ 機器別別種類</th><th>機器名稱</th><th>出力モード</th><th>測量部位</th><th>測量方法</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>安全機能制御器安全調査</td><td>計測機空品気引換コイル 3N38B</td><td>精密度計</td><td>電気流量</td><td>電気流量 (6)</td></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td></td><td>BLF (6)</td></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td>蒸気コイル</td><td>3.18</td></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td>蒸気コイル</td><td>0.19</td></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td>ダクト本体</td><td>2.65</td></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td>蒸気コイル</td><td>0.31</td></tr> <tr> <td>安全機能制御器安全調査</td><td>SMBR 安全調節ダクト(手羽タンベキ L)</td><td>精密度計</td><td>電気流量</td><td>0.35</td></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td>蒸気コイル</td><td>0.91</td></tr> <tr> <td>安全機能制御器安全調査</td><td>1次系抽屜機作室空気精密度計コイル 3N38B</td><td>精密度計</td><td>電気流量</td><td>0.38</td></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td>蒸気コイル</td><td>0.69</td></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td>ダクト本体</td><td>0.17</td></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td>蒸気コイル</td><td>6.75</td></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td>電気流量</td><td>0.19</td></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td>蒸気コイル</td><td>3.35</td></tr> <tr> <td>安全機能制御器安全調査</td><td>2次系計装精密度計空気精密度計コイル 3N38L</td><td>精密度計</td><td>電気流量</td><td>0.21</td></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td>蒸気コイル</td><td>1.70</td></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td>ダクト本体</td><td>0.19</td></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td>蒸気コイル</td><td>0.94</td></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td>ダクト本体</td><td>0.20</td></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td>蒸気コイル</td><td>-</td></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td>電気流量</td><td>-</td></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td>蒸気コイル</td><td>-</td></tr> <tr> <td>安全機能制御器安全調査</td><td>安全機能開閉器安全調査 安火ダク バ</td><td>精密度計</td><td>電気流量</td><td>3.49</td></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td>蒸気流量</td><td>0.19</td></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td>電気流量</td><td>2.35</td></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td>蒸気流量</td><td>0.20</td></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td>電気流量</td><td>-</td></tr> <tr> <td>安全機能制御器安全調査</td><td>安全機能開閉器安全調査 安止ダク バ 3G-1S-531A, I</td><td>精密度計</td><td>電気流量</td><td>2.83</td></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td>蒸気流量</td><td>0.27</td></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td>電気流量</td><td>1.18</td></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td>蒸気流量</td><td>0.26</td></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td>電気流量</td><td>-</td></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td>蒸気流量</td><td>-</td></tr> </tbody> </table> <p>【女川】【大飯】      ■個別評価による相違      •プラントにより地震PRAで考慮する建屋、屋外重要土木構造物及び機器が異なり、評価対象部位や参照する耐震評価結果も異なるため、フランジティの評価結果も異なる</p>	記述事象／ 機器別別種類	機器名稱	出力モード	測量部位	測量方法	安全機能制御器安全調査	計測機空品気引換コイル 3N38B	精密度計	電気流量	電気流量 (6)					BLF (6)				蒸気コイル	3.18				蒸気コイル	0.19				ダクト本体	2.65				蒸気コイル	0.31	安全機能制御器安全調査	SMBR 安全調節ダクト(手羽タンベキ L)	精密度計	電気流量	0.35				蒸気コイル	0.91	安全機能制御器安全調査	1次系抽屜機作室空気精密度計コイル 3N38B	精密度計	電気流量	0.38				蒸気コイル	0.69				ダクト本体	0.17				蒸気コイル	6.75				電気流量	0.19				蒸気コイル	3.35	安全機能制御器安全調査	2次系計装精密度計空気精密度計コイル 3N38L	精密度計	電気流量	0.21				蒸気コイル	1.70				ダクト本体	0.19				蒸気コイル	0.94				ダクト本体	0.20				蒸気コイル	-				電気流量	-				蒸気コイル	-	安全機能制御器安全調査	安全機能開閉器安全調査 安火ダク バ	精密度計	電気流量	3.49				蒸気流量	0.19				電気流量	2.35				蒸気流量	0.20				電気流量	-	安全機能制御器安全調査	安全機能開閉器安全調査 安止ダク バ 3G-1S-531A, I	精密度計	電気流量	2.83				蒸気流量	0.27				電気流量	1.18				蒸気流量	0.26				電気流量	-				蒸気流量	-
記述事象／ 機器別別種類	機器名稱	出力モード	測量部位	測量方法																																																																																																																																																																								
安全機能制御器安全調査	計測機空品気引換コイル 3N38B	精密度計	電気流量	電気流量 (6)																																																																																																																																																																								
				BLF (6)																																																																																																																																																																								
			蒸気コイル	3.18																																																																																																																																																																								
			蒸気コイル	0.19																																																																																																																																																																								
			ダクト本体	2.65																																																																																																																																																																								
			蒸気コイル	0.31																																																																																																																																																																								
安全機能制御器安全調査	SMBR 安全調節ダクト(手羽タンベキ L)	精密度計	電気流量	0.35																																																																																																																																																																								
			蒸気コイル	0.91																																																																																																																																																																								
安全機能制御器安全調査	1次系抽屜機作室空気精密度計コイル 3N38B	精密度計	電気流量	0.38																																																																																																																																																																								
			蒸気コイル	0.69																																																																																																																																																																								
			ダクト本体	0.17																																																																																																																																																																								
			蒸気コイル	6.75																																																																																																																																																																								
			電気流量	0.19																																																																																																																																																																								
			蒸気コイル	3.35																																																																																																																																																																								
安全機能制御器安全調査	2次系計装精密度計空気精密度計コイル 3N38L	精密度計	電気流量	0.21																																																																																																																																																																								
			蒸気コイル	1.70																																																																																																																																																																								
			ダクト本体	0.19																																																																																																																																																																								
			蒸気コイル	0.94																																																																																																																																																																								
			ダクト本体	0.20																																																																																																																																																																								
			蒸気コイル	-																																																																																																																																																																								
			電気流量	-																																																																																																																																																																								
			蒸気コイル	-																																																																																																																																																																								
安全機能制御器安全調査	安全機能開閉器安全調査 安火ダク バ	精密度計	電気流量	3.49																																																																																																																																																																								
			蒸気流量	0.19																																																																																																																																																																								
			電気流量	2.35																																																																																																																																																																								
			蒸気流量	0.20																																																																																																																																																																								
			電気流量	-																																																																																																																																																																								
安全機能制御器安全調査	安全機能開閉器安全調査 安止ダク バ 3G-1S-531A, I	精密度計	電気流量	2.83																																																																																																																																																																								
			蒸気流量	0.27																																																																																																																																																																								
			電気流量	1.18																																																																																																																																																																								
			蒸気流量	0.26																																																																																																																																																																								
			電気流量	-																																																																																																																																																																								
			蒸気流量	-																																																																																																																																																																								

## 泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について

別添3. レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震PRA

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																			
		<table border="1"> <caption>第3.2.1-a-5表 地震PRA評価対象建屋・機器リスト (32/32)</caption> <thead> <tr> <th>起因オブジェクト 影響範囲と機能</th> <th>機器名</th> <th>損傷モード</th> <th>評価部位</th> <th>泊3号炉 HCLPF (G)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>安全補機開閉器室空調系 安全系統</td> <td>安全系統 主蒸気安全弁 主蒸気安全弁 換気空調系(43, Q4)</td> <td>機能損傷</td> <td>-</td> <td>3.91</td> </tr> <tr> <td>安全補機開閉器室空調系 安全系統</td> <td>313-2790</td> <td>機能損傷</td> <td>-</td> <td>0.14</td> </tr> <tr> <td>主蒸気安全弁</td> <td>主蒸気安全弁 主蒸気安全弁 換気空調系(43, Q4)</td> <td>機能損傷</td> <td>-</td> <td>2.12</td> </tr> <tr> <td></td> <td>換気空調系集巾現場盤</td> <td>機能損傷</td> <td>-</td> <td>0.23</td> </tr> <tr> <td></td> <td>換気空調系(43, Q4)</td> <td>取付ボルト</td> <td>泊3号炉 HCLPF (G)</td> <td>0.89</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>泊3号炉 HCLPF (G)</td> <td>0.17</td> </tr> </tbody> </table> <p>【女川】【大飯】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■個別評価による相違       <ul style="list-style-type: none"> <li>・プラントにより地震PRAで考慮する建屋、屋外重要土木構造物及び機器が異なり、評価対象部位や参照する耐震評価結果も異なるため、フランジリティの評価結果も異なる</li> </ul> </li> </ul>	起因オブジェクト 影響範囲と機能	機器名	損傷モード	評価部位	泊3号炉 HCLPF (G)	安全補機開閉器室空調系 安全系統	安全系統 主蒸気安全弁 主蒸気安全弁 換気空調系(43, Q4)	機能損傷	-	3.91	安全補機開閉器室空調系 安全系統	313-2790	機能損傷	-	0.14	主蒸気安全弁	主蒸気安全弁 主蒸気安全弁 換気空調系(43, Q4)	機能損傷	-	2.12		換気空調系集巾現場盤	機能損傷	-	0.23		換気空調系(43, Q4)	取付ボルト	泊3号炉 HCLPF (G)	0.89				泊3号炉 HCLPF (G)	0.17	
起因オブジェクト 影響範囲と機能	機器名	損傷モード	評価部位	泊3号炉 HCLPF (G)																																		
安全補機開閉器室空調系 安全系統	安全系統 主蒸気安全弁 主蒸気安全弁 換気空調系(43, Q4)	機能損傷	-	3.91																																		
安全補機開閉器室空調系 安全系統	313-2790	機能損傷	-	0.14																																		
主蒸気安全弁	主蒸気安全弁 主蒸気安全弁 換気空調系(43, Q4)	機能損傷	-	2.12																																		
	換気空調系集巾現場盤	機能損傷	-	0.23																																		
	換気空調系(43, Q4)	取付ボルト	泊3号炉 HCLPF (G)	0.89																																		
			泊3号炉 HCLPF (G)	0.17																																		

泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について

別添3. レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震PRA

大飯発電所3／4号炉

第1.2.1.b-1表 主要な活断層（FO-A～FO-B断層）の震源モデルの諸元(1/2)						
	断層長(km)	上端深さ(km)	下端深さ(km)	傾斜角(°)	M <sub>W</sub> 式	地盤抵抗係数 M <sub>W</sub> による評価
FO-A～FO-B断層	35	3～5	18	90	7.4	7.1～7.5 7.6～7.9(位置に応じた値)
FO-A断層	24	3～5	18	90	7.1	6.9～7.0 7.6～7.9(位置に応じた値)
FO-B断層	13	4	18	90	6.6	6.4 2.86E-04

※ FO-A断層单独の場合のみ、FO-A～FO-B断層を上記の諸元で考慮する。

第1.2.1.b-1表 主要な活断層（FO-A～FO-B断層以外の断層）の震源モデルの諸元(2/2)

	断層長(km)	M <sub>W</sub> 式	地盤抵抗係数 M <sub>W</sub> による評価	等価震源距離 Xeq(km)	年発生頻度
1 熊野断層	23 <sup>b</sup>	7.1	6.8	20.4	1.37E-04
2 上林川断層	38.5	7.5	7.3	37.3	8.07E-05
3 三河断層	27	7.2	7.1	31.3	1.17E-04
4 大樹樹外線～B～野坂断層	49	7.7	6.8	35.3	6.42E-05
5 花折断層	58	7.8	7.6	43.1	5.43E-05

※地盤抵抗評価上の長さ

第3.2.1.b-1表 プレート間地震の特定震源モデルの諸元					
検討地震	Noda et al. (2002)	断層モデル手法		平均発生間隔(年)	備考
		地震規模	等価震源距離Xeq(km)		
東北地方太平洋沖型地震	M8.1	76.3	Mw9.0	500×200	600 更新過程
宮城県沖地震	M7.4	61.8	—	—	38 ポアソン過程

No	断層名	M <sub>W</sub> <sup>a</sup>	等価震源距離Xeq (km)	平均活動間隔(年)
1	F-2断層・F-4断層	7.2	24	44,000
2	F-5断層	6.7	23	20,000
3	F-6断層～F-9断層	7.2	19	37,000
4	F-12断層～F-14断層 <sup>b</sup>	7.1	32	38,000
5	f-13断層	6.7	17	20,000
6	f-14断層	6.7	23	20,000
7	f-15断層	6.7	24	20,000
8	F-15断層・F-16断層 <sup>c</sup>	7.5	39	61,000
9	網地島南西冲で1測線のみで認められる断層	6.7	27	20,000
10	III断層	7.5	86	65,000
11	IV断層	7.6	82	68,000
12	V断層	7.3	91	49,000
13	加護劔山～笠岳山断層 <sup>d</sup>	6.9	36	27,000
14	旭山換曲・須江断層 <sup>e</sup>	6.8	28	25,000
15	2003年宮城県中部の地蔵南南部セグメント断層 <sup>f</sup>	6.7	28	20,000
16	一関～石越複数曲 <sup>g</sup>	7.3	66	47,000
17	1962年宮城県北部地蔵震源断層 <sup>h</sup>	6.7	48	20,000
18	1900年宮城県北部の地震	7.0	51	31,000
19	長町一利府渦断層帯	7.5	61	3,000
20	北上低地西縁断層帯	7.8	113	12,000
21	山形盆地断層帯	7.8	118	2,500
22	福島盆地西縁断層帯	7.8	103	5,000
23	双葉断層	7.5	82	8,000
24	横手盆地東縁断層帯	7.7	125	3,400
25	鬼首断層	6.7	87	2,000
26	愛子断層	6.7	67	2,000
27	作並尾敷平断層	6.7	79	20,000
28	遠刈田断層	6.7	88	20,000
29	鶴巣山断層	6.7	92	2,000
30	尾花沢断層	6.7	98	2,000
31	楢岡断層	6.7	96	2,000
32	新山寺境ノ目断層	6.7	99	2,000
33	田沢一里断層	6.7	100	2,000

<sup>a</sup>松田 (1975) <sup>b</sup>等により算定。

<sup>c</sup>仙台湾の断層群による地震として運動を考慮 [M7.6, Xeq=28km, 活動間隔68,000年]

<sup>d</sup>石巻平野周辺の断層群による地震として運動も考慮 [M7.6, Xeq=31km, 活動間隔69,000年]

<sup>e</sup>岩手・宮城県境の断層群による地震として運動も考慮 [M7.6, Xeq=58km, 活動間隔69,000年]

<sup>f</sup>岩手・宮城県境の断層群による地震として運動も考慮 [M7.6, Xeq=58km, 活動間隔69,000年]

<sup>g</sup> Iwahashi (1997) <sup>h</sup> 今浦かさおモデル

女川原子力発電所2号炉

第3.2.1.b-1表 主要な活断層の震源モデルの諸元 (1/3)

断層名	地盤規模M			Xeq (km)	活動度	年発生頻度
	松田 (1975) <sup>a</sup>	武村 (1988) <sup>b</sup>	人合・三宅 (2001) & (成村 1996) <sup>c</sup>			
尻別山断層	22.6	7.1	7.2	—	28	C 2.38E-05
基本震源モデル	32.0	7.3	7.5	—	34	C 1.96E-05
今浦かさおモデル	100.4	8.2	8.3	—	46	B 3.01E-05
不確かさおモデル (断層の傾斜角)	100.0	8.2	8.3	—	49	B 3.01E-05
走向0° ケース	22.6	7.1	7.2	7.2	21	B 1.37E-04
走向±45° ケース	32.0	7.3	7.5	—	17	B 1.04E-04
走向90° ケース	22.6	7.1	7.2	7.2	21	B 1.04E-04
走向135° ケース	32.0	7.3	7.5	—	17	B 1.04E-04
走向180° ケース	32.0	7.3	7.5	—	23	B 1.04E-04
走向225° ケース	22.6	7.1	7.2	7.2	20	B 1.04E-04
走向270° ケース	32.0	7.3	7.5	—	20	B 1.04E-04
走向315° ケース	32.0	7.3	7.5	—	20	B 1.04E-04
不確かさおモデル (断層の傾斜角)	101	8.2	8.3	—	7.6	B 3.01E-05
基本震源モデル (断層の傾斜角)	101	8.2	8.3	—	7.6	B 3.01E-05

【女川】【大飯】

■個別評価による相違  
・地震発生様式等が異なることから、地震ハザード評価が異なる

## 泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について  
別添3. レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震PRA

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																																						
		<table border="1"> <caption>第3.2.1-b-1表 地震による主要活動層の被災モードの説明 (2.3)</caption> <thead> <tr> <th>断面名</th> <th>構造長さ (m)</th> <th>被災原因M (kN)</th> <th><math>\lambda_{eq}</math> (kN)</th> <th>活動度</th> <th>年発生率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>神威浜野内側の断面 F-1断面～岩内北Jの断面</td> <td>31.5</td> <td>7.5</td> <td>.37</td> <td>B</td> <td>1.0E-01</td> </tr> <tr> <td>F-1断面</td> <td>39</td> <td>6.7</td> <td>.38</td> <td>B</td> <td>7.9E-05</td> </tr> <tr> <td>半蔵浜右の断面 F-1断面</td> <td>-</td> <td>7.5</td> <td>.34</td> <td>H</td> <td>1.37E-04</td> </tr> <tr> <td>半蔵浜左の断面 F-1断面</td> <td>-</td> <td>7.1</td> <td>.38</td> <td>B</td> <td>7.9E-05</td> </tr> <tr> <td>半蔵浜右の断面 F-1断面</td> <td>46</td> <td>7.9</td> <td>.90</td> <td>B</td> <td>1.37E-04</td> </tr> <tr> <td>半蔵浜左の断面 F-1断面</td> <td>45</td> <td>7.6</td> <td>.103</td> <td>B</td> <td>6.50E-05</td> </tr> <tr> <td>半蔵浜右の断面 F-1断面</td> <td>27</td> <td>7.2</td> <td>.62</td> <td>A</td> <td>1.15E-03</td> </tr> <tr> <td>半蔵浜左の断面 F-1断面</td> <td>5</td> <td>7.1</td> <td>.29</td> <td>B</td> <td>1.37E-04</td> </tr> <tr> <td>目名付近断面</td> <td>5</td> <td>7.1</td> <td>.36</td> <td>C</td> <td>2.58E-05</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <caption>第3.2.1-b-1表 地震による主要活動層の被災モードの説明 (3.3)</caption> <thead> <tr> <th>断面名</th> <th>構造長さ (m)</th> <th>被災原因M (kN)</th> <th><math>\lambda_{eq}</math> (kN)</th> <th>平均発生率/km</th> <th>被災率/50年/km</th> <th>年発生率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>里松内低地帯の断面</td> <td>3</td> <td>7.7</td> <td>.66</td> <td>3,400/km</td> <td>3,400/km</td> <td>1.82E-04</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>3,600/km</td> <td>3,600/km</td> <td>1.90E-04</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>5,000/km</td> <td>5,000/km</td> <td>1.62E-03</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>5,000/km</td> <td>5,000/km</td> <td>9.50E-04</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>5,000/km</td> <td>5,000/km</td> <td>7.02E-04</td> </tr> </tbody> </table>	断面名	構造長さ (m)	被災原因M (kN)	$\lambda_{eq}$ (kN)	活動度	年発生率	神威浜野内側の断面 F-1断面～岩内北Jの断面	31.5	7.5	.37	B	1.0E-01	F-1断面	39	6.7	.38	B	7.9E-05	半蔵浜右の断面 F-1断面	-	7.5	.34	H	1.37E-04	半蔵浜左の断面 F-1断面	-	7.1	.38	B	7.9E-05	半蔵浜右の断面 F-1断面	46	7.9	.90	B	1.37E-04	半蔵浜左の断面 F-1断面	45	7.6	.103	B	6.50E-05	半蔵浜右の断面 F-1断面	27	7.2	.62	A	1.15E-03	半蔵浜左の断面 F-1断面	5	7.1	.29	B	1.37E-04	目名付近断面	5	7.1	.36	C	2.58E-05	断面名	構造長さ (m)	被災原因M (kN)	$\lambda_{eq}$ (kN)	平均発生率/km	被災率/50年/km	年発生率	里松内低地帯の断面	3	7.7	.66	3,400/km	3,400/km	1.82E-04					3,600/km	3,600/km	1.90E-04					5,000/km	5,000/km	1.62E-03					5,000/km	5,000/km	9.50E-04					5,000/km	5,000/km	7.02E-04	<p>【女川】【大飯】</p> <p>■個別評価による相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地震発生様式等が異なることから、地震ハザード評価が異なる</li> </ul>
断面名	構造長さ (m)	被災原因M (kN)	$\lambda_{eq}$ (kN)	活動度	年発生率																																																																																																				
神威浜野内側の断面 F-1断面～岩内北Jの断面	31.5	7.5	.37	B	1.0E-01																																																																																																				
F-1断面	39	6.7	.38	B	7.9E-05																																																																																																				
半蔵浜右の断面 F-1断面	-	7.5	.34	H	1.37E-04																																																																																																				
半蔵浜左の断面 F-1断面	-	7.1	.38	B	7.9E-05																																																																																																				
半蔵浜右の断面 F-1断面	46	7.9	.90	B	1.37E-04																																																																																																				
半蔵浜左の断面 F-1断面	45	7.6	.103	B	6.50E-05																																																																																																				
半蔵浜右の断面 F-1断面	27	7.2	.62	A	1.15E-03																																																																																																				
半蔵浜左の断面 F-1断面	5	7.1	.29	B	1.37E-04																																																																																																				
目名付近断面	5	7.1	.36	C	2.58E-05																																																																																																				
断面名	構造長さ (m)	被災原因M (kN)	$\lambda_{eq}$ (kN)	平均発生率/km	被災率/50年/km	年発生率																																																																																																			
里松内低地帯の断面	3	7.7	.66	3,400/km	3,400/km	1.82E-04																																																																																																			
				3,600/km	3,600/km	1.90E-04																																																																																																			
				5,000/km	5,000/km	1.62E-03																																																																																																			
				5,000/km	5,000/km	9.50E-04																																																																																																			
				5,000/km	5,000/km	7.02E-04																																																																																																			

*3 松田哲彦 (1975) : 震源域から受ける地震の規模と震度について、地殻 第2編、第28巻、289-283
*4 武井伸之 (1988) : 日本列島における地震内地盤のスケーリング則—地盤動の影響による地盤強度との関連—、地殻、第2編、第5巻、211-228
*5 入倉秀次郎・三宅弘基 (2001) : シナリオ地震の地盤動予測、地学報55、110、849-875
*6 武井伸之 (1990) : 日本列島およびその周辺地盤における地盤モニメントの関係、地殻、第2編、第5巻、257-265
*7 大竹政和、平野泰、太田陽子 (2002) : 日本列島地盤の活動層と地盤チャートニクス、東京大学出版会

## 泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について  
 別添3 レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震PRA

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																																																									
	<p style="text-align: center;"><b>第3.2.1-b-3表 (1/2) ロジックツリーの分岐及び重み付けの考え方 (特定震源) &lt;特定震源&gt;</b></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>分岐</th> <th>重み</th> <th>重み付けの考え方</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">プレート間地震の 特定震源の扱い<sup>(a)</sup></td> <td>地質調査研究推進本部 (2013) モデル1</td> <td>7/9</td> <td>地盤震源の重み付けを 採用。</td> </tr> <tr> <td>地質調査研究推進本部 (2013) モデル2</td> <td>1/9</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">東北地方 太平洋沖型地震</td> <td>敷地の震源記号を用いた 距離減衰式</td> <td>1/2</td> <td>距離減衰式と断層モデル 手法を等分配に設 定。</td> </tr> <tr> <td>断層モデル手法</td> <td>1/2</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">内陸地盤内地震</td> <td>単独での活動</td> <td>1/2</td> <td>単独のみの活動と連動 も考慮した活動を等分 配に設定。</td> </tr> <tr> <td>単独と連動での活動</td> <td>1/2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>0.45</td> <td>1/2</td> <td>池田・野田 (2005)<sup>(b)</sup> に基づくばらつきを等 分配に設定。</td> </tr> <tr> <td>ばらつき</td> <td>0.40</td> <td>1/2</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注1 地質調査研究推進本部 (2013) のモデル1では、東北地方太平洋沖型地震と宮城県沖震源を 特定震源として評価しているが、モデル2では宮城県沖震源として評価している。 以上を踏まえ、女川の地震ハザード評価においてはプレート間地震の特定震源の扱いとして モデル1、2を分岐として設定。</p> <p style="text-align: center;"><b>第3.2.1-b-3表 (2/2) ロジックツリーの分岐及び重み付けの考え方 (領域震源) &lt;領域震源&gt;</b></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>分岐</th> <th>重み</th> <th>分岐・重み付けの考え方</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">宮城県沖 + 三陸沖南部 震源寄り</td> <td rowspan="2">最大M</td> <td>8.4</td> <td>1/8</td> <td>地質調査研究推進本部 (2013) の最大Mに対して、同震域で過 去に発生した地震の規模を参考 して分岐を設定。</td> </tr> <tr> <td>8.0</td> <td>7/8</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">地震性</td> <td>余震</td> <td>1/2</td> <td>東北地方太平洋沖地震後に余 震が多いと観測されている (熊野 (2012)<sup>(c)</sup>) ことを踏まえ分岐 を設定。</td> </tr> <tr> <td>余震T=40り</td> <td>1/2</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">三陸沖中部</td> <td rowspan="2">最大M</td> <td>8.2</td> <td>1/9</td> <td>地質調査研究推進本部 (2013) の最大Mに対して、「宮城県沖 +三陸沖南部震源寄り」のみ 付けを用いる。</td> </tr> <tr> <td>8.0</td> <td>7/9</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">福島県沖</td> <td rowspan="2">最大M</td> <td>8.2</td> <td>1/9</td> <td>地質調査研究推進本部 (2013) の最大Mに対して、「宮城県沖 +三陸沖南部震源寄り」のみ 付けを用いる。</td> </tr> <tr> <td>8.0</td> <td>7/9</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">地質動伝播 モデル</td> <td>Yoda et al. (2002) 敷地の震源記号を用いた距離減衰式</td> <td>1/3</td> <td>Yoda et al. (2002) と敷地の震 源記号を用いた距離減衰式の 分岐を設定。</td> </tr> <tr> <td>ばらつき</td> <td>0.45</td> <td>1/2</td> <td>池田・野田 (2005) に基くば らつきを等分配に設定。</td> </tr> <tr> <td>0.40</td> <td>1/2</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">全領域 共通</td> <td rowspan="2">最大M</td> <td>8.2</td> <td>1/5</td> <td>地質調査研究推進本部 (2013) の最大Mに対して、過去に発生 した地震の規模を参考に分岐 を設定。</td> </tr> <tr> <td>7.5</td> <td>4/5</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">ばらつき</td> <td>0.45</td> <td>1/2</td> <td>池田・野田 (2005) に基く ばらつきを等分配に設定。</td> </tr> <tr> <td>0.40</td> <td>1/2</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">内 陸 地 盤 内 震 源</td> <td rowspan="2">8 B</td> <td>7.3</td> <td>1/3</td> <td>地質調査研究推進本部 (2013) の最大Mに対して、分岐を設 定。</td> </tr> <tr> <td>6.8</td> <td>2/3</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">8 C</td> <td rowspan="2">ばらつき</td> <td>0.45</td> <td>1/2</td> <td>池田・野田 (2005) に基く ばらつきを等分配に設定。</td> </tr> <tr> <td>0.40</td> <td>1/2</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">ばらつき</td> <td>7.3</td> <td>1/3</td> <td>地質調査研究推進本部 (2013) の最大Mに対して、分岐を設 定。</td> </tr> <tr> <td>7.2</td> <td>2/3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>0.45</td> <td>1/2</td> <td>池田・野田 (2005) に基く ばらつきを等分配に設定。</td> </tr> <tr> <td>0.40</td> <td>1/2</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	項目	分岐	重み	重み付けの考え方	プレート間地震の 特定震源の扱い <sup>(a)</sup>	地質調査研究推進本部 (2013) モデル1	7/9	地盤震源の重み付けを 採用。	地質調査研究推進本部 (2013) モデル2	1/9		東北地方 太平洋沖型地震	敷地の震源記号を用いた 距離減衰式	1/2	距離減衰式と断層モデル 手法を等分配に設 定。	断層モデル手法	1/2		内陸地盤内地震	単独での活動	1/2	単独のみの活動と連動 も考慮した活動を等分 配に設定。	単独と連動での活動	1/2		0.45	1/2	池田・野田 (2005) <sup>(b)</sup> に基づくばらつきを等 分配に設定。	ばらつき	0.40	1/2		項目	分岐	重み	分岐・重み付けの考え方	宮城県沖 + 三陸沖南部 震源寄り	最大M	8.4	1/8	地質調査研究推進本部 (2013) の最大Mに対して、同震域で過 去に発生した地震の規模を参考 して分岐を設定。	8.0	7/8		地震性	余震	1/2	東北地方太平洋沖地震後に余 震が多いと観測されている (熊野 (2012) <sup>(c)</sup> ) ことを踏まえ分岐 を設定。	余震T=40り	1/2		三陸沖中部	最大M	8.2	1/9	地質調査研究推進本部 (2013) の最大Mに対して、「宮城県沖 +三陸沖南部震源寄り」のみ 付けを用いる。	8.0	7/9		福島県沖	最大M	8.2	1/9	地質調査研究推進本部 (2013) の最大Mに対して、「宮城県沖 +三陸沖南部震源寄り」のみ 付けを用いる。	8.0	7/9		地質動伝播 モデル	Yoda et al. (2002) 敷地の震源記号を用いた距離減衰式	1/3	Yoda et al. (2002) と敷地の震 源記号を用いた距離減衰式の 分岐を設定。	ばらつき	0.45	1/2	池田・野田 (2005) に基くば らつきを等分配に設定。	0.40	1/2		全領域 共通	最大M	8.2	1/5	地質調査研究推進本部 (2013) の最大Mに対して、過去に発生 した地震の規模を参考に分岐 を設定。	7.5	4/5		ばらつき	0.45	1/2	池田・野田 (2005) に基く ばらつきを等分配に設定。	0.40	1/2		内 陸 地 盤 内 震 源	8 B	7.3	1/3	地質調査研究推進本部 (2013) の最大Mに対して、分岐を設 定。	6.8	2/3		8 C	ばらつき	0.45	1/2	池田・野田 (2005) に基く ばらつきを等分配に設定。	0.40	1/2		ばらつき	7.3	1/3	地質調査研究推進本部 (2013) の最大Mに対して、分岐を設 定。	7.2	2/3		0.45	1/2	池田・野田 (2005) に基く ばらつきを等分配に設定。	0.40	1/2		<p style="color: red;">【女川】</p> <p>■個別評価による相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地震発生様式等が異なるこ とから、地震ハザード評価が 異なる</li> </ul>
項目	分岐	重み	重み付けの考え方																																																																																																																									
プレート間地震の 特定震源の扱い <sup>(a)</sup>	地質調査研究推進本部 (2013) モデル1	7/9	地盤震源の重み付けを 採用。																																																																																																																									
	地質調査研究推進本部 (2013) モデル2	1/9																																																																																																																										
東北地方 太平洋沖型地震	敷地の震源記号を用いた 距離減衰式	1/2	距離減衰式と断層モデル 手法を等分配に設 定。																																																																																																																									
	断層モデル手法	1/2																																																																																																																										
	内陸地盤内地震	単独での活動	1/2	単独のみの活動と連動 も考慮した活動を等分 配に設定。																																																																																																																								
単独と連動での活動		1/2																																																																																																																										
0.45		1/2	池田・野田 (2005) <sup>(b)</sup> に基づくばらつきを等 分配に設定。																																																																																																																									
ばらつき	0.40	1/2																																																																																																																										
項目	分岐	重み	分岐・重み付けの考え方																																																																																																																									
宮城県沖 + 三陸沖南部 震源寄り	最大M	8.4	1/8	地質調査研究推進本部 (2013) の最大Mに対して、同震域で過 去に発生した地震の規模を参考 して分岐を設定。																																																																																																																								
		8.0	7/8																																																																																																																									
	地震性	余震	1/2	東北地方太平洋沖地震後に余 震が多いと観測されている (熊野 (2012) <sup>(c)</sup> ) ことを踏まえ分岐 を設定。																																																																																																																								
余震T=40り		1/2																																																																																																																										
三陸沖中部		最大M	8.2	1/9	地質調査研究推進本部 (2013) の最大Mに対して、「宮城県沖 +三陸沖南部震源寄り」のみ 付けを用いる。																																																																																																																							
	8.0		7/9																																																																																																																									
	福島県沖	最大M	8.2	1/9	地質調査研究推進本部 (2013) の最大Mに対して、「宮城県沖 +三陸沖南部震源寄り」のみ 付けを用いる。																																																																																																																							
8.0			7/9																																																																																																																									
地質動伝播 モデル		Yoda et al. (2002) 敷地の震源記号を用いた距離減衰式	1/3	Yoda et al. (2002) と敷地の震 源記号を用いた距離減衰式の 分岐を設定。																																																																																																																								
	ばらつき	0.45	1/2	池田・野田 (2005) に基くば らつきを等分配に設定。																																																																																																																								
	0.40	1/2																																																																																																																										
全領域 共通	最大M	8.2	1/5	地質調査研究推進本部 (2013) の最大Mに対して、過去に発生 した地震の規模を参考に分岐 を設定。																																																																																																																								
		7.5	4/5																																																																																																																									
	ばらつき	0.45	1/2	池田・野田 (2005) に基く ばらつきを等分配に設定。																																																																																																																								
0.40		1/2																																																																																																																										
内 陸 地 盤 内 震 源		8 B	7.3	1/3	地質調査研究推進本部 (2013) の最大Mに対して、分岐を設 定。																																																																																																																							
	6.8		2/3																																																																																																																									
	8 C	ばらつき	0.45	1/2	池田・野田 (2005) に基く ばらつきを等分配に設定。																																																																																																																							
0.40			1/2																																																																																																																									
ばらつき		7.3	1/3	地質調査研究推進本部 (2013) の最大Mに対して、分岐を設 定。																																																																																																																								
	7.2	2/3																																																																																																																										
	0.45	1/2	池田・野田 (2005) に基く ばらつきを等分配に設定。																																																																																																																									
0.40	1/2																																																																																																																											

## 泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について  
別添3. レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震PRA

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3／4号炉			女川原子力発電所2号炉			泊発電所3号炉			相違理由																																				
第1.2.1.c-1-1表 考慮する不確実さ要因の例			第3.2.1.c-1-1表 考慮する不確実さ要因の例			第3.2.1.c-1-1表 考慮する不確実さ要因の例																																							
<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法</th><th>偶然的不確実さ (<math>\beta_u</math>)</th><th>認識論的不確実さ (<math>\beta_v</math>)</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>建物構築物</td><td> <ul style="list-style-type: none"> <li>現実的耐力</li> <li>・構造材料定数</li> <li>・損傷限界時ひずみ</li> </ul> </td><td> <ul style="list-style-type: none"> <li>施工精度</li> <li>・実験データの統計的精度</li> <li>・耐力評価式の誤差</li> </ul> </td></tr> <tr> <td>現実的応答</td><td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・構造材料定数</li> <li>・地盤材料定数</li> </ul> </td><td> <ul style="list-style-type: none"> <li>モデル形態</li> <li>・剛性評価の仮定</li> <li>・復元力特性のモデル化</li> <li>・耐震要素の評価範囲</li> </ul> </td></tr> </tbody> </table>			評価方法	偶然的不確実さ ( $\beta_u$ )	認識論的不確実さ ( $\beta_v$ )	建物構築物	<ul style="list-style-type: none"> <li>現実的耐力</li> <li>・構造材料定数</li> <li>・損傷限界時ひずみ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>施工精度</li> <li>・実験データの統計的精度</li> <li>・耐力評価式の誤差</li> </ul>	現実的応答	<ul style="list-style-type: none"> <li>・構造材料定数</li> <li>・地盤材料定数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>モデル形態</li> <li>・剛性評価の仮定</li> <li>・復元力特性のモデル化</li> <li>・耐震要素の評価範囲</li> </ul>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法</th><th>偶然的不確実さ (<math>\beta_u</math>)</th><th>認識論的不確実さ (<math>\beta_v</math>)</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>建屋</td><td> <ul style="list-style-type: none"> <li>現実的耐力</li> <li>・構造材料定数</li> <li>・損傷限界時ひずみ</li> </ul> </td><td> <ul style="list-style-type: none"> <li>施工精度</li> <li>・実験データの統計的精度</li> <li>・耐力評価式の誤差</li> </ul> </td></tr> <tr> <td>現実的応答</td><td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・構造材料定数</li> <li>・地盤材料定数</li> </ul> </td><td> <ul style="list-style-type: none"> <li>モデル形態</li> <li>・剛性評価の仮定</li> <li>・復元力特性のモデル化</li> <li>・耐震要素の評価範囲</li> </ul> </td></tr> </tbody> </table>			評価方法	偶然的不確実さ ( $\beta_u$ )	認識論的不確実さ ( $\beta_v$ )	建屋	<ul style="list-style-type: none"> <li>現実的耐力</li> <li>・構造材料定数</li> <li>・損傷限界時ひずみ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>施工精度</li> <li>・実験データの統計的精度</li> <li>・耐力評価式の誤差</li> </ul>	現実的応答	<ul style="list-style-type: none"> <li>・構造材料定数</li> <li>・地盤材料定数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>モデル形態</li> <li>・剛性評価の仮定</li> <li>・復元力特性のモデル化</li> <li>・耐震要素の評価範囲</li> </ul>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法</th><th>偶然的不確実さ (<math>\beta_u</math>)</th><th>認識論的不確実さ (<math>\beta_v</math>)</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>建屋</td><td> <ul style="list-style-type: none"> <li>現実的耐力</li> <li>・構造材料定数</li> <li>・損傷限界時ひずみ</li> </ul> </td><td> <ul style="list-style-type: none"> <li>施工精度</li> <li>・実験データの統計的精度</li> <li>・耐力評価式の誤差</li> </ul> </td></tr> <tr> <td>現実的応答</td><td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・構造材料定数</li> <li>・地盤材料定数</li> </ul> </td><td> <ul style="list-style-type: none"> <li>モデル形態</li> <li>・剛性評価の仮定</li> <li>・復元力特性のモデル化</li> <li>・耐震要素の評価範囲</li> </ul> </td></tr> </tbody> </table>			評価方法	偶然的不確実さ ( $\beta_u$ )	認識論的不確実さ ( $\beta_v$ )	建屋	<ul style="list-style-type: none"> <li>現実的耐力</li> <li>・構造材料定数</li> <li>・損傷限界時ひずみ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>施工精度</li> <li>・実験データの統計的精度</li> <li>・耐力評価式の誤差</li> </ul>	現実的応答	<ul style="list-style-type: none"> <li>・構造材料定数</li> <li>・地盤材料定数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>モデル形態</li> <li>・剛性評価の仮定</li> <li>・復元力特性のモデル化</li> <li>・耐震要素の評価範囲</li> </ul>										
評価方法	偶然的不確実さ ( $\beta_u$ )	認識論的不確実さ ( $\beta_v$ )																																											
建物構築物	<ul style="list-style-type: none"> <li>現実的耐力</li> <li>・構造材料定数</li> <li>・損傷限界時ひずみ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>施工精度</li> <li>・実験データの統計的精度</li> <li>・耐力評価式の誤差</li> </ul>																																											
現実的応答	<ul style="list-style-type: none"> <li>・構造材料定数</li> <li>・地盤材料定数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>モデル形態</li> <li>・剛性評価の仮定</li> <li>・復元力特性のモデル化</li> <li>・耐震要素の評価範囲</li> </ul>																																											
評価方法	偶然的不確実さ ( $\beta_u$ )	認識論的不確実さ ( $\beta_v$ )																																											
建屋	<ul style="list-style-type: none"> <li>現実的耐力</li> <li>・構造材料定数</li> <li>・損傷限界時ひずみ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>施工精度</li> <li>・実験データの統計的精度</li> <li>・耐力評価式の誤差</li> </ul>																																											
現実的応答	<ul style="list-style-type: none"> <li>・構造材料定数</li> <li>・地盤材料定数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>モデル形態</li> <li>・剛性評価の仮定</li> <li>・復元力特性のモデル化</li> <li>・耐震要素の評価範囲</li> </ul>																																											
評価方法	偶然的不確実さ ( $\beta_u$ )	認識論的不確実さ ( $\beta_v$ )																																											
建屋	<ul style="list-style-type: none"> <li>現実的耐力</li> <li>・構造材料定数</li> <li>・損傷限界時ひずみ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>施工精度</li> <li>・実験データの統計的精度</li> <li>・耐力評価式の誤差</li> </ul>																																											
現実的応答	<ul style="list-style-type: none"> <li>・構造材料定数</li> <li>・地盤材料定数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>モデル形態</li> <li>・剛性評価の仮定</li> <li>・復元力特性のモデル化</li> <li>・耐震要素の評価範囲</li> </ul>																																											
第1.2.1.c-1-2表 損傷限界点の現実的な値（地震PSA学会標準）			第3.2.1.c-1-2表 損傷限界点の現実的な値（地震PSA学会標準）			第3.2.1.c-1-2表 損傷限界点の現実的な値（地震PSA学会標準）																																							
<table border="1"> <thead> <tr> <th>損傷限界点の指標</th><th>平均値</th><th>変動係数</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>せん断ひずみ</td><td> <table border="1"> <tr> <td>ボックス壁</td><td><math>5.36 \times 10^{-3}</math></td><td>0.24</td></tr> <tr> <td>円筒壁</td><td><math>9.77 \times 10^{-3}</math></td><td>0.33</td></tr> </table> </td><td></td></tr> </tbody> </table>			損傷限界点の指標	平均値	変動係数	せん断ひずみ	<table border="1"> <tr> <td>ボックス壁</td><td><math>5.36 \times 10^{-3}</math></td><td>0.24</td></tr> <tr> <td>円筒壁</td><td><math>9.77 \times 10^{-3}</math></td><td>0.33</td></tr> </table>	ボックス壁	$5.36 \times 10^{-3}$	0.24	円筒壁	$9.77 \times 10^{-3}$	0.33		<table border="1"> <thead> <tr> <th>損傷限界点の指標</th><th>平均値</th><th>変動係数</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>せん断ひずみ</td><td> <table border="1"> <tr> <td>ボックス壁</td><td><math>5.36 \times 10^{-3}</math></td><td>0.24</td></tr> <tr> <td>円筒壁</td><td><math>9.77 \times 10^{-3}</math></td><td>0.33</td></tr> </table> </td><td></td></tr> </tbody> </table>			損傷限界点の指標	平均値	変動係数	せん断ひずみ	<table border="1"> <tr> <td>ボックス壁</td><td><math>5.36 \times 10^{-3}</math></td><td>0.24</td></tr> <tr> <td>円筒壁</td><td><math>9.77 \times 10^{-3}</math></td><td>0.33</td></tr> </table>	ボックス壁	$5.36 \times 10^{-3}$	0.24	円筒壁	$9.77 \times 10^{-3}$	0.33		<table border="1"> <thead> <tr> <th>損傷限界点の指標</th><th>平均値</th><th>変動係数</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>せん断ひずみ</td><td> <table border="1"> <tr> <td>ボックス壁</td><td><math>5.36 \times 10^{-3}</math></td><td>0.24</td></tr> <tr> <td>円筒壁</td><td><math>9.77 \times 10^{-3}</math></td><td>0.33</td></tr> </table> </td><td></td></tr> </tbody> </table>			損傷限界点の指標	平均値	変動係数	せん断ひずみ	<table border="1"> <tr> <td>ボックス壁</td><td><math>5.36 \times 10^{-3}</math></td><td>0.24</td></tr> <tr> <td>円筒壁</td><td><math>9.77 \times 10^{-3}</math></td><td>0.33</td></tr> </table>	ボックス壁	$5.36 \times 10^{-3}$	0.24	円筒壁	$9.77 \times 10^{-3}$	0.33		
損傷限界点の指標	平均値	変動係数																																											
せん断ひずみ	<table border="1"> <tr> <td>ボックス壁</td><td><math>5.36 \times 10^{-3}</math></td><td>0.24</td></tr> <tr> <td>円筒壁</td><td><math>9.77 \times 10^{-3}</math></td><td>0.33</td></tr> </table>	ボックス壁	$5.36 \times 10^{-3}$	0.24	円筒壁	$9.77 \times 10^{-3}$	0.33																																						
ボックス壁	$5.36 \times 10^{-3}$	0.24																																											
円筒壁	$9.77 \times 10^{-3}$	0.33																																											
損傷限界点の指標	平均値	変動係数																																											
せん断ひずみ	<table border="1"> <tr> <td>ボックス壁</td><td><math>5.36 \times 10^{-3}</math></td><td>0.24</td></tr> <tr> <td>円筒壁</td><td><math>9.77 \times 10^{-3}</math></td><td>0.33</td></tr> </table>	ボックス壁	$5.36 \times 10^{-3}$	0.24	円筒壁	$9.77 \times 10^{-3}$	0.33																																						
ボックス壁	$5.36 \times 10^{-3}$	0.24																																											
円筒壁	$9.77 \times 10^{-3}$	0.33																																											
損傷限界点の指標	平均値	変動係数																																											
せん断ひずみ	<table border="1"> <tr> <td>ボックス壁</td><td><math>5.36 \times 10^{-3}</math></td><td>0.24</td></tr> <tr> <td>円筒壁</td><td><math>9.77 \times 10^{-3}</math></td><td>0.33</td></tr> </table>	ボックス壁	$5.36 \times 10^{-3}$	0.24	円筒壁	$9.77 \times 10^{-3}$	0.33																																						
ボックス壁	$5.36 \times 10^{-3}$	0.24																																											
円筒壁	$9.77 \times 10^{-3}$	0.33																																											

泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について  
別添3. レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震PRA

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3／4号炉					女川原子力発電所2号炉			泊発電所3号炉				相違理由																																																																														
第1.2.1.c-1-3表 地盤物性値（大飯サイト）					第3.2.1.c-1-3表 コンクリートの材料物性値（設計値）			第3.2.1.c-1-3表 物性値（原子炉建屋）				【女川】																																																																														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>地層 E.L. (m)</th><th>地盤せん断波 速度 Vs (m/s)</th><th>密度 <math>\rho</math> (t/m<sup>3</sup>)</th><th>ボアン比 <math>v</math></th><th>せん断 弾性係数 G (N/mm<sup>2</sup>)</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>-60 以浅</td><td>2,240</td><td>2.7</td><td>0.35</td><td><math>1.35 \times 10^4</math></td></tr> <tr> <td>-60 以深</td><td>2,510</td><td>2.7</td><td>0.34</td><td><math>1.70 \times 10^4</math></td></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td></td><td><math>4.56 \times 10^4</math></td></tr> </tbody> </table>					地層 E.L. (m)	地盤せん断波 速度 Vs (m/s)	密度 $\rho$ (t/m <sup>3</sup> )	ボアン比 $v$	せん断 弾性係数 G (N/mm <sup>2</sup> )	-60 以浅	2,240	2.7	0.35	$1.35 \times 10^4$	-60 以深	2,510	2.7	0.34	$1.70 \times 10^4$					$4.56 \times 10^4$	<table border="1"> <thead> <tr> <th>材 料</th><th>設計基準強度 F<sub>c</sub> N/mm<sup>2</sup> (kgf/cm<sup>2</sup>)</th><th>減衰定数 h (%)</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>コンクリート</td><td>32.4 (330kgf/cm<sup>2</sup>)</td><td>5</td></tr> </tbody> </table>	材 料	設計基準強度 F <sub>c</sub> N/mm <sup>2</sup> (kgf/cm <sup>2</sup> )	減衰定数 h (%)	コンクリート	32.4 (330kgf/cm <sup>2</sup> )	5	<table border="1"> <thead> <tr> <th>部 位</th><th>使 用 材 料</th><th>ヤ ン グ 係 数 E (N/mm<sup>2</sup>)</th><th>せん 断 弾 性 係 数 G (N/mm<sup>2</sup>)</th><th>減 衰 定 数 h (%)</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>T.P. 33.1m を超える部分</td><td>コンクリート： <math>F_c = 30</math> (N/mm<sup>2</sup>) 鉄筋：SBS45</td><td><math>2.44 \times 10^4</math></td><td><math>1.02 \times 10^4</math></td><td>5</td></tr> <tr> <td>T.P. 33.1m 以下</td><td>コンクリート： <math>F_c = 24</math> (N/mm<sup>2</sup>) 鉄筋：SBS45</td><td><math>2.27 \times 10^4</math></td><td><math>0.91 \times 10^4</math></td><td>5</td></tr> <tr> <td>燃料取扱機 及び 周辺構造</td><td>コンクリート： <math>F_c = 24</math> (N/mm<sup>2</sup>) 鉄筋：SBS45</td><td><math>2.27 \times 10^4</math></td><td><math>0.91 \times 10^4</math></td><td>5</td></tr> <tr> <td>内部コンクリート</td><td>コンクリート： <math>F_c = 36</math> (N/mm<sup>2</sup>) 鉄筋：SD390</td><td><math>2.59 \times 10^4</math></td><td><math>1.08 \times 10^4</math></td><td>5</td></tr> <tr> <td>燃料取扱機 (机部)</td><td>T.P. 47.6m - 55.0m SS1000 SN490B</td><td><math>2.05 \times 10^4</math></td><td><math>0.79 \times 10^4</math></td><td>2</td></tr> <tr> <td>原子炉格納容器(C/V)</td><td>原子炉格納容器</td><td>SGV480</td><td><math>1.96 \times 10^2</math></td><td><math>7.53 \times 10^4</math></td><td>1</td></tr> <tr> <td>内部コンクリート (I/C) 原子炉周辺建屋 (E/B)</td><td>部材番号 31, 32 及 び 34-37</td><td>SQV2B</td><td><math>1.85 \times 10^5</math></td><td><math>7.12 \times 10^4</math></td><td>3 (水平) 1 (縦直)</td></tr> <tr> <td>原子炉周辺建屋 (E/B)</td><td>部材番号 33</td><td>SPV1A</td><td><math>1.77 \times 10^5</math></td><td><math>6.81 \times 10^4</math></td><td></td></tr> <tr> <td>蒸気発生器(S/G)</td><td>部材番号 38</td><td>SQV2A</td><td><math>1.80 \times 10^5</math></td><td><math>6.92 \times 10^4</math></td><td></td></tr> </tbody> </table>	部 位	使 用 材 料	ヤ ン グ 係 数 E (N/mm <sup>2</sup> )	せん 断 弾 性 係 数 G (N/mm <sup>2</sup> )	減 衰 定 数 h (%)	T.P. 33.1m を超える部分	コンクリート： $F_c = 30$ (N/mm <sup>2</sup> ) 鉄筋：SBS45	$2.44 \times 10^4$	$1.02 \times 10^4$	5	T.P. 33.1m 以下	コンクリート： $F_c = 24$ (N/mm <sup>2</sup> ) 鉄筋：SBS45	$2.27 \times 10^4$	$0.91 \times 10^4$	5	燃料取扱機 及び 周辺構造	コンクリート： $F_c = 24$ (N/mm <sup>2</sup> ) 鉄筋：SBS45	$2.27 \times 10^4$	$0.91 \times 10^4$	5	内部コンクリート	コンクリート： $F_c = 36$ (N/mm <sup>2</sup> ) 鉄筋：SD390	$2.59 \times 10^4$	$1.08 \times 10^4$	5	燃料取扱機 (机部)	T.P. 47.6m - 55.0m SS1000 SN490B	$2.05 \times 10^4$	$0.79 \times 10^4$	2	原子炉格納容器(C/V)	原子炉格納容器	SGV480	$1.96 \times 10^2$	$7.53 \times 10^4$	1	内部コンクリート (I/C) 原子炉周辺建屋 (E/B)	部材番号 31, 32 及 び 34-37	SQV2B	$1.85 \times 10^5$	$7.12 \times 10^4$	3 (水平) 1 (縦直)	原子炉周辺建屋 (E/B)	部材番号 33	SPV1A	$1.77 \times 10^5$	$6.81 \times 10^4$		蒸気発生器(S/G)	部材番号 38	SQV2A	$1.80 \times 10^5$	$6.92 \times 10^4$		■評価方針の相違 ・泊はコンクリート以外も含めた建屋の材料物性値を示している他、地盤物性値において表層地盤を設定していない（大飯と同様）			
地層 E.L. (m)	地盤せん断波 速度 Vs (m/s)	密度 $\rho$ (t/m <sup>3</sup> )	ボアン比 $v$	せん断 弾性係数 G (N/mm <sup>2</sup> )																																																																																						
-60 以浅	2,240	2.7	0.35	$1.35 \times 10^4$																																																																																						
-60 以深	2,510	2.7	0.34	$1.70 \times 10^4$																																																																																						
				$4.56 \times 10^4$																																																																																						
材 料	設計基準強度 F <sub>c</sub> N/mm <sup>2</sup> (kgf/cm <sup>2</sup> )	減衰定数 h (%)																																																																																								
コンクリート	32.4 (330kgf/cm <sup>2</sup> )	5																																																																																								
部 位	使 用 材 料	ヤ ン グ 係 数 E (N/mm <sup>2</sup> )	せん 断 弾 性 係 数 G (N/mm <sup>2</sup> )	減 衰 定 数 h (%)																																																																																						
T.P. 33.1m を超える部分	コンクリート： $F_c = 30$ (N/mm <sup>2</sup> ) 鉄筋：SBS45	$2.44 \times 10^4$	$1.02 \times 10^4$	5																																																																																						
T.P. 33.1m 以下	コンクリート： $F_c = 24$ (N/mm <sup>2</sup> ) 鉄筋：SBS45	$2.27 \times 10^4$	$0.91 \times 10^4$	5																																																																																						
燃料取扱機 及び 周辺構造	コンクリート： $F_c = 24$ (N/mm <sup>2</sup> ) 鉄筋：SBS45	$2.27 \times 10^4$	$0.91 \times 10^4$	5																																																																																						
内部コンクリート	コンクリート： $F_c = 36$ (N/mm <sup>2</sup> ) 鉄筋：SD390	$2.59 \times 10^4$	$1.08 \times 10^4$	5																																																																																						
燃料取扱機 (机部)	T.P. 47.6m - 55.0m SS1000 SN490B	$2.05 \times 10^4$	$0.79 \times 10^4$	2																																																																																						
原子炉格納容器(C/V)	原子炉格納容器	SGV480	$1.96 \times 10^2$	$7.53 \times 10^4$	1																																																																																					
内部コンクリート (I/C) 原子炉周辺建屋 (E/B)	部材番号 31, 32 及 び 34-37	SQV2B	$1.85 \times 10^5$	$7.12 \times 10^4$	3 (水平) 1 (縦直)																																																																																					
原子炉周辺建屋 (E/B)	部材番号 33	SPV1A	$1.77 \times 10^5$	$6.81 \times 10^4$																																																																																						
蒸気発生器(S/G)	部材番号 38	SQV2A	$1.80 \times 10^5$	$6.92 \times 10^4$																																																																																						
第1.2.1.c-1-4表 物性値（原子炉建屋）					第3.2.1.c-1-4表 原子炉建屋周辺の地盤物性値			第3.2.1.c-1-4表 物性値（原子炉建屋周辺）				【女川】【大飯】																																																																														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>部 位</th><th>使 用 材 料</th><th>ヤ ン グ 係 数 E (N/mm<sup>2</sup>)</th><th>せん 断 弹 性 係 数 G (N/mm<sup>2</sup>)</th><th>減 衰 定 数 h (%)</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>原子炉格納容器(C/V)</td><td>コンクリート： <math>Fe=44.1</math> (N/mm<sup>2</sup>) (<math>Fe=450</math>kgf/cm<sup>2</sup>) 鉄筋：SD40 (SD390相当)</td><td><math>2.90 \times 10^4</math></td><td><math>1.21 \times 10^4</math></td><td>3</td></tr> <tr> <td>内部コンクリート (I/C) 原子炉周辺建屋 (E/B)</td><td>コンクリート： <math>Fe=29.4</math> (N/mm<sup>2</sup>) (<math>Fe=300</math>kgf/cm<sup>2</sup>) 鉄筋：I/C SD40 (SD390相当) E/B SD35 (SD345相当)</td><td><math>2.43 \times 10^4</math></td><td><math>1.01 \times 10^4</math></td><td>5</td></tr> <tr> <td>原子炉周辺建屋 (E/B)</td><td>鉄骨：SM50 (SM490相当)</td><td><math>2.05 \times 10^6</math></td><td><math>7.90 \times 10^4</math></td><td>2</td></tr> <tr> <td>蒸気発生器(S/G)</td><td>SQV2A 部材：SG02</td><td><math>1.80 \times 10^5</math></td><td><math>6.92 \times 10^4</math></td><td>水平：3 鉛直：1</td></tr> <tr> <td></td><td>SQV2B 部材：SG03-SG09</td><td><math>1.85 \times 10^5</math></td><td><math>7.12 \times 10^4</math></td><td>水平：3 鉛直：1</td></tr> </tbody> </table>					部 位	使 用 材 料	ヤ ン グ 係 数 E (N/mm <sup>2</sup> )	せん 断 弹 性 係 数 G (N/mm <sup>2</sup> )	減 衰 定 数 h (%)	原子炉格納容器(C/V)	コンクリート： $Fe=44.1$ (N/mm <sup>2</sup> ) ( $Fe=450$ kgf/cm <sup>2</sup> ) 鉄筋：SD40 (SD390相当)	$2.90 \times 10^4$	$1.21 \times 10^4$	3	内部コンクリート (I/C) 原子炉周辺建屋 (E/B)	コンクリート： $Fe=29.4$ (N/mm <sup>2</sup> ) ( $Fe=300$ kgf/cm <sup>2</sup> ) 鉄筋：I/C SD40 (SD390相当) E/B SD35 (SD345相当)	$2.43 \times 10^4$	$1.01 \times 10^4$	5	原子炉周辺建屋 (E/B)	鉄骨：SM50 (SM490相当)	$2.05 \times 10^6$	$7.90 \times 10^4$	2	蒸気発生器(S/G)	SQV2A 部材：SG02	$1.80 \times 10^5$	$6.92 \times 10^4$	水平：3 鉛直：1		SQV2B 部材：SG03-SG09	$1.85 \times 10^5$	$7.12 \times 10^4$	水平：3 鉛直：1	<table border="1"> <thead> <tr> <th>0. P. (m)</th><th>層区分</th><th>密 度 <math>\rho</math> (g/cm<sup>3</sup>)</th><th>せん 断 波 速 度 Vs (m/s)</th><th>減 衰 定 数<sup>※1</sup> h (%)</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>14.8</td><td>表層地盤①<sup>※2</sup></td><td>1.90</td><td>※ 1</td><td>3<sup>※3</sup></td></tr> <tr> <td>0.0</td><td>表層地盤②</td><td>2.38</td><td>900</td><td>3</td></tr> <tr> <td>-14.1</td><td>岩盤①</td><td>2.43</td><td>1300</td><td>3</td></tr> <tr> <td>-25.0</td><td>岩盤②</td><td>2.51</td><td>2150</td><td>3</td></tr> <tr> <td>-80.0</td><td>岩盤③</td><td>2.55</td><td>2440</td><td>3</td></tr> <tr> <td>-200.0</td><td>岩盤③</td><td>2.55</td><td>2440</td><td>3</td></tr> </tbody> </table>	0. P. (m)	層区分	密 度 $\rho$ (g/cm <sup>3</sup> )	せん 断 波 速 度 Vs (m/s)	減 衰 定 数 <sup>※1</sup> h (%)	14.8	表層地盤① <sup>※2</sup>	1.90	※ 1	3 <sup>※3</sup>	0.0	表層地盤②	2.38	900	3	-14.1	岩盤①	2.43	1300	3	-25.0	岩盤②	2.51	2150	3	-80.0	岩盤③	2.55	2440	3	-200.0	岩盤③	2.55	2440	3	<p>注記※1：下式により初期せん断弾性係数を求めて初期 Vs<sub>0</sub>を設定する。  <math>VS_0 = \sqrt{1000 \times G_0 / \rho}</math> (m/s)      ここで、 <math>G_0 = 1787 \sigma_v^{0.84}</math> (MN/m<sup>2</sup>)  <math>\Sigma = \sigma_v \times 2/3</math> (MN/m<sup>2</sup>)  <math>\sigma_v</math>：単位体積重量と深度から算定</p> <p>注記※2：レーリー減衰 3% (4Hz, 12Hz)とする。</p> <p>注記※3：表層地盤①は以下により非線形特性を設定する。</p> <p>G/G<sub>0</sub> - γ 関係  <math>G/G_0 = 1/(1 + \gamma/\gamma_m)</math>      ここで、 <math>\gamma_m = \tau_m/G_0</math>  <math>\tau_m = \tau_0 + \sigma_{md} \tan \phi</math> (MN/m<sup>2</sup>)  <math>\tau_0 = 0.1</math> (MN/m<sup>2</sup>)  <math>\phi = 33.9^\circ</math>  <math>\sigma_{md} = \sigma_v \times 3/4</math> (MN/m<sup>2</sup>)</p> <p>h - γ 関係  <math>h = 0.183 \gamma / (\gamma + 0.000261)</math></p>				■個別評価による相違 ・評価対象建屋の相違															
部 位	使 用 材 料	ヤ ン グ 係 数 E (N/mm <sup>2</sup> )	せん 断 弹 性 係 数 G (N/mm <sup>2</sup> )	減 衰 定 数 h (%)																																																																																						
原子炉格納容器(C/V)	コンクリート： $Fe=44.1$ (N/mm <sup>2</sup> ) ( $Fe=450$ kgf/cm <sup>2</sup> ) 鉄筋：SD40 (SD390相当)	$2.90 \times 10^4$	$1.21 \times 10^4$	3																																																																																						
内部コンクリート (I/C) 原子炉周辺建屋 (E/B)	コンクリート： $Fe=29.4$ (N/mm <sup>2</sup> ) ( $Fe=300$ kgf/cm <sup>2</sup> ) 鉄筋：I/C SD40 (SD390相当) E/B SD35 (SD345相当)	$2.43 \times 10^4$	$1.01 \times 10^4$	5																																																																																						
原子炉周辺建屋 (E/B)	鉄骨：SM50 (SM490相当)	$2.05 \times 10^6$	$7.90 \times 10^4$	2																																																																																						
蒸気発生器(S/G)	SQV2A 部材：SG02	$1.80 \times 10^5$	$6.92 \times 10^4$	水平：3 鉛直：1																																																																																						
	SQV2B 部材：SG03-SG09	$1.85 \times 10^5$	$7.12 \times 10^4$	水平：3 鉛直：1																																																																																						
0. P. (m)	層区分	密 度 $\rho$ (g/cm <sup>3</sup> )	せん 断 波 速 度 Vs (m/s)	減 衰 定 数 <sup>※1</sup> h (%)																																																																																						
14.8	表層地盤① <sup>※2</sup>	1.90	※ 1	3 <sup>※3</sup>																																																																																						
0.0	表層地盤②	2.38	900	3																																																																																						
-14.1	岩盤①	2.43	1300	3																																																																																						
-25.0	岩盤②	2.51	2150	3																																																																																						
-80.0	岩盤③	2.55	2440	3																																																																																						
-200.0	岩盤③	2.55	2440	3																																																																																						
第1.2.1.c-1-5表 物性値（制御建屋）					第3.2.1.c-1-5表 物性値（ディーゼル発電機建屋）			第3.2.1.c-1-5表 物性値（ディーゼル発電機建屋）				【女川】【大飯】																																																																														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>部 位</th><th>使 用 材 料</th><th>ヤ ン グ 係 数 E (N/mm<sup>2</sup>)</th><th>せん 断 弹 性 係 数 G (N/mm<sup>2</sup>)</th><th>減 衰 定 数 h (%)</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>制御建屋(RC 造)</td><td>コンクリート： <math>Fe=29.4</math>(N/mm<sup>2</sup>) (<math>Fe=300</math>kgf/cm<sup>2</sup>) 鉄筋：SD35 (SD345相当)</td><td><math>2.43 \times 10^4</math></td><td><math>1.01 \times 10^4</math></td><td>5</td></tr> </tbody> </table>					部 位	使 用 材 料	ヤ ン グ 係 数 E (N/mm <sup>2</sup> )	せん 断 弹 性 係 数 G (N/mm <sup>2</sup> )	減 衰 定 数 h (%)	制御建屋(RC 造)	コンクリート： $Fe=29.4$ (N/mm <sup>2</sup> ) ( $Fe=300$ kgf/cm <sup>2</sup> ) 鉄筋：SD35 (SD345相当)	$2.43 \times 10^4$	$1.01 \times 10^4$	5	<table border="1"> <thead> <tr> <th>部 位</th><th>使 用 材 料</th><th>ヤ ン グ 係 数 E (N/mm<sup>2</sup>)</th><th>せん 断 弹 性 係 数 G (N/mm<sup>2</sup>)</th><th>減 衰 定 数 h (%)</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A 1, A 2 - 燃料油貯油槽タンク室</td><td>コンクリート： <math>F_c = 24</math> (N/mm<sup>2</sup>) 鉄筋：SBS45</td><td><math>2.27 \times 10^4</math></td><td><math>0.91 \times 10^4</math></td><td>5</td></tr> </tbody> </table>	部 位	使 用 材 料	ヤ ン グ 係 数 E (N/mm <sup>2</sup> )	せん 断 弹 性 係 数 G (N/mm <sup>2</sup> )	減 衰 定 数 h (%)	A 1, A 2 - 燃料油貯油槽タンク室	コンクリート： $F_c = 24$ (N/mm <sup>2</sup> ) 鉄筋：SBS45	$2.27 \times 10^4$	$0.91 \times 10^4$	5	<table border="1"> <thead> <tr> <th>部 位</th><th>使 用 材 料</th><th>ヤ ン グ 係 数 E (N/mm<sup>2</sup>)</th><th>せん 断 弹 性 係 数 G (N/mm<sup>2</sup>)</th><th>減 衰 定 数 h (%)</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>B 1, B 2 - 燃料油貯油槽タンク室</td><td>コンクリート： <math>F_c = 30</math> (N/mm<sup>2</sup>) 鉄筋：SBS45</td><td><math>2.44 \times 10^4</math></td><td><math>1.02 \times 10^4</math></td><td>5</td></tr> </tbody> </table>	部 位	使 用 材 料	ヤ ン グ 係 数 E (N/mm <sup>2</sup> )	せん 断 弹 性 係 数 G (N/mm <sup>2</sup> )	減 衰 定 数 h (%)	B 1, B 2 - 燃料油貯油槽タンク室	コンクリート： $F_c = 30$ (N/mm <sup>2</sup> ) 鉄筋：SBS45	$2.44 \times 10^4$	$1.02 \times 10^4$	5	■評価方針の相違 ・泊はコンクリート以外も含めた建屋の材料物性値を示している他、地盤物性値において表層地盤を設定していない（大飯と同様）																																																					
部 位	使 用 材 料	ヤ ン グ 係 数 E (N/mm <sup>2</sup> )	せん 断 弹 性 係 数 G (N/mm <sup>2</sup> )	減 衰 定 数 h (%)																																																																																						
制御建屋(RC 造)	コンクリート： $Fe=29.4$ (N/mm <sup>2</sup> ) ( $Fe=300$ kgf/cm <sup>2</sup> ) 鉄筋：SD35 (SD345相当)	$2.43 \times 10^4$	$1.01 \times 10^4$	5																																																																																						
部 位	使 用 材 料	ヤ ン グ 係 数 E (N/mm <sup>2</sup> )	せん 断 弹 性 係 数 G (N/mm <sup>2</sup> )	減 衰 定 数 h (%)																																																																																						
A 1, A 2 - 燃料油貯油槽タンク室	コンクリート： $F_c = 24$ (N/mm <sup>2</sup> ) 鉄筋：SBS45	$2.27 \times 10^4$	$0.91 \times 10^4$	5																																																																																						
部 位	使 用 材 料	ヤ ン グ 係 数 E (N/mm <sup>2</sup> )	せん 断 弹 性 係 数 G (N/mm <sup>2</sup> )	減 衰 定 数 h (%)																																																																																						
B 1, B 2 - 燃料油貯油槽タンク室	コンクリート： $F_c = 30$ (N/mm <sup>2</sup> ) 鉄筋：SBS45	$2.44 \times 10^4$	$1.02 \times 10^4$	5																																																																																						
第1.2.1.c-1-6表 物性値（A 1, A 2 - 燃料油貯油槽タンク室）					第3.2.1.c-1-6表 物性値（A 1, A 2 - 燃料油貯油槽タンク室）			第3.2.1.c-1-6表 物性値（A 1, A 2 - 燃料油貯油槽タンク室）				【女川】【大飯】																																																																														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>部 位</th><th>使 用 材 料</th><th>ヤ ン グ 係 数 E (N/mm<sup>2</sup>)</th><th>せん 断 弹 性 係 数 G (N/mm<sup>2</sup>)</th><th>減 衰 定 数 h (%)</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A 1, A 2 - 燃料油貯油槽タンク室</td><td>コンクリート： <math>F_c = 24</math> (N/mm<sup>2</sup>) 鉄筋：SBS45</td><td><math>2.27 \times 10^4</math></td><td><math>0.91 \times 10^4</math></td><td>5</td></tr> </tbody> </table>					部 位	使 用 材 料	ヤ ン グ 係 数 E (N/mm <sup>2</sup> )	せん 断 弹 性 係 数 G (N/mm <sup>2</sup> )	減 衰 定 数 h (%)	A 1, A 2 - 燃料油貯油槽タンク室	コンクリート： $F_c = 24$ (N/mm <sup>2</sup> ) 鉄筋：SBS45	$2.27 \times 10^4$	$0.91 \times 10^4$	5	<table border="1"> <thead> <tr> <th>部 位</th><th>使 用 材 料</th><th>ヤ ン グ 係 数 E (N/mm<sup>2</sup>)</th><th>せん 断 弹 性 係 数 G (N/mm<sup>2</sup>)</th><th>減 衰 定 数 h (%)</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>B 1, B 2 - 燃料油貯油槽タンク室</td><td>コンクリート： <math>F_c = 30</math> (N/mm<sup>2</sup>) 鉄筋：SBS45</td><td><math>2.44 \times 10^4</math></td><td><math>1.02 \times 10^4</math></td><td>5</td></tr> </tbody> </table>	部 位	使 用 材 料	ヤ ン グ 係 数 E (N/mm <sup>2</sup> )	せん 断 弹 性 係 数 G (N/mm <sup>2</sup> )	減 衰 定 数 h (%)	B 1, B 2 - 燃料油貯油槽タンク室	コンクリート： $F_c = 30$ (N/mm <sup>2</sup> ) 鉄筋：SBS45	$2.44 \times 10^4$	$1.02 \times 10^4$	5	■個別評価による相違 ・評価対象建屋の相違																																																																
部 位	使 用 材 料	ヤ ン グ 係 数 E (N/mm <sup>2</sup> )	せん 断 弹 性 係 数 G (N/mm <sup>2</sup> )	減 衰 定 数 h (%)																																																																																						
A 1, A 2 - 燃料油貯油槽タンク室	コンクリート： $F_c = 24$ (N/mm <sup>2</sup> ) 鉄筋：SBS45	$2.27 \times 10^4$	$0.91 \times 10^4$	5																																																																																						
部 位	使 用 材 料	ヤ ン グ 係 数 E (N/mm <sup>2</sup> )	せん 断 弹 性 係 数 G (N/mm <sup>2</sup> )	減 衰 定 数 h (%)																																																																																						
B 1, B 2 - 燃料油貯油槽タンク室	コンクリート： $F_c = 30$ (N/mm <sup>2</sup> ) 鉄筋：SBS45	$2.44 \times 10^4$	$1.02 \times 10^4$	5																																																																																						
第3.2.1.c-1-7表 物性値（B 1, B 2 - 燃料油貯油槽タンク室）					第3.2.1.c-1-7表 物性値（B 1, B 2 - 燃料油貯油槽タンク室）			第3.2.1.c-1-7表 物性値（B 1, B 2 - 燃料油貯油槽タンク室）				【女川】【大飯】																																																																														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>部 位</th><th>使 用 材 料</th><th>ヤ ン グ 係 数 E (N/mm<sup>2</sup>)</th><th>せん 断 弹 性 係 数 G (N/mm<sup>2</sup>)</th><th>減 衰 定 数 h (%)</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>B 1, B 2 - 燃料油貯油槽タンク室</td><td>コンクリート： <math>F_c = 30</math> (N/mm<sup>2</sup>) 鉄筋：SBS45</td><td><math>2.44 \times 10^4</math></td><td><math>1.02 \times 10^4</math></td><td>5</td></tr> </tbody> </table>					部 位	使 用 材 料	ヤ ン グ 係 数 E (N/mm <sup>2</sup> )	せん 断 弹 性 係 数 G (N/mm <sup>2</sup> )	減 衰 定 数 h (%)	B 1, B 2 - 燃料油貯油槽タンク室	コンクリート： $F_c = 30$ (N/mm <sup>2</sup> ) 鉄筋：SBS45	$2.44 \times 10^4$	$1.02 \times 10^4$	5	<table border="1"> <thead> <tr> <th>部 位</th><th>使 用 材 料</th><th>ヤ ン グ 係 数 E (N/mm<sup>2</sup>)</th><th>せん 断 弹 性 係 数 G (N/mm<sup>2</sup>)</th><th>減 衰 定 数 h (%)</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>B 1, B 2 - 燃料油貯油槽タンク室</td><td>コンクリート： <math>F_c = 30</math> (N/mm<sup>2</sup>) 鉄筋：SBS45</td><td><math>2.44 \times 10^4</math></td><td><math>1.02 \times 10^4</math></td><td>5</td></tr> </tbody> </table>	部 位	使 用 材 料	ヤ ン グ 係 数 E (N/mm <sup>2</sup> )	せん 断 弹 性 係 数 G (N/mm <sup>2</sup> )	減 衰 定 数 h (%)	B 1, B 2 - 燃料油貯油槽タンク室	コンクリート： $F_c = 30$ (N/mm <sup>2</sup> ) 鉄筋：SBS45	$2.44 \times 10^4$	$1.02 \times 10^4$	5	■個別評価による相違 ・評価対象建屋の相違																																																																
部 位	使 用 材 料	ヤ ン グ 係 数 E (N/mm <sup>2</sup> )	せん 断 弹 性 係 数 G (N/mm <sup>2</sup> )	減 衰 定 数 h (%)																																																																																						
B 1, B 2 - 燃料油貯油槽タンク室	コンクリート： $F_c = 30$ (N/mm <sup>2</sup> ) 鉄筋：SBS45	$2.44 \times 10^4$	$1.02 \times 10^4$	5																																																																																						
部 位	使 用 材 料	ヤ ン グ 係 数 E (N/mm <sup>2</sup> )	せん 断 弹 性 係 数 G (N/mm <sup>2</sup> )	減 衰 定 数 h (%)																																																																																						
B 1, B 2 - 燃料油貯油槽タンク室	コンクリート： $F_c = 30$ (N/mm <sup>2</sup> ) 鉄筋：SBS45	$2.44 \times 10^4$	$1.02 \times 10^4$	5																																																																																						
第3.2.1.c-1-8表 地盤物性値					第3.2.1.c-1-8表 地盤物性値			第3.2.1.c-1-8表 地盤物性値				【女川】【大飯】																																																																														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>地盤の物性値</th><th>A<sub>1</sub>級</th><th>A<sub>2</sub>級</th><th>A級</th><th>B級</th><th>C級</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>S波速度 (km/s)</td><td>1.8</td><td>1.4</td><td>1.4</td><td>1.3</td><td>1.2</td></tr> <tr> <td>P波速度 (km/s)</td><td>3.8</td><td>2.9</td><td>3.0</td><td>2.7</td><td>2.5</td></tr> <tr> <td>密度 (g/cm<sup>3</sup>)</td><td>2.67</td><td>2.62</td><td>2.20</td><td>2.19</td><td>2.01</td></tr> <tr> <td>ボアソン比</td><td>0.36</td><td>0.35</td><td>0.36</td><td>0.35</td><td>0.35</td></tr> </tbody> </table>					地盤の物性値	A <sub>1</sub> 級	A <sub>2</sub> 級	A級	B級	C級	S波速度 (km/s)	1.8	1.4	1.4	1.3	1.2	P波速度 (km/s)	3.8	2.9	3.0	2.7	2.5	密度 (g/cm <sup>3</sup> )	2.67	2.62	2.20	2.19	2.01	ボアソン比	0.36	0.35	0.36	0.35	0.35	<table border="1"> <thead> <tr> <th>地盤の物性値</th><th>A<sub>1</sub>級</th><th>A<sub>2</sub>級</th><th>A級</th><th>B級</th><th>C級</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>S波速度 (km/s)</td><td>1.8</td><td>1.4</td><td>1.4</td><td>1.3</td><td>1.2</td></tr> <tr> <td>P波速度 (km/s)</td><td>3.8</td><td>2.9</td><td>3.0</td><td>2.7</td><td>2.5</td></tr> <tr> <td>密度 (g/cm<sup>3</sup>)</td><td>2.67</td><td>2.62</td><td>2.20</td><td>2.19</td><td>2.01</td></tr> <tr> <td>ボアソン比</td><td>0.36</td><td>0.35</td><td>0.36</td><td>0.35</td><td>0.35</td></tr> </tbody> </table>	地盤の物性値	A <sub>1</sub> 級	A <sub>2</sub> 級	A級	B級	C級	S波速度 (km/s)	1.8	1.4	1.4	1.3	1.2	P波速度 (km/s)	3.8	2.9	3.0	2.7	2.5	密度 (g/cm <sup>3</sup> )	2.67	2.62	2.20	2.19	2.01	ボアソン比	0.36	0.35	0.36	0.35	0.35	■個別評価による相違 ・評価対象建屋の相違																								
地盤の物性値	A <sub>1</sub> 級	A <sub>2</sub> 級	A級	B級	C級																																																																																					
S波速度 (km/s)	1.8	1.4	1.4	1.3	1.2																																																																																					
P波速度 (km/s)	3.8	2.9	3.0	2.7	2.5																																																																																					
密度 (g/cm <sup>3</sup> )	2.67	2.62	2.20	2.19	2.01																																																																																					
ボアソン比	0.36	0.35	0.36	0.35	0.35																																																																																					
地盤の物性値	A <sub>1</sub> 級	A <sub>2</sub> 級	A級	B級	C級																																																																																					
S波速度 (km/s)	1.8	1.4	1.4	1.3	1.2																																																																																					
P波速度 (km/s)	3.8	2.9	3.0	2.7	2.5																																																																																					
密度 (g/cm <sup>3</sup> )	2.67	2.62	2.20	2.19	2.01																																																																																					
ボアソン比	0.36	0.35	0.36	0.35	0.35																																																																																					

## 泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について  
別添3. レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震PRA

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																															
<p>第1.2.1.c-1-6表 現実的な物性値の評価方法</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>物性値</th><th>現実的な物性値の評価方法</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>構造材料定数</td><td>           コンクリート強度 <math>F_c</math>            平均値：1.4×設計基準強度            変動係数：0.13         </td></tr> <tr> <td></td><td>           コンクリートの減衰定数 <math>h</math>            平均値：5%            変動係数：0.25         </td></tr> <tr> <td></td><td>           鉄筋の降伏強度 <math>s_{\sigma y}</math>            平均値：1.1×規格降伏点            変動係数：0.0（考慮しない）         </td></tr> <tr> <td>地盤材料定数</td><td>           地盤のせん断波速度 <math>V_s</math>            平均値：設計値            変動係数：0.10         </td></tr> </tbody> </table>	物性値	現実的な物性値の評価方法	構造材料定数	コンクリート強度 $F_c$ 平均値：1.4×設計基準強度 変動係数：0.13		コンクリートの減衰定数 $h$ 平均値：5% 変動係数：0.25		鉄筋の降伏強度 $s_{\sigma y}$ 平均値：1.1×規格降伏点 変動係数：0.0（考慮しない）	地盤材料定数	地盤のせん断波速度 $V_s$ 平均値：設計値 変動係数：0.10	<p>第3.2.1.c-1-5表 現実的な物性値の評価方法</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">物性値</th><th>地盤材料定数</th><th colspan="2">構造材料定数</th></tr> <tr> <th>地盤のせん断波速度 <math>V_s</math></th><th>コンクリート強度 <math>F_c</math></th><th>コンクリートの減衰定数 <math>h</math></th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>現実的な物性値の評価方法</td><td>平均値：設計値 変動係数：0.10</td><td>平均値：<math>1.62 \times F_c</math> 変動係数：0.16</td><td>平均値：5% 変動係数：0.25</td></tr> </tbody> </table>	物性値	地盤材料定数	構造材料定数		地盤のせん断波速度 $V_s$	コンクリート強度 $F_c$	コンクリートの減衰定数 $h$	現実的な物性値の評価方法	平均値：設計値 変動係数：0.10	平均値： $1.62 \times F_c$ 変動係数：0.16	平均値：5% 変動係数：0.25	<p>第3.2.1.c-1-9表 現実的な物性値の評価方法</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>物性値</th><th>現実的な物性値の評価方法</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>構造材料定数</td><td>           コンクリート強度 <math>F_c</math>            平均値：1.4×設計基準強度            変動係数：0.13         </td></tr> <tr> <td></td><td>           コンクリートの減衰定数 <math>h</math>            平均値：5%            変動係数：0.25         </td></tr> <tr> <td></td><td>           鉄筋の降伏強度 <math>s_{\sigma y}</math>            平均値：1.1×規格降伏点            変動係数：0（考慮しない）         </td></tr> <tr> <td>地盤材料定数</td><td>           地盤のせん断波速度 <math>V_s</math>            平均値：設計値            変動係数：0.10         </td></tr> </tbody> </table>	物性値	現実的な物性値の評価方法	構造材料定数	コンクリート強度 $F_c$ 平均値：1.4×設計基準強度 変動係数：0.13		コンクリートの減衰定数 $h$ 平均値：5% 変動係数：0.25		鉄筋の降伏強度 $s_{\sigma y}$ 平均値：1.1×規格降伏点 変動係数：0（考慮しない）	地盤材料定数	地盤のせん断波速度 $V_s$ 平均値：設計値 変動係数：0.10	<p>【女川】</p> <p>■評価方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・泊はコンクリート強度の評価方法について、地震PRA学会標準に示されている標準的なデータベースを基に設定している他、泊は鉄筋の降伏強度の評価方法についても記載している（大飯と同様）</li> </ul>
物性値	現実的な物性値の評価方法																																	
構造材料定数	コンクリート強度 $F_c$ 平均値：1.4×設計基準強度 変動係数：0.13																																	
	コンクリートの減衰定数 $h$ 平均値：5% 変動係数：0.25																																	
	鉄筋の降伏強度 $s_{\sigma y}$ 平均値：1.1×規格降伏点 変動係数：0.0（考慮しない）																																	
地盤材料定数	地盤のせん断波速度 $V_s$ 平均値：設計値 変動係数：0.10																																	
物性値	地盤材料定数	構造材料定数																																
	地盤のせん断波速度 $V_s$	コンクリート強度 $F_c$	コンクリートの減衰定数 $h$																															
現実的な物性値の評価方法	平均値：設計値 変動係数：0.10	平均値： $1.62 \times F_c$ 変動係数：0.16	平均値：5% 変動係数：0.25																															
物性値	現実的な物性値の評価方法																																	
構造材料定数	コンクリート強度 $F_c$ 平均値：1.4×設計基準強度 変動係数：0.13																																	
	コンクリートの減衰定数 $h$ 平均値：5% 変動係数：0.25																																	
	鉄筋の降伏強度 $s_{\sigma y}$ 平均値：1.1×規格降伏点 変動係数：0（考慮しない）																																	
地盤材料定数	地盤のせん断波速度 $V_s$ 平均値：設計値 変動係数：0.10																																	

泊発電所 3号炉 有効性評価 比較表

### 第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について 別添3. レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震PRA

**赤字**：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
**青字**：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
**緑字**：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3／4号炉							女川原子力発電所2号炉							泊発電所3号炉							相違理由				
第1.2.1.c-1-7表 解析モデル諸元(原子炉建屋 水平 EW方向)							第3.2.1.1-e-1-10表 原子炉建屋の地震応答解析モデル諸元(1/3)																		
部位	質点番号	高さE.L.(m)	質量(t)	回転慣性( $\times 10^4 t \cdot m^2$ )	部材番号	せん断面積( $m^2$ )	断面2次モーメント( $m^4$ )	EW		NS		構造物	質点番号( )節点	質点高さT.P.(m)	重量(kN)	重量回転慣性(kN·m <sup>2</sup> )		EW方向	NS方向	【川】【大飯】 ■個別評価による相違 ・評価対象建屋の相違					
								EW		EW						EW方向									
原子炉格納容器(PCCV)	CV10	82.2	330	$\times 10^4 t \cdot m^2$	CV10	44	610	44		610		外部遮へい建屋	1	83.10	1,150	1,150		—	—	—					
	CV09	80.7	1,480		CV09	26	13,480	26		13,480			2	81.38	5,890	5,890									
	CV08	74.7	3,100		CV08	76	29,240	76		29,240			3	76.48	13,210	13,210									
	CV07	65.6	3,530		CV07	80	39,780	80		39,780			4	69.15	22,120	22,120									
	CV06	57.6	5,320		CV06	90	44,420	90		44,420			5	60.5	24,110	24,110									
	CV05	47.0	4,820		CV05	90	44,420	90		44,420			6	56.2	14,360	14,360									
	CV04	37.0	3,330		CV04	90	44,420	90		44,420			7	51.9	14,390	14,390									
	CV03	33.6	2,490		CV03	90	44,420	90		44,420			8	47.6	18,180	18,180									
	CV02	26.9	2,480		CV02	90	44,420	90		44,420			9	41.0	24,720	24,720									
	CV01	23.1	2,280		CV01	90	44,420	90		44,420			10	33.1	28,470	28,470									
内部エンバーリング(LC)	IC19	48.0	200	$\times 10^4 t \cdot m^2$	IC19	7.5	164	7.5		164			11	24.8	27,670	27,670									
	IC18	40.8	640		IC18	10	186	10		186			12	17.8	16,430	16,430									
	IC17	43.9	400		IC17	5.0	53	5.0		53			13	17.0	41,560	41,560									
	IC16	39.5	1,200		IC16	27	553	27		553			21	55.9	9,420	9,420									
	IC15	33.6	2,660		IC15	72	5,520	72		5,520			22	47.6	53,650	$1.89 \times 10^7$									
	IC14	32.8	2,180		IC14	72	5,720	72		5,720			23	41.0	122,410	$5.35 \times 10^7$									
	IC13	26.0	4,160		IC13	86	7,120	86		7,120			24	33.1	221,700	$9.13 \times 10^7$									
	IC12	24.2	1,180		IC12	90	8,010	90		8,010			25	24.8	234,220	$8.00 \times 10^7$									
	IC11	22.9	4,190		IC11	126	10,820	126		10,820			26	17.8	210,310	$7.84 \times 10^7$									
	SG09	42.8	138.3	$\times 10^4 t \cdot m^2$	SG09	2.67	12,78	2.67		12,78			31	42,770	1,111	1,111									
蒸気発生器(SG)	SG08	39.5	358.4		SG08	2.67	12,78	2.67		12,78			32	39,300	2,857	2,857									
	SG07	36.7	144.1		SG07	2.46	9.30	2.46		9.30			33	36,7983	674	674									
	SG06	35.0	135.8		SG06	1.76	4,99	1.76		4,99			34	35,1003	1,500	1,500									
	SG05	32.8	272.8		SG05	1.76	4,99	1.76		4,99			35	32,3000	2,348	2,348									
	SG04	30.4	159.1		SG04	1.87	5.31	1.87		5.31			36	30,1688	673	673									
	SG03	27.0	386.3		SG03	1.87	5.31	1.87		5.31			37	26,9865	3,151	3,151									
	SG02	25.2	42.7		SG02	14.14	72.45	14.14		72.45			38	24,9058	373	373									
	SG01	24.3	163.5										39	23,9909	1,237	1,237									
	EB33	42.6	2,360	$\times 10^4 t \cdot m^2$	EB33	30	1,170	30		1,170			41	44.3	4,160	4,160									
原子炉周辺建屋(E/B)	EB32	47.3	2,890		EB32	0.332 <sup>o</sup>	—	0.332 <sup>o</sup>		—			42	38.8	14,900	14,900									
	EB31	42.4	920		EB31	0.149 <sup>o</sup>	—	0.149 <sup>o</sup>		—			43	33.1	—	—									
	EB30	55.8	1,140		EB30	0.432 <sup>o</sup>	—	0.432 <sup>o</sup>		—			44	33.1	49,200	49,200									
	EB29	47.3	740		EB29	0.274 <sup>o</sup>	—	0.274 <sup>o</sup>		—			45	24.8	57,900	57,900									
	EB40	33.6	2,400										46	21.3	30,790	30,790									
	EB28	33.6	33,100		EB28	320	276,600	320		276,600			47	17.8	55,190	55,190									
	EB27	26.0	44,900		EB27	580	328,100	580		328,100			48	24.8	3,052	3,052									
	BS37	17.1	76,400	$\times 10^4 kN/m$	BS37	17.1	76,400	17.1		76,400			49	12.1	—	—									
	(BS36)	10.0	—										50	10.3	—	—									
	BS35	7.0	116,700										51	77.83	1,171	1,171									
	(BS34)	6.0	—										52	70.5	1,982	1,982									

## 泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について

別添3. レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震PRA

大飯発電所3／4号炉							女川原子力発電所2号炉		泊発電所3号炉				相違理由
第1.2.1.c-1-8表 解析モデル諸元(原子炉建屋 水平 NS方向)													
部位	質点番号	高さE.L.(m)	質量(t)	回転慣性( $\times 10^3 t \cdot m^2$ )	部材番号	せん断面積(m <sup>2</sup> )	断面2次モーメント(m <sup>4</sup> )	部材番号	せん断面積(m <sup>2</sup> )	断面2次モーメント(m <sup>4</sup> )	部材番号	せん断面積(m <sup>2</sup> )	
				NS		NS	NS		NS				
原子炉格納容器(PCCV)	CV10	82.2	330		CV10	44	610	CV09	76	13,480	CV09	22.4	
	CV09	80.7	1,480		CV09	76	13,480	CV08	76	29,240	CV08	29.7	
	CV08	74.7	3,100		CV08	76	29,240	CV07	83	39,780	CV07	43.1	
	CV07	65.6	3,530		CV07	83	39,780	CV06	90	44,420	CV06	60.5	
	CV06	57.6	5,320		CV06	90	44,420	CV05	90	44,420	CV05	69.5	
	CV05	47.0	4,820		CV04	90	44,420	CV04	90	44,420	CV04	69.5	
	CV04	37.0	3,330		CV03	90	44,420	CV03	90	44,420	CV03	69.5	
	CV03	33.6	2,490		CV02	90	44,420	CV02	90	44,420	CV02	69.5	
	CV02	26.9	2,480		CV01	90	44,420	CV01	90	44,420	CV01	69.5	
	CV01	23.1	2,280										
内部シールド(I/C)	IC47	48.0	200		IC47	8.5	93	IC46	10.3	115	IC46	22.4	
	IC46	40.8	640		IC45	10.3	115	IC45	10.3	115	IC45	29.7	
	IC45	33.6	660		IC43	15.7	270	IC43	15.7	270	IC43	43.1	
	IC43	26.0	470		IC42	15.7	167	IC42	15.7	167	IC42	60.5	
	IC42	24.2	180		IC41	15.7	270	IC41	15.7	270	IC41	69.5	
	IC41	21.6	290		IC17	19.0	432	IC17	19.0	432	IC17	69.5	
	IC17	43.9	400		IC16	30.0	868	IC16	30.0	868	IC16	69.5	
	IC16	39.5	1,260		IC15	68.7	5,975	IC15	68.7	5,975	IC15	33,930	
	IC15	33.6	2,200		IC14	68.7	5,975	IC14	68.7	5,975	IC14	33,930	
	IC14	32.8	1,950		IC13	61.3	7,410	IC13	61.3	7,410	IC13	33,930	
	IC13	26.0	3,720		IC12	58.3	8,623	IC12	58.3	8,623	IC12	33,930	
	IC12	24.2	1,050		IC11	74.3	8,869	IC11	74.3	8,869	IC11	33,930	
蒸気発生器(S/G)	SG09	42.8	138.3		SG09	2.67	12.78	SG08	2.67	12.78	SG08	0.382	
	SG08	39.5	358.4		SG07	2.46	9.30	SG07	2.46	9.30	SG07	87.4	
	SG07	36.7	144.1		SG06	1.76	4.99	SG06	1.76	4.99	SG06	175	
	SG06	35.0	153.8		SG05	1.76	4.99	SG05	1.76	4.99	SG05	355	
	SG05	32.8	272.8		SG04	1.87	5.31	SG04	1.87	5.31	SG04	310	
	SG04	30.4	159.1		SG03	1.87	5.31	SG03	1.87	5.31	SG03	140,000	
	SG03	27.0	386.3		SG02	14.14	72.45	SG02	14.14	72.45	SG02	139,200	
	SG02	25.2	42.7										
	SG01	24.3	163.5										
原子炉周辺建屋(E/B)	EB33	42.6	2,360		EB33	40*	2,700	EB32	0.446*	—	EB32	2.00	
	EB32	47.3	2,890		EB32	0.446*	—	EB31	0.153*	—	EB31	2.00	
	EB31	42.4	920		EB31	0.153*	—	EB30	0.254*	—	EB30	1.85	
	EB30	55.8	1,140		EB30	0.254*	—	EB29	0.237*	—	EB29	3.84	
	ER29	47.3	740		EB29	0.237*	—	EB28	10.60	54.34	EB28	1.35	
	EB28	33.6	35,500	36,900	EB28	430	378,000	EB27	510	700,300	EB27	1.40	
	EB27	26.0	44,900	46,600	EB27	510	700,300					3.98	
基礎版(B/M)	BS37	17.1	76,400	63,800	BS37	2,510	1,014,200	BS37	15.3	11.0	BS37	10.60	
	(BS36)	10.0	—	—				BS36	45.2	178	BS36	51.5	
	BS35	7.0	116,700	76,300				BS35	82.5	1,482	BS35	3,154	
	(BS34)	6.0	—	—				BS34	79.1	5,761	BS34	6,742	
								BS34	79.1	5,761	BS34	6,742	
								BS34	126	22,100	BS34	30,990	
								BS34	0.365	9.84	BS34	9.84	
								BS34	1,000	211.4	BS34	211.4	
								BS34	1.365	511.0	BS34	511.0	
								BS34	2,800	1,122	BS34	1,122	
原子炉格納容器								BS34	2,800	1,122	BS34	2,800	
								BS34	2,800	1,122	BS34	2,800	
								BS34	2,800	1,122	BS34	2,800	
								BS34	2,800	1,122	BS34	2,800	
								BS34	2,800	1,122	BS34	2,800	
								BS34	2,800	1,122	BS34	2,800	
								BS34	2,800	1,122	BS34	2,800	
								BS34	2,800	1,122	BS34	2,800	
								BS34	2,800	1,122	BS34	2,800	
								BS34	2,800	1,122	BS34	2,800	
コントロリート													
原子炉格納容器													
【女川】【大飯】													
■個別評価による相違 ・評価対象建屋の相違													

## 泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について  
別添3. レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震PRA

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3／4号炉		女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉		相違理由																																																																																																																										
<b>第1.2.1.c-1-9表 地盤ばね定数と減衰係数（原子炉建屋）</b> <table border="1"> <thead> <tr> <th>方 向</th> <th>ばね定数</th> <th>減衰係数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基礎底面 スウェイばね</td> <td>EW: <math>3.07 \times 10^6 \text{ kN/m}</math> NS: <math>2.98 \times 10^6 \text{ kN/m}</math></td> <td><math>3.58 \times 10^7 \text{ kN}\cdot\text{s/m}</math> <math>3.34 \times 10^7 \text{ kN}\cdot\text{s/m}</math></td> </tr> <tr> <td>基礎底面 ロッキングばね</td> <td>EW: <math>4.43 \times 10^{12} \text{ kN}\cdot\text{m}/\text{rad}</math> NS: <math>6.61 \times 10^{12} \text{ kN}\cdot\text{m}/\text{rad}</math></td> <td><math>1.26 \times 10^{10} \text{ kN}\cdot\text{m}\cdot\text{s}/\text{rad}</math> <math>2.40 \times 10^{10} \text{ kN}\cdot\text{m}\cdot\text{s}/\text{rad}</math></td> </tr> </tbody> </table> <b>第1.2.1.c-1-10表 ばね定数（原子炉建屋）</b> <table border="1"> <thead> <tr> <th>部材番号</th> <th>位置</th> <th>剛性(単位)</th> <th>EW</th> <th>NS</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>KH05</td> <td>IC15-IC45</td> <td>軸剛性(kN/m)</td> <td>—</td> <td><math>3.56 \times 10^6</math></td> </tr> <tr> <td>KH04</td> <td>IC13-IC43</td> <td>軸剛性(kN/m)</td> <td>—</td> <td><math>2.46 \times 10^6</math></td> </tr> <tr> <td>KR05</td> <td>IC15-IC45</td> <td>曲げ剛性(kN·m/rad)</td> <td>—</td> <td><math>2.72 \times 10^7</math></td> </tr> <tr> <td>KR04</td> <td>IC13-IC43</td> <td>曲げ剛性(kN·m/rad)</td> <td>—</td> <td><math>3.93 \times 10^6</math></td> </tr> <tr> <td>KR10</td> <td>EB28-EB40</td> <td>曲げ剛性(kN·m/rad)</td> <td><math>1.98 \times 10^6</math></td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>KH03</td> <td>SG08-IC16</td> <td>軸剛性 (kN/m)</td> <td><math>3.92 \times 10^6</math></td> <td><math>3.92 \times 10^6</math></td> </tr> <tr> <td>KH02</td> <td>SG05-IC14</td> <td>軸剛性 (kN/m)</td> <td><math>1.37 \times 10^7</math></td> <td><math>2.84 \times 10^7</math></td> </tr> <tr> <td>KH01</td> <td>SG01-IC12</td> <td>軸剛性 (kN/m)</td> <td><math>4.15 \times 10^7</math></td> <td><math>7.03 \times 10^6</math></td> </tr> <tr> <td>KR01</td> <td>SG01-IC12</td> <td>曲げ剛性 (kN·m/rad)</td> <td><math>6.49 \times 10^7</math></td> <td><math>4.37 \times 10^7</math></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 緑掛け: RC部材</p>	方 向	ばね定数	減衰係数	基礎底面 スウェイばね	EW: $3.07 \times 10^6 \text{ kN/m}$ NS: $2.98 \times 10^6 \text{ kN/m}$	$3.58 \times 10^7 \text{ kN}\cdot\text{s/m}$ $3.34 \times 10^7 \text{ kN}\cdot\text{s/m}$	基礎底面 ロッキングばね	EW: $4.43 \times 10^{12} \text{ kN}\cdot\text{m}/\text{rad}$ NS: $6.61 \times 10^{12} \text{ kN}\cdot\text{m}/\text{rad}$	$1.26 \times 10^{10} \text{ kN}\cdot\text{m}\cdot\text{s}/\text{rad}$ $2.40 \times 10^{10} \text{ kN}\cdot\text{m}\cdot\text{s}/\text{rad}$	部材番号	位置	剛性(単位)	EW	NS	KH05	IC15-IC45	軸剛性(kN/m)	—	$3.56 \times 10^6$	KH04	IC13-IC43	軸剛性(kN/m)	—	$2.46 \times 10^6$	KR05	IC15-IC45	曲げ剛性(kN·m/rad)	—	$2.72 \times 10^7$	KR04	IC13-IC43	曲げ剛性(kN·m/rad)	—	$3.93 \times 10^6$	KR10	EB28-EB40	曲げ剛性(kN·m/rad)	$1.98 \times 10^6$	—	KH03	SG08-IC16	軸剛性 (kN/m)	$3.92 \times 10^6$	$3.92 \times 10^6$	KH02	SG05-IC14	軸剛性 (kN/m)	$1.37 \times 10^7$	$2.84 \times 10^7$	KH01	SG01-IC12	軸剛性 (kN/m)	$4.15 \times 10^7$	$7.03 \times 10^6$	KR01	SG01-IC12	曲げ剛性 (kN·m/rad)	$6.49 \times 10^7$	$4.37 \times 10^7$			<b>第3.2.1.c-1-10表 原子炉建屋の地震応答解析モデル諸元 (3/3)</b> <table border="1"> <thead> <tr> <th>部材番号</th> <th>ばね定数</th> <th>EW 方向</th> <th>NS 方向</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>周辺補機棟 61</td> <td>水平ばね (kN/m)</td> <td><math>1.79 \times 10^6</math></td> <td><math>3.35 \times 10^7</math></td> </tr> <tr> <td>62</td> <td>水平ばね (kN/m)</td> <td><math>1.55 \times 10^7</math></td> <td><math>6.82 \times 10^7</math></td> </tr> <tr> <td>63</td> <td>水平ばね (kN/m)</td> <td><math>7.78 \times 10^7</math></td> <td><math>1.44 \times 10^8</math></td> </tr> <tr> <td>64</td> <td>水平ばね (kN/m)</td> <td><math>6.54 \times 10^7</math></td> <td><math>9.08 \times 10^7</math></td> </tr> <tr> <td>65</td> <td>水平ばね (kN/m)</td> <td><math>5.08 \times 10^7</math></td> <td><math>1.27 \times 10^8</math></td> </tr> <tr> <td>蒸気発生器 71</td> <td>水平ばね (kN/m)</td> <td><math>2.94 \times 10^6</math></td> <td><math>2.94 \times 10^6</math></td> </tr> <tr> <td>72</td> <td>水平ばね (kN/m)</td> <td><math>9.90 \times 10^6</math></td> <td><math>2.40 \times 10^7</math></td> </tr> <tr> <td>73</td> <td>水平ばね (kN/m)</td> <td><math>1.06 \times 10^7</math></td> <td><math>9.80 \times 10^6</math></td> </tr> <tr> <td>73</td> <td>回転ばね (kN·m/rad)</td> <td><math>4.98 \times 10^7</math></td> <td><math>3.53 \times 10^7</math></td> </tr> <tr> <td>73</td> <td>鉛直ばね (kN/m)</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>内部コンクリート 74</td> <td>水平ばね (kN/m)</td> <td><math>2.41 \times 10^8</math></td> <td><math>2.41 \times 10^8</math></td> </tr> <tr> <td>75</td> <td>回転ばね (kN·m/rad)</td> <td><math>4.64 \times 10^9</math></td> <td><math>5.39 \times 10^9</math></td> </tr> </tbody> </table> <b>第3.2.1.c-1-11表 地盤ばね定数と減衰係数（原子炉建屋）</b> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>ばね定数</th> <th>減衰係数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>水平</td> <td>EW 方向: <math>1.249 \times 10^6 \text{ (kN/m)}</math> NS 方向: <math>1.218 \times 10^6 \text{ (kN/m)}</math></td> <td>減衰係数: <math>1.898 \times 10^7 \text{ (kN}\cdot\text{s/m)}</math> <math>1.805 \times 10^7 \text{ (kN}\cdot\text{s/m)}</math></td> </tr> <tr> <td>回転</td> <td>EW 方向: <math>1.261 \times 10^{12} \text{ (kN}\cdot\text{m}/\text{rad})</math> NS 方向: <math>1.843 \times 10^{12} \text{ (kN}\cdot\text{m}/\text{rad})</math></td> <td>減衰係数: <math>7.000 \times 10^9 \text{ (kN}\cdot\text{m}\cdot\text{s}/\text{rad})</math> <math>1.447 \times 10^{10} \text{ (kN}\cdot\text{m}\cdot\text{s}/\text{rad})</math></td> </tr> </tbody> </table>	部材番号	ばね定数	EW 方向	NS 方向	周辺補機棟 61	水平ばね (kN/m)	$1.79 \times 10^6$	$3.35 \times 10^7$	62	水平ばね (kN/m)	$1.55 \times 10^7$	$6.82 \times 10^7$	63	水平ばね (kN/m)	$7.78 \times 10^7$	$1.44 \times 10^8$	64	水平ばね (kN/m)	$6.54 \times 10^7$	$9.08 \times 10^7$	65	水平ばね (kN/m)	$5.08 \times 10^7$	$1.27 \times 10^8$	蒸気発生器 71	水平ばね (kN/m)	$2.94 \times 10^6$	$2.94 \times 10^6$	72	水平ばね (kN/m)	$9.90 \times 10^6$	$2.40 \times 10^7$	73	水平ばね (kN/m)	$1.06 \times 10^7$	$9.80 \times 10^6$	73	回転ばね (kN·m/rad)	$4.98 \times 10^7$	$3.53 \times 10^7$	73	鉛直ばね (kN/m)	—	—	内部コンクリート 74	水平ばね (kN/m)	$2.41 \times 10^8$	$2.41 \times 10^8$	75	回転ばね (kN·m/rad)	$4.64 \times 10^9$	$5.39 \times 10^9$		ばね定数	減衰係数	水平	EW 方向: $1.249 \times 10^6 \text{ (kN/m)}$ NS 方向: $1.218 \times 10^6 \text{ (kN/m)}$	減衰係数: $1.898 \times 10^7 \text{ (kN}\cdot\text{s/m)}$ $1.805 \times 10^7 \text{ (kN}\cdot\text{s/m)}$	回転	EW 方向: $1.261 \times 10^{12} \text{ (kN}\cdot\text{m}/\text{rad})$ NS 方向: $1.843 \times 10^{12} \text{ (kN}\cdot\text{m}/\text{rad})$	減衰係数: $7.000 \times 10^9 \text{ (kN}\cdot\text{m}\cdot\text{s}/\text{rad})$ $1.447 \times 10^{10} \text{ (kN}\cdot\text{m}\cdot\text{s}/\text{rad})$				
方 向	ばね定数	減衰係数																																																																																																																													
基礎底面 スウェイばね	EW: $3.07 \times 10^6 \text{ kN/m}$ NS: $2.98 \times 10^6 \text{ kN/m}$	$3.58 \times 10^7 \text{ kN}\cdot\text{s/m}$ $3.34 \times 10^7 \text{ kN}\cdot\text{s/m}$																																																																																																																													
基礎底面 ロッキングばね	EW: $4.43 \times 10^{12} \text{ kN}\cdot\text{m}/\text{rad}$ NS: $6.61 \times 10^{12} \text{ kN}\cdot\text{m}/\text{rad}$	$1.26 \times 10^{10} \text{ kN}\cdot\text{m}\cdot\text{s}/\text{rad}$ $2.40 \times 10^{10} \text{ kN}\cdot\text{m}\cdot\text{s}/\text{rad}$																																																																																																																													
部材番号	位置	剛性(単位)	EW	NS																																																																																																																											
KH05	IC15-IC45	軸剛性(kN/m)	—	$3.56 \times 10^6$																																																																																																																											
KH04	IC13-IC43	軸剛性(kN/m)	—	$2.46 \times 10^6$																																																																																																																											
KR05	IC15-IC45	曲げ剛性(kN·m/rad)	—	$2.72 \times 10^7$																																																																																																																											
KR04	IC13-IC43	曲げ剛性(kN·m/rad)	—	$3.93 \times 10^6$																																																																																																																											
KR10	EB28-EB40	曲げ剛性(kN·m/rad)	$1.98 \times 10^6$	—																																																																																																																											
KH03	SG08-IC16	軸剛性 (kN/m)	$3.92 \times 10^6$	$3.92 \times 10^6$																																																																																																																											
KH02	SG05-IC14	軸剛性 (kN/m)	$1.37 \times 10^7$	$2.84 \times 10^7$																																																																																																																											
KH01	SG01-IC12	軸剛性 (kN/m)	$4.15 \times 10^7$	$7.03 \times 10^6$																																																																																																																											
KR01	SG01-IC12	曲げ剛性 (kN·m/rad)	$6.49 \times 10^7$	$4.37 \times 10^7$																																																																																																																											
部材番号	ばね定数	EW 方向	NS 方向																																																																																																																												
周辺補機棟 61	水平ばね (kN/m)	$1.79 \times 10^6$	$3.35 \times 10^7$																																																																																																																												
62	水平ばね (kN/m)	$1.55 \times 10^7$	$6.82 \times 10^7$																																																																																																																												
63	水平ばね (kN/m)	$7.78 \times 10^7$	$1.44 \times 10^8$																																																																																																																												
64	水平ばね (kN/m)	$6.54 \times 10^7$	$9.08 \times 10^7$																																																																																																																												
65	水平ばね (kN/m)	$5.08 \times 10^7$	$1.27 \times 10^8$																																																																																																																												
蒸気発生器 71	水平ばね (kN/m)	$2.94 \times 10^6$	$2.94 \times 10^6$																																																																																																																												
72	水平ばね (kN/m)	$9.90 \times 10^6$	$2.40 \times 10^7$																																																																																																																												
73	水平ばね (kN/m)	$1.06 \times 10^7$	$9.80 \times 10^6$																																																																																																																												
73	回転ばね (kN·m/rad)	$4.98 \times 10^7$	$3.53 \times 10^7$																																																																																																																												
73	鉛直ばね (kN/m)	—	—																																																																																																																												
内部コンクリート 74	水平ばね (kN/m)	$2.41 \times 10^8$	$2.41 \times 10^8$																																																																																																																												
75	回転ばね (kN·m/rad)	$4.64 \times 10^9$	$5.39 \times 10^9$																																																																																																																												
	ばね定数	減衰係数																																																																																																																													
水平	EW 方向: $1.249 \times 10^6 \text{ (kN/m)}$ NS 方向: $1.218 \times 10^6 \text{ (kN/m)}$	減衰係数: $1.898 \times 10^7 \text{ (kN}\cdot\text{s/m)}$ $1.805 \times 10^7 \text{ (kN}\cdot\text{s/m)}$																																																																																																																													
回転	EW 方向: $1.261 \times 10^{12} \text{ (kN}\cdot\text{m}/\text{rad})$ NS 方向: $1.843 \times 10^{12} \text{ (kN}\cdot\text{m}/\text{rad})$	減衰係数: $7.000 \times 10^9 \text{ (kN}\cdot\text{m}\cdot\text{s}/\text{rad})$ $1.447 \times 10^{10} \text{ (kN}\cdot\text{m}\cdot\text{s}/\text{rad})$																																																																																																																													
					<b>【女川】【大飯】</b> ■個別評価による相違 ・評価対象建屋の相違																																																																																																																										

## 泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について  
 別添3. レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震PRA

大飯発電所3／4号炉							女川原子力発電所2号炉		泊発電所3号炉					相違理由	
第1.2.1.c-1-11表 解析モデル諸元（制御建屋 水平）									第3.2.1.c-1-12 表 原子炉補助建屋の地震応答解析モデル諸元（1/2）						
部位	質点番号	高さE.L. (m)	質量t (t)	部材番号	方向	せん断断面積 (m <sup>2</sup> )	断面2次モーメント (m <sup>4</sup> )		構造物	質点番号 ( ) 鋼点	質点高さT.P. (m)	重量kN	重量回転慣性(kN·m <sup>2</sup> )		
制御建屋 (C/B)	1	11.5	10,200	1	EW	244	54,100		上部構造物	2	47.6	6,840	2.18×10 <sup>5</sup>	2.45×10 <sup>5</sup>	
	2	15.8	14,600	2	NS	261	87,800			3	43.3	5,890	1.89×10 <sup>5</sup>	2.21×10 <sup>5</sup>	
	3	21.3	13,500	3	EW	244	54,100			4	40.3	10,120	3.44×10 <sup>5</sup>	5.68×10 <sup>5</sup>	
	4	26.1	12,000	4	NS	261	87,800			5	42.2	6,770	1.66×10 <sup>5</sup>	2.36×10 <sup>5</sup>	
	5	33.6	8,800	5	EW	204	55,900			6	38.1	10,640	6.60×10 <sup>5</sup>	9.14×10 <sup>5</sup>	
基礎	BT	—	—	6	NS	218	54,400			7	33.1	116,650	3.74×10 <sup>5</sup>	3.43×10 <sup>5</sup>	
	BS	—	29,600	7	EW	194	50,300			8	24.8	197,500	6.57×10 <sup>5</sup>	7.37×10 <sup>5</sup>	
	BB	4.0	—	—	NS	177	48,400			9	17.8	221,080	7.21×10 <sup>5</sup>	8.16×10 <sup>5</sup>	
(注) 網掛け: RC部材										(10)	10.3	213,440	7.29×10 <sup>5</sup>	7.44×10 <sup>5</sup>	
										11	1.1	399,540	1.28×10 <sup>6</sup>	1.41×10 <sup>6</sup>	
										(12)	0.3	—	—	—	
										総重量			1,188,470		
									第3.2.1.c-1-12 表 原子炉補助建屋の地震応答解析モデル諸元（2/2）						
									構造物	部材番号	EW方向	NS方向			
										せん断断面積 (m <sup>2</sup> )	断面2次モーメント (m <sup>4</sup> )	せん断断面積 (m <sup>2</sup> )	断面2次モーメント (m <sup>4</sup> )		
										1	13.4	807	12.1	717	
										2	15.2	823	14.9	787	
										3	24.1	1,543	25.7	1,572	
										4	16.3	642	17.9	976	
										5	22.4	1,050	20.8	1,940	
										6	117	36,310	105	38,960	
										7	255	77,420	205	79,390	
										8	214	80,280	224	73,980	
										9	248	73,610	294	91,880	

## 泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について  
別添3 レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震PRA

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																																																						
		<p>【女川】【大飯】</p> <p>■個別評価による相違</p> <p>・評価対象建屋の相違</p> <table border="1"> <caption>第3.2.1.c-1-13表 地盤ばね定数と減衰係数（原子炉補助建屋）</caption> <thead> <tr> <th rowspan="2">水平</th> <th colspan="2">ばね定数</th> <th colspan="2">減衰係数</th> </tr> <tr> <th>EW方向</th> <th>NS方向</th> <th>EW方向</th> <th>NS方向</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td><math>1.027 \times 10^9</math> (kN/m)</td> <td><math>1.805 \times 10^7</math> (kN·s/m)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td><math>1.025 \times 10^9</math> (kN/m)</td> <td><math>1.800 \times 10^7</math> (kN·s/m)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th rowspan="2">回転</th> <th>EW方向</th> <th><math>9.259 \times 10^{11}</math> (kN·m/rad)</th> <th><math>4.894 \times 10^8</math> (kN·m·s/rad)</th> <td></td> </tr> <tr> <th>NS方向</th> <th><math>9.709 \times 10^{11}</math> (kN·m/rad)</th> <th><math>5.439 \times 10^8</math> (kN·m·s/rad)</th> <td></td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <caption>第3.2.1.e-1-14表 ディーゼル発電機建屋の地震応答解析モデル諸元（1/2）</caption> <thead> <tr> <th rowspan="2">構造物</th> <th rowspan="2">質点番号 ( ) 頂点</th> <th rowspan="2">質点高さ T.P. (m)</th> <th rowspan="2">重量 (kN)</th> <th colspan="2">重量回転慣性 (kN·m²)</th> </tr> <tr> <th>EW方向</th> <th>NS方向</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">上部構造物</td> <td>1</td> <td>18.8</td> <td>15,340</td> <td><math>8.1240 \times 10^2</math></td> <td><math>8.6240 \times 10^2</math></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>10.3</td> <td>23,030</td> <td><math>1.0530 \times 10^3</math></td> <td><math>1.2430 \times 10^3</math></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">基礎版</td> <td>(3)</td> <td>6.2</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>5.74</td> <td>33,270</td> <td><math>1.3070 \times 10^6</math></td> <td><math>1.5570 \times 10^6</math></td> </tr> <tr> <td>(5)</td> <td>4.2</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td colspan="4">総重量</td><td>71,640</td><td></td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <caption>第3.2.1.e-1-14表 ディーゼル発電機建屋の地震応答解析モデル諸元（2/2）</caption> <thead> <tr> <th rowspan="2">構造物</th> <th rowspan="2">部材番号</th> <th colspan="2">EW方向</th> <th colspan="2">NS方向</th> </tr> <tr> <th>せん断断面積 (m²)</th> <th>断面2次モーメント (m⁴)</th> <th>せん断断面積 (m²)</th> <th>断面2次モーメント (m⁴)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">上部構造物</td> <td>1</td> <td>28.8</td> <td>2,512</td> <td>10.4</td> <td>2,276</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>154</td> <td>5,230</td> <td>154</td> <td>3,988</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <caption>第3.2.1.e-1-15表 地盤ばね定数と減衰係数（ディーゼル発電機建屋）</caption> <thead> <tr> <th rowspan="2">水平</th> <th colspan="2">ばね定数</th> <th colspan="2">減衰係数</th> </tr> <tr> <th>EW方向</th> <th>NS方向</th> <th>EW方向</th> <th>NS方向</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td><math>3.547 \times 10^8</math> (kN/m)</td> <td><math>1.105 \times 10^6</math> (kN·s/m)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td><math>3.538 \times 10^8</math> (kN/m)</td> <td><math>9.226 \times 10^5</math> (kN·s/m)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th rowspan="2">回転</th> <th>EW方向</th> <th><math>4.623 \times 10^{10}</math> (kN·m/rad)</th> <th><math>2.023 \times 10^7</math> (kN·m·s/rad)</th> <td></td> </tr> <tr> <th>NS方向</th> <th><math>4.987 \times 10^{10}</math> (kN·m/rad)</th> <th><math>1.597 \times 10^7</math> (kN·m·s/rad)</th> <td></td> </tr> </tbody> </table>	水平	ばね定数		減衰係数		EW方向	NS方向	EW方向	NS方向		$1.027 \times 10^9$ (kN/m)	$1.805 \times 10^7$ (kN·s/m)				$1.025 \times 10^9$ (kN/m)	$1.800 \times 10^7$ (kN·s/m)			回転	EW方向	$9.259 \times 10^{11}$ (kN·m/rad)	$4.894 \times 10^8$ (kN·m·s/rad)		NS方向	$9.709 \times 10^{11}$ (kN·m/rad)	$5.439 \times 10^8$ (kN·m·s/rad)		構造物	質点番号 ( ) 頂点	質点高さ T.P. (m)	重量 (kN)	重量回転慣性 (kN·m²)		EW方向	NS方向	上部構造物	1	18.8	15,340	$8.1240 \times 10^2$	$8.6240 \times 10^2$	2	10.3	23,030	$1.0530 \times 10^3$	$1.2430 \times 10^3$	基礎版	(3)	6.2	—	—	—	4	5.74	33,270	$1.3070 \times 10^6$	$1.5570 \times 10^6$	(5)	4.2	—	—	—	総重量				71,640		構造物	部材番号	EW方向		NS方向		せん断断面積 (m²)	断面2次モーメント (m⁴)	せん断断面積 (m²)	断面2次モーメント (m⁴)	上部構造物	1	28.8	2,512	10.4	2,276	2	154	5,230	154	3,988	水平	ばね定数		減衰係数		EW方向	NS方向	EW方向	NS方向		$3.547 \times 10^8$ (kN/m)	$1.105 \times 10^6$ (kN·s/m)				$3.538 \times 10^8$ (kN/m)	$9.226 \times 10^5$ (kN·s/m)			回転	EW方向	$4.623 \times 10^{10}$ (kN·m/rad)	$2.023 \times 10^7$ (kN·m·s/rad)		NS方向	$4.987 \times 10^{10}$ (kN·m/rad)	$1.597 \times 10^7$ (kN·m·s/rad)		
水平	ばね定数			減衰係数																																																																																																																					
	EW方向	NS方向	EW方向	NS方向																																																																																																																					
	$1.027 \times 10^9$ (kN/m)	$1.805 \times 10^7$ (kN·s/m)																																																																																																																							
	$1.025 \times 10^9$ (kN/m)	$1.800 \times 10^7$ (kN·s/m)																																																																																																																							
回転	EW方向	$9.259 \times 10^{11}$ (kN·m/rad)	$4.894 \times 10^8$ (kN·m·s/rad)																																																																																																																						
	NS方向	$9.709 \times 10^{11}$ (kN·m/rad)	$5.439 \times 10^8$ (kN·m·s/rad)																																																																																																																						
構造物	質点番号 ( ) 頂点	質点高さ T.P. (m)	重量 (kN)	重量回転慣性 (kN·m²)																																																																																																																					
				EW方向	NS方向																																																																																																																				
上部構造物	1	18.8	15,340	$8.1240 \times 10^2$	$8.6240 \times 10^2$																																																																																																																				
	2	10.3	23,030	$1.0530 \times 10^3$	$1.2430 \times 10^3$																																																																																																																				
基礎版	(3)	6.2	—	—	—																																																																																																																				
	4	5.74	33,270	$1.3070 \times 10^6$	$1.5570 \times 10^6$																																																																																																																				
	(5)	4.2	—	—	—																																																																																																																				
総重量				71,640																																																																																																																					
構造物	部材番号	EW方向		NS方向																																																																																																																					
		せん断断面積 (m²)	断面2次モーメント (m⁴)	せん断断面積 (m²)	断面2次モーメント (m⁴)																																																																																																																				
上部構造物	1	28.8	2,512	10.4	2,276																																																																																																																				
	2	154	5,230	154	3,988																																																																																																																				
水平	ばね定数		減衰係数																																																																																																																						
	EW方向	NS方向	EW方向	NS方向																																																																																																																					
	$3.547 \times 10^8$ (kN/m)	$1.105 \times 10^6$ (kN·s/m)																																																																																																																							
	$3.538 \times 10^8$ (kN/m)	$9.226 \times 10^5$ (kN·s/m)																																																																																																																							
回転	EW方向	$4.623 \times 10^{10}$ (kN·m/rad)	$2.023 \times 10^7$ (kN·m·s/rad)																																																																																																																						
	NS方向	$4.987 \times 10^{10}$ (kN·m/rad)	$1.597 \times 10^7$ (kN·m·s/rad)																																																																																																																						

## 泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について

別添 3. レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震PRA

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																																																											
		<p>【女川】【大飯】</p> <p>■個別評価による相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・評価対象建屋の相違</li> </ul> <table border="1"> <caption>第3.2.1.c-1-16表 A1, A2 - 燃料油貯油槽タンク室の地震応答解析モデル諸元 (1/2)</caption> <thead> <tr> <th rowspan="2">構造物</th> <th rowspan="2">質点番号 ( ) 節点</th> <th rowspan="2">質点高さ T.P. (m)</th> <th rowspan="2">重量 (kN)</th> <th colspan="2">重量回転慣性 (kN·m<sup>2</sup>)</th> </tr> <tr> <th>EW 方向</th> <th>NS 方向</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">上部構造物</td> <td>1</td> <td>8.8</td> <td>12,100</td> <td><math>2.63 \times 10^5</math></td> <td><math>1.88 \times 10^5</math></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>5.7</td> <td>7,820</td> <td><math>1.51 \times 10^5</math></td> <td><math>1.18 \times 10^5</math></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">基礎版</td> <td>(3)</td> <td>3.1</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>2.6</td> <td>8,770</td> <td><math>1.61 \times 10^5</math></td> <td><math>1.32 \times 10^5</math></td> </tr> <tr> <td>(5)</td> <td>2.1</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td colspan="3">総重量</td><td colspan="3">28,690</td></tr> </tbody> </table> <table border="1"> <caption>第3.2.1.c-1-16表 A1, A2 - 燃料油貯油槽タンク室の地震応答解析モデル諸元 (2/2)</caption> <thead> <tr> <th rowspan="2">構造物</th> <th rowspan="2">部材番号</th> <th colspan="2">EW 方向</th> <th colspan="2">NS 方向</th> </tr> <tr> <th>せん断断面積 (m<sup>2</sup>)</th> <th>断面2次モーメント (m<sup>4</sup>)</th> <th>せん断断面積 (m<sup>2</sup>)</th> <th>断面2次モーメント (m<sup>4</sup>)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">上部構造物</td> <td>1</td> <td>29.4</td> <td>1,105</td> <td>17.6</td> <td>497</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>29.4</td> <td>1,105</td> <td>17.6</td> <td>497</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <caption>第3.2.1.c-1-17表 地盤ばね定数と減衰係数 (A1, A2 - 燃料油貯油槽タンク室)</caption> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="2">ばね定数</th> <th colspan="2">減衰係数</th> </tr> <tr> <th>EW 方向</th> <th>NS 方向</th> <th>EW 方向</th> <th>NS 方向</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">水平</td> <td><math>3.031 \times 10^8</math> (kN·s/m)</td> <td><math>6.453 \times 10^2</math> (kN·s/m)</td> <td><math>3.012 \times 10^8</math> (kN·s/m)</td> <td><math>7.110 \times 10^2</math> (kN·s/m)</td> </tr> <tr> <td><math>1.729 \times 10^{10}</math> (kN·n/rad)</td> <td><math>1.340 \times 10^2</math> (kN·n·s/rad)</td> <td><math>1.505 \times 10^{10}</math> (kN·n/rad)</td> <td><math>9.691 \times 10^2</math> (kN·n·s/rad)</td> </tr> <tr> <td rowspan="10">回転</td> <td rowspan="5">EW 方向</td> <td><math>9.802 \times 10^7</math> (kN/m)</td> <td><math>1.037 \times 10^6</math> (kN·s/m)</td> <td><math>1.016 \times 10^8</math> (kN/m)</td> <td><math>1.075 \times 10^6</math> (kN·s/m)</td> </tr> <tr> <td><math>5.525 \times 10^7</math> (kN/m)</td> <td><math>5.846 \times 10^5</math> (kN·s/m)</td> <td><math>5.525 \times 10^7</math> (kN/m)</td> <td><math>5.846 \times 10^5</math> (kN·s/m)</td> </tr> <tr> <td><math>1.782 \times 10^7</math> (kN/m)</td> <td><math>1.886 \times 10^5</math> (kN·s/m)</td> <td><math>1.782 \times 10^7</math> (kN/m)</td> <td><math>1.886 \times 10^5</math> (kN·s/m)</td> </tr> <tr> <td><math>8.911 \times 10^6</math> (kN/m)</td> <td><math>9.428 \times 10^4</math> (kN·s/m)</td> <td><math>8.911 \times 10^6</math> (kN/m)</td> <td><math>9.428 \times 10^4</math> (kN·s/m)</td> </tr> <tr> <td><math>9.802 \times 10^7</math> (kN/m)</td> <td><math>1.040 \times 10^6</math> (kN·s/m)</td> <td><math>1.016 \times 10^8</math> (kN/m)</td> <td><math>1.078 \times 10^6</math> (kN·s/m)</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">NS 方向</td> <td><math>5.525 \times 10^7</math> (kN/m)</td> <td><math>5.861 \times 10^5</math> (kN·s/m)</td> <td><math>5.525 \times 10^7</math> (kN/m)</td> <td><math>5.861 \times 10^5</math> (kN·s/m)</td> </tr> <tr> <td><math>1.782 \times 10^7</math> (kN/m)</td> <td><math>1.891 \times 10^5</math> (kN·s/m)</td> <td><math>1.782 \times 10^7</math> (kN/m)</td> <td><math>1.891 \times 10^5</math> (kN·s/m)</td> </tr> <tr> <td><math>8.911 \times 10^6</math> (kN/m)</td> <td><math>9.453 \times 10^4</math> (kN·s/m)</td> <td><math>8.911 \times 10^6</math> (kN/m)</td> <td><math>9.453 \times 10^4</math> (kN·s/m)</td> </tr> <tr> <td><math>9.802 \times 10^7</math> (kN/m)</td> <td><math>1.040 \times 10^6</math> (kN·s/m)</td> <td><math>1.016 \times 10^8</math> (kN/m)</td> <td><math>1.078 \times 10^6</math> (kN·s/m)</td> </tr> <tr> <td><math>1.016 \times 10^8</math> (kN/m)</td> <td><math>1.078 \times 10^6</math> (kN·s/m)</td> <td><math>1.016 \times 10^8</math> (kN/m)</td> <td><math>1.078 \times 10^6</math> (kN·s/m)</td> </tr> </tbody> </table>	構造物	質点番号 ( ) 節点	質点高さ T.P. (m)	重量 (kN)	重量回転慣性 (kN·m <sup>2</sup> )		EW 方向	NS 方向	上部構造物	1	8.8	12,100	$2.63 \times 10^5$	$1.88 \times 10^5$	2	5.7	7,820	$1.51 \times 10^5$	$1.18 \times 10^5$	基礎版	(3)	3.1	—	—	—	4	2.6	8,770	$1.61 \times 10^5$	$1.32 \times 10^5$	(5)	2.1	—	—	—	総重量			28,690			構造物	部材番号	EW 方向		NS 方向		せん断断面積 (m <sup>2</sup> )	断面2次モーメント (m <sup>4</sup> )	せん断断面積 (m <sup>2</sup> )	断面2次モーメント (m <sup>4</sup> )	上部構造物	1	29.4	1,105	17.6	497	2	29.4	1,105	17.6	497		ばね定数		減衰係数		EW 方向	NS 方向	EW 方向	NS 方向	水平	$3.031 \times 10^8$ (kN·s/m)	$6.453 \times 10^2$ (kN·s/m)	$3.012 \times 10^8$ (kN·s/m)	$7.110 \times 10^2$ (kN·s/m)	$1.729 \times 10^{10}$ (kN·n/rad)	$1.340 \times 10^2$ (kN·n·s/rad)	$1.505 \times 10^{10}$ (kN·n/rad)	$9.691 \times 10^2$ (kN·n·s/rad)	回転	EW 方向	$9.802 \times 10^7$ (kN/m)	$1.037 \times 10^6$ (kN·s/m)	$1.016 \times 10^8$ (kN/m)	$1.075 \times 10^6$ (kN·s/m)	$5.525 \times 10^7$ (kN/m)	$5.846 \times 10^5$ (kN·s/m)	$5.525 \times 10^7$ (kN/m)	$5.846 \times 10^5$ (kN·s/m)	$1.782 \times 10^7$ (kN/m)	$1.886 \times 10^5$ (kN·s/m)	$1.782 \times 10^7$ (kN/m)	$1.886 \times 10^5$ (kN·s/m)	$8.911 \times 10^6$ (kN/m)	$9.428 \times 10^4$ (kN·s/m)	$8.911 \times 10^6$ (kN/m)	$9.428 \times 10^4$ (kN·s/m)	$9.802 \times 10^7$ (kN/m)	$1.040 \times 10^6$ (kN·s/m)	$1.016 \times 10^8$ (kN/m)	$1.078 \times 10^6$ (kN·s/m)	NS 方向	$5.525 \times 10^7$ (kN/m)	$5.861 \times 10^5$ (kN·s/m)	$5.525 \times 10^7$ (kN/m)	$5.861 \times 10^5$ (kN·s/m)	$1.782 \times 10^7$ (kN/m)	$1.891 \times 10^5$ (kN·s/m)	$1.782 \times 10^7$ (kN/m)	$1.891 \times 10^5$ (kN·s/m)	$8.911 \times 10^6$ (kN/m)	$9.453 \times 10^4$ (kN·s/m)	$8.911 \times 10^6$ (kN/m)	$9.453 \times 10^4$ (kN·s/m)	$9.802 \times 10^7$ (kN/m)	$1.040 \times 10^6$ (kN·s/m)	$1.016 \times 10^8$ (kN/m)	$1.078 \times 10^6$ (kN·s/m)	$1.016 \times 10^8$ (kN/m)	$1.078 \times 10^6$ (kN·s/m)	$1.016 \times 10^8$ (kN/m)	$1.078 \times 10^6$ (kN·s/m)	
構造物	質点番号 ( ) 節点	質点高さ T.P. (m)					重量 (kN)	重量回転慣性 (kN·m <sup>2</sup> )																																																																																																																						
			EW 方向	NS 方向																																																																																																																										
上部構造物	1	8.8	12,100	$2.63 \times 10^5$	$1.88 \times 10^5$																																																																																																																									
	2	5.7	7,820	$1.51 \times 10^5$	$1.18 \times 10^5$																																																																																																																									
基礎版	(3)	3.1	—	—	—																																																																																																																									
	4	2.6	8,770	$1.61 \times 10^5$	$1.32 \times 10^5$																																																																																																																									
	(5)	2.1	—	—	—																																																																																																																									
総重量			28,690																																																																																																																											
構造物	部材番号	EW 方向		NS 方向																																																																																																																										
		せん断断面積 (m <sup>2</sup> )	断面2次モーメント (m <sup>4</sup> )	せん断断面積 (m <sup>2</sup> )	断面2次モーメント (m <sup>4</sup> )																																																																																																																									
上部構造物	1	29.4	1,105	17.6	497																																																																																																																									
	2	29.4	1,105	17.6	497																																																																																																																									
	ばね定数		減衰係数																																																																																																																											
	EW 方向	NS 方向	EW 方向	NS 方向																																																																																																																										
水平	$3.031 \times 10^8$ (kN·s/m)	$6.453 \times 10^2$ (kN·s/m)	$3.012 \times 10^8$ (kN·s/m)	$7.110 \times 10^2$ (kN·s/m)																																																																																																																										
	$1.729 \times 10^{10}$ (kN·n/rad)	$1.340 \times 10^2$ (kN·n·s/rad)	$1.505 \times 10^{10}$ (kN·n/rad)	$9.691 \times 10^2$ (kN·n·s/rad)																																																																																																																										
回転	EW 方向	$9.802 \times 10^7$ (kN/m)	$1.037 \times 10^6$ (kN·s/m)	$1.016 \times 10^8$ (kN/m)	$1.075 \times 10^6$ (kN·s/m)																																																																																																																									
		$5.525 \times 10^7$ (kN/m)	$5.846 \times 10^5$ (kN·s/m)	$5.525 \times 10^7$ (kN/m)	$5.846 \times 10^5$ (kN·s/m)																																																																																																																									
		$1.782 \times 10^7$ (kN/m)	$1.886 \times 10^5$ (kN·s/m)	$1.782 \times 10^7$ (kN/m)	$1.886 \times 10^5$ (kN·s/m)																																																																																																																									
		$8.911 \times 10^6$ (kN/m)	$9.428 \times 10^4$ (kN·s/m)	$8.911 \times 10^6$ (kN/m)	$9.428 \times 10^4$ (kN·s/m)																																																																																																																									
		$9.802 \times 10^7$ (kN/m)	$1.040 \times 10^6$ (kN·s/m)	$1.016 \times 10^8$ (kN/m)	$1.078 \times 10^6$ (kN·s/m)																																																																																																																									
	NS 方向	$5.525 \times 10^7$ (kN/m)	$5.861 \times 10^5$ (kN·s/m)	$5.525 \times 10^7$ (kN/m)	$5.861 \times 10^5$ (kN·s/m)																																																																																																																									
		$1.782 \times 10^7$ (kN/m)	$1.891 \times 10^5$ (kN·s/m)	$1.782 \times 10^7$ (kN/m)	$1.891 \times 10^5$ (kN·s/m)																																																																																																																									
		$8.911 \times 10^6$ (kN/m)	$9.453 \times 10^4$ (kN·s/m)	$8.911 \times 10^6$ (kN/m)	$9.453 \times 10^4$ (kN·s/m)																																																																																																																									
		$9.802 \times 10^7$ (kN/m)	$1.040 \times 10^6$ (kN·s/m)	$1.016 \times 10^8$ (kN/m)	$1.078 \times 10^6$ (kN·s/m)																																																																																																																									
		$1.016 \times 10^8$ (kN/m)	$1.078 \times 10^6$ (kN·s/m)	$1.016 \times 10^8$ (kN/m)	$1.078 \times 10^6$ (kN·s/m)																																																																																																																									

## 泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について

別添 3. レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震PRA

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																																																					
		<p style="text-align: center;">【女川】【大飯】</p> <p>■個別評価による相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・評価対象建屋の相違</li> </ul> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <caption>第3.2.1.e-1-18表 B1, B2 - 燃料油貯油槽タンク室の地震応答解析モデル諸元 (1/2)</caption> <thead> <tr> <th rowspan="2">構造物</th> <th rowspan="2">質点番号 ( ) 節点</th> <th rowspan="2">質点高さ T.P. (m)</th> <th rowspan="2">重量 (kN)</th> <th colspan="2">重量回転慣性 (kN·m<sup>2</sup>)</th> </tr> <tr> <th>EW 方向</th> <th>NS 方向</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">上部構造物</td> <td>1</td> <td>8.8</td> <td>12,520</td> <td><math>2.45 \times 10^5</math></td> <td><math>2.03 \times 10^5</math></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>5.8</td> <td>9,430</td> <td><math>1.83 \times 10^5</math></td> <td><math>1.51 \times 10^5</math></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">基礎版</td> <td>(3)</td> <td>3.0</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>2.5</td> <td>10,390</td> <td><math>2.02 \times 10^5</math></td> <td><math>1.67 \times 10^5</math></td> </tr> <tr> <td>(5)</td> <td>2.0</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td><td>総重量</td><td>32,340</td><td colspan="2"></td></tr> </tbody> </table> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <caption>第3.2.1.e-1-18表 B1, B2 - 燃料油貯油槽タンク室の地震応答解析モデル諸元 (2/2)</caption> <thead> <tr> <th rowspan="2">構造物</th> <th rowspan="2">部材番号</th> <th colspan="2">EW 方向</th> <th colspan="2">NS 方向</th> </tr> <tr> <th>せん断面積 (m<sup>2</sup>)</th> <th>断面2次モーメント (m<sup>4</sup>)</th> <th>せん断面積 (m<sup>2</sup>)</th> <th>断面2次モーメント (m<sup>4</sup>)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">上部構造物</td> <td>1</td> <td>37.8</td> <td>1,444</td> <td>24.7</td> <td>725</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>37.8</td> <td>1,444</td> <td>24.7</td> <td>725</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <caption>第3.2.1.e-1-19表 地盤ばね定数と減衰係数 (B1, B2 - 燃料油貯油槽タンク室)</caption> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="2">ばね定数</th> <th colspan="2">減衰係数</th> </tr> <tr> <th>EW 方向</th> <th>NS 方向</th> <th>EW 方向</th> <th>NS 方向</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">水平</td> <td>2.081×10<sup>8</sup> (kN·s/m)</td> <td>2.117×10<sup>8</sup> (kN·s/m)</td> <td><math>5.627 \times 10^3</math> (kN·s/m)</td> <td><math>5.497 \times 10^3</math> (kN·s/m)</td> </tr> <tr> <td><math>1.180 \times 10^{10}</math> (kN·m/rad)</td> <td><math>1.015 \times 10^{10}</math> (kN·m/rad)</td> <td><math>7.246 \times 10^6</math> (kN·m·s/rad)</td> <td><math>5.113 \times 10^6</math> (kN·m·s/rad)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">回転</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>T. P. 8.8m</td> <td>4.103×10<sup>7</sup> (kN/m)</td> <td>4.407×10<sup>7</sup> (kN/m)</td> <td><math>6.115 \times 10^3</math> (kN·s/m)</td> <td><math>6.568 \times 10^3</math> (kN·s/m)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">側面</td> <td>T. P. 3.0m</td> <td><math>2.508 \times 10^7</math> (kN/m)</td> <td><math>3.737 \times 10^3</math> (kN·s/m)</td> <td><math>1.132 \times 10^3</math> (kN·s/m)</td> </tr> <tr> <td>T. P. 2.5m</td> <td><math>7.599 \times 10^6</math> (kN/m)</td> <td><math>5.662 \times 10^3</math> (kN·s/m)</td> <td><math>5.662 \times 10^3</math> (kN·s/m)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">ばね</td> <td>T. P. 2.0m</td> <td><math>3.800 \times 10^6</math> (kN/m)</td> <td><math>4.103 \times 10^7</math> (kN/m)</td> <td><math>6.122 \times 10^3</math> (kN·s/m)</td> </tr> <tr> <td>T. P. 5.8m</td> <td><math>4.407 \times 10^7</math> (kN/m)</td> <td><math>4.407 \times 10^7</math> (kN/m)</td> <td><math>6.575 \times 10^3</math> (kN·s/m)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">NS 方向</td> <td>T. P. 3.0m</td> <td><math>2.508 \times 10^7</math> (kN/m)</td> <td><math>3.741 \times 10^3</math> (kN·s/m)</td> <td><math>1.134 \times 10^3</math> (kN·s/m)</td> </tr> <tr> <td>T. P. 2.5m</td> <td><math>7.599 \times 10^6</math> (kN/m)</td> <td><math>5.669 \times 10^3</math> (kN·s/m)</td> <td><math>5.669 \times 10^3</math> (kN·s/m)</td> </tr> </tbody> </table>	構造物	質点番号 ( ) 節点	質点高さ T.P. (m)	重量 (kN)	重量回転慣性 (kN·m <sup>2</sup> )		EW 方向	NS 方向	上部構造物	1	8.8	12,520	$2.45 \times 10^5$	$2.03 \times 10^5$	2	5.8	9,430	$1.83 \times 10^5$	$1.51 \times 10^5$	基礎版	(3)	3.0	—	—	—	4	2.5	10,390	$2.02 \times 10^5$	$1.67 \times 10^5$	(5)	2.0	—	—	—			総重量	32,340			構造物	部材番号	EW 方向		NS 方向		せん断面積 (m <sup>2</sup> )	断面2次モーメント (m <sup>4</sup> )	せん断面積 (m <sup>2</sup> )	断面2次モーメント (m <sup>4</sup> )	上部構造物	1	37.8	1,444	24.7	725	2	37.8	1,444	24.7	725		ばね定数		減衰係数		EW 方向	NS 方向	EW 方向	NS 方向	水平	2.081×10 <sup>8</sup> (kN·s/m)	2.117×10 <sup>8</sup> (kN·s/m)	$5.627 \times 10^3$ (kN·s/m)	$5.497 \times 10^3$ (kN·s/m)	$1.180 \times 10^{10}$ (kN·m/rad)	$1.015 \times 10^{10}$ (kN·m/rad)	$7.246 \times 10^6$ (kN·m·s/rad)	$5.113 \times 10^6$ (kN·m·s/rad)	回転	—	—	—	—	T. P. 8.8m	4.103×10 <sup>7</sup> (kN/m)	4.407×10 <sup>7</sup> (kN/m)	$6.115 \times 10^3$ (kN·s/m)	$6.568 \times 10^3$ (kN·s/m)	側面	T. P. 3.0m	$2.508 \times 10^7$ (kN/m)	$3.737 \times 10^3$ (kN·s/m)	$1.132 \times 10^3$ (kN·s/m)	T. P. 2.5m	$7.599 \times 10^6$ (kN/m)	$5.662 \times 10^3$ (kN·s/m)	$5.662 \times 10^3$ (kN·s/m)	ばね	T. P. 2.0m	$3.800 \times 10^6$ (kN/m)	$4.103 \times 10^7$ (kN/m)	$6.122 \times 10^3$ (kN·s/m)	T. P. 5.8m	$4.407 \times 10^7$ (kN/m)	$4.407 \times 10^7$ (kN/m)	$6.575 \times 10^3$ (kN·s/m)	NS 方向	T. P. 3.0m	$2.508 \times 10^7$ (kN/m)	$3.741 \times 10^3$ (kN·s/m)	$1.134 \times 10^3$ (kN·s/m)	T. P. 2.5m	$7.599 \times 10^6$ (kN/m)	$5.669 \times 10^3$ (kN·s/m)	$5.669 \times 10^3$ (kN·s/m)	
構造物	質点番号 ( ) 節点	質点高さ T.P. (m)					重量 (kN)	重量回転慣性 (kN·m <sup>2</sup> )																																																																																																																
			EW 方向	NS 方向																																																																																																																				
上部構造物	1	8.8	12,520	$2.45 \times 10^5$	$2.03 \times 10^5$																																																																																																																			
	2	5.8	9,430	$1.83 \times 10^5$	$1.51 \times 10^5$																																																																																																																			
基礎版	(3)	3.0	—	—	—																																																																																																																			
	4	2.5	10,390	$2.02 \times 10^5$	$1.67 \times 10^5$																																																																																																																			
	(5)	2.0	—	—	—																																																																																																																			
		総重量	32,340																																																																																																																					
構造物	部材番号	EW 方向		NS 方向																																																																																																																				
		せん断面積 (m <sup>2</sup> )	断面2次モーメント (m <sup>4</sup> )	せん断面積 (m <sup>2</sup> )	断面2次モーメント (m <sup>4</sup> )																																																																																																																			
上部構造物	1	37.8	1,444	24.7	725																																																																																																																			
	2	37.8	1,444	24.7	725																																																																																																																			
	ばね定数		減衰係数																																																																																																																					
	EW 方向	NS 方向	EW 方向	NS 方向																																																																																																																				
水平	2.081×10 <sup>8</sup> (kN·s/m)	2.117×10 <sup>8</sup> (kN·s/m)	$5.627 \times 10^3$ (kN·s/m)	$5.497 \times 10^3$ (kN·s/m)																																																																																																																				
	$1.180 \times 10^{10}$ (kN·m/rad)	$1.015 \times 10^{10}$ (kN·m/rad)	$7.246 \times 10^6$ (kN·m·s/rad)	$5.113 \times 10^6$ (kN·m·s/rad)																																																																																																																				
回転	—	—	—	—																																																																																																																				
	T. P. 8.8m	4.103×10 <sup>7</sup> (kN/m)	4.407×10 <sup>7</sup> (kN/m)	$6.115 \times 10^3$ (kN·s/m)	$6.568 \times 10^3$ (kN·s/m)																																																																																																																			
側面	T. P. 3.0m	$2.508 \times 10^7$ (kN/m)	$3.737 \times 10^3$ (kN·s/m)	$1.132 \times 10^3$ (kN·s/m)																																																																																																																				
	T. P. 2.5m	$7.599 \times 10^6$ (kN/m)	$5.662 \times 10^3$ (kN·s/m)	$5.662 \times 10^3$ (kN·s/m)																																																																																																																				
ばね	T. P. 2.0m	$3.800 \times 10^6$ (kN/m)	$4.103 \times 10^7$ (kN/m)	$6.122 \times 10^3$ (kN·s/m)																																																																																																																				
	T. P. 5.8m	$4.407 \times 10^7$ (kN/m)	$4.407 \times 10^7$ (kN/m)	$6.575 \times 10^3$ (kN·s/m)																																																																																																																				
NS 方向	T. P. 3.0m	$2.508 \times 10^7$ (kN/m)	$3.741 \times 10^3$ (kN·s/m)	$1.134 \times 10^3$ (kN·s/m)																																																																																																																				
	T. P. 2.5m	$7.599 \times 10^6$ (kN/m)	$5.669 \times 10^3$ (kN·s/m)	$5.669 \times 10^3$ (kN·s/m)																																																																																																																				

## 泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について  
 別添3. レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震PRA

大飯発電所3／4号炉				女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉			相違理由																																																																																														
第1.2.1.e-1-12表 現実的応答評価用モデルで用いる諸元と物性値の関係				第3.2.1.e-1-20表 現実的応答評価用モデルで用いる諸元と物性値の関係																																																																																																		
<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th colspan="3">物性値</th> </tr> <tr> <th></th> <th>F<sub>c</sub></th> <th>h</th> <th>V<sub>s</sub></th> <th>s<sub>α</sub>y</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>RC部</td> <td>ヤング係数 E</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td></td> <td>せん断弾性係数 G</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td></td> <td>減衰定数 ζ</td> <td>—</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td></td> <td>復元力特性 Q-γ</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td></td> <td>復元力特性 M-φ</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>地盤ばね</td> <td>ばね値</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>○</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td></td> <td>減衰</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>								物性値				F <sub>c</sub>	h	V <sub>s</sub>	s <sub>α</sub> y	RC部	ヤング係数 E	○	—	—	—		せん断弾性係数 G	○	—	—	—		減衰定数 ζ	—	○	—	—		復元力特性 Q-γ	○	—	—	○		復元力特性 M-φ	○	—	—	○	地盤ばね	ばね値	—	—	○	—		減衰	○	—	○	—	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th colspan="3">物性値</th> </tr> <tr> <th></th> <th>F<sub>c</sub></th> <th>h</th> <th>V<sub>s</sub></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>RC部</td> <td>E</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td></td> <td>G</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td></td> <td>h</td> <td>—</td> <td>○</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td></td> <td>Q-γスケルトン</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td></td> <td>M-φスケルトン</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>地盤ばね</td> <td>ばね値</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td></td> <td>減衰</td> <td>○</td> <td>—</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table>						物性値				F <sub>c</sub>	h	V <sub>s</sub>	RC部	E	○	—	—		G	○	—	—		h	—	○	—		Q-γスケルトン	○	—	—		M-φスケルトン	○	—	—	地盤ばね	ばね値	—	—	○		減衰
	物性値																																																																																																					
	F <sub>c</sub>	h	V <sub>s</sub>	s <sub>α</sub> y																																																																																																		
RC部	ヤング係数 E	○	—	—	—																																																																																																	
	せん断弾性係数 G	○	—	—	—																																																																																																	
	減衰定数 ζ	—	○	—	—																																																																																																	
	復元力特性 Q-γ	○	—	—	○																																																																																																	
	復元力特性 M-φ	○	—	—	○																																																																																																	
地盤ばね	ばね値	—	—	○	—																																																																																																	
	減衰	○	—	○	—																																																																																																	
	物性値																																																																																																					
	F <sub>c</sub>	h	V <sub>s</sub>																																																																																																			
RC部	E	○	—	—																																																																																																		
	G	○	—	—																																																																																																		
	h	—	○	—																																																																																																		
	Q-γスケルトン	○	—	—																																																																																																		
	M-φスケルトン	○	—	—																																																																																																		
地盤ばね	ばね値	—	—	○																																																																																																		
	減衰	○	—	○																																																																																																		
第1.2.1.e-1-13表 2点推定法による解析ケース				第3.2.1.e-1-21表 2点推定法による解析ケース																																																																																																		
<table border="1"> <thead> <tr> <th>解析ケース</th> <th>F<sub>c</sub></th> <th>h</th> <th>V<sub>s</sub></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>+</td> <td>+</td> <td>+</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>+</td> <td>—</td> <td>+</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>+</td> <td>+</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>+</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>—</td> <td>+</td> <td>+</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>+</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>—</td> <td>+</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>				解析ケース	F <sub>c</sub>	h	V <sub>s</sub>	1	+	+	+	2	+	—	+	3	+	+	—	4	+	—	—	5	—	+	+	6	—	—	+	7	—	+	—	8	—	—	—	<table border="1"> <thead> <tr> <th>解析ケース</th> <th>F<sub>c</sub></th> <th>h</th> <th>V<sub>s</sub></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>+</td> <td>+</td> <td>+</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>+</td> <td>—</td> <td>+</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>+</td> <td>+</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>+</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>—</td> <td>+</td> <td>+</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>+</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>—</td> <td>+</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>					解析ケース	F <sub>c</sub>	h	V <sub>s</sub>	1	+	+	+	2	+	—	+	3	+	+	—	4	+	—	—	5	—	+	+	6	—	—	+	7	—	+	—	8	—	—	—																						
解析ケース	F <sub>c</sub>	h	V <sub>s</sub>																																																																																																			
1	+	+	+																																																																																																			
2	+	—	+																																																																																																			
3	+	+	—																																																																																																			
4	+	—	—																																																																																																			
5	—	+	+																																																																																																			
6	—	—	+																																																																																																			
7	—	+	—																																																																																																			
8	—	—	—																																																																																																			
解析ケース	F <sub>c</sub>	h	V <sub>s</sub>																																																																																																			
1	+	+	+																																																																																																			
2	+	—	+																																																																																																			
3	+	+	—																																																																																																			
4	+	—	—																																																																																																			
5	—	+	+																																																																																																			
6	—	—	+																																																																																																			
7	—	+	—																																																																																																			
8	—	—	—																																																																																																			

泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について

別添3. レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震PRA

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																														
<table border="1"> <caption>第1.2.1.c-2-1表 現実的な物性値の評価方法</caption> <tr> <td></td><td>現実的な物性値の評価方法</td></tr> <tr> <td>コンクリート強度 <math>F_c</math></td><td>平均値：1.4×設計基準強度 変動係数：0.13（地震P.S.A.学会標準）</td></tr> <tr> <td>地盤の初期せん断剛性 <math>G_0</math> (地盤のせん断波速度 <math>V_s</math>)</td><td>平均値：P.S.検層結果に基づき設定 変動係数：0.1（地震P.S.A.学会標準）</td></tr> </table>		現実的な物性値の評価方法	コンクリート強度 $F_c$	平均値：1.4×設計基準強度 変動係数：0.13（地震P.S.A.学会標準）	地盤の初期せん断剛性 $G_0$ (地盤のせん断波速度 $V_s$ )	平均値：P.S.検層結果に基づき設定 変動係数：0.1（地震P.S.A.学会標準）		<table border="1"> <caption>第3.2.1.c-2-1表 現実的な物性値の評価方法</caption> <tr> <td></td><td>現実的な物性値の評価方法</td></tr> <tr> <td>コンクリート強度 <math>F_c</math></td><td>平均値：1.4×設計基準強度 変動係数：0.13</td></tr> <tr> <td>埋戻土の初期せん断剛性 <math>G_0</math></td><td>平均値：室内試験結果に基づき設定 変動係数：試験結果のばらつきから設定</td></tr> <tr> <td>岩盤のせん断剛性 <math>G</math></td><td>平均値：PS検層結果に基づき設定 変動係数：試験結果のばらつきから設定</td></tr> </table>		現実的な物性値の評価方法	コンクリート強度 $F_c$	平均値：1.4×設計基準強度 変動係数：0.13	埋戻土の初期せん断剛性 $G_0$	平均値：室内試験結果に基づき設定 変動係数：試験結果のばらつきから設定	岩盤のせん断剛性 $G$	平均値：PS検層結果に基づき設定 変動係数：試験結果のばらつきから設定	<p><b>【大飯】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■評価方針の相違                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・地盤のせん断剛性について、泊は試験結果のばらつきから変動係数を設定する（玄海、伊方と同様）</li> </ul> </li> </ul> <p><b>【女川】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■評価方針の相違                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・女川は屋外重要土木構造物のフラジリティ評価を実施していない</li> </ul> </li> </ul>																
	現実的な物性値の評価方法																																
コンクリート強度 $F_c$	平均値：1.4×設計基準強度 変動係数：0.13（地震P.S.A.学会標準）																																
地盤の初期せん断剛性 $G_0$ (地盤のせん断波速度 $V_s$ )	平均値：P.S.検層結果に基づき設定 変動係数：0.1（地震P.S.A.学会標準）																																
	現実的な物性値の評価方法																																
コンクリート強度 $F_c$	平均値：1.4×設計基準強度 変動係数：0.13																																
埋戻土の初期せん断剛性 $G_0$	平均値：室内試験結果に基づき設定 変動係数：試験結果のばらつきから設定																																
岩盤のせん断剛性 $G$	平均値：PS検層結果に基づき設定 変動係数：試験結果のばらつきから設定																																
<table border="1"> <caption>第1.2.1.c-3-1表 現実的耐力及び現実的応答の不確実さ要因の整理</caption> <tr> <th>評価方法</th><th>偶然的不確実さ (<math>\beta_{\text{fl}}</math>)</th><th>認識論的不確実さ (<math>\beta_{\text{rv}}</math>)</th></tr> <tr> <td rowspan="2">機器配管系</td><td>現実的耐力                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・機能試験データの統計的精度</li> <li>・試験データの統計的精度</li> </ul> </td><td></td></tr> <tr> <td>現実的応答                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・水平・上下地震荷重組み合わせ方法</li> <li>・モード合成法</li> </ul> </td><td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・機能試験データの統計的精度</li> <li>・材料物性値</li> </ul> </td></tr> </table>	評価方法	偶然的不確実さ ( $\beta_{\text{fl}}$ )	認識論的不確実さ ( $\beta_{\text{rv}}$ )	機器配管系	現実的耐力 <ul style="list-style-type: none"> <li>・機能試験データの統計的精度</li> <li>・試験データの統計的精度</li> </ul>		現実的応答 <ul style="list-style-type: none"> <li>・水平・上下地震荷重組み合わせ方法</li> <li>・モード合成法</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・機能試験データの統計的精度</li> <li>・材料物性値</li> </ul>	<table border="1"> <caption>第3.2.1.c-2-1表 不確実さの要因整理表</caption> <tr> <th colspan="2">評価方法</th><th>偶然的不確実さ (<math>\beta_{\text{fl}}</math>)</th><th>認識論的不確実さ (<math>\beta_{\text{rv}}</math>)</th></tr> <tr> <td rowspan="2">機器配管系</td><td>現実的耐力</td><td>・機能試験データの統計的精度</td><td>・機能試験データの統計的精度</td></tr> <tr> <td>現実的応答</td><td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・減衰定数</li> <li>・モード合成法</li> </ul> </td><td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・減衰定数</li> <li>・床応答スペクトル</li> <li>・解析モデル化</li> </ul> </td></tr> </table>	評価方法		偶然的不確実さ ( $\beta_{\text{fl}}$ )	認識論的不確実さ ( $\beta_{\text{rv}}$ )	機器配管系	現実的耐力	・機能試験データの統計的精度	・機能試験データの統計的精度	現実的応答	<ul style="list-style-type: none"> <li>・減衰定数</li> <li>・モード合成法</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・減衰定数</li> <li>・床応答スペクトル</li> <li>・解析モデル化</li> </ul>	<table border="1"> <caption>第3.2.1.c-3-1表 不確実さ要因整理表</caption> <tr> <th colspan="2">評価方法</th><th>偶然的不確実さ (<math>\beta_{\text{fl}}</math>)</th><th>認識論的不確実さ (<math>\beta_{\text{rv}}</math>)</th></tr> <tr> <td rowspan="2">機器配管系</td><td>現実的耐力</td><td>・機能試験データの統計的精度</td><td>・機能データの統計的精度</td></tr> <tr> <td>現実的応答</td><td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水平・上下地震荷重組合せ方法</li> <li>・モード合成法</li> </ul> </td><td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・減衰定数</li> <li>・床応答スペクトル</li> <li>・解析モデル化</li> </ul> </td></tr> </table>	評価方法		偶然的不確実さ ( $\beta_{\text{fl}}$ )	認識論的不確実さ ( $\beta_{\text{rv}}$ )	機器配管系	現実的耐力	・機能試験データの統計的精度	・機能データの統計的精度	現実的応答	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水平・上下地震荷重組合せ方法</li> <li>・モード合成法</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・減衰定数</li> <li>・床応答スペクトル</li> <li>・解析モデル化</li> </ul>	<p><b>【大飯】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■記載の充実                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・女川の実績反映</li> </ul> </li> </ul> <p><b>【女川】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■評価方針の相違                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・女川は算出された減衰定数の不確実さを <math>\beta_{\text{fl}}</math> と <math>\beta_{\text{rv}}</math> で 1:1 で配分しているが、泊は <math>\beta_{\text{rv}}</math> にまとめている</li> <li>・女川では1方向のみに着目した評価としているが、泊では回転機器に対しては水平・上下が合成された入力による影響を考慮している（大飯と同様）</li> </ul> </li> </ul>
評価方法	偶然的不確実さ ( $\beta_{\text{fl}}$ )	認識論的不確実さ ( $\beta_{\text{rv}}$ )																															
機器配管系	現実的耐力 <ul style="list-style-type: none"> <li>・機能試験データの統計的精度</li> <li>・試験データの統計的精度</li> </ul>																																
	現実的応答 <ul style="list-style-type: none"> <li>・水平・上下地震荷重組み合わせ方法</li> <li>・モード合成法</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・機能試験データの統計的精度</li> <li>・材料物性値</li> </ul>																															
評価方法		偶然的不確実さ ( $\beta_{\text{fl}}$ )	認識論的不確実さ ( $\beta_{\text{rv}}$ )																														
機器配管系	現実的耐力	・機能試験データの統計的精度	・機能試験データの統計的精度																														
	現実的応答	<ul style="list-style-type: none"> <li>・減衰定数</li> <li>・モード合成法</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・減衰定数</li> <li>・床応答スペクトル</li> <li>・解析モデル化</li> </ul>																														
評価方法		偶然的不確実さ ( $\beta_{\text{fl}}$ )	認識論的不確実さ ( $\beta_{\text{rv}}$ )																														
機器配管系	現実的耐力	・機能試験データの統計的精度	・機能データの統計的精度																														
	現実的応答	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水平・上下地震荷重組合せ方法</li> <li>・モード合成法</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・減衰定数</li> <li>・床応答スペクトル</li> <li>・解析モデル化</li> </ul>																														

泊発電所 3号炉 有効性評価 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第37条 付録1 事故シケンスグループ及び重要事故シケンス等の選定について  
別添3. レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震PRA

大飯発電所3／4号炉

第1.2.1.c-3-2 表 建屋応答係数						
建屋	方向	係数	F <sub>ss</sub>	F <sub>s</sub>	F <sub>M</sub>	F <sub>SR</sub>
原子炉建屋 (I／C)	水平 (N S)	中央値	1.13	0.99	1.00	1.12
		$\beta_E$	-	0.09	0.00	0.09
		$\beta_U$	-	-	0.15	0.15
	水平 (E W)	中央値	1.07	0.99	1.00	1.06
		$\beta_E$	-	0.09	0.00	0.09
		$\beta_U$	-	-	0.15	0.15
	鉛直	中央値	1.10	0.99	1.01	1.10
		$\beta_E$	-	0.07	0.02	0.07
		$\beta_U$	-	-	0.15	0.15
原子炉建屋 (C／V)	水平 (N S)	中央値	1.45	0.99	1.00	1.44
		$\beta_E$	-	0.07	0.00	0.07
		$\beta_U$	-	-	0.15	0.15
	水平 (E W)	中央値	1.46	0.99	1.00	1.45
		$\beta_E$	-	0.07	0.00	0.07
		$\beta_U$	-	-	0.15	0.15
	鉛直	中央値	1.12	0.99	1.04	1.15
		$\beta_E$	-	0.07	0.02	0.07
		$\beta_U$	-	-	0.15	0.15
原子炉建屋 (E／B)	水平 (N S)	中央値	1.07	0.99	1.00	1.06
		$\beta_E$	-	0.09	0.00	0.09
		$\beta_U$	-	-	0.15	0.15
	水平 (E W)	中央値	1.07	0.99	1.00	1.06
		$\beta_E$	-	0.09	0.00	0.09
		$\beta_U$	-	-	0.15	0.15
	鉛直	中央値	1.10	0.99	1.01	1.10
		$\beta_E$	-	0.07	0.02	0.07
		$\beta_U$	-	-	0.15	0.15
制御建屋 (C／B)	水平 (N S)	中央値	1.07	0.99	1.00	1.06
		$\beta_E$	-	0.08	0.00	0.08
		$\beta_U$	-	-	0.15	0.15
	水平 (E W)	中央値	1.07	0.99	1.00	1.06
		$\beta_E$	-	0.08	0.00	0.08
		$\beta_U$	-	-	0.15	0.15
	鉛直	中央値	1.09	0.99	1.02	1.10
		$\beta_E$	-	0.06	0.03	0.07
		$\beta_U$	-	-	0.15	0.15

第3, 2, 1, c-2-2 表 建屋の心答係數(1/2)

泊発電所3号炉

第3.2.1.e-3-2表 建屋の応答係数						
建屋	方向	係数	中央値	$\beta_r$	$\beta_s$	
原子炉建屋	水平	$F_{as}$ 人力地震動のスペクトル形状に関する係数	1.01	0.00	0.00	
		$F_b$ 建屋の減衰に関する係数	0.99	0.08	0.00	
		$F_u$ 建屋のモデル化に関する係数	0.99	0.01	0.12	
		$F_{NL}$ 建屋の非線形応答に関する係数	※	※	※	
	鉛直	$F_{as}$ 人力地震動のスペクトル形状に関する係数	0.93	0.00	0.00	
		$F_b$ 建屋の減衰に関する係数	0.99	0.08	0.00	
		$F_u$ 建屋のモデル化に関する係数	1.00	0.01	0.12	
		$F_{NL}$ 建屋の非線形応答に関する係数	※	※	※	
原子炉補助建屋	水平	$F_{as}$ 人力地震動のスペクトル形状に関する係数	1.01	0.00	0.00	
		$F_b$ 建屋の減衰に関する係数	0.99	0.08	0.00	
		$F_u$ 建屋のモデル化に関する係数	0.99	0.01	0.12	
		$F_{NL}$ 建屋の非線形応答に関する係数	※	※	※	
	鉛直	$F_{as}$ 人力地震動のスペクトル形状に関する係数	0.92	0.00	0.00	
		$F_b$ 建屋の減衰に関する係数	0.99	0.08	0.00	
		$F_u$ 建屋のモデル化に関する係数	1.01	0.03	0.12	
		$F_{NL}$ 建屋の非線形応答に関する係数	※	※	※	
ディーゼル発電機建屋	水平	$F_{as}$ 人力地震動のスペクトル形状に関する係数	0.92	0.00	0.00	
		$F_b$ 建屋の減衰に関する係数	0.99	0.07	0.00	
		$F_u$ 建屋のモデル化に関する係数	1.03	0.01	0.12	
		$F_{NL}$ 建屋の非線形応答に関する係数	※	※	※	
	鉛直	$F_{as}$ 人力地震動のスペクトル形状に関する係数	0.98	0.00	0.00	
		$F_b$ 建屋の減衰に関する係数	1.00	0.02	0.00	
		$F_u$ 建屋のモデル化に関する係数	1.01	0.03	0.12	
		$F_{NL}$ 建屋の非線形応答に関する係数	※	※	※	

【女川】【大飯】

#### ■個別評価による相違

## 泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について  
 別添3. レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震PRA

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																													
<p style="text-align: center;">算3.2.1-c-2表 建屋の応答倍数(2/2)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th colspan="2">建物 方面</th> <th colspan="2">F<sub>z</sub> 梁立柱間距離の地震動に対する応答倍数</th> <th colspan="2">F<sub>x</sub> スベクトル形状に対する応答倍数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>F = 建屋の出入り口地盤の強度に対する応答倍数</td> <td>基礎セグメントによる地盤</td> <td>基礎セグメントによる地盤</td> <td>基礎セグメントによる地盤</td> <td>基礎セグメントによる地盤</td> <td>基礎セグメントによる地盤</td> </tr> <tr> <td>水平</td> <td>建屋の地盤応答評価に対する相違</td> <td>基礎セグメントによる地盤</td> <td>基礎セグメントによる地盤</td> <td>基礎セグメントによる地盤</td> <td>基礎セグメントによる地盤</td> </tr> <tr> <td>垂直</td> <td>建屋の地盤応答評価に対する相違</td> <td>基礎セグメントによる地盤</td> <td>基礎セグメントによる地盤</td> <td>基礎セグメントによる地盤</td> <td>基礎セグメントによる地盤</td> </tr> <tr> <td>水平</td> <td>F<sub>z</sub> 梁立柱間距離の地震動に対する応答倍数</td> <td>基礎セグメントによる地盤</td> <td>基礎セグメントによる地盤</td> <td>基礎セグメントによる地盤</td> <td>基礎セグメントによる地盤</td> </tr> <tr> <td>垂直</td> <td>建屋の地盤応答評価に対する相違</td> <td>基礎セグメントによる地盤</td> <td>基礎セグメントによる地盤</td> <td>基礎セグメントによる地盤</td> <td>基礎セグメントによる地盤</td> </tr> <tr> <td>水平</td> <td>F<sub>z</sub> 梁立柱間距離の地震動に対する応答倍数</td> <td>基礎セグメントによる地盤</td> <td>基礎セグメントによる地盤</td> <td>基礎セグメントによる地盤</td> <td>基礎セグメントによる地盤</td> </tr> <tr> <td>垂直</td> <td>建屋の地盤応答評価に対する相違</td> <td>基礎セグメントによる地盤</td> <td>基礎セグメントによる地盤</td> <td>基礎セグメントによる地盤</td> <td>基礎セグメントによる地盤</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">※ スベクトル形状倍数は、機器又は機器の種別により個別に算定する</p>	建物 方面		F <sub>z</sub> 梁立柱間距離の地震動に対する応答倍数		F <sub>x</sub> スベクトル形状に対する応答倍数		F = 建屋の出入り口地盤の強度に対する応答倍数	基礎セグメントによる地盤	基礎セグメントによる地盤	基礎セグメントによる地盤	基礎セグメントによる地盤	基礎セグメントによる地盤	水平	建屋の地盤応答評価に対する相違	基礎セグメントによる地盤	基礎セグメントによる地盤	基礎セグメントによる地盤	基礎セグメントによる地盤	垂直	建屋の地盤応答評価に対する相違	基礎セグメントによる地盤	基礎セグメントによる地盤	基礎セグメントによる地盤	基礎セグメントによる地盤	水平	F <sub>z</sub> 梁立柱間距離の地震動に対する応答倍数	基礎セグメントによる地盤	基礎セグメントによる地盤	基礎セグメントによる地盤	基礎セグメントによる地盤	垂直	建屋の地盤応答評価に対する相違	基礎セグメントによる地盤	基礎セグメントによる地盤	基礎セグメントによる地盤	基礎セグメントによる地盤	水平	F <sub>z</sub> 梁立柱間距離の地震動に対する応答倍数	基礎セグメントによる地盤	基礎セグメントによる地盤	基礎セグメントによる地盤	基礎セグメントによる地盤	垂直	建屋の地盤応答評価に対する相違	基礎セグメントによる地盤	基礎セグメントによる地盤	基礎セグメントによる地盤	基礎セグメントによる地盤
建物 方面		F <sub>z</sub> 梁立柱間距離の地震動に対する応答倍数		F <sub>x</sub> スベクトル形状に対する応答倍数																																												
F = 建屋の出入り口地盤の強度に対する応答倍数	基礎セグメントによる地盤	基礎セグメントによる地盤	基礎セグメントによる地盤	基礎セグメントによる地盤	基礎セグメントによる地盤																																											
水平	建屋の地盤応答評価に対する相違	基礎セグメントによる地盤	基礎セグメントによる地盤	基礎セグメントによる地盤	基礎セグメントによる地盤																																											
垂直	建屋の地盤応答評価に対する相違	基礎セグメントによる地盤	基礎セグメントによる地盤	基礎セグメントによる地盤	基礎セグメントによる地盤																																											
水平	F <sub>z</sub> 梁立柱間距離の地震動に対する応答倍数	基礎セグメントによる地盤	基礎セグメントによる地盤	基礎セグメントによる地盤	基礎セグメントによる地盤																																											
垂直	建屋の地盤応答評価に対する相違	基礎セグメントによる地盤	基礎セグメントによる地盤	基礎セグメントによる地盤	基礎セグメントによる地盤																																											
水平	F <sub>z</sub> 梁立柱間距離の地震動に対する応答倍数	基礎セグメントによる地盤	基礎セグメントによる地盤	基礎セグメントによる地盤	基礎セグメントによる地盤																																											
垂直	建屋の地盤応答評価に対する相違	基礎セグメントによる地盤	基礎セグメントによる地盤	基礎セグメントによる地盤	基礎セグメントによる地盤																																											

## 泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について  
 別添3 レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震PRA

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
<p>第3.2.1.c-2-3表 制御棒駆動機構ハウジング貫通孔の耐震評価結果</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価部位</th><th>材料</th><th>評価応力</th><th>許容値 (N/mm<sup>2</sup>)</th><th>発生応力 (N/mm<sup>2</sup>)</th><th>裕度</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">スタブチューブ</td><td rowspan="2">NCF600</td><td>一次膜+ 一次曲げ応力</td><td>460</td><td>196</td><td>2.34</td></tr> <tr> <td>軸圧縮応力</td><td>126</td><td>54</td><td>2.33</td></tr> </tbody> </table> <p>第3.2.1.c-2-4表 制御棒駆動機構ハウジング貫通孔 安全係数評価結果の一覧</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>F<sub>s</sub></th><th>F<sub>a</sub></th><th>F<sub>sA</sub></th><th>F<sub>D</sub></th><th>F<sub>M</sub></th><th>F<sub>MC</sub></th><th>F<sub>t</sub></th><th>F<sub>z</sub></th><th>F<sub>s</sub></th><th>A<sub>s</sub></th><th></th></tr> <tr> <td><math>\beta_s</math></td><td><math>\beta_a</math></td><td><math>\beta_{sA}</math></td><td><math>\beta_D</math></td><td><math>\beta_M</math></td><td><math>\beta_{MC}</math></td><td><math>\beta_t</math></td><td><math>\beta_z</math></td><td><math>\beta_s</math></td><td><math>\beta_A</math></td><td>HCLPF</td></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3.43</td><td>1.00</td><td>1.00</td><td>1.00</td><td>1.00</td><td>1.22</td><td>1.00</td><td>4.26</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>0.13</td><td>0.00</td><td>0.00</td><td>0.00</td><td>0.00</td><td>0.00</td><td>0.20</td><td>0.24</td><td>1.64</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>0.27</td><td>0.00</td><td>0.00</td><td>0.00</td><td>0.15</td><td>0.00</td><td>0.00</td><td>0.15</td><td>0.34</td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table> <p>第3.2.1.c-2-5表 水圧制御ユニットの耐震評価結果</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価部位</th><th>材料</th><th>評価応力</th><th>許容値 (N/mm<sup>2</sup>)</th><th>発生応力 (N/mm<sup>2</sup>)</th><th>裕度</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">フレーム</td><td rowspan="3">STPT370</td><td>組合せ応力</td><td>250</td><td>60</td><td>4.16</td></tr> <tr> <td>引張応力</td><td>475</td><td>286</td><td>1.66</td></tr> <tr> <td>せん断応力</td><td>366</td><td>81</td><td>4.51</td></tr> </tbody> </table> <p>第3.2.1.c-2-6表 水圧制御ユニット 安全係数評価結果の一覧</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>F<sub>s</sub></th><th>F<sub>a</sub></th><th>F<sub>sA</sub></th><th>F<sub>D</sub></th><th>F<sub>M</sub></th><th>F<sub>MC</sub></th><th>F<sub>t</sub></th><th>F<sub>z</sub></th><th>F<sub>s</sub></th><th>A<sub>s</sub></th><th></th></tr> <tr> <td><math>\beta_s</math></td><td><math>\beta_a</math></td><td><math>\beta_{sA}</math></td><td><math>\beta_D</math></td><td><math>\beta_M</math></td><td><math>\beta_{MC}</math></td><td><math>\beta_t</math></td><td><math>\beta_z</math></td><td><math>\beta_s</math></td><td><math>\beta_A</math></td><td>HCLPF</td></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2.61</td><td>1.00</td><td>1.00</td><td>1.00</td><td>1.00</td><td>0.86</td><td>1.00</td><td>2.28</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>0.00</td><td>0.00</td><td>0.00</td><td>0.00</td><td>0.00</td><td>0.00</td><td>0.20</td><td>0.20</td><td>1.24</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>0.97</td><td>0.00</td><td>0.00</td><td>0.00</td><td>0.00</td><td>0.00</td><td>0.00</td><td>0.15</td><td>0.17</td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table> <p>第3.2.1.c-2-7表 非常用ディーゼル発電設備ディーゼル機関の耐震評価結果</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価位置</th><th colspan="2">水平</th><th colspan="2">鉛直</th></tr> <tr> <th>応答 加速度(G)</th><th>機能維持確認 加速度(G)</th><th>応答 加速度(G)</th><th>機能維持確認 加速度(G)</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>機関重心位置</td><td>1.61</td><td>3.3 *10<sup>-1</sup></td><td>1.07</td><td>2.0 *10<sup>-1</sup></td></tr> </tbody> </table>	評価部位	材料	評価応力	許容値 (N/mm <sup>2</sup> )	発生応力 (N/mm <sup>2</sup> )	裕度	スタブチューブ	NCF600	一次膜+ 一次曲げ応力	460	196	2.34	軸圧縮応力	126	54	2.33	F <sub>s</sub>	F <sub>a</sub>	F <sub>sA</sub>	F <sub>D</sub>	F <sub>M</sub>	F <sub>MC</sub>	F <sub>t</sub>	F <sub>z</sub>	F <sub>s</sub>	A <sub>s</sub>		$\beta_s$	$\beta_a$	$\beta_{sA}$	$\beta_D$	$\beta_M$	$\beta_{MC}$	$\beta_t$	$\beta_z$	$\beta_s$	$\beta_A$	HCLPF	3.43	1.00	1.00	1.00	1.00	1.22	1.00	4.26				0.13	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.20	0.24	1.64			0.27	0.00	0.00	0.00	0.15	0.00	0.00	0.15	0.34			評価部位	材料	評価応力	許容値 (N/mm <sup>2</sup> )	発生応力 (N/mm <sup>2</sup> )	裕度	フレーム	STPT370	組合せ応力	250	60	4.16	引張応力	475	286	1.66	せん断応力	366	81	4.51	F <sub>s</sub>	F <sub>a</sub>	F <sub>sA</sub>	F <sub>D</sub>	F <sub>M</sub>	F <sub>MC</sub>	F <sub>t</sub>	F <sub>z</sub>	F <sub>s</sub>	A <sub>s</sub>		$\beta_s$	$\beta_a$	$\beta_{sA}$	$\beta_D$	$\beta_M$	$\beta_{MC}$	$\beta_t$	$\beta_z$	$\beta_s$	$\beta_A$	HCLPF	2.61	1.00	1.00	1.00	1.00	0.86	1.00	2.28				0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.20	0.20	1.24			0.97	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.15	0.17			評価位置	水平		鉛直		応答 加速度(G)	機能維持確認 加速度(G)	応答 加速度(G)	機能維持確認 加速度(G)	機関重心位置	1.61	3.3 *10 <sup>-1</sup>	1.07	2.0 *10 <sup>-1</sup>	<p>第3.2.1.c-3-3表 1次冷却材ポンプの耐震評価結果</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価部位</th><th>材料</th><th>評価応力</th><th>許容値 (MPa)</th><th>発生応力 (MPa)</th><th>裕度</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">上部支持構造物</td><td rowspan="3">SW190B</td><td>組合せ</td><td>1</td><td>0.71</td><td>1.40</td></tr> <tr> <td>せん断</td><td>193</td><td>21</td><td>9.19</td></tr> <tr> <td>曲げ</td><td>336</td><td>175</td><td>1.92</td></tr> </tbody> </table> <p>第3.2.1.c-3-4表 1次冷却材ポンプ 安全係数評価結果の一覧</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>F<sub>s</sub></th><th>F<sub>a</sub></th><th>F<sub>sA</sub></th><th>F<sub>D</sub></th><th>F<sub>M</sub></th><th>F<sub>MC</sub></th><th>F<sub>t</sub></th><th>F<sub>z</sub></th><th>F<sub>s</sub></th><th>A<sub>s</sub></th><th></th></tr> <tr> <td><math>\beta_s</math></td><td><math>\beta_a</math></td><td><math>\beta_{sA}</math></td><td><math>\beta_D</math></td><td><math>\beta_M</math></td><td><math>\beta_{MC}</math></td><td><math>\beta_t</math></td><td><math>\beta_z</math></td><td><math>\beta_s</math></td><td><math>\beta_A</math></td><td>HCLPF</td></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1.40</td><td>2.24</td><td>1.30</td><td>1.00</td><td>1.00</td><td>1.00</td><td>1.01</td><td>0.99</td><td>0.99</td><td>1.00</td><td>2.25</td><td>0.94</td></tr> <tr> <td>0.00</td><td>0.19</td><td>0.00</td><td>0.00</td><td>0.00</td><td>0.00</td><td>0.00</td><td>0.08</td><td>0.01</td><td>0.17</td><td>0.27</td><td></td></tr> <tr> <td>0.00</td><td>0.19</td><td>0.00</td><td>0.00</td><td>0.00</td><td>0.00</td><td>0.00</td><td>0.00</td><td>0.15</td><td>0.10</td><td>0.27</td><td></td></tr> </tbody> </table> <p>第3.2.1.c-3-5表 余熱除去冷却器の耐震評価結果</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価部位</th><th>材料</th><th>評価応力</th><th>許容値 (MPa)</th><th>発生応力 (MPa)</th><th>裕度</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>胴板</td><td>SGV410</td><td>一次応力</td><td>334</td><td>118</td><td>2.83</td></tr> <tr> <td>支持脚</td><td>SS400</td><td>組合せ</td><td>255</td><td>30</td><td>8.50</td></tr> <tr> <td>基礎ボルト</td><td>SN87</td><td>引張</td><td>451</td><td>117</td><td>3.85</td></tr> </tbody> </table> <p>第3.2.1.c-3-6表 余熱除去冷却器 安全係数評価結果の一覧</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>F<sub>s</sub></th><th>F<sub>a</sub></th><th>F<sub>sA</sub></th><th>F<sub>D</sub></th><th>F<sub>M</sub></th><th>F<sub>MC</sub></th><th>F<sub>t</sub></th><th>F<sub>z</sub></th><th>F<sub>s</sub></th><th>A<sub>s</sub></th><th></th></tr> <tr> <td><math>\beta_s</math></td><td><math>\beta_a</math></td><td><math>\beta_{sA}</math></td><td><math>\beta_D</math></td><td><math>\beta_M</math></td><td><math>\beta_{MC}</math></td><td><math>\beta_t</math></td><td><math>\beta_z</math></td><td><math>\beta_s</math></td><td><math>\beta_A</math></td><td>HCLPF</td></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3.47</td><td>1.00</td><td>1.20</td><td>1.00</td><td>1.00</td><td>1.00</td><td>1.01</td><td>0.99</td><td>0.99</td><td>1.00</td><td>2.31</td><td>0.95</td></tr> <tr> <td>0.00</td><td>0.00</td><td>0.00</td><td>0.00</td><td>0.00</td><td>0.00</td><td>0.00</td><td>0.08</td><td>0.01</td><td>0.00</td><td>0.09</td><td>1.35</td></tr> <tr> <td>0.06</td><td>0.00</td><td>0.00</td><td>0.00</td><td>0.00</td><td>0.00</td><td>0.00</td><td>0.00</td><td>0.15</td><td>0.00</td><td>0.17</td><td></td></tr> </tbody> </table>	評価部位	材料	評価応力	許容値 (MPa)	発生応力 (MPa)	裕度	上部支持構造物	SW190B	組合せ	1	0.71	1.40	せん断	193	21	9.19	曲げ	336	175	1.92	F <sub>s</sub>	F <sub>a</sub>	F <sub>sA</sub>	F <sub>D</sub>	F <sub>M</sub>	F <sub>MC</sub>	F <sub>t</sub>	F <sub>z</sub>	F <sub>s</sub>	A <sub>s</sub>		$\beta_s$	$\beta_a$	$\beta_{sA}$	$\beta_D$	$\beta_M$	$\beta_{MC}$	$\beta_t$	$\beta_z$	$\beta_s$	$\beta_A$	HCLPF	1.40	2.24	1.30	1.00	1.00	1.00	1.01	0.99	0.99	1.00	2.25	0.94	0.00	0.19	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.08	0.01	0.17	0.27		0.00	0.19	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.15	0.10	0.27		評価部位	材料	評価応力	許容値 (MPa)	発生応力 (MPa)	裕度	胴板	SGV410	一次応力	334	118	2.83	支持脚	SS400	組合せ	255	30	8.50	基礎ボルト	SN87	引張	451	117	3.85	F <sub>s</sub>	F <sub>a</sub>	F <sub>sA</sub>	F <sub>D</sub>	F <sub>M</sub>	F <sub>MC</sub>	F <sub>t</sub>	F <sub>z</sub>	F <sub>s</sub>	A <sub>s</sub>		$\beta_s$	$\beta_a$	$\beta_{sA}$	$\beta_D$	$\beta_M$	$\beta_{MC}$	$\beta_t$	$\beta_z$	$\beta_s$	$\beta_A$	HCLPF	3.47	1.00	1.20	1.00	1.00	1.00	1.01	0.99	0.99	1.00	2.31	0.95	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.08	0.01	0.00	0.09	1.35	0.06	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.15	0.00	0.17		<p>【大飯】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■記載方針の相違</li> <li>・女川の実績反映</li> <li>・大飯は本文中に耐震評価結果及び安全係数評価結果を記載している</li> </ul> <p>【女川】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■個別評価による相違</li> <li>・FV 重要度が異なるため、代表機器も異なり、評価結果も異なる</li> </ul>
評価部位	材料	評価応力	許容値 (N/mm <sup>2</sup> )	発生応力 (N/mm <sup>2</sup> )	裕度																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
スタブチューブ	NCF600	一次膜+ 一次曲げ応力	460	196	2.34																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
		軸圧縮応力	126	54	2.33																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
F <sub>s</sub>	F <sub>a</sub>	F <sub>sA</sub>	F <sub>D</sub>	F <sub>M</sub>	F <sub>MC</sub>	F <sub>t</sub>	F <sub>z</sub>	F <sub>s</sub>	A <sub>s</sub>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
$\beta_s$	$\beta_a$	$\beta_{sA}$	$\beta_D$	$\beta_M$	$\beta_{MC}$	$\beta_t$	$\beta_z$	$\beta_s$	$\beta_A$	HCLPF																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
3.43	1.00	1.00	1.00	1.00	1.22	1.00	4.26																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
0.13	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.20	0.24	1.64																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
0.27	0.00	0.00	0.00	0.15	0.00	0.00	0.15	0.34																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
評価部位	材料	評価応力	許容値 (N/mm <sup>2</sup> )	発生応力 (N/mm <sup>2</sup> )	裕度																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
フレーム	STPT370	組合せ応力	250	60	4.16																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
		引張応力	475	286	1.66																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
		せん断応力	366	81	4.51																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
F <sub>s</sub>	F <sub>a</sub>	F <sub>sA</sub>	F <sub>D</sub>	F <sub>M</sub>	F <sub>MC</sub>	F <sub>t</sub>	F <sub>z</sub>	F <sub>s</sub>	A <sub>s</sub>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
$\beta_s$	$\beta_a$	$\beta_{sA}$	$\beta_D$	$\beta_M$	$\beta_{MC}$	$\beta_t$	$\beta_z$	$\beta_s$	$\beta_A$	HCLPF																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
2.61	1.00	1.00	1.00	1.00	0.86	1.00	2.28																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.20	0.20	1.24																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
0.97	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.15	0.17																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
評価位置	水平		鉛直																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
	応答 加速度(G)	機能維持確認 加速度(G)	応答 加速度(G)	機能維持確認 加速度(G)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
機関重心位置	1.61	3.3 *10 <sup>-1</sup>	1.07	2.0 *10 <sup>-1</sup>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
評価部位	材料	評価応力	許容値 (MPa)	発生応力 (MPa)	裕度																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
上部支持構造物	SW190B	組合せ	1	0.71	1.40																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
		せん断	193	21	9.19																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
		曲げ	336	175	1.92																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
F <sub>s</sub>	F <sub>a</sub>	F <sub>sA</sub>	F <sub>D</sub>	F <sub>M</sub>	F <sub>MC</sub>	F <sub>t</sub>	F <sub>z</sub>	F <sub>s</sub>	A <sub>s</sub>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
$\beta_s$	$\beta_a$	$\beta_{sA}$	$\beta_D$	$\beta_M$	$\beta_{MC}$	$\beta_t$	$\beta_z$	$\beta_s$	$\beta_A$	HCLPF																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
1.40	2.24	1.30	1.00	1.00	1.00	1.01	0.99	0.99	1.00	2.25	0.94																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
0.00	0.19	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.08	0.01	0.17	0.27																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
0.00	0.19	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.15	0.10	0.27																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
評価部位	材料	評価応力	許容値 (MPa)	発生応力 (MPa)	裕度																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
胴板	SGV410	一次応力	334	118	2.83																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
支持脚	SS400	組合せ	255	30	8.50																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
基礎ボルト	SN87	引張	451	117	3.85																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
F <sub>s</sub>	F <sub>a</sub>	F <sub>sA</sub>	F <sub>D</sub>	F <sub>M</sub>	F <sub>MC</sub>	F <sub>t</sub>	F <sub>z</sub>	F <sub>s</sub>	A <sub>s</sub>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
$\beta_s$	$\beta_a$	$\beta_{sA}$	$\beta_D$	$\beta_M$	$\beta_{MC}$	$\beta_t$	$\beta_z$	$\beta_s$	$\beta_A$	HCLPF																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
3.47	1.00	1.20	1.00	1.00	1.00	1.01	0.99	0.99	1.00	2.31	0.95																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.08	0.01	0.00	0.09	1.35																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
0.06	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.15	0.00	0.17																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								

泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について  
 別添3. レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震PRA

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
<p>第3.2.1.c-2-8表 ディーゼル発電設備ディーゼル機関（水平方向） 安全係数評価結果の一覧</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>F<sub>x</sub></th><th>F<sub>y</sub></th><th>F<sub>xA</sub></th><th>F<sub>xD</sub></th><th>F<sub>MD</sub></th><th>F<sub>MC</sub></th><th>F<sub>I</sub></th><th>F<sub>x</sub></th><th>F<sub>y</sub></th><th>A<sub>m</sub></th><th>HCLPF</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>β<sub>x</sub></td><td>β<sub>y</sub></td><td>β<sub>xA</sub></td><td>β<sub>xD</sub></td><td>β<sub>MD</sub></td><td>β<sub>MC</sub></td><td>β<sub>I</sub></td><td>β<sub>x</sub></td><td>β<sub>y</sub></td><td>β<sub>m</sub></td><td></td></tr> <tr> <td>β<sub>x</sub></td><td>β<sub>y</sub></td><td>β<sub>xA</sub></td><td>β<sub>xD</sub></td><td>β<sub>MD</sub></td><td>β<sub>MC</sub></td><td>β<sub>I</sub></td><td>β<sub>x</sub></td><td>β<sub>y</sub></td><td>β<sub>m</sub></td><td></td></tr> <tr> <td>2.28</td><td>1.00</td><td>1.00</td><td>1.00</td><td>1.00</td><td>1.00</td><td>0.86</td><td>1.00</td><td>2.00</td><td></td><td>1.12</td></tr> <tr> <td>0.03</td><td>0.00</td><td>0.00</td><td>0.00</td><td>0.00</td><td>0.00</td><td>0.00</td><td>0.20</td><td>0.20</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>0.03</td><td>0.00</td><td>0.00</td><td>0.00</td><td>0.00</td><td>0.00</td><td>0.00</td><td>0.15</td><td>0.15</td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table> <p>第3.2.1.c-2-9表 125V直流受電パワーセンタ2Aの耐震評価結果</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価位置</th><th colspan="2">水平</th><th colspan="2">鉛直</th></tr> <tr> <th>応答加速度(G)</th><th>機能維持確認加速度(G)</th><th>応答加速度(G)</th><th>機能維持確認加速度(G)</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>重心位置</td><td>1.42</td><td>2.31<sup>※1</sup></td><td>0.82</td><td>3.0<sup>※1</sup></td></tr> </tbody> </table> <p>第3.2.1.c-2-10表 125V直流受電パワーセンタ2A（水平方向） 安全係数評価結果の一覧</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>F<sub>x</sub></th><th>F<sub>y</sub></th><th>F<sub>xA</sub></th><th>F<sub>xD</sub></th><th>F<sub>MD</sub></th><th>F<sub>MC</sub></th><th>F<sub>I</sub></th><th>F<sub>x</sub></th><th>F<sub>y</sub></th><th>A<sub>m</sub></th><th>HCLPF</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>β<sub>x</sub></td><td>β<sub>y</sub></td><td>β<sub>xA</sub></td><td>β<sub>xD</sub></td><td>β<sub>MD</sub></td><td>β<sub>MC</sub></td><td>β<sub>I</sub></td><td>β<sub>x</sub></td><td>β<sub>y</sub></td><td>β<sub>m</sub></td><td></td></tr> <tr> <td>β<sub>x</sub></td><td>β<sub>y</sub></td><td>β<sub>xA</sub></td><td>β<sub>xD</sub></td><td>β<sub>MD</sub></td><td>β<sub>MC</sub></td><td>β<sub>I</sub></td><td>β<sub>x</sub></td><td>β<sub>y</sub></td><td>β<sub>m</sub></td><td></td></tr> <tr> <td>2.67</td><td>1.00</td><td>1.00</td><td>1.00</td><td>1.00</td><td>1.00</td><td>0.88</td><td>1.00</td><td>2.40</td><td></td><td>1.11</td></tr> <tr> <td>0.10</td><td>0.00</td><td>0.00</td><td>0.00</td><td>0.00</td><td>0.00</td><td>0.00</td><td>0.20</td><td>0.22</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>0.20</td><td>0.00</td><td>0.00</td><td>0.00</td><td>0.00</td><td>0.00</td><td>0.00</td><td>0.15</td><td>0.25</td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table> <p>第3.2.1.c-2-11表 原子炉補機冷却水系弁の耐震評価結果</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価位置</th><th colspan="2">水平</th><th colspan="2">鉛直</th></tr> <tr> <th>応答加速度(G)</th><th>機能維持確認加速度(G)</th><th>応答加速度(G)</th><th>機能維持確認加速度(G)</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>駆動部</td><td>5.15</td><td>9.5</td><td>2.15</td><td>6.8</td></tr> </tbody> </table> <p>第3.2.1.c-2-12表 原子炉補機冷却水系弁（水平方向） 安全係数評価結果の一覧</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>F<sub>x</sub></th><th>F<sub>y</sub></th><th>F<sub>xA</sub></th><th>F<sub>xD</sub></th><th>F<sub>MD</sub></th><th>F<sub>MC</sub></th><th>F<sub>I</sub></th><th>F<sub>x</sub></th><th>F<sub>y</sub></th><th>A<sub>m</sub></th><th>HCLPF</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>β<sub>x</sub></td><td>β<sub>y</sub></td><td>β<sub>xA</sub></td><td>β<sub>xD</sub></td><td>β<sub>MD</sub></td><td>β<sub>MC</sub></td><td>β<sub>I</sub></td><td>β<sub>x</sub></td><td>β<sub>y</sub></td><td>β<sub>m</sub></td><td></td></tr> <tr> <td>β<sub>x</sub></td><td>β<sub>y</sub></td><td>β<sub>xA</sub></td><td>β<sub>xD</sub></td><td>β<sub>MD</sub></td><td>β<sub>MC</sub></td><td>β<sub>I</sub></td><td>β<sub>x</sub></td><td>β<sub>y</sub></td><td>β<sub>m</sub></td><td></td></tr> <tr> <td>2.05</td><td>1.00</td><td>1.24</td><td>1.32</td><td>1.00</td><td>1.03</td><td>0.86</td><td>1.00</td><td>3.03</td><td></td><td>1.35</td></tr> <tr> <td>0.03</td><td>0.00</td><td>0.00</td><td>0.08</td><td>0.00</td><td>0.13</td><td>0.00</td><td>0.20</td><td>0.25</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>0.03</td><td>0.00</td><td>0.07</td><td>0.08</td><td>0.15</td><td>0.00</td><td>0.00</td><td>0.15</td><td>0.24</td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	F <sub>x</sub>	F <sub>y</sub>	F <sub>xA</sub>	F <sub>xD</sub>	F <sub>MD</sub>	F <sub>MC</sub>	F <sub>I</sub>	F <sub>x</sub>	F <sub>y</sub>	A <sub>m</sub>	HCLPF	β <sub>x</sub>	β <sub>y</sub>	β <sub>xA</sub>	β <sub>xD</sub>	β <sub>MD</sub>	β <sub>MC</sub>	β <sub>I</sub>	β <sub>x</sub>	β <sub>y</sub>	β <sub>m</sub>		β <sub>x</sub>	β <sub>y</sub>	β <sub>xA</sub>	β <sub>xD</sub>	β <sub>MD</sub>	β <sub>MC</sub>	β <sub>I</sub>	β <sub>x</sub>	β <sub>y</sub>	β <sub>m</sub>		2.28	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	0.86	1.00	2.00		1.12	0.03	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.20	0.20			0.03	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.15	0.15			評価位置	水平		鉛直		応答加速度(G)	機能維持確認加速度(G)	応答加速度(G)	機能維持確認加速度(G)	重心位置	1.42	2.31 <sup>※1</sup>	0.82	3.0 <sup>※1</sup>	F <sub>x</sub>	F <sub>y</sub>	F <sub>xA</sub>	F <sub>xD</sub>	F <sub>MD</sub>	F <sub>MC</sub>	F <sub>I</sub>	F <sub>x</sub>	F <sub>y</sub>	A <sub>m</sub>	HCLPF	β <sub>x</sub>	β <sub>y</sub>	β <sub>xA</sub>	β <sub>xD</sub>	β <sub>MD</sub>	β <sub>MC</sub>	β <sub>I</sub>	β <sub>x</sub>	β <sub>y</sub>	β <sub>m</sub>		β <sub>x</sub>	β <sub>y</sub>	β <sub>xA</sub>	β <sub>xD</sub>	β <sub>MD</sub>	β <sub>MC</sub>	β <sub>I</sub>	β <sub>x</sub>	β <sub>y</sub>	β <sub>m</sub>		2.67	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	0.88	1.00	2.40		1.11	0.10	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.20	0.22			0.20	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.15	0.25			評価位置	水平		鉛直		応答加速度(G)	機能維持確認加速度(G)	応答加速度(G)	機能維持確認加速度(G)	駆動部	5.15	9.5	2.15	6.8	F <sub>x</sub>	F <sub>y</sub>	F <sub>xA</sub>	F <sub>xD</sub>	F <sub>MD</sub>	F <sub>MC</sub>	F <sub>I</sub>	F <sub>x</sub>	F <sub>y</sub>	A <sub>m</sub>	HCLPF	β <sub>x</sub>	β <sub>y</sub>	β <sub>xA</sub>	β <sub>xD</sub>	β <sub>MD</sub>	β <sub>MC</sub>	β <sub>I</sub>	β <sub>x</sub>	β <sub>y</sub>	β <sub>m</sub>		β <sub>x</sub>	β <sub>y</sub>	β <sub>xA</sub>	β <sub>xD</sub>	β <sub>MD</sub>	β <sub>MC</sub>	β <sub>I</sub>	β <sub>x</sub>	β <sub>y</sub>	β <sub>m</sub>		2.05	1.00	1.24	1.32	1.00	1.03	0.86	1.00	3.03		1.35	0.03	0.00	0.00	0.08	0.00	0.13	0.00	0.20	0.25			0.03	0.00	0.07	0.08	0.15	0.00	0.00	0.15	0.24			<p>第3.2.1.c-3-7表 内燃機関（ディーゼル発電機）の耐震評価結果</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価位置</th><th colspan="2">水平</th><th colspan="2">鉛直</th><th colspan="2">水平・鉛直 SRS</th></tr> <tr> <th>応答加速度(G)</th><th>機能維持確認加速度(G)</th><th>応答加速度(G)</th><th>機能維持確認加速度(G)</th><th>応答加速度(G)</th><th>機能維持確認加速度(G)</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>機関重心位置</td><td>6.3</td><td>10.7</td><td>3.90</td><td>9.80</td><td>7.409</td><td>14.51</td></tr> </tbody> </table> <p>第3.2.1.c-3-8表 内燃機関（ディーゼル発電機） 安全係数評価結果の一覧</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>F<sub>x</sub></th><th>F<sub>y</sub></th><th>F<sub>xA</sub></th><th>F<sub>xD</sub></th><th>F<sub>MD</sub></th><th>F<sub>MC</sub></th><th>F<sub>I</sub></th><th>F<sub>x</sub></th><th>F<sub>y</sub></th><th>A<sub>m</sub></th><th>HCLPF</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>β<sub>x</sub></td><td>β<sub>y</sub></td><td>β<sub>xA</sub></td><td>β<sub>xD</sub></td><td>β<sub>MD</sub></td><td>β<sub>MC</sub></td><td>β<sub>I</sub></td><td>β<sub>x</sub></td><td>β<sub>y</sub></td><td>β<sub>m</sub></td><td></td></tr> <tr> <td>β<sub>x</sub></td><td>β<sub>y</sub></td><td>β<sub>xA</sub></td><td>β<sub>xD</sub></td><td>β<sub>MD</sub></td><td>β<sub>MC</sub></td><td>β<sub>I</sub></td><td>β<sub>x</sub></td><td>β<sub>y</sub></td><td>β<sub>m</sub></td><td></td></tr> <tr> <td>2.72</td><td>1.00</td><td>1.00</td><td>1.00</td><td>1.00</td><td>1.00</td><td>0.92</td><td>0.99</td><td>1.03</td><td>1.00</td><td>1.04</td></tr> <tr> <td>0.10</td><td>0.00</td><td>0.00</td><td>0.00</td><td>0.00</td><td>0.00</td><td>0.00</td><td>0.07</td><td>0.01</td><td>0.00</td><td>0.13</td><td>0.97</td></tr> <tr> <td>0.10</td><td>0.00</td><td>0.00</td><td>0.00</td><td>0.00</td><td>0.00</td><td>0.00</td><td>0.00</td><td>0.15</td><td>0.00</td><td>0.19</td><td></td></tr> </tbody> </table> <p>第3.2.1.c-3-9表 パワーコントロールセンタの耐震評価結果</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価位置</th><th colspan="2">水平</th><th colspan="2">鉛直</th></tr> <tr> <th>応答加速度(G)</th><th>機能維持確認加速度(G)</th><th>応答加速度(G)</th><th>機能維持確認加速度(G)</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>盤頂部</td><td>25.90</td><td>10.9</td><td>4.40</td><td>19.60</td></tr> </tbody> </table> <p>第3.2.1.c-3-10表 パワーコントロールセンタ 安全係数評価結果の一覧</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>F<sub>x</sub></th><th>F<sub>y</sub></th><th>F<sub>xA</sub></th><th>F<sub>xD</sub></th><th>F<sub>MD</sub></th><th>F<sub>MC</sub></th><th>F<sub>I</sub></th><th>F<sub>x</sub></th><th>F<sub>y</sub></th><th>A<sub>m</sub></th><th>HCLPF</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>β<sub>x</sub></td><td>β<sub>y</sub></td><td>β<sub>xA</sub></td><td>β<sub>xD</sub></td><td>β<sub>MD</sub></td><td>β<sub>MC</sub></td><td>β<sub>I</sub></td><td>β<sub>x</sub></td><td>β<sub>y</sub></td><td>β<sub>m</sub></td><td></td></tr> <tr> <td>β<sub>x</sub></td><td>β<sub>y</sub></td><td>β<sub>xA</sub></td><td>β<sub>xD</sub></td><td>β<sub>MD</sub></td><td>β<sub>MC</sub></td><td>β<sub>I</sub></td><td>β<sub>x</sub></td><td>β<sub>y</sub></td><td>β<sub>m</sub></td><td></td></tr> <tr> <td>3.00</td><td>1.00</td><td>1.00</td><td>1.22</td><td>1.00</td><td>1.00</td><td>1.01</td><td>0.99</td><td>1.00</td><td>2.03</td><td></td></tr> <tr> <td>0.11</td><td>0.00</td><td>0.00</td><td>0.00</td><td>0.00</td><td>0.00</td><td>0.00</td><td>0.08</td><td>0.01</td><td>0.17</td><td>0.22</td><td>0.91</td></tr> <tr> <td>0.17</td><td>0.00</td><td>0.00</td><td>0.10</td><td>0.00</td><td>0.00</td><td>0.00</td><td>0.00</td><td>0.15</td><td>0.10</td><td>0.27</td><td></td></tr> </tbody> </table> <p>第3.2.1.c-3-11表 一般代表弁の耐震評価結果</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価位置</th><th colspan="2">水平</th><th colspan="2">鉛直</th><th colspan="2">水平・鉛直 SRS</th></tr> <tr> <th>応答加速度(G)</th><th>機能維持確認加速度(G)</th><th>応答加速度(G)</th><th>機能維持確認加速度(G)</th><th>応答加速度(G)</th><th>機能維持確認加速度(G)</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>駆動部</td><td>19.62</td><td>58.8</td><td>4.91</td><td>58.8</td><td>20.225</td><td>83.16</td></tr> </tbody> </table> <p>第3.2.1.c-3-12表 一般代表弁 安全係数評価結果の一覧</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>F<sub>x</sub></th><th>F<sub>y</sub></th><th>F<sub>xA</sub></th><th>F<sub>xD</sub></th><th>F<sub>MD</sub></th><th>F<sub>MC</sub></th><th>F<sub>I</sub></th><th>F<sub>x</sub></th><th>F<sub>y</sub></th><th>A<sub>m</sub></th><th>HCLPF</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>β<sub>x</sub></td><td>β<sub>y</sub></td><td>β<sub>xA</sub></td><td>β<sub>xD</sub></td><td>β<sub>MD</sub></td><td>β<sub>MC</sub></td><td>β<sub>I</sub></td><td>β<sub>x</sub></td><td>β<sub>y</sub></td><td>β<sub>m</sub></td><td></td></tr> <tr> <td>β<sub>x</sub></td><td>β<sub>y</sub></td><td>β<sub>xA</sub></td><td>β<sub>xD</sub></td><td>β<sub>MD</sub></td><td>β<sub>MC</sub></td><td>β<sub>I</sub></td><td>β<sub>x</sub></td><td>β<sub>y</sub></td><td>β<sub>m</sub></td><td></td></tr> <tr> <td>5.71</td><td>1.00</td><td>1.00</td><td>1.00</td><td>1.00</td><td>1.00</td><td>1.01</td><td>0.99</td><td>0.99</td><td>1.00</td><td>1.16</td></tr> <tr> <td>0.10</td><td>0.00</td><td>0.00</td><td>0.00</td><td>0.00</td><td>0.00</td><td>0.00</td><td>0.08</td><td>0.01</td><td>0.17</td><td>0.27</td><td>1.35</td></tr> <tr> <td>0.10</td><td>0.00</td><td>0.00</td><td>0.00</td><td>0.15</td><td>0.00</td><td>0.00</td><td>0.00</td><td>0.15</td><td>0.10</td><td>0.26</td><td></td></tr> </tbody> </table>	評価位置	水平		鉛直		水平・鉛直 SRS		応答加速度(G)	機能維持確認加速度(G)	応答加速度(G)	機能維持確認加速度(G)	応答加速度(G)	機能維持確認加速度(G)	機関重心位置	6.3	10.7	3.90	9.80	7.409	14.51	F <sub>x</sub>	F <sub>y</sub>	F <sub>xA</sub>	F <sub>xD</sub>	F <sub>MD</sub>	F <sub>MC</sub>	F <sub>I</sub>	F <sub>x</sub>	F <sub>y</sub>	A <sub>m</sub>	HCLPF	β <sub>x</sub>	β <sub>y</sub>	β <sub>xA</sub>	β <sub>xD</sub>	β <sub>MD</sub>	β <sub>MC</sub>	β <sub>I</sub>	β <sub>x</sub>	β <sub>y</sub>	β <sub>m</sub>		β <sub>x</sub>	β <sub>y</sub>	β <sub>xA</sub>	β <sub>xD</sub>	β <sub>MD</sub>	β <sub>MC</sub>	β <sub>I</sub>	β <sub>x</sub>	β <sub>y</sub>	β <sub>m</sub>		2.72	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	0.92	0.99	1.03	1.00	1.04	0.10	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.07	0.01	0.00	0.13	0.97	0.10	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.15	0.00	0.19		評価位置	水平		鉛直		応答加速度(G)	機能維持確認加速度(G)	応答加速度(G)	機能維持確認加速度(G)	盤頂部	25.90	10.9	4.40	19.60	F <sub>x</sub>	F <sub>y</sub>	F <sub>xA</sub>	F <sub>xD</sub>	F <sub>MD</sub>	F <sub>MC</sub>	F <sub>I</sub>	F <sub>x</sub>	F <sub>y</sub>	A <sub>m</sub>	HCLPF	β <sub>x</sub>	β <sub>y</sub>	β <sub>xA</sub>	β <sub>xD</sub>	β <sub>MD</sub>	β <sub>MC</sub>	β <sub>I</sub>	β <sub>x</sub>	β <sub>y</sub>	β <sub>m</sub>		β <sub>x</sub>	β <sub>y</sub>	β <sub>xA</sub>	β <sub>xD</sub>	β <sub>MD</sub>	β <sub>MC</sub>	β <sub>I</sub>	β <sub>x</sub>	β <sub>y</sub>	β <sub>m</sub>		3.00	1.00	1.00	1.22	1.00	1.00	1.01	0.99	1.00	2.03		0.11	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.08	0.01	0.17	0.22	0.91	0.17	0.00	0.00	0.10	0.00	0.00	0.00	0.00	0.15	0.10	0.27		評価位置	水平		鉛直		水平・鉛直 SRS		応答加速度(G)	機能維持確認加速度(G)	応答加速度(G)	機能維持確認加速度(G)	応答加速度(G)	機能維持確認加速度(G)	駆動部	19.62	58.8	4.91	58.8	20.225	83.16	F <sub>x</sub>	F <sub>y</sub>	F <sub>xA</sub>	F <sub>xD</sub>	F <sub>MD</sub>	F <sub>MC</sub>	F <sub>I</sub>	F <sub>x</sub>	F <sub>y</sub>	A <sub>m</sub>	HCLPF	β <sub>x</sub>	β <sub>y</sub>	β <sub>xA</sub>	β <sub>xD</sub>	β <sub>MD</sub>	β <sub>MC</sub>	β <sub>I</sub>	β <sub>x</sub>	β <sub>y</sub>	β <sub>m</sub>		β <sub>x</sub>	β <sub>y</sub>	β <sub>xA</sub>	β <sub>xD</sub>	β <sub>MD</sub>	β <sub>MC</sub>	β <sub>I</sub>	β <sub>x</sub>	β <sub>y</sub>	β <sub>m</sub>		5.71	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.01	0.99	0.99	1.00	1.16	0.10	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.08	0.01	0.17	0.27	1.35	0.10	0.00	0.00	0.00	0.15	0.00	0.00	0.00	0.15	0.10	0.26	
F <sub>x</sub>	F <sub>y</sub>	F <sub>xA</sub>	F <sub>xD</sub>	F <sub>MD</sub>	F <sub>MC</sub>	F <sub>I</sub>	F <sub>x</sub>	F <sub>y</sub>	A <sub>m</sub>	HCLPF																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
β <sub>x</sub>	β <sub>y</sub>	β <sub>xA</sub>	β <sub>xD</sub>	β <sub>MD</sub>	β <sub>MC</sub>	β <sub>I</sub>	β <sub>x</sub>	β <sub>y</sub>	β <sub>m</sub>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
β <sub>x</sub>	β <sub>y</sub>	β <sub>xA</sub>	β <sub>xD</sub>	β <sub>MD</sub>	β <sub>MC</sub>	β <sub>I</sub>	β <sub>x</sub>	β <sub>y</sub>	β <sub>m</sub>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
2.28	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	0.86	1.00	2.00		1.12																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
0.03	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.20	0.20																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
0.03	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.15	0.15																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
評価位置	水平		鉛直																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
	応答加速度(G)	機能維持確認加速度(G)	応答加速度(G)	機能維持確認加速度(G)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
重心位置	1.42	2.31 <sup>※1</sup>	0.82	3.0 <sup>※1</sup>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
F <sub>x</sub>	F <sub>y</sub>	F <sub>xA</sub>	F <sub>xD</sub>	F <sub>MD</sub>	F <sub>MC</sub>	F <sub>I</sub>	F <sub>x</sub>	F <sub>y</sub>	A <sub>m</sub>	HCLPF																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
β <sub>x</sub>	β <sub>y</sub>	β <sub>xA</sub>	β <sub>xD</sub>	β <sub>MD</sub>	β <sub>MC</sub>	β <sub>I</sub>	β <sub>x</sub>	β <sub>y</sub>	β <sub>m</sub>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
β <sub>x</sub>	β <sub>y</sub>	β <sub>xA</sub>	β <sub>xD</sub>	β <sub>MD</sub>	β <sub>MC</sub>	β <sub>I</sub>	β <sub>x</sub>	β <sub>y</sub>	β <sub>m</sub>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
2.67	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	0.88	1.00	2.40		1.11																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
0.10	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.20	0.22																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
0.20	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.15	0.25																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
評価位置	水平		鉛直																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
	応答加速度(G)	機能維持確認加速度(G)	応答加速度(G)	機能維持確認加速度(G)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
駆動部	5.15	9.5	2.15	6.8																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
F <sub>x</sub>	F <sub>y</sub>	F <sub>xA</sub>	F <sub>xD</sub>	F <sub>MD</sub>	F <sub>MC</sub>	F <sub>I</sub>	F <sub>x</sub>	F <sub>y</sub>	A <sub>m</sub>	HCLPF																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
β <sub>x</sub>	β <sub>y</sub>	β <sub>xA</sub>	β <sub>xD</sub>	β <sub>MD</sub>	β <sub>MC</sub>	β <sub>I</sub>	β <sub>x</sub>	β <sub>y</sub>	β <sub>m</sub>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
β <sub>x</sub>	β <sub>y</sub>	β <sub>xA</sub>	β <sub>xD</sub>	β <sub>MD</sub>	β <sub>MC</sub>	β <sub>I</sub>	β <sub>x</sub>	β <sub>y</sub>	β <sub>m</sub>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
2.05	1.00	1.24	1.32	1.00	1.03	0.86	1.00	3.03		1.35																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
0.03	0.00	0.00	0.08	0.00	0.13	0.00	0.20	0.25																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
0.03	0.00	0.07	0.08	0.15	0.00	0.00	0.15	0.24																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
評価位置	水平		鉛直		水平・鉛直 SRS																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
	応答加速度(G)	機能維持確認加速度(G)	応答加速度(G)	機能維持確認加速度(G)	応答加速度(G)	機能維持確認加速度(G)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
機関重心位置	6.3	10.7	3.90	9.80	7.409	14.51																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
F <sub>x</sub>	F <sub>y</sub>	F <sub>xA</sub>	F <sub>xD</sub>	F <sub>MD</sub>	F <sub>MC</sub>	F <sub>I</sub>	F <sub>x</sub>	F <sub>y</sub>	A <sub>m</sub>	HCLPF																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
β <sub>x</sub>	β <sub>y</sub>	β <sub>xA</sub>	β <sub>xD</sub>	β <sub>MD</sub>	β <sub>MC</sub>	β <sub>I</sub>	β <sub>x</sub>	β <sub>y</sub>	β <sub>m</sub>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
β <sub>x</sub>	β <sub>y</sub>	β <sub>xA</sub>	β <sub>xD</sub>	β <sub>MD</sub>	β <sub>MC</sub>	β <sub>I</sub>	β <sub>x</sub>	β <sub>y</sub>	β <sub>m</sub>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
2.72	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	0.92	0.99	1.03	1.00	1.04																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
0.10	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.07	0.01	0.00	0.13	0.97																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
0.10	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.15	0.00	0.19																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
評価位置	水平		鉛直																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
	応答加速度(G)	機能維持確認加速度(G)	応答加速度(G)	機能維持確認加速度(G)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
盤頂部	25.90	10.9	4.40	19.60																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
F <sub>x</sub>	F <sub>y</sub>	F <sub>xA</sub>	F <sub>xD</sub>	F <sub>MD</sub>	F <sub>MC</sub>	F <sub>I</sub>	F <sub>x</sub>	F <sub>y</sub>	A <sub>m</sub>	HCLPF																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
β <sub>x</sub>	β <sub>y</sub>	β <sub>xA</sub>	β <sub>xD</sub>	β <sub>MD</sub>	β <sub>MC</sub>	β <sub>I</sub>	β <sub>x</sub>	β <sub>y</sub>	β <sub>m</sub>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
β <sub>x</sub>	β <sub>y</sub>	β <sub>xA</sub>	β <sub>xD</sub>	β <sub>MD</sub>	β <sub>MC</sub>	β <sub>I</sub>	β <sub>x</sub>	β <sub>y</sub>	β <sub>m</sub>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
3.00	1.00	1.00	1.22	1.00	1.00	1.01	0.99	1.00	2.03																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
0.11	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.08	0.01	0.17	0.22	0.91																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
0.17	0.00	0.00	0.10	0.00	0.00	0.00	0.00	0.15	0.10	0.27																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
評価位置	水平		鉛直		水平・鉛直 SRS																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
	応答加速度(G)	機能維持確認加速度(G)	応答加速度(G)	機能維持確認加速度(G)	応答加速度(G)	機能維持確認加速度(G)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
駆動部	19.62	58.8	4.91	58.8	20.225	83.16																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
F <sub>x</sub>	F <sub>y</sub>	F <sub>xA</sub>	F <sub>xD</sub>	F <sub>MD</sub>	F <sub>MC</sub>	F <sub>I</sub>	F <sub>x</sub>	F <sub>y</sub>	A <sub>m</sub>	HCLPF																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
β <sub>x</sub>	β <sub>y</sub>	β <sub>xA</sub>	β <sub>xD</sub>	β <sub>MD</sub>	β <sub>MC</sub>	β <sub>I</sub>	β <sub>x</sub>	β <sub>y</sub>	β <sub>m</sub>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
β <sub>x</sub>	β <sub>y</sub>	β <sub>xA</sub>	β <sub>xD</sub>	β <sub>MD</sub>	β <sub>MC</sub>	β <sub>I</sub>	β <sub>x</sub>	β <sub>y</sub>	β <sub>m</sub>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
5.71	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.01	0.99	0.99	1.00	1.16																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
0.10	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.08	0.01	0.17	0.27	1.35																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
0.10	0.00	0.00	0.00	0.15	0.00	0.00	0.00	0.15	0.10	0.26																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											

## 泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について  
 別添3. レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震PRA

大飯発電所3／4号炉		女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																																																																								
<table border="1"> <caption>第1.2.1.d-1表 起因事象の条件付発生確率</caption> <thead> <tr> <th rowspan="2">起因事象</th><th colspan="4">加速度<math>\text{m/s}^2</math>(G)</th></tr> <tr> <th>0.2～0.5</th><th>0.5～0.8</th><th>0.8～1.1</th><th>1.1～1.5</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>格納容器バイパス</td><td>5.02E-08</td><td>2.56E-05</td><td>6.55E-04</td><td>5.72E-03</td></tr> <tr> <td>大破断LOCAを上回る規模のLOCA(Excess LOCA)</td><td>—</td><td>8.48E-07</td><td>1.59E-04</td><td>6.18E-03</td></tr> <tr> <td>原子炉建屋損傷</td><td>—</td><td>7.07E-07</td><td>1.61E-04</td><td>5.60E-03</td></tr> <tr> <td>原子炉格納容器損傷</td><td>—</td><td>1.11E-09</td><td>2.67E-06</td><td>1.78E-04</td></tr> <tr> <td>制御建屋損傷</td><td>—</td><td>4.32E-06</td><td>3.57E-04</td><td>6.57E-03</td></tr> <tr> <td>電動弁損傷による原子炉補機冷却機能喪失</td><td>2.14E-08</td><td>4.55E-05</td><td>2.11E-03</td><td>2.38E-02</td></tr> <tr> <td>1次系流路閉塞による2次系除熱機能喪失</td><td>—</td><td>3.63E-06</td><td>2.30E-04</td><td>3.74E-03</td></tr> <tr> <td>複数の信号系損傷</td><td>—</td><td>1.05E-06</td><td>1.82E-04</td><td>5.36E-03</td></tr> <tr> <td>燃料集合体及び制御棒クラスタ損傷による原子炉停止機能喪失</td><td>—</td><td>1.33E-07</td><td>2.99E-05</td><td>1.51E-03</td></tr> <tr> <td>大破断LOCA</td><td>—</td><td>3.66E-06</td><td>3.46E-04</td><td>7.12E-03</td></tr> <tr> <td>中破断LOCA</td><td>—</td><td>2.99E-06</td><td>2.85E-04</td><td>5.78E-03</td></tr> <tr> <td>小破断LOCA</td><td>6.47E-07</td><td>5.71E-04</td><td>1.95E-02</td><td>1.62E-01</td></tr> <tr> <td>2次冷却系の破断</td><td>1.80E-08</td><td>2.12E-05</td><td>9.77E-04</td><td>1.55E-02</td></tr> <tr> <td>主給水流量喪失</td><td></td><td></td><td>1.0</td><td></td></tr> </tbody> </table>	起因事象	加速度 $\text{m/s}^2$ (G)				0.2～0.5	0.5～0.8	0.8～1.1	1.1～1.5	格納容器バイパス	5.02E-08	2.56E-05	6.55E-04	5.72E-03	大破断LOCAを上回る規模のLOCA(Excess LOCA)	—	8.48E-07	1.59E-04	6.18E-03	原子炉建屋損傷	—	7.07E-07	1.61E-04	5.60E-03	原子炉格納容器損傷	—	1.11E-09	2.67E-06	1.78E-04	制御建屋損傷	—	4.32E-06	3.57E-04	6.57E-03	電動弁損傷による原子炉補機冷却機能喪失	2.14E-08	4.55E-05	2.11E-03	2.38E-02	1次系流路閉塞による2次系除熱機能喪失	—	3.63E-06	2.30E-04	3.74E-03	複数の信号系損傷	—	1.05E-06	1.82E-04	5.36E-03	燃料集合体及び制御棒クラスタ損傷による原子炉停止機能喪失	—	1.33E-07	2.99E-05	1.51E-03	大破断LOCA	—	3.66E-06	3.46E-04	7.12E-03	中破断LOCA	—	2.99E-06	2.85E-04	5.78E-03	小破断LOCA	6.47E-07	5.71E-04	1.95E-02	1.62E-01	2次冷却系の破断	1.80E-08	2.12E-05	9.77E-04	1.55E-02	主給水流量喪失			1.0		<table border="1"> <caption>第3.2.1.d-1表 起因事象発生頻度</caption> <thead> <tr> <th>起因事象</th><th>発生頻度 [／年]</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>外部電源喪失</td><td><math>3.0 \times 10^{-2}</math></td></tr> <tr> <td>原子炉建屋損傷</td><td><math>4.8 \times 10^{-6}</math></td></tr> <tr> <td>格納容器損傷</td><td><math>5.2 \times 10^{-7}</math></td></tr> <tr> <td>圧力容器損傷</td><td><math>4.1 \times 10^{-7}</math></td></tr> <tr> <td>E-LOCA</td><td><math>6.0 \times 10^{-7}</math></td></tr> <tr> <td>格納容器バイパス</td><td><math>1.0 \times 10^{-7}</math></td></tr> <tr> <td>制御建屋損傷</td><td><math>1.9 \times 10^{-7}</math></td></tr> <tr> <td>計測・制御系喪失</td><td><math>3.7 \times 10^{-7}</math></td></tr> <tr> <td>直流電源喪失</td><td><math>1.1 \times 10^{-6}</math></td></tr> <tr> <td>交流電源・原子炉補機冷却系喪失</td><td><math>1.5 \times 10^{-5}</math></td></tr> </tbody> </table>	起因事象	発生頻度 [／年]	外部電源喪失	$3.0 \times 10^{-2}$	原子炉建屋損傷	$4.8 \times 10^{-6}$	格納容器損傷	$5.2 \times 10^{-7}$	圧力容器損傷	$4.1 \times 10^{-7}$	E-LOCA	$6.0 \times 10^{-7}$	格納容器バイパス	$1.0 \times 10^{-7}$	制御建屋損傷	$1.9 \times 10^{-7}$	計測・制御系喪失	$3.7 \times 10^{-7}$	直流電源喪失	$1.1 \times 10^{-6}$	交流電源・原子炉補機冷却系喪失	$1.5 \times 10^{-5}$	<table border="1"> <caption>第3.2.1.d-1表 起因事象発生頻度</caption> <thead> <tr> <th>起因事象</th><th>発生頻度 [／年]</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>格納容器バイパス</td><td><b>1.5E-07</b></td></tr> <tr> <td>大破断LOCAを上回る規模のLOCA(Excess LOCA)</td><td><b>5.2E-07</b></td></tr> <tr> <td>原子炉建屋損傷</td><td><b>1.6E-08</b></td></tr> <tr> <td>原子炉格納容器損傷</td><td><b>2.4E-08</b></td></tr> <tr> <td>原子炉補助建屋損傷</td><td><b>ε</b></td></tr> <tr> <td>電動弁損傷による原子炉補機冷却機能喪失</td><td><b>1.6E-08</b></td></tr> <tr> <td>1次系流路閉塞による2次系除熱機能喪失</td><td><b>6.1E-08</b></td></tr> <tr> <td>複数の信号系損傷</td><td><b>1.8E-07</b></td></tr> <tr> <td>燃料集合体及び制御棒クラスタ損傷による原子炉停止機能喪失</td><td><b>1.7E-07</b></td></tr> <tr> <td>大破断LOCA</td><td><b>3.8E-07</b></td></tr> <tr> <td>中破断LOCA</td><td><b>1.1E-06</b></td></tr> <tr> <td>小破断LOCA</td><td><b>5.1E-07</b></td></tr> <tr> <td>2次冷却系の破断</td><td><b>1.5E-08</b></td></tr> <tr> <td>原子炉補機冷却機能喪失</td><td><b>8.0E-08</b></td></tr> <tr> <td>外部電源喪失</td><td><b>5.0E-04</b></td></tr> <tr> <td>主給水流量喪失</td><td><b>6.1E-04</b></td></tr> <tr> <td>ATWS</td><td><b>1.4E-10</b></td></tr> </tbody> </table>	起因事象	発生頻度 [／年]	格納容器バイパス	<b>1.5E-07</b>	大破断LOCAを上回る規模のLOCA(Excess LOCA)	<b>5.2E-07</b>	原子炉建屋損傷	<b>1.6E-08</b>	原子炉格納容器損傷	<b>2.4E-08</b>	原子炉補助建屋損傷	<b>ε</b>	電動弁損傷による原子炉補機冷却機能喪失	<b>1.6E-08</b>	1次系流路閉塞による2次系除熱機能喪失	<b>6.1E-08</b>	複数の信号系損傷	<b>1.8E-07</b>	燃料集合体及び制御棒クラスタ損傷による原子炉停止機能喪失	<b>1.7E-07</b>	大破断LOCA	<b>3.8E-07</b>	中破断LOCA	<b>1.1E-06</b>	小破断LOCA	<b>5.1E-07</b>	2次冷却系の破断	<b>1.5E-08</b>	原子炉補機冷却機能喪失	<b>8.0E-08</b>	外部電源喪失	<b>5.0E-04</b>	主給水流量喪失	<b>6.1E-04</b>	ATWS	<b>1.4E-10</b>	<p>【女川】【大飯】      ■個別評価による相違</p>
起因事象		加速度 $\text{m/s}^2$ (G)																																																																																																																																										
	0.2～0.5	0.5～0.8	0.8～1.1	1.1～1.5																																																																																																																																								
格納容器バイパス	5.02E-08	2.56E-05	6.55E-04	5.72E-03																																																																																																																																								
大破断LOCAを上回る規模のLOCA(Excess LOCA)	—	8.48E-07	1.59E-04	6.18E-03																																																																																																																																								
原子炉建屋損傷	—	7.07E-07	1.61E-04	5.60E-03																																																																																																																																								
原子炉格納容器損傷	—	1.11E-09	2.67E-06	1.78E-04																																																																																																																																								
制御建屋損傷	—	4.32E-06	3.57E-04	6.57E-03																																																																																																																																								
電動弁損傷による原子炉補機冷却機能喪失	2.14E-08	4.55E-05	2.11E-03	2.38E-02																																																																																																																																								
1次系流路閉塞による2次系除熱機能喪失	—	3.63E-06	2.30E-04	3.74E-03																																																																																																																																								
複数の信号系損傷	—	1.05E-06	1.82E-04	5.36E-03																																																																																																																																								
燃料集合体及び制御棒クラスタ損傷による原子炉停止機能喪失	—	1.33E-07	2.99E-05	1.51E-03																																																																																																																																								
大破断LOCA	—	3.66E-06	3.46E-04	7.12E-03																																																																																																																																								
中破断LOCA	—	2.99E-06	2.85E-04	5.78E-03																																																																																																																																								
小破断LOCA	6.47E-07	5.71E-04	1.95E-02	1.62E-01																																																																																																																																								
2次冷却系の破断	1.80E-08	2.12E-05	9.77E-04	1.55E-02																																																																																																																																								
主給水流量喪失			1.0																																																																																																																																									
起因事象	発生頻度 [／年]																																																																																																																																											
外部電源喪失	$3.0 \times 10^{-2}$																																																																																																																																											
原子炉建屋損傷	$4.8 \times 10^{-6}$																																																																																																																																											
格納容器損傷	$5.2 \times 10^{-7}$																																																																																																																																											
圧力容器損傷	$4.1 \times 10^{-7}$																																																																																																																																											
E-LOCA	$6.0 \times 10^{-7}$																																																																																																																																											
格納容器バイパス	$1.0 \times 10^{-7}$																																																																																																																																											
制御建屋損傷	$1.9 \times 10^{-7}$																																																																																																																																											
計測・制御系喪失	$3.7 \times 10^{-7}$																																																																																																																																											
直流電源喪失	$1.1 \times 10^{-6}$																																																																																																																																											
交流電源・原子炉補機冷却系喪失	$1.5 \times 10^{-5}$																																																																																																																																											
起因事象	発生頻度 [／年]																																																																																																																																											
格納容器バイパス	<b>1.5E-07</b>																																																																																																																																											
大破断LOCAを上回る規模のLOCA(Excess LOCA)	<b>5.2E-07</b>																																																																																																																																											
原子炉建屋損傷	<b>1.6E-08</b>																																																																																																																																											
原子炉格納容器損傷	<b>2.4E-08</b>																																																																																																																																											
原子炉補助建屋損傷	<b>ε</b>																																																																																																																																											
電動弁損傷による原子炉補機冷却機能喪失	<b>1.6E-08</b>																																																																																																																																											
1次系流路閉塞による2次系除熱機能喪失	<b>6.1E-08</b>																																																																																																																																											
複数の信号系損傷	<b>1.8E-07</b>																																																																																																																																											
燃料集合体及び制御棒クラスタ損傷による原子炉停止機能喪失	<b>1.7E-07</b>																																																																																																																																											
大破断LOCA	<b>3.8E-07</b>																																																																																																																																											
中破断LOCA	<b>1.1E-06</b>																																																																																																																																											
小破断LOCA	<b>5.1E-07</b>																																																																																																																																											
2次冷却系の破断	<b>1.5E-08</b>																																																																																																																																											
原子炉補機冷却機能喪失	<b>8.0E-08</b>																																																																																																																																											
外部電源喪失	<b>5.0E-04</b>																																																																																																																																											
主給水流量喪失	<b>6.1E-04</b>																																																																																																																																											
ATWS	<b>1.4E-10</b>																																																																																																																																											

## 泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について

別添 3. レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震PRA

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																																						
	<table border="1"> <caption>第3.2.1.d-2表 事故シーケンスグループ</caption> <thead> <tr> <th>事故シーケンスの特徴</th><th>シーケンスグループ</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>大破断・中破断・小破断LOCAを包括するECCS容量を超えるLOCA</td><td>E-LOCA</td></tr> <tr> <td>高圧・低圧注水機能喪失</td><td>TQUV</td></tr> <tr> <td>高圧注水・低圧機能喪失</td><td>TQUX</td></tr> <tr> <td>全交流動力電源喪失</td><td></td></tr> <tr> <td>非常用D/G2台・HPCS機能喪失及びバッテリー枯済に伴うRCIC機能喪失</td><td>長期TB</td></tr> <tr> <td>バッテリーの故障により非常用D/G2台の起動に失敗し、HPCSも機能喪失</td><td>TBD</td></tr> <tr> <td>非常用D/G2台が機能喪失し、さらにHPCS及びRCICも機能喪失</td><td>TBU</td></tr> <tr> <td>非常用D/G2台が機能喪失し、さらにHPCS及びS/Rが再閉鎖によるRCIC機能喪失</td><td>TBP</td></tr> <tr> <td>崩壊熱除去機能喪失</td><td>TR</td></tr> <tr> <td>原子炉停止機能喪失</td><td>TC</td></tr> <tr> <td>格納容器バイパス</td><td>格納容器バイパス</td></tr> <tr> <td>計測・制御系機能喪失</td><td>計測・制御系喪失</td></tr> <tr> <td>制御盤屋損傷</td><td>制御盤屋損傷</td></tr> <tr> <td>原子炉圧力容器損傷</td><td>圧力容器損傷</td></tr> <tr> <td>原子炉格納容器損傷</td><td>格納容器損傷</td></tr> <tr> <td>原子炉建屋損傷</td><td>原子炉建屋損傷</td></tr> </tbody> </table>	事故シーケンスの特徴	シーケンスグループ	大破断・中破断・小破断LOCAを包括するECCS容量を超えるLOCA	E-LOCA	高圧・低圧注水機能喪失	TQUV	高圧注水・低圧機能喪失	TQUX	全交流動力電源喪失		非常用D/G2台・HPCS機能喪失及びバッテリー枯済に伴うRCIC機能喪失	長期TB	バッテリーの故障により非常用D/G2台の起動に失敗し、HPCSも機能喪失	TBD	非常用D/G2台が機能喪失し、さらにHPCS及びRCICも機能喪失	TBU	非常用D/G2台が機能喪失し、さらにHPCS及びS/Rが再閉鎖によるRCIC機能喪失	TBP	崩壊熱除去機能喪失	TR	原子炉停止機能喪失	TC	格納容器バイパス	格納容器バイパス	計測・制御系機能喪失	計測・制御系喪失	制御盤屋損傷	制御盤屋損傷	原子炉圧力容器損傷	圧力容器損傷	原子炉格納容器損傷	格納容器損傷	原子炉建屋損傷	原子炉建屋損傷	<table border="1"> <caption>第3.2.1.d-2表 事故シーケンスグループ</caption> <thead> <tr> <th>事故シーケンス</th><th>事故シーケンスグループ</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小破断LOCA+補助給水失敗</td><td></td></tr> <tr> <td>主給水流量喪失+補助給水失敗</td><td></td></tr> <tr> <td>外部電源喪失+補助給水失敗</td><td></td></tr> <tr> <td>2次冷却系の破断+補助給水失敗</td><td></td></tr> <tr> <td>2次冷却系の破断+主蒸気隔離失敗</td><td></td></tr> <tr> <td>1次系流路閉塞による2次系除熱機能喪失</td><td></td></tr> <tr> <td>外漏電源喪失+非常用ポンプ内交流電源喪失</td><td></td></tr> <tr> <td>原子炉補機冷却機能喪失+RCPシールLOCA</td><td></td></tr> <tr> <td>原子炉補機冷却機能喪失+加圧器逃がし弁/安全弁LOCA</td><td></td></tr> <tr> <td>原子炉補機冷却機能喪失+補助給水失敗</td><td></td></tr> <tr> <td>電動弁損傷による原子炉補機冷却機能喪失</td><td></td></tr> <tr> <td>大破断LOCA+低圧再循環失敗+格納容器スプレイ注入失敗</td><td></td></tr> <tr> <td>大破断LOCA+低圧再循環失敗+格納容器スプレイ再循環失敗</td><td></td></tr> <tr> <td>中破断LOCA+格納容器スプレイ注入失敗</td><td></td></tr> <tr> <td>中破断LOCA+格納容器スプレイ再循環失敗</td><td></td></tr> <tr> <td>小破断LOCA+格納容器スプレイ注入失敗</td><td></td></tr> <tr> <td>小破断LOCA+格納容器スプレイ再循環失敗</td><td></td></tr> <tr> <td>原子炉トリップが必要な起因事象+原子炉トリップ失敗</td><td></td></tr> <tr> <td>燃料集合体及び制御棒クラスタ損傷による原子炉停止機能喪失</td><td></td></tr> <tr> <td>大破断LOCA+低圧注入失敗</td><td></td></tr> <tr> <td>大破断LOCA+蓄圧注入失敗</td><td></td></tr> <tr> <td>中破断LOCA+蓄圧注入失敗</td><td></td></tr> <tr> <td>中破断LOCA+高圧注入失敗</td><td></td></tr> <tr> <td>小破断LOCA+高圧注入失敗</td><td></td></tr> <tr> <td>大破断LOCAを上回る規模のLOCA(Excess LOCA)</td><td></td></tr> <tr> <td>大破断LOCA+低圧再循環失敗+高圧再循環失敗</td><td></td></tr> <tr> <td>中破断LOCA+高圧再循環失敗</td><td></td></tr> <tr> <td>小破断LOCA+高圧再循環失敗</td><td></td></tr> <tr> <td>蒸気発生器伝熱管破損(複数本破損)</td><td></td></tr> <tr> <td>原子炉建屋損傷</td><td>原子炉建屋損傷</td></tr> <tr> <td>原子炉格納容器損傷</td><td>原子炉格納容器損傷</td></tr> <tr> <td>原子炉補助建屋損傷</td><td>原子炉補助建屋損傷</td></tr> <tr> <td>複数の信号系損傷</td><td>複数の信号系損傷</td></tr> </tbody> </table>	事故シーケンス	事故シーケンスグループ	小破断LOCA+補助給水失敗		主給水流量喪失+補助給水失敗		外部電源喪失+補助給水失敗		2次冷却系の破断+補助給水失敗		2次冷却系の破断+主蒸気隔離失敗		1次系流路閉塞による2次系除熱機能喪失		外漏電源喪失+非常用ポンプ内交流電源喪失		原子炉補機冷却機能喪失+RCPシールLOCA		原子炉補機冷却機能喪失+加圧器逃がし弁/安全弁LOCA		原子炉補機冷却機能喪失+補助給水失敗		電動弁損傷による原子炉補機冷却機能喪失		大破断LOCA+低圧再循環失敗+格納容器スプレイ注入失敗		大破断LOCA+低圧再循環失敗+格納容器スプレイ再循環失敗		中破断LOCA+格納容器スプレイ注入失敗		中破断LOCA+格納容器スプレイ再循環失敗		小破断LOCA+格納容器スプレイ注入失敗		小破断LOCA+格納容器スプレイ再循環失敗		原子炉トリップが必要な起因事象+原子炉トリップ失敗		燃料集合体及び制御棒クラスタ損傷による原子炉停止機能喪失		大破断LOCA+低圧注入失敗		大破断LOCA+蓄圧注入失敗		中破断LOCA+蓄圧注入失敗		中破断LOCA+高圧注入失敗		小破断LOCA+高圧注入失敗		大破断LOCAを上回る規模のLOCA(Excess LOCA)		大破断LOCA+低圧再循環失敗+高圧再循環失敗		中破断LOCA+高圧再循環失敗		小破断LOCA+高圧再循環失敗		蒸気発生器伝熱管破損(複数本破損)		原子炉建屋損傷	原子炉建屋損傷	原子炉格納容器損傷	原子炉格納容器損傷	原子炉補助建屋損傷	原子炉補助建屋損傷	複数の信号系損傷	複数の信号系損傷	<p>【大飯】 ■記載方針の相違 ・女川の実績反映</p> <p>【女川】 ■個別評価による相違</p>
事故シーケンスの特徴	シーケンスグループ																																																																																																								
大破断・中破断・小破断LOCAを包括するECCS容量を超えるLOCA	E-LOCA																																																																																																								
高圧・低圧注水機能喪失	TQUV																																																																																																								
高圧注水・低圧機能喪失	TQUX																																																																																																								
全交流動力電源喪失																																																																																																									
非常用D/G2台・HPCS機能喪失及びバッテリー枯済に伴うRCIC機能喪失	長期TB																																																																																																								
バッテリーの故障により非常用D/G2台の起動に失敗し、HPCSも機能喪失	TBD																																																																																																								
非常用D/G2台が機能喪失し、さらにHPCS及びRCICも機能喪失	TBU																																																																																																								
非常用D/G2台が機能喪失し、さらにHPCS及びS/Rが再閉鎖によるRCIC機能喪失	TBP																																																																																																								
崩壊熱除去機能喪失	TR																																																																																																								
原子炉停止機能喪失	TC																																																																																																								
格納容器バイパス	格納容器バイパス																																																																																																								
計測・制御系機能喪失	計測・制御系喪失																																																																																																								
制御盤屋損傷	制御盤屋損傷																																																																																																								
原子炉圧力容器損傷	圧力容器損傷																																																																																																								
原子炉格納容器損傷	格納容器損傷																																																																																																								
原子炉建屋損傷	原子炉建屋損傷																																																																																																								
事故シーケンス	事故シーケンスグループ																																																																																																								
小破断LOCA+補助給水失敗																																																																																																									
主給水流量喪失+補助給水失敗																																																																																																									
外部電源喪失+補助給水失敗																																																																																																									
2次冷却系の破断+補助給水失敗																																																																																																									
2次冷却系の破断+主蒸気隔離失敗																																																																																																									
1次系流路閉塞による2次系除熱機能喪失																																																																																																									
外漏電源喪失+非常用ポンプ内交流電源喪失																																																																																																									
原子炉補機冷却機能喪失+RCPシールLOCA																																																																																																									
原子炉補機冷却機能喪失+加圧器逃がし弁/安全弁LOCA																																																																																																									
原子炉補機冷却機能喪失+補助給水失敗																																																																																																									
電動弁損傷による原子炉補機冷却機能喪失																																																																																																									
大破断LOCA+低圧再循環失敗+格納容器スプレイ注入失敗																																																																																																									
大破断LOCA+低圧再循環失敗+格納容器スプレイ再循環失敗																																																																																																									
中破断LOCA+格納容器スプレイ注入失敗																																																																																																									
中破断LOCA+格納容器スプレイ再循環失敗																																																																																																									
小破断LOCA+格納容器スプレイ注入失敗																																																																																																									
小破断LOCA+格納容器スプレイ再循環失敗																																																																																																									
原子炉トリップが必要な起因事象+原子炉トリップ失敗																																																																																																									
燃料集合体及び制御棒クラスタ損傷による原子炉停止機能喪失																																																																																																									
大破断LOCA+低圧注入失敗																																																																																																									
大破断LOCA+蓄圧注入失敗																																																																																																									
中破断LOCA+蓄圧注入失敗																																																																																																									
中破断LOCA+高圧注入失敗																																																																																																									
小破断LOCA+高圧注入失敗																																																																																																									
大破断LOCAを上回る規模のLOCA(Excess LOCA)																																																																																																									
大破断LOCA+低圧再循環失敗+高圧再循環失敗																																																																																																									
中破断LOCA+高圧再循環失敗																																																																																																									
小破断LOCA+高圧再循環失敗																																																																																																									
蒸気発生器伝熱管破損(複数本破損)																																																																																																									
原子炉建屋損傷	原子炉建屋損傷																																																																																																								
原子炉格納容器損傷	原子炉格納容器損傷																																																																																																								
原子炉補助建屋損傷	原子炉補助建屋損傷																																																																																																								
複数の信号系損傷	複数の信号系損傷																																																																																																								

## 泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について

別添 3. レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震 PRA

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																					
	<table border="1"> <caption>第3.2.1.4-3表 評価対象システム一覧</caption> <thead> <tr> <th>分類</th><th>評価対象</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td rowspan="12">起因事象</td><td>外部電源</td></tr> <tr><td>原子炉建屋</td></tr> <tr><td>原子炉格納容器</td></tr> <tr><td>原子炉圧力容器</td></tr> <tr><td>原子炉冷却材圧力バウンダリ</td></tr> <tr><td>隔壁</td></tr> <tr><td>制御建屋</td></tr> <tr><td>計測・制御系</td></tr> <tr><td>直流電源</td></tr> <tr><td>交流電源(D/G, 原子炉補機冷却系)</td></tr> <tr><td>スクラム</td></tr> <tr><td>S/R弁開、S/R弁再閉鎖</td></tr> <tr><td>RCIC</td></tr> <tr><td>HPCS</td></tr> <tr><td>減圧</td></tr> <tr><td>LPCI</td></tr> <tr><td>LPCS</td></tr> <tr><td>RHR</td></tr> </tbody> </table>	分類	評価対象	起因事象	外部電源	原子炉建屋	原子炉格納容器	原子炉圧力容器	原子炉冷却材圧力バウンダリ	隔壁	制御建屋	計測・制御系	直流電源	交流電源(D/G, 原子炉補機冷却系)	スクラム	S/R弁開、S/R弁再閉鎖	RCIC	HPCS	減圧	LPCI	LPCS	RHR	<table border="1"> <caption>第3.2.1.4-3表 評価対象システム一覧</caption> <thead> <tr> <th>分類</th><th>評価対象</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td rowspan="20">起因事象</td><td>格納容器バイパス</td></tr> <tr><td>大破断LOCAを上回る規模のLOCA(Excess LOCA)</td></tr> <tr><td>原子炉建屋損傷</td></tr> <tr><td>原子炉格納容器損傷</td></tr> <tr><td>原子炉補助建屋損傷</td></tr> <tr><td>電動弁損傷による原子炉補機冷却機能喪失</td></tr> <tr><td>1次系流路閉塞による2次系除熱機能喪失</td></tr> <tr><td>複数の信号系損傷</td></tr> <tr><td>燃料集合体及び制御棒クラスタ損傷による原子炉停止機能喪失</td></tr> <tr><td>大破断LOCA</td></tr> <tr><td>中破断LOCA</td></tr> <tr><td>小破断LOCA</td></tr> <tr><td>2次冷却系の破断</td></tr> <tr><td>原子炉補機冷却機能喪失</td></tr> <tr><td>外部電源喪失</td></tr> <tr><td>主給水流量喪失</td></tr> <tr><td>非常用所内交流電源</td></tr> <tr><td>原子炉トリップ</td></tr> <tr><td>高圧注入</td></tr> <tr><td>高圧再循環</td></tr> <tr><td>蓄圧注入</td></tr> <tr><td>低圧注入</td></tr> <tr><td>低圧再循環</td></tr> <tr><td>格納容器スプレイ注入</td></tr> <tr><td>格納容器スプレイ再循環</td></tr> <tr><td>補助給水</td></tr> <tr><td>主蒸気隔離</td></tr> <tr><td>1次冷却材ポンプ封水LOCA</td></tr> <tr><td>加圧器逃がし弁／安全弁LOCA</td></tr> </tbody> </table>	分類	評価対象	起因事象	格納容器バイパス	大破断LOCAを上回る規模のLOCA(Excess LOCA)	原子炉建屋損傷	原子炉格納容器損傷	原子炉補助建屋損傷	電動弁損傷による原子炉補機冷却機能喪失	1次系流路閉塞による2次系除熱機能喪失	複数の信号系損傷	燃料集合体及び制御棒クラスタ損傷による原子炉停止機能喪失	大破断LOCA	中破断LOCA	小破断LOCA	2次冷却系の破断	原子炉補機冷却機能喪失	外部電源喪失	主給水流量喪失	非常用所内交流電源	原子炉トリップ	高圧注入	高圧再循環	蓄圧注入	低圧注入	低圧再循環	格納容器スプレイ注入	格納容器スプレイ再循環	補助給水	主蒸気隔離	1次冷却材ポンプ封水LOCA	加圧器逃がし弁／安全弁LOCA	<p>【大飯】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■記載方針の相違</li> <li>・女川の実績反映</li> </ul> <p>【女川】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■個別評価による相違</li> </ul>
分類	評価対象																																																							
起因事象	外部電源																																																							
	原子炉建屋																																																							
	原子炉格納容器																																																							
	原子炉圧力容器																																																							
	原子炉冷却材圧力バウンダリ																																																							
	隔壁																																																							
	制御建屋																																																							
	計測・制御系																																																							
	直流電源																																																							
	交流電源(D/G, 原子炉補機冷却系)																																																							
	スクラム																																																							
	S/R弁開、S/R弁再閉鎖																																																							
RCIC																																																								
HPCS																																																								
減圧																																																								
LPCI																																																								
LPCS																																																								
RHR																																																								
分類	評価対象																																																							
起因事象	格納容器バイパス																																																							
	大破断LOCAを上回る規模のLOCA(Excess LOCA)																																																							
	原子炉建屋損傷																																																							
	原子炉格納容器損傷																																																							
	原子炉補助建屋損傷																																																							
	電動弁損傷による原子炉補機冷却機能喪失																																																							
	1次系流路閉塞による2次系除熱機能喪失																																																							
	複数の信号系損傷																																																							
	燃料集合体及び制御棒クラスタ損傷による原子炉停止機能喪失																																																							
	大破断LOCA																																																							
	中破断LOCA																																																							
	小破断LOCA																																																							
	2次冷却系の破断																																																							
	原子炉補機冷却機能喪失																																																							
	外部電源喪失																																																							
	主給水流量喪失																																																							
	非常用所内交流電源																																																							
	原子炉トリップ																																																							
	高圧注入																																																							
	高圧再循環																																																							
蓄圧注入																																																								
低圧注入																																																								
低圧再循環																																																								
格納容器スプレイ注入																																																								
格納容器スプレイ再循環																																																								
補助給水																																																								
主蒸気隔離																																																								
1次冷却材ポンプ封水LOCA																																																								
加圧器逃がし弁／安全弁LOCA																																																								

## 泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について

別添 3. レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震 PRA

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																																																																																															
	<table border="1"> <caption>第3.2.1.d-4表 起因事象発生前の人的過誤確率</caption> <thead> <tr> <th>起因事象発生前の人的過誤</th><th>ストレス ファクタ</th><th>過誤確率 (平均値)</th><th>EF</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>手動弁の開け忘れ・閉め忘れ</td><td>[REDACTED]</td><td>4.0E-04</td><td>5</td></tr> <tr> <td>SDV警報の検出失敗</td><td>[REDACTED]</td><td>2.9E-04</td><td>11</td></tr> </tbody> </table> <table border="1"> <caption>第3.2.1.d-5表 起因事象発生後の人的過誤確率</caption> <thead> <tr> <th>起因事象発生後の人的過誤</th><th>ストレス ファクタ</th><th>余裕時間</th><th>過誤確率 (平均値)</th><th>EF</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>高压ECCS作動後の水位制御操作</td><td>[REDACTED]</td><td>30分</td><td>1.5E-02</td><td>9</td></tr> <tr> <td>RCIC水源切替操作</td><td>[REDACTED]</td><td>30分</td><td>1.7E-02</td><td>8</td></tr> <tr> <td>高压ECCS自動起動失敗後の手動バックアップ操作</td><td>[REDACTED]</td><td>30分</td><td>1.5E-02</td><td>9</td></tr> <tr> <td>ADS・低圧ECCS自動起動失敗後の手動バックアップ操作</td><td>[REDACTED]</td><td>30分</td><td>1.3E-01</td><td>10</td></tr> <tr> <td>原子炉注水後のRHRによる格納容器除熱操作</td><td>[REDACTED]</td><td>8時間</td><td>4.4E-04</td><td>5</td></tr> <tr> <td>D/G・D/Gファンの自動起動失敗後の手動バックアップ操作</td><td>[REDACTED]</td><td>30分</td><td>1.5E-02</td><td>9</td></tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">[REDACTED] 内容は商密機密の観点から公開できません。</p>	起因事象発生前の人的過誤	ストレス ファクタ	過誤確率 (平均値)	EF	手動弁の開け忘れ・閉め忘れ	[REDACTED]	4.0E-04	5	SDV警報の検出失敗	[REDACTED]	2.9E-04	11	起因事象発生後の人的過誤	ストレス ファクタ	余裕時間	過誤確率 (平均値)	EF	高压ECCS作動後の水位制御操作	[REDACTED]	30分	1.5E-02	9	RCIC水源切替操作	[REDACTED]	30分	1.7E-02	8	高压ECCS自動起動失敗後の手動バックアップ操作	[REDACTED]	30分	1.5E-02	9	ADS・低圧ECCS自動起動失敗後の手動バックアップ操作	[REDACTED]	30分	1.3E-01	10	原子炉注水後のRHRによる格納容器除熱操作	[REDACTED]	8時間	4.4E-04	5	D/G・D/Gファンの自動起動失敗後の手動バックアップ操作	[REDACTED]	30分	1.5E-02	9	<table border="1"> <caption>第3.2.1.d-4表 起因事象発生前の人的過誤確率</caption> <thead> <tr> <th>起因事象発生前の人的過誤</th><th>ストレス ファクタ</th><th>過誤確率</th><th>EF</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3 A - 原子炉補機冷却海水ポンプ出口弁 (3V-SW-503B) 戻し忘れ</td><td>1</td><td>1.6E-03</td><td>4</td></tr> <tr> <td>3 B - 原子炉補機冷却海水ポンプ出口弁 (3V-SW-503B) 戻し忘れ</td><td>1</td><td>1.6E-03</td><td>4</td></tr> </tbody> </table> <table border="1"> <caption>第3.2.1.d-5表 起因事象発生後の人的過誤確率</caption> <thead> <tr> <th>起因事象発生後の人的過誤</th><th>ストレス ファクタ</th><th>余裕時間</th><th>過誤確率</th><th>EF</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>低温再循環自動切替信号許可 (A) 操作器操作失敗</td><td>2</td><td>—</td><td>8.6E-04</td><td>8</td></tr> <tr> <td>低温再循環自動切替信号許可 (B) 操作器操作失敗</td><td>2</td><td>—</td><td>8.6E-04</td><td>8</td></tr> <tr> <td>3 B - 补助給水隔壁弁 (3V-FW-580B) 閉ロック操作失敗</td><td>2</td><td>—</td><td>8.6E-04</td><td>8</td></tr> <tr> <td>3 B - 電動補助給水ポンプ出口流量調節弁 (3V-FW-582B) の操作器「全開」操作失敗</td><td>2</td><td>—</td><td>8.6E-04</td><td>8</td></tr> <tr> <td>3 B - 余熱除去冷却器補機冷却水出口弁 (3V-CC-117B) 開操作失敗</td><td>2</td><td>—</td><td>8.6E-04</td><td>8</td></tr> <tr> <td>3 B - 格納容器スフレイ冷却器補機冷却水出口弁 (3V-CC-117B) 閉操作失敗</td><td>2</td><td>—</td><td>8.6E-04</td><td>8</td></tr> <tr> <td>Bヘッダ 3 B - 余熱除去冷却器補機冷却水出口弁 (3V-CC-117B) 又は 3 B - 格納予期スフレイ冷却器補機冷却水 出口弁 (3V-CC-117A) 負荷制御操作失敗</td><td>2</td><td>—</td><td>8.6E-04</td><td>8</td></tr> <tr> <td>3 A - 余熱除去冷却器補機冷却水出口弁 (3V-CC-117A) 開操作失敗</td><td>2</td><td>—</td><td>8.6E-04</td><td>8</td></tr> <tr> <td>3 A - 格納容器スフレイ冷却器補機冷却水出口弁 (3V-CC-117A) 閉操作失敗</td><td>2</td><td>—</td><td>8.6E-04</td><td>8</td></tr> <tr> <td>3 B - 安全補機閉閉器室給気ファン (3VSF27B) 起動操作失敗</td><td>2</td><td>—</td><td>8.6E-04</td><td>8</td></tr> <tr> <td>3 C - 空調用冷水ポンプ (3CHP1C) 起動操作失敗</td><td>2</td><td>—</td><td>8.6E-04</td><td>8</td></tr> <tr> <td>3 D - 空調用冷水ポンプ (3CHP1D) 起動操作失敗</td><td>2</td><td>—</td><td>8.6E-04</td><td>8</td></tr> <tr> <td>3 - 空調用冷水B母管入口隔壁弁 (3V-OI-012B) 閉操作失敗</td><td>2</td><td>—</td><td>8.6E-04</td><td>8</td></tr> <tr> <td>3 C - 空調用冷水ポンプ (3CHP1C) 起動操作失敗</td><td>2</td><td>—</td><td>8.6E-04</td><td>8</td></tr> <tr> <td>3 D - 空調用冷水ポンプ (3CHP1D) 起動操作失敗</td><td>2</td><td>—</td><td>8.6E-04</td><td>8</td></tr> <tr> <td>3 A - 安全補機閉閉器室給気ファントリップ警報 読取失敗</td><td>2</td><td>—</td><td>8.3E-04</td><td>4</td></tr> <tr> <td>1 次冷却材の喪失診断失敗</td><td>下限値</td><td>30分</td><td>2.7E-04</td><td>10</td></tr> <tr> <td>2 次系破断の発生診断失敗</td><td>下限値</td><td>20分</td><td>2.7E-03</td><td>10</td></tr> <tr> <td>補機冷却系故障診断失敗</td><td>下限値</td><td>20分</td><td>2.7E-03</td><td>10</td></tr> </tbody> </table>	起因事象発生前の人的過誤	ストレス ファクタ	過誤確率	EF	3 A - 原子炉補機冷却海水ポンプ出口弁 (3V-SW-503B) 戻し忘れ	1	1.6E-03	4	3 B - 原子炉補機冷却海水ポンプ出口弁 (3V-SW-503B) 戻し忘れ	1	1.6E-03	4	起因事象発生後の人的過誤	ストレス ファクタ	余裕時間	過誤確率	EF	低温再循環自動切替信号許可 (A) 操作器操作失敗	2	—	8.6E-04	8	低温再循環自動切替信号許可 (B) 操作器操作失敗	2	—	8.6E-04	8	3 B - 补助給水隔壁弁 (3V-FW-580B) 閉ロック操作失敗	2	—	8.6E-04	8	3 B - 電動補助給水ポンプ出口流量調節弁 (3V-FW-582B) の操作器「全開」操作失敗	2	—	8.6E-04	8	3 B - 余熱除去冷却器補機冷却水出口弁 (3V-CC-117B) 開操作失敗	2	—	8.6E-04	8	3 B - 格納容器スフレイ冷却器補機冷却水出口弁 (3V-CC-117B) 閉操作失敗	2	—	8.6E-04	8	Bヘッダ 3 B - 余熱除去冷却器補機冷却水出口弁 (3V-CC-117B) 又は 3 B - 格納予期スフレイ冷却器補機冷却水 出口弁 (3V-CC-117A) 負荷制御操作失敗	2	—	8.6E-04	8	3 A - 余熱除去冷却器補機冷却水出口弁 (3V-CC-117A) 開操作失敗	2	—	8.6E-04	8	3 A - 格納容器スフレイ冷却器補機冷却水出口弁 (3V-CC-117A) 閉操作失敗	2	—	8.6E-04	8	3 B - 安全補機閉閉器室給気ファン (3VSF27B) 起動操作失敗	2	—	8.6E-04	8	3 C - 空調用冷水ポンプ (3CHP1C) 起動操作失敗	2	—	8.6E-04	8	3 D - 空調用冷水ポンプ (3CHP1D) 起動操作失敗	2	—	8.6E-04	8	3 - 空調用冷水B母管入口隔壁弁 (3V-OI-012B) 閉操作失敗	2	—	8.6E-04	8	3 C - 空調用冷水ポンプ (3CHP1C) 起動操作失敗	2	—	8.6E-04	8	3 D - 空調用冷水ポンプ (3CHP1D) 起動操作失敗	2	—	8.6E-04	8	3 A - 安全補機閉閉器室給気ファントリップ警報 読取失敗	2	—	8.3E-04	4	1 次冷却材の喪失診断失敗	下限値	30分	2.7E-04	10	2 次系破断の発生診断失敗	下限値	20分	2.7E-03	10	補機冷却系故障診断失敗	下限値	20分	2.7E-03	10	<p>【大飯】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 記載方針の相違</li> <li>■ 女川の実績反映</li> </ul> <p>【女川】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 個別評価による相違</li> </ul>
起因事象発生前の人的過誤	ストレス ファクタ	過誤確率 (平均値)	EF																																																																																																																																																															
手動弁の開け忘れ・閉め忘れ	[REDACTED]	4.0E-04	5																																																																																																																																																															
SDV警報の検出失敗	[REDACTED]	2.9E-04	11																																																																																																																																																															
起因事象発生後の人的過誤	ストレス ファクタ	余裕時間	過誤確率 (平均値)	EF																																																																																																																																																														
高压ECCS作動後の水位制御操作	[REDACTED]	30分	1.5E-02	9																																																																																																																																																														
RCIC水源切替操作	[REDACTED]	30分	1.7E-02	8																																																																																																																																																														
高压ECCS自動起動失敗後の手動バックアップ操作	[REDACTED]	30分	1.5E-02	9																																																																																																																																																														
ADS・低圧ECCS自動起動失敗後の手動バックアップ操作	[REDACTED]	30分	1.3E-01	10																																																																																																																																																														
原子炉注水後のRHRによる格納容器除熱操作	[REDACTED]	8時間	4.4E-04	5																																																																																																																																																														
D/G・D/Gファンの自動起動失敗後の手動バックアップ操作	[REDACTED]	30分	1.5E-02	9																																																																																																																																																														
起因事象発生前の人的過誤	ストレス ファクタ	過誤確率	EF																																																																																																																																																															
3 A - 原子炉補機冷却海水ポンプ出口弁 (3V-SW-503B) 戻し忘れ	1	1.6E-03	4																																																																																																																																																															
3 B - 原子炉補機冷却海水ポンプ出口弁 (3V-SW-503B) 戻し忘れ	1	1.6E-03	4																																																																																																																																																															
起因事象発生後の人的過誤	ストレス ファクタ	余裕時間	過誤確率	EF																																																																																																																																																														
低温再循環自動切替信号許可 (A) 操作器操作失敗	2	—	8.6E-04	8																																																																																																																																																														
低温再循環自動切替信号許可 (B) 操作器操作失敗	2	—	8.6E-04	8																																																																																																																																																														
3 B - 补助給水隔壁弁 (3V-FW-580B) 閉ロック操作失敗	2	—	8.6E-04	8																																																																																																																																																														
3 B - 電動補助給水ポンプ出口流量調節弁 (3V-FW-582B) の操作器「全開」操作失敗	2	—	8.6E-04	8																																																																																																																																																														
3 B - 余熱除去冷却器補機冷却水出口弁 (3V-CC-117B) 開操作失敗	2	—	8.6E-04	8																																																																																																																																																														
3 B - 格納容器スフレイ冷却器補機冷却水出口弁 (3V-CC-117B) 閉操作失敗	2	—	8.6E-04	8																																																																																																																																																														
Bヘッダ 3 B - 余熱除去冷却器補機冷却水出口弁 (3V-CC-117B) 又は 3 B - 格納予期スフレイ冷却器補機冷却水 出口弁 (3V-CC-117A) 負荷制御操作失敗	2	—	8.6E-04	8																																																																																																																																																														
3 A - 余熱除去冷却器補機冷却水出口弁 (3V-CC-117A) 開操作失敗	2	—	8.6E-04	8																																																																																																																																																														
3 A - 格納容器スフレイ冷却器補機冷却水出口弁 (3V-CC-117A) 閉操作失敗	2	—	8.6E-04	8																																																																																																																																																														
3 B - 安全補機閉閉器室給気ファン (3VSF27B) 起動操作失敗	2	—	8.6E-04	8																																																																																																																																																														
3 C - 空調用冷水ポンプ (3CHP1C) 起動操作失敗	2	—	8.6E-04	8																																																																																																																																																														
3 D - 空調用冷水ポンプ (3CHP1D) 起動操作失敗	2	—	8.6E-04	8																																																																																																																																																														
3 - 空調用冷水B母管入口隔壁弁 (3V-OI-012B) 閉操作失敗	2	—	8.6E-04	8																																																																																																																																																														
3 C - 空調用冷水ポンプ (3CHP1C) 起動操作失敗	2	—	8.6E-04	8																																																																																																																																																														
3 D - 空調用冷水ポンプ (3CHP1D) 起動操作失敗	2	—	8.6E-04	8																																																																																																																																																														
3 A - 安全補機閉閉器室給気ファントリップ警報 読取失敗	2	—	8.3E-04	4																																																																																																																																																														
1 次冷却材の喪失診断失敗	下限値	30分	2.7E-04	10																																																																																																																																																														
2 次系破断の発生診断失敗	下限値	20分	2.7E-03	10																																																																																																																																																														
補機冷却系故障診断失敗	下限値	20分	2.7E-03	10																																																																																																																																																														

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について  
 別添3 レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震PRA

大飯発電所3／4号炉				女川原子力発電所2号炉				泊発電所3号炉				相違理由
第1.2.1.d-2表 起因事象別軽心損傷頻度												
起因事象	事故シーケンス	軽心損傷頻度 (/炉年)	起因事象別 軽心損傷頻度 (/炉年)	寄与割合 (%)	主要なミニマルカットセット							
大破断LOCA	大破断LOCA+低圧注入失敗 大破断LOCA+RCP注水失敗 大破断LOCA+低圧再循環失敗 大破断LOCA+低圧再循環失敗 大破断LOCA+高圧再循環失敗+低圧再循環失敗 中破断LOCA+低圧注入失敗 中破断LOCA+高圧注入失敗 小破断LOCA+低圧注入失敗 小破断LOCA+高圧注入失敗 小破断LOCA+格納容器破裂注入失敗 小破断LOCA+格納容器破裂+再循環失敗 小破断LOCA+高圧再循環失敗 小破断LOCA+補助給水失敗 小破断LOCA+低圧注入失敗 小破断LOCA+格納容器破裂注入失敗 小破断LOCA+格納容器破裂+再循環失敗 小破断LOCA+高圧再循環失敗 2次冷却系の破断 2次冷却系の破断+補助給水失敗 主給水流量喪失 外部電源喪失 原子炉構機 冷却機能喪失 ATWS	3.7E-09 2.6E-10 ※ ※ 3.1E-10 2.1E-10 3.1E-09 2.5E-10 7.0E-08 1.1E-07 2.2E-10 1.3E-10 7.9E-09 3.8E-09 1.1E-06 3.2E-08 5.5E-08 1.0E-06 3.9E-08 6.5E-11 1.7E-09 3.0E-08 2.8E-08 8.3E-10 3.5E-08 1.4E-07 2.0E-08 2.6E-08 6.6E-09 3.9E-08	4.3E-09 3.6E-09 1.9E-07 4.6E-05 1.1E-06 3.2E-08 1.4E-06 3.9E-08 2.8E-06	0.2% 0.1% 6.8% 46.0 40.1% 1.2% 38.3% 1.4% 0.1% 100.0%	・交流電源・原子炉補機冷却系ランダム故障+RCIC注水成功 ・非常用MCC機能喪失+RCIC注水成功 ・軽油タンク損傷+RCIC注水成功 ・外部電源喪失+RIRランダム故障 ・直流水主母線盤機能喪失							
起因事象	主要な事故シナリオ	CDF (/炉年)	寄与割合 (%)	主要なミニマルカットセット								
交流電源・原子炉補機冷却系喪失	地震による外電遮断の状態で、非常用D/G又はそのサポーティ系(RW, RSW又は燃料移送系統)が機能喪失する上で「全交流電力電源喪失」の起因事象となる。 その後、事象初期のRCICによる原子炉注水に成功するものの、RCICの継続運転に必要な直流水の枯渇により注水継続に失敗し軽心損傷に至る。	1.3E-05	46.0	・交流電源・原子炉補機冷却系ランダム故障+RCIC注水成功 ・非常用MCC機能喪失+RCIC注水成功 ・軽油タンク損傷+RCIC注水成功 ・外部電源喪失+RIRランダム故障 ・直流水主母線盤機能喪失								
外部電源喪失	地震により「外電遮断喪失」の起因事象が発生するが、非常用D/G又はRCICが起動できず、原子炉注水に失敗し軽心損傷に至る。	1.4E-05	44.0									
直流水源喪失	地震による外電遮断喪失の状態で、直流水主母線盤機能喪失により原子炉注水に失敗し軽心損傷に至る。	3.2										
合計		2.8E-06	100.0%									

表3.2.1-d-6表 起因事象別軽心損傷頻度(1/3)

起因事象	主要な事故シナリオ	CDF (/炉年)	寄与割合 (%)	主要なミニマルカットセット
交流電源・原子炉補機冷却系喪失	地震により蒸気空冷式蒸発器を損傷した場合には、絞糸容器バイパスが発生する。絞糸容器により、ある程度の貯水が保たれるが、絞糸容器からの出水が蒸発器へ供給するため、保冷剤が絞糸容器へ向ると見込まれます。	1.3E-05	4.1	蒸気空冷式蒸発器(サボートシュー)の損傷
外部電源喪失	地震により貯水槽内水位が低下する。RCICを操作する場合では、貯水槽内の水位とRCICの目標水位との差を監視する。RCIC容量を超過する場合では、貯水槽内水位が低下するため、保冷剤への影響を防ぐためにRCICを停止する。RCIC停止後は、RCICを再開するが、RCIC停止中の間で保冷剤が蒸発するため、保冷剤の量が減少する。	1.3E-08	0.5	原子炉建屋の損傷
直流水源喪失	地震により貯水槽内水位が低下する。RCICを操作する場合では、貯水槽内水位とRCICの目標水位との差を監視する。RCIC停止後は、RCICを再開するが、RCIC停止中の間で保冷剤が蒸発するため、保冷剤の量が減少する。	ε	<0.1	原子炉建屋の損傷

表3.2.1-d-6表 起因事象別軽心損傷頻度(1/2)

起因事象	主要な事故シナリオ	CDF (/炉年)	寄与割合 (%)	主要なミニマルカットセット
格納容器バイパス	地震により蒸気空冷式蒸発器を損傷した場合には、絞糸容器バイパスが発生する。絞糸容器により、ある程度の貯水が保たれるが、絞糸容器からの出水が蒸発器へ供給するため、保冷剤が絞糸容器へ向ると見込まれます。	1.3E-07	4.1	蒸気空冷式蒸発器(サボートシュー)の損傷
大破断LOCAを上回る規模のLOCA(Excess LOCA)	地震により貯水槽内水位が低下する。RCICを操作する場合では、貯水槽内の水位とRCICの目標水位との差を監視する。RCIC停止後は、RCICを再開するが、RCIC停止中の間で保冷剤が蒸発するため、保冷剤の量が減少する。	3.2E-07	11.7	原子炉建屋の損傷
原子炉建屋損傷	地震により貯水槽内水位が低下する。RCICを操作する場合では、貯水槽内の水位とRCICの目標水位との差を監視する。RCIC停止後は、RCICを再開するが、RCIC停止中の間で保冷剤が蒸発するため、保冷剤の量が減少する。	1.3E-08	0.5	原子炉建屋の損傷
原子炉格納容器破裂	地震により貯水槽内水位が低下する。RCICを操作する場合では、貯水槽内の水位とRCICの目標水位との差を監視する。RCIC停止後は、RCICを再開するが、RCIC停止中の間で保冷剤が蒸発するため、保冷剤の量が減少する。	2.3E-08	0.7	原子炉格納容器の損傷
原子炉辅助凍結装置	地震により貯水槽内水位が低下する。RCICを操作する場合では、貯水槽内の水位とRCICの目標水位との差を監視する。RCIC停止後は、RCICを再開するが、RCIC停止中の間で保冷剤が蒸発するため、保冷剤の量が減少する。	ε	-	
電動弁出力による原子炉格納容器破裂	地震により貯水槽内水位が低下する。RCICを操作する場合では、貯水槽内の水位とRCICの目標水位との差を監視する。RCIC停止後は、RCICを再開するが、RCIC停止中の間で保冷剤が蒸発するため、保冷剤の量が減少する。	1.6E-08	0.5	電動弁の損傷
1次系格納容器による2次系格納容器破裂	地震により貯水槽内水位が低下する。RCICを操作する場合では、貯水槽内の水位とRCICの目標水位との差を監視する。RCIC停止後は、RCICを再開するが、RCIC停止中の間で保冷剤が蒸発するため、保冷剤の量が減少する。	6.1E-08	1.7	原子炉建屋の損傷
複数の信号系損傷	地震により貯水槽内水位が低下する。RCICを操作する場合では、貯水槽内の水位とRCICの目標水位との差を監視する。RCIC停止後は、RCICを再開するが、RCIC停止中の間で保冷剤が蒸発するため、保冷剤の量が減少する。	1.8E-07	5.2	通常コンソールの損傷

【女川】【大飯】

■個別評価による相違

泊発電所 3号炉 有効性評価 比較表

### 第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について 別添3. レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震PRA

**赤字**：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
**青字**：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
**緑字**：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

## 泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について  
 別添3 レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震PRA

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																							
	<table border="1"> <caption>表3.2.1-d-6長 起因事象別原心損傷割度(3/3)</caption> <thead> <tr> <th>起因事象</th> <th>主要な事故シナリオ</th> <th>CIF (/年) (%)</th> <th>主要なミニマルカットセグメント</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>計画・制御系喪失</td> <td>地震により計測・制御系が機能喪失した場合には、該和設備への影響の程度を厳密に判断することが困難であるため、保守的に全ての計測・制御系が機能喪失し、プラントの操作が不能となり原心出力に至ると想定する。</td> <td>3.7E-07 1.1</td> <td>・中央制御盤機能喪失</td> </tr> <tr> <td>格納容器ハイパス</td> <td>地震によって、原子炉冷却材淨化系の隔離弁の機能喪失が想定し、この時に原子炉冷却材淨化系の隔離弁の機能喪失が重視され、格納容器バイパスがある程度の原心冷却系を維持することはできるが、原子炉建屋内の冷却材流出が想定するため、保守的に原心相違に至ると想定する。</td> <td>1.0E-07 0.3</td> <td>・原子炉冷却材淨化系が機能喪失する場合に原心相違による影響B クラス配管拘束</td> </tr> <tr> <td>圧力容器拘束</td> <td>地震により原子炉圧力容器が拘束した場合には原心の冷却系統を維持できるか又は緩和設備への影響の程度を厳密に判断することが困難であるため、保守的に全ての緩和系が機能喪失し、原心相違に至ると想定する。</td> <td>4.1E-07 1.2</td> <td>・圧力容器支持構造物拘束</td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋損傷</td> <td>地震により原子炉建屋が損傷した場合には建屋内の緩和設備への影響の程度を厳密に判断することが困難であるため、保守的に全ての緩和系が機能喪失し、原心相違に至ると想定する。</td> <td>4.8E-08 0.1</td> <td>・原子炉建屋損傷</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>3.3E-05 100.0%</td> <td>※ 四捨五入処理のため割合の合計が100.0となることがある。</td> <td>【女川】 ■個別評価による相違</td> </tr> </tbody> </table>	起因事象	主要な事故シナリオ	CIF (/年) (%)	主要なミニマルカットセグメント	計画・制御系喪失	地震により計測・制御系が機能喪失した場合には、該和設備への影響の程度を厳密に判断することが困難であるため、保守的に全ての計測・制御系が機能喪失し、プラントの操作が不能となり原心出力に至ると想定する。	3.7E-07 1.1	・中央制御盤機能喪失	格納容器ハイパス	地震によって、原子炉冷却材淨化系の隔離弁の機能喪失が想定し、この時に原子炉冷却材淨化系の隔離弁の機能喪失が重視され、格納容器バイパスがある程度の原心冷却系を維持することはできるが、原子炉建屋内の冷却材流出が想定するため、保守的に原心相違に至ると想定する。	1.0E-07 0.3	・原子炉冷却材淨化系が機能喪失する場合に原心相違による影響B クラス配管拘束	圧力容器拘束	地震により原子炉圧力容器が拘束した場合には原心の冷却系統を維持できるか又は緩和設備への影響の程度を厳密に判断することが困難であるため、保守的に全ての緩和系が機能喪失し、原心相違に至ると想定する。	4.1E-07 1.2	・圧力容器支持構造物拘束	原子炉建屋損傷	地震により原子炉建屋が損傷した場合には建屋内の緩和設備への影響の程度を厳密に判断することが困難であるため、保守的に全ての緩和系が機能喪失し、原心相違に至ると想定する。	4.8E-08 0.1	・原子炉建屋損傷	合計	3.3E-05 100.0%	※ 四捨五入処理のため割合の合計が100.0となることがある。	【女川】 ■個別評価による相違	
起因事象	主要な事故シナリオ	CIF (/年) (%)	主要なミニマルカットセグメント																							
計画・制御系喪失	地震により計測・制御系が機能喪失した場合には、該和設備への影響の程度を厳密に判断することが困難であるため、保守的に全ての計測・制御系が機能喪失し、プラントの操作が不能となり原心出力に至ると想定する。	3.7E-07 1.1	・中央制御盤機能喪失																							
格納容器ハイパス	地震によって、原子炉冷却材淨化系の隔離弁の機能喪失が想定し、この時に原子炉冷却材淨化系の隔離弁の機能喪失が重視され、格納容器バイパスがある程度の原心冷却系を維持することはできるが、原子炉建屋内の冷却材流出が想定するため、保守的に原心相違に至ると想定する。	1.0E-07 0.3	・原子炉冷却材淨化系が機能喪失する場合に原心相違による影響B クラス配管拘束																							
圧力容器拘束	地震により原子炉圧力容器が拘束した場合には原心の冷却系統を維持できるか又は緩和設備への影響の程度を厳密に判断することが困難であるため、保守的に全ての緩和系が機能喪失し、原心相違に至ると想定する。	4.1E-07 1.2	・圧力容器支持構造物拘束																							
原子炉建屋損傷	地震により原子炉建屋が損傷した場合には建屋内の緩和設備への影響の程度を厳密に判断することが困難であるため、保守的に全ての緩和系が機能喪失し、原心相違に至ると想定する。	4.8E-08 0.1	・原子炉建屋損傷																							
合計	3.3E-05 100.0%	※ 四捨五入処理のため割合の合計が100.0となることがある。	【女川】 ■個別評価による相違																							

第37条 付録1 事故シケンスグループ及び重要事故シケンス等の選定について  
別添3. レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震PRA

**赤字**：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
**青字**：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
**緑字**：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

## 泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について  
別添3 レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震PRA

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

大飯発電所3／4号炉	女川原子力発電所2号炉	泊発電所3号炉	相違理由																																																																																																											
<p>第1.2.1.d-3表 加速度区別炉心損傷頻度評価結果</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>加速度区分</th><th>地震平均発生頻度（／年）</th><th>炉心損傷頻度（／炉年）</th><th>寄与割合</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>区分1 (0.2G～0.5G)</td><td><math>1.5 \times 10^{-9}</math></td><td><math>6.1 \times 10^{-7}</math></td><td>22%</td></tr> <tr> <td>区分2 (0.5G～0.8G)</td><td><math>9.8 \times 10^{-9}</math></td><td><math>3.7 \times 10^{-7}</math></td><td>13%</td></tr> <tr> <td>区分3 (0.8G～1.1G)</td><td><math>1.7 \times 10^{-9}</math></td><td><math>5.9 \times 10^{-7}</math></td><td>21%</td></tr> <tr> <td>区分4 (1.1G～1.5G)</td><td><math>4.6 \times 10^{-9}</math></td><td><math>1.2 \times 10^{-6}</math></td><td>44%</td></tr> <tr> <td>全炉心損傷頻度</td><td></td><td><math>2.8 \times 10^{-6}</math></td><td>100%</td></tr> </tbody> </table>	加速度区分	地震平均発生頻度（／年）	炉心損傷頻度（／炉年）	寄与割合	区分1 (0.2G～0.5G)	$1.5 \times 10^{-9}$	$6.1 \times 10^{-7}$	22%	区分2 (0.5G～0.8G)	$9.8 \times 10^{-9}$	$3.7 \times 10^{-7}$	13%	区分3 (0.8G～1.1G)	$1.7 \times 10^{-9}$	$5.9 \times 10^{-7}$	21%	区分4 (1.1G～1.5G)	$4.6 \times 10^{-9}$	$1.2 \times 10^{-6}$	44%	全炉心損傷頻度		$2.8 \times 10^{-6}$	100%	<p>第3.2.1.d-8表 地震加速度区別炉心損傷頻度</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>地震加速度区間</th><th>地震発生頻度（／年／6）</th><th>CDF（／炉年）</th><th>寄与割合（%）</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0.0 G～0.2 G</td><td>2.8E+00</td><td>2.5E-06</td><td>7.5</td></tr> <tr> <td>0.2 G～0.4 G</td><td>9.5E-02</td><td>1.4E-05</td><td>34.6</td></tr> <tr> <td>0.4 G～0.6 G</td><td>4.9E-02</td><td>7.9E-06</td><td>23.9</td></tr> <tr> <td>0.6 G～0.8 G</td><td>1.3E-02</td><td>4.7E-06</td><td>14.4</td></tr> <tr> <td>0.8 G～1.0 G</td><td>5.5E-04</td><td>1.3E-06</td><td>4.0</td></tr> <tr> <td>1.0 G～1.2 G</td><td>7.1E-05</td><td>1.2E-06</td><td>3.7</td></tr> <tr> <td>1.2 G～1.4 G</td><td>2.2E-05</td><td>1.4E-06</td><td>4.1</td></tr> <tr> <td>1.4 G～1.6 G</td><td>8.7E-06</td><td>1.2E-06</td><td>3.5</td></tr> <tr> <td>1.6 G～1.8 G</td><td>3.8E-06</td><td>7.2E-07</td><td>2.2</td></tr> <tr> <td>1.8 G～2.0 G</td><td>1.8E-06</td><td>3.5E-07</td><td>1.1</td></tr> <tr> <td>2.0 G～3.0 G</td><td>3.2E-07</td><td>3.2E-07</td><td>1.0</td></tr> <tr> <td>合計</td><td></td><td>3.3E-05</td><td>100.0*</td></tr> </tbody> </table> <p>* 四捨五入処理のため寄与割合の合計が100.0とならないことがある。</p>	地震加速度区間	地震発生頻度（／年／6）	CDF（／炉年）	寄与割合（%）	0.0 G～0.2 G	2.8E+00	2.5E-06	7.5	0.2 G～0.4 G	9.5E-02	1.4E-05	34.6	0.4 G～0.6 G	4.9E-02	7.9E-06	23.9	0.6 G～0.8 G	1.3E-02	4.7E-06	14.4	0.8 G～1.0 G	5.5E-04	1.3E-06	4.0	1.0 G～1.2 G	7.1E-05	1.2E-06	3.7	1.2 G～1.4 G	2.2E-05	1.4E-06	4.1	1.4 G～1.6 G	8.7E-06	1.2E-06	3.5	1.6 G～1.8 G	3.8E-06	7.2E-07	2.2	1.8 G～2.0 G	1.8E-06	3.5E-07	1.1	2.0 G～3.0 G	3.2E-07	3.2E-07	1.0	合計		3.3E-05	100.0*	<p>第3.2.1.4-8表 加速度区別炉心損傷頻度</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>地震加速度区間</th><th>地震発生頻度（／年）</th><th>CDF（／炉年）</th><th>寄与割合（%）</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0.2G～0.4G</td><td><b>9.6E-04</b></td><td><b>3.9E-07</b></td><td><b>11.9</b></td></tr> <tr> <td>0.4G～0.6G</td><td><b>1.1E-01</b></td><td><b>7.3E-08</b></td><td><b>2.2</b></td></tr> <tr> <td>0.6G～0.8G</td><td><b>2.3E-05</b></td><td><b>1.9E-08</b></td><td><b>0.6</b></td></tr> <tr> <td>0.8G～1.0G</td><td><b>6.7E-06</b></td><td><b>3.5E-07</b></td><td><b>10.7</b></td></tr> <tr> <td>1.0G～1.2G</td><td><b>2.3E-06</b></td><td><b>1.4E-06</b></td><td><b>41.4</b></td></tr> <tr> <td>1.2G～1.5G</td><td><b>1.1E-06</b></td><td><b>1.1E-06</b></td><td><b>33.1</b></td></tr> <tr> <td>合計</td><td></td><td><b>3.3E-06</b></td><td>100.0*</td></tr> </tbody> </table> <p>* 四捨五入処理のため寄与割合の合計が100.0とならないことがある。</p> <p>【女川】【大飯】 ■個別評価による相違</p>	地震加速度区間	地震発生頻度（／年）	CDF（／炉年）	寄与割合（%）	0.2G～0.4G	<b>9.6E-04</b>	<b>3.9E-07</b>	<b>11.9</b>	0.4G～0.6G	<b>1.1E-01</b>	<b>7.3E-08</b>	<b>2.2</b>	0.6G～0.8G	<b>2.3E-05</b>	<b>1.9E-08</b>	<b>0.6</b>	0.8G～1.0G	<b>6.7E-06</b>	<b>3.5E-07</b>	<b>10.7</b>	1.0G～1.2G	<b>2.3E-06</b>	<b>1.4E-06</b>	<b>41.4</b>	1.2G～1.5G	<b>1.1E-06</b>	<b>1.1E-06</b>	<b>33.1</b>	合計		<b>3.3E-06</b>	100.0*
加速度区分	地震平均発生頻度（／年）	炉心損傷頻度（／炉年）	寄与割合																																																																																																											
区分1 (0.2G～0.5G)	$1.5 \times 10^{-9}$	$6.1 \times 10^{-7}$	22%																																																																																																											
区分2 (0.5G～0.8G)	$9.8 \times 10^{-9}$	$3.7 \times 10^{-7}$	13%																																																																																																											
区分3 (0.8G～1.1G)	$1.7 \times 10^{-9}$	$5.9 \times 10^{-7}$	21%																																																																																																											
区分4 (1.1G～1.5G)	$4.6 \times 10^{-9}$	$1.2 \times 10^{-6}$	44%																																																																																																											
全炉心損傷頻度		$2.8 \times 10^{-6}$	100%																																																																																																											
地震加速度区間	地震発生頻度（／年／6）	CDF（／炉年）	寄与割合（%）																																																																																																											
0.0 G～0.2 G	2.8E+00	2.5E-06	7.5																																																																																																											
0.2 G～0.4 G	9.5E-02	1.4E-05	34.6																																																																																																											
0.4 G～0.6 G	4.9E-02	7.9E-06	23.9																																																																																																											
0.6 G～0.8 G	1.3E-02	4.7E-06	14.4																																																																																																											
0.8 G～1.0 G	5.5E-04	1.3E-06	4.0																																																																																																											
1.0 G～1.2 G	7.1E-05	1.2E-06	3.7																																																																																																											
1.2 G～1.4 G	2.2E-05	1.4E-06	4.1																																																																																																											
1.4 G～1.6 G	8.7E-06	1.2E-06	3.5																																																																																																											
1.6 G～1.8 G	3.8E-06	7.2E-07	2.2																																																																																																											
1.8 G～2.0 G	1.8E-06	3.5E-07	1.1																																																																																																											
2.0 G～3.0 G	3.2E-07	3.2E-07	1.0																																																																																																											
合計		3.3E-05	100.0*																																																																																																											
地震加速度区間	地震発生頻度（／年）	CDF（／炉年）	寄与割合（%）																																																																																																											
0.2G～0.4G	<b>9.6E-04</b>	<b>3.9E-07</b>	<b>11.9</b>																																																																																																											
0.4G～0.6G	<b>1.1E-01</b>	<b>7.3E-08</b>	<b>2.2</b>																																																																																																											
0.6G～0.8G	<b>2.3E-05</b>	<b>1.9E-08</b>	<b>0.6</b>																																																																																																											
0.8G～1.0G	<b>6.7E-06</b>	<b>3.5E-07</b>	<b>10.7</b>																																																																																																											
1.0G～1.2G	<b>2.3E-06</b>	<b>1.4E-06</b>	<b>41.4</b>																																																																																																											
1.2G～1.5G	<b>1.1E-06</b>	<b>1.1E-06</b>	<b>33.1</b>																																																																																																											
合計		<b>3.3E-06</b>	100.0*																																																																																																											

## 泊発電所3号炉 有効性評価 比較表

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

第37条 付録1 事故シーケンスグループ及び重要事故シーケンス等の選定について

別添3. レベル1PRA 3.2 外部事象 3.2.1 地震PRA

大飯発電所3／4号炉				女川原子力発電所2号炉				泊発電所3号炉				相違理由
第1.2.1.d-4表 全炉心損傷頻度に対するFV重要度評価結果												
	全炉心損傷頻度：2.8E-06（／炉年）											
建屋・機器	HCLPF (G)	FV 重要度 (G)	建屋・機器の損傷が影響を与える事故シーケンス									
1.原子炉建屋（主蒸気管室） (構造損傷)	2.31	0.86	0.41	2次冷却系の破断 +主蒸気隔離失敗								
2.メタルクラッド スイッチギア (機能損傷)	2.05	1.11	0.06	すべての事故シーケンス								
3.電動弁 (機能損傷)	2.46	1.16	0.04	電動弁損傷による 原子炉補機冷却機能喪失								
4.原子炉補機冷却水冷却器 (構造損傷)	2.07	1.27	0.03	すべての事故シーケンス								
5.パワーセンタ (機能損傷)	1.85	1.24	0.02	すべての事故シーケンス								
6.内燃機関 (機能損傷)	2.24	1.29	0.01	すべての事故シーケンス								
7.蒸気発生器（伝熱管） (構造損傷)	3.83	1.38	0.01	蒸気発生器伝熱管破損（複数本破損）								
8.直流水電磁 (機能損傷)	1.89	1.04	0.01	すべての事故シーケンス								
注(1) 中央値及びHCLPFはいずれも機器リストの値である。 (2) FV重要度の評価範囲は、加速度区分0.2G～1.5Gとした。 (3) FV重要度が0.01以上のSSCのみ記載した。												
第3.2.1-d-9表 重要度解析結果(FV重要度、10位までの基事象)												
順位	建屋・機器	中央値 (G)	HCLPF (G)	FV 重要度	建屋・機器の損傷が影響を与える 主要な事故シーケンス							
1	RHRランダム故障	—	—	4,1E-1	TW シーケンス							
2	交流電源・原子炉補機冷却系ランダム故障	—	—	2,5E-1	長期TB シーケンス							
3	RCICランダム故障	—	—	6,8E-2	TQUX シーケンス							
4	非常用GCC機能喪失	2.16	0.99	6,1E-2	長期TB シーケンス							
5	HPCSランダム故障	—	—	5,1E-2	TQUX シーケンス							
6	減圧ランダム失敗	—	—	5,1E-2	TQUX シーケンス							
7	燃料移送系配管損傷	3.25	1.15	3,8E-2	長期TB シーケンス							
8	軽油タンク損傷	2.45	1.07	3,4E-2	長期TB シーケンス							
9	直流主母線盤機能喪失	2.40	1.11	2,2E-2	TBD シーケンス							
10	非常用ディーゼル機関機能喪失	2.00	1.12	1,4E-2	長期TB シーケンス							
第3.2.1-d-9表 重要度解析結果(FV重要度、10位までの基事象)												
順位	建屋・機器	中央値 (G)	HCLPF (G)	FV 重要度	建屋・機器の損傷が影響を与える 主要な事故シーケンス							
1	パワーコントローラセシナターキ電盤、き電盤 (CLN風流装置) (機能損傷)	2.03	0.91	0.03								
2	安全補機開閉器室空調系タクト(手動ダンバ含む) (機造損傷)	2.65	0.91	0.02								
3	内燃機関(ディーゼル機関) (機能損傷)	1.61	0.97	0.02								
3	始動用電磁 (機能損傷)	1.61	0.97	0.02								
3	ディーゼル発電機 (機能損傷)	1.61	0.97	0.02								
6	安全補機開閉器室空調系 防火ダンバ(機能損傷)	1.79	0.91	0.02								
7	ディーゼル発電機空調系タクト(機造損傷)	2.65	0.91	0.02								
8	ディーゼル発電機空調系 防火ダンバ(機能損傷)	1.79	0.94	0.02								
9	1/G出力電磁 (機能損傷)	2.08	0.93	0.02								
9	ディーゼル発電機制御盤 (機能損傷)	2.08	0.93	0.02								
9	ディーゼル発電機制御盤 (機能損傷)	2.08	0.93	0.02								
【女川】【大飯】 ■個別評価による相違												